

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書（資料編）

平成26年6月

小山工業高等専門学校

資料 1-1-①-1 : 学則として定められた本校の目的

学則：第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

（出典：平成 25 年度学生便覧 p. 7）

資料 1-1-①-2 : 本校の教育理念

本校の教育理念
技術者である前に人間であれ

- 健やかな心身
- 豊かな人間性
- 科学技術の研鑽と創造

（出典：平成 25 年度学生便覧 見開き）

資料 1-1-①-2（続き）：補足説明

小山高専の教育

開校式並びに第 1 回入学式の校長告辞は「本校の直接の目的は技術者の養成であるが、技術者たる以前に“人間として”成長することが第一義である。諸君には科学の狭い領域のみを追求する Scientist になることではなく、尊敬に値する人間になることを志望しながら科学を学んでいく人 Man of Science になることを望みたい」という内容でした。

つまり「技術者である前に人間であれ」ということです。「人間である」ことは、一人一人が自立した市民であること、他人を思いやることのできる豊かな心を持つことです。本校の教育方針に「健やかな心身」・「豊かな人間性」を掲げているのは、このような意味があります。

（出典：平成 25 年度学生便覧 p. 1-2）

資料 1 - 1 - ① - 3 : 教育方針・育成する人材像に関する記述

■教育方針と育成する人材像(A:準学士課程、S:専攻科課程)

① 豊かな人間性の涵養；

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

①-A★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。

① -S★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。

資料 1 - 1 - ① - 3 (続き)

② 豊かな感性と創造力の育成；

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。

②-A★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。

②-S★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。

③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上；

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。

③-A★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。

③-S★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成；

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。

④-A★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。

④-S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。

⑤ 情報技術力の向上；

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。

⑤-A★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。

⑤-S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成；

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指している。

⑥-A★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。

⑥-S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典：平成 25 年度学生便覧 見開き裏面)

資料 1 - 1 - ① - 4 : 準学士課程の学科毎の教育目標

別表第 1

各学科等の教育方針と育成すべき人材像（教育目標）

一般科	一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、さらに、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等）を養うことに重点をおいた教育を行う。
機械工学科	ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。
電気電子創造工学科	低学年においては理数系及び英語ならびに専門基礎科目を中心に習熟度別の授業を行い、基礎学力の向上に努める。高学年においては演習スパイラル教育により基礎学力を補完しつつ、「環境共生エネルギーコース」、「制御システムコース」及び「情報デザインコース」の3分野のコースに分かれ、それぞれの専門分野の授業、実験及び卒業研究を通して、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力を養い、国際的に活躍するための基礎力を有し、科学技術の融合化・複合化に対応できる技術者の育成を目指す。
物質工学科	新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。
建築学科	低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。
電気情報工学科	電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。高学年では電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。
電子制御工学科	専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

(出典：平成 25 年度学生便覧 p. 20)

資料 1 - 1 - ① - 5 : 専攻科課程の教育目標

別表第 4

専攻科の教育方針と育成すべき人材像 (教育目標)

機械系、電気・電子・情報系、化学を基礎とした材料工学・生物工学・化学工学等の分野、及び建築学の諸分野の基礎学力の養成と各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会に柔軟に対応できる人材の養成を目指す。
具体的には 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成。 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見通せる複眼的なものの見方や考え方ができるフレキシビリティのある技術者の育成であり、そのため、専門分野の習熟と共に、共通科目を設け、複眼的で柔軟なものの見方の修得を目指す。

(出典：平成 25 年度学生便覧 p. 30)

資料 1-1-①-6 : 学校教育法第 115 条に規定された高専の目的と本校の教育目標との対比

区分	教育目標等	「深く専門の学芸を教授する」	「職業に必要な能力を育成する」
小山高専全体	教育理念 教育方針	『技術者である前に人間であれ』 (1) 健やかな心身、(2) 豊かな人間性、(3) 科学技術の研鑽と創造	
	教育目標	③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 ④ 高度な専門知識の教授 ⑤ 情報技術力の向上	① 豊かな人間性の涵養 ② 豊かな感性と創造力の育成 ④ 問題解決能力の育成 ⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成
準学士課程	教育目標	③-A : 自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。 ④-A : 実践的技術者として高度な専門分野の知識を修得すること。 ⑤-A : 情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。	①-A : 社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。 ②-A : 実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。 ④-A : 実践的技術者として与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。 ⑥-A : 講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。
専攻科課程	教育目標	③-S : 自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。 ④-S : 開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見できること。 ⑤-S : 情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。	①-S : 社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。 ②-S : 専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。 ④-S : 開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対するその解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。 ⑥-S : 特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典：平成 25 年度学生便覧より整理)

資料 1-1-①-7 : 学校教育法第 115 条に規定された高専の目的と、各学科・各コースの
教育目標との対比 (その 1)

(準学士課程)

区分	学科名	「深く専門の学芸を教授する」	「職業に必要な能力を育成する」
準 学 士 課 程	一般科	○各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させ、大学教養課程レベルの知識を養う。 ○卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（専門に適合した数理的能力）を養う。	○人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育む。 ○卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、国際的コミュニケーション能力等）を養う。
	機械工学科	○数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力を養成する。 ○工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力を教授する。	○ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者を育成する。 ○卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。
	電気電子創造工学科	○低学年では理数系及び英語ならびに専門基礎科目を中心に習熟度別授業を行い、基礎学力の向上に努める。 ○高学年ではスパイラル教育により基礎学力を補完する。 ○電気エネルギー・制御・情報分野の 3 コースを設置し高度な専門知識を修得させる。	○電気、電子、情報、制御系の分野で活躍する技術者の育成を目指す。 ○卒業研究、輪講を通じて創造力、解決能力、コミュニケーション能力等の育成を目指す。
	物質工学科	○専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。	○新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。 ○最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ、創造的な卒業研究の完成を目指す。
	建築学科	○低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上を目指す。 ○高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させる。	○低学年からプロジェクトの企画能力の育成を目指す。 ○5 学年の卒業研究を通じて、それぞれの専門分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。
	電気情報工学科	○電気情報工学の基礎知識を、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。 ○電気・電子・情報分野の 3 コースを設置し高度な専門知識を修得させる。	○ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。
	電子制御工学科	○専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。 ○専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。 ○専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させる。	○卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

(出典：平成 25 年度学生便覧より整理)

資料 1-1-①-7 : 学校教育法第 115 条に規定された高専の目的と、各学科・各コースの
教育目標との対比 (その 2)

(専攻科課程)

複合工学専攻	コース名	育成する人材目標	主な特別研究テーマ
	機械工学コース	高度に発展を続ける産業社会の構造に適した知識と技術の基礎と応用力を、講義・演習・実験を通じて教育する。そして、特別研究・実務研修・ゼミナールを通して、細分化、複合化、する具体的な課題に対して、柔軟に対応できる知識を持ち、かつ環境にも配慮できる技術者の育成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○昆虫型ロボットの製作研究 ○機械用材料の応力解析 ○小型ホーバークラフトの運動解析 ○加熱面上の液滴の蒸発の研究 ○カオス振動の判定に関する研究 ○自動車用高速応答アクチュエータの研究 ○新しい素子を用いた高感度センサの研究 ○LEDを用いた速度分布測定用光源の開発
	電気情報工学コース	電気・電子・情報工学に関する専門性を深めつつ、広い技術に柔軟に対応でき、専門性を発揮できる人材の育成を目指す。一例として、ロボットや情報ネットワーク、半導体 (IC) などにかかわる技術の修得や研究を通して、自己の能力を向上することを目指すそれぞれの研究成果は、広く学会等において公表されて社会に貢献している。	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい高温超伝導体探求のための量子物理 ○風力用永久磁石同期発電機のベクトル制御方式の研究 ○可視光造形装置の性能の評価と改善 ○人間の聴覚特性に関する研究 ○医療情報システムに関する研究 ○無声放電を用いたオゾン生成に関する研究 ○直列接続太陽電池アレイに適した最大電力点追尾制御法に関する研究
	電子制御工学コース	高度な科学技術や知識を教授することを目的とする。システム構築・ソフトウェア・ハードウェアの3つを基本として、情報工学、計測システム制御理論、電子回路、電子工学、計算機応用、電磁エネルギー、光波応用等の広範囲な技術の基礎および応用力の修得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○イメージセンサを用いる車輪の設定点検出に関する研究 ○パルスオキシメータ対応型呼吸循環器系動的シミュレータの作成 ○高機能・高効率スイッチング電源の研究
	物質工学コース	高専本科の物質・化学系準学士課程で修得した専門性を活かし、技術の複合化が進む産業社会に適応可能な知識・技術を広く教授する。さらに、材料化学・生物工学・化学工学に関する高度技術の基礎及び応用力の修得を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ○orobanche minor のβ-グルコシダーゼ遺伝子のクローニングの研究 ○温度応答性と pH 応答性を持つ新規グラフト-ブロックポリマーの合成と応用の研究 ○新規ルテニウム錯体を触媒に用いるポリハロアルカンの高選択的原子移動型ラジカル付加反応の研究
	建築学コース	建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。また、特別研究及び実務研修等により、研究目標に関する課題の提起、研究の実務と成果の分析・評価までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成をめざす。	<ul style="list-style-type: none"> ○地震防災教育に関する研究 ○高齢者・障害者関連施設計画に関する研究 ○地域施設計画に関する研究 ○メーソンリー建築の施工法に関する研究 ○室内環境評価に関する研究 ○鉄筋コンクリート造建物の耐震性能評価に関する研究 ○建築工法に関する研究 ○既存RC造見物の制震補強効果に関する研究

(出典：平成 25 年度学生便覧より整理)

資料 1-2-①-1 : 教育目標の校内掲示 (正面玄関入り口)



(出典 : 校内掲示 写真)

資料 1-2-①-2 : 「教育目標カード」

表

裏

《小山工業高等専門学校の教育目標》

■教育に関する基本理念
「技術者である前に人間であれ」

◎健やかな出身
◎豊かな人間性
◎科学技術の研鑽と創造

■教育方針と育成する人材像■

- ① 豊かな人間性の涵養
- ② 豊かな感性と創造力の育成
- ③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上
- ④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成
- ⑤ 情報技術力の向上
- ⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成

■教育方針と育成する人材像 (A:準学士課程、S:専攻科課程)

- ① 豊かな人間性の涵養 :
 - ①-A ★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。
 - ①-S ★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。
- ② 豊かな感性と創造力の育成 :
 - ②-A ★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。
 - ②-S ★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。
- ③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 :
 - ③-A ★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。
 - ③-S ★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。
- ④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成 :
 - ④-A ★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。
 - ④-S ★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。
- ⑤ 情報技術力の向上 :
 - ⑤-A ★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。
 - ⑤-S ★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。
- ⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成 :
 - ⑥-A ★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。
 - ⑥-S ★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典 : 「教育目標カード」 Scan copy)

資料 1-2-①-3 : 教職員に対する周知

平成 25 年 4 月 1 日
教職員会議配付資料

■ 小山高専の教育に関する基本理念

小山高専は、創設時から以下のような理念のもとに教育を進めています。

「技術者である前に人間であれ」

- ◎ 健やかな心身
- ◎ 豊かな人間性
- ◎ 科学技術の研鑽と創造

小山高専は、これまで 40 年以上に亘り、約 6, 000 名の卒業生を送り出し、企業における中堅技術者の育成を通して日本の産業の発展を支え、社会的要請に応じてきました。しかし、現今の技術の高度化・情報化にともない技術者として様々な能力が要求されるようになってきています。

このような社会変革の中にあっても、依然として高専卒業生に対する企業の期待は大きく、これまでの高専教育の利点を維持しつつ、即戦力としての役割ばかりでなく深い知識と問題解決能力を兼ね備えた技術者を育成し、新たな時代の要請に応じていく必要があります。

小山高専の教育目標は、準学士課程（学科）においては 5 年間の早期ものづくり教育を通して培った実践力と専門基礎力を有する有能な各学科卒業生を新しい時代にふさわしい中堅技術者として社会に輩出することであり、専攻科課程においてはそれに加え問題解決能力と豊かな創造力を兼ね備えた「開発型技術者(テクノロジスト)」としての修了生を世に送り出すことにあります。

■ 教育方針と育成する人材像

① 豊かな人間性の涵養；

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

② 豊かな感性と創造力の育成；

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指しています。

② 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上；

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指しています。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成；

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指しています。

⑤ 情報技術力の向上；

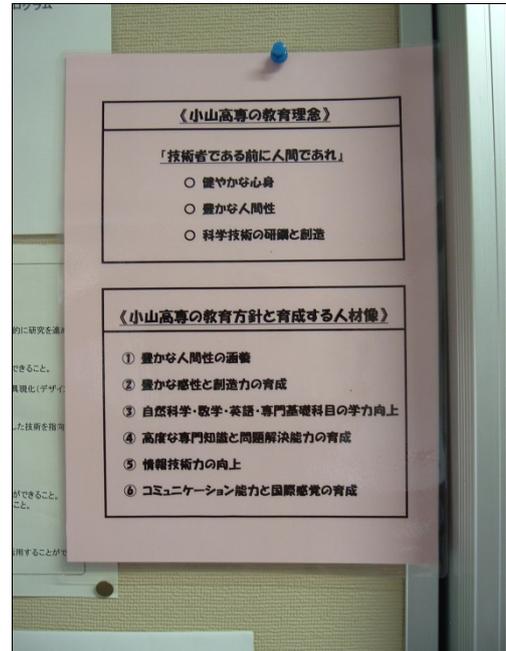
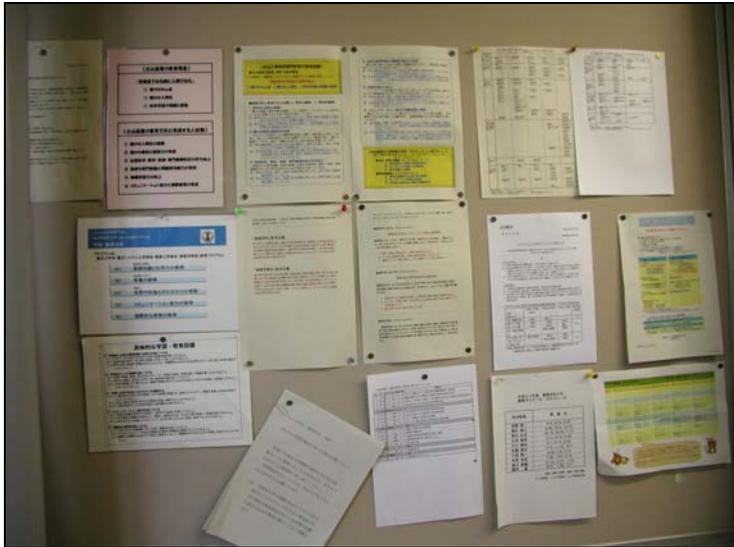
コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指しています。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成；

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指しています。

(出典：平成 25 年度第 1 回教職員会議配付資料)

資料 1-2-①-4 : 学生に対する周知 (その 1)



(出典：各教室における掲示)

資料 1-2-①-5 : 学生への周知 (その 2)

《平成25年度・新入生ガイダンス》
小山工業高等専門学校・(H25.4.05)

教務関係(授業 成績etc.)

《工業高専の教育目標の変遷》
即戦力→ものづくり→創造教育

《小山高専の教育理念》 [便覧の最初(表)]
「技術者である前に人間であれ」

小山高専の教育に対する評価

■ 学内における評価
★学生による授業評価★
○各授業に対する学生アンケート(学期末)
○公開授業(他教員による評価)

■ 学外における評価
○日本技術者教育認定(JABEE): 5年毎(H22年受審)
《小山高専(学科4. 5年+専攻科)》
高専教育機関(大学)の技術者教育プログラムが
国際水準を満たしていることを認定する。
○機関別認証評価: 7年毎(H19年受審)
評価: 専門性に沿う教育成果が十分上がっている。

《教育方針と育成する人材像》
[便覧の最初(裏)]

- ① 豊かな人間性の涵養:
- ② 豊かな感性と創造力の育成:
- ③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上:
- ④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成:
- ⑤ 情報技術力の向上:
- ⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成:

《各学科の教育方針・人材像》 (便覧の19)

■ 授業が分からなくなったら
★**友達に聞いてみよう！一緒に勉強しよう！**
早く、仲良しをつくろう。
★**すぐに積極的に先生に質問しよう！**
授業とは違う方法で、分かるまで教えてくれる。
先生は怖くない、質問を待っている。

■ 試験が近づいたら
★**試験1週間前は、部活禁止**
放課後の教室での遊びはダメ(勉強会はOK)
★**早めに勉強を開始せよ。理解することが大事！**
試験直前では、先生も面倒見れない。
○**自発的に計画的に勉強せよ！**
協働前に、担任やアドバイザーに相談せよ！

(出典：新入生ガイダンス用資料)

資料 1 - 2 - ① - 6 : 教育目標周知調査のアンケート実施内容

平成 25 年度小山高専の教育に関するアンケート (在校生対象)

このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

記入上の注意:

①HB 程度の鉛筆でご記入ください。なお、修正する場合は消しゴムで消してください。

②該当する項目の回答欄に"✓"を記入してください。 記入例

分類 1 : M科 医科 E科 D科 C科 A科 SM SE SD SC SA

分類 2 : 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 専攻科1年 専攻科2年

以下の質問に答えてください(裏面にも質問があります)

全くその通りではない
あまりそうではない
普通
かなりそうで
ある
全くその通りである

I. 教育目標

小山高専の教育目標を知っていますか。

- | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。 → | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2. 「健やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。 → | <input type="checkbox"/> |
| 3. 以下の目標をよく知っている。 → | <input type="checkbox"/> |
| ①豊かな人間性の涵養 ②豊かな感性と創造力の育成 ③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 ④高度な専門知識と問題解決能力の育成 ⑤情報技術力の向上 ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成 | | | | | |

II. 入学者受入方針

小山高専の入学者受入方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。

- | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 4. 学科(準学士課程)の入学者受入方針の次のキーワードよく知っている。 → | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| ①科学技術への興味と基礎的学力 ②モノづくりや実験への積極性 ③課外活動と協調性 | <input type="checkbox"/> |
| 5. 専攻科の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 → | <input type="checkbox"/> |
| ①専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲 ②モノづくりへの関心と経験 ③日本語の表現力と英語の基礎学力 | | | | | |

III. シラバス

- | | | | | | |
|------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 6. 授業内容をシラバスでよく確認した。 → | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| | <input type="checkbox"/> |

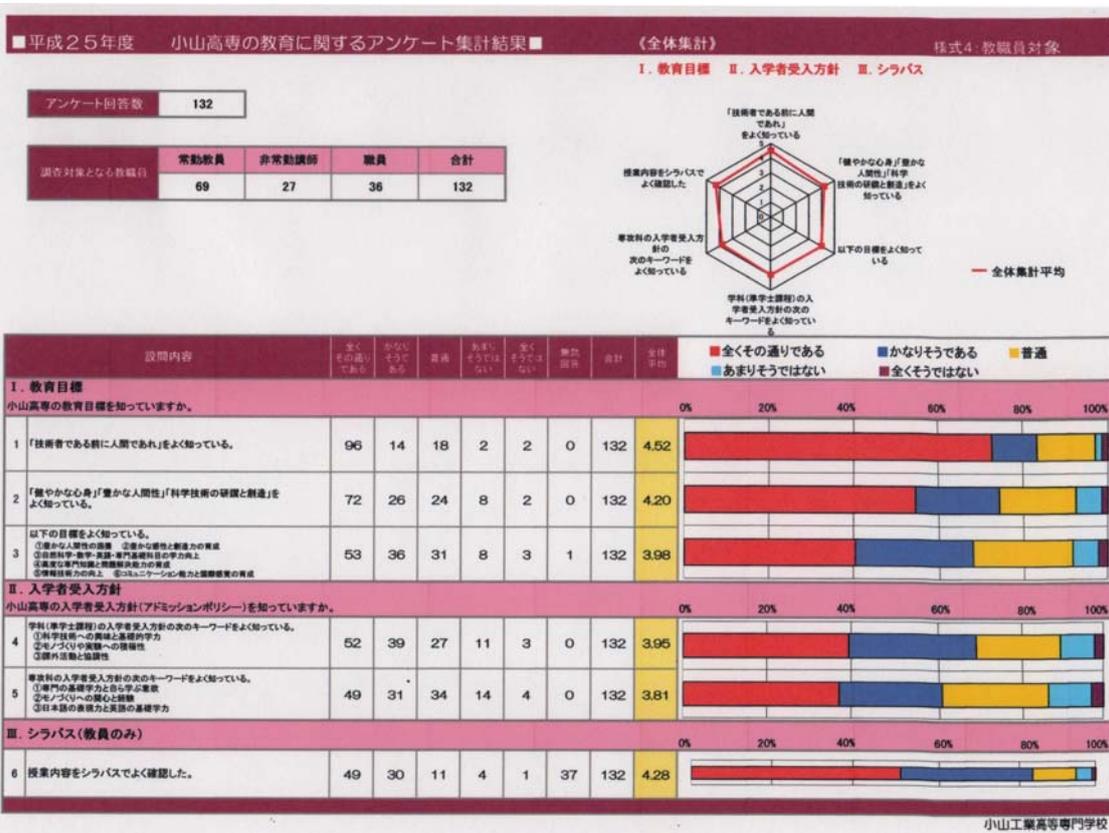
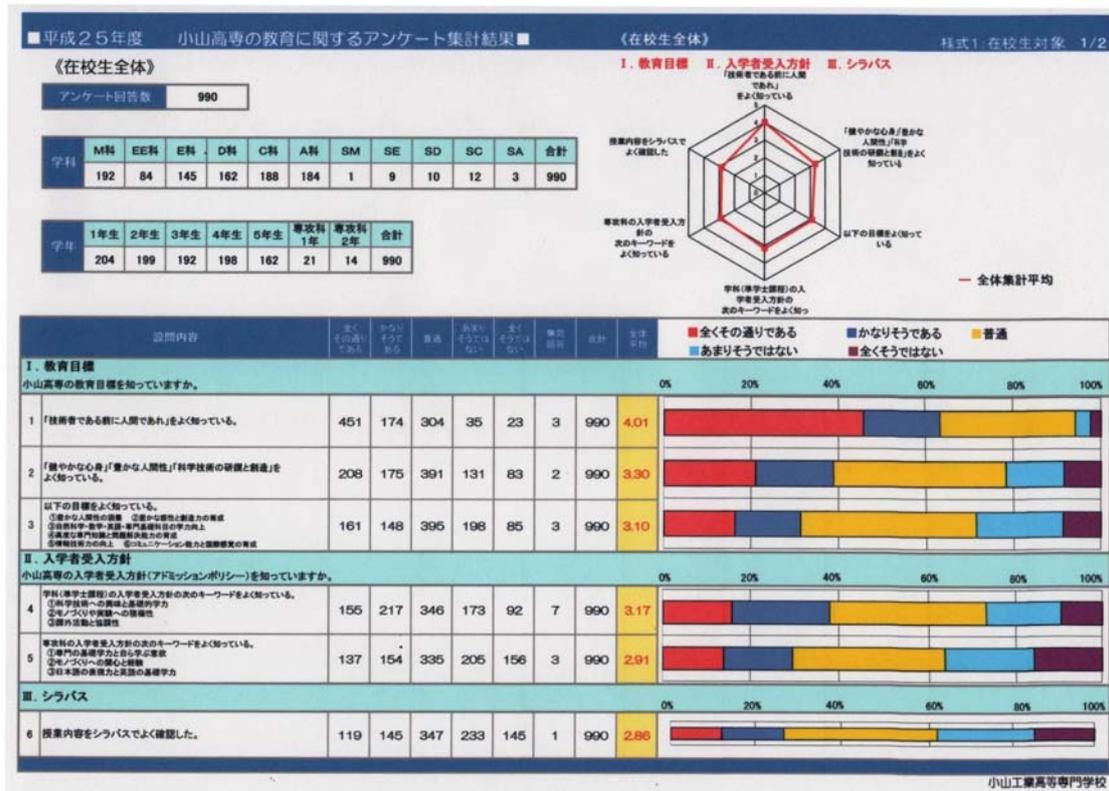
IV. 学修達成度

小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。

- | | | | | | |
|----------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 7. 「豊かな人間性」が身についた。 → | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8. 「豊かな感性」が身についた。 → | <input type="checkbox"/> |
| 9. 「創造力」が身についた。 → | <input type="checkbox"/> |
| 10. 「自然科学系(数学・物理など)」の学力が身についた。 → | <input type="checkbox"/> |
| 11. 「英語」の学力が身についた。 → | <input type="checkbox"/> |
| 12. 「専門基礎科目」の学力が身についた。 → | <input type="checkbox"/> |

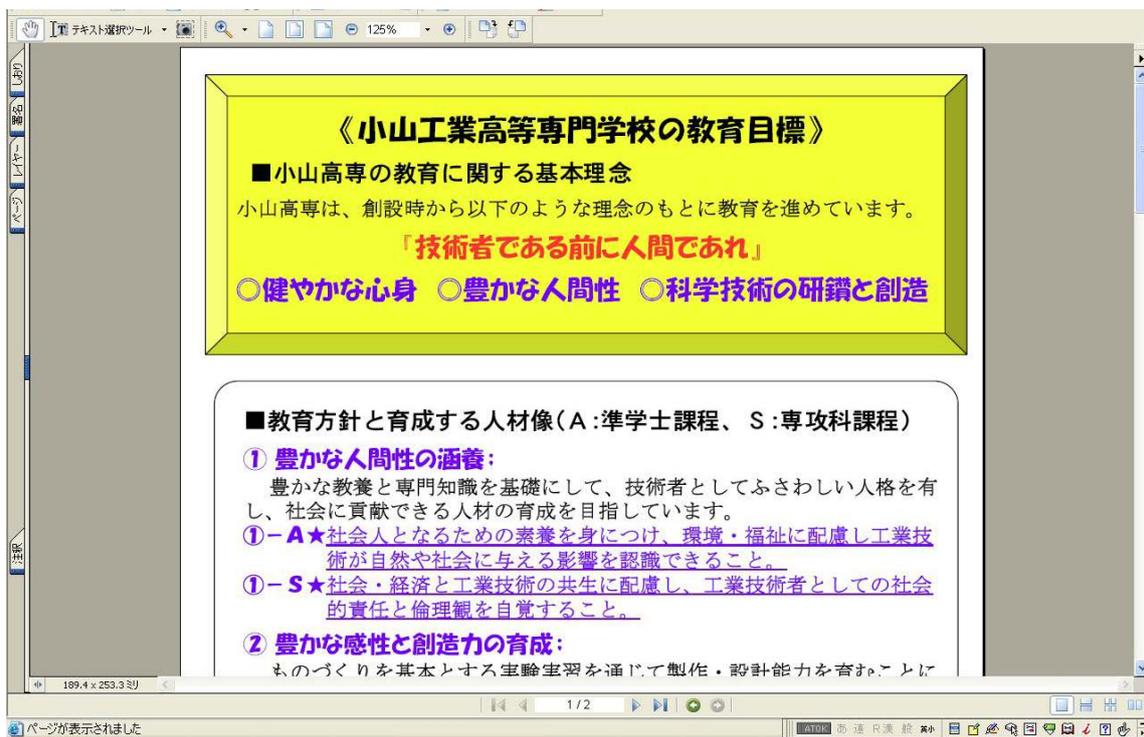
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート(学生版))

資料 1-2-①-7：教育目標周知調査のアンケート結果（在校生および教職員）



(出典：平成25年度教育に関するアンケート)

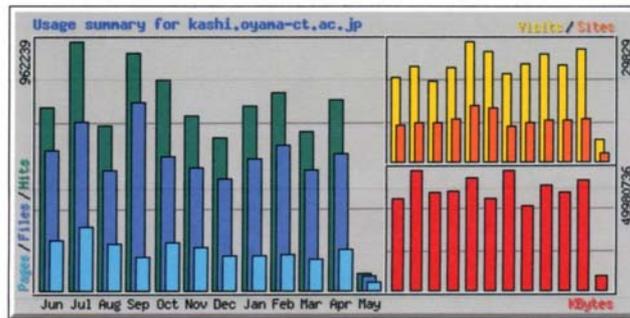
資料 1 - 2 - ② - 1 : 教育目標の公表 (その 1) 「ホームページ」



(出典：小山高専HP)

資料 1-2-②-2 : ホームページのアクセス件数

Usage Statistics for www.oyama-ct.ac.jp



	Hits	Files	Pages	Visits	Sites	KBytes	Visits	Pages	Files	Hits
May 2014	2104	1825	1062	179	1953	5963811	5377	31881	54762	63145
Apr 2014	24629	17681	5295	930	10607	45819997	27900	158870	530454	738891
Mar 2014	19799	15080	3914	768	10283	40701076	23830	121351	467506	613776
Feb 2014	27315	20061	4988	952	10338	43589448	26661	139690	561734	764825
Jan 2014	22979	16481	4368	783	9563	35144349	24291	135424	510927	712369
Dec 2013	19093	14034	4371	698	8622	49980736	21667	135504	435062	591888
Nov 2013	22538	15878	5576	910	13160	38105277	27316	167287	476340	676162
Oct 2013	26164	16801	5999	962	13802	46722503	29829	185989	520844	811097
Sep 2013	30574	24320	4412	773	10386	41027061	23195	132373	729604	917234
Aug 2013	20496	15035	5900	643	9668	40503849	19952	182923	466105	635384
Jul 2013	31039	20977	7893	756	8688	48727412	23449	247811	650292	962239
Jun 2013	23641	18086	6617	697	8893	38085087	20927	198523	542582	709230
						475370606	274394	1837626	5946212	8196240

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 1-2-②-3 : 教育目標の公表 (その 2) 「学校要覧」

教育目標

■教育に関する基本理念
 小山高専は、創設時から以下のような理念のもとに教育を進めています。

「技術者である前に人間であれ」

- 健全な心身
- 豊かな人間性
- 科学技術の研鑽と創造

入学者受入方針

■本科(準学士)課程 (1) 科学技術への興味と基礎的学力
 (2) モノづくりや実験への積極性
 (3) 課外活動と協調性

■専攻科課程 (1) 専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲
 (2) モノづくりへの関心と経験
 (3) 日本語の表現力と英語の基礎学力

Educational Objectives

Oyama National College of Technology has been continuing education since its foundation under the following themes.

[Be an engineer with good human mind]

- to improve physical and mental health
- to develop character
- to develop scientific technology and enhance creativity

Admission Policies

■Associate Degree Program

- (1) Students who are interested in science and technology and have sufficient basic ability for relevant subjects
- (2) Students who have an active attitude in manufacturing technology (*monodukuri* in Japanese) and related experiments
- (3) Students who are willing to participate in such extracurricular activities as club activities, voluntary work, and so on

■Advanced Course

- (1) Students who have acquired basic knowledge of natural science and engineering and have an attitude to study of their own accord
- (2) Students who have a particular interest in more advanced manufacturing and have experienced manufacturing activity
- (3) Students who have an ability to express themselves in Japanese and have a sufficient communication skill in English

■教育方針と育成する人材像

(A: 本科(準学士)課程, S: 専攻科課程)

- ① **豊かな人間性の涵養;**
 ① - A★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。
 ① - S★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。
- ② **豊かな感性と創造力の育成;**
 ② - A★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。
 ② - S★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。
- ③ **自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上;**
 ③ - A★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。
 ③ - S★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。
- ④ **高度な専門知識と問題解決能力の育成;**
 ④ - A★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。
 ④ - S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。
- ⑤ **情報技術力の向上;**
 ⑤ - A★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。
 ⑤ - S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。
- ⑥ **コミュニケーション能力と国際感覚の育成;**
 ⑥ - A★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。
 ⑥ - S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

■Educational Policies and Students' Qualities

- ① Graduates of good character
- ② Graduates will be creative
- ③ Students will improve their academic performance in natural science, math, English and specialized fundamental subjects
- ④ Graduates will acquire advanced specialized knowledge and the ability to solve technical problems
- ⑤ Graduates will have a good command of information and communication technologies
- ⑥ Graduates will develop communication skills, and be able to appreciate different cultures and values

| 2 |

(出典：学校要覧 2013、p. 2)

資料 1 - 2 - ② - 4 : 教育目標の公表 (その 3) 「教育目標用資料」

表 裏

《小山工業高等専門学校の教育目標》

■小山高専の教育に関する基本理念
小山高専は、創設時から以下のような理念のもとに教育を進めています。
「技術者である前に人間であれ」
○健やかな心身 ○豊かな人間性 ○科学技術の研鑽と創造

■教育方針と育成する人材像(A:準学士課程、S:専攻科課程)

① **豊かな人間性の涵養:**
豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。
①-A★**社会人となるための基業を身に付け、環境・福祉に配慮し工業技術が自然と社会に与える影響を認識できること。**
①-S★**社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。**

② **豊かな感性と創造力の育成:**
ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指しています。
②-A★**実験実習は自主的に問いを掘り下げ、解決力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。**
②-S★**専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。**

③ **自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上:**
高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指しています。
③-A★**自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。**
③-S★**自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。**

④ **高度な専門知識と問題解決能力の育成:**
専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指しています。
④-A★**基礎的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。**
④-S★**開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。**

⑤ **情報技術力の向上:**
コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指しています。
⑤-A★**情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。**
⑤-S★**情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。**

⑥ **コミュニケーション能力と国際感覚の育成:**
優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指しています。
⑥-A★**読書・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができること、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。**
⑥-S★**特別授業を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができること、高度な専門分野に関する英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。**

《小山高専の入学受入方針 (アドミッションポリシー)》
本校では教育目標を達成するために、学生の受入方針として次のようなキーワードを定めています。

■本科 (準学士課程) についてのキーワード

- ① 科学技術への興味と基礎的学力
- ② モノづくりや実験への積極性
- ③ 課外活動と国際性

■専攻科課程についてのキーワード

- ① 専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲
- ② モノづくりへの関心と経験
- ③ 日本語の表現力と英語の基礎学力

(出典：教務係資料)

資料 1 - 2 - ② - 5 : 教育目標等の掲載状況

資料名	教育理念 (校是)	教育理念 (3項目)	教育方針・人材像 (6項目)	準学士課程○ 専攻科課程◎	主な配付先等
ホームページ	○	○	○	○, ◎	学内・学外
学生便覧	○	○	○	○, ◎	学内
学校要覧	○	○	○	○, ◎	学外
教育目標用資料	○	○	○	○, ◎	学外
専攻科リーフレット				◎	学外
学校案内	○	—	—	—	中学生

(出典：各種パンフレット等より作成)

資料 1 - 2 - ② - 6 : 学校要覧配布先一覧 (H24, H25年度)

学校要覧 配布先一覧(平成24年度)

年月日	配布先	部数
H24.7.31	校長	5
	機械工学科長	5
H24.8.1	各課長、補佐、係、技術室	18
H24.8.2	図書係	保存用ほか 5
	学生課	中学校訪問、体育大会用ほか 300
H24.8.9	評価・地域連携係	地域企業配布等 100
	教員配付	84
	C科 飯島先生	在外研究用 5
H24.8.23	C科長 武先生	香港VTC 20
	総務課長	2
H24.8.28	人事係	新任ガイダンス 2
H24.9.12	評価・地域連携係	5
H24.9.21	E科 小林(幸)先生	研修出張 7
H24.9.25	財務補佐	秋田高専訪問 1
H24.10.2	人事係	新任ガイダンス 2
H24.10.16	評価・地域連携係	来客 2
H24.10.23	総務係	記者発表 26
H24.10.24	評価・地域連携係	企業訪問 3
H24.10.25	総務係	記者発表用 20
H24.10.31	評価・地域連携係	講演講師用 1
H24.11.6	総務係	校長交流会 35
H24.11.12		長岡高専訪問用 1
H24.11.14	評価・地域連携係	2
H24.11.16	A科 堀先生	ハザマ研究所 2
H24.12.13	A科 堀先生	企業用 1
H24.12.14	評価・地域連携係	知事表敬訪問 5
H24.12.17	財務係長	監査用 6
H25.1.11	学生係	就職祈願式 25
H25.2.27	評価・地域連携係	産学交流会用 150
H25.3.5	評価・地域連携係	企業概要説明会 30
H25.3.25	評価・地域連携係	高知高専訪問 3
H25.4.2	人事係	新任ガイダンス 8
H25.4.8	寮務係	1
H25.4.18	評価・地域連携係	1
H25.4.22	施設係	13
H25.4.23	総務係	香港VTC学生用 30
H25.5.24	財務係	監査用 10
H25.6.3	評価・地域連携係	企業配付ほか 10
	予備	54
	小計	1000

学校要覧 配布先一覧(平成25年度)

年月日	配布先		部数
H25.7.11	高専機構へ送付		4
	教務係	中学校訪問等	100
	校長ほか各係		30
	図書係	保存用ほか	5
	学生係	関東信越体育大会用	30
H25.7.16	評価・地域連携係	協力会依頼等	15
H25.7.18	来校者	機構理事視察	15
	本校教員		81
H25.7.25	評価・地域連携係	地域連携関係	35
H25.8.27	総務係	機構国際交流室へ	10
H25.8.30	評価・地域連携係	地域企業	3
H25.9.6	A科 川上先生	研修用	1
H25.9.13	人事係		2
H25.9.17	評価・地域連携係	外部評価等	25
H25.9.24	評価・地域連携係	連携協力会設立総会	170
H25.9.25	施設係	文科省訪問用	20
H25.10.1	総務係	新任ガイダンス	2
H25.10.22	人事係		10
H25.10.30	評価・地域連携係	長岡技科大高専連携室長ほか	10
H25.11.1	評価・地域連携係		10
H25.11.1		国語教員視察用	10
H25.11.15	評価・地域連携係	大学・短大等調査	1
H25.11.18	国際交流推進室長	VTC視察、ISTS2013	10
H25.11.21	評価・地域連携係	外部評価委員会	21
H25.12.2	武先生	4C研修旅行	20
H25.12.3	小堀先生	メキシコ グファナ大先生来校用	5
H25.12.10	小堀先生	読売新聞取材	1
H25.12.11	評価・地域連携係	田野先生	1
H26.3.14	評価・地域連携係	産学交流会	150
H26.3.25	評価・地域連携係	来客	1
H26.4.7	総務係	フランス視察団	13
H26.4.23	施設係	機構提出	16
H26.4.30	来校者(保護者)		1
H26.5.9	財務係長	栃木銀行	1
H26.5.13	国際交流推進室	香港VTC来校	22
H26.5.14	評価・地域連携係	企業用	1
H26.5.29	学生係		2
	予備		146
		小計	1000

(出典：総務係資料)

資料 1 - 2 - ② - 7 : 入試説明会実施状況 (H25 年度)

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容 (配布資料)	参加人数
H25. 9. 10.	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	38名
H25. 9. 11.	矢板	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	4名
H25. 9. 17.	宇都宮	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	12名
H25. 9. 18.	筑西	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	12名
H25. 9. 18.	足利	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	7名
合 計				73名

(出典：教務係資料)

資料 1 - 2 - ② - 8 : 「学校説明会 (合同説明会を含む)」実施状況 (H25 年度)

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容 (配布資料)	参加人数
H25. 7. 6	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	205名
H25. 9. 14	矢板	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	4名
H25. 10. 5	大宮	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	12名
H25. 10. 12	足利	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	11名
H25. 10. 13	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	82名
H25. 10. 26	岩瀬	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	2名
H25. 10. 26	古河	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	12名
H25. 11. 24	栃木	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	8名
H25. 12. 7	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料	56名
合 計				392名

(出典：教務係資料)

資料 1 - 2 - ② - 9 : オープンキャンパス・文化祭 (入試相談コーナー) 実施状況 (H25 年度)

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容 (配布資料)	訪問者数
H25. 8. 9-10.	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	976名
H25. 11. 3-4.	本校	教務主事、教務主事補、学生課長他	募集要項、学校案内、教育目標用資料他	39名

(出典：教務係資料)

資料 1 - 2 - ② - 10 : 中学校訪問 実施状況 (H22~25 年度)

実施時期	実施場所	担当者	実施内容 (配布資料)	訪問校数
H23. 7. 1-11. 30.	各中学校	教員	募集要項、学校案内、 教育目標用資料他	169校
H24. 7. 1-11. 30.	各中学校	教員	募集要項、学校案内、 教育目標用資料他	179校
H25. 7. 1-11. 30.	各中学校	教員	募集要項、学校案内、 教育目標用資料他	170校

(出典：教務係資料)

資料 2-1-①-1 : 学科の構成 ; 小山工業高等専門学校学則

第 3 章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織
 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機 械 工 学 科	1	40 人
電 気 電 子 創 造 工 学 科	2	80 人
物 質 工 学 科	1	40 人
建 築 学 科	1	40 人

(出典 : 平成 25 年度学生便覧、p. 8)

資料 2-1-①-2 : 電気電子創造工学科の設置についての概要

設置の趣旨・必要性

I 設置の趣旨・必要性

(a) 産業界を取り巻く状況と高等専門学校への役割

現在、我が国の企業の製造拠点やマーケットがグローバル化する中で、国際的に技術力と競争力を向上させる必要性に迫られている。そのためには大企業はもとより中堅・中小企業においても、生産力を向上させるとともに、イノベーションにより様々な産業を振興していくことが不可欠である。こうした状況の中で、実践的・創造的技術者を養成する高専の果たす役割はますます重要になってきている。

(b) 電気電子系学科を取り巻く緊急課題への対応策としての高度化再編

本校の電気電子系の2学科（電気情報工学科、電子制御工学科）については、以下に記す緊急課題があり、早急に学科再編とカリキュラム整備が必要である。

(b-1) 電気電子系学科における緊急性の高い課題

・先進技術の複合化・融合化が進む中で、新たな分野・領域の教育研究が重要となり、電気電子情報系技術におけるイノベーションの動向も見据えた先進的・学際的領域をカバーする学科編成・カリキュラム編成が必要である。

・必要とされる技術分野は、新エネルギー技術や最新ロボット技術および情報デザイン技術等であり、最新の科学技術の集結が求められている。

(b-2) 地域産業界のニーズ

・栃木県においては、地域産業の競争力強化と経済活性化を図るために「とちぎ産業振興プログラム」を平成19年に策定(平成23年3月最終改訂)し、県内産業で特に大きな生産高と関連事業の裾野を持っている環境・自動車・航空宇宙・医療機器・光学の各産業を「重点5分野プロジェクト」として、分野ごとに振興協議会を立ち上げている。各振興協議会は、その活動目標の第一に産業界、自治体と本校を含む高等教育機関等のネットワーク構築を掲げ、本校等に関連の研究開発支援や人材育成・確保支援等の協力を要請している。

・上記の5分野のうち、環境関連産業は太陽光発電、風力発電等の「新エネルギー関連産業」及び環境負荷低減に資する技術等の「スマート・エコ産業」としているが、東日本大震災以来、県内では小水力発電、地熱発電等も含めてこの分野への関心が急速に高まり、これに対応する研究開発・試験研究や技術者養成が急務とされるようになった。本校はこれら新エネルギー技術等に関する県産業界の要請に対応する準備をしつつ、地元小山市においては企業と連携して「メガソーラプロジェクト」を推進している。また、小山市当局との「包括的連携協定」(平成24年1月締結)に基づき、連携事業の1つとして「太陽光発電や小水力発電等自然エネルギーに関する共同研究」の実施を急いでいる。(環境共生エネルギー関連)

・自動車・航空宇宙・医療機器の分野では、生産の効率化のためのロボット、福祉・医療や災害支援にかかる高性能で安全性の高いヒューマン・インターフェイスに優れたロボット等の制御システム開発、及び人材養成の強い要望がある。(制御システム関連)

・また、上記の5分野のすべてにおいてネットワーク技術、デジタルデザイン等情報デザインにかかる技術やソフトの開発及び人材養成を求める声が強く聞かれる。(情報デザイン関連)

・これら地域産業界等の動きやニーズについては、上記各分野の振興協議会の議論や本校への求人企業からの聞き取り、栃木県電気電子工業会・小山市工業会からの要望書等にもよく現れている。

・以上のように、地域産業界及び地元行政において電気電子関連の新分野・融合分野への関心が急速に高まり、今日、当該分野についての本校の教育研究のさらなる充実・発展が強く求められる状況となっている。

(b-3) 本校の電気電子系学科の高度化再編―「電気電子創造工学科」の創設

これらの課題を解決し、社会の負託に応えるため、本校は電気情報工学科、電子制御工学科の両学科を統合・高度化再編し、新たな構想の下、「電気電子創造工学科」を創設することとする。その主な内容は以下の通りである。

(1) 電気電子情報系技術者に対する地域産業界のニーズに応える教育体制の構築

―ジェネラリスト基盤を持つスペシャリストの養成―

・電気電子情報系技術に関して基盤となる広範な知識・技術を習得した上で、グローバルな視野を有し、創造性豊かな実践力を持つ「エレクトリカル・ジェネラリスト」を養成する。

・最近の産業界のニーズを踏まえ、新分野を含めた新エネルギー分野・ロボット制御分野・情報デザイン分野の専門性を深化させ、それぞれの分野におけるスペシャリストとしての能力の兼ね備えた実践的・創造的技術者を養成して、地域の企業等に送り出す教育体制を確立する。

2) 新学科において養成すべき技術者の基本的資質および人材像

産業界を取り巻くグローバル化やイノベーション創出の必要に対応するために、新たに創設する電気電子創造工学科の養成すべき技術者の資質・人材像は次のように定める。

- (A) 豊かな人間性を有し、常に技術分野で社会に貢献する技術者
- (B) 創造力とデザイン力を有し、常に新しい技術開発にチャレンジする技術者
- (C) 自然科学・数学・英語の基礎学力を有し、電気電子情報分野の基礎知識を有する技術者
- (D) 電気電子情報分野における専門領域の深い知識技術を習得し、問題解決能力を有する技術者
- (E) コミュニケーション能力と国際的視野を有し、国際的に活躍出来る技術者

II 教育課程編成の考え方・特色

(a) 教育課程編成の基本的考え方

・新学科における教育目標は、次の2つに集約される。

- ①低学年における十分な基礎学力の習得
- ②高学年における地域産業界のニーズに適合した専門教育の充実

・各学年における教育内容の概要及び特色は下記のとおりである。

1 年次

- 専門導入教育：専門基礎知識の習得と工学的モチベーションの育成
- 一般教養教育：コミュニケーション能力・英語力の育成（集中講座）—全学年で実施

2 年次

- 専門基礎教育：専門基礎知識の習得と技術者倫理等の育成
- 習熟度別授業の導入：理数系一般科目・英語・専門基礎科目の学力向上—3年次（一部は4年次）まで実施

3 年次

- 専門基礎教育：専門基礎理論の習得とキャリア意識の育成
- 技術者実践教育：プロジェクト型実習、英語による専門基礎授業の実施

4 年次

- 専門共通教育：各コースの共通基盤となる知識の習得(ジェネラリスト教育)
- コース別教育：各コースに特化した知識・技術の習得(スペシャリスト教育)
- デザイン教育：「エレクトリカル・デザイン」等による企画力と創造力の育成

5 年次

- 専門共通教育：複合融合領域技術の習得、マネジメント能力等の育成(ジェネラリスト教育)
- コース別教育：新分野・新領域を含む深化した知識・技術の習得(スペシャリスト教育)
- デザイン教育：「コロキウム&ラボラトリワーク」等による複眼的視野を養う創造性教育
- 卒業研究：地域密着型研究テーマ、フィールドワーク手法による研究等、独創的な研究の促進

(b) 低学年における教育の特色

(b-1) 少人数教育の確保

- ・定員80名を2クラスに編成し、少人数教育（40名クラス）を確保する。
- ・クラス分けは、1年次・3年次で実施し、学力が均等になるよう配慮する。

(b-2) 習熟度別授業の実施

- ・数学と物理は、専門科目に必要な高い学力と学力格差の是正のため、習熟度別授業とする。
- ・英語は、習熟度別授業に加え、十分な国際コミュニケーション能力を習得させるため、全学年で「インテンシブ・イングリッシュ」（集中英語）を実施する。

(b-3) 専門基礎科目の充実

以下の新科目を配置し、工学的興味を喚起すると共に、電気電子創造工学科共通の専門知識、技術者としての心構えやスキルを養う。

- 「エンジニアリング数学」：専門基礎数学
- 「エンジニアリング・イントロダクション」：学科全体の鳥瞰・技術入門
- 「エンジニアリング・スキル」：基本技術、PBL入門
- 「エンジニアリング・エシックス」：技術者倫理、自然・社会・文化との関わり

(c) 高学年における教育の特色

低学年において習得した知識技術に加えて、高学年では専門共通科目により創造性豊かな実践力を持つ「エレクトリカル・ジェネラリスト」を養成する。さらに、専門の3コースを設置し、それぞれの専門コース科目を教授することにより、スペシャリストとして活躍できる人材の養成を目指す。各コースの主な科目と養成する人材像を以下に示す。なお、専攻するコース以外の科目の履修も推進し、より幅広い専門知識・技術の習得を促す。

(出典：総務課総務係資料)

資料 2-1-①-3 : 学科の教育目標とカリキュラム概要(抜粋)

1. 一般科

一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、さらに、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力(文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的な能力、国際的コミュニケーション能力等)を養うことに重点をおいた教育を行う。

2. 機械工学科

教育目標

ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。そして、卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。

カリキュラム概要

1 学年では、様々な工学的現象や工業技術に興味・関心を持つことに重点を置き、そのための専門への導入教育の充実を図るため、前期に「機械工学基礎」の科目を開設し、「工作実習」や「機械製図」などの実技科目とともに専門導入科目を形成している。

2 学年では、工学的現象や工業技術と授業科目との関連を見いだすことに重点を置き、「工作実習」に平行した「機械工作法」の学習や、文字情報や数値情報の処理のため「情報処理」の科目を実施している。さらに、静力学を内容

とした「工業力学Ⅰ」を開設して、力学教育の充実を図っている。

3 学年では、工学的現象や工業技術の原理を理解し、該当する法則が適用できる基礎力が身に付くことに重点を置き、「材料力学」、「工業力学Ⅱ」をはじめ、「機械工学実験Ⅰ」などを通して、目的の達成を目指している。

4 学年では、工学的現象や工業技術に課題を見だし、解決するための基礎力を持つことを重点に置き、「熱力学」や「水力学」などの基礎科目のほか、「機械設計製図」や「機械工学実験Ⅱ」、「輪講」などの科目のなかで、実際の製品を意識した教育を充実させる。

5 学年では、工学的現象や工業技術に関する問題の発見とその解決能力の獲得に重点を置き、「機械力学」などの基礎的科目のほか、「制御工学」「材料強度学」「メカトロニクス実験」など、より専門的な科目も選択できるようにしてある。「卒業研究」では、問題発見と解決能力獲得の達成を目指す。特に、「卒業研究」では、まとめる能力、表現力の養成のために、3回の発表会を設けて、能力向上を目指している。

(出典：平成25年度学生便覧及び各学科資料)

資料 2-1-②-1 : 学則より専攻科について

第 8 章 専攻科

第 39 条 本校に、専攻科を置く。

第 40 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基盤の上に立ち、より深く高度な専門の知識及び技術を教授し、もって広く地域社会並びに産業界で活躍できる実践的かつ創造的な技術者の育成を目的とする。

第 41 条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

学 科	入学定員
複合工学専攻	20 人

第 41 条の 2 専攻科の教育方針と育成すべき人材像については別表第 4 に定める。

第 42 条 専攻科に入学できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- 一 高等専門学校を卒業した者
- 二 短期大学を卒業した者
- 三 専修学校の専門課程を修了した者のうち学校教育法第 132 条の規定により大学に編入学することができる者
- 四 外国において、学校教育における 14 年の課程を修了した者

第 41 条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

- 五 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了した者
- 六 我が国において、外国の短期大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における 14 年の課程を修了したとされる者に限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者
- 七 その他本校専攻科が、高等専門学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者

第 43 条 校長は、入学志願者に対して、別に定めるところにより選考の上、入学を許可する。

第 44 条 専攻科の修業年限は、2 年とする。ただし、4 年を超えて在学することができない。

第 45 条 専攻科学生の休学期間は、1 年以内とする。ただし、特別の理由がある場合は、1 年を限度として休学の延長を認めることができる。

2 休学期間は、通算して 2 年を超えることができない。

3 休学の期間は、前条に定める修業年限及び在学期間に算入しない。

第 46 条 開設する授業科目及びその単位数は、別表第 5 のとおりとする。

2 履修方法については、別に定めるところによる。

第 47 条 専攻科に 2 年以上在学し、所定の授業科目のうち 62 単位以上を修得した者については、修了を認定する。

2 校長は、修了を認定した者に対して、所定の修了証書を授与する。

第 48 条 専攻科学生については、第 3 条から第 6 条、第 12 条、第 19 条、第 21 条、第 23 条から第 25 条、第 26 条の 3、第 26 条の 5 第 1 項及び第 2 項、第 28 条第 1 項、第 29 条から第 38 条の規定を準用する。この場合において、第 26 条の 3 中「30 単位」とあるのは「16 単位」と、第 26 条の 5 第 2 項中「外国の高等学校又は大学」とあるのは「外国の大学」と、第 38 条第 2 号中「第 22 条」とあるのは「第 45 条」と読み替えるものとする。

第 49 条 本章に定めるもののほか、専攻科に関する必要な事項は、別に定める。

(出典：小山工業高等専門学校学則)

資料 2-1-②-2 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

制 定 平成 11 年 4 月 1 日
最終改正 平成 23 年 4 月 1 日

(目 的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和 40 年 4 月 1 日制定）第 46 条第 2 項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定について定めることを目的とする。

(授 業)

第 2 条 専攻科の授業は、1 単位時間を標準 50 分とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

(単 位)

第 3 条 各授業科目の 1 単位あたりの学修時間は、45 単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については、30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験及び実習については、45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(履修方法)

第 4 条 授業科目の受講に当たっては、各学期の始めに各科目毎の受講届を提出しなければならない。

(大学等における授業科目の履修)

第 5 条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位（以下「学外単位」という。）の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、4 単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

(成績の評価)

第 6 条 学業成績は、授業科目毎に評価する。

- 2 成績の評価は、試験の成績及び平素の成績等を総合して、100 点法により評価する。
- 3 特別研究及び実務研修の成績は、合否で評価する。
- 4 各科目とも欠課時数が授業時間数の 3 分の 1 を超えるものに対しては、評価は行わない。

第 7 条 各授業科目の成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表す。

評 語 評 価

- | | |
|---|---------------|
| S | 90 点以上 |
| A | 80 点以上 90 点未満 |
| B | 70 点以上 80 点未満 |
| C | 60 点以上 70 点未満 |
| D | 60 点未満 |

(単位の認定)

第 8 条 前条の規定に基づき、S、A、B 及び C に評価された授業科目については、当該単位数を認定する。

- 2 学業成績を学外に通知する場合は、修得科目のみ単位数及び評語で通知する。
- 3 単位が認定されなかった授業科目については、次年度以降に再履修することができる。
- 4 本科 4 年及び 5 年における開講科目について、科目担当教員の許可を受けて履修することができる。ただし、当該認定単位数は専攻科修了要件のための修得単位数には含めない。しかし、技術者教育プログラム中の授業時間数として認めることができる。
- 5 前項 3 及び 4 により再履修する場合も、第 4 条に規定する手続きを行うものとする。

(試 験)

第 9 条 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績で評価し得る授業科目については、定期試験を実施しないことがある。

- 2 定期試験に病気（医師の診断書がある場合に限る。）、忌引、その他止むを得ない理由により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した場合、追試験を受けることができる。
- 3 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分の為試験を受けなかった者の当該試験の成績は 0 点とする。
- 4 試験中不正行為を行った者は、当該試験期間中における全科目の試験成績を 0 点とする。

(修了の認定)

第 10 条 修了の認定は、所定の単位を修得し、かつ、本校の複合工学系技術者教育プログラムに必要とされる単位を満たした者に対して、小山工業高等専門学校判定会議の議を経て、校長が行う。

附 則

以下省略

(出典：小山高専 H P)

資料2-1-②-3：専攻科の学年別配当単位数

別表第5		必修選択の別	単位数	学年別配当				備考	
授業科目				1年前	1年後	2年前	2年後		
一般科目	応用英語 1	選択	2	2					
	応用英語 2	選択	2		2				
	日本語概説	選択	2	2					
	技術者倫理	必修	2			2			
開設単位数			8	4	2		2	0	
修得単位数			6						
専門基礎科目	複素関数論	選択	2	2					
	応用解析学	選択	2		2				
	応用科学	選択	2		2				
	化学数学	選択	2	2					
	建築数学	選択	2		2				
開設単位数			10	4	6		0	0	
修得単位数			4						
コース共通科目	システムデザイン	必修	2	2					
	産業財産権	必修	2	2					
	環境技術	必修	2		2				
	プロジェクトデザイン	必修	2						
	経営学	必修	2			2			
	特別研究	必修	14	1	2	5	6		
	実務研修	必修	2	2					
	電子システム概論	選択	2	2					
	工学システム概論	選択	2		2				
	開設単位数			30	9	8	7	6	
修得単位数			26						
以上合計修得単位数			36						
機械工学コース	力学特論	選択	2		2				
	流体力学	選択	2	2					
	熱移動論	選択	2		2				
	エネルギー工学	選択	2			2			
	塑性力学	選択	2		2				
	応力解析特論	選択	2			2			
	生産システム工学	選択	2		2				
	シーケンス制御	選択	2				2		
	現代制御理論	選択	2				2		
	計算力学	選択	2	2					
	機械工学専攻演習	必修	2	1	1				
	機械工学専攻実験	必修	2	2					
	機械工学ゼミナール	必修	2	1	1				
	開設単位数計			26	8	10	4	4	
電気情報工学コース	電機システム制御	選択	2	2					
	ネットワーク構成論	選択	2	2					
	電気磁気学特論	選択	2	2					
	光制御工学	選択	2		2				
	電気材料特論	選択	2		2				
	電気エネルギー工学	選択	2			2			
	画像情報工学	選択	2		2				
	光デバイス工学	選択	2		2				
	情報記録工学	選択	2				2		
	人工知能	選択	2				2		
	固体電子論	選択	2				2		
	電気情報工学演習	選択	1		1				
	電気情報工学ゼミナール	必修	2	1	1				
	電気情報専攻実験	必修	2	2					
開設単位数計			27	9	6	6	6		
電子制御工学コース	電子回路特論	選択	2	2					
	電子工学特論	選択	2	2					
	計算機応用論	選択	2		2				
	情報科学	選択	2		2				
	計測システム論	選択	2	2					
	システム同定論	選択	2		2				
	画像デバイス特論	選択	2		2				
	電磁エネルギー工学	選択	2			2			
	光波応用工学	選択	2			2			
	電子制御工学演習	選択	1		1				
	電子制御工学実験	必修	2	2					
	電子制御工学ゼミナール	必修	2	1	1				
	開設単位数計			23	9	10	4	0	
	物質工学コース	分子構造論	選択	2			2		
機器分析特論		選択	2				2		
金属化学特論		選択	2		2				
複合材料		選択	2		2				
腐食工学		選択	2			2			
分離工学		選択	2		2				
有機合成化学		選択	2	2					
有機材料		選択	2		2				
生物機能化学		選択	2				2		
立体化学		選択	2		2				
触媒化学		選択	2				2		
生物化学工学		選択	2		2				
生命工学		選択	2		2				
物質工学ゼミナール I		必修	2	1	1				
物質工学ゼミナール II		選択	1			1			
物質工学ゼミナール III		選択	1				1		
物質工学演習		必修	2	1	1				
物質工学専攻実験		必修	2	1	1				
開設単位数計			34	5	17	5	7		
建築学コース	まちづくり論	選択	2		2				
	近代建築思潮史	選択	2	2					
	文化財保存論	選択	2			2			
	地域施設計画論	選択	2		2				
	居住地計画論	選択	2			2			
	環境デザイン論	選択	2	2					
	設備システム論	選択	2			2			
	合成構造論	選択	2			2			
	建築耐震設計論	選択	2		2				
	建築構造解析学	選択	2				2		
	都市防災論	選択	2	2					
	バリアフリー・デザイン論	選択	2				2		
	建築強塑性力学	選択	2	2					
	建築高機能材料工学	選択	2			2			
	地域設計 I	選択	2	2					
	地域設計 II	選択	2		2				
	建築CAD・CG	選択	2						
	開設単位数計			34	12	8	10	4	

(出典：平成25年度学生便覧、pp. 31-32)

資料 2-1-②-4 : 専攻科の趣旨、沿革等についての資料 (その 1)

平成 21 年 9 月

専攻科の趣旨、沿革等を記載した書類

1、専攻科の趣旨等

(1) 専攻科の趣旨

本学では、平成 11 年専攻科を設置し、「電子システム工学専攻」「物質工学専攻」「建築学専攻」の 3 専攻を設けた。その趣旨は、「科学技術の高度化への対応、情報社会への対応、国際化への対応、実践的技術者教育への対応、地域社会の要請への対応を掲げ、5 年間の高等専門学校における教育の基盤の上に立ち、より深く高度な専門知識及び技術を教授し、もって広く地域社会並びに産業界で活躍できる実践的かつ創造的な技術者の育成を目的としたもの」であった。

その後、小山工業高等専門学校としての育成すべき人材像は、大学工学部卒業生とは異なる技術者の養成に主眼を置くべきと判断した。それは、工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成である。更には、専門分野を持ちながらも他分野も見通せる複眼的なものの見方や考え方ができる、フレキシビリティのある技術者の育成である。これらは産業界の要望とも合致するものと考えた。

そのため、本校の専攻科を現在の 3 専攻から 1 専攻(複合工学専攻)に改組するものである。それは、横断的で複眼的な視野を養成するための共通科目の設定と、さらに、従来の専攻の枠をはずし、複合的な学問領域の形成を可能にしようとするものである。

今後、長期インターンシップの導入に伴う地域との共同研究や、地域に密着した問題の解決を図る研究などを実施する上からも必要なことである。また、このことにより、今後少子化や社会情勢の変化に伴い予想される高等専門学校の高度化・再編・改組等の改革にも柔軟に対応できる体制を整えようとするものである。

なお、よって立つべきバックボーンとしての専門分野の必要性から、より高度な専門分野を養うため本科の学科構成に則った 5 コースを設定するものである。

(2) 専攻科の沿革

平成 11 年 4 月 「電子システム工学専攻」「物質工学専攻」「建築学専攻」設置

平成 17 年 9 月 技術者教育プログラム認定(JABEE)

平成 19 年 10 月 機関別認証評価受審

2、専攻科の教育方針等

(1) 専攻科の教育方針

本専攻の教育方針は、専攻科の設置時からの見直しにより、現在は以下の 6 項目の人材像の育成を目標としている。

- ①豊かな人間性の涵養
- ②豊かな感性と想像力の育成
- ③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上
- ④高度な専門知識と問題解決能力の育成
- ⑤情報技術力の向上
- ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成

本改組に伴い以上 6 項目に加えて特に以下の 2 項目を重視するものである。

- 1) 工学理論のみでなく、実験・実習、実学に裏付けされた技術者の育成
- 2) 専門分野を持ちながらも他分野も見通せる複眼的なものの見方や考え方ができる、フレキシビリティのある技術者の育成

そのため、横糸としての共通科目(別表)を設け、複眼的で柔軟なものの見方を養成するとともに、それらを通る縦糸としての専門分野は、5 コース(機械工学、電気情報工学、電子制御工学、物質工学、建築学)とし十分な専門性を養成する。

資料 2-1-②-4：専攻科の趣旨、沿革等についての資料（その 2）

専門分野としての各コースの教育方針は以下のとおりである。

電気情報工学コース：

電気情報工学コースは、準学士課程における電気・電子・情報コースの各専門性を深めつつ、技術の複合化が進む産業社会に柔軟に対応できるように、より高度な専門知識及び技術の習得を目指す。

物質工学コース：

主として化学や生物に関する物質工学系の学科を卒業した学生に対し、高専で修得した専門性を活かし、技術の複合化、ハイテク化の進む産業社会の構造に適合した知識・技術を広く教授する。材料工学、生物工学、化学工学に関する高度技術の基礎及び応用力の修得を目指します。また、情報等の幅広い知識も得られるよう配慮しています。

建築学コース：

主として建築学科を卒業した学生に対して、高専で修得した専門性を活かした応用力の育成を主眼とし、専門科目、特別研究等を通して高度で科学的な学習はもとより、地域に密着した堅実で現実的な技術及び知識の習得を目指します。また、情報などの幅広い知識も得られるよう配慮しています。

なお、このコースの設定は、現行の学科構成に合わせているが、社会の要請や学問領域の変化によってはコースの統合やコース名の変更も柔軟に行うこととする。

(2) 専攻科の教育課程の編成方針、特徴、履修方法等

1) 教育課程の編成方針と特徴

本専攻科の教育課程は次のように組み立てられている(図—1参照)。

<基礎教育>

豊かな教養と国際感覚および技術者としての普遍的な基礎学力を養うため、一般科目と専門基礎科目の二つの科目群を設ける。

一般科目	外国語、技術者倫理、その他の教養科目
専門基礎科目	数学、物理、化学等の基礎工学科目

<専門教育>

専門教育科目は、専門共通科目とコース別専門科目とに分かれ、専門共通科目は必修と選択に区分される。

○ 専門共通科目は、本専攻科の特色である幅広い複眼的視野を持たせるための科目がある。他コースの学生とチームを組み問題解決に当たる「プロジェクトデザイン」、専門分野を横断的に対象とする「経営学」「産業財産権」「環境技術」などの科目で構成される。また、企業での「実務研修」や「特別研究」などにおいて専門を異にする学生・技術者・研究者によるコラボレーションも期待するものである。

○ コース別専門科目は、講義科目と工学演習、専攻実験などで構成される。各自の専門分野の充実を図るものであり、また、学士取得のためにはそのコースの科目の履修が推奨される科目で構成される。他コースの科目の選択も自由である。

資料2-1-③-1：図書情報センター規程（抜粋）

制 定 平成16年4月1日
最終改正 平成23年4月1日

（設置）

第1条 小山工業高等専門学校学則第11条の規定に基づき小山工業高等専門学校図書情報センター（以下「図書情報センター」という。）を置く。

（目的）

第2条 図書情報センターは、学生その他利用者の知識・教養を高めるとともに、教育・研究・調査等に寄与し、もって図書館活動の健全な発展を図ることを目的とする。

第3条 図書情報センターは、次の資料を管理する。

- 一 一般図書
- 二 貴重図書
- 三 辞書、事典類
- 四 視聴覚資料
- 五 新聞、雑誌等定期刊行物

（個人情報の漏えい防止）

2 図書情報センターにおいて管理する歴史的若しくは文化的な資料又は学術研究用の資料に記録されている個人情報（公文書等の管理に関する法律 施行令第4条第5号で規定する個人情報をいう。）については、独立行政法人国立高等専門学校機構個人情報管理規則（機構規則第65号第40条）の規定に基づき、その漏えい防止のための措置を講ずるものとする。

（利用者）

第4条 図書情報センターを利用できる者は、次に掲げる者とする。

- 一 本校の学生
- 二 本校の教職員及び名誉教授
- 三 本校以外の者で図書情報センターの利用を申し出た一般の利用者

（開館時間及び閉館日）

第5条 図書情報センターの開館時間は、毎日午前9時から午後5時までとする。ただし、次の各号に掲げる日は閉館とし、臨時の閉館等についてはその都度定める。

- 一 国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日
- 二 土曜日・日曜日
- 三 年末年始（12月28日から翌年1月4日まで）

2 前項の規定にかかわらず、時間外開館については、別に定める。

（図書情報センター長）

第6条 図書情報センターには図書情報センター長を置く。

2 図書情報センター長は、校長が任命する。

3 図書情報センター長の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 図書情報センター長は、校長の命を受けて次の事項を掌理する。

- 一 学生の図書情報センター利用を推進するとともに、図書情報センター資料の整備に関すること。
- 二 図書情報センター整備計画及びその達成に関すること。
- 三 図書情報センター運営委員会に関すること。
- 四 その他図書館活動に関すること。

（図書情報センター運営委員会）

第7条 図書情報センターの円滑な管理運営及び著作権等に関する諸問題を処理するため、校長の諮問機関として図書情報センター運営委員会を置く。

2 図書情報センター運営委員会に関する必要事項は、別に定める。

（閲覧及び貸出）

第8条 図書情報センターに備え付けの開架資料は、自由に閲覧することができる。

2 図書情報センターの資料は、無断で館外に持ち出してはならない。

第9条 資料の館外貸出（以下「貸出」という。）は通常貸出、一夜貸出、卒研貸出及び長期貸出に分け、貸出冊数及び期間等は次のとおりとする。

- 一 通常貸出 図書 1人3冊 2週間 雑誌 1人2冊 2週間
- 二 一夜貸出 1人1冊 辞書、事典を放課後から翌朝まで（冊数は通常貸出に含む。）
- 三 卒研貸出 卒研生 専攻科生 1人3冊 1ヵ月

（出典：小山高専HP）

資料2-1-③-2：蔵書構成表

平成26年3月31日現在

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	
学 生 用	和書	2,725	2,511	5,505	5,896	15,329	21,093	832	3,507	3,434	10,599	71,431
	洋書	141	14	30	45	898	1,053	5	52	972	236	3,446
	小計	2,866	2,525	5,535	5,941	16,227	22,146	837	3,559	4,406	10,835	74,877
教 員 用	和書	319	640	1,030	638	1,671	3,533	181	333	938	893	10,176
	洋書	12	1	7	4	271	350	1	12	295	52	1,005
	小計	331	641	1,037	642	1,942	3,883	182	345	1,233	945	11,181
合 計	和書	3,044	3,151	6,535	6,534	17,000	24,626	1,013	3,840	4,372	11,492	81,607
	洋書	153	15	37	49	1,169	1,403	6	64	1,267	288	4,451
	小計	3,197	3,166	6,572	6,583	18,169	26,029	1,019	3,904	5,639	11,780	86,058
割合 (%)		3.7%	3.7%	7.6%	7.6%	21.1%	30.2%	1.2%	4.5%	6.6%	13.7%	100%

(出典：図書館管理システム)

資料2-1-③-3：学年別貸出数一覧

平成26年3月31日現在

	平成23年度				平成24年度				平成25年度			
	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計
1年	1,073	9	9	1,091	1,298	25	23	1,346	580	16	18	614
2年	656	25	2	683	691	53	2	746	662	22	5	689
3年	1,376	84	32	1,492	1,485	31	15	1,531	1385	85	0	1,470
4年	1,509	93	2	1,604	1,917	78	8	2,003	1534	45	4	1,583
5年	2,331	151	1	2,483	1,454	48	2	1,504	1835	44	0	1,879
専攻1年	486	13	3	502	658	44	2	704	240	5	0	245
専攻2年	293	10		303	382	2		384	635	82	0	717
教職員	700	144		844	852	133	7	992	605	132	10	747
一般	212	28		240	181	27		208	232	43		275
名誉教授・ 他	89	3		92	88	9	7	104	102	2	7	111
計	8,725	560	49	9,334	9,006	450	66	9,522	7810	476	44	8,330

(出典：図書館管理システム)

資料 2-1-③-4 : 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則 (抜粋)

制 定 平成15年 4月 1日
最終改正 平成24年10月17日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校 (以下「本校」という。)における、情報処理教育・研究を推進するとともに、学外の諸機関との連絡・調整及び情報ネットワークの管理運営を行うために、情報科学教育研究センター (以下「情報センター」という。)を置く。

(業務)

第 2 条 情報センターにおいては、次の各号に掲げる業務 (以下「センター業務」という。)を行う。

- 一 情報センター内の施設・設備に関する管理運営及び保守に関すること。
- 二 情報ネットワークの管理運営及び保守に関すること。
- 三 情報処理及び関連技術に関する教育・研究及び助言を行うこと。
- 四 情報処理に関する外部機関との連絡・調整を行うこと。
- 五 情報処理に関連した公開講座の実施及び課外活動等の支援に関すること。

(センター長)

第 3 条 情報科学教育研究センター長 (以下「センター長」という。)を置き、本校の専任教員のうちから校長が任命する。

- 2 センター長は、前条の業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合は、前任者の残任期間とする。

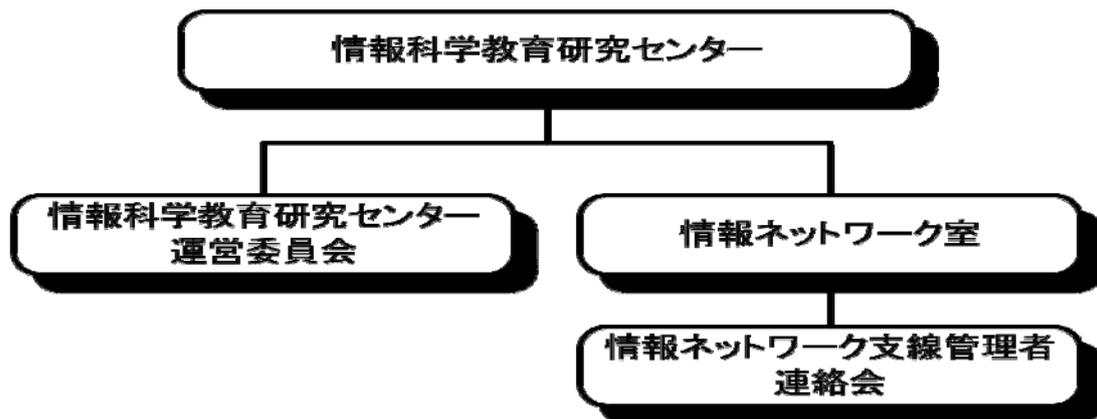
(センター員)

第 4 条 情報センターの業務を円滑に行うために、情報科学教育研究センター員 (以下「センター員」という。)を置く。

- 2 センター員は、センター長を補佐するとともに、センター業務の企画立案及びその業務の遂行にあたる。
- 3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。
- 4 センター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(出典：小山高専HP)

資料 2-1-③-5 : 情報科学教育研究センター組織図



(出典：情報科学教育研究センター運営委員会資料)

資料 2-1-③-6 : 部屋別利用状況 (情報科学教育研究センター)

部屋名称 情報センター第1演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報工学Ⅲ			機械設計製図Ⅰ	
2	3E			3M	
3	電子計算機実習	情報処理Ⅱ			情報処理実習Ⅰ
4	2C	3A	情報工学Ⅰ 1E	情報処理	1C
5		構造設計		2M	制御工学
6	工作実習	5A		情報工学Ⅱ	5E
7	3M	数値解析		2E	
8		4M			

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報処理実習Ⅰ	電気電子製図	情報処理		情報工学Ⅲ
2	1C	1E	2M		3E
3	機械設計製図Ⅰ	情報処理Ⅱ		機械設計製図Ⅱ	電子計算機実習
4	3M	3A		4M	2C
5		機械設計製図Ⅲ	情報工学Ⅰ (1E)	情報工学Ⅱ	数値計算法
6	工作実習	5M		2E	5E
7	3M				
8					

部屋名称 電子PC室 第2演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報工学	プログラムⅢ	プログラムⅠ	ソフトウェア工学Ⅰ	コンピュータ
2	1SD	3D	2D	4D	3D
3	エンジニアリング イントロダクション	輪講Ⅰ		電子制御工学実験	エンジニアリング イントロダクション
4	1R	5D		1SD	1L
5	デザイン工学実験	ソフトウェア工学Ⅲ	ソフトウェア工学Ⅱ	工学実験	制御工学
6	5D	5D	4D	4D	5E
7		電気電子工学実験Ⅰ			
8		1R		電子制御工学実験	

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限			デジタル工学		
2			5D		
3	通信工学Ⅰ	輪講Ⅱ		通信工学	プログラムⅣ
4	4D	5D		4D	3D
5	アセンブラ	プログラムⅡ		工学実験	
6	3D	2D		4D	
7					
8					

部屋名称 電物棟 多目的マルチメディア教育室 第3演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限					
2					
3	情報ネットワーク論			電気情報専攻実験	
4	5E			1SE	
5					
6	工作実習				
7	3M				
8					

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限			集積回路設計		
2		エレクトロニクス・デザイン	5E		
3		4E			
4					
5				エレクトロニクス・デザイン	
6	工作実習			4E	
7	3M	情報工学Ⅳ			
8		4E			

(出典：特別教室時間割表)

資料2-1-③-7：情報科学教育研究センターの時間外利用状況（その1）

【学年別利用状況】

年	月	本科					専攻科		計
		1	2	3	4	5	1S	2S	
2014	3	13	2	10	131	8			164
2014	2	77	23	139	247	106		2	594
2014	1	21	147	370	515	192			1245
2013	12	15	114	228	297	122			776
2013	11	49	144	341	352	80			966
2013	10	57	95	556	357	247			1312
2013	9	248	5	50	47	7			357
2013	8	147	48	14	49	17			275
2013	7	380	293	814	173	177			1837
2013	6	135	216	419	143	161	10		1084
2013	5	324	301	358	154	154		1	1292
2013	4	178	56	414	51	75			774
2013	3	5	15	10	37	18			85
2013	2	75	113	264	229	213			894
2013	1	244	172	153	465	233			1267
2012	12	303	157	210	266	153			1089
2012	11	237	198	313	311	50	13		1122
2012	10	205	215	363	323	303			1409
2012	9	64	197	140	62	75	2	1	541
2012	8	37	19	30	13	4			103
2012	7	139	143	142	59	42			525
2012	6	144	236	271	134	86	2	2	875
2012	5	289	297	482	189	66	26	1	1350
2012	4	210	96	361	53	171			891
2012	3								0
2012	2	87	8	314	154	117	6		686
2012	1	350	263	366	224	272	13		1488
2011	12	270	272	359	140	202	2		1245
2011	11	269	179	287	194	109	3		1041
2011	10	375	404	397	143	200	3		1522
2011	9	231	329	333	79	119	11	1	1103
2011	8	13	26	37	1	2	1		80
2011	7	279	301	393	46	121			1140
2011	6	245	187	308	90	107	1	3	941
2011	5	198	43	332	52	158	2		785
2011	4	56	3	65	6	12			142
計		5969	5317	9643	5786	4179	95	11	31000

(出典:情報科学教育研究センター)

資料2-1-③-7：情報科学教育研究センターの時間外利用状況（その2）

【曜日別利用状況】

年	月	曜日							計
		日	月	火	水	木	金	土	
2014	3		45	32	38	35	14		164
2014	2		123	109	135	106	121		594
2014	1		81	276	149	421	318		1245
2013	12		88	168	88	253	179		776
2013	11		122	153	99	275	317		966
2013	10		154	323	93	449	293		1312
2013	9		113	20	58	74	92		357
2013	8		42	7	53	78	77	18	275
2013	7		157	534	443	265	438		1837
2013	6		153	286	242	203	200		1084
2013	5		95	166	282	421	328		1292
2013	4		55	247	72	115	285		774
2013	3		19	18	7	24	17		85
2013	2		273	183	108	156	172	2	894
2013	1		143	325	325	371	103		1267
2012	12		137	230	395	207	120		1089
2012	11		163	229	265	316	149		1122
2012	10		278	323	388	291	129		1409
2012	9		46	80	162	107	146		541
2012	8	2	4	6	62	15	14		103
2012	7		95	98	131	130	71		525
2012	6		143	156	195	213	168		875
2012	5	6	199	254	348	410	133		1350
2012	4		66	95	220	284	226		891
2012	3								0
2012	2		143	127	181	157	77	1	686
2012	1		195	448	253	302	290		1488
2011	12		211	287	261	359	127		1245
2011	11		107	321	213	172	228		1041
2011	10		303	340	373	205	300	1	1522
2011	9		231	183	235	196	258		1103
2011	8		5	19	39	5	12		80
2011	7		59	80	403	242	356		1140
2011	6		82	77	421	191	170		941
2011	5		104	59	342	119	161		785
2011	4			9	100	33			142
計		8	4234	6268	7179	7200	6089	22	31000

(出典:情報科学教育研究センター)

資料2-1-③-7：情報科学教育研究センターの時間外利用状況（その3）

【利用時間状況】

年	月	利用時間							計
		0～30分	30分～1時間	1時間～1時間30分	1時間30分～2時間	2時間～2時間30分	2時間30分～3時間	3時間以上	
2014	3	84	26	24	12	6	9	3	164
2014	2	206	105	71	57	51	21	83	594
2014	1	869	127	57	104	36	20	32	1245
2013	12	584	50	35	92	2	6	7	776
2013	11	747	79	60	35	25	11	9	966
2013	10	1026	101	47	84	9	41	4	1312
2013	9	77	42	141	41	35	11	10	357
2013	8	111	85	30	15	18	8	8	275
2013	7	1090	193	240	234	50	15	15	1837
2013	6	692	96	120	120	45	4	7	1084
2013	5	954	103	66	162	3	2	2	1292
2013	4	674	29	57	7	5		2	774
2013	3	33	12	10	5	10	6	9	85
2013	2	290	158	141	123	64	26	92	894
2013	1	1026	90	30	71	25	6	19	1267
2012	12	829	79	49	106	5	5	16	1089
2012	11	761	96	88	127	19	16	15	1122
2012	10	1144	124	72	58	10		1	1409
2012	9	325	70	85	38	3	11	9	541
2012	8	45	23	7	9	6	2	11	103
2012	7	398	49	17	31	6	5	19	525
2012	6	686	70	41	56	5	5	12	875
2012	5	1014	84	80	89	31	11	41	1350
2012	4	736	47	94	6	3	2	3	891
2012	3								0
2012	2	249	111	91	84	40	29	82	686
2012	1	1022	129	99	121	50	16	51	1488
2011	12	926	120	51	92	33	11	12	1245
2011	11	465	175	144	193	30	12	22	1041
2011	10	1149	153	107	69	24	15	5	1522
2011	9	381	166	189	272	26	16	53	1103
2011	8	16	10	9	13	12	3	17	80
2011	7	836	109	50	88	46	7	4	1140
2011	6	682	99	87	35	25	5	8	941
2011	5	555	90	57	49	22	6	6	785
2011	4	131	7	1		1	2		142
計		20813	3107	2547	2698	781	365	689	31000

(出典:情報科学教育研究センター)

資料 2-1-③-8 : 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター規則

制 定 平成15年 4 月 1 日

改 正 平成16年 4 月 1 日

最終改正 平成24年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、総合的なものづくり教育・研究を実施するために、学内共同利用施設としてもものづくり教育研究センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 センターにおける学生の教育指導に関すること。
- 二 ものづくりに関する技術の研究・開発及び普及に関すること。
- 三 センターを利用した公開講座の実施に関すること。
- 四 センターを利用するにあたっての技術支援に関すること。
- 五 センターの機械・機器類・諸材料の運用及び保守に関すること。
- 六 その他必要と認めること。

(センター長)

第 3 条 センターにもものづくり教育研究センター長（以下「センター長」という。）を置き、本校専任教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は前条の業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 4 条 センターの管理運営を円滑に行うために、ものづくり教育研究センター員（以下「センター員」という。）を置く。

2 センター員は、センター長を補佐するとともに、第 2 条のセンター業務の企画立案及びその業務の遂行に当たる。

3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。

4 センター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター職員)

第 5 条 センター担当の技術職員を技術室に置く。

2 技術職員は、センター長の指示を受けて第 2 条の業務に従事する。

(設備担当者)

第 6 条 センター設備の安全運用及び保全管理を行うために設備毎に設備担当者を設置する。

2 設備担当者は、技術職員のうちからセンター長が任命する。

(運営委員会)

第 7 条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(事務)

第 8 条 センターに関する事務は、教育研究技術支援部技術室第 1 グループが行う。

(雑則)

第 9 条 センターの利用に関し必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は、平成15年 4 月 1 日から施行する。

2 小山工業高等専門学校実習工場運営規則（昭和52年 6 月 1 日制定）は、廃止する。

附 則

この規則は、平成16年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年 4 月 1 日から施行する。

出典：小山高専HP)

資料2-1-③-9：平成25年度ものづくり教育研究センター時間割

前期	月	火	水	木
1				
2				
3				2E 電気情報工学実験 (ラホック、石原、小林(幸)、小林(康))
4				
5				1M 工作実習(川村)
6	3M 工作実習(北條)	2M 工作実習(田中(好))		
7				
8				

後期	月	火	水	木
1				
2				
3				
4				
5		2M 工作実習(田中(好))		1M 工作実習(川村)
6	3M 工作実習(北條)			
7				
8				

(出典：特別教室時間割表)

資料 2-1-③-10：ものづくり教育研究センターを利用した卒業研究・特別研究一覧

平成 22 年度

卒業研究テーマ

自走車いすのパワーアシストに関する研究
ジェットホバーMT の運動性能
手作りハンドベルに関する研究—キャストイングとスタンドの設計・製作
プラスチック製品の溶接に関する基礎研究—超音波溶接法を用いた場合
プラスチック製品の溶接に関する基礎研究—電熱線加熱による場合
小型気泡ポンプの揚水管内二相流におけるボイド率の測定
LED アレイを光源とする可視化用シート光発生装置の開発
軸力-ねじり複合加重下でのオーステナイト系ステンレス鋼の塑性崩壊評価
実験力学手法を用いた弾性接触応力評価
オーステナイト系ステンレス鋼の疲労き裂進展と開口挙動評価
その場観察用フレットング摩耗試験機の開発
トライボロジーに関する教材開発

特別研究テーマ

小型 ACV の方向特性
ACV の運動シミュレーション
自作ハンドベルの研究

平成 23 年度

卒業研究テーマ

小型気泡ポンプ性能測定装置の改良
半自動プラスチック溶接装置の開発
鋳造による自作ハンドベル製造装置の開発
切削によるハンドベルの製作研究
ねじ検査の自動化及び小型化に関する研究
スターリングエンジン教材開発
階段を上る機構の製作
Stave 工法によるドラム制作
その場観察用フレットング摩耗試験装置の開発
コマを用いたトライボロジー教材の製作
手巻ウインチを用いたトライボロジー教材の製作
エアボードの設計と製作
改良型車いすの試作と性能評価
ヘッドマウントディスプレイの PIC による制御の試み

特別研究テーマ

自走車いすのパワーアシストに関する研究
自作ハンドベルに関する研究
SUS304 鋼配管の機械的特性に及ぼす軸力-ねじり複合荷重下での負荷履歴の影響
アルミニウム合金製ラジエータ用フィンの二次圧縮加工機の開発と評価
羽ばたきにより発生する空気力に関する研究
小型 ACV の運動特性

平成 24 年度

卒業研究テーマ

アルミニウム合金の疲労き裂進展と開口挙動評価
軸力-ねじり複合荷重下でのオーステナイト系ステンレス鋼配管の機械的特性評価
圧力容器型負荷損傷試験によるプラスチック材料の強度特性評価
歩行時と負荷時の応力解析を目的とした強度試験システムの構築
衝撃波による壁面せん断力の測定 —センサの校正—
衝撃波管内に置かれた障害物に作用する力の測定
改良型車いすの性能評価
自走車いすのパワーアシストに関する研究
エアボードの改良と性能評価
ものづくり講座用二足歩行ロボット教材の開発
線形切欠き力学による切欠き材の破壊の予測 (ANSYSによる解析)
衝撃波管の製作及び性能評価に関する研究

横スロッシング装置の製作及び液面振動に関する研究
回転体による液体の微粒化に関する研究
杖先ゴムの摩擦係数測定機の製作
独楽を用いたトライボロジー教材の改良
電磁石エンジンの製作
磁場環境下における往復摩擦摩耗試験機の製作
プラスチックの溶接に関する研究（接合現象について）
半自動プラスチック溶接装置の開発
鋳造によるハンドベル製造装置の開発
ショットピーニングおよび700℃熱処理がZrO ₂ /SiCセラミックスの強度に及ぼす影響
応力比が単一過大曲げモーメントを負荷されたばね鋼の疲労限度に与える影響
簡易型パルスジェットエンジンの性能に関する研究
特別研究テーマ
過大曲げモーメント負荷による応力集中部にキズを有する構造用材料の疲労限度向
負荷形態の異なるプラスチック材料の強度と破壊評価
平成 25 年度
卒業研究テーマ
アルミニウム合金の疲労き裂進展と開口挙動評価
シェルモールド法によるハンドベル製造装置の開発
自作ハンドベルに関する基礎研究－ハンドベルの設計・製作－
自作ハンドベルに関する研究（ベル固定用のテーブル製作とその評価）
図書館案内ロボットの製作と社会評価
図書館案内ロボットの製作と社会評価 制御編
エアボードの製作と性能評価
レゴマインドストーム NXT を使用した教材の開発
犬との共存を目的としたシルバーカーの開発（磁気ブレーキの試作）
犬との共存を目的としたシルバーカーの開発（段差乗越え機構の製作）
杖先ゴムの静摩擦係数測定器の製作
金属製下肢装具用継手の負荷試験システムの製作
磁場環境下における往復摩擦摩耗試験機の製作
地面効果翼機を用いた工学教材の作製
気泡ポンプの性能予測モデルの改良（気泡上昇速度の測定）
衝撃波による壁面せん断力の測定－測定部の改良－
衝撃波による壁面せん断力の測定－センサの校正－
超音波ピーニングによるき裂を有する SM490A の疲労限度向上
過大荷重負荷とショットピーニングが疲労強度に与える影響に関する研究
負の応力比が単一荷重を負荷したばね鋼の疲労限度に与える影響
負荷時の足アーチの変形解析を目的とした強度評価システムの構築
医療用利用を目的とした足部検査システムの開発
圧力容器型負荷損傷試験によるプラスチック材の強度評価
軸力とねじりを受けるオーステナイト系ステンレス鋼の強度評価
衝撃波管管端に発生する衝撃波の可視化
トンボの羽形状を用いた小型プロペラ風車に関する研究
特別研究テーマ
オーステナイト系ステンレス鋼の疲労き裂進展と開口挙動変化
軸力とねじりを受けるオーステナイト系ステンレス鋼配管の塑性崩壊評価
溶接止端部にき裂を有する構造用圧延鋼のピーニングによる疲労限度向上およびき裂の無害化
磁場環境下におけるフレッティング摩耗現象のその場観察
往復摩擦・摩耗における磁場の影響

(出典：ものづくり教育研究センター運営委員会資料)

資料 2-1-③-11：小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター規則

制 定 平成 20 年 4 月 1 日
最終改正 平成 23 年 9 月 1 日

- (設置)
第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、産学官連携の拠点及び学内共同利用教育研究施設として、本校における教育・研究並びに地域企業等との共同研究や技術交流等を推進するとともに、地域との連携活動を通して地域社会に貢献するために、地域連携共同開発センター（以下「センター」という。）を置く。
- (業務)
第 2 条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。
一 産学官連携に関すること。
二 地域企業等との技術相談に関すること。9
三 共同研究、受託研究及び受託試験の実施に関すること。
四 地域企業等と連携した共同教育の促進支援に関すること。
五 学内共同研究の推進に関すること。
六 公開講座に関すること。
七 地域の教育文化活動及び生涯学習活動等の支援に関すること。
八 先進的キャリア教育推進室に関すること。
九 センターの施設・設備の管理運営に関すること。
十 その他センターが必要と認めたもの
- (部門及び室)
第 3 条 センターに業務遂行のための組織として、次の部門及び室を置く。
一 産学官連携部門
二 研究開発部門
三 教育文化活動支援部門
四 先進的キャリア教育推進室
- (センター長)
第 4 条 センターに、地域連携共同開発センター長（以下「センター長」という。）を置き、本校専任教員のうちから校長が任命する。
2 センター長は、第 2 条の業務を掌理する。
3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (部門長及び室長)
第 5 条 第 3 条に定める各部門及び室に、部門長又は室長を置く。
2 部門長及び室長は、本校専任教員のうちから、校長が任命する。
3 部門長及び室長は、当該部門又は室の業務を統括する。
4 部門長及び室長の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (センター員)
第 6 条 センターの業務を円滑に行うために、次の各号に掲げる地域連携共同開発センター員（以下「センター員」という。）を置く。
一 各学科から各 2 名
二 一般科から 2 名
三 総務課長
四 評価・地域連携係長
五 教育研究技術支援部技術長
六 教育研究技術支援部技術室第 3 グループ長
七 その他校長が必要と認めた者
2 センター員は、第 2 条（第 2 条第 1 項第 8 号を除く）に定める業務の企画立案及びその業務の遂行にあたる。
3 センター員の所属部門は、センター長が別に定める。
4 センター員は、校長が任命する。
5 第 1 項第 1 号、第 2 号及び第 7 号のセンター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (室員)
第 7 条 先進的キャリア教育推進室の業務を円滑に行うために、次の各号に掲げる先進的キャリア教育推進室員（以下「室員」という。）を置く。
一 部門長から 1 名
二 教務主事補から 1 名
三 学生主事補から 1 名
四 専攻科コース主任から 1 名
五 四年次担任
六 総務課長
七 学生課長
八 その他校長が必要と認めた者
2 室員は、第 2 条第 1 項第 8 号の企画立案及びその業務の遂行にあたる。
3 室員は、校長が任命する。
- (センター職員)
第 8 条 センターに、センター担当の技術職員（以下「センター職員」という。）を置く。
2 センター職員は、センター長の指示を受けて第 2 条の業務を遂行する。
- (設備担当者)
第 9 条 センター設備の安全運用及び保全管理を行うために設備ごとに設備担当者を置く。
2 設備担当者は、本校の専任教員のうちからセンター長が依頼する。
- (運営委員会)
第 10 条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。
- (事務)
第 11 条 センターに関する事務は、総務課及び教育研究技術支援部の技術室第 3 グループが協力して行う。ただし、先進的キャリア教育推進室に関する事務は、総務課及び学生課が協力して行う。
- (雑則)
第 12 条 センターの利用に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：小山高専HP)

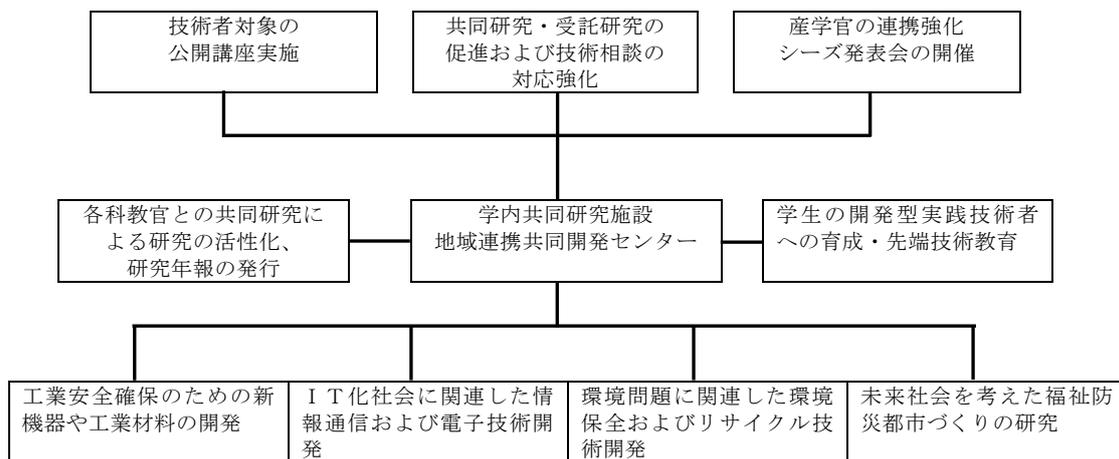
資料 2-1-③-12：小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター運営委員会細則

制 定 平成 20 年 4 月 1 日
最終改正 平成 24 年 4 月 25 日

- (趣旨)
第 1 条 この細則は、小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター規則（平成 20 年 4 月 1 日制定）（以下「規則」という。）第 10 条第 2 項の規定に基づき、地域連携共同開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営について定める。
- (組織)
第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
一 地域連携共同開発センター長（以下「センター長」という。）
二 規則第 5 条に規定する各部門長（以下「部門長」という。）及び室長
三 規則第 6 条に規定するセンター員のうち、各学科及び一般科の専任教員各 1 名
四 総務課長
五 教育研究技術支援部技術長
六 教育研究技術支援部技術室第 3 グループ長
七 その他校長が必要と認めた者
2 前項第 3 号及び第 7 号の委員は、校長が任命する。
3 前項の委員の任期は、1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
(委員長及び会議の開催)
第 3 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
3 委員長に事故があるときは、委員長の指名する部門長がその職務を代行する。
4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。
(審議事項)
第 4 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。
一 センターの管理・運営の基本方針に関すること。
二 センターにおいて行う業務の企画立案及び実施計画に関すること。
三 地域企業等他の機関とセンターとの連携協力に関すること。
四 センターに係る規則、規程、細則等に関すること。
五 その他センター長が必要と認めたこと。
(委員会の事務)
第 5 条 委員会に関する事務は、総務課及び教育研究技術支援部技術室第 3 グループが協力して行う。

(出典：小山高専HP)

資料 2-1-③-13：地域連携共同開発センターの教育研究活動組織図



(出典：地域連携共同開発センター運営委員会資料)

資料 2-1-③-14：小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター利用規程

制 定 平成 20 年 4 月 1 日
最終改正 平成 24 年 4 月 25 日

- (趣旨)
第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター規則（平成 20 年 4 月 1 日制定）第 12 条の規定に基づき、地域連携共同開発センター（以下「センター」という。）の利用に関し、必要な事項を定める。
- (利用資格)
第 2 条 センターを利用することができる者は、次のとおりとする。
一 本校の教職員
二 本校の学生
三 本校と共同研究などを行う民間企業等の研究員
四 その他地域連携共同開発センター長（以下「センター長」という。）が小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）の議を経て適当と認めた者
- (利用の日時)
第 3 条 センターを利用できる日及び時間は、次のとおりとする。
一 利用できる日 月曜日から金曜日まで（国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日及び年末年始（12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日まで）を除く。）
二 利用できる時間 8 時 30 分から 17 時まで
2 前項の規定にかかわらず、センター長は、特に必要と認めるときは、利用日時を変更することができる。
- (施設等の利用手続)
第 4 条 センターの施設及び設備を利用しようとする者（以下「利用者」という。）は、あらかじめ別紙様式に定める事項を記入し、センター内の技術管理室に提出しなければならない。
- (利用申請者)
第 5 条 センターの施設及び設備の利用に関する申請者は、第 2 条第 1 号及び第 3 号に定める者とする。
- (経費負担等)
第 6 条 センターの設備の利用に係る経費は、原則として利用者の負担とする。
- 第 7 条 センターの設備の取り扱い及び使用料に関する事項は、別に定める。
- (遵守事項)
第 8 条 利用者は、センターの利用に当たっては、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
一 センター長及び施設担当者並びに技術職員の指示に従うこと。
二 センター内に教育・研究目的に使用する場合を除いて危険物を持ち込まないこと。
三 センターの施設、設備、資料等を汚損し、又は破損しないこと。
四 センター内の実験装置等の故障を発見した場合は、速やかにセンター長又は施設担当者に報告すること。
五 その他、他の利用者の妨げとなる行為をしないこと。
- (利用の制限)
第 9 条 センター長がセンターの管理運営上必要と認める場合は、センターの利用の一部又は全部を制限することができる。
- (損害の弁償)
第 10 条 利用者は、故意又は重大な過失により、施設、設備、資料等を汚損し、又は損傷したときは、遅滞なく原状に復し、若しくはその損害を弁償しなければならない。
- (その他)
第 11 条 この規程に定めるもののほか、センターの利用に関し必要な事項は、委員会の議を経て、センター長が定める。
- 附 則
1 この規程は、平成 20 年 4 月 1 日から施行する。
2 小山工業高等専門学校地域共同開発センター利用規程（平成 15 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

(出典：小山高専HP)

資料 2-1-③-15：地域連携共同開発センターを利用した卒業研究・特別研究（その 1）

地域連携共同開発センターを利用した特別研究(物質工学科)

年度	研究テーマ名
平成22年度	異なるグラフト鎖を同一分子中に有する新規グラフトポリマーの合成と応用
	機能性ナノカプセルを目指した温度及びpH応答性を有する新規グラフトポリマーの合成
	水熱処理ハイドロキシアパタイトフィルターのろ過特性
	熔融塩薄膜下における材料の耐食性評価
平成23年度	バイオマテリアルの高機能化を目指したヘテロテトラキッドリチレングリコールの精密合成
	ホウ素エナントを用いるmeso-2, 4-ジメチルグルタル酸のAnti-選択的の不斉アルドール反応
	Pd触媒を用いるアリル型スズ反応剤とmeso-3, 5-ジメチルグルタル酸無水物の立体選択的非対称化
平成24年度	α-アミノオキシカルボン酸誘導体の合成と化学的性質
	架橋型フルオレニルアミドチタン錯体による1-アルケンとジシロペンタジエンの共重合
	meso-2, 4-ジメチルグルタル酸のanti-選択的の不斉アルドール反応
平成25年度	機能性医用材料への展開を目指した末端にメルカプト基を有するヘテロテトラキッドPEGの合成
	生分解性および生体親和性を有する新しい多成分系ポリマーの合成と有用性検討
	機能性表面創製を目指したPEG含有ブロックポリマーの精密合成
	パラジウム触媒により発生させたスズ反応剤を経由するフェノール類のハロゲン化

(出典：物質工学科資料)

資料 2-1-③-15 : 地域連携共同開発センターを利用した卒業研究・特別研究 (その 2)

地域連携共同開発センターを利用した卒業研究 (物質工学科)

年度	研究テーマ名
平成 22 年度	生分解性セグメントを有するグラフトおよびブロックポリマーの合成
	対イオン性界面活性剤とアミン性物質の相互作用による Gibbs 膜及び臨界ミセル濃度への影響
	超臨界二酸化炭素環境下における無電解銅メッキの検討
	工業的応用展開を目指した魚類由来コラーゲン誘導体の機能化
	赤外外部反射法による長鎖アミド誘導体両親媒性化合物 Langmuir 膜の構造評価
	幾何拘束型ジメチルチタン錯体触媒による 1-ヘキセン重合
	複雑形状の表面への生体適合プラズマ溶射 HA _p コーティングの適用
	陽極酸化法による酸化チタン光触媒の作製
	幾何拘束型ジメチルチタン錯体触媒による 1-アルケンとジシクロペンタジエンの共重合
	ホウ素反応剤を用いる meso-2,4-ジメチルグルタルアルデヒドの anti-選択的不斉アルドール反応
	亜鉛含有 HA _p 生体適合ハイドロキシアパタイト被覆材の耐食性評価
	パラジウム触媒を用いるアリアルスズ化合物のフッ素化
	固体超強酸触媒によるセルロース分解条件の検討
	(トリシアミノベンジル) イットリウム錯体触媒によるイソプレン重合
	高感度バイオセンサーへの応用を目指した金コロイド-DNA 複合体の調製
	亜鉛含有 HA _p 生体適合ハイドロキシアパタイト被覆材の作製
	光触媒を電極に用いた単セル型固体酸化燃料電池の作製
	強度向上を目指した Sr 導入アパタイトの検討
	アリル型スズ反応剤を用いる meso-3,5-ジメチルグルタル酸無水物の不斉アリル化
	溶融塩薄膜下における Al 拡散浸透処理被覆材の耐食性評価
メッシュサイズの異なる水熱処理アパタイトフィルターの開発	
生体適合性ハイドロゲル創製を目指した末端反応性 PMEA の精密合成	
平成 23 年度	フルオレニルアミドジメチルチタン錯体触媒系を用いた 1-オクテンの重合
	アリル型スズ反応剤を用いる meso-3,5-ジメチルグルタル酸無水物の不斉アリル化
	高機能化表面創製を目指した末端反応性ポリエチレングリコール誘導体の合成
	生体親和性を付加した高強度バイオセラミックスの作製
	約素エナートをを用いる meso-2,4-ジメチルグルタルアルデヒドの anti-選択的不斉アルドール反応
	医療用多機能膜への応用を目指した機能性ブロックポリマーの合成
	希土類ジアルキル錯体触媒系によるブタジエンの重合
	亜鉛含有生体適合ハイドロキシアパタイトプラズマ溶射被覆材の開発
	超臨界二酸化炭素環境下における無電解銅メッキ
	医用材料への応用を目指した PEG 鎖を有するコラーゲン架橋剤の開発
	水熱法によるジルコニア微粒子の作製
	ケイ素エナートをを用いる meso-2,4-ジメチルグルタルアルデヒドの anti-選択的不斉アルドール反応
	HA/PSZ 傾斜焼結体の作製
	グリーンなスズ反応剤を経由するフェノール類のフッ素化反応
	機能性ブロックポリマーを用いたナノカプセルの調製
	固体超強酸触媒の調製
希土類ジアルキル錯体触媒系によるイソプレンの重合	

年度	研究テーマ名
平成 24 年度	マグネシウムエナートをを用いる 2,4-ジメチルグルタルアルデヒドの anti-選択的不斉アルドール反応
	コラーゲン関連物質の機能化のための水溶性ポリマーの開発
	種々のルイス酸を用いる 3,5-ジメチルグルタル酸無水物の立体選択的アリル化
	炭酸含有アパタイトの擬似液体浸漬試験
	亜鉛含有ハイドロキシアパタイトプラズマ溶射生体適合被覆材の評価
	グリーンなアリアルスズ反応剤を経由するフェノール類の臭素化
	生体親和性ハイドロゲルへの応用を目指した末端反応性ポリマーの精密合成
	亜鉛含有ハイドロキシアパタイトプラズマ溶射生体適合被覆材の作製
	モノシクロペンタジエニルトリクロチタン錯体を用いたイソプレン重合におけるトリメチルシリル置換基の効果
	機能性ブロックポリマーを用いた DDS 用ナノカプセルの調製
	極酸化法と電気泳動法を用いたハイブリッド光触媒の作製
	感光性を有する機能性高分子材料の新規合成と印刷用材料への応用
	モノシクロペンタジエニルトリクロチタン錯体を用いたイソプレン重合におけるシクロペンタジエニル配位子の効果
	アリル型スズ化合物を用いる 2,4-ジメチルグルタルアルデヒドの不斉アリル化

(出典：物質工学科資料)

資料 2-2-①-1 : 小山工業高等専門学校教務委員会規程

制 定 昭和 42 年 4 月 1 日
最終改正 平成 25 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校に、小山工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 副校長（教務主事）
- 二 教務主事補
- 三 各学科から 1 名（電気電子創造工学科は、2 名）
- 四 学生課長
- 五 その他校長が必要と認めた者

2 委員会に委員長を置き、副校長（教務主事）をもって充てる。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、校長の諮問に応じ次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び改廃に関する事。
- 二 授業時間割の編成に関する事。
- 三 学校の行事に関する事。
- 四 入学者の選抜に関する事。
- 五 学生の試験に関する事。
- 六 教育改善に関する事。
- 七 その他教務に関する事。

(会議)

第 4 条 委員会は、副校長（教務主事）が招集し、その議長となる。

第 5 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(学科間連携教育専門部会)

第 6 条 委員会に一般科と専門学科間の連携教育を効果的に実施するため、および専門学科間の連携教育を実施するために、学科間連携教育専門部会を置く。

2 学科間連携教育専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事または教務主事補から 1 名
- 二 各学科及び一般科から各 1 名
- 三 その他校長が必要と認めた者

3 前項の構成員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 学科間連携教育専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(時間割編成専門部会)

第 7 条 委員会に授業時間割の編成作業等を実施するため時間割編成専門部会を置く。

2 時間割編成専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事補から 1 名
- 二 各学科から各 1 名及び一般科から 2 名

3 前項の構成員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 時間割編成専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(e-learning 専門部会)

第 8 条 教務委員会に e-learning の活用と推進を図るため、e-learning 専門部会を置く。

2 e-learning 専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事補から 1 名
- 二 各学科及び一般科から各 1 名
- 三 技術室から 1 名

四 その他校長が必要と認めた者

3 前項の構成員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。

4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 e-learning 専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

6 e-learning 専門部会は、次に掲げる事項を所管する。

- 一 e-learning の活用と推進に関する事。
- 二 教材資料作成室の運用に関する事。
- 三 教材資料作成室の設備・備品等の管理に関する事。
- 四 e-learning に係わる機器等の整備に関する事。
- 五 その他 e-learning の運用等に関する事。

(インターンシップ専門部会)

第 9 条 委員会にインターンシップを円滑に実施するためインターンシップ専門部会を置く。

2 インターンシップ専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事補から 1 名
- 二 各学科第 4 学年学級担任
- 三 専攻科担当教員から 1 名
- 四 進路支援室員から 1 名

五 その他校長が必要と認めた者

- 3 前項の構成員の任期は1年とし、再任を妨げない。
- 4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 インターンシップ専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(事務)

第10条 委員会及び専門部会に関する事務は、学生課教務係において処理する。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成16年4月1日から施行する。

2 小山工業高等専門学校ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会規程(平成13年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成16年11月1日から施行する。

附 則

1 この規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 小山工業高等専門学校 e-learning 運営委員会規程(平成18年6月14日施行)は、廃止する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

(出典：学校要覧より作成)

資料2-2-①-2：小山工業高等専門学校専攻科運営規則

制 定 平成11年4月1日
最終改正 平成23年4月1日

(趣旨)

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校学則第49条の規定に基づき、専攻科の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(専攻科長)

第2条 専攻科に、専攻科長を置く。

2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。

3 専攻科長は、専攻科を担当する教授の中から、校長が選任する。

4 専攻科長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(コース主任)

第3条 専攻科にコース主任を置く。

2 コース主任は、専攻科長の職務を助け、専攻の運営に関することを総括する。

3 コース主任は、専攻を担当する教授又は准教授の中から、専攻科長の推薦に基づき、校長が指名する。

4 コース主任の任期は1年とし、再任を妨げない。ただし、コース主任に欠員が生じた場

合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専攻科委員会)

第4条 専攻科に、校長の諮問に応じて、専攻科に関する基本的事項を審議し、その円滑な運営を図るため、小山工業高等専門学校専攻科委員会(以下「委員会」という。)を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、専攻科の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が定める。

(出典：小山高専HP)

資料 2-2-①-3 : 小山工業高等専門学校専攻科委員会規則

制 定 平成 11 年 4 月 1 日
最終改正 平成 23 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規則は、小山工業高等専門学校専攻科運営規則第 4 条第 2 項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第 2 条 委員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 三 入学者選抜に関すること。
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- 五 試験及び学業成績に関すること。
- 六 学生の進学及び就職に関すること。
- 七 学生の厚生補導に関すること。
- 八 その他専攻科の運営に関すること。

(組織)

第 3 条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 コース主任
- 三 一般科で専攻科を担当する教員 1 名
- 四 学生課長
- 2 前項第 3 号の委員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
- 3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第 4 条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(副委員長)

第 5 条 委員会に副委員長を置く。

- 2 副委員長は、委員の互選による。
- 3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、副委員長が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を求めることができる。

(委員会の運用)

第 7 条 委員会は、他の委員会と密接な関連があり調整を必要とする場合、又は他の委員会で審議することがふさわしいと判断した場合は、それぞれ調整し、又は審議を依頼することができる。

(事務)

第 8 条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：小山高専HP)

資料2-2-①-4：教務委員会議事要録（抜粋）

平成25年度4月教務委員会議事録

日時：平成25年4月3日（水） 15時00分～16時20分

場所：管理棟3F301ゼミ室

出席者：教務委員

議題

〔報告事項〕

1. 再評価について

【資料-1】

- 小堀主事より、資料1に基づき次の事柄について説明があり、締切日までに提出願いたい旨の依頼があった。
 ○新2～5年生の該当学生には別紙のような「再評価確認書」を使用します。教員には別紙確認票を配布して確認して頂きます（4月9日（火）配付予定）。なお、非常勤講師への再試験・再評価の周知は教務係で行います。
 ○提出期限は、4月26日（金）とします。

〔依頼事項〕

1. 平成25年度校外研修及び専門研修実施計画について

【資料-2】

- 小堀主事より、資料2に基づき次の事柄について説明があり、締切日までに提出願いたい旨の依頼があった。
 ○校外研修、専門研修について実施計画を提出して下さい（実施の有無については、期限までに確定し、未定箇所については確定しだい連絡願います）。
 ○提出期限：4月26日（金）までに教務係宛。

2. 平成25年度特別講演実施計画について

【資料-3】

- 小堀主事より、資料3に基づき次の事柄について説明があり、締切日までに提出願いたい旨の依頼があった。
 ○一般科におきましては、昨年同様に特別講演についての実施計画を提出して下さい（実施の有無については、期限までに確定し、未定箇所については確定しだい連絡願います）。
 専門学科3～5年におきましては、特別講演の実施予定を提出してください。
 なお、「先進的キャリア教育推進室」でも各学科2件ほどの講演依頼が来る予定です。
 ○提出期限4月26日（金）までに教務係宛。

3. 平成25年度ジュニア科学リーグの計画について

【資料-4】

- 小堀主事より、資料4に基づき次の事柄について説明があり、締切日までに提出願いたい旨の依頼があった。
 ○「資料4」の通り、提出願います。
 （各科実施担当者の連絡：4月26日（金）まで。中学校配布用ポスター原稿締切：5月28日（火）。）

4. 新カリキュラムに伴う各学科の対応について

- 小堀主事より、次の事柄について説明があり、締切日までに提出願いたい旨の依頼があった。
 ○留年生の再履修免除および先取り履修科目について読み替えが必要な場合は、読替一覧を提出して下さい。必要の無い場合も連絡して下さい。
 ○提出期限：4月26日（金）までに教務係宛をお願いします。

〔審議事項〕

1. 平成26年度入学者選抜検査関係日程表（案）について

- 本多主事補より、資料7に基づき次の事柄について説明があり、審議の結果承認された。また、今後何か気づいた点等あれば、お知らせ願いたい旨の依頼があった。

<入学者対策室報告>

1. 平成25年度学校案内およびリーフレットの更新

- 本多主事補より、次の事柄について説明があった。
 ○業者へデザイン委託/色の変更：「えんじ色」⇒「ブルー」にする。

<教育改善推進室報告>

久保主事補より、次の事柄について説明があった。

1. H23学生による授業評価アンケート冊子を配布します。
 2. 活動状況・引き継ぎ予定を報告します。

（出典：教務委員会議事要録）

資料 2-2-①-5 : 専攻科委員会議事要録 (抜粋)	
平成 25 年度 第 1 回 専 攻 科 委 員 会	
日 時	平成 25 年 4 月 3 日 (水) 15 時 10 分 ~
場 所	管理棟 1 階 小会議室
出席者	専攻科委員
議 題	
	2. 専攻科検査問題作成要領について【審議事項】 資料 2
	◇千田委員から資料に沿って説明がなされた。
	・専攻科検査問題作成要領(案)
	※4月24日(水)本科編入学試験問題作成説明会と併せて説明会を行う。
	語句について → 追加事項 句読点は、「、」、「。」に統一する。
	4. 「専攻科全体で推薦 20 名」について【審議事項】 資料 4
	◇千田委員から資料に沿って、前提条件、手順、問題点について説明がなされた。
	(1) 小山高専平成 24 年度中期計画について【審議事項】
	◇委員長から本校中期計画の中から専攻科に関する重点事項の説明がなされた。
	※平成 25 年度計画(案)における専攻科重点事項
	・(1)入学者確保 ⑦その他、4 年次編入学者・専攻科入学者確保の取組
	a. 本科 4 年生に卒業研究および専攻科特別研究発表会を引き続き聴講させて専門領域への関心を高めるとともに、専攻科説明会の実施により専攻科受検を勧める。
	b. これまでの専攻科 1 年生対象の大学院説明会を、本科 4 年生対象に拡大して開催し、大学院進学を更に勧める。
	c. 後援会・保護者会などでも専攻科の現状を報告し、そのアピールに努める。
	d. 専攻科の大学院進学状況および就職状況等の情報を HP 等により公開する。研究内容等の情報公開は継続して検討する。
	(2) 専攻科パンフレットの更新について【審議事項】
	※担当 北條恵司、橋本彼路子
	《主な更新事項》
	・教育課程
	・各コース研究テーマ 特定の年度を表さない“方向性”とする。
	・進路状況
(出典：専攻科委員会議事要録)	

資料 2-2-①-6 : 小山工業高等専門学校運営会議規程	
	制 定 昭和 56 年 4 月 1 日 最終改正 平成 22 年 4 月 1 日
(目的)	
第 1 条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の管理運営等に関する事項について審議し、校務の円滑な運営を図るため、小山工業高等専門学校運営会議(以下「運営会議」という。)を置く。	
(審議事項)	
第 2 条 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。	
一 本校の運営組織の設置・廃止に関する事項	
二 他の運営組織の所管に属さない事項	
三 校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項	
(組織)	
第 3 条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。	
一 校長	
二 副校長(総務主事)、副校長(教務主事)、副校長(学生主事)及び副校長(寮務主事)	
三 専攻科長	
四 学科長	
五 図書情報センター長	
六 情報科学教育研究センター長	
七 地域連携共同開発センター長	
八 ものづくり教育研究センター長	
九 教育研究技術支援部長	
十 国際交流推進室長	
十一 事務部長	
十二 総務課長及び学生課長	
(会議)	
第 4 条 運営会議は、校長が招集し、主宰する。	
2 運営会議は、原則として毎月 1 回開催するものとする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。	
3 校長が必要と認めるときは、構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。	
(事務)	
第 5 条 運営会議に関する事務は、総務課総務係が処理する。	
(出典：小山高専HP)	

資料 2-2-①-7 : 運営会議議事要旨

第 1 回運営会議議事要旨

日 時 平成 25 年 4 月 10 日 (水) 15:00~16:00

場 所 中会議室

議 題

【審議事項】

1 教務関係

- 1) 平成 26 年度入学者選抜検査関係日程表 (案) について 副校長 (教務主事) 資料 1
副校長 (教務主事) から、資料 1 に基づき、日程等の説明があり、了承された。
委員から、推薦選抜検査を土曜日に変更するよう提案があり、今後、検討することになった。
- 2) 教育改善推進室員について 副校長 (教務主事) 資料なし
副校長 (教務主事) から、今年度の校務分掌一覧表中、未定だった教育改善推進室員は、教務委員会メンバーが兼任する旨の説明があり、了承された。
- 3) 専攻科棟 1 F 多目的ホールの使用に関して 副校長 (教務主事) 資料なし
副校長 (教務主事) から、専攻科棟 1 階の多目的ホールをロボコンプロジェクトの専用部屋とする旨の説明があった。
委員から、9 月から、建築学科棟改修工事に伴い、教室として占有化したい。また、来年度の電気電子創造工学科の改修工事の際にも同様に利用したい。校長から、アイデア等の打ち合わせの部屋として利用を勧めるが、占有化は難しい等の意見があり、了承されなかった。

2 運営関係

- 1) 小山工業高等専門学校創立 50 周年記念事業実行委員会規程 (案) について 総務課長 資料 2
総務課長から、資料 2 に基づき、趣旨と委員の選考について説明があり、了承された。
4 月 24 日 (水) の開校記念日に、キックオフ・ミーティングを開催する旨の説明及び各種アイデアを提案してほしい旨の依頼があった。

【依頼事項】

1 運営関係

- 1) 香港 VTC (香港専門教育学院) の来校に伴う協力依頼について 国際交流推進室長 資料 3
国際交流推進室長から、資料 3 に基づき、訪問スケジュールの説明及び学生の交流を中心に実施したい旨の協力依頼があった。

【報告事項】

1 寮務関係

- 副校長 (寮務主事) から、下記について報告があった。 副校長 (寮務主事) 資料なし
 - ・平成 25 年度入寮・開寮
4 月 3 日に開寮、43 名 (1 年生 38 名、2 年生 2 名、専攻科生・留学生 3 名) が入寮し、計 143 名となった。
 - ・学寮行事について
 - ・4 月 6 日 (土) 1 年生交流会 (体育館ドッチボール・ゲーム)
 - ・4 月 18 日 (木) 寮生歓迎会 (食堂)
 - ・4 月 20 日 (土) ソフトボール大会
 - ・当直における依頼事項
休日の日直の業者委託に伴い、日直者と宿直者との引き継ぎ等の連携を密にするため、宿直者が当直に着く前に、日直者に電話連絡をし、確認する。16 時 30 分までに電話がない場合は、寮務関係者が緊急体制をとる。
 - ・特命教授の配置
元一般科の新井教員が、特命教授として、月～木曜、17 時～20 時、学寮に配置され、寮生の各種相談、数学の勉強の補佐等に当たる。
校長から、点呼の取り方を統一するよう要望があり、副校長 (寮務主事) から、寮長及び宿直者が確認するよう指導する旨の回答があった。

2 運営関係

- 1) 平成 25 年度科学研究費助成事業 (科研費) の申請結果について 総務課長 資料 4
総務課長から、資料 4 に基づき、新規 8 件、継続 3 件が採択され、件数及び金額とも昨年度を上回った旨の報告があった。
校長から、技術職員 2 名の採択を評価する。今後も、獲得に向け努力してほしい旨の意見があった。
- 2) 研究紀要第 46 号発行日程について 図書情報センター長 資料 5
図書情報センター長から、資料 5 に基づき、発行日程の説明及び原稿は完全原稿とし、提出期限を厳守して欲しい旨の協力依頼があった。
- 3) 平成 25 年度設備整備マスタープランについて 課長補佐 (財) 資料 6
課長補佐 (財) から、資料 6 に基づき、補正予算の関係で、平成 25 年度分が前倒して実施されたため、第 3 期中期計画に基づき、平成 26 年度からの 5 ヶ年についてのマスタープランとなる。
更新は、20 件申請できるところ 15 件しか申請がなく、新規は、21 件の申請があったため、審議の結果、5 件を採択し、3 月 25 日に高専機構に提出した旨の報告があった。

その他

省略

(出典：運営会議議事要旨)

資料 2-2-②-1 : 一般科目担当教員と専門科目担当教員との連携の記録等

1. H19年度以降 電気情報工学科と一般科目(担任)
 クラス担任が主体的に行う生活指導までは踏み込まないとしながらも専門学科の教員の立場から助言する、あるいは学生指導上の問題を共有する橋渡しの役目として専門アドバイザーを1, 2年生のクラスに置いた。
2. H22年1月28日(木) 機械工学科と一般科目数学との連絡会
 機械工学科の専門科目で扱う数学の分野、内容の確認および一般科の数学で扱う数学の内容と扱う時期の確認を行った。その結果、数学の進度が、専門科目で扱う数学に追いついていない部分があることが確認された。また複素関数は、今現在応用数学の内容から除外していることや専攻科に複素関数論という科目が設置されていること、フーリエ変換の一部については時間不足のため本科では扱えないことなどを確認した。
3. H22年以降 物質工学科と一般科目化学との会議
 物質工学科の基礎化学担当教員と一般科化学担当教員との間で物質工学科学生の使用教材について協議し、従来、2年次に購入していた副教材(参考書)を1年次に購入することにした。内容の充実した副教材を所持することによって、自発的に自主学習する学生が増加した。
 以降、毎年使用教材について検討・確認を重ねている。
4. H22年以降 物質工学科2年の「物質工学入門Ⅱ」と一般科目「一般理科」について
 重複する内容の情報交換をし、単元による内容の扱い方について検討する事を確認した。
5. H23年以降 物質工学科と一般科目化学との会議
 物質工学科低学年の補講担当教員と一般科化学担当教員との間で、補講で使用する教材および学習範囲や重点課題について検討している。
6. H24年3月21日(木) 一般科(上村)と物質工学科(上田)との生物系教科の情報交換
 生物系教科全般の位置づけの確認を行った。主に2C「一般理科」と3C「生物化学」の講義内容に関する詳細な情報交換を行い、H25年度より新しく上田教員が担当する3C「生物化学」の講義計画の上で、タンパク質の分子構造や遺伝子関係の内容の基礎部分は「一般理科」が担当し、炭水化物や脂質等のその他分野に関しては「生物化学」で主に扱うことし、今後も細部にわたった情報交換していくことを確認した。
7. H24年11月 物質工学科と一般科目化学との会議
 物質工学科の分析化学担当教員と一般科化学担当教員との間で、酸化還元滴定の単元の指導法について検討し、表現方法のすり合わせをした。
8. H25年4月 全専門学科と一般科目(担任)
 1, 2年生のクラスに専門アドバイザーを置いた。
9. H25年10月 一般科目担当教員と専門科目担当教員との連携の記録等
 一般科物理では、毎年10月に専門学科の教務委員と協議を行い、物理、応用物理について今年度実施内容と次年度計画の検討を行った。

(出典：教務委員会資料)

資料 2-2-③-1 : 平成 25 年度 小山工業高等専門学校学級担任一覧

学級担任 (○ : 学年主任)

学科名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科	長田 朋樹	関根 健雄	山下 進	増渕 寿	伊澤 悟
電気電子創造情報工学科(L)	阿部 弘樹	/	/	/	/
電気電子創造情報工学科(R)	岡田 崇				
電気情報工学科	/	有坂 顕二	北野 達也	小林 康浩	山田 靖幸
電子制御工学科	/	宮城 信	大島 心平	鹿野 文久	笠原 雅人
物質工学科	○森下佳代子	須甲 克也	川越 大輔	笹沼いづみ	酒井 洋
建 築 学 科	上野 哲	○上村 孝	横内 基	堀 昭夫	中山 昌尚

(出典 : 平成25年度学生便覧、p. 182)

資料 2-2-③-2 : 小山工業高等専門学校学級担任業務 (その 1)

昭和 4 7 年 4 月 1 日

学 級 担 任 業 務

I 各教科授業に関係あるもの

- 1 学業成績についての授業科目担当教員との連絡助言
- 2 出席状況についての助言
- 3 学級日誌および出席簿の点検
- 4 工場見学等の計画と実施
- 5 実務研修等についての助言
- 6 指導要録の作成

II 各教科授業以外に関係あるもの

- 1 ホームルーム活動・学友会活動・クラブ活動等の奨励
- 2 学級会主催の指導ならびに助言 (HR 室等の整理, 整頓, 清掃および掲示物に対する助言)
- 3 学校行事への参加
- 4 学生準則の理解と学生会活動についての助言
- 5 非行誘因研究とその対策および指導
- 6 交通違反行為の防止と補導
- 7 校則等に定められた諸届・願等提出に関する助言

III 厚生関係

- 1 奨学生および授業料免除生の選考・推薦
- 2 入寮希望者の理由調査とその連絡
- 3 就職その他の進路指導の連絡調整

IV その他

- 1 学生の個性観察とその記録
- 2 必要ある場合の家庭連絡
- 3 保護者会等での保護者との懇談
- 4 卒業生との連絡 (同窓意識の高揚)
- 5 その他

(出典 : 教務関係資料)

資料 2-2-③-2 : 小山工業高等専門学校学級担任業務(その 2)

(指導項目および指導要領)

5. 学校行事関係

(1) 全校集会時における指導

担任教員はクラスの学生の体育館あるいはグラウンドへの定時集合、整列指導を行う。なお、学年別のプラカードの有無に関わらず、学年別学科別に縦一列に並ばせ、整列させる。また、集会中は講話等に集中させるとともに姿勢や私語、携帯電話の使用はさせない、等の注意指導を行う。

(2) 球技大会時の指導 (体育委員会)

朝の出席は原則として 1 時限目担当教員が取ることとなっているが、非常勤講師の場合は担任が出席を取ることとなっている。球技大会は体育の授業 1 回分に加味されるため、学生による出席確認はしない。ただし、夕方の出席確認はクラス代表者委員が行い、名票を担当主事補経由担任に渡すこととする。

体育委員を体育委員会に参加させるように指導する。委員会の開催については事前に連絡が入るので、見落としや聞き漏らしが無いようにさせる。体育委員会は大会数週間前から必要に応じて開催されるので、大会開催に当たっての準備を行わせる。特に、大会前日および当日は、準備、運営、および後片付け等があるので行動を徹底させる指導を行う。

前期球技大会においては、出場希望種目 (サッカーまたはソフトボールから 1 つ、バレーボールまたはバスケットボールから 1 つ)

をクラスにて決定させた上で体育委員会に参加させ、他クラスとの調整の上で出場種目が決定される。また、後期球技大会については、前期行わなかった 2 種目に自動的に出場することとなる。

なお、競技種目については年度によって変更される場合があり、平成 25 年度では、1, 2 試合目で負けたクラスを対象にドッジボール大会を開催した。負けた後も積極的に競技に参加するように指導する。

(3) 工陵祭時の指導 (工陵祭実行委員会)

クラスの学生が工陵祭へ積極的に関わるよう参加を促し、特にクラス単位の企画については、高専の学園祭として相応しい企画となるよう準備段階から指導助言する。また、工陵祭準備から後片づけまでの期間においては、学生の参加状況の把握・確認と、必要な物品の借用や購入といった場合の助言や手続き指導を行う。

なお、準備期間も含めて工陵祭期間中の学生の怪我や来校者とのトラブル、登下校時間や交通事故については特に注意指導する。

(4) 学生総会 (学生会執行部)

総会は年 1 回 5 月の前期球技大会前に行われている (学生便覧 p.127)。総会は会員 (学生) の過半数の出席を持って成立するため、担任は学生総会への積極的な参加を促すようにする。

なお、総会当日は原則として 1 時限目担当教員が出席を取ることとなっているが、非常勤講師の場合は担任が出席を取ることとなっている。

(5) 学生会選挙 (選挙管理委員会)

選挙管理委員を定期的に開催される選挙管理委員会に出席させるようにする。開催は事前に連絡が入るので、見落としや聞き漏らしが無いようにさせる。現状では選挙は年 1 回、12 月に行われることとなっているが (学生便覧 p.131)、選挙の公募締め切り日までに立候補者が 3 名に満たない場合は第 2、3 学年の各学級から 1 名以上推薦することとなっている。したがって、担任は立候補者状況を把握しておき、その都度クラスに適切な指導、助言を与える。

なお、開票は投票当日 (従来は後期中間試験最終日) に選挙管理委員会が行うため、予め指定した場所および時間に開票作業に参加できるように指導する。

(出典：平成26年度学生関係資料)

資料2-2-③-2： 小山工業高等専門学校学級担任業務(その3)

学級担任業務 年間指導関係項目概要表

学年	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
1年	入学式 ・始業	前期球 技大会	1年生 保護者		全校集 会		工陵祭 準備	工陵祭 保護者	学生会 選挙		全校集 会		校外研 修
2年	入学式 ・始業	前期球 技大会			全校集 会		工陵祭 準備	工陵祭 保護者	学生会 選挙		全校集 会		校外研 修
3年	入学式 ・始業	前期球 技大会	3年生 保護者		全校集 会		工陵祭 準備	工陵祭 保護者	学生会 選挙		全校集 会		校外研 修
4年	入学式 ・始業	前期球 技大会			全校集 会		工陵祭 準備	工陵祭 保護者	学生会 選挙		全校集 会		校外研 修
5年	入学式 ・始業	前期球 技大会			全校集 会		工陵祭 準備	工陵祭 後期球	学生会 選挙		全校集 会	卒業式 修了式	進路指 導
備考				地区体 育大会	全国体 育大会	全国体 育大会	ロボコ ン地区	ロボコ ン全国	コンテ スト関	定期演 奏会		語学研 修	

(出典：平成26年度学生関係資料)

資料 2-2-③-2 : 小山工業高等専門学校学級担任業務 (その 4)

授業実施記録

平成 25 年度 授業実施記録 (後期)			総授業回数 または時間 15 回 15時間
単位種別 (※) : 履修単位		単位数 : 1	
クラス : 1 A 科目 : H・R		担当教員 : 上野 哲	
月/日	授業内容	授業形態 (※※)	備 考
1	10/2	第16回:前期個人成績表を配布し勉強の仕方について説明。その後機構依頼のメンタルアンケート実施。	E: その他
2	10/9	第17回:工陵祭クラス企画模擬店(じゃがバター)の準備内容や各役割担当者について話し合いを始めた。	E: その他
3	10/23	第18回:後期球技大会の出場希望者、及び工陵祭の役割分担の詳細について、話し合いで決めた。	E: その他
4	10/30	第19回:工陵祭のクラス企画について、買い出しや料理、テント借り出しなどの準備に関する反省会をした。	E: その他
5	11/6	第20回:工陵祭の反省会をし、その後、1A独自の工陵祭反省アンケートを配布、実施した	E: その他
6	11/13	第21回:先週おこなった工陵祭アンケート結果を集計したものを配布し次年度の改善点について話し合う。	E: その他
7	11/20	第 22 回:後期中間試験の時間割を配布し、勉強の仕方について再度具体的に説明し、自覚を促した。	E: その他
8	12/4	第 23 回:日帰り研修旅行について、実施の有無について話し合い、実施することに決定した。	E: その他
9	12/11	第 24 回:日帰り研修旅行の行き先について、希望者にプレゼンをさせ、東京葛西と上野に決定した。	E: その他
10	12/18	第 25 回:合同 HR 形式で視聴覚室にて、国語科主催の読書体験発表会に参加した。	E: その他
11	1/8	第 26 回:日帰り研修旅行のグループ行動について各班の行動計画を計画表にまとめさせ提出させる。	E: その他
12	1/11	第 27 回:貸切バスを利用し、東京葛西臨海公園と上野国立博物館で日帰り研修をおこなった。	E: その他
13	1/15	第 28 回:日帰り研修旅行(特に班行動の長短について)の反省会をおこなった。	E: その他
14	1/29	第 29 回:進級にかかわる注意点と来年度の計画概要を伝え、試験勉強の重要性を改めて周知した。	E: その他
15	2/5	第 30 回:学年末試験の最終諸注意をおこなう。その後、来年度学生証用写真提出を依頼する。	E: その他
16	2/25	第 31 回:全校集会と大清掃後、春休みの過ごし方について、周知した。	E: その他
17	/		

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。(※※) A: 講義 B: 演習 C: 実験 D: 実習 E: その他

授業回数は、半期 15 回以上を必ずご確認ください。

- 1 -

(出典 : 教務関係資料)

資料2-2-③-3：学科会議における担任支援状況（例）

建築学科教室会議の議事録(敬称略)

日時：2013.07.10 10:35～

場所：建築学科2F会議室

出席者：尾立、中山、川上、橋本、堀、大島、佐藤、豊川、永峰

欠席者：高橋、本多、横内、

○佐藤先生（教務）

- ・前期成績入力締切時期について（検討中）
- ・補習授業について（橋本先生担当）
- ・学校パンフレット完成
- ・後期時間割（作業中）
- ・eラーニング、河合塾英語講座→学生周知

○大島先生（学生）

- ・HR掲示物、ゲームなど禁止事項について→注意を促す

日時：2013.10.2 14:00～

場所：大会議室

出席者：尾立、中山、橋本、堀、佐藤、大島、豊川、本多、永峰

欠席者：高橋、川上、横内、

○大島先生

（引越）

- ・建築学科棟の旧各研究室の鍵は各自保管のこと
- ・ゲート制作のため、プレハブ作業ルート確保
- ・デザコン模型製作のため、一般製図室確保
- ・建築学科棟への戻りレイアウト希望者は各自制作（2月まで）
- ・引越し3月12日～17日のうち3日間

（予算、資料あり）

- ・家具など耐震補強費用学科共通予算から支出の懸念（2年アドバイザー）

前期面接から、第二希望での入学者もなんとか建築分野に関心を持ってそうな様子

○中山先生

（1年生アドバイザー）

部活、通学などで自宅学習時間1時間ほどとすくない

日時：2013.11.06 14:00～

場所：大会議室

出席者：尾立、中山、川上、佐藤、豊川、大島、堀、本多、横内、永峰

欠席者：高橋、橋本、

○尾立先生

- ・予算執行について（12月中）、共通経費約35万円の使途
- ・カリキュラムについて、11月中決定予定
- ・私費留学生受け入れについて 建築学科 1名（男女）

○横内先生

- ・メンタルヘルスチェック結果について
ケアの必要な学生への対応お願いします

(出典：学科会議議事録)

資料2-2-③-4：平成25年度新入生ガイダンス日程表

平成25年度 新入生学内ガイダンス日程表					
月日	4月5日(金)	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(金)
時間		平常授業	平常授業	日帰り研修	健康診断
8:30					
8:40	HR「学級担任」 *学生便覧・筆記具持参 【各HR教室】				
9:00	一般科学年主任より担任紹介および学科長の話 【視聴覚室】				
9:15	学業について「副校長(教務主事)」 【視聴覚室】				(2年,1年,3年,4年,5年,専攻科の順で実施予定)
9:40	学生生活について「副校長(学生主事)」 【視聴覚室】				
10:00	キャンパス安全衛生管理室について(室長) 【視聴覚室】				
10:10	休憩				
10:20	専攻科について「専攻科長」 【視聴覚室】				
10:30	図書情報センターについて「図書情報センター長」 【視聴覚室】				(1年生は、健康診断終了後、HR)
10:50	学内施設等見学(各HR担任) ※移動(順次) ※料金は学年主任(各クラス別に順番にコースを設定する) 【事務部(学生課)・保健室・図書情報センター・学生支援室・体育施設・合宿所・寮・駐輪場・電物棟屋上太陽光発電設備・ものづくり教育研究センター・情報科学教育研究センター・地域共同開発センター・食堂売店・学生会室・ロボット保管庫等】				
12:20	昼食				昼食
13:05	合同HR *筆記用具持参 1. 心理検査(学生支援室・保健室) 【M.EE視聴覚室】、【C.Aテクノ棟4F多メ】 2. 学生支援室について(学生支援室長) 【全員、視聴覚室】 3. 保健室の利用について(看護師) 【全員、視聴覚室】				専門学科ガイダンス「各学科長」 ・学科概要説明 ・専門学科施設見学 【各HR教室及び各専門学科施設】
14:30	休憩				
14:40	4. 学生会・工務寮の話 【全員、視聴覚室】 5. 1年生日帰り研修について(学生主事補) 【全員、視聴覚室】				(休憩)
15:30	休憩				
15:40	6. その他(通学係、自転車通学シール等)(学生係) 【全員、視聴覚室】				専門学科ガイダンス「各学科」 ・各教職員の話 自己紹介 担当科目 研究分野 担当クラブ等
16:10	一般科ガイダンス(各HR担任等) 【視聴覚室、各HR教室】 (一般科一任)			終日バス移動 帰り:小山駅経由	
	スクールバス 帰り発車時刻 17:10・18:00・19:30			スクールバス 帰り発車時刻 14:30・17:00	

(出典：学生課教務係資料)

資料2-2-③-5：平成25年度「専門アドバイザー」について

○専門アドバイザー

1 M (担任 長田) 川村	2 M (担任 関根) 那須
1 L (担任 阿部) 鈴木	2 E (担任 有坂頭) 石原
1 R (担任 岡田崇) 笠原	2 D (担任 岡田晃) 鹿野
1 C (担任 森下) 飯島	2 C (担任 須甲) 糸井
1 A (担任 上野) 中山	2 A (担任 上村) 大島

(出典：各学科会議議事要旨)

資料 2-2-③-6 : 小山工業高等専門学校学生支援室規則

制 定 平成13年1月15日
最終改正 平成16年4月 1日

(設置の目的)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生の様々な悩みに応えることにより、学生が本校において円滑な学生生活を送ることができるように、適切な助言及び援助等を行うこと（以下「学生支援」という。）を目的として学生支援室（以下「支援室」という。）を置く。

(支援室の業務)

第2条 支援室においては次に掲げる業務を行う。

- 一 修学に係る学生の個人的な相談・支援に関する事。
- 二 奨学金や学費等の経済的な問題の相談・支援に関する事。
- 三 進学や就職等の進路の相談・支援に関する事。
- 四 セクシュアル・ハラスメントの相談・支援に関する事。
- 五 学生の個人的な精神・心理的な心因性の問題の相談に関する事。
- 六 前各号の業務の実施に必要な資料の作成及び調査研究に関する事。
- 七 その他学生の相談・支援に関する事。

(相談員)

第3条 支援室には次の相談員を置く。

- 一 室長 1名
 - 二 カウンセラー 若干名
 - 三 室員 若干名
- 2 室長及び室員は、本校教員の中から校長が任命する。
- 3 カウンセラーは、カウンセリングに関する専門的知識や経験を有する者を当て、校長が委嘱する。

(任期)

第4条 室長の任期は2年とし、室員及びカウンセラーの任期は1年とする。

- 2 相談員は、これを再任することができる。

(支援室業務の処理)

第5条 室長は、校長の命を受け、支援室の業務を掌理する。

- 2 室員は室長を補佐し、支援室の業務に従事する。

(相談員の義務)

第6条 相談員は、業務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。相談員を退いた後といえども同様とする。

- 2 相談員は、必要に応じてカウンセリング等に関する専門的な研修を受けるものとする。

(委員会の設置)

第7条 支援室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は次の委員をもって組織する。

- 一 室長
- 二 室員
- 三 学生課長
- 四 学生係長

(委員長)

第9条 委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。

(会議)

第10条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

- 2 委員長は、必要があると認めるときは委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第11条 支援室及び委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

(出典：小山高専HP)

資料 2-2-③-7 : 平成 25 年度学生支援室相談受付状況
支援室員 学生相談件数 (H 2 5 年度)

	学業	健康相談	精神面	対人関係	その他	計
4月	53	0	1	19	0	73
5月	78	0	2	21	0	102
6月	75	0	1	27	2	103
7月	74	0	5	18	4	101
8月	26	0	1	17	0	44
9月	27	0	4	4	4	49
10月	61	0	5	20	1	87
11月	85	0	6	7	1	99
12月	84	0	7	10	4	105
1月	88	0	4	7	2	101
2月	69	0	3	6	0	78
3月	43	0	0	3	6	52
計	763	0	39	159	24	994

【学業】修学・進路(休退学含)・課外活動等

【健康相談】体調不良・食欲不振等・不眠

【精神面】

心の病(うつ等)・自分の性格・孤立(無視)

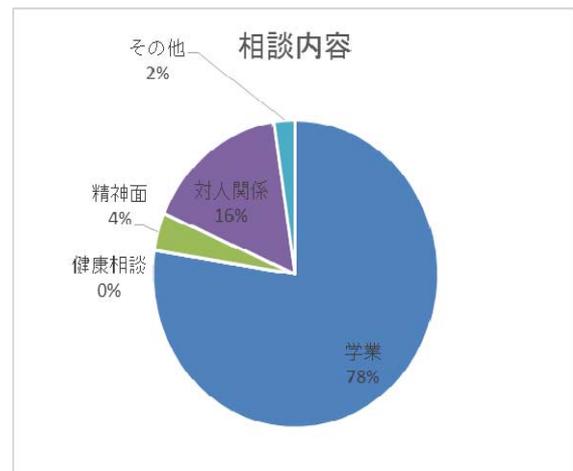
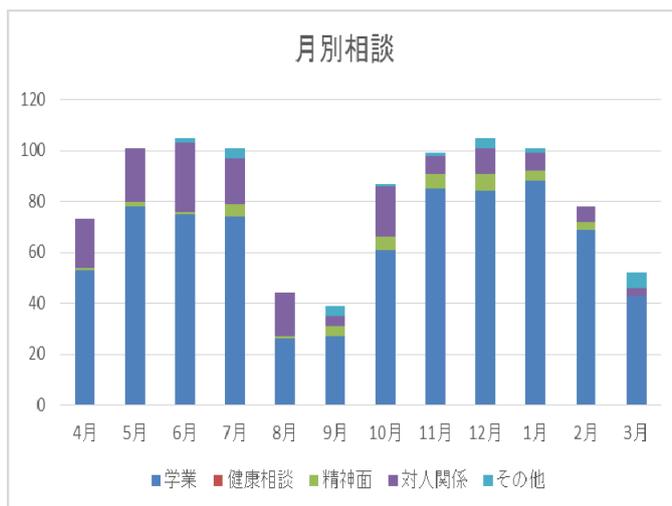
クラスに不適応・不登校・情緒不安

リストカット・アームカット

引きこもり等

【対人関係】友達・異性・教員・クラブ顧問等

【その他】経済面・家族問題・寮生活
交通事故等



学業	健康相談	精神面	対人関係	その他
763	0	39	159	24

(出典：学生支援室資料)

資料 2-2-③-8 : 平成25年度 学生会各部指導教員一覧

(参考)

平成25年度 学生会各部指導教員一覧

部 名 (体育部)	指 導 教 員
硬式野球部	川上勝弥・有坂顕二・土田英一・山下 進・山田靖幸・那須裕規・岡田 晃
柔道部	千田正勝・本多良政・阿部弘樹・市村智康・今成一雄
剣道部	西井 圭・小林幸夫・有坂夏菜子・笠原雅人・亀山雅之・鈴木栄二
陸上競技部	三原大介・田中好一・土田英一・渥美太郎・甲斐隆章・長田朋樹・上村 孝
卓球部	北野達也・豊川斎赫・酒井 洋・小堀康功・中山昌尚・橋本彼路子
バスケットボール部	須甲克也・武 成祥・久保和良・北條恵司・高屋朋彰・ラホック
サッカー部	伊澤 悟・南斉清巳・平田克己・糸井康彦・上野 哲
バレーボール部	田中孝国・佐藤 巖・尾立弘史・石原 学・岡田 崇・藤井敬士
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・須甲克也・増淵 寿・上野 哲
水泳部	鹿野文久・笹沼いづみ・飯島道弘・森下佳代子・山西敏博・飯島洋祐・小笠原健
空手道部	大島心平・酒入陽子・杉山桂子・朱 勤・関根健雄・中川英則
テニス部	鈴木真ノ介・大島隆一・田中昭雄・井上次夫・川越大輔・堀 昭夫・永峰麻衣子
バドミントン部	山崎敬則・小林康浩・渡邊達男・佐藤篤史・長田朋樹・飯島洋祐
ソフトテニス部	横内 基・川村壮司・加藤岳仁・上田 誠・加島敬太

部 名 (文化部)	指 導 教 員
吹奏楽部	柴田洋一・田中孝国・柴田美由紀・佐藤篤史
写真部	山下 進・田中昭雄・小林康浩・藤井敬士
軽音楽部	佐藤篤史・久保和良
シネマ研究部	笠原雅人・小林幸夫・柴田美由紀・川越大輔
エレクトロニクス研究部	南斉清巳・今成一雄・平田克己
機械工作研究部	山下 進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄・北條恵司・鈴木栄二・藤井敬士
自然生物研究部	上村 孝・中山昌尚
文芸部	柴田美由紀・渥美太郎
ハンドベル部	山田靖幸・柴田洋一・糸井康彦・小笠原健
演劇部	森下佳代子・川越大輔

部 名 (同好会)	指 導 教 員
将棋同好会	笠原雅人
自転車同好会	ラホック
女子サッカー同好会	飯島道弘
航空宇宙研究同好会	伊澤 悟・朱 勤・山下 進
ソフトボール同好会	糸井康彦・三原大介・飯島道弘
茶道同好会	橋本彼路子・永峰麻衣子
模型同好会	佐藤 巖
女子バスケットボール同好会	高屋朋彰・岡田 晃
デザイン同好会	橋本彼路子・永峰麻衣子

部 名 (愛好会)	指 導 教 員
ビジュアルアート研究愛好会	朱 勤
フットサル愛好会	三原大介・糸井康彦
弓道愛好会	糸井康彦・中川英則・関根健雄
天文愛好会	笹沼いづみ・加島敬太
かわさきロボット研究愛好会	川村壮司
音楽研究愛好会	大島心平

※部の新設、改廃等は学生総会で決定 (演劇同好会は部に昇格、女子バスケットボール愛好会は同好会に昇格、天文愛好会、かわさきロボット研究愛好会、音楽研究愛好会を新設、ダンス愛好会、料理愛好会は廃部、以上については平成25年5月21日承認済み) デザイン愛好会は同好会に昇格 (平成25年6月26日評議会承認済み)

(出典：平成26年度学生便覧、p. 185)

資料 2-2-③-9 : 外部顧問関係一覧

外部顧問に関する規程等は特になし。

平成 25 年度外部コーチ実績

クラブ名	氏名	指導内容
バスケットボール部	野澤唱子	練習メニュー作成および部員への個別指導等
空手道部	岩田純明	部員への基本動作・組手等の指導
硬式テニス部	渡辺 浩崇	日常的な実技指導および大会等での現地指導
	清水 竜太	
	今橋 裕	
	藤野 敦士	
	堀江 達良	
	船橋 隆之	
ソフトテニス部	日向野 学	技術指導等
ハンドベル部	鈴木久美子	日常指導および演奏会等の演奏指導
茶道同好会	岡田 裕	定期指導およびイベント等での作法指導
	吉田美弥子	
	齊藤恵子	

(出典：学生委員会資料)

資料 2-2-③-10 : 平成 25 年度後援会支出実績)

月	日	件 名	支 出 額
4	10	課外活動指導費 (3月分)	27,200
4	10	課外活動指導費 (宿泊費 3月分)	8,820
4	20	全国高等専門学校連合会年会費	15,000
4	20	体育大会全国大会分担金	350,000
4	20	デザコン分担金	60,000
4	20	プレコン分担金	7,000
4	25	1年生日帰り研修	296,520
5	2	名刺	8,400
5	9	地区大会分担金	81,000
5	10	課外活動指導費 (4月分)	40,800
5	10	課外活動指導費 (宿泊費 4月分)	2,940
5	10	課外活動旅費 (4月分)	29,960
5	22	課外活動旅費 (4月分) 追加	11,760
5	28	文化発表会経費	520,000
5	28	地区大会ソフトテニス参加費	10,000
5	28	地区大会卓球参加費	9,000
5	29	地区大会野球参加費	18,000
5	29	地区大会サッカー参加費	17,000
6	8	課外活動指導費 (5月分)	69,700
6	8	課外活動旅費 (4月分)	43,640
6	11	地区大会バスケットボール参加費	27,000
6	11	地区大会柔道参加費	8,000
6	12	高専地区大会旅費 (卓球他)	781,100
6	12	プロコン分担金	45,000
6	13	平成 24 年度工陵祭予算	400,000
6	13	地区大会バレーボール競技参加費	14,000
6	14	地区大会バドミントン競技参加費	10,000
6	14	地区大会テニス競技参加費	19,000
6	14	高専地区大会旅費 (バスケットボール他)	568,300
6	15	関東高専サッカー連盟分担金	10,000
6	19	地区大会水泳競技参加費	19,000
6	19	高専地区大会旅費 (水泳競技)	114,380
6	19	課外活動旅費 (5月分) 追加	7,440
6	22	地区大会剣道競技参加費	7,000
6	25	課外活動旅費 (5月分) 追加	28,480

6	27	高専地区大会旅費 (バドミントン) 追加	36,000
6	28	高専地区大会旅費 (剣道競技)	50,040
7	4	地区大会保険料	7,217
7	4	地区大会陸上競技参加費	29,000
7	6	課外活動指導費 (6月分)	53,400
7	6	課外活動旅費 (6月分)	56,180
7	17	地区大会バレーボール菓子代	1,575
7	17	地区体育大会旅費 (バスケットボール) 戻入	-29,240
7	18	地区体育大会旅費 (サッカー) 戻入	-54,000
7	19	地区大会バレーボール弁当・氷代	77,900
7	20	地区大会陸上競技飲料代	47,520
7	23	全国大会剣道競技参加費	2,123
7	23	地区大会陸上競技補助員謝金戻入	-10,500
7	23	全国大会バドミントン競技参加費	6,369
7	23	全国大会水泳競技参加費	19,800
7	24	全国大会テニス競技参加費	3,092
7	25	地区大会陸上競技弁当・氷代	119,800
7	25	全国大会陸上競技参加費	20,261
7	25	地区大会テニス競技参加費戻入	-7,685
7	27	高専全国大会旅費	1,781,500
7	30	地区大会保険料	47,029
7	31	地区大会保険料戻入	-7,532
8	8	課外活動指導費 (7月分)	54,400
8	8	課外活動指導費 (宿泊費7月分)	55,540
8	8	課外活動旅費 (7月分)	57,600
8	27	ロボコン 2012 地区大会負担金	95,000
9	3	全国大会保険料戻入	-2,584
9	7	課外活動指導費 (8月分)	74,800
9	7	課外活動指導費 (宿泊費8月分)	38,680
9	7	課外活動旅費 (8月分)	100,740
9	12	英語弁論大会分担金・参加費	17,100
9	12	英語弁論大会学生旅費	23,240
9	12	英語弁論大会弁当代戻入	-2,100
9	13	課外活動指導費 (8月分) 戻入	-5,100
9	13	課外活動指導費 (8月分) 追加	1,700
9	26	プロコン参加学生旅費	183,840
10	1	ロボコン参加学生旅費 (選手・写真部)	103,100
10	1	ロボコン参加学生旅費 (製作学生)	8,700
10	9	課外活動指導費 (9月分)	45,900
10	9	課外活動指導費 (宿泊費9月分)	5,880
10	9	課外活動旅費 (9月分)	109,400
10	30	ロボコン立替払金 (田中先生分)	134,136
10	30	ロボコン立替払金 (学生分)	96,608
10	30	ロボコン地区大会輸送費	56,700
10	30	ロボコン全国大会応援旅費	54,500
11	2	高専 50 周年記念式典学生旅費	2,880
11	2	ロボコンチーム物品 (刺繍ワッペン)	79,590
11	6	課外活動指導費 (10月分)	34,000
11	6	課外活動旅費 (10月分)	97,880
11	13	ロボコン全国大会応援旅費 (製作学生・写真部)	7,800
11	21	ロボコン全国大会応援旅費 (製作学生・写真部) 追加	7,800
11	22	ロボコン全国大会応援旅費 (製作学生) 追加	7,800
11	26	ロボコン全国大会法被送料	2,960
11	26	ロボコン全国大会メンテナンス費	32,130
11	26	ロボコン全国大会メンテナンス費	7,182
11	26	ロボコン全国大会メンテナンス費	23,886
11	26	ロボコン全国大会メンテナンス費	124,986
12	4	ハッピー・鉢巻きクリーニング代 (全国大会)	23,200
12	11	課外活動指導費 (11月分)	44,900
12	11	課外活動指導費 (宿泊費11月分)	20,500
12	11	課外活動旅費 (11月分)	91,560
2	14	ロボコン全国大会メンテナンス費	19,235

12	19	名刺	8,400
12	19	文化発表会経費(戻入)	-14,670
12	21	ロボコン全国大会輸送費	115,500
12	26	ロボコンイベント旅費	46,120
12	26	ロボコン立替払金(田中先生分)	37,726
12	26	ロボコン立替払金(学生分)	8,222
1	8	英語プレコン参加学生旅費	16,800
1	8	課外活動指導費(12月分)	20,400
1	8	課外活動旅費(12月分)	26,240
1	18	外部コーチ指導費(空手、バスケ、ソフトテニス)	134,000
1	25	英語プレコン参加学生旅費(戻入)	-16,800
2	4	課外活動指導費(1月分)	37,400
2	4	課外活動旅費(1月分)	95,440
2	7	外部コーチ指導費(茶道同好会)	42,000
2	22	平成25年度関東信越地区高等専門学校体育協会会費	5,000
3	1	課外活動指導費(2月分)	1,700
3	22	交流ロボコン2013参加学生旅費	129,640
3	26	外部コーチ指導費(ハンドベル)	50,000

(出典：小山工業高等専門学校後援会支出決議書)

資料2-2-③-11：公開授業	2013.11.20
教員各位	教育改善推進室
後期授業公開実施のお願い	
教員各位	
教育改善室から平成25年度後期授業見学週間についてご案内いたします。	
【実施期間】12月11日(水)～17日(火)	
【授業見学アンケート】提出期限：1月15日(水)教務係まで	
<p>※クラス担任の先生方には、教室掲示用の用紙をポスト配布いたしますので、中間試験終了後に掲示願います。 上記期間1週間前より教室出入口等に、告知掲示を致します。 対象授業：上記期間に本校で実施されているすべての授業(講義・実験・実習) この期間は原則として、参観者は、授業担当者に事前連絡することなく、自由に授業参観をできることとしますので、授業担当者はその旨をご承知おき下さい。ただし、授業担当者の都合、例えば参観者への配布物を用意する等で参観者人数を知りたい場合や、授業を参観する際の注意事項等がある場合は、ご面倒でも、事前にその旨をメール等で全教員へ配信願います。(非常勤講師の方は、教務係へご連絡下さい)</p>	
(出典：教務委員会資料)	

資料2-2-③-12：教育改善研修会	2013.2.19
平成24年度 後期 教育改善研修会教育改善推進室	
日時：2013年2月7日(木) 15時～17時	
場所：管理棟2F会議室	
内容：	
1. 講演会 講師：高屋先生：香港の教育システムとIVEの教育プログラム	
2. 講演会 講師：市村先生：UICでの在外研究を終えて	
目的：小山高専の教育改善に関して自由に情報交換をすることを目的とします。	
(出典：教務委員会資料)	

資料 2-2-③-13：小山工業高等専門学校事務組織規程（抜粋）

制 定 昭和 40 年 4 月 1 日
最終改正 平成 23 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成 15 年 10 月 1 日制定）第 12 条及び小山工業高等専門学校学則（昭和 40 年 4 月 1 日制定）第 11 条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第 2 章 事務組織

第 2 条 事務部に総務課、学生課を置く。

第 3 条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、評価・地域連携係、財務係、用度係及び施設係を置く。

第 4 条 学生課に教務係、学生係及び寮務係を置く。

第 5 条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第 6 条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第 6 条の 2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第 6 条の 3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第 7 条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第 3 章 事務分掌

第 8 条 総務課課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 総務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 中期計画・年度計画及び組織整備に関すること。

三 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 財務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 収支予算計画に関すること。

三 基準額以上の監査、内部監査・外部監査に関すること。

四 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

3 総務課課長補佐（施設担当）は、次の事務をつかさどる。

一 施設関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 施設の計画及び整備の総括に関すること。

三 その他施設関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

4 総務係においては、次の事務をつかさどる。

一 学則その他諸規程の制定改廃に関すること。

二 儀式及び他の係に属さない諸行事に関すること。

三 公印（財務関係及び学生課の公印を除く。）の管守に関すること。

四 会議に関すること。

五 公文書の收受、発送に関すること。

六 文書及び諸規則等の整理保存に関すること。

七 日誌及び沿革史等の記録に関すること。

八 秘書事務に関すること。

九 渉外に関すること。

十 電話交換その他電話の取扱いに関すること。

十一 情報公開に関すること。

十二 個人情報の保護に関すること。

十三 事務が保有する電子ファイルの管理及び運用に関すること。

十四 広報に関すること。

十五 教職員の海外渡航に関すること。

十六 校内の警備に関すること。

十七 遺伝子組み換え DNA に関すること。

十八 総務担当職員及び教員の労働時間、休暇及び出張に関すること。

十九 国際交流推進室（学生課の所掌に属するものを除く。）に関すること。

（出典：小山高専 HP）

資料 3-1-①-1 : 一般科目教員の配置

教員の研究分野と担当科目 (二重下線は専攻科科目) (一般科)

科目等	職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 25 年度担当科目
国語	教授	修士 (言語・文化学)	井上 次夫	日本語学	言語形式に託された語彙的意味および文法的意味の関係性	教員交流中 (奈良高専)
	准教授	修士 (文学)	柴田 美由紀	日本近代文学 国語教育	泉鏡花における白山信仰の受容 コミュニケーション力育成のためのメソッドと教材の開発	国語、文学、 <u>日本語概説</u>
	講師	博士 (言語学)	宮城 信	日本語文法 国語教育	日本語文法、表現法、国語教育、方言と教育	国語、文学 (前期)
社会	准教授	修士 (史学)	酒入 陽子	在地構造論	日本中近世移行期における支配層の交代と在地社会の変容	歴史、歴史学、人間と科学 I・II
	講師	博士 (文学)	上野 哲	応用倫理学	応用倫理学 (科学技術倫理・倫理教育方法論)	倫理社会、哲学、人間と科学 II、 <u>技術者倫理</u>
数学	教授	博士 (理学)	佐藤 巖	グラフ理論	グラフのゼータ関数	基礎数学 A、微分積分学、代数・幾何学、解析学、線形代数、 <u>複素関数論</u> 、 <u>応用解析学</u>
	教授	修士 (理学)	須甲 克也	数学教育 教育工学	数学問題解決時の方略的知識、教科教育の環境支援	基礎数学 A、微分積分学、代数・幾何学、解析学、線形代数、 <u>複素関数論</u> 、 <u>応用解析学</u>
	准教授	博士 (工学)	中川 英則	応用力学 応用確率解析	分岐モードの選択確率評価を取り入れた有限変形スペクトル確率有限要素法の構築	基礎数学 A・B、微分積分学、線形代数、応用数学、 <u>複素関数論</u> 、 <u>応用解析学</u>
	講師	博士 (理学)	阿部 弘樹	代数学	多元環の表現論	基礎数学 A、微分積分学、解析学、確率統計、 <u>複素関数論</u> 、 <u>応用解析学</u>
	講師	Ph. D. (数学)	岡田 崇	代数幾何学	超ひも理論やブラックホールに関する幾何学 (導来圏と安定性条件)、多元環の表現論	基礎数学 B、代数・幾何学、解析学、確率統計、応用数学
	講師	博士 (数理学)	小笠原 健	代数学	整数論	基礎数学 A・B、微分積分学、確率統計、 <u>複素関数論</u> 、 <u>応用解析学</u>
理科	教授	修士 (理学)	上村 孝	酵素工学 生態学	プロテアーゼを利用した新奇物質の合成、野生動植物の生態調査	一般理科、化学 I、 <u>応用科学</u>
	教授	博士 (理学)	柴田 洋一	音響物理学 物理教育	楽器の構造と音響特性に関する解析	物理、応用物理 II、 <u>応用科学</u>
	准教授	博士 (工学)	森下 佳代子	化学工学 反応工学	金属廃液からの有価金属の回収	化学 I、化学 II
保健体育	教授	Ph. D. (教育学)	三原 大介	体育社会学	子どものスポーツ集団の問題点について	保健体育
	講師	修士 (スポーツ健康科学)	長田 朋樹	運動生理学	低酸素環境における無酸素エネルギーの生理学的研究 (エネルギー代謝)、日常身体活動量について、筋痛、体力測定	保健体育
英語	准教授	修士 (教育学)	有坂 顕二	(日英) 比較言語学	各言語、特に日本語と英語の構文や表現の統語的比較	英語 I A、英語 II、英語演習 I、 <u>英語演習 II</u>
	准教授	M. A. (Education)	山西 敏博	言語社会学 英語教育学	アメリカ研究、言語政策、時事英語、辞書学、Testing	英語 III、英語演習 I、英語演習 II、 <u>応用英語 I</u> 、 <u>応用英語 II</u>
	講師	博士 (言語学)	杉山 桂子	英語学	英語法助動詞の意味・語用論	英語 I A、英語 II、英語表現 II、 <u>応用英語 I</u> 、 <u>応用英語 II</u>
	講師	修士 (文学)	有坂 夏菜子	中世英文学	中世英国ロマンスについて	英語 I A、英語 II、ライティング A、ライティング B、 <u>英語 III</u>
	講師	博士 (英語学)	岡田 晃	中世英語学	否定接頭辞付加派生語の通時的研究	英語 I A、ライティング A、英語表現、英語演習 I
	講師	修士 (教育学)	関根 健雄	アメリカ文化 アメリカ先住民文学	アメリカ映画におけるマイノリティ (ネイティブ・アメリカン) の表象、ネイティブ・アメリカン文学	英語 I A、英語 III、英語演習 I

(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-①-2：一般科目非常勤講師の配置

科 目	氏 名	担当科目	備 考
国 語	中田 伸一	国語、文学	小山工業高等専門学校名誉教授
	佐藤 元紀	国語	常総学院高等学校非常勤講師
	尾高 悠一	国語	筑波大学大学院博士課程人文社会学研究科文芸・言語専攻
	伊澤 亮平	国語	筑波大学大学院教育研究科教育専攻 H25.10 兼任
社 会	岩 佐 富 男	政治・経済 人間と科学Ⅱ	足利短期大学教授
	岡 田 一 郎	政治・経済	財団法人社会経済生産性本部社会労働部労働研究センター研究員
	山 本 大	政治・経済 人間と科学Ⅰ	駿河台予備学校論文科添削講師
	原 啓 介	地 理	立正大学非常勤講師
	横 山 俊 一	地 理	立正大学非常勤講師
	山 田 康 弘	歴 史 学	学習院大学大学院人文科学研究科博士後期課程修了
	田 村 航	歴 史 学	早稲田大学日本宗教文化研究所招聘研究員
	種 村 剛	倫理・社会 人間と科学Ⅰ・Ⅱ	中央大学非常勤講師
数 学	玉 木 正 一	応用数学	小山工業高等専門学校名誉教授
	新 井 一 道	基礎数学B, 代数 ・幾何学, 線形 代数, 応用数学	小山工業高等専門学校名誉教授
理 科	青 木 潔	化学Ⅰ、物理 応用物理Ⅰ 物理	元栃木県立高校教諭
	首 藤 健 太	物 理	日本大学大学院理工学研究科物理学専攻
保健体育	森 慎太郎	保健体育	常磐短期大学幼児教育体育学科助教
	植 田 俊	保健体育	筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科
	劔 持 佑 起	保健体育	白鷗大学講師
芸 術	齋 藤 千 明	美 術	国際テクニカルデザイン専門学校非常勤講師
	鈴 木 久 美 子	音 楽	ピアノ教育家
外国語	D・R・ヤズダニ	英 会 話	ニューデースクール専任講師
	小 野 雄 一	英語ⅠB	筑波大学大学院人文社会科学研究科助教
	津 谷 雅 子	英語Ⅱ	元東京都公立中学校教諭
	一 戸 克 夫	ライティングA	筑波大学非常勤講師
	佐 藤 千 裕	ドイツ語演習	ハイデルベルグ大学ドイツ語学科言語学専攻修了
日本語	足 立 サカエ	日本事情(留学生) 日本語()	白鷗大学非常勤講師

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-②-1 : 専門学科の教員の研究分野と担当科目 (1 / 4)

教員の研究分野と担当科目 (二重下線は専攻科目)

(機械工学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 25 年度 担当科目
教授	博士 (工学)	田中 好一	機械工作 溶接工学	ハンドベルの効率的な工作方法の検討 精密ねじ締め付け装置の開発	機械工作法 工作実習 機械工学実験Ⅱ
教授	博士 (工学)	朱 勤	非線形力学	機械システムに発生するカオス振動に 関する研究	機械力学、制御工学 <u>力学特論</u>
教授	工学博士 技術士	鈴木 栄二	メカトロニクス	衝撃波による廃棄物処理に関する研究	電子工学概論 電気工学概論
准教授	工学修士	山下 進	計算力学	異材接合体の応力解析	情報処理、数値解析 機械工学基礎、工業力学Ⅱ、 機械工学実験Ⅱ、計算力学
准教授	博士 (工学)	伊澤 悟	材料強度学	軸力とねじりを受けるステンレス鋼配 管の塑性崩壊評価	材料力学 <u>塑性力学</u>
准教授	博士 (工学)	北條 恵司	機械材料学	セラミックスのき裂治癒および金属材 料の疲労限度向上	材料学 材料強度学
准教授	博士 (工学)	増淵 寿	流体工学	気泡ポンプの設計法に関する研究	水力学、工業数学、 <u>流体力学</u>
講師	博士 (工学)	川村 壮司	破壊力学	き裂および切欠き材の強度評価パラメ ータ決定手法に関する研究	工作実習 機械工学演習Ⅱ 機械設計製図Ⅰ <u>応力解析特論</u>
講師	博士 (工学)	那須 裕規	機械設計	フレットング摩耗に関する研究	機械製図 機械設計法 <u>トライボロジー</u>
講師	博士 (工学)	加藤 岳仁	エネルギー 工学	環境エネルギー変換素子 に関する研究	機械工学実験Ⅰ <u>熱移動論</u>
助教	博士 (工学)	山崎 敬則	制御工学	工作機械の運動制御 質量の連続測定	工業力学 応用物理 <u>現代制御理論</u>
助教	工学修士	藤井 敬士	熱力学 内燃機関	内燃機関の燃焼解析に関する研究	熱力学 機械製図 機械工学実験Ⅱ

資料 3-1-②-1 : 専門学科の教員の研究分野と担当科目 (2 / 4)

(電気情報工学科:電気電子創造工学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 25 年度 担当科目
教授	工学博士	森 夏樹	固体物理学	高温超伝導の臨界現象	電子工学 量子力学 固体電子論
教授	工学博士 技術士	甲斐 隆章	電力工学	風力発電、太陽光発電の制御方式	電気回路学Ⅱ 電力システム工学 電気エネルギー工学
教授	工学博士	土田 英一	レーザ工学	レーザ加工の高精度化	電子回路Ⅰ・Ⅱ フォトニクス材料 光制御工学
教授	博士 (工学)	小林 幸夫	音響工学	音響工学・画像工学に関する研究	マルチメディア工学 電気回路学Ⅰ 画像情報工学
教授	博士 (工学)	石原 学	情報工学	ネットワークを利用した仮想現実とユーザビリティに関する研究	コンピュータ工学 情報ネットワーク論 ネットワーク構成論
教授	博士 (工学)	千田 正勝	高周波工学	高周波での電磁工学応用技術の研究	電磁波工学 情報通信工学 情報記録工学
准教授	工学修士	今成 一雄	情報工学	高機能情報処理集積回路を応用した教育実習機器の開発・評価	デジタル回路 集積回路設計 人工知能
准教授	工学修士	田中 昭雄	放電工学	放電法を利用したオゾン発生器の高効率化	電子物性 情報デバイス工学 電気材料特論
准教授	博士 (工学)	北野 達也	電力工学	電力平衡/リミットサイクル動作に基づく新エネルギーの制御方式	過渡現象論 電気数学Ⅱ 電機システム制御
准教授	博士 (工学)	鈴木 真ノ介	電磁界 超音波応用	電磁界・超音波を用いた非侵襲電力・情報伝送システムの開発	応用物理 電気磁気学Ⅱ 電気磁気学特論
助教	博士 (工学)	サム アン ラホック	移動ロボット	環境認識に基づく自律移動ロボットのナビゲーション法の開発に関する研究	情報工学Ⅱ 制御工学 電気情報工学実験Ⅰ,Ⅱ
助教	博士 (情報科学)	小林 康浩	情報工学	3次元画像解析システムの高精度化および高速化に関する研究	コンピュータ入門, 電気電子工学演習Ⅰ, 電気電子計測
講師	博士(情報科学)	山田 靖幸	超伝導工学	高温超伝導薄膜の作製およびデバイス応用に関する研究	電子デバイス工学 電気電子工学演習Ⅱ 電気情報工学演習

(電子制御工学科:電気電子創造工学科)

教授	工学博士	小堀 康功	パワエレ関係 アナログ回路	スイッチング電源 モータ駆動回路	制御工学Ⅰ・Ⅱ システム演習Ⅵ
教授	博士 (理学)	渡邊 達男	非線形物理 プラズマ物理	カオス時系列の予測問題	応用物理Ⅲ、Ⅳ 電気回路Ⅲ、Ⅳ
教授		南斉 清巳	情報工学	情報ネットワーク応用システム	ソフトウェア工学Ⅰ、Ⅲ プログラムⅠ、Ⅱ、アセンブラ、計算機応用論
教授	博士 (工学)	久保 和良	計測制御工学 音響工学 電気工学	信号領域の不確定性原理の研究 楽器減衰特性の研究 A B E T 対応可能な技術者教育	システム工学 計測工学Ⅰ 工学システム概論
准教授	工学修士	鹿野 文久	半導体工学 エネルギー工学	太陽光発電システムの高効率化 燃料電池を用いた省エネルギーシステム	電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ 光波応用工学
准教授	博士 (工学)	市村 智康	ロボット工学	接地点情報を用いる三次元ジャイロオドメトリ	情報工学 応用制御工学 情報科学
講師	工学修士	笠原 雅人	制御工学	プロセス系への自動制御の適用	制御工学Ⅲ、計測工学Ⅱ 電子システム工学演習 システム同定論

講師	博士 (工学)	平田 克己	信号処理	音環境認識システムの構築	コンピュータ基礎 プログラム <u>電子制御工学演習</u>
講師	博士 (工学)	大島 心平	高周波工学	高周波フィルタ及びマルチプレクサの研究	電子回路Ⅱ、電気回路Ⅳ 通信工学Ⅰ、デジタル工学 <u>電子回路特論</u>
助教	博士 (工学)	飯島 洋祐	高速伝送	高速デジタル伝送技術の研究 電力モニタリング技術の開発	電磁気学Ⅰ・Ⅱ、電磁工学 <u>電子制御工学基礎Ⅱ</u>

資料 3-1-②-1 : 専門学科の教員の研究分野と担当科目 (3 / 4)

(物質工学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 25 年度 担当科目
教授	博士 (工学)	糸井 康彦	腐食工学	電気化学ノイズ解析法による金属の局部腐食評価に関する研究	金属化学 <u>金属化学特論</u>
教授	理学博士	亀山 雅之	有機合成化学	高選択的な新規炭素-炭素結合生成反応の開発	有機化学Ⅱ・Ⅲ <u>有機合成化学</u>
教授	博士 (農学)	上田 誠	酵素工学 応用微生物	酵素不斉合成	酵素工学 生物有機化学 <u>生物機能化学</u>
准教授	博士 (工学)	武 成祥	金属工学	生体適合プラズマ熔射 HAp コーティングに関する研究	材料工学 <u>腐食工学</u>
准教授	博士 (理学)	酒井 洋	界面化学	気液界面に吸着する界面活性剤の構造評価	物理化学Ⅲ <u>分子構造論</u>
准教授	博士 (農学)	笹沼いづみ	生物化学	生物間でのβ-グルコシダーゼの多様性とその役割	細胞工学 遺伝子工学 食品化学 <u>生命工学</u>
准教授	博士 (工学)	渥美 太郎	固体物理	新規セラミックスの合成と電気的性質の解明	物理化学 化学熱力学 <u>機器分析特論</u>
准教授	博士 (工学)	飯島 道弘	高分子化学	機能性高分子化合物の精密合成と応用	高分子化学 高分子材料 <u>有機材料</u>
准教授	博士 (工学)	田中 孝国	生物化学工学	産業排水の効果的処理法に関する研究	化学工学、 反応工学、 <u>生物化学工学</u>
講師	博士 (学術)	川越 大輔	セラミックス工学	再生医療に向けたバイオセラミックスの作製	無機材料 <u>複合材料</u>
講師	博士 (工学)	西井 圭	有機金属化学	有機金属錯体を用いた材料合成	有機化学Ⅰ 環境化学 <u>触媒化学</u>
助教	博士 (工学)	高屋 朋彰	微生物工学	微生物を利用した有用物質(抗菌成分)の生産に関する研究	微生物工学 生物資源工学 <u>生物素材工学論</u>
助教	博士 (生物資源工学)	加島 敬太	化学工学	生体ポリマーによる高度分離膜の開発	化学工学Ⅱ、分離工学、分析 化学実験、材料化学実験Ⅰ 化学数学、物質工学入門Ⅱ、 生物工学実験Ⅰ

資料 3-1-②-1 : 専門学科の教員の研究分野と担当科目 (4 / 4)

(建築学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 25 年度 担当科目
教授	博士 (工学)	尾立 弘史	建築計画 地域計画	家族の在り方・アクティブシニアと建 築計画 地域施設の建築計画・配置方式	建築計画Ⅰ、創造演習Ⅱ、建 築設計ⅡB、建築意匠、 <u>まち づくり論</u>
教授	工学博士 技術士	中山 昌尚	建築構造	環境振動の評価法 架構のクリープ現象	応用物理Ⅱ、鋼構造 <u>建築合 成構造論</u>
教授	博士 (工学) 技術士	堀 昭夫	建築構造	立体骨組の弾塑性大変形解析、高温崩 壊解析、解析モデルや解析手法の開発	構造設計、創造演習ⅢA、建 築応用力学、創造演習Ⅰ、建 築実験、 <u>プロジェクトデザイ ン</u>
教授	博士 (工学)	橋本 彼路子	建築計画 建築設計	高齢者・障がい者などの住環境整備 住まいのユニバーサルデザイン、被災 地復興支援（被災地の暮らし調査、建 築計画の提案）	インテリアデザイン、建築設 計ⅠA、建築計画ⅠA、福祉住 環境、 <u>地域設計Ⅰ、バリアフ リーデザイン論</u>
教授	工学士	川上 勝弥	材料・施工	溶融スラグ骨材のコンクリートへの有 効利用	建築材料、建築施工、木構 造、建築実験、 <u>建築高機能材 料工学、環境技術</u>
准教授	博士 (工学)	佐藤 篤史	建築環境工学 建築設備	居住者の住まい方が室内環境形成に及 ぼす影響について（熱環境・空気環 境）	建築環境工学Ⅰ・Ⅱ、建築設 備、 <u>設備システム論、環境デザイ ン論</u>
准教授	博士 (工学)	大島 隆一	建築構法計画	建材、建築部品、建築構法に関する性 能等の研究	創造演習Ⅰ、建築構造システ ム、創造演習Ⅱ、創造演習 ⅢIA、 <u>建築CAD・CG</u>
准教授	博士 (工学)	本多 良政	建築構造学	RC 造建物の耐震性能、RC 造有開 口耐震壁の耐震性能	建築構造力学Ⅰ、建築構造力 学演習、応用物理Ⅱ、建築実 験、 <u>合成構造論、建築耐震設 計論</u>
准教授	博士 (工学)	豊川 斎赫	建築計画	建築意匠、伝建地区のデザイン、市民 参加型まちづくり	設計製図ⅡA、 <u>地域設計Ⅱ</u> 、 現代建築論、 <u>文化財保存論</u>
講師	博士 (工学)	横内 基	建築構造学	歴史的建造物の耐震性能 歴史的町並みの総合防災	建築構造計画、建築実験、建 築構造力学Ⅲ、構造力学演 習、建築概論、木構造
助教	修士 (家政学)	永峰麻衣子	建築計画 建築設計	建築計画、環境心理学、建築設計	建築意匠、建築設計ⅠA、イン テリアデザイン、創造演習 ⅠIB 建築設計ⅠA
嘱託 教授	博士 (工学)	高橋 純一	建築構造学	建築構造物の地震時特性 地震動特性、都市防災	建築構造力学Ⅱ、鉄筋コンク リート構造、建築耐震構造、 <u>都市防災論、建築構造解析学</u>

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-②-2 : 専門科目非常勤講師の配置

教員（非常勤講師）の研究分野と担当科目

（機械工学科）

学位等	氏名	専門分野	本務先	平成25年度担当科目
博士(工学)	橋本 誠 司	制御工学	群馬大学大学院工学研究科准教授	応用物理 応用物理 I
修士	安ヶ平 和 一	流体工学	元宇都宮大学工学部助教	流体機械
博士	山城 光 雄	生産システム工学 粉粒体工学	足利工業大学教授	生産工学 生産システム工学
工学博士	菊地 吉 郎		小山工業高等専門学校名誉教授	熱機関
博士(工学)	神村 一 幸	空調設備の計測・制御 エネルギー工学		計測工学
博士(工学)	堀 三 計		筑波大学研究基盤総合センター准教授	技術論

（電気電子創造工学科）

学位等	氏名	専門分野	本務先	平成25年度担当科目
学士	佐藤 広 人		(株)高岳製作所小山工場	高電圧工学
学士	栗原 二三夫		(株)高岳製作所小山工場	電気材料
博士(工学)	荻窪 光 慈	電子工作 電子回路 電子材料	埼玉大学教育学部技術教育講座准教授	物性工学 量子工学
技術士(機械部門)	金子 聞 司	ディーゼル機関設計・試験・評価 エネルギー使用の合理化	金子技術士事務所代表	制御工学IV システム演習IV
理学修士	齋藤 智	素粒子論 宇宙論	学習塾教育指導研究会講師 外	応用物理 応用物理 I 応用物理 II
博士(工学)	落合 政 司	パワーエレクトロニクス	サンケン電気株式会社技術本部技師長	電子回路 I 電子工学 II
工学修士	久芳 頼 正		足利工業大学准教授	数値計算法
博士(工学)	森 大 毅	音声言語情報処理	宇都宮大学大学院工学研究科准教授	情報工学IV
修士	稲葉 雄 一		(株)高岳製作所小山工場	電気法規
修士	D.R.ヤズダニ		ニューデースクール専任講師	インテンシブイングリッシュ
修士(教育学)	小野 雄 一	英語学 教育工学 e-learning	筑波大学大学院人文社会科学研究科助教	インテンシブイングリッシュ
	田中 隆 治	異文化理解教育	日本工業大学英語教育センター准教授	インテンシブイングリッシュ
修士	NGUYEN VAN TRIET		筑波大学大学院博士後期課程在籍	インテンシブイングリッシュ
Ph.D in Humanities and Social Sciences (Linguistics)	KUMARI NIVEDITA		筑波大学外国語センター非常勤講師	インテンシブイングリッシュ
Ph.D in International Studies	PRAMILA NEUPANE		筑波大学外国語センター非常勤講師	インテンシブイングリッシュ
	八津谷 マリアフェ		ニューデースクール専任講師	インテンシブイングリッシュ

（物質工学科）

学位等	氏名	専門分野	本務先	平成25年度担当科目
学士	猪瀬 善 郊		小山工業高等専門学校名誉教授	工学概論
修士(農学)	横田 正 仁	分子生物学 微生物学 化学	埼玉県立高等学校非常勤講師	基礎科学 化学演習 I 生物資源工学
工学博士	吉田 裕 志	化学工学	小山工業高等専門学校名誉教授	プロセス工学
博士(理学)	塚原 啓 太	生物環境修復学	国立環境研究所准特別研究員	細胞工学

（建築学科）

学位等	氏名	専門分野	本務先	平成25年度担当科目
一級建築士 工学修士	羽鳥 芳 之	建築設計	羽鳥芳之建築設計事務所所長	建築計画Ⅲ
一級建築士	岡田 豊 子		岡田建築設計事務所専務取締役	建築法規
修士	稲益 祐 太	西洋建築史・都市史	法政大学研究開発センター研究補助者	建築史
一級建築士	米野 雅 之		スタジオ ア・ノード一級建築士事務所 主宰	福祉住環境 創造演習ⅢB
一級建築士	慶野 正 司	建築設計	アトリエ慶野正司所長	建築設計ⅠB 創造演習Ⅱ
測量士	永盛 宏 文			建築測量

(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-②-3：技術士等技術関係資格者

専門知識に関する資格を有する教員（平成26年3月）

資格名	技術士	1級建築士	1種情報処理技術者
人数	4	6	3
所属学科	機械工学科 電気電子創造工学科 建築学科	建築学科	一般科 電気電子創造工学科

（出典：総務課人事係資料）

資料3-1-③-1：教員の企業経験年数

一 般 科 (22名)			電 気 電 子 創 造 工 学 科 (23名)				
		企業経験年数	電 気 情 報 工 学 科 (13名)			電 子 制 御 工 学 科 (10名)	
					企業経験年数		
柴田 美由紀							
宮城 信			土田 英一			小堀 康功	28
酒入 陽子			小林 幸夫	8		渡邊 達男	
上野 哲			甲斐 隆章	28		南齊 清巳	0.25
佐藤 巖			石原 学			久保 和良	3
伊藤 益生	1.83		千田 正勝	19		鹿野 文久	
須甲 克也			田中 昭雄			市村 智康	
中川 英則			今成 一雄			笠原 雅人	
岡田 崇			北野 達也	2		平田 克己	
阿部 弘樹			鈴木 真ノ介			大島 心平	11
小笠原 健			山田 靖幸			飯島 洋祐	4
柴田 洋一			小林 康浩	5		経験者数	5
上村 孝			サム アン ラホック				
森下 佳代子	2		森 夏樹				
三原 大介			経験者数	5			
長田 朋樹							
有坂 顕二			物 質 工 学 科 (13名)			建 築 学 科 (12名)	
山西 敏博	0.33			企業経験年数			企業経験年数
杉山 桂子	2		糸井 康彦	2		尾立 弘史	
有坂 夏菜子			亀山 雅之			川上 勝弥	
関根 健雄			上田 誠	27.5		中山 昌尚	27.83
岡田 晃	4.08		武 成祥	1		堀 昭夫	29
経験者数	5		笹沼 いづみ			橋本 彼路子	22.08
			渥美 太郎			佐藤 篤史	
機 械 工 学 科 (12名)			酒井 洋			大島 隆一	
	企業経験年数		飯島 道弘	1.5		本多 良政	7
田中 好一			田中 孝国	3.83		豊川 斎赫	5.58
朱 勤			川越 大輔			横内 基	8.5
鈴木 栄二			西井 圭	5		永峰 麻衣子	9.67
山下 進			高屋 朋彰			高橋 純一	
伊澤 悟			加島 敬太			経験者数	7
北條 恵司	6.92		経験者数	6			
増淵 寿	2						
川村 壮司							
加藤 岳仁	5.42						
那須 裕規							
藤井 敬士	37						
山崎 敬則							
経験者数	4						

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-③-2 : 長期海外教育研究経験者

独立行政法人国立高等専門学校機構「在外研究員」派遣状況一覧

平成 17 年度

氏名	所属	職名	滞在国内	受入研究機関	派遣期間	備考
亀山 雅之	物質工学科	助教授	アメリカ合衆国	ピッツバーグ大学	H18. 3. 26 ～ H18. 10. 1	

平成 20 年度

氏名	所属	職名	滞在国内	受入研究機関	派遣期間	備考
奥富 利幸	建築学科	准教授	アメリカ合衆国	カリフォルニア大学 バークレー校	H21. 3. 29 ～ H22. 3. 25	

平成 23 年度

氏名	所属	職名	滞在国内	受入研究機関	派遣期間	備考
市村 智康	電子制御工 学科	講師	アメリカ	イリノイ大学シカゴ校	H23. 9. 6 ～ H24. 9. 3	

平成 24 年度

氏名	所属	職名	滞在国内	受入研究機関	派遣期間	備考
飯島 道弘	物質工学科	准教授	アメリカ	アラバマ大学 ハンツビル校	H24. 8. 20 ～ 24. 12. 21	区分 A

平成 25 年度

氏名	所属	職名	滞在国内	受入研究機関	派遣期間	備考
高屋 朋彰	物質工学科	助教	香港	香港 VTC	H25. 9. 1 ～ H25. 11. 29	区分 B

長期海外勤務経験者

- 亀山 雅之 オタワ大学 (カナダ) 博士研究員 (昭和 63 年 7 月～平成 2 年 3 月)
- 鈴木 栄二 米国イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校客員研究員 (平成 3 年 12 月～平成 5 年 3 月)
- 酒入 陽子 慶應義塾ニューヨーク学院高等部教諭 (平成 13 年 2 月～平成 17 年 3 月)
- 市村 智康 イリノイ州立大学 (アメリカ) 研究員 (平成 13 年 7 月～平成 14 年 8 月)
- 本多 良政 青年海外協力隊 建築隊員 ブータン王国学校計画建築課 (平成 13 年 7 月～平成 15 年 7 月)
- 岡田 崇 マックスプランク数学研究所 (ドイツ) 客員研究員 (平成 18 年 9 月～平成 19 年 10 月)
フランス高等科学研究所客員研究員 (平成 19 年 12 月～平成 20 年 2 月)
オーストラリア国立大学 助手 (平成 20 年 5 月～平成 21 年 4 月)
- 永峰麻衣子 オランダ設計事務所 MVRDV (平成 11 年 12 月～平成 12 年 7 月)
オランダ ユトレヒト大学客員研究員 (平成 15 年 5 月～平成 15 年 11 月)

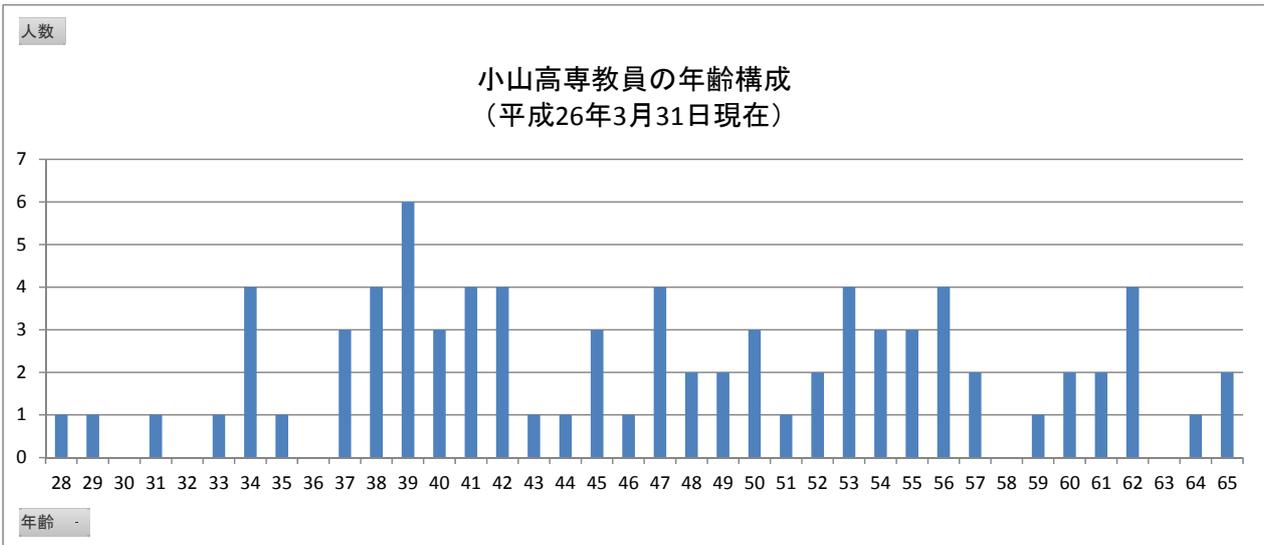
(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-③-3：教員の国際学会での発表（平成25年度）

25	小山	1	アメリカ合衆国	25	4	6	～	25	4	10	Hilton Riverside Hotel (245th ACS)	飯島 道弘
	小山	1	トルコ	25	5	12	～	25	5	19	Wow Hotel Istanbul (IEEE Powereng 2013)	小堀 康功
	小山	1	アメリカ合衆国	25	7	22	～	25	7	28	Mirage Hotel (HCI International 2013)	石原 学
	小山	1	シンガポール	25	8	23	～	25	8	28	Hotel Fort Conning (PEEE2013)	小堀 康功
	小山	1	アメリカ合衆国	25	10	27	～	25	11	2	Hilton San Francisco Hotel (国際電気化学会議)	武 成祥
	小山	1	インドネシア	25	11	19	～	25	11	23	バリ島 Grand Inna Bea (ICCE2013)	石原 学
	小山	1	台湾(中華民国)	25	11	20	～	25	11	21	Sheraton Grande Taipei Hotel	山崎 敬則
	小山	1	オーストラリア	25	12	4	～	25	12	10	メルボルン大学 (南太平洋州教育哲学会)	上野 哲
	小山	1	オーストラリア	25	12	6	～	25	12	11	Rydges Bankstown (ICLL2013)	岡田 晃
	小山	1	アメリカ合衆国	26	1	10	～	26	1	13	ワイキキビーチマリOTTア ンドスパ (Hawaii International)	岡田 晃
	小山	1	アメリカ合衆国	26	1	16	～	26	1	20	ボルチモアコンベンションセ ンター (AMS Special Session)	佐藤 巖
	小山	1	南アフリカ	26	2	1	～	26	2	8	ラグーンビーチホテル (IMEKO)	山崎 敬則

(出典：総務課総務係資料)

資料3-1-④-1：教員の年齢構成



(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-④-2 : 教員公募の例 (H25年度)

機械工学科教員募集

公募人員	准教授、講師または助教1名
所属学科	機械工学科
専門分野	メカトロニクス、計測および工業力学等の関連分野
担当科目	機械工学基礎、工業力学Ⅰ、応用物理、メカトロニクス実験、数理工学、システムデザイン、機械工学演習、現代制御理論、卒業研究など
応募資格	1) 博士の学位を有する方、またはこれと同等(たとえば技術士資格保有)以上の教育研究能力を有する方 (いずれの場合も採用予定日までに確実に取得できる方を含む) 2) 高等専門学校の教育・学生指導、及び研究に熱意のある方 3) 企業での経験があればより望ましい
採用予定年月日	平成26年4月1日
提出書類	(1) 履歴書(写真添付) (様式3) (2) 研究論文・著書・作品等一覧(様式4) (3) 高専における研究についての抱負(様式5) (4) 研究論文・著書・作品等の概要(様式6) (5) 研究論文・著書の別刷(コピー可) (6) 教育業績一覧及び高専における教育についての抱負(様式7) (7) 学生等指導歴一覧及び高専における学生指導についての抱負(様式8) (8) 地域貢献活動歴一覧及び高専における地域貢献活動についての抱負(様式9) (9) 専門関連業績等一覧(様式10) ※記入要領は こちら 応募書類については、必ず指定様式にてご提出ください。指定様式以外での応募は受付できません。指定様式は、上記リンクからダウンロードしてご使用ください。
応募締切	平成26年1月24日(金) 必着
選考方法	一次選考 書類審査 二次選考 面接等(ご自分の専門分野について、10分程度のプレゼンテーションを実施していただきます) ※面接予定日:平成26年2月6日(木)
書類の提出先	〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜771 小山工業高等専門学校総務課人事係 宛 (郵送の場合は簡易書留で、封筒に「機械工学科 教員応募」と朱書すること) ※応募書類は、原則として返却しませんが、特に返却を希望する場合は、返信用封筒を同封してください。
問い合わせ先	応募に関して不明な点については、郵便、電話又はメールで照会してください。 照会先 小山工業高等専門学校機械工学科 学科長 鈴木 栄二 電話 0285-20-2203(直通) E-mail e-suzuki@oyama-ct.ac.jp ※不在の場合は、総務課人事係まで照会してください。 電話 0285-20-2116(人事係直通) E-mail jinji@oyama-ct.ac.jp
その他	独立行政法人国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校では、男女共同参画を推進しており、業績(教育業績、研究業績、社会的貢献、人物を含む)の評価において同等と認められる場合には、女性を優先的に採用します。

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-④-3 : 採用時(助教)の平均年齢

採用時(助教)の平均年齢

H24年度採用者(助教)		
採用日	学科	採用時年齢
24.4.1	電気情報工学科	32
24.4.1	電子制御工学科	31
24.9.1	機械工学科	33
	平均年齢	32
H25年度採用者(助教)		
採用日	学科	採用時年齢
25.4.1	機械工学科	61
25.4.1	物質工学科	27
25.4.1	建築学科	39
	平均年齢	42.3

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-④-4 : 教員公募の実施状況

平成 20 年度以降教員の公募状況

平成 20 年度採用者	2 名 (平成 19 年度退職教員 2 名の欠員補充に伴う教員公募 2 件)
平成 21 年度採用者	5 名 (平成 20 年度退職教員 5 名の欠員補充に伴う教員公募 5 件)
平成 22 年度採用者	10 名 (平成 21 年度退職教員 10 名の欠員補充に伴う教員公募 9 件)
平成 23 年度採用者	4 名 (平成 22 年度退職教員 4 名の欠員補充に伴う教員公募 5 件)
平成 24 年度採用者	9 名 (平成 23 年度退職教員 9 名の欠員補充に伴う教員公募 9 件)
平成 25 年度採用者	7 名 (平成 24 年度退職教員 7 名の欠員補充に伴う教員公募 6 件)

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-④-5 : 小山高専教員表彰規則

小山工業高等専門学校教員表彰規則

制 定 平成 23 年 4 月 1 日
一部改正 平成 23 年 9 月 14 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員で教育、研究、学生指導及び地域連携等に関して、特に顕著な功績を挙げた者を表彰するため定めるものである。

(表彰対象者)

第 2 条 表彰対象者は、全教員とする。但し、第 5 条に規定する表彰選考委員会委員は除くものとする。

(表彰対象分野)

第 3 条 表彰対象分野は、次の各号の一に掲げるものとする。

- (1) 「教 育」分野：教育活動に顕著な功績があった者
- (2) 「研 究」分野：研究活動に顕著な功績があった者
- (3) 「学生指導」分野：学生指導に顕著な功績があった者
- (4) 「地域連携」分野：地域社会等の発展に顕著な功績があった者
- (5) 「その他」：特に顕著な功績があったと認められる者

(表彰候補者の推薦)

第 4 条 表彰候補者の推薦は、各表彰対象分野毎に次の各号に掲げる者を推薦者とし、別紙様式 1 により校長宛推薦するものとする。

- (1) 「教 育」分野：副校長（教務主事）、副校長（学生主事）、副校長（寮務主事）
- (2) 「研 究」分野：副校長（総務主事）、副校長（教務主事）、専攻科長
- (3) 「学生指導」分野：副校長（学生主事）、副校長（寮務主事）
- (4) 「地域連携」分野：副校長（総務主事）、地域連携共同開発センター長
- (5) 「その他」：副校長（総務主事）、副校長（教務主事）、事務部長

2 表彰候補者の推薦者数は、各分野 1 名とは限らないものとする。

3 国立高等専門学校機構が実施する「国立高等専門学校教員顕彰」へ推薦された教員は、表彰候補者とするものとする。

(表彰選考委員会)

第 5 条 表彰選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、校長を委員長とする。

- (1) 校長
- (2) 各副校長
- (3) 専攻科長
- (4) 地域連携共同開発センター長
- (5) 事務部長

(被表彰者の選考)

第 6 条 校長は、第 4 条により推薦された表彰候補者について、表彰選考委員会の議を経て決定するものとする。

(表彰の時期)

第 7 条 表彰は 7 月末日までに行うものとする。

(表彰の条件)

第 8 条 表彰は、各表彰対象分野毎に原則 1 名とし、各年度原則 5 名以内とする。

2 同一年度における同一教員の複数分野の表彰は行わないものとする。

3 本規則により受賞歴のある教員にあっては、受賞次年度から 3 年間は同一分野の表彰は行わないものとする。

(表彰)

第 9 条 表彰は、校長が別紙様式 2 による表彰状を授与することにより行う。なお、副賞として教育研究経費 20 万円の配分をすることができる。

(事務)

第 10 条 表彰に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第 11 条 この規則に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-④-6：小山高専教員表彰規則による表彰の実績

教員の表彰については、平成22年度まで、高専機構が行う教員顕彰の実施結果を基に、本校教員表彰規則に基づく教員表彰選考委員会を開催し、表彰を受ける者を決定していたが、平成23年度以降は、小山高専教員表彰規則に基づき、被表彰者を決定している。

(高専機構が行う教員顕彰への推薦者)

平成22年度 一般部門：田中昭雄 若手部門：田中孝国
 平成23年度 一般部門：田中昭雄 若手部門：大島隆一
 平成24年度 一般部門：田中昭雄 若手部門：大島隆一
 平成25年度 一般部門：伊澤 悟 若手部門：平田克己

(本校規則に基づき表彰を受けた者)

平成22年度 田中孝国
 平成23年度 教育分野：田中昭雄 研究分野：鈴木真ノ介 学生指導分野：大島隆一
 地域連携分野：山下 進 その他：井上次夫
 平成24年度 教育分野：伊澤 悟 研究分野：森下佳代子 学生指導分野：須甲克也
 学生指導分野：川越大輔 地域連携分野：飯島道弘
 平成25年度 教育分野：上野 哲 研究分野：西井 圭 学生指導分野：田中昭雄
 地域連携分野：平田克己 その他：武 成祥

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-①-1：校長面談の実施について(その1)

校長面談の実施について

平成25年5月14日

教員各位

校 長

教員各位との個別面談の実施について（依頼）

標記のことについて、下記により実施しますので、ご理解・ご協力をお願いします。

記

1 目的

各教員が、教育活動、研究活動、校務活動等について、どのように行い、今後どのようにしていきたいかなどについて、個別に聴取し、教員のモチベーションの涵養や今後の配置、学校運営などについての検討資料とする。

2 方法

- 1) 各教員は別紙の「個別面談表」に必要事項を記載し、5月29日（水）までに総務課人事係へ提出すること。
- 2) 個別面談は、おおむね15分間とし、面談の日程は、人事係と調整の上、決定する。
- 3) 面談にあたって、前述の「個別面談表」及び5月初旬に提出された「研究業績」を参考資料とする。

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-2-①-1 : 校長面談の実施について(その 2)

教員と校長との面談日程(抜粋)

平成25年度 教員と校長との面談日程											
											H25.6.17現在
平成25年6月3日(月)			平成25年6月4日(火)			平成25年6月5日(水)			平成25年6月10日(月)		
						特別時間割			特別時間割		
10:00	10:15		10:00	10:15	小林(康)	10:00	10:15	笠原	10:00	10:15	
10:15	10:30		10:15	10:30	ラホック	10:15	10:30	平田	10:15	10:30	
10:30	10:45		10:30	10:45	鈴木(真)	10:30	10:45		10:30	10:45	
10:45	11:00		10:45	11:00		10:45	11:00		10:45	11:00	
11:00	11:15		11:00	11:15		11:00	11:15	飯島(洋)	11:00	11:15	川越
11:15	11:30		11:15	11:30		11:15	11:30	大島(心)	11:15	11:30	笹沼
11:30	11:45		11:30	11:45		11:30	11:45		11:30	11:45	鹿野
13:10	13:25	小林(幸)	13:10	13:25	土田	13:10	13:25	久保	13:10	13:25	小堀
13:25	13:40	石原	13:25	13:40	北野	13:25	13:40		13:25	13:40	渡邊
13:40	13:55	今成	13:40	13:55	有坂(夏)	13:40	13:55	市村	13:40	13:55	南青
13:55	14:10	田中(昭)	13:55	14:10		13:55	14:10		13:55	14:10	
14:10	14:25		14:10	14:25		14:10	14:25		14:10	14:25	田中(孝)
14:25	14:40		14:25	14:40		14:25	14:40		14:25	14:40	
14:40	14:55		14:40	14:55		14:40	14:55		14:40	14:55	
14:55	15:10		14:55	15:10		14:55	15:10		14:55	15:10	
15:10	15:25		15:10	15:25	甲斐	15:10	15:25		15:10	15:25	
15:25	15:40		15:25	15:40	千田	15:25	15:40		15:25	15:40	
15:40	15:55		15:40	15:55	山田	15:40	15:55		15:40	15:55	
15:55	16:10		15:55	16:10		15:55	16:10		15:55	16:10	
16:10	16:25		16:10	16:25		16:10	16:25		16:10	16:25	総務会議
16:25	16:40		16:25	16:40		16:25	16:40		16:25	16:40	
16:40	16:55		16:40	16:55		16:40	16:55		16:40	16:55	

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-2-①-2 : 教育改善推進室規程

制 定 平成16年11月1日
最終制定 平成22年 4月1日

(設置の目的)

第1条 教育の改善活動に対して組織的・継続的に支援し、教授方法の改善・向上を促進することを目的として、小山工業高等専門学校教育改善推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(組織)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事補
- 二 教務委員若干名
- 三 その他校長が必要と認めたる者

2 室員は、校長が任命する。

3 第1項各号の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

4 推進室に室長を置き、教務主事補をもって充てる。

(任務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育方法の評価と改善に関する事。
- 二 教育技術の向上に関する事。
- 三 研修に関する事。
- 四 教育貢献評価方法の調査研究に関する事。
- 五 カリキュラム改革に関する事。
- 六 その他教育改善の推進に関する事。

(事務)

第4条 推進室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、推進室が別に定める。

(出典：小山高専HP)

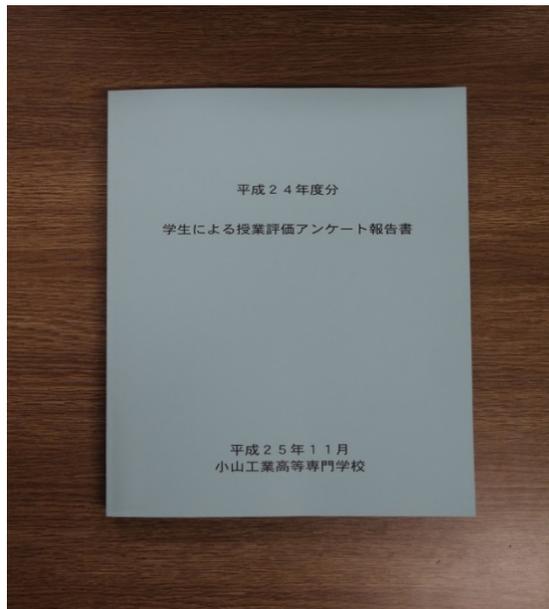
資料3-2-①-3 : 教育改善推進室活動記録

教育改善推進室 活動状況 (H25年度)

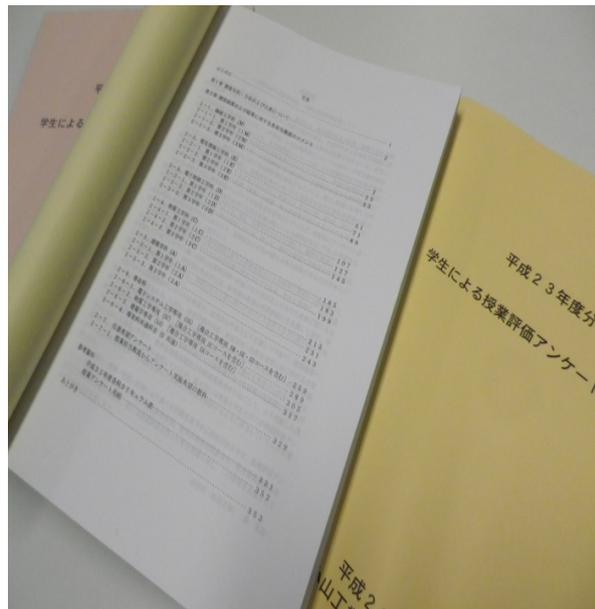
H 2 5 (2013) 年度	学生による評価 1 学生による授業評価アンケートの実施 4・5年生及び専攻科生を対象に（低学年は希望による）、1月に実施、業者によるマークシート集計作業を経て、教員に戻しコメント記入。業者による入力作業対応。 2 前年度分授業評価アンケートの編集と配付。 前年度分の冊子編集作業と年度内の担任・学内関係者への配付。
	同僚による評価と自己見学研修 1 授業公開の実施（教員への通知日：11月20日） 実施：12月11日（水）～12月17日（火）報告書締切：1月15日（水）
	教員自身による自己点検 1 授業実施記録の提出 依頼日：2月6日、提出締切：3月末 2 FDアクションレポートの提出 依頼日：2月6日、提出締切：3月末
	校内研修会 1 FD講演会の実施（11月27日（水）15：00～17：00、視聴覚室） 講師：京都教育大学 准教授 谷口和成 題名：相互作用型授業の意義と方法
	その他 1 次年度シラバスの作成依頼 依頼日：2月5日 HP掲載締切：3月末 2 会議 教務委員会〔教育改善推進関係〕（主だった検討内容等） ・6月教務委員会：教育改善に関する各種取組の再構成について、議論・検討を行った。 ・12月教務委員会：平成26年度用シラバスの記入内容とシラバスチェック方法について検討を行い、書式を作成した。 ・2月教務委員会：FDアクションレポートの様式を、様々な改善点について記述できるよう改訂した。

(出典：教育改善推進室資料)

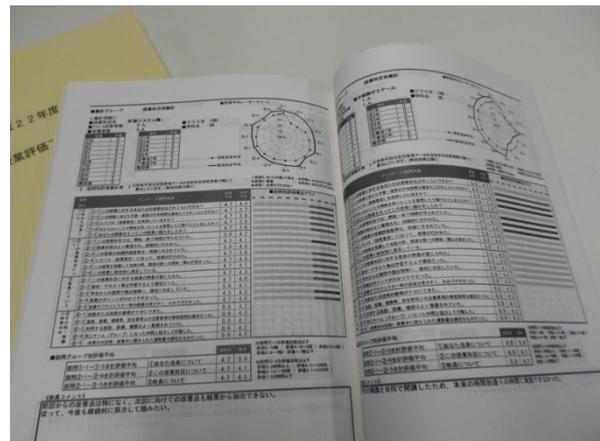
資料3-2-①-4：学生による授業評価アンケート報告書



報告書表紙（平成25年度）



報告書目次（平成22年度の例示）



専攻科目目の例示（H23年度）



本科科目目の例示（H25年度）

（出典：平成22～25年度 学生による授業評価アンケート報告書）

資料3-2-①-5：教員の教育業績等の自己評価（一部）（1/2）

教員の教育業績等の自己評価

第1部 経歴、教育業績、学校運営等に係る評価

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は5年間の平均値を基に記入して下さい。
- (2) 着任後5年未満の教員は、その年数の平均値を基に記入して下さい。
- (3) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
- (4) 小数点が出るような場合、小数点以下を四捨五入して下さい。

配点

A. 授業等の担当

[49]

1. 授業について【評価点の和が6点を超える場合は6点とする。】

[6]

- (1) 週当たりの授業単位時間数はどれだけですか？最近5年間の平均値で答えて下さい。
(1単位時間；約50分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。)
- 1) 17単位時間以上：[4点]
 - 2) 15～16単位時間以上：[3点]
 - 3) 12～14単位時間：[2点]
 - 4) 11単位時間以下：[1点]
- (2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？（不定期に実施しているものを含む。）
- 1) 進学・就職希望者、資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：[3点]
 - 2) 進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：[2点]
 - 3) 達成度の低い学生についてのみ実施している：[2点]
 - 4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているため、補習授業は行っていない：[1点]
 - 5) 補習授業をまったく考えていない：[0点]

2. 授業内容・方法

[11]

- (1) シラバスはありますか？また、有効に利用していますか？
- 1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している：[3点]
 - 2) シラバスはあり、およその目安としている：[2点]
 - 3) シラバスはあるが、あまり利用していない：[1点]
 - 4) シラバスはまだ作成配布していない：[0点]
- (2) 教科書及び参考書は使用していますか？
- 1) 自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：[3点]
 - 2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：[2点]
 - 3) 自分で作った教材を用いるので、教科書・参考書は使用していない：[2点]
 - 4) 標準的な教科書あるいは参考書を使用している：[1点]
- (3) 教育方法の工夫
- 1) グループ学習、ディスカッションなど新しい教育方法を実践している：[3点]
 - 2) 一方的な授業ではなく、双方向型の授業になるように工夫している：[2点]
 - 3) 通常の講義形式で授業を行っている：[1点]
- (4) 学生による評価の取り入れ
- 1) 授業の中で学生が学習到達度を自己点検できるような工夫をしている：[2点]

資料3-2-①-5：教員の教育業績等の自己評価（一部）（2/2）

評 価 集 計 表

学校名：_____ 高専 _____ 学科：_____ 科 _____

氏名：_____

第1部

（注）各項目内の小数字は満点を示す。A. 5～6を除く場合は合計153点。

A. 授業等の担当

1. 授業について

(1)	3	(2)	3	計	6
-----	---	-----	---	---	---

2. 授業内容・方法

(1)	3	(2)	3	(3)	3	(4)	2	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

3. 成績評価

(1)	3	(2)	3	(3)	3	計	9
-----	---	-----	---	-----	---	---	---

4. 授業に関連する指導

(1)	3	(2)	3	計	6
-----	---	-----	---	---	---

5. 卒業論文指導の状況等

(1)	2	(2)	3	(3)	3	(4)	3	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

6. 留学生の指導等

(1)	2	(2)	2	(3)	2	計	6
-----	---	-----	---	-----	---	---	---

Aの合計	49
------	----

B. FD活動，地域貢献

1	10	2	10	3	12	4	8	Bの合計	40
---	----	---	----	---	----	---	---	------	----

C. 学生生活指導

1. 課外活動

(1)	2	(2)	8	(3)	2	(4)	2	計	14
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

2. 厚生補導

(1)	2	(2)	2	(3)	3	(4)	6	計	19
		(5)	2	(6)	4				

3. 進路指導及び学外活動

(1)	2	(2)	2	(3)	2	(4)	2	計	8
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	---

Cの合計	41
------	----

D. 経歴関係

1	5	2	5	3	20	4	10	Dの合計	40
---	---	---	---	---	----	---	----	------	----

集 計 表

A	49	B	40	C	41	D	40	合 計	170
---	----	---	----	---	----	---	----	-----	-----

（出典：総務課人事係資料）

資料3-2-①-6：自己評価書提出実績

教員の教育業績等の自己評価（平成25年度）

	教員 数	教 育 業 績			研 究 業 績			合計点
		提出者数	提出率	点数	提出者数	提出率	点数	
	人	人	%	(70点満点) (提出者の平均点)	人	%	(30点満点) (提出者の平均点)	(100点満点) (平均点)
一般科	20	14	70	43	19	95	5	48
機械工学科	12	8	67	45	11	92	5	50
電気情報工学科	12	11	92	54	12	100	7	61
電子制御工学科	10	8	80	52	9	90	8	60
物質工学科	13	12	92	47	13	100	7	54
建築学科	11	8	73	44	11	100	3	47
合計	78	61	78	47	75	96	6	53

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-1：人事委員会規程

制 定 平成16年4月1日
最終改正 平成22年4月1日

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、教職員の採用及び配置計画等を円滑に進めるため、小山工業高等専門学校人事委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(任務)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 教職員の採用に係る基本方針に関すること。
- 二 人事評価の方針及び基準に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副校長（総務主事）、副校長（教務主事）、副校長（学生主事）及び副校長（寮務主事）
- 二 各学科長
- 三 事務部長、総務課長
- 四 その他校長が必要と認めた者

2 前項第4号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員会に、専門の事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

第4条 委員会に委員長を置き、副校長（総務主事）をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、議長となる。

3 委員会に副委員長を置き、副校長（教務主事）をもって充てる。

第5条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者に所掌事項について説明を求めることができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、総務課人事係が行う。

(出典：小山高専HP)

資料 3-2-②-2 : 小山高専教員選考規則

小山工業高等専門学校教員選考規則

制 定 平成 14 年 3 月 13 日
 最終改正 平成 25 年 6 月 12 日

(趣旨)

第 1 条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)の教員の選考は、高等専門学校設置基準(昭和 36 年 8 月 30 日 文部省令第 23 号)によるもののほか、この規則に定めるところによる。

(定義)

第 2 条 この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第 3 条第 2 号に掲げる者をいう。
 2 この規則において「選考」とは、教員の採用、昇任及び配置換をいう。

(公募の原則)

第 3 条 前条第 2 項に規定する採用の選考は原則として公募とする。

(申し出)

第 4 条 学科長は、教員選考の必要が生じた場合は、校長に申し出るものとする。

(選考委員会の設置)

第 5 条 校長は、第 4 条に掲げる申し出があったときは、速やかに教員選考委員会(以下「選考委員会」という。)を設置するものとする。

(選考委員会の構成)

第 6 条 選考委員会の構成は、次のとおりとする。

- 一 校長
- 二 副校長(教務主事)
- 三 副校長(学生主事)
- 四 選考を行おうとする学科長 1 名
- 五 選考を行おうとする学科の教授又は選考しようとする専門分野の教授 2 名
- 六 その他校長が必要と認めたもの

2 講師、助教又は助手を選考する場合において、校長が必要と認める時には、前項第 5 号に定める教授を教授又は准教授と読み替えることができる。

3 選考委員会は、選考を行おうとする学科毎に設置するものとする。

4 昇任及び配置換に関する選考委員会の構成については、第 1 項の構成委員に、副校長(総務主事)を加えるものとする。

(委員長)

第 7 条 選考委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

(任務)

第 8 条 選考委員会は、次の事項を処理する。

- 一 公募に関すること。
 - 二 候補者の審査に関すること。
- 2 選考委員会は、別に定める「小山工業高等専門学校教員の選考に関する審査要領」に基づき、審査を行う。

(候補者の決定)

第 9 条 校長は、選考委員会の審査結果に基づき、採用等候補者を決定する。

(審査の基準)

第 10 条 審査の基準は、次によるものとする。

- 一 選考される者の資格が、高等専門学校設置基準に定める教員の資格を有していること。
- 二 本校の教育、研究に強い意欲があること。
- 三 学生の指導に理解と情熱があること。
- 四 その他選考委員会が必要と認めること。

(事務)

第 11 条 選考委員会の事務は、総務課において処理する。

(その他)

第 12 条 この規則に定めるもののほか、選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成 25 年 6 月 12 日から施行する。
- 2 小山工業高等専門学校教員選考委員会規程(平成 14 年 3 月 13 日制定)は廃止する。

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-2-②-3 : 教育業績一覧及び高専における教育についての抱負

様式 7

教育業績一覧及び高専における教育についての抱負

期 間		事 項		備 考
学校・会社・地域等における教職歴・教育歴				
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
(高専における教育についての抱負)				

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-2-②-4 : 学生等指導歴一覧及び高専における学生指導についての抱負

様式 8

学生等指導歴一覧及び高専における学生指導についての抱負

期 間		事 項		備 考
学校・会社・地域等における学生等指導歴				
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
自：平成	年 月 日			
至：平成	年 月 日			
(高専における学生指導についての抱負)				

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-5：地域貢献活動歴一覧及び高専における地域貢献活動についての抱負

様式9

地域貢献活動歴一覧及び高専における地域貢献活動についての抱負

		学科名	申請職名
		氏名	
区分	番号	事項	
地域貢献活動 (過去5年間の実績について記入)	1		
	2		
(高専における地域貢献活動についての抱負)			

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-6：専門関連業績等一覧

様式10

専門関連業績等一覧

		学科名	申請職名
		氏名	
区分	番号	事項	
科研費等外部資金 獲得状況 (過去10年間の実績について記入)	1		
	2		
特許	1		
	2		
意匠登録	1		
	2		
各賞受賞歴	1		
	2		
その他	1		
	2		

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-7：小山工業高等専門学校非常勤講師任用の基準

制 定 昭和54年11月24日
最終改正 平成23年 1月 1日

(趣旨)

1 非常勤講師の任用については、教育効果の向上と適切な人事管理を図るため、この基準の定めるところによる。

(任用基準)

2 非常勤講師は、すぐれた識見をもち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者で、次の各号に該当する者とする。

- 一 高等専門学校講師となる資格を有していること。
- 二 任用期間中において満69才以下であること。
- 三 心身共に健全であること。
- 四 上記各号の基準により難しい場合は、選考の都度、協議するものとする。

(任期)

3 非常勤講師の任用は、年度毎に更新するものとし、再任を妨げない。

(選考)

4 任用は、選考により行う。

5 選考は、本基準及び年度計画に基づき作成された「任用候補者一覧表」(以下「一覧表」という。)の中から、校長が行う。

6 一覧表は、副校長(教務主事)が学科長及び専攻科長の協力を得て、作成するものとする。

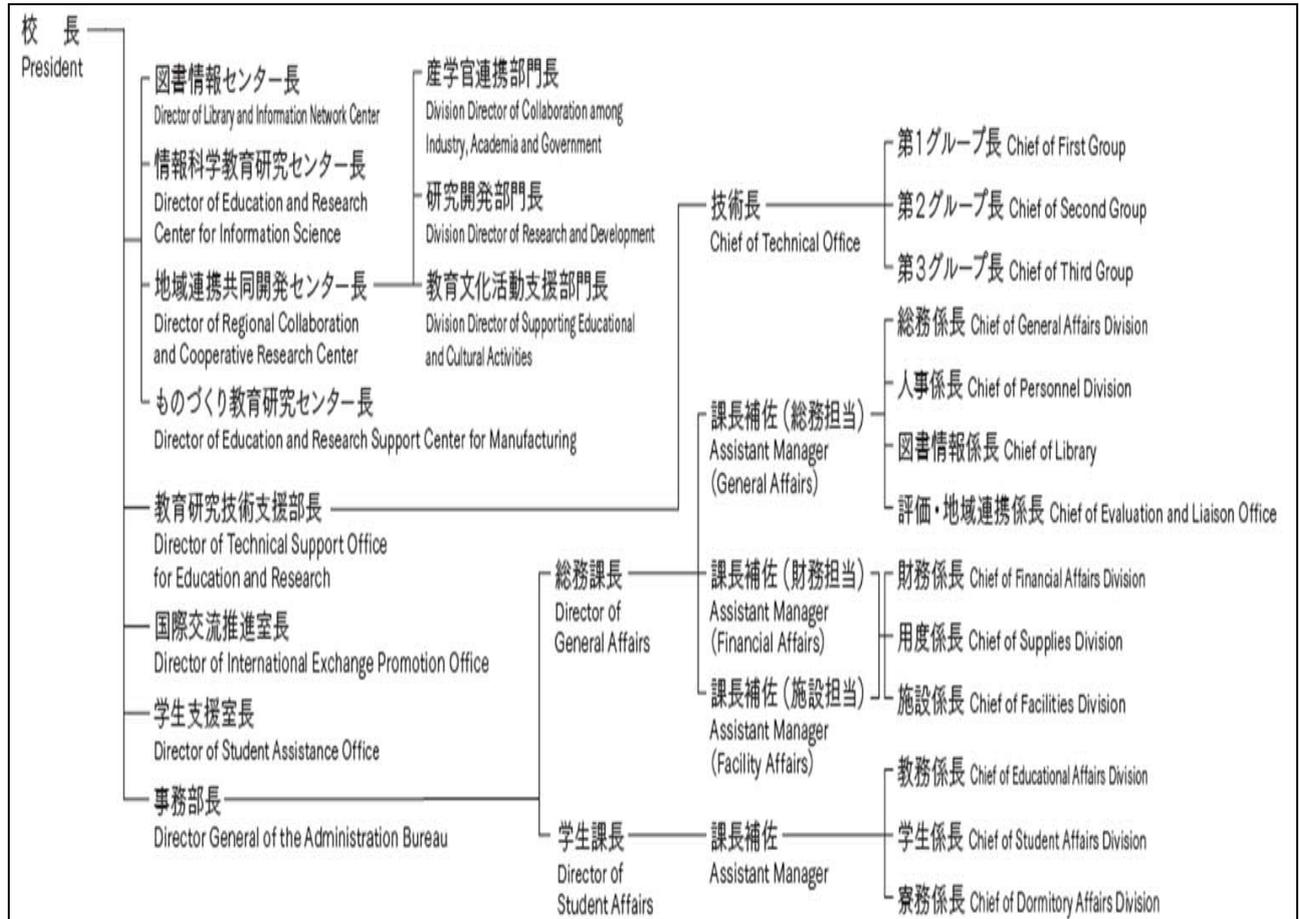
7 選考に必要な書類は、次の各号に掲げるものとする。

- 一 履歴書(教育指導歴・研究歴を含む。)
- 二 健康診断書。ただし、本務勤務先等で定期的に健康診断を受診している者は、除く。
- 三 その他必要と認める書類

8 この事務処理は、総務課人事係において行う。ただし、一覧表作成に関する事務は、学生課教務係において行う。

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-3-①-1 : 小山工業高等専門学校の事務組織と学習支援のための組織



(出典：学校要覧2012 p. 4、小山高専HP)

資料 3-3-①-2 : 小山工業高等専門学校事務組織規程 (抜粋)

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭 和 4 0 年 4 月 1 日
 最 終 改 正 平 成 2 3 年 4 月 1 日

第 1 章 総 則

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年10月1日制定）第12条及び小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第11条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第 2 章 事 務 組 織

第 2 条 事務部に総務課、学生課を置く。

第 3 条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、評価・地域連携係、財務係、用度係及び施設係を置く。

第 4 条 学生課に教務係、学生係及び寮務係を置く。

第 5 条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第 6 条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第 6 条の 2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第 6 条の 3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第 7 条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第 3 章 事 務 分 掌

第 8 条 総務課課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 総務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 中期計画・年度計画及び組織整備に関すること。

三 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 財務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 収支予算計画に関すること。

三 基準額以上の監査、内部監査・外部監査に関すること。

四 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

3 総務課課長補佐（施設担当）は、次の事務をつかさどる。

一 施設関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 施設の計画及び整備の総括に関すること。

三 その他施設関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

4 総務係においては、次の事務をつかさどる。

一 学則その他諸規程の制定改廃に関すること。

二 儀式及び他の係に属さない諸行事に関すること。

三 公印（財務関係及び学生課の公印を除く。）の管守に関すること。

四 会議に関すること。

五 公文書の收受、発送に関すること。

六 文書及び諸規則等の整理保存に関すること。

七 日誌及び沿革史等の記録に関すること。

八 秘書事務に関すること。

九 渉外に関すること。

十 電話交換その他電話の取扱いに関すること。

十一 情報公開に関すること。

十二 個人情報の保護に関すること。

十三 事務が保有する電子ファイルの管理及び運用に関すること。

十四 広報に関すること。

以下略

(出典：小山高専HP)

資料 3-3-①-3 : 技術室規程

小山工業高等専門学校技術室規程

制 定 平成20年 4月 1日

最終改正 平成20年11月12日

(趣旨)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）教育研究技術支援部規則第4条第2項の規定に基づき、技術室の組織及び運営について定める。

(業務)

第2条 技術室においては、次の業務を行う。

- 一 学生の実験実習の技術的指導及び安全管理に関すること。
- 二 卒業研究に関する技術的指導及び安全管理に関すること。
- 三 教育教材作成の支援に関すること。
- 四 教員の研究活動に伴う技術的支援に関すること。
- 五 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- 六 技術研修に関すること。
- 七 民間等との共同研究、地域連携業務及び公開講座の実施等に伴う技術的支援に関すること。
- 八 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
- 九 実験実習機器の管理保全に関すること。
- 十 技術室職員の労働時間、休暇及び出張に関すること。
- 十一 情報科学教育研究センターに関すること。
- 十二 地域連携共同開発センターに関すること。
- 十三 ものづくり教育研究センターに関すること。
- 十四 その他教育及び研究の支援に関すること。

(技術長)

第3条 技術室に、技術長を置き、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

2 技術長は、教育研究技術支援部長の推薦に基づき、校長が任命する。

3 技術長は、上司の命を受け、技術室の業務を統括する。

(グループ)

第4条 技術室に次のグループを置く。

- 一 第1グループ
- 二 第2グループ
- 三 第3グループ

2 前項の各グループに、グループ長を置き、技術専門職員をもって充てる。

3 グループ長は、教育研究技術支援部長の推薦に基づき、校長が任命する。

4 グループ長は、上司の命を受け、グループの業務を処理する。

(グループの業務分掌)

第5条 第1グループは、主として機械工学科及びものづくり教育研究センターの第2条に掲げる業務を行う。

2 第2グループは、主として電気情報工学科、電子制御工学科及び情報科学教育研究センターの第2条に掲げる業務を行う。

3 第3グループは、主として物質工学科、建築学科、一般科及び地域連携共同開発センターの第2条に掲げる業務を行う。

4 各グループは、他のグループから業務に関する協力依頼があった場合は、可能な限り他グループの業務を支援するものとする。

(研修)

第6条 技術長は、技術室職員の研修に務めなければならない。

2 研修は、職務の遂行に必要な知識及び技術等を修得させ、職員の能力及び資質等を向上させる内容のものとする。

(事務)

第7条 技術室に関する事務は、同室において処理する。

(その他)

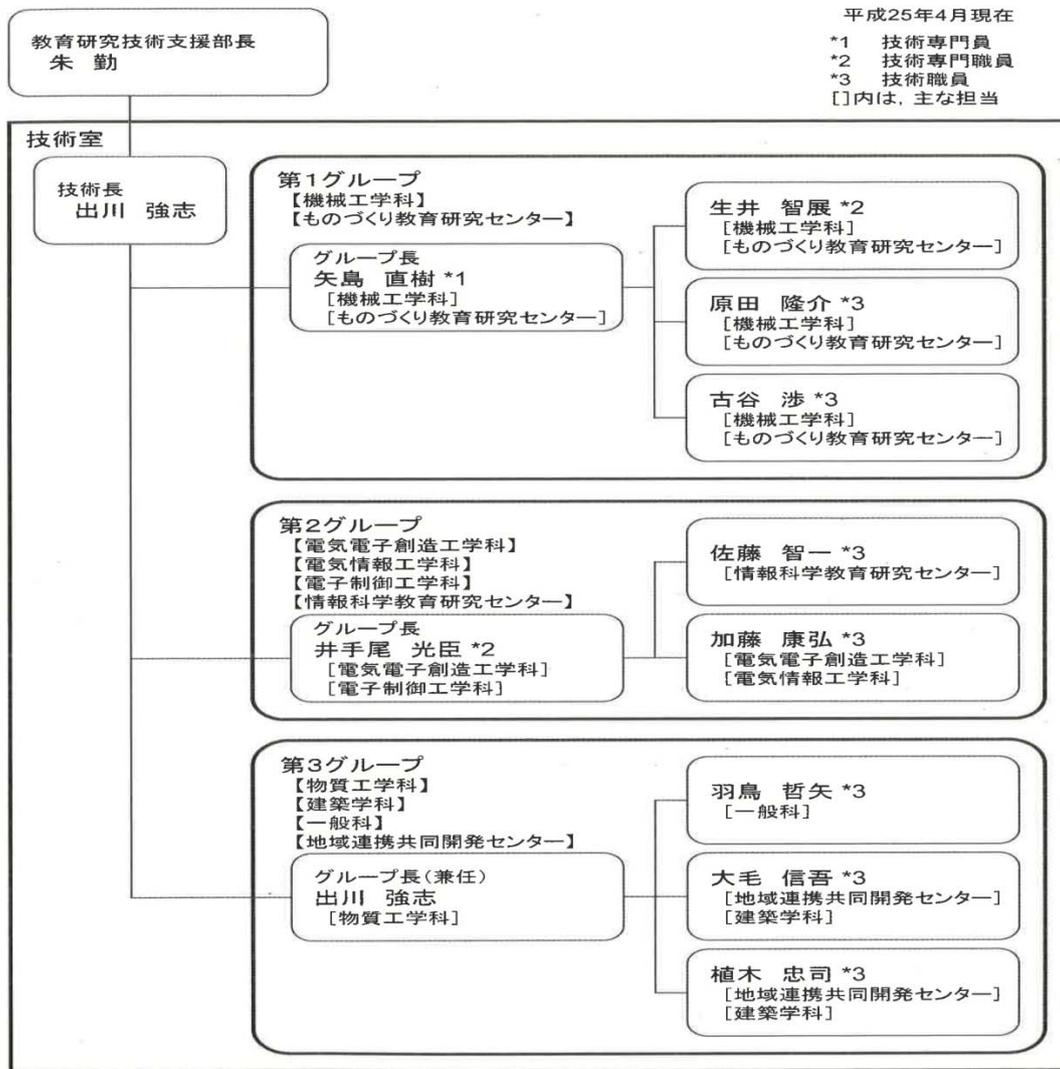
第8条 技術室に関し必要な事項については、別に定めることができる。

(出典：小山高専HP)

資料3-3-①-4：技術室の組織図

教育研究技術支援部技術室 組織図

教育研究技術支援部技術室 組織図



出典：平成25年度 技術室年報)

資料3-3-①-5：技術室の各グループの役割について

技術室の各グループの役割

第1グループの主な業務

- 機械工作実習・機械工学実験における指導
(各加工の実技指導、実験の進め方・結果のまとめ方等の指導)
- ものづくりセンター設備の保守管理
(機械の点検、故障時の対応、必要に応じた設備の製作等)
- 卒業研究・専攻科特別研究の指導補助及びそのための製作依頼業務
(実験用機材作成のための実技指導、実験用装置の製作)
- 課外活動及び工陵祭への支援業務
(ロボコン・エコラン、ネームプレートの作成等)
- 機械工学科マイクロ計測室機器の保守管理
- 学内からの製作依頼業務

第2グループの主な業務

- 電気電子創造工学実験における技術指導
- 電気情報工学実験における技術指導
- 電子工学実験における技術指導
- プログラミング演習における技術指導
- 情報科学教育研究センター公開講座における講師および技術指導
- 実験室における実験装置、測定器、電子工作工具、電子部品等の維持管理
- 学内ネットワークにおけるサーバおよびネットワーク機器の運用・維持管理
- 情報科学教育研究センターの教育用計算機システムの運用・維持管理
- 情報科学教育研究センターの管理
- 高等専門学校情報処理教育研究委員会に関する業務
- セキュリティポリシーに関する業務

第3グループの主な業務

- 一般科における業務
 - ・ 1・2年生の実験指導、実験テキスト製作補助
 - ・ 新規実験装置・部品・材料等の資料収集や組み立ての共同作業、また市販品のない場合は共同で作成
 - ・ 実験用消耗品の補充、実験室の整理及び設備の保守・点検・補修
 - ・ その他一般科に関する技術的業務全般
- 建築学科における業務
 - ・ 5年生 建築測量技術指導
- 物質工学科における業務
 - ・ 化学実験における技術指導
 - ・ 実験室の管理、測定機器の使用及び保守管理
 - ・ 研究業務
- 地域共同開発センターにおける業務
 - ・ 設備の保守管理
 - ・ 研究業務 (ICP装置を用いた測定等)

(出典：平成25年度 技術室年報)

資料 4-1-①-1 : 入学者受入方針

【準学士課程入学者受け入れ方針】

開校以来、本校では、“技術者である前に人間であれ”を教育方針として、人間教育に基づく実践的技術者の育成に努めてきました。この教育方針をふまえ、社会で活躍貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者を育成することを旨とします。この目標を達成するために、つぎのような若人の入学を望みます。（キーワード）

- (1) 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人（科学技術への興味と基礎的な学力）
- (2) モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人（モノづくりや実験への積極性）
- (3) 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人（課外活動と協調性）

機械技術を活かしたモノづくりを学ぶ機械工学科

機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 数学、理科、技術が好きで、得意な人
- ② 自ら考え、手を使って、行動できる人
- ③ 環境や資源を配慮した機械作りに関心がある人

電気電子技術を活かしたモノづくりを学ぶ電気電子創造工学科※

電気電子創造工学科では、電気エネルギー、電気電子回路、情報通信、電子材料、コンピュータやプログラムなどの基礎を学び、それらを活かした新エネルギー技術、最新ロボット技術やシステム作りとその応用を勉強し、社会のために努力しようとする人の入学を期待します。

- ① 数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
 - ② 自分で考え、アイデアにあふれ、モノを作ることが好きな人
 - ③ 最先端技術分野や先進的システムに興味があり、将来ものづくりで社会に貢献しようと思う人
- ※平成 25 年 4 月に電気情報工学科及び電子制御工学科を改組し、電気電子創造工学科を新設しました。

化学や生物に関する科学技術を活かしたモノづくりを学ぶ物質工学科

物質工学科では、化学および生物の基礎と、それを応用することを勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 化学や生物に興味を持つ人
- ② 自然現象に興味を持ち、好奇心旺盛で、実験が好きな人
- ③ 人間生活と自然環境との関わりについて関心のある人

建築技術を活かしたモノづくりを学ぶ建築学科

建築学科では、すまい、都市などを計画・設計するための知識と、建物のしくみ、造り方などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 数学や理科に興味があり、技術や美術が好きな人
- ② 人々の生活環境を学び、快適な建物を設計してみたい人
- ③ 建物のしくみに関心を持ち、安全な建物づくりに取り組みたい人

【編入者受け入れ方針】

小山高専では次のようなアドミッションポリシー（入学者受入方針）を定めています。

- (1) 自然科学及び工業技術に対する興味・関心が高く、その基礎学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- (2) モノづくりに対する関心が高く、自らのアイデアで、主体的に取り組める人
- (3) 日本語及び英語の基礎学力を有し、自分の考えを伝えることのできる人

機械工学科：機械技術を活かしたモノづくりを学ぶ

機械工学科では、材料、振動、熱、流れに関する力学と、製図、電気・電子、コンピュータ、計測などを学び、エンジンやロボットなどの機械と、それらの機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御の基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の編入学を期待します。

- ① 数学、物理など自然科学の基礎学力を有し、自発的に学ぼうとする強い意欲のある人
- ② 機械工学を含む工業技術全般に興味があり、自分のアイデアを活かしたモノづくりに取り組んでみたい人
- ③ 機械や技術に関して自分の考えや意見を表現できる能力を有し、国際的な事柄にも興味がある人

電気情報工学科：電気や情報技術を活かしたモノづくりを学ぶ

電気情報工学科では、電気、エネルギー、情報、通信、半導体などに関する基礎と、ロボットやコンピュータ・プログラム、携帯電話や超 LS I などの最先端のモノづくりへの応用技術を勉強します。本学科では、つぎのような人の編入学を期待します。

- ① 数学・電気・情報の基礎を身につけ、向学心旺盛な人
- ② ハードウェアからソフトウェアまで幅広く興味があり、自分のアイデアを実現したい人
- ③ 電気・電子・情報工学に関して自分の考えや意見を表現できる能力を有し、国際的な事柄にも興味がある人

電子制御工学科：電子技術や制御技術を活かしたモノづくりを学ぶ

電子制御工学科では、電子回路、電子材料、コンピュータなどのハードウェアの基礎と、情報、通信、プログラムなどのソフトウェアの基礎を活かしたシステム作りとその応用を勉強します。

本学科では、つぎのような人の編入学を期待します。

- ① 数学、物理、電気・電子基礎、情報技術基礎が好きな人
- ② 自分で考えることのできる人、モノを作ることが好きな人、アイデアをたくさん出せる人
- ③ 電予・計測・制御・情報分野に関して自分の考えや意見を表現できる能力を有し、国際的な事柄にも興味がある人

物質工学科：化学や生物化学、材料に関する科学・技術を活かしたモノづくりを学ぶ

物質工学科では、化学および生物化学の専門的基礎と、新しい材料、バイオ関連物質、地球環境の持続等に関する工学的応用を学びます。本学科では、つぎのような人の編入学を期待します。

- ① 化学や生物化学、材料に関する科学に興味を持ち、その基礎知識のある人
- ② 実験等に自主的に取り組むことができ、観察力のある人
- ③ 化学に関して自分の考えを伝える能力を持ち、国際的な事柄にも興味のある人

建築学科：建築技術の専門基礎を学ぶ

建築学科では、モノづくりの応用として、住居や都市、安全で経済的な構造、快適な居住環境、建物の歴史などを学びます。本学科では、つぎのような人の編入学を期待します。

- ① 自然科学などの基礎学力を有し、工業技術や美術・意匠にも意欲がある人
- ② モノづくりへの関心が高く、自らの考えによる建物の設計や安全な建物づくりに取り組みたい人
- ③ 建築に関して自分の考えや意見を表現できる能力を有し、国際的な事柄にも興味がある人

【専攻科課程入学受け入れ方針】

本校専攻科では、教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

- (1) 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- (2) モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- (3) 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力、および英語の基礎学力を有している人

各コースの受け入れ方針（アドミッションポリシー）

○機械工学コース

数学、物理はもとより、機械工学に関連する分野の基礎学力を持ち、基礎を応用して、より高度な技術を、自ら身に付けようという意欲のある人、機械に興味を持ち、実際に手を動かしてモノづくりを体験してきた人、専門分野の知識や得られた成果を、簡潔に説明ならびに発表できる人、

○電気情報工学コース

電気・電子・情報に関する体系的な工学に関心があり、その分野の基礎学力を有し、自学意欲のある人。

○電子制御工学コース

電子制御工学におけるハードウェア・ソフトウェアや、ものづくりに関心が高く、その分野ならびに数学・物理学・英語の基礎学力を有し、自ら学ぶ意欲があり、成果を的確に発表できる人。

○物質工学コース

材料工学や生物工学等の諸分野に関する化学の基礎学力を持ち、専門知識を発展させ、より高度な技術と問題解決能力を会得しようとする意欲があり、学んだ成果を的確に表現・発表できる人、

○建築学コース

建築学における、生活に密接に関わる安全・快適な建築物および居住環境や都市空間について関心があり、これらの分野の基礎的な学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人。

（出典：学生課教務係資料）

資料 4-1-①-2 : 入学者受入方針の校内掲示 (正面玄関入口)



(出展 : 校内掲示 写真)

資料 4-1-①-3 : 入学者受入方針の掲載資料

平成 26 年度
入 学 者 募 集 要 項



おもな期日

推 薦 に よ る 選 抜	学 力 検 査 に よ る 選 抜
1月 6日(月) } { 願書受付	2月 3日(月) } { 願書受付
1月 8日(水) } 1月22日(水) 面 接	2月 6日(木) } 2月16日(日) 学 力 検 査 (注)
1月28日(火) 合 格 者 発 表	2月21日(金) 合 格 者 発 表

(注) 学力検査による選抜は本校、埼玉及び品川の3会場で実施します

国立小山工業高等専門学校

(出典：平成 26 年度入学者募集要項)

資料 4-1-①-4 : 准学士課程入学者受入方針の周知状況

独立行政法人 国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校

小山高専

◆ トップページ

◆ 最新情報
 ▶ 受験生の方へ
 ▶ 地域・企業の方へ
 ▶ 学生・保護者の方へ
 ▶ 卒業生の方へ

検索...

入学者受け入れ方針

☎ | 参照数: 2065

(アドミッションポリシー)

開校以来、本校では“技術者である前に人間であれ”を教育方針として、人間教育に基づいた実践的技術者の育成に努めてきました。この教育方針をふまえ、社会で活躍貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者を育成することを目標とします。この目標を達成するために、つぎのような着目の入学を望みます。(キーワード)

- (1) 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人
(科学技術への興味と基礎学力)
- (2) モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人
(モノづくりや実験への積極性)
- (3) 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人
(課外活動と協調性)

◆ 機械技術を活かしたモノづくりを学ぶ機械工学科

機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 数学、理科、技術が好きで、得意な人
- ② 自ら考え、手を使って行動できる人
- ③ 環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人

◆ 電気電子技術を活かしたモノづくりを学ぶ電気電子創造工学科

電気電子創造工学科では、電気エネルギー、電気電子回路、情報通信、電子材料、コンピュータやプログラムなどの基礎を学び、それらを活かした新エネルギー技術、最新ロボット技術やシステム作りとその応用を勉強し、社会のために努力しようとする人の入学を期待します。

- ① 数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
- ② 自分で考え、アイデアにあふれ、モノを作ることが好きな人
- ③ 最先端技術分野や先進的システムに興味があり、将来ものづくりで社会に貢献しようと思う人

(出典：小山高専 HP)

資料 4-1-①-5 : 入学者受入方針の公表 (平成 25 年度)

入学者受入方針の公表(平成25年度)

公表の方法	受入方針を明記した冊子		
	冊子名	配布方法	参加者数または学校数
准学士課程	募集要項 学校案内 リーフレット	中学校訪問	162校
		入試説明会(5回)	73名
		学校説明会(11回)	428名
		学校説明会(学習塾1回)	20名
		オープンキャンパス	976名
		入試相談コーナー	125名
		郵送	1174校
編入学	募集要項 学校案内	郵送	254校

(出典：学生課教務係資料)

資料 4-1-①-6 : 入試に関する説明会日程表

平成 25 年度版

独立行政法人 国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校

お知り合いの方にも、ご案内をお知らせ下さい！

小山高専 を説明いたします。是非ご来場下さい！

秋版

工陵祭 (小山高専の学園祭)

H25 年 11 月 3 日 (日) 4 日 (月) ●会場：小山高専
入試相談コーナーも同時開催

▲工陵祭は小山高専の学園祭です。学生主体で企画したユニークなイベントを実施しています。工陵祭中は、入試等の相談コーナーも開設しています。ご来場を心よりお待ちしております。

入試説明会 (おもに中学校教員 対象)

- H25 年 9 月 10 日 (火) ●会場：本校 ○14:30-
- H25 年 9 月 11 日 (水) ●会場：矢板公民館 (矢板) ○14:30-
- H25 年 9 月 17 日 (火) ●会場：宇都宮東市民活動センター (宇都宮) ○14:30-
- H25 年 9 月 18 日 (水) ●会場：しもだて地域交流センター・アルテリオ (筑西) ○14:30-
- H25 年 9 月 20 日 (金) ●会場：足利市民プラザ (足利) ○14:30-



▲ご要望により本校から出張して生徒さんに直接ご説明します。お気軽にご相談下さい。

学校説明会 (おもに生徒・保護者 対象)

- H25 年 9 月 14 日 (土) ●会場：矢板公民館 (矢板) ○10:00-
- H25 年 9 月 21 日 (土) 栃木県高等学校進学フェア 2013 ●会場：栃木市栃木文化会館 (栃木) ○10:00-15:00
- H25 年 10 月 5 日 (土) ●会場：大宮ソニックシティビル 8 階 (さいたま) ○14:00-
- H25 年 10 月 12 日 (土) 2 会場開催 ●会場：本校 <学内ツアーあり> ○9:00- ●会場：足利市民プラザ (足利) ○14:30-
- H25 年 10 月 26 日 (土) 2 会場開催 ●会場：岩瀬中央公民館 (岩瀬) ○10:00- ●会場：市民ホールスペース U 古河 (古河) ○14:30-
- H25 年 11 月 24 日 (日) ●会場：本校サテライトキャンパス (栃木) ○14:30-
- H25 年 12 月 7 日 (土) ●会場：本校 <学内ツアーあり> ○10:00-



平成 26 年度入試日程

推薦選抜

- 出 願：平成 26 年 1 月 6 日 (月) ~ 8 日 (水)
- 検査日：平成 26 年 1 月 22 日 (水)
- 会 場：本校

学力選抜

- 出 願：平成 26 年 2 月 3 日 (月) ~ 6 日 (木)
- 検査日：平成 26 年 2 月 16 日 (日)
- 会 場：本校および埼玉会場、品川会場



詳しくは、小山高専学生課教務係
tel:0285-20-2142 にご連絡いただくか、



ホームページ「入学 / 試験案内」情報をご覧下さい。
URL▶<http://www.oyama-ct.ac.jp/>

(出典：入試関係説明資料)

資料 4-1-①-7 : 平成 25 年度入試説明会、学校説明会実施要領 (1 / 2)

入 試 説 明 会 実 施 状 況

(平成25年9月10日～20日)

1 県別参加人数

単位: 人

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	千葉県	計
小山高専会場(9/10)	34	4	0	0	0	38
矢板会場(9/11)	4	0	0	0	0	4
宇都宮会場(9/17)	12	0	0	0	0	12
筑西会場(9/18)	0	12	0	0	0	12
足利会場(9/20)	5	0	2	0	0	7
計	55	16	2	0	0	73

2 実施年度別参加中学校数の推移

単位: 校

区 分	平成23年度	平成24年度	平成25年度	
筑西市会場	8	13	12	
宇都宮市会場(瑞徳野)	-	-	-	
宇都宮市会場(東市民)	24	29	12	
那須塩原市会場	-	-	-	
矢板市会場	6	6	4	
足利市会場	6	9	7	
小山高専会場	32	21	38	
計	76	78	73	
案 内 発 送 校 数	栃 木 県	166	170	171
	茨 城 県	196	176	174
	埼 玉 県	441	447	446
	群 馬 県	176	147	147
	千 葉 県	28	45	45
計	1007	985	983	

入 試 説 明 会 (学 習 塾 対 象) 実 施 状 況

1 実施年度別参加学習塾数の推移

単位: 校

区 分	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
小山高専会場	20校(20名)	26校(26名)	20校(20名)	20校(20名)
学習塾宛案内発送数	80	80	167	167

学 校 説 明 会 実 施 状 況

(平成25年7月6日～12月7日)

1 県別参加人数

単位: 人

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	千葉県その他	計
小山高専会場7/6(土)	97	65	7	30	6	205
矢板会場9/14(土)	4					4
大宮会場10/5(土)		2		8	2	12
小山高専会場10/13(土)	39	21	3	15	4	82
足利会場10/12(土)	9			2		11
岩瀬会場10/26(土)	2					2
古河会場10/26(土)	12					12
栃木会場(サテライトキャンパス)11/24(日)	6			2		8
小山高専会場12/7(土)	28	12	4	8	4	56
計	197	100	14	65	16	392

資料 4-1-①-7 : 平成 25 年度入試説明会、学校説明会実施要領 (2 / 2)

2 参加者内訳 単位: 人

区 分	中学生	保護者	教 員	計
小山高専会場7/6(土)	104	101	0	205
矢板会場9/14(土)	2	2	0	4
大宮会場10/5(土)	5	7	0	12
小山高専会場10/13(土)	43	39	0	82
足利会場10/12(土)	6	5	0	11
岩瀬会場10/26(土)	1	1	0	2
古河会場10/26(土)	6	6	0	12
栃木会場11/24(日)	4	4	0	8
小山高専会場12/7(土)	31	25		56
計	202	190	0	392

入試相談コーナー（工陵祭）実施状況

入試相談コーナー(工陵祭)実施状況

(平成25年11月3日・4日)

1 実施年度別参加者数の推移 単位: 組

区 分	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1日目	33	20	7	21	22	36
2日目	26	15	22	11	20	36
計	59	35	29	32	42	36

2 県別参加組数 単位: 組

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	その他	計
11月3日(日)	13	2	2	0		17
11月4日(月)	12	6	0	1	3	22
計	25	8	2	1	3	39

3 参加者内訳 単位: 人

区 分	中学生	保護者他	計
11月3日(日)	18	18	36
11月4日(月)	21	15	36
計	39	33	72

参考:8/9, 10オープンキャンパス

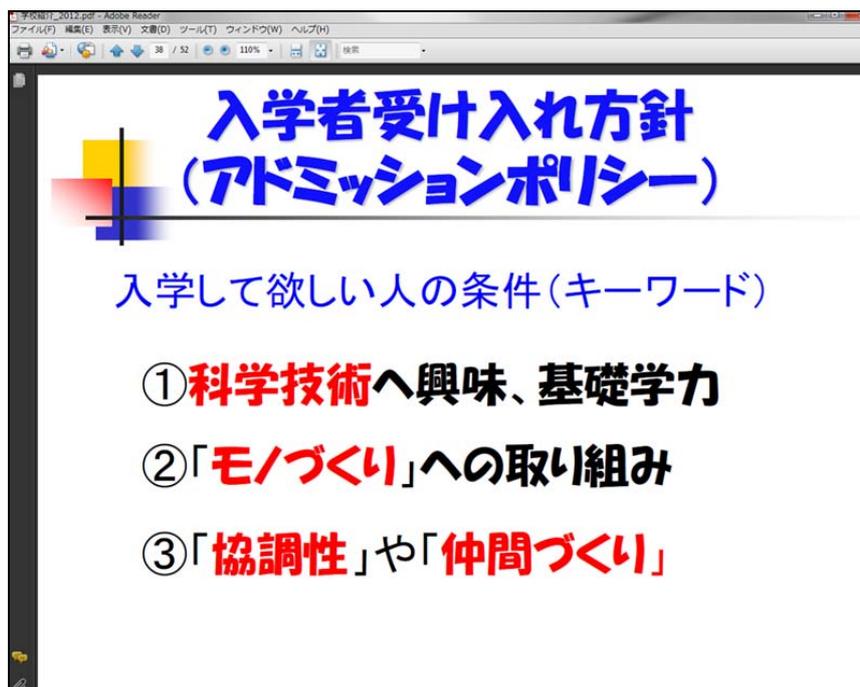
入試相談コーナー

中学生	28
保護者	25
計	53

※小学生1名

(出典: 教務委員会資料)

資料 4-1-①-8 : 入試説明会用パワーポイント



(出典：教務委員会資料)

資料 4-1-①-9 : 編入学者受入方針



(出典：小山高専HP)

資料4-1-①-10：専攻科課程入学者受入方針



平成26年度

小山工業高等専門学校専攻科学生募集要項

入学者受け入れ方針（アドミッションポリシー）

本校専攻科では、

教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。

この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

- (1) 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- (2) モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- (3) 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力、および英語の基礎学力を有している人

各コースの受け入れ方針（アドミッションポリシー）

○機械工学コース

数学、物理はもとより、機械工学に関連する分野の基礎学力を持ち、基礎を応用して、より高度な技術を、自ら身に付けようという意欲のある人、機械に興味を持ち、実際に手を動かしてモノづくりを体験してきた人、専門分野の知識や得られた成果を、簡潔に説明ならびに発表できる人。

○電気情報工学コース

電気・電子・情報に関する体系的な工学に関心があり、その分野の基礎学力を有し、自学意欲の

（出典：小山高専HP）

資料 4-2-①-1 : 入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

(準学士課程入学者選抜)

【準学士課程入学者選抜試験】

入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接試験内容

【準学士課程入学者選抜試験】

小山高専の入学者受入方針(準学士課程)

A① 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人

A② モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人

A③ 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人

入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接試験内容

学科	項目	質問内容
機械工学科	A①	ばねの長さとおもりの重さの関係性についての質問
	A②	金属材料の加工に関する質問
	A③	部活動、生徒会等の活動状況についての質問
電気電子創造工学科	A①	数学、理科に関する基礎問題
	A②	ロボコン、プログラマーなどに関する知識の確認
	A③	部活動、学級活動、ボランティア活動の体験談
物質工学科	A①	化学に関する基礎問題(化学反応、溶液等)
	A②	二酸化炭素の製法についての質問
	A③	部活動等における経験により学んだことについて
建築	A①	力学に関する基礎問題
	A②	建物の計画に関する質問
	A③	学級活動、生徒会活動についての質問

(出典：平成 25 年度入学者対策室資料)

資料 4-2-①-2 : 準学士課程入学者選抜方法

1. 募集定員

募集定員は以下の通り(予定)。

学科	機械工学科	電気電子創造工学科	物質工学科	建築学科
定員	40名	80名	40名	40名

※平成 25 年より、電気情報工学科と電子制御工学科を電気電子創造工学科に統合した。

2. 推薦入試

(1) 出願資格

調査書の「学習の記録」欄の評定が1年、2年及び3年の**国語、社会、数学、理科、英語**の5教科を5段階評価として、**評定の合計が60以上(平均4.0以上)**であること。

(2) 選抜方法

面接及び調査書により合格者を選考する。ただし、面接と調査書の配点比率は、面接点40%、調査書60%とする。

※補足

調査書の評定合計点の算出について調査書の評定合計点は、1年、2年及び3年の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科を対象とし、数学、理科及び英語を傾斜配点(評定点を2倍する)して算出する。

(3) 募集人員

推薦選抜の募集人員は、定員の4割程度とする。

第1志望のみ

(4) 倍率

年 度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
機械工学科	2.3	3.1	1.8	1.4	2.4
電気情報工学科	2.8	2.3	2.9	2.3	
電子制御工学科	3.5	2.6	2.6	1.9	
電気電子創造工学科					2.7
物質工学科	4.4	2.3	2.6	2.7	3.2
建築学科	2.3	1.4	1.5	1.5	1.7
合 計	3.1	2.3	2.3	2.0	2.6

※エントリー基準は、平成 15 年度までは 3.8 以上、平成 16 年度からは平均 4.0 以上。

(4) 推薦選抜で不合格となった場合

不合格の場合、推薦出願の際「入学願書」に所定の手続きが済んでいる者については、自動的に学力選抜試験を受検できる(再度の入学願書等の書類提出や入学検定料を必要としない)。その場合、学力選抜を希望し、かつ第2志望まで希望する者は推薦選抜出願時に第2志望学科名も記入しておくこと。(願書受付後の志望学科の変更は認めません。)

(5) 一次判定(足切り)について

一次判定(足切り)は、行わない。

3. 学力選抜

(1) 選抜方法

学力試験(国語、社会、数学、理科、英語)の成績及び調査書により選抜する。学力試験の配点(**数学、理科及び英語は、1.5倍する傾斜配点**とする)は、**数学(150点)、理科(150点)、英語(150点)**、国語(100点)、社会(100点)の計650点満点とする。また、調査書の評定合計点は、1年、2年及び3年の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科を対象とし、数学、理科及び英語を傾斜配点(評定点を2倍する)して算出する。従って、学力試験と調査書との配点比率は、学力検査84%、調査書16%となる。

(2) 募集人員

各学科定員－推薦合格者数(定員の4割程度)＝定員の6割程度

第2志望を認める。

(出典：平成 26 年度入試関係説明資料)

資料 4-2-①-3 : 入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接質問愛用 (編入学者選抜)

【編入学者選抜試験】

小山高専の入学者受入れ方針 (編入学)

T① 自然科学および工業技術に対する興味・関心が高く、その基礎学力を有し、学ぶ意欲がある人

T② モノづくりに対する関心が高く、自らのアイデアで、主体的に取り組める人

T③ 日本語及び英語の基礎学力を有し、自分の考えを伝えることのできる人

入学者受入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

学科	項目	質問内容
機械工学科	T①	・アドミッションポリシーの説明
	T②	・高専に編入したら取り組みたいこと ・卒業後の進路
	T③	・好きな科目, 嫌いな科目についての説明
電気情報工学科	T①	・電気系で使う (高校で学んだ) 補助単位の呼び方と大きさについての説明
	T②	・高校でハードウェアなりソフトウェアなりを自分のアイデアを入れて作ったことがあるか?
	T③	・エンジニアは若くても海外出張するケースがあることについての意見について
電子制御工学科	T①	・科学技術に関してテレビや新聞において最近関心を持ったニュースについてと, その理由
	T②	・これまでに作ってきたものについての説明と感想 ・コンテストへの参加の有無
	T③	・当日の英語の試験についての感想 ・英語の必要性についての説明
物質工学科	T①	・最近の気になるニュース (科学的な) についての説明 ・高専に編入したら取り組みたいこと
	T②	・これまでに作ってきたものについての説明と感想 ・これまでに行った実験についての説明と感想
	T③	・好きな科目, 嫌いな科目についての説明 ・国際交流についての経験, 意見
建築学科	T①	・最も勉強したのは何か (科目ほか)。それをどのくらい勉強したか ・東日本大震災で起きた事は?
	T②	・今まで経験した挫折や克服について話して下さい。
	T③	・あなた自身の, 良い習慣と悪い習慣を 1 つずつあげて下さい。 ・卒業後の進路はどう考えているか。

(出典: 平成 25 年度入学者対策室資料)

資料 4-2-①-4 : 入学者受入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

【専攻科課程入学者選抜試験】

小山高専の入学者受入れ方針（専攻科課程）

- S① 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- S② モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- S③ 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力、および英語の基礎学力を有している人

入学者受入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

学科	項目	質問内容
機械工学 コース	S①	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科を志望した理由について教えてください。 ・得意な科目について教えてください。 ・専攻科でどのような研究テーマに取り組むのか説明してください。
	S②	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の国内外のニュースで関心を持っているものを教えてください。 ・卒業研究を含め、いままで自分で作った製品・作品があれば教えてください。
	S③	<ul style="list-style-type: none"> ・本校技術者教育プログラムの学習・教育目標の達成基準について知っていますか。 (外部発表・TOEIC400点と同等以上の義務など) ・専攻科に入学した場合の通学方法について教えてください。
電気情報工学 コース	S①	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科を志望した理由について教えてください。(なぜ他大学ではなく、専攻科を?) ・本校教育方針の「技術者である前に人間であれ」とはどのような意味だと考えていますか。
	S②	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでのもの作りの経験について教えてください。 ・英語の習得状況について教えてください。
	S③	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の技術の発展について、どのように考えていますか。 ・技術者教育プログラムの学習・教育目標を知っていますか。
電子制御工学 コース	S①	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科修了後の進路について、どのように考えていますか。 ・技術者教育プログラムの学習・教育目標を知っていますか。 ・本校のアドミッションポリシーを知っていますか。
	S②	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科の志望理由について教えてください。 ・現在の卒業研究内容と、入学後の研究室希望について教えてください。
	S③	<ul style="list-style-type: none"> ・最近のニュースで関心のあるものについて教えてください。 ・現在の英語習得状況について教えてください。 (また、専攻科修了までの TOEIC の到達目標を知っていますか。)
物質工学 コース	S①	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科を志望した理由について教えてください。 ・専攻科に進学してから研究したいことは何か、またその研究であなたがより高めたい能力は 何ですか。 ・専攻科修了後の進路についてどのように考えていますか。
	S②	<ul style="list-style-type: none"> ・自覚している長所と自分に不足していると思う部分について教えてください。 ・本校技術者教育プログラムの学習・教育目標の達成基準について知っていますか。 ・卒業研究のテーマとその概要について説明してください。
	S③	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の科学に関する話題で印象に残っている話題を教えてください。 ・英語の習得状況 (TOEIC スコアなど) について教えてください。
建築学コース	S①	<ul style="list-style-type: none"> ・大学編入ではなく、専攻科を志望の理由について教えてください。 ・得意な科目について教えてください。 ・卒業研究テーマとそれを選んだ理由、その概要について説明してください。
	S②	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科でどのような研究をしたいのか教えてください。 ・最近の国内外のニュースで関心を持っているものは何ですか。
	S③	<ul style="list-style-type: none"> ・技術者教育プログラムの学習・教育目標を知っていますか。 ・本校のアドミッションポリシーを知っていますか。

(出典：平成 25 年度学生課資料)

資料 4-2-①-5：学士課程（専攻科）入学者選抜方法

A. 推薦選抜

選抜方法

調査書、小論文検査及び面接結果を下記の方法で点数化して、専攻別、得点順位順に作成する。ただし、受検番号は記載しない。

① 調査書（学習成績）の点数化
出願前の事前審査のために提出された調査書をもとに、高専の4学年で修得した科目を次の方法で点数化する。すなわち、科目ごとに下表に示す評定に対応する点数に単位数を乗じて点数化し、その合計を（ ）点満点として換算する。

- | 評定 | S | A | B | C |
|------------------------------|---|---|---|---|
| ② 面接の点数化 | | | | |
| 面接を次の方法によって 点満点で評価する。 | | | | |
| (イ) 人間性の評価、社会への貢献の評価 () 点 | | | | |
| (ロ) 倫理観の評価 () 点 | | | | |
| (ハ) 技術的知識の評価 () 点 | | | | |
| ③ 小論文検査の点数化 | | | | |
| 課題に対する小論文を次の方法によって 点満点で評価する。 | | | | |
| (イ) 論文構成の評価 () 点 | | | | |
| (ロ) 課題と内容の整合性の評価 () 点 | | | | |
| (ハ) 表現の評価 () 点 | | | | |
| ④ 合計得点 | | | | |
| ①、②、③の合計点は 点満点とする。 | | | | |
| ④ 合計得点と同じ場合には調査書の上位者を上位とする。 | | | | |

B. 学力選抜

選抜方法

学力検査、調査書、小論文検査及び面接結果を下記の方法で点数化して、専攻別、得点順位 順に作成する。ただし、受検番号は記載しない。

- ① 学力検査科目と配点は、つぎのようにし、学力検査は 点満点とする。
- 科目ごとの配点は、英語： 点 数学： 点
- ② 調査書（学習成績）の点数化
出願前の事前審査のために提出された調査書をもとに、高専の4学年で修得した科目を次の方法で点数化する。すなわち、科目ごとに下表に示す評定に対応する点数に単位数を乗じて点数化し、その合計を 点満点として換算する。
- | 評定 | S | A | B | C |
|------------------------------|---|---|---|---|
| ③ 面接の点数化 | | | | |
| 面接を次の方法によって 点満点で評価する。 | | | | |
| (イ) 人間性の評価、社会への貢献の評価 () 点 | | | | |
| (ロ) 倫理観の評価 () 点 | | | | |
| (ハ) 技術的知識の評価 () 点 | | | | |
| ④ 小論文検査の点数化 | | | | |
| 課題に対する小論文を次の方法によって 点満点で評価する。 | | | | |
| (イ) 論文構成の評価 () 点 | | | | |
| (ロ) 課題と内容の整合性の評価 () 点 | | | | |
| (ハ) 表現の評価 () 点 | | | | |
| ⑤ 合計得点 | | | | |
| ①、②、③、④の合計点は 点満点とする。 | | | | |
| ⑤ 合計得点と同じ場合には専門科目上位者を上位とする。 | | | | |

C. 社会人特別選抜

小論文検査及び面接結果を下記の方法で点数化して、専攻別、得点順位順に作成する。ただし、受検番号は記載しない。

- ① 面接の点数化
面接を次の方法によって 満点で評価する。
- (イ) 人間性の評価、社会への貢献の評価 () 点
- (ロ) 倫理観の評価 (点)
- (ハ) 技術的知識の評価 (点)
- ② 小論文検査の点数化
課題に対する小論文を次の方法によって 点満点で評価する。
- (イ) 論文構成の評価 () 点
- (ロ) 課題と内容の整合性の評価 () 点
- (ハ) 表現の評価 () 点
- ①、②の合計点は 点満点とする。

(出典：平成 22 年度入試関係説明資料)

資料 4-2-②-1：入学者受入方針周知及び検証のアンケート結果

対象：5年生 および 専攻科2年生

■平成25年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■											《5年生》		様式1:在校生対象 1/2	
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無回答	合計	当該平均	全体平均	■ 全くその通りである	■ かなりそうである	■ 普通	■ あまりそうではない	■ 全くそうではない
I. 教育目標														
小山高専の教育目標を知っていますか。														
1 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。	71	44	40	3	1	1	160	4.14	4.03					
2 「機やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。	39	39	56	21	5	0	160	3.54	3.38					
3 以下の目標をよく知っている。 ①豊かな人間性の育成 ②豊かな感性と創造力の育成 ③自然科学・工学・芸術・専門基礎科目の学力向上 ④高度な専門科目と実践的学力の育成 ⑤情報技術力の向上 ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	24	31	64	28	13	0	160	3.16	3.01					
II. 入学者受入方針														
小山高専の入学者受入方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。														
4 専修(専攻科課程)の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①新学域・領域への興味と基礎的学力 ②モノづくりや実験への積極性 ③課外活動と国際性	27	37	66	21	9	0	160	3.33	3.17					
5 専攻科の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲 ②モノづくりへの関心と技能 ③日本語の応用力と英語の基礎学力	22	29	63	32	14	0	160	3.08	2.92					

■平成25年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■											《専攻科2年》		様式1:在校生対象 1/2	
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無回答	合計	当該平均	全体平均	■ 全くその通りである	■ かなりそうである	■ 普通	■ あまりそうではない	■ 全くそうではない
I. 教育目標														
小山高専の教育目標を知っていますか。														
1 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。	10	4	0	0	0	0	14	4.71	4.03					
2 「機やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。	4	4	4	2	0	0	14	3.71	3.38					
3 以下の目標をよく知っている。 ①豊かな人間性の育成 ②豊かな感性と創造力の育成 ③自然科学・工学・芸術・専門基礎科目の学力向上 ④高度な専門科目と実践的学力の育成 ⑤情報技術力の向上 ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	1	7	6	0	0	0	14	3.64	3.01					
II. 入学者受入方針														
小山高専の入学者受入方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。														
4 専修(専攻科課程)の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①新学域・領域への興味と基礎的学力 ②モノづくりや実験への積極性 ③課外活動と国際性	4	4	6	0	0	0	14	3.86	3.17					
5 専攻科の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲 ②モノづくりへの関心と技能 ③日本語の応用力と英語の基礎学力	4	6	4	0	0	0	14	4.00	2.92					

対象：教職員

■平成25年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■											《全体集計》		アンケート回答数 132		様式4:教職員対象	
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無回答	合計	全体平均	全体平均	■ 全くその通りである	■ かなりそうである	■ 普通	■ あまりそうではない	■ 全くそうではない		
I. 教育目標																
小山高専の教育目標を知っていますか。																
1 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。	96	14	18	2	2	0	132	4.52	4.03							
2 「機やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。	72	26	24	8	2	0	132	4.20	3.38							
3 以下の目標をよく知っている。 ①豊かな人間性の育成 ②豊かな感性と創造力の育成 ③自然科学・工学・芸術・専門基礎科目の学力向上 ④高度な専門科目と実践的学力の育成 ⑤情報技術力の向上 ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	53	36	31	8	3	1	132	3.98	3.01							
II. 入学者受入方針																
小山高専の入学者受入方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。																
4 専修(専攻科課程)の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①新学域・領域への興味と基礎的学力 ②モノづくりや実験への積極性 ③課外活動と国際性	52	39	27	11	3	0	132	3.95	3.17							
5 専攻科の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。 ①専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲 ②モノづくりへの関心と技能 ③日本語の応用力と英語の基礎学力	49	31	34	14	4	0	132	3.81	2.92							

(出典：平成25年度教育に関するアンケート集計結果)

資料 4-2-②-2 : 平成 26 年度入学者対策室活動まとめ

第 1 回 入学者対策室会議

日時：平成 25 年 4 月 26 日 16 : 00～

場所：建築学科棟 会議室

議事：

1. 今年度の年度計画と活動内容
 - ・中学校訪問
 - ・学校説明会
 - ・入試説明会
 - ・入試相談
 - ・パンフレット及びリーフレットの改訂
2. 校長裁量経費への申請
 - ・ポスター及びグッズの作成で申請予定
3. その他

第 2 回 入学者対策室会議 議事録

日時：平成 25 年 5 月 31 日 16 : 10～

場所：建築学科棟 会議室

出席者：有坂、田中昭、笠原、田中孝、本多(記録) 欠席：山崎

議事：

1. 中学校訪問について
2. 学校案内について
3. 学校説明会について
4. その他

第 3 回 入学者対策室会議

日時：平成 25 年 7 月 23 日 9 : 15～10 : 15

場所：建築学科棟 会議室

議事：

1. 彩の国進学フェアについて
2. オープンキャンパスの相談コーナーの担当割
3. 学校説明会の担当割
4. 校長裁量経費について
5. その他

第 4 回 入学者対策室会議

日時：平成 25 年 9 月 26 日 10 : 00～11 : 00

場所：管理棟 3 階 301 ゼミ室

議事：

1. 学校説明会と工陵祭時の相談コーナーについて
2. 中学校訪問について

3. 広報用グッズについて

4. その他

第5回 入学者対策室会議

日時：平成25年12月10日16:00～17:00

場所：電物棟 2階 201ゼミ室

議事：

1. 説明会等関係報告
2. 学校案内の内容について
3. はばたけ
4. 校長裁量経費
5. その他

(出典：教務委員会 入学者対策室資料)

資料4-2-②-3：教務委員会議事要録

平成25年度4月教務委員会議事要旨

日時：平成25年4月3日(水) 15時00分～16時20分

場所：管理棟3F301ゼミ室

出席者：教務委員

議題

中略

[審議事項]

1. 平成26年度入学者選抜検査関係日程表(案)について

【資料-7】

本多主事補より、資料7に基づき次の事柄について説明があり、審議の結果承認された。また、今後何か気づいた点等あれば、お知らせ願いたい旨の依頼があった。

○平成26年度入学者選抜検査関係日程表(案)の内容を確認してください。何かあれば、4月5日(金)までに教務係までご連絡ください。

<入学者対策室報告>

1. 平成25年度学校案内およびリーフレットの更新

本多主事補より、次の事柄について説明があった。

○業者へデザイン委託/色の変更：「えんじ色」⇒「ブルー」にする。

2. 平成26年度入学者選抜検査埼玉会場の選定報告

本多主事補より、次の事柄について説明があった。

○マロウドイン大宮に選定(24年度選抜検査で使用)。

(出典：教務委員会議事要録)

資料 4-3-①-1 : 準学士課程入学者数、合格者数

<学 科 別>

平成26年3月5日現在

年度	平成26年度		平成25年度		平成24年度	
	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
機械工学科	69 (3)	41 (2)	73 (4)	41 (1)	63 (1)	41 (1)
	39 (2)	16 (1)	38 (3)	16 (0)	22 (1)	16 (1)
電気電子創造工学科	123 (8)	82 (6)	163 (6)	83 (2)		
	80 (6)	32 (4)	86 (3)	32 (1)		
電気情報工学科					69 (3)	41 (2)
					37 (3)	16 (2)
電子制御工学科					58 (3)	41 (3)
					31 (1)	16 (1)
物質工学科	65 (19)	41 (12)	65 (18)	41 (10)	73 (13)	41 (10)
	45 (15)	16 (9)	51 (14)	16 (8)	43 (11)	16 (7)
建築学科	64 (20)	41 (16)	53 (15)	41 (12)	53 (15)	41 (9)
	37 (16)	16 (8)	26 (9)	16 (7)	26 (8)	17 (5)
合 計	321 (50)	205 (36)	354 (43)	206 (25)	316 (35)	205 (25)
	201 (39)	80 (22)	201 (29)	80 (16)	159 (24)	81 (16)

合格者は、第2志望による合格者を含む

下欄は、推薦選抜検査で内数

() は女子で内数

(出典小山高専準学士課程入学志願者数、合格者数調べ)

資料 4-3-①-2 : 専攻科志願者数、合格者数及び入学者数

複合工学専攻(定員20名)

入学年度		推薦	学力	社会人	計
24	志願者	14	36	0	50
	合格者	14	16	0	30
	入学者	13	11	0	24
25	志願者	16	35	0	51
	合格者	16	15	0	31
	入学者	16	8	0	24
26	志願者	15	34	0	49
	合格者	15	20	0	35
	入学者	15	13	0	28

(出典：小山高専専攻科課程入学志願者数、合格者数及び入学者数調べ)

資料 4-3-①-3 : 専攻科修了者数

専攻科修了者数(平成22～25年度)

年度	複合工学専攻 定員20名	電子システム工学専攻 定員12名	物質工学専攻 定員4名	建築学専攻 定員4名
22		16	7	7
23	36			
24	20			
25	25			

(出典：学生課学生係資料)

資料 4-3-①-4 : 修了生の就職先一覧

過去3年間の専攻科就職先一覧

企 業 名	平成23年度						平成24年度						平成25年度					
	SM	SE	SD	SC	SA	計	SM	SE	SD	SC	SA	計	SM	SE	SD	SC	SA	計
IHI運搬機械株式会社						0						0	1					1
旭化成株式会社						0	1		1		2					1		1
株式会社足利銀行						0					0						1	1
アドバンスソフト開発株式会社			1			1					0							0
株式会社アドバンテスシステムズ						0	1				1							0
有富設計株式会社		1				1					0							0
株式会社イーアンドエム		1				1					0							0
岩村建設株式会社					1	1					0							0
NECネットワークプロダクツ株式会社		1				1					0							0
株式会社NTTファシリティーズ			1		1	2					0							0
株式会社小野測器		1				1	1				1							0
小山高専						0					0						1	1
キャンファインテック株式会社	1					1					0							0
グリーンソシア株式会社		1				1					0							0
株式会社ケアリッツアンドパートナーズ						0					1	1						0
財団法人建材試験センター					1	1					0							0
株式会社小松製作所						0	1				1							0
株式会社ザイマックス						0					0						1	1
三桜工業株式会社	1					1					0					1		1
JSR株式会社						0					0		1					1
株式会社資生堂						0				1	1							0
清水建設株式会社					1	1					1	1						0
ジャスコエンジニアリング株式会社					1	1					0							0
株式会社シンデン		1				1					0							0
株式会社スミハツ	1					1					0							0
大日精化工業株式会社						0					0					1		1
太陽日酸株式会社					1	1					0							0
株式会社高岳製作所						0					1	1		1				1
高砂エンジニアリングサービス株式会社	1					1					0							0
DIC株式会社						0				1	1							0
東京鋼鐵株式会社						0					0				1			1
戸田建設株式会社					1	1					0						1	0
栃木市役所					1	1					0							0
株式会社ナカニシ	2					2					0	1						1
日本パイリーン株式会社					1	1					0							0
株式会社ハウステック					1	1					1	1	1					1
東日本旅客鉄道株式会社			1			1					0							0
日立化成株式会社						0					0						1	1
株式会社フクタ設計					1	1					0							0
ブリジストンプラントエンジニアリング株式会社	1					1					0							0
株式会社フルヤ金属					1	1					0							0
ポラス株式会社						0					1	1						1
三福工業株式会社					1	1					0							0
株式会社むぎくら						0					1	1						0
村櫻石灰工業株式会社						0					0						1	1
Meiji Seika ファルマ株式会社						0					0						1	1
株式会社明電舎						0					0	1						1
森永乳業株式会社					1	1					0							0
株式会社ワールドコーポレーション						0					0							1
計	7	6	3	6	8	30	2	2	0	3	4	11	4	2	1	6	5	18

注：平成 22 年度は 3 専攻、23 年度以降は 1 専攻 5 コースで表示

(出典：学生課学生係資料)

資料 4-3-①-5 : 修了生の大学院進学状況一覧

大学院進学状況一覧(20~25年度)

(平成24年度入学)							2014/3/31
大学院名	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	
国立		1 (1)					
慶応義塾大学大学院				1 (1)	1		
早稲田大学大学院			1				
東北大学大学院						1 (1)	
一橋大学大学院	4 (4)		1 (1)	2 (2)		1 (1)	
同志社大学大学院							
三井大学大学院							
法政大学大学院	2	3	3	2 (2)	3 (3)	2 (1)	
筑波大学			1				
小山工業大学大学院		1		1 (1)		1	
近畿工業大学大学院		1					
公立福岡大学大学院		1	1			1 (1)	
小川工業大学大学院						1 (1)	
計	0 (4)	7 (1)	7 (1)	0 (0)	4 (3)	7 (0)	
他			1				
独立行政法人国際総合大学校			1 (0)				
計	()	()	1 (0)	()	()	()	
合計	0 (4)	7 (1)	0 (1)	0 (0)	4 (3)	7 (0)	

()内は設置可能な数

(出典：学生課学生係資料)

資料5-1-①-1：一般科目の学年別開設単位数

別表第2
一般科目の学年別開設単位数（各学科共通）
第1, 2, 3, 4学年用

授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	8	3	3	2			
文学	1				1		
倫理・社会	2			2			
政治・経済	2		2				
歴史	2			2			
歴史学	2				2		
地理	2	2					
哲学	1				1		
人間と科学 I	1					1	
人間と科学 II	1					1	
基礎数学 A	4	4					
基礎数学 B	2	2					
微分積分学	4		4				
代数学・幾何学	2		2				
解析学	2			2			
線形代数学	2			2			
一般理科	2	2(0)	(2)				
物理	4	2	2				
化学 I	2	2					
化学 II	2	(2)	2(0)				
保健・体育	8	2	2	2	2		
英語 I A	3	3					
英語 I B	1	1					
英語 II	3		3				
英語ライティング A	1		1				
英語ライティング B	1		1				
英語 III	3			3			
英語会話	2	1		1			
英語演習 I	3				3		
英語表現 I	2				2		
英語表現 II	1				1		
英語演習 II	1					1	
ドイツ語演習	2					2	
芸術(美術)	1	1					何れかを選択
芸術(音楽)	1	1					何れかを選択
開設単位数計	81	26	22	16	12	5	

注 1.() 内の数字は物質工学科の場合を示す。
2.芸術(美術)・芸術(音楽)は、建築学科は美術を履修、それ以外の学科は美術か音楽の何れかを選択。

別表第2
一般科目の学年別開設単位数（各学科共通）
第5学年用

授業科目	単位数	学年別配当単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	8	3	3	2			
文学	1				1		
倫理・社会	2			2			
政治・経済	2		2				
歴史	2			2			
歴史学	2				2		
地理	2	2					
哲学	1				1		
人間と科学 I	1					1	
人間と科学 II	1					1	
基礎数学 A I	2	2					
基礎数学 A II	2	2					
基礎数学 B	2	2					
微分積分学	4		4				
代数学・幾何学	2		2				
解析学	2			2			
線形代数学	2			2			
一般理科	2	2(0)	(2)				
物理	4	2	2				
化学 I	2	2					
化学 II	2	(2)	2(0)				
保健・体育	8	2	2	2	2		
英語 I A	2	2					
英語 I B	2	2					
英語 II	3		3				
英語ライティング A	1		1				
英語ライティング B	1		1				
英語 III	3			3			
英語会話	2	1		1			
英語演習 I	3				3		
英語表現 I	2				2		
英語表現 II	1				1		
英語演習 II	1					1	
ドイツ語演習	2					2	
芸術(美術)	1	1					何れかを選択
芸術(音楽)	1	1					何れかを選択
開設単位数計	81	26	22	16	12	5	

注 1.() 内の数字は物質工学科の場合を示す。
2.芸術(美術)・芸術(音楽)は、建築学科は美術を履修、それ以外の学科は美術か音楽の何れかを選択。

(出典：平成25年度学生便覧p. 21-22)

資料5-1-①-2：専門科目の学年別開設単位数（機械工学科）

別表第3

機械工学科 専門科目の学年別開設単位数

授業科目	学修単位の種類	単位数	学年別配当単位数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
確率統計	—	2				2		
応用数学	—	2				2		
応用物理	—	4			2	2		
機械工学基礎	—	1	1					
工業数学	—	1	1					
フロンティア技術入門	—	1	1					
情報処理	—	2		2				
工業力学Ⅰ	—	2		2				
工業力学Ⅱ	—	2			2			
材料力学	—	4			2	2		
材料科学	—	2			2			
熱力学	—	2				2		
水力学	—	2				2		
機械工学法	—	4		2	2			
電気工学概論	—	2				2		
電子工学概論	講義 A	2					2	
機械工学演習Ⅰ	演習	1				1		
機械工学演習Ⅱ	演習	1					1	
機械製図	—	4	2	2				
機械設計製図Ⅰ	—	2			2			
機械設計製図Ⅱ	—	2				2		
機械設計製図Ⅲ	—	3					3	
機械設計法	—	2				2		
メカトロニクス実験	—	2					2	
機械工学実験Ⅰ	—	2			2			
機械工学実験Ⅱ	実験	1				1		
工作実習	—	9	3	3	3			
輪講	—	1				1		
機械力学	—	2					2	
制御工学	—	2					2	
数値解析	講義 A	2				2		
技術科学フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	選択
計測工学	講義 A	2					2	
材料強度学	—	2					2	
流体機械	—	2					2	
熱機関	—	2					2	
伝熱工学	講義 A	2					2	
数理工学	講義 A	2					2	
生産工学	講義 A	2					2	
技術論	—	1					1	
機械技術演習	演習	1					1	
卒業研究	—	11					11	
専門科目開設単位数計	—	100	8	11	17	23	41	
一般科目開設単位数計	—	81	26	22	16	13	4	
開設単位数合計	—	181	34	33	33	36	45	

注1) 学修単位の種類について 講義A：1単位-授業15時間+自学自習30時間
 講義B・演習：1単位-授業30時間+自学自習15時間
 実験・実習：1単位-授業45時間

なお、この欄が-印の科目は履修単位：1単位-授業30単位時間

注2) 技術科学フロンティア概論は、4、5年生同時開講、単位認定は5年次。

資料5-1-①-3：専門科目の学年別開設単位数（電気電子創造工学科）（1／3）

別表第3

電気電子創造工学科 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	学修単位の種類	単位数	学年別配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
共通	エンジニアリング数学Ⅰ	—	1	1					
	エンジニアリング数学Ⅱ	—	1		1				
	エンジニアリング数学Ⅲ	—	1			1			
	エンジニアリング数学Ⅳ	講義 B	1				1		
	確率統計	—	2				2		
	応用数学	—	2				2		
	応用物理Ⅰ	—	1			1			
	応用物理Ⅱ	—	1			1			
	電子工学	—	1			1			
	電子デバイス工学	講義 B	1				1		
	電子物性工学	講義 A	2					2	選択
	熱力学	講義 A	2					2	
	量子力学	講義 A	2					2	
	電気電子材料	講義 A	2					2	
	光波工学	講義 A	2					2	
	音響波動工学	講義 A	2					2	
	エンジニアリング・イントロダクション	—	1	1					
	エンジニアリング・スキル	—	1	1					
	エンジニアリング・エッセンス	—	1		1				
	電気電子計測	—	1		1				
	計測工学	講義 B	1				1		
	制御工学Ⅰ	講義 B	1				1		
	電気機器工学Ⅰ	講義 B	1				1		
	システム工学	講義 A	2					2	選択
	グローバル・マネジメント	講義 A	2					2	
	電気電子製図	講義 A	2					2	
	フロンティア技術入門	—	1	1					集中
	インテンシブ・イングリッシュ	—	5	1	1	1	1	1	
	電気電子基礎英語Ⅰ	—	1			1			
	電気電子基礎英語Ⅱ	—	1			1			
	電気電子応用英語	講義 B	1				1		
	電気電子実践英語	講義 A	2					2	
	技術科学フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	
基礎電気電子工学	—	1	1					選択	
電気回路Ⅰ	—	1		1					
電気回路Ⅱ	—	1		1					
電気回路Ⅲ	—	1			1				
電気回路Ⅳ	—	1			1				
過渡現象論	講義 B	1				1			
基礎電磁気	—	1		1					
電磁気学Ⅰ	—	1			1				
電磁気学Ⅱ	—	1			1				
電磁気学Ⅲ	講義 B	1				1			
電磁気学Ⅳ	講義 B	1				1			

資料5-1-①-3：専門科目の学年別開設単位数（電気電子創造工学科）（2／3）

区分	授業科目	学修単位の種類	単位数	学年別配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
共通	通信工学	講義 B	1				1		
	電磁波工学	講義 A	2					2	選択
	電子情報工学	—	1		1				
	電子回路Ⅰ	—	1			1			
	電子回路Ⅱ	—	1			1			
	デジタル回路	講義 B	1				1		
	回路設計論	講義 B	1				1		
	集積回路設計	講義 A	2					2	選択
	コンピュータ入門	—	1	1					
	プログラミングⅠ	—	1		1				
	プログラミングⅡ	—	1		1				
	プログラミングⅢ	—	1			1			
	プログラミングⅣ	—	1			1			
	組込コンピュータ技術	講義 A	2					2	選択
	数値解析	講義 A	2					2	選択
	創造工学実験Ⅰ	—	2	2					
	創造工学実験Ⅱ	—	2		2				
	創造工学実験Ⅲ	—	2			2			
	プロジェクト・ワーク	—	2			2			
	電気電子創造実験	実験	2				2		
エレクトロニクス・デザイン	実験	2				2			
コロキウム&ラポラトリワークⅠ	演習	1					1		
コロキウム&ラポラトリワークⅡ	演習	1					1		
卒業研究	—	10						10	
環境共生エネルギーコース	電気機器工学Ⅱ	講義 A	2				2		
	パワーエレクトロニクス	講義 A	2				2		
	エネルギー工学	講義 A	2					2	選択
	電力系統工学	講義 A	2					2	選択
	高電圧工学	講義 A	2					2	選択
	先端材料科学	講義 A	2					2	選択
	電気法規	講義 A	2					2	選択
	エネルギー変換デバイス	講義 A	2					2	選択
	新エネルギー発電	講義 A	2					2	選択
	環境エネルギー工学実験	実験	2					2	
制御システムコース	制御工学Ⅱ	講義 A	2				2		
	デジタル制御工学	講義 A	2				2		
	応用制御工学	講義 A	2					2	選択
	信号処理	講義 A	2					2	選択
	ロボット工学	講義 A	2					2	選択
	サイバネティックス	講義 A	2					2	選択
	メカトロニクス	講義 A	2					2	選択
	医療支援システム	講義 A	2					2	選択
	エマージェントシステムズ	講義 A	2					2	選択
制御システム工学実験	実験	2					2		

(出典：平成25年度学生便覧p. 25)

資料5-1-①-3：専門科目の学年別開設単位数（電気電子創造工学科）（3／3）

区分	授業科目	学修単位の種類	単位数	学年別 配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
情報デザインコース	プログラミング設計	講義A	2				2		
	計算機工学	講義A	2				2		
	デジタルデザイン	講義A	2					2	選択
	マルチメディア工学	講義A	2					2	選択
	ネットワーク技術	講義A	2					2	選択
	情報理論	講義A	2					2	選択
	情報セキュリティ	講義A	2					2	選択
	ソフトウェア工学	講義A	2					2	選択
	スマートインフォメディア	講義A	2					2	選択
	情報デザイン工学実験	実験	2					2	
専門科目開設単位数計			160	9	12	19	25	59	
一般科目開設単位数計			81	26	22	16	13	4	
開設単位数合計			241	35	34	35	38	63	

注1) 学修単位の種類について
 講義A：1単位＝授業15時間＋自学自習30時間
 講義B・演習：1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 実験・実習：1単位＝授業45時間
 なお、この欄が－印の科目は履修単位：1単位＝授業30単位時間

注2) 技術科学フロンティア概論は、4, 5年生同時開講、単位認定は5年次

(出典：平成25年度学生便覧p. 26)

資料5-1-①-4：専門科目の学年別開設単位数（物質工学科）（1／2）

別表第3

物質工学科（2-1） 専門科目の学年別開設単位数

授 業 科 目	学修単位の種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
確 率 統 計	-	2				2		
応 用 数 学	-	1				1		
応 用 物 理 I	-	2			2			
応 用 物 理 II	講義 B	2				2		
フロンティア技術入門	-	1	1					
物 質 工 学 入 門 I	-	2	2					
物 質 工 学 入 門 II	-	2		2				
基 礎 化 学	-	2		2				
分 析 化 学	-	2		2				
有 機 化 学 I	-	1		1				
有 機 化 学 II	-	2			2			
有 機 化 学 III	講義 B	1				1		
無 機 化 学	-	1			1			
工 学 概 論	-	1			1			
生 物 化 学	-	2			2			
化 学 工 学 I	-	2			2			
物 理 化 学 I	-	2			2			
物 理 化 学 II	講義 A	2				2		
物 理 化 学 III	講義 A	2				2		
高 分 子 化 学	講義 A	2				2		
電 子 情 報 工 学	講義 B	1				1		
機 器 分 析 I	講義 B	1				1		
機 器 分 析 II	講義 A	2					2	
金 属 化 学	講義 A	2					2	
工 業 化 学	講義 B	2					2	
環 境 化 学 I	講義 A	2				2		
環 境 化 学	講義 A	2					2	
化 学 英 語	講義 B	1					1	
技術科学フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	選択
化 学 演 習 I	-	2		2				
化 学 演 習 II	-	1			1			
情 報 処 理 実 習 I	-	2	2					
化 学 基 礎 実 験	-	3	3					
分 析 化 学 実 験	-	2		2				
物 質 工 学 実 験	-	4			4			
綜 合 工 学 実 験	-	2				2		
卒 業 研 究	-	11					11	

(出典：平成25年度学生便覧p.27)

資料5-1-①-4：専門科目の学年別開設単位数（物質工学科）（2/2）

物質工学科（2-2） 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	学修単位の種類	単位数	学年別 配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
物質（材料化学）コース	材料工学	講義A	2				2		
	化学工学Ⅱ	講義A	2				2		
	高分子材料	講義A	2					2	
	固体化学	講義A	2					2	
	無機材料	講義A	2					2	
	材料化学実験Ⅰ	-	4				4		
生物（生物工学）コース	材料化学実験Ⅱ	実験	2					2	
	微生物工学	講義A	2				2		
	酵素工学	講義A	2				2		
	生物有機化学	講義A	2					2	
	遺伝子工学	講義A	2					2	
	細胞工学	講義A	2					2	
	生物工学実験Ⅰ	-	4				4		
	生物工学実験Ⅱ	実験	2					2	
	反応工学	講義A	2					2	
	生物資源工学	講義A	2					2	
	プロセス工学	講義A	2					2	
	食品化学	講義A	2					2	
専門科目開設単位数計			116	8	11	17	34	46	
一般科目開設単位数計			81	26	22	16	13	4	
開設単位数合計			197	34	33	33	47	50	

注1) 学修単位の種類について 講義A：1単位＝授業15時間＋自学自習30時間
 講義B・演習：1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 実験・実習：1単位＝授業45時間
 なお、この欄が一印の科目は履修単位：1単位＝授業30単位時間

注2) 並列授業
 前期：材料工学—微生物工学（4年）
 無機材料—遺伝子工学（5年）
 固体化学—生物有機化学（5年）
 材料化学実験Ⅰ—生物工学実験Ⅰ（4年）
 材料化学実験Ⅱ—生物工学実験Ⅱ（5年）
 後期：化学工学Ⅱ—酵素工学（4年）
 高分子材料—細胞工学（5年）
 材料化学実験Ⅰ—生物工学実験Ⅰ（4年）

注3) 技術科学フロンティア概論は、4、5年生同時開講、単位認定は5年次。

（出典：平成25年度学生便覧p.28）

資料5-1-①-5：専門科目の学年別開設単位数（建築学科）

別表第3

専門科目の学年別開設単位数

建築学科

授 業 科 目	学修単位の種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
応 用 数 学	—	2				2		
応 用 物 理 I	—	2			2			
応 用 物 理 II	—	1				1		
フロンティア技術入門	—	1	1					
技術科学フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	選択
建 築 概 論	—	2	2					
建 築 構 造 シ ス テ ム	—	1		1				
建 築 構 造 力 学 I	—	2		2				
建 築 構 造 力 学 II	—	2			2			
建 築 構 造 力 学 III	—	2				2		
建 築 構 造 力 学 演 習	—	1		1				
建 築 材 料	—	2			2			
鉄筋コンクリート構造	—	2				2		
鋼 構 造	—	2				2		
木 構 造	講義 B	1					1	
建 築 構 造 計 画	講義 A	2					2	
インテリアデザイン	—	1		1				
建 築 計 画 I A	—	1		1				
建 築 計 画 I B	—	1			1			
建 築 計 画 II	講義 A	2				2		
建 築 計 画 III	講義 A	2					2	
(新)福祉住環境	—	1			1			
福祉住環境	講義 A	2					2	
現代建築論	講義 A	2					2	
建築史	講義 A	2				2		
創 造 演 習 I	—	5	5					
創 造 演 習 II	—	5		5				
創 造 演 習 III A	—	2			2			
創 造 演 習 III B	—	2			2			
建 築 設 計 I A	—	2			2			
建 築 設 計 I B	—	2			2			
建 築 意 匠 計 画	講義 A	2					2	並列
構 造 設 計	講義 A	2					2	開講
建 築 設 計 II A	演 習	3				3		
建 築 設 計 II B	演 習	3				3		
建 築 環 境 工 学 I	—	2				2		
建 築 環 境 工 学 II	講義 A	2					2	
建 築 設 計 備 考	講義 A	2					2	
建 築 実 験	—	2				2		
建 築 施 工	—	2					2	
建 築 測 量	演 習	1					1	
建 築 法 規	講義 A	2					2	
建 築 耐 震 構 造	—	1					1	
建 築 応 用 力 学	講義 A	2					2	
建 築 ゼ ミ ナ ー	—	2					2	
卒 業 研 究	—	13					13	
専 門 科 目 開 設 単 位 計		100	8	11	16	23	40	
一 般 科 目 開 設 単 位 計		81	26	22	16	13	4	
開 設 単 位 合 計		181	34	33	32	36	44	

注1) 学修単位の種類について 講義A：1単位＝授業15時間＋自学自習30時間
 講義B・演習：1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 実験・実習：1単位＝授業45時間

なお、この欄が一印の科目は履修単位：1単位＝授業30単位時間

注2) 技術科学フロンティア概論は、4、5年生同時開講、単位認定は5年次。

(出典：平成25年度学生便覧p.29)

資料 5-1-①-6 : 専門科目の学年別開設単位数 (電気情報工学科) (1 / 2)

附則別表第 3

電気情報工学科 (2-1) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授 業 科 目	学修単位の 種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備 考	
				1年	2年	3年	4年	5年		
コ ス 共 通	確 率 統 計	—	2				2			
	応 用 数 学	—	2				2			
	応 用 物 理	—	2			2				
		講義 B	2				2			
	フロンティア技術入門	—	1	1						
	電気情報工学大系	—	1	1						
	情報工学 I	—	1	1						
	電気数学 I	—	1	1						
	電気電子製図	—	2	2						
	電子情報工学	—	1		1					
	電気磁気学 I	—	2		2					
	電気回路学 I	—	2		2					
	情報工学 II	—	2		2					
	電気数学 II	—	1		1					
	電気電子工学演習 I	—	1		1					
	電気磁気学 II	—	2			2				
	電気回路学 II	—	2			2				
	情報工学 III	—	2			2				
	電子回路 I	—	2			2				
	電子工学	—	1			1				
	電気電子計測	—	1			1				
	電気電子工学演習 II	—	1			1				
	プロジェクト・ワーク	—	2			2				
	電気情報工学実験	—	6	2	2	2				
	共 通	電気情報工学実験	実 験	2				2		
		エレクトロニクス・デザイン	実 験	2				2		
		コンピュータ工学	講義 A	2				2		
		電子デバイス工学	講義 A	2				2		
		電気機器工学	講義 A	2				2		
		過渡現象論	講義 B	1				1		
		電子回路 II	講義 A	2				2		
		情報通信工学	講義 A	2				2		
		技術科学フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	
電磁波工学		講義 A	2					2		
デジタル回路		講義 A	2					2		
数値計算法		講義 A	2					2		
メカトロニクス		講義 A	2					2		
制御工学		講義 A	2					2	選択	
信号処理		講義 A	2					2		
マルチメディア工学		講義 A	2					2		
電気材料		講義 A	2					2		
量子力学	講義 A	2					2			
電気法規	講義 A	2					2			
卒業研究	—	10						10		

(出典 : 平成 25 年度学生便覧 p. 33)

資料 5-1-①-6 : 専門科目の学年別開設単位数 (電気情報工学科) (2 / 2)

電気情報工学科 (2-2) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授 業 科 目	学修単位の種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備 考
				1年	2年	3年	4年	5年	
工学 電磁環境 コース	パワーエレクトロニクス	講義 A	2				2		
	電力システム工学	講義 A	2					2	
	高電圧工学	講義 A	2					2	
	電磁工学実験	実 験	2					2	
工学 情報計測 コース	情報工学 IV	講義 A	2				2		
	集積回路設計	講義 A	2					2	
	情報ネットワーク論	講義 A	2					2	
	情報工学実験	実 験	2					2	
工学 電気物性 コース	電子物性	講義 A	2				2		
	フォトニクス材料	講義 A	2					2	
	情報デバイス工学	講義 A	2					2	
	物性工学実験	実 験	2					2	
専門科目開設単位計			113	8	11	17	27	50	
一般科目開設単位計			81	26	22	16	13	4	
開設単位合計			194	34	33	33	40	54	

注1) 学修単位の種類について 講義 A : 1 単位 = 授業15時間 + 自学自習30時間
 講義 B・演習 : 1 単位 = 授業30時間 + 自学自習15時間
 実験・実習 : 1 単位 = 授業45時間
 なお、この欄が一印の科目は履修単位 : 1 単位 = 授業30単位時間

注2) 技術科学フロンティア概論は、4, 5年生同時開講、単位認定は5年次。

(出典 : 平成 25 年度学生便覧 p. 34)

資料5-1-①-7：専門科目の学年別開設単位数（電子制御工学科）（1 / 2）

附則別表第3

電子制御工学科（2-1） 専門科目の学年別開設単位数

授 業 科 目	学修単位の種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備 考
			1年	2年	3年	4年	5年	
確 率 統 計	-	2				2		
応 用 数 学	-	2				2		
応 用 物 理 I	-	1			1			
応 用 物 理 II	-	1			1			
応 用 物 理 III	-	1				1		
応 用 物 理 IV	-	1				1		
フロンティア技術入門	-	1	1					
科学技術フロンティア概論	講義 A	2				(2)	2	選択
量 子 工 学	講義 A	2					2	*
物 性 工 学	講義 A	2					2	*
電 磁 気 学 I	-	1			1			
電 磁 気 学 II	-	1			1			
電 磁 気 学 III	-	1				1		
電 磁 気 学 IV	-	1				1		
電 磁 工 学	講義 A	2					2	*
回 路 工 学 基 礎	-	1	1					
電 気 回 路 I	-	1		1				
電 気 回 路 II	-	1		1				
電 気 回 路 III	-	1				1		
電 気 回 路 IV	-	1				1		
電 子 回 路 I	-	1			1			
電 子 回 路 II	-	1			1			
電 子 回 路 III	-	1				1		
電 子 工 学 I	-	1				1		
電 子 工 学 II	講義 A	2					2	*
計 測 工 学 I	-	1				1		
計 測 工 学 II	-	1				1		
通 信 工 学 I	-	1				1		
通 信 工 学 II	講義 A	2					2	*
デ ジ タ ル 工 学	講義 A	2					2	*
応 用 電 子 工 学	講義 A	2					2	*
コ ン ピ ュ ー タ 基 礎	-	1	1					
論 理 回 路 I	-	1		1				
論 理 回 路 II	-	1		1				
ア セ ン ブ ラ	-	1			1			
コ ン ピ ュ ー タ	-	1			1			
プ ロ グ ラ ム I	-	1		1				
プ ロ グ ラ ム II	-	1		1				
プ ロ グ ラ ム III	-	1			1			
プ ロ グ ラ ム IV	-	1			1			

(出典：平成25年度学生便覧 p.35)

資料 5-1-①-7 : 専門科目の学年別開設単位数 (電子制御工学科) (2 / 2)

電子制御工学科 (2-2) 専門科目の学年別開設単位数

授 業 科 目	学修単位の種類	単位数	学 年 別 配 当 単 位 数					備考
			1年	2年	3年	4年	5年	
ソフトウェア工学 I	-	1				1		
ソフトウェア工学 II	-	1				1		
ソフトウェア工学 III	講義 A	2					2	*
情 報 工 学	講義 A	2					2	*
電 子 制 御 基 礎 I	-	1	1					
電 子 制 御 基 礎 II	-	1	1					
電 子 制 御 基 礎 III	-	1		1				
電 子 制 御 基 礎 IV	-	1		1				
電 子 制 御 基 礎 V	-	1			1			
電 子 制 御 基 礎 VI	-	1			1			
制 御 工 学 I	-	1				1		
制 御 工 学 II	-	1				1		
制 御 工 学 III	講義 A	2					2	*
制 御 工 学 IV	講義 A	2					2	*
応 用 制 御 工 学	講義 A	2					2	*
シ ス テ ム 演 習 I	-	1	1					
シ ス テ ム 演 習 II	-	1	1					
シ ス テ ム 演 習 III	-	1		1				
シ ス テ ム 演 習 IV	-	1		1				
シ ス テ ム 演 習 V	-	1			1			
シ ス テ ム 演 習 VI	-	1			1			
シ ス テ ム 工 学	講義 A	2					2	*
輪 講 I	-	1					1	
輪 講 II	-	1					1	
工 学 実 験	-	8	1	1	3	3		
	実 験	2					2	
卒 業 研 究	-	10					10	
専 門 科 目 開 設 単 位 計		100	8	11	17	22	42	
一 般 科 目 開 設 単 位 計		81	26	22	16	13	4	
開 設 単 位 合 計		181	34	33	33	35	46	

注 1) *印は、5年次選択科目を示す。

注 2) 学修単位の種類について

講義 A : 1 単位 = 授業 15 時間 + 自学自習 30 時間

講義 B・演習 : 1 単位 = 授業 30 時間 + 自学自習 15 時間

実験・実習 : 1 単位 = 授業 45 時間

なお、この欄が-印の科目は履修単位 : 1 単位 = 授業 30 単位時間

注 3) 技術科学フロンティア概論は、4, 5 年生同時開講、単位認定は 5 年次。

(出典 : 平成 25 年度学生便覧 p. 36)

資料 5-1-①-8 : 準学士課程の学習・教育目標 (学科ごと)

別表第 1

各学科等の教育方針と育成すべき人材像 (教育目標)

一般科	一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を育成する。これにより大学教養課程レベルの知識を習得し、更に、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力 (文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等) を養うことに重点をおいた教育を行う。
機械工学科	ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。
電気電子創造工学科	低学年においては理数系及び英語ならびに専門基礎科目を中心に習熟度別の授業を行い、基礎学力の向上に努める。高学年においてはスパイラル教育により基礎学力を補完しつつ、「環境共生エネルギーコース」、「制御システムコース」及び「情報デザインコース」の3分野のコースに分かれ、それぞれの専門分野の授業、実験及び卒業研究を通して、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力を養い、国際的に活躍するための基礎力を有し、科学技術の複合化・融合化に対応できる技術者の育成を目指す。
物質工学科	新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。
建築学科	低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。
電気情報工学科	電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。高学年では、電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。
電子制御工学科	専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

(出典：平成 25 年度学生便覧 p. 20)

資料 5-1-①-9 : 授業科目の流れ (機械工学科)

小山高専の 教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな人間性の涵養	地理 芸術(美術・音楽)	政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学Ⅰ(1選択) 人間と科学Ⅱ(1選択)
②豊かな感性と創造力の育成	工作実習 機械製図	工作実習 機械製図	工作実習 機械設計製図Ⅰ 機械工学実験Ⅰ	機械設計製図Ⅱ 機械工学実験Ⅱ 輪講	機械設計製図Ⅲ メカトロニクス実験 卒業研究 技術科学フロンティア概論
③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上	基礎数学A 基礎数学B 一般理科 物理 化学Ⅰ	微分積分学 代数学・幾何学 物理 化学Ⅱ	解析学 線形代数学 応用物理	確率統計 応用数学 応用物理	数理工学 機械力学 制御工学 計測工学
	英語ⅠA 英語ⅠB	英語Ⅱ 英語ライティングA 英語ライティングB	英語Ⅲ		
④高度な専門知識と問題解決能力の育成	機械工学基礎 工業数理	工業力学Ⅰ 機械工作法	工業力学Ⅱ 材料力学 材料学 機械工作法	材料力学 材料学 機械設計法 熱力学	機械工学演習Ⅱ 材料強度学 熱機関 伝熱工学 流体機械 技術論 機械技術演習
				水力学 機械工学演習Ⅰ	
⑤情報技術の向上		情報処理		数値解析 電気工学概論	生産工学 電子工学概論
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	国語 英会話	国語	国語 英会話	文学 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語演習Ⅰ	英語演習Ⅱ ドイツ語演習
	保健・体育	保健・体育	保健・体育	保健・体育	

(出典：平成 25 年度学生便覧から整理)

資料 5-1-①-10 : 授業科目の流れ (電気電子創造工学科)

教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
① 豊かな人間性の涵養	地理 芸術	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 歴史	→ 哲学 歴史学	→ 人間と科学 I 人間と科学 II
② 豊かな感性と創造力の育成	創造工学実験 I フロンティア技術入門	→ 創造工学実験 II	→ 創造工学実験 III プロジェクト・ワーク	→ 電気電子創造実験 エレクトロニクス・デザイン	→ コース工学実験 卒業研究 → コロキウム&ラポラトリ I コロキウム&ラポラトリ II グローバル・マネジメント 技術科学フロンティア概論
③ 自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学A 基礎数学B エンジニアリング数学 I 基礎電気電子工学 エンジニアリング・イントロダクション エンジニアリング・スキル 化学 I 一般理科 物理 英語 I A・B	→ 微積分分学 代数学・幾何学 → エンジニアリング数学 II → 電気電子計測 → 電気回路 I 電気回路 II 基礎電磁気 → 化学 II → 物理 → 英語 II 英語ライティング A・B	→ 解析学 線形代数 → エンジニアリング数学 III → 英語 III	→ 応用数学 確率統計 → エンジニアリング数学 IV	
④ 各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成		電気回路 I 電気回路 II	→ 電気回路 III 電気回路 IV 電子回路 I 電子回路 II 電子工学 電磁気学 I 電磁気学 II	→ 回路設計論 → 過渡現象論 → デジタル回路 → 電子デバイス工学 通信工学 → 電磁気学 III 電磁気学 IV	→ 電気電子製図 集積回路設計 電気電子材料 電子物性工学 量子力学 熱力学 電磁波工学 音響波動工学 光波工学 システム工学
			(環境共生エネルギーコース)	電気機器工学 I 電気機器工学 II パワーエレクトロニクス	→ エネルギー工学 新エネルギー発電 電力系統工学 高電圧工学 先端材料科学 エネルギー変換デバイス 電気法規
			(制御システムコース)	制御工学 I 制御工学 II デジタル制御工学 計測工学	→ 応用制御工学 ロボット工学 メカトロニクス エアー・ジェットシステムズ サイバネティクス 医療支援システム 信号処理
			(情報デザインコース)	プログラミング設計 計算機工学	→ ソフトウェア工学 情報理論 マルチメディア工学 ネットワーク技術 情報セキュリティ スマート・インフォメディア デジタルデザイン
⑤ 情報技術の向上	コンピュータ入門	→ プログラミング I プログラミング II 電子情報工学	→ プログラミング III プログラミング IV		→ 組み込みコンピュータ技術 → 数値解析
⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成	英会話 インテンシブイングリッシュ 国語 保健・体育	→ インテンシブイングリッシュ → 国語 → 保健・体育	→ 英会話 → インテンシブイングリッシュ → 国語 → 保健・体育	→ 電気電子応用英語 → 英語表現 I・II 英語演習 I → インテンシブイングリッシュ → 文学 → 保健・体育	→ 電気電子実践英語 → 英語演習 II → インテンシブイングリッシュ ドイツ語演習

(出典：平成 25 年度学生便覧から整理)

資料 5-1-①-11：授業科目の流れ（物質工学科）

	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな人間性の涵養	地理 美術 音楽	政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学Ⅰ 人間と科学Ⅱ
②豊かな感性と創造力の育成	化学基礎実験	分析化学実験	物質工学実験	総合工学実験 材料化学実験Ⅰ 生物工学実験Ⅰ	卒業研究 材料化学実験Ⅱ 生物工学実験Ⅱ
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学 A 基礎数学 B 英語Ⅰ A 英語Ⅰ B 物理 化学Ⅰ 化学Ⅱ	微分積分学 代数学・幾何学 英語Ⅱ 英語ライティング A 英語ライティング B 物理 一般理科 化学演習Ⅰ	解析学 線形代数学 英語Ⅲ 応用物理Ⅰ 化学演習Ⅱ	確率統計 応用数学 英語演習Ⅰ 応用物理Ⅱ	英語演習Ⅱ
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	フロンティア技術入門 物質工学入門Ⅰ	基礎化学 分析化学 有機化学Ⅰ 物質工学入門Ⅱ	無機化学 有機化学Ⅱ 生物化学 物理化学Ⅰ 化学工学Ⅰ 工学概論	電子情報工学 材料工学 有機化学Ⅲ 機器分析Ⅰ 高分子化学 環境化学Ⅰ 微生物工学 酵素工学 物理化学Ⅱ 物理化学Ⅲ 化学工学Ⅱ	無機材料 金属化学 工業化学 機器分析Ⅱ 高分子材料 環境化学 環境化学Ⅱ 生物有機化学 遺伝子工学 細胞工学 食品化学 生物資源工学 固体化学 反応工学 プロセス工学
⑤情報技術の向上	情報処理実習Ⅰ			電子計算機実習	
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	国語 英会話 保健・体育	国語 保健・体育	国語 英会話 保健・体育	文学 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語演習Ⅰ 保健・体育	化学英語 英語演習Ⅱ ドイツ語演習

黄色背景の科目は年次進行で開講するため、H25は開講無し。

(出典：平成25年度学生便覧から整理)

資料 5-1-①-12：授業科目の流れ（建築学科）

本科	1年	2年	3年	4年	5年
① 豊かな人間性の涵養	地理	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 歴史	→ 哲学 歴史学	→ 人間と科学Ⅰ 人間と科学Ⅱ
	美術				
② 豊かな感性と創造力の育成	創造演習Ⅰ	→ 創造演習Ⅱ インテリアデザイン	→ 建築設計ⅠA 建築設計ⅠB	→ 建築設計ⅡA 建築設計ⅡB	→ 建築意匠
	フロンティア技術入門		建築材料	→ 建築実験	→ 卒業研究 技術科学フロンティア概論
③ 自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学A 基礎数学B	→ 微分積分学 代数学・幾何学	→ 解析学 線形代数学	→ 応用数学	
	一般理科 物理 化学Ⅰ	→ 物理 → 化学Ⅱ	→ 応用物理Ⅰ	→ 応用物理Ⅱ	
	英語ⅠA 英語ⅠB	→ 英語Ⅱ 英語ライティングA 英語ライティングB	→ 英語Ⅲ		
	建築概論	→ 建築構造システム 建築計画ⅠA	→ 建築計画ⅠB	→ 建築計画Ⅱ	→ 建築計画Ⅲ 建築測量
		建築構造力学Ⅰ 建築構造力学演習	→ 建築構造力学Ⅱ	→ 建築構造力学Ⅲ	→ 建築応用力学
④ 各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成				鉄筋コンクリート構造 鋼構造	→ 建築構造計画 建築耐震構造 木構造 構造設計
				建築環境工学Ⅰ	→ 建築環境工学Ⅱ 建築設備
			福祉住環境		福祉住環境 → 現代建築論
				建築史	建築施工 建築法規 建築ゼミナル
⑤ 情報技術の向上			創造演習ⅢA 創造演習ⅢB		
⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成	国語 英会話	→ 国語	→ 国語 → 英会話	→ 文学 → 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 英語演習Ⅰ	→ 英語演習Ⅱ ドイツ語演習
	保健・体育	→ 保健・体育	→ 保健・体育	→ 保健・体育	

(出典：平成 25 年度学生便覧から整理)

資料 5-1-①-13 : 授業科目の流れ (電気情報工学科)

本科	1年	2年	3年	4年	5年
① 涵養 人間性豊かな 豊かな 創造的な 力感	地理 芸術	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 → 歴史	→ 哲学 → 歴史学	→ 人間と科学Ⅰ (1 選択) → 人間と科学Ⅱ (1 選択)
② 性 育と豊 成 創 造 な 力 感	電気情報工学実験 電気電子製図	→ 電気情報工学実験	→ 電気情報工学実験 → プロジェクト・ワーク	→ 電気情報工学実験 → エレクトロニクス・デザイン	→ 卒業研究 → 電磁工学実験 (選択) → 情報工学実験 (選択) → 物性工学実験 (選択) 技術科学フロンティア概論
③ 自然 科学・ 英語・ 専門 基礎学 力の 向上	基礎数学A 基礎数学B 一般理科 物理 化学Ⅰ 英語ⅠA・B	→ 微分積分学 代数学・幾何学 → 物理 → 化学Ⅱ → 英語Ⅱ → 英語ライティングA・B 電気電子工学演習Ⅰ	→ 解析学 → 線形代数学 → 応用物理 → 英語Ⅲ → 電気電子工学演習Ⅱ	→ 確率統計 → 応用数学 → 応用物理	
④ 各 専門 分野に 関する 高度な 知識と 豊かな 感性の 育成	電気情報工学大系 電気数学Ⅰ	→ 電気回路学Ⅰ → 電気磁気学Ⅰ → 電気数学Ⅱ 電子情報工学	→ 電気回路学Ⅱ → 電気磁気学Ⅱ → 電子回路Ⅰ → 電子工学 → 電気電子計測	→ 過渡現象論 → 電子回路Ⅱ	量子力学 → 電磁波工学 情報通信工学 → 電磁波工学 コンピュータ工学 → 信号処理 → マルチメディア工学 → デジタル回路 → 集積回路設計 → 情報ネットワーク論 電子デバイス工学 電子物性 → 情報デバイス工学 → 電気材料 → フォトニクス材料 電気機器工学 パワーエレクトロニクス → 高圧工学 → 電力システム工学 → 制御工学 → メカトロニクス 電気法規 (5 年次配当科目は選択)
⑤ 向 情 報 技 術	情報工学Ⅰ	→ 情報工学Ⅱ	→ 情報工学Ⅲ	→ 情報工学Ⅳ	→ 数値計算法 (5 年次配当科目は選択)
⑥ 能 力 と 国 際 シ ョ ウ 成 ン	国語 英会話	→ 国語	→ 国語 → 英会話	→ 文学 → 英語演習Ⅰ → 英語表現Ⅰ・Ⅱ	→ 英語演習Ⅱ ドイツ語演習 (5 年次配当科目は選択)
	保健・体育	→ 保健・体育	→ 保健・体育	→ 保健・体育	

(出典：平成 25 年度学生便覧から整理)

資料 5-1-①-14：授業科目の流れ（電子制御工学科）

本科	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな人間性の涵養	地理 芸術（美術、音楽）	政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学Ⅰ（選択） 人間と科学Ⅱ（選択）
②豊かな感性と創造力の育成	工学実験	工学実験	工学実験	工学実験	工学デザイン実験 輪講Ⅰ 輪講Ⅱ 卒業研究
	フロンティア技術入門			技術科学フロンティア概論	
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	一般理科 化学Ⅰ 基礎数学A 基礎数学B 物理 英語ⅠA 英語ⅠB 電子制御基礎Ⅰ 電子制御基礎Ⅱ システム演習Ⅰ システム演習Ⅱ 回路工学基礎	化学Ⅱ 微分積分学 代数学・幾何学 物理 英語Ⅱ 英語ライティングA 英語ライティングB 電子制御基礎Ⅲ 電子制御基礎Ⅳ システム演習Ⅲ システム演習Ⅳ	解析学 線形代数学 応用物理Ⅰ 応用物理Ⅱ 英語Ⅲ 電子制御基礎Ⅴ 電子制御基礎Ⅵ システム演習Ⅴ システム演習Ⅵ	確率統計 応用数学 応用物理Ⅲ 応用物理Ⅳ	量子工学
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成		電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ	電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ	電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ 電気回路Ⅲ 電気回路Ⅳ 通信工学Ⅰ 電子工学Ⅰ 電子回路Ⅲ	物性工学 電磁工学 応用電子工学 通信工学Ⅱ 電子工学Ⅱ
		論理回路Ⅰ 論理回路Ⅱ	アセンブラ	計測工学Ⅰ 計測工学Ⅱ 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ	システム工学 応用制御工学 制御工学Ⅲ 制御工学Ⅳ
					デジタル工学
⑤情報技術の向上	コンピュータ基礎	プログラムⅠ プログラムⅡ	コンピュータ プログラムⅢ プログラムⅣ	ソフトウェア工学Ⅰ ソフトウェア工学Ⅱ	情報工学 ソフトウェア工学Ⅲ
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	国語 英会話 保健・体育	国語 保健・体育	国語 英会話 保健・体育	文学 英語演習Ⅰ 英語表現Ⅰ 英語表現Ⅱ 保健・体育	英語演習Ⅱ ドイツ語演習

（出典：平成 25 年度学生便覧から整理）

資料5-1-①-15：カリキュラム改定の資料

年度 授業科目	平成21年度 (現状)	平成22年度	平成23年度	単位 数の 増減
5年:保健体育	2単位 (保健体育Ⅰ・Ⅱ: 勝股加筆)	—(*)	—	-2
5年:ドイツ語演習	1単位	1単位	2単位	±0
4年:ドイツ語	4単位 (ドイツ語Ⅰ・Ⅱ:勝 股加筆)	2単位	—	
4年:英 語(振替)	—	2単位 (英語表現 Ⅰ:勝股加 筆)	3単位 (英語表現Ⅰ:2単位、 英語表現Ⅱ:1単位:勝 股加筆)	
5年:安全工学	1単位(新設)	1単位	1単位	+2
1年:フロンティア 技術入門	—	1単位(新 設)	1単位	

(出典：平成22年2月教務委員会資料の整理)

平成23年度後期より、科目名：「技術科学フロンティア概論」

開講内容：全学科4，5年生共通選択科目」2単位（講義A）

(出典：平成23年教務委員会資料の整理)

資料 5-1-②-1：他大学等の単位認定に関する規程

(5) 大学、他高専における履修に係わる単位認定に関する規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第26条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校における大学、他高専における履修に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。

(認定の対象)

第 2 条 この規定において単位が認定される対象は、大学、または他高専によって単位が認定された科目であり、各学科及び校長が認めた科目とする。

(単位認定科目と認定の条件)

第 3 条 大学、他高専における履修により単位が認定された科目の認定科目名は、「特別演習（ ）」とし、認定される単位数は、大学、他高専が認定した単位数とする。

2 当該科目の単位認定にあたっては、あらかじめ担当教員を定めて行うものとする。

3 当該科目は、担当教員が所属する学科の科目の単位として認定される。

(認定単位数)

第 4 条 認定される単位数は資格取得に係わる単位及びインターンシップに係わる単位と合わせて6単位以内とする。

(単位認定申請)

第 5 条 学生は単位の認定を受けようとするときには、2月末までに成績証明書等の単位の修得を証明できる書類、またはその写しを添えて、校長に申請するものとする。

ただし、5学年にあっては、1月末までに申請するものとする。

(単位の認定)

第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議の議を経て、校長が行う。

2 単位認定は、認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

ただし、上級学年への進級単位としては認めない。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：平成25年度学生便覧 p.63)

資料 5-1-②-2 : 他大学等との単位互換に関する協議書

小山工業高等専門学校と宇都宮大学との間における単位互換に関する協議書

小山工業高等専門学校と宇都宮大学は、「栃木県内の高等教育機関相互における単位互換に関する協定書」に基づく単位互換の実施に関し、次の事項について合意に達したので、ここに協議書を取り交わす。

- 1 受け入れ
 - (1) 小山工業高等専門学校の4学年及び5学年に在学する学生並びに専攻科に在学する学生が、宇都宮大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、宇都宮大学長は当該学生を受け入れることができる。
 - (2) 宇都宮大学に在学する学生が、小山工業高等専門学校の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、小山工業高等専門学校長は当該学生を受け入れることができる。
 - (3) 両者が受け入れる学生は、それぞれ10名程度とする。
- 2 学生の身分

両者が受け入れる学生の身分は「特別聴講学生」とする。
- 3 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数
 - (1) 履修できる授業科目の範囲

両者は特別聴講学生が履修できる授業科目（以下「単位互換授業科目」という。）一覧表（別紙様式1）を作成し、シラバス及び授業時間割表等とともに前年度の3月下旬までに相手先に送付するものとする。
 - (2) 修得できる単位数

特別聴講学生として、小山工業高等専門学校の4学年及び5学年の学生が宇都宮大学で修得できる単位数は6単位以内、専攻科の学生が宇都宮大学で修得できる単位数は16単位以内とし、宇都宮大学の学生が小山工業高等専門学校で修得できる単位数は当該学生の在学期間を通じて14単位以内とする。
- 4 出願手続等

特別聴講学生の出願手続及び受け入れの決定については、次の各号に掲げる要領により取り扱うものとする。

 - (1) 派遣側は、単位互換授業科目の履修を希望する学生を取りまとめ、受入側が指定する期日までに関係書類を提出する。（別紙様式2又は受入側が指定する様式）
 - (2) 受入側は、選考のうえ特別聴講学生を決定し、派遣側へ履修許可通知書（別紙様式3）及び授業科目の履修手続関係書類を併せて通知する。
 - (3) 派遣側は、受入側が指定する授業科目の履修手続関係書類を指定日までに提出するものとする。
- 5 成績評価及び単位の認定

成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる要領により取り扱うものとする。

 - (1) 受入側は、特別聴講学生として履修した授業科目について、受入側の学則等の定めるところにより成績の評価及び単位の認定を行うものとし、成績の評価及び単位の認定結果を、前期の授業科目については前期の試験終了後2週間以内に、後期の

- 授業科目については後期の試験終了後2週間以内に派遣側に通知するものとする。ただし、卒業年次に該当する者については、派遣側の希望する日までに通知するものとする。（別紙様式4）
- (2) 派遣側は、受入側からの通知により、派遣側の学則等に定めるところにより、成績の評価及び単位の認定を行うものとする。
- 6 施設・設備の利用

特別聴講学生が履修に必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。
 - 7 休学及び退学等の通知

派遣側は、派遣学生に休学又は退学等の身分異動が生じた場合は、受入側に通知するものとする。
 - 8 授業料等

特別聴講学生の検定料、入学料及び授業料は、徴収しないものとする。
 - 9 本協議書の改廃

この協議書の改廃は、小山工業高等専門学校長と宇都宮大学長との協議によるものとする。
 - 10 随時協議

この協議書に定めるもののほか、運用に関し必要な事項又は疑義が生じた場合は、両者間で随時協議するものとする。
 - 11 この協議書は、平成15年10月1日から発効し、両者間で異議が生じない限り継続するものとする。

平成15年9月30日

小山工業高等専門学校長

宇都宮大学長

(出典：学生課教務係資料)

資料 5-1-②-3 : e ラーニング単位互換 (一部)

e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換に関する協定書

国立大学法人長岡技術科学大学、国立大学法人豊橋技術科学大学、国立大学法人九州工業大学、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学、独立行政法人国立高等専門学校機構宮城工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構仙台電波工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構茨城工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構群馬工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構栃木工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構富山工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構石川工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構福井工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構山梨工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構新潟工業高等専門学校は、相互の交流と協力を促進し、教育内容の充実を図ることを目的として、ここに、e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換協定 (以下「本協定」という。) を締結する。

- (受入れ)
- 第1条 本協定に参加する大学・高等専門学校 (以下「大学・高専」という。) に在学する学生が、本協定に参加する他の大学・高専の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、本協定に参加する他の大学・高等専門学校長は、当該学生を受入れることができる。
- (学生の身分)
- 第2条 前条により学生を受入れる大学・高専 (以下「受入大学・高専」という。) は、当該学生を「特別聴講学生」として取り扱うものとする。
- (受入時期及び履修期間)
- 第3条 特別聴講学生の受入時期及び履修期間は、別に定める。
- (履修科目の範囲及び単位数)
- 第4条 特別聴講学生として履修できる授業科目の範囲及び単位数は、別に定める。
- (受入学生数)
- 第5条 受入大学・高専が受入れる特別聴講学生数は、別に定める。
- (受入手続)
- 第6条 特別聴講学生の受入手続は、別に定める。
- (履修方法等)
- 第7条 特別聴講学生の履修方法及び試験実施方法については、受入大学・高専の定める

e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換に関する実施要項

e ラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定書 (以下「本協定」という。) 第 10 条に基づき、国立大学法人長岡技術科学大学、国立大学法人豊橋技術科学大学、国立大学法人九州工業大学、国立大学法人北陸先端科学技術大学院大学、独立行政法人国立高等専門学校機構宮城工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構仙台電波工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構福島工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構茨城工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構群馬工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構栃木工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構岐阜工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構富山工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構石川工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構福井工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構山梨工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構長野工業高等専門学校、独立行政法人国立高等専門学校機構新潟工業高等専門学校は、ここに、遠隔教育による単位互換に関する実施要項 (以下「本実施要項」という。) に合意する。

- 申請資格
特別聴講学生として申請できる者は、本協定に参加する大学・高等専門学校 (以下「大学・高専」という。) に在学する学生とし、科目等履修生及び研究生等の非正規学生を除く。
- 受入時期及び履修期間
(1) 特別聴講学生の受入時期は、当該学生の履修する授業科目の開講期間の始めとする。
(2) 特別聴講学生としての履修期間は、当該学生の履修する授業科目の開講期間とする。
- 履修科目及び単位数
(1) 受入大学・高専は、特別聴講学生が履修できる授業科目を定め、所定の期日までに参加大学・高専に通知する。
(2) 特別聴講学生が履修できる授業科目及び単位数の上限は、派遣大学・高専の定めるところによる。
(3) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の計算については、派遣大学・高専の定めるところによる。
- 受入学生数
特別聴講学生数は、授業科目毎に受入大学・高専が決定し、所定の期日までに参加大学・高専に通知する。
5 特別聴講学生の受入手続
(1) 特別聴講学生を希望する学生は、派遣大学・高専の定める期間内に申請手続を行う。

(出典：学生課教務係資料)

資料 5-1-②-4 : 遠隔授業の受講実施状況

豊橋技大					
学期	学年・クラス	氏名	受講科目	単位数	履修
	4D		社会論上巻	1	A
	4C		社会論上巻	1	A
	4C		社会論上巻	1	O
	4C		社会論上巻	1	A
	4C		社会論上巻	1	B
全履	学年・クラス		受講科目	単位数	履修
	4M		英語学Ⅰ	3	A
長岡技大					
学期	学年・クラス	氏名	受講科目	単位数	履修
	4C		経済学論	2	B
			社会学論	2	B
全履	学年・クラス		受講科目	単位数	履修
	5M		情報工学Ⅰ	2	O
	5M		情報工学Ⅱ	2	A
	5M		ソフトウェア工学Ⅰ	2	B
5D		情報工学Ⅱ	2	B	

(出典：学生課教務係資料)

資料5-1-②-5：インターンシップ規程（その1）

（4）インターンシップに係わる単位認定に関する規程

（目 的）

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第26条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校におけるインターンシップに係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。

（認定の対象）

第 2 条 この規程におけるインターンシップによって単位と認定される対象は、企業、官公庁又は大学において行う実務研修並びにその他インターンシップにふさわしいと各学科及び校長が認めたものとする。

（単位認定科目と認定の条件）

第 3 条 インターンシップに対応する単位認定科目名は、「特別演習（ ）」とし、原則として6日間以上を1単位とする。また、単位認定に際しては、事前のガイダンスと事後の発表会を含むものとする。

2 当該科目は、認定を担当する学科の科目の単位として認定される。

（認定単位数）

第 4 条 認定される単位数は資格取得に係わる単位及び大学、他高専における履修に係わる単位と合わせて、6単位以内とする。

（単位認定申請）

第 5 条 学生は、単位の認定を受けようとするときには、2月末までに修了証明書等を添えて校長に申請するものとする。

ただし、5学年にあっては、1月末までに申請するものとする。

（単位の認定）

第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議の議を経て、校長が行う。

2 単位認定は、認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。

ただし、上級学年への進級単位としては認めない。

（雑 則）

第 7 条 この規程に定めるもののほか、企業又は官公庁において行う実務研修について必要な事項は別に定める。

附 則

この規程は、平成12年10月18日から施行し、平成12年10月1日から適用する。

省略

附 則

この規程は、平成18年4月19日から施行する。

（出典：平成25年度学生便覧p.61-62）

資料5-1-②-5：インターンシップ規程（その2）

(6) 実務研修要項

(趣 旨)

第1条 小山工業高等専門学校学則第26条の3及びインターンシップに係わる単位認定に関する規程第7条に基づき行う実務研修は、この要項の定めるところによる。

(理 由)

第2条 実務研修は、企業又は官公庁において技術体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、技術体験で得たことを学修に生かすことを目的とする。

(計画・実施)

第3条 実務研修は、学科長及び学級担任が計画のうえ、実務研修実施計画書(様式1)を作成し、校長の許可を得て実施するものとする。

(実施の時期及び期間)

第4条 実務研修の期間は、原則として4年次とし、事前のガイダンスと事後の発表会を含んで原則として6日以上とする。

(経 費)

第5条 実務研修に要する費用は、原則として実務研修を行う学生(以下「実務研修生」という。)の負担とする。

(実施責任者)

第6条 実務研修を円滑に実施するため、学科長を実施責任者とする。

(指導教員の業務)

第7条 学級担任は、学科長の指示のもとに次の業務にあたる。

- 一 実務研修生の受入先事業所等の選定
- 二 実務研修生の受入先事業所等の実習指導者の指定
- 三 実務研修生の受入先事業所等への配属
- 四 実務研修内容、テーマ等に関する指導・助言
- 五 実務研修生における安全管理(傷害保険への加入指導を含む。)・就業心得等の事前指導
- 六 実務研修中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告

七 実務研修先事業所等との連絡調整

八 その他必要な事項

(実地指導)

第8条 学科長又は学級担任は、必要に応じて実務研修生に対し、受入先事業所等において実地指導を行うものとする。

(報 告)

第9条 実務研修生は、実務研修終了後直ちに、次に掲げる書類を学級担任、学科長及び校長補佐(教務担当)を経て校長に提出しなければならない。

- 一 実務研修証明書(様式2)
- 二 実務研修報告書(様式3)
- 三 実務研修日誌(様式4)

第10条 所定の実務研修を修了した学生の評価は、次によるものとする。ただし、第4条に定める実務研修期間を満了しない場合は、この限りでない。

- 一 実務研修の成績は、前条に定める内容等に基づき、学級担任が総合的に判断し評価する。
- 二 評価は、合格とし、合格の場合は、実務研修の単位を認定する。

(事 務)

第11条 実務研修に関する事務は、学生課教務係が処理する。

(雑 則)

第12条 この要項に定めるもののほか、実務研修に関し必要な事項は、校長補佐(教務担当)と学科長が協議し校長が定めるものとする。

附 則

この要項は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：平成25年度学生便覧 p.65-66)

資料5-1-②-6：インターンシップ実施状況の記録

平成23～25年度インターンシップ実施状況(本科)																	
		※延べ人数							※延べ人数								
		23年度	大学	企業	計			24年度	大学	企業	計			25年度	大学	企業	計
4年	M	10	29	39	4年	M	4	26	30	4年	M	3	38	41			
	E	3	18	21		E	3	24	27		E	12	21	33			
	D	2	13	15		D	3	13	16		D	4	19	23			
	C	3	3	6		C	3	19	22		C	1	29	30			
	A	0	23	23		A	0	23	23		A	1	26	27			
	計	18	86	104		計	13	105	118		計	21	133	154			
5年	M	0	0	0	5年	M	0	0	0	3,5年	3M	1	0	1			
	E	0	0	0		E	0	0	0		5M	1	0	1			
	D	0	0	0		D	0	0	0					0			
	C	0	0	0		C	0	0	0					0			
	A	0	1	1		A	0	1	1					0			
	計	0	1	1		計	0	1	1		計	2	0	2			
計	18	87	105	計	13	106	119	計	23	133	156						

大学等・・・大学、研究所

(出典：教務委員会資料 平成25年度の整理)

資料 5-1-②-7 : 資格取得単位関係

(3) 資格取得に係わる単位認定に関する規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第26条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における資格取得に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。

(認定の対象)

第 2 条 この規程における資格取得によって単位と認定される対象は、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で合格したものをいう。

(単位認定科目と認定単位数)

第 3 条 取得資格に対応する単位認定科目と認定単位数については、別表に定める。

(単位認定学年と単位数)

第 4 条 認定される学年は5学年とし、単位数はインターンシップに係わる単位及び大学、他高専における履修に係わる単位と合わせて6単位以内とする。

(単位認定申請)

第 5 条 学生は、単位の認定を受けようとするときには、5年次の1月末までに合格証明書又は成績証明書等を添えて校長に申請するものとする。

(単位の認定)

第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行う。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

省略

(出典：平成 25 年度学生便覧 p. 53)

(別表：平成25年度学生便覧 p. 54-60)

資料 5-1-②-8 : 資格取得者数と単位認定者数の例

クラス	No.	氏 名	取得資格名等	取得年度	単位数	判定	認定単位数
5E			第一種 電気工事士	H24	1	合	1
			第二種 電気工事士	H25	1	合	1
			TOEIC 420点以上(465点)	H25	1	合	1
			TOEIC 420点以上(455点)	H25	1	合	3
			第二種 電気工事士	H23	1	合	
			危険物取扱者 乙種 4類	H24	1	合	
			TOEIC 420点以上(430点)	H25	1	合	1
			TOEIC 420点以上(465点)	H25	1	合	1
			第二種 電気工事士	H25	1	合	1
			TOEIC 420点以上(465点)	H25	1	合	1
			第二種 電気工事士	H23	1	合	1
			第二種 電気工事士	H23	1	合	2
			TOEIC 420点以上(495点)	H25	1	合	
			TOEIC 420点以上(495点)	H25	1	合	1
			TOEIC 550点以上(605点)	H25	2	合	2
		TOEIC 420点以上(455点)	H25	1	合	1	
		TOEIC 550点以上(860点)	H23	2	合	2	

(出典：学生課教務係資料)

資料5-1-②-9：教務委員会資料・学科会議資料

平成25年度2月教務委員会議事要旨

日 時：平成26年2月5日（水） 15：00～

場 所：管理棟3F301ゼミ室

出席者：

議 題

（中略）

[依頼事項]

（中略）

3. 学生便覧に係る改正事項について

【資料-7】

小堀主事から、資格取得に係わる単位認定に関する規程の別表および高専生が取得

できる主な資格について、資料7を各科で確認のうえ、2月12日（水）までに教務

係へ連絡願いたい旨の依頼があった。

（以下、略）

（出典：教務委員会議事要録）

資料 5-1-②-10：学科統合に関するアンケート調査の一部、企業編

3. もし、電気情報工学科と電子制御工学科（各学科の定員 40 名）の二つの学科が、カリキュラム等を再検討して新しい「一つの学科」（定員 80 名）に統合再編成した場合、貴社では採用をどのようにお考えでしょうか。（ただし、新学科においても、現在の 2 学科の教育内容は含まれています。）
また、その理由がありましたらお書き下さい。

- (1) 新しい学科から採用したい
(2) 現状の 2 学科のままが良い
(3) その他

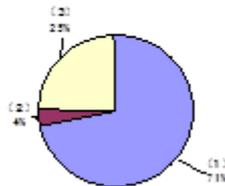


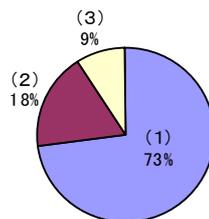
表 4-2 は、各企業からの理由である。企業 23 社からの回答があり、新学科となっても採用について

(出典：電気情報工学科・電子制御工学科資料)

資料 5-1-②-11：学科統合に関するアンケート調査の一部、中学教員編

1. 電気情報工学科と電子制御工学科（各学科の定員 40 名）の二つの学科が、カリキュラム等を再検討して新しい「一つの学科」（定員 80 名）に統合再編成した場合、先生はどのように思いますか。
（その場合、新しい電気電子系学科を第一志望としても、それ以外の学科を第二志望として認めます。

- (1) 新しい学科に入学させたい
(2) 現状の 2 学科のままが良い
(3) その他



(出典：電気情報工学科・電子制御工学科資料)

資料5-2-①-1： 専門学科の実験・実習・演習科目（その1）

機械工学科	1年	2年	3年	4年	5年
実験			機械工学実験Ⅰ(2)	機械工学実験Ⅱ(1) 輪講(1)	メカトロニクス実験((選択)2) 卒業研究(必修1)
単位小計	0	0	2	2	13
実習	工作実習(3)	工作実習(3)	工作実習(3)		
単位小計	3	3	3	0	0
演習				機械工学演習Ⅰ(1)	機械工学演習Ⅱ(1) 機械技術演習(選択1)
単位小計	0	0	0	1	2
合計単位	3	3	5	3	15
開設単位	8	11	17	23	41
割合%	37.5%	27.3%	29.4%	13.0%	36.6%
電気電子創造工学科					
	1年	2年	3年	4年	5年
実験	創造工学実験Ⅰ(2)	創造工学実験Ⅱ(2)	創造工学実験Ⅲ(2)、 プロジェクトワーク(2)	電気電子創造実験 (2)、エレクトロニクス デザイン(2)	(選択科目)環境エネルギー 工学実験(2)、制御シス テム工学実験(2)、情報デザ イン工学実験(2)、(必修科 目)卒業研究(10)
単位小計	2	2	4	4	12
実習	エンジニアリング・スキ ル(1)	プログラミングⅠ・Ⅱ (2)	プログラミングⅢ・Ⅳ (2)		
単位小計	1	1	2	0	0
演習	エンジニアリング・イン トロダクション(1)、エ ンジニアリング数学Ⅰ (1)	エンジニアリング・エ シックス(Ⅰ)、エンジ ニアリング数学Ⅱ(1)	エンジニアリング数学 Ⅲ(1)		
単位小計	2	2	1	0	0
合計単位	4	5	7	4	12
開設単位	8	11	17	23	41
割合%	50.0%	45.5%	41.2%	17.4%	29.3%
物質工学科					
	1年	2年	3年	4年	5年
実験	化学基礎実験(3)	分析化学実験(2)	物質工学実験(4)	総合工学実験(2) 材料化学実験(4) 生物工学実験(4)	卒業研究(13) 材料化学実験Ⅱ(2) 生物工学実験Ⅱ(2)
単位小計	3	2	4	6	15
実習	情報処理演習Ⅰ				
単位小計	2	0	0	0	0
演習		化学演習Ⅰ(2)	化学演習Ⅱ(1)		
単位小計	0	2	1	0	0
合計単位	5	4	5	6	15
開設単位	8	11	17	34	46
割合%	62.5%	36.4%	29.4%	17.6%	32.6%
建築					
	1年	2年	3年	4年	5年
実験					卒業研究(13)
単位小計	0	0	0	0	13
実習					建築測量(1)
単位小計	0	0	0	0	1
演習	創造演習Ⅰ(5)	創造演習Ⅱ(5)	建築設計ⅠA(2) 建築設計Ⅰ(2) 創造演習ⅢA(2) 創造演習ⅢB(2)	建築設計ⅡA(3) 建築設計ⅡB(3)	
単位小計	5	5	8	6	0
合計単位	5	5	8	6	14
開設単位	8	11	16	23	40
割合%	63%	45%	50%	27%	35%

資料5-2-①-1： 専門学科の実験・実習・演習科目（その2）

電気情報工学科					
	1年	2年	3年	4年	5年
実験	電気情報工学実験(2)	電気情報工学実験(2)	電気情報工学実験(2) プロジェクト・ワーク(2)	電気情報工学実験(2) エレクトロニクス・デザイン(2)	卒業研究(10) 電磁工学実験(2) 情報工学実験(2) 物性工学実験(2)
単位小計	2	2	4	4	12
実習	電気電子製図(2)				集積回路設計
単位小計	2	0	0	0	2
演習		電気電子工学演習Ⅰ(1)	電気電子工学演習Ⅱ(1)		
単位小計	0	1	1	0	0
合計単位	4	3	5	4	14
開設単位	8	11	17	27	50
割合(%)	50.0%	27.3%	29.4%	14.8%	28.0%
電子制御工学科					
	1年	2年	3年	4年	5年
実験	工学実験(1)	工学実験(1)	工学実験(3)	工学実験(3)	工学デザイン実験(2)、卒業研究(10)
単位小計	1	1	3	3	12
実習	システム演習Ⅱ(1)	論理回路Ⅰ・Ⅱ(2)、 プログラムⅠ・Ⅱ(2)	アセンブラ(1)、プログラ ムⅢ・Ⅳ(2)	ソフトウェア工学Ⅱ(1)	
単位小計	1	4	3	1	0
演習	システム演習Ⅰ(1)	システム演習Ⅲ・Ⅳ (2)	システム演習Ⅴ・Ⅵ (2)、コンピュータ(1)		
単位小計	1	2	3	0	0
合計単位	3	7	9	4	12
開設単位	8	11	17	22	42
割合%	37.5%	63.6%	52.9%	18.2%	28.6%

(出典：平成25年度専門学科科目の整理)

資料 5-2-①-2 : 学習指導法の工夫の例 (その 1)

機械工学科の例

学科 : 機械工学科 (H25 年度開講)

科目 : 機械設計製図Ⅲ

工夫の内容 : 学生がグループ分けした会社の構成員となり, 会社毎に開発するエンジン仕様を決め, 全員が設計計算を行った後, 会社毎に話し合っ て設計値を決定する. 設計値の決定には複数の要素を考慮することが必要なため, 答えが一つとは限らず, 創造性を発揮させて形を作り上げることが要求される. なお, それぞれが最終決定した設計値を基に CAD で製図を行っている.

会社とエンジンの使用

会社名	稲葉製作所	江口社	毛塚モーターズ	バイジュグループ	花岡工業
社長名	稲葉	江口	毛塚	梅壽	花岡
社員名	山下、山根、田崎	河本、熊倉、柴田、常盤	穴原、関塚、近澤	大村、福田、ヤウ	大阿久、岡田、小出、松元
用途	発電機	発電機	ポンプ駆動	ポンプ駆動	発電機
最大出力[kW]	3	3.5	4	3	3.5
最高回転数[rpm]	4000	3000	4000	3000	3500

○最高得点 : 100 点

平均点 : 84 点

○受講者数 : 22 人 / 41 人 (H25、5 年生)

所見 : 学生がグループ分けした会社の構成員となり, 会社毎に話し合っ て設計値を決定することにより, 全員参加型の授業となり, 学生の受講 (設計製図) に対する意欲が向上したと認められる。

(出典 : 機械工学科資料)

資料 5-2-①-2 : 学習指導法の工夫の例 (その 2)

機械工学科の例

科目名	機械設計製図Ⅲ	英語科目名	Mechanical Design & Drawing Ⅲ
開講年度・学期	平成 25 年度・通年	対象学科・専攻・学年	機械工学科 5 年
授業形態	講義, 製図	必修 or 選択	選択
単位数	3 単位	単位種類	履修単位 30h
担当教員	加藤 岳仁	居室 (もしくは所属)	機械工学科棟 2 階
電話	0285-20-2204	E-mail	kato_t@oyama-ct.ac.jp
授業達成目標との対応			
授業の達成目標	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
内燃機関の代表的機械であるガソリンエンジンの	②	(A-2)	d (2-d)
1. 性能設計ができる.	④	(B-3)	e
2. 主要部品の設計ができる.			
3. 代表的な部品図および組立図を CAD で作成できる.			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1~3 の課題を期限までに提出し, 口頭試問をうけること. 設計計算書 (40%), 部品図 (30%), 組立図 (30%) の割合で, 内容を設定水準で評価する.			
評価方法			
課題を評価し, 60%以上を合格とする.			
授業内容			
<p>エンジニアリングデザイン教育の考え方を実践的に学習するために, 技術と社会の関わりが大きい機械の一つであるガソリンエンジンの設計製図を行う.</p> <p>学生がグループ分けした会社の構成員となり, 会社毎に開発するエンジン仕様を決め, 全員が設計計算を行った後, 会社毎に話し合って設計値を決定する. 設計値の決定には複数の要素を考慮することが必要なため, 答えが一つとは限らず, 創造性を発揮させて形を作り上げることが要求される.</p> <p>それぞれが最終決定した設計値を基に CAD で製図を行い, 最後に図面会議を真似た教員による口頭試問を受ける.</p> <p>エンジン設計では, 教員と学生間や学生同士での討議が活発に行われ, 学生の創造性が高まる授業内容となっている.</p> <p>具体的内容は次の通りである.</p> <p>(1) 性能設計 主要諸元, インジケータ線図, 平均有効圧力, 線図係数, 性能曲線, トルク, 出力, ピストン・クランク機構— (7 週)</p> <p>(2) 主要部品の設計 ピストン, ピストンピン, 連接棒, クランク軸, バランスウェイト, クランク軸・カム軸歯車, フライホイール, 弁機構, カム軸, シリンダヘッド, クランクケース本体, 冷却フィン— (12 週)</p> <p>(3) CAD による製図 演習 (2 週), 部品図<連接棒> (2 週) および組立図 (7 週) の作成— (11 週)</p>			
キーワード	エンジン, ガソリンエンジン, 性能設計, 部品設計, CAD, 部品図, 組立図		
教科書	若林克彦「エンジン ガソリン/ディーゼル」オーム社 (2011)		
参考書	北條恵司「教科書では教えない機械設計製図」コロナ社 (2011)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	熱力学, 材料力学, 水力学, 材料学, 機械工作法, 機械設計製図, 機械設計法, 情報処理		
現学年の関連科目	熱機関, 機械力学, 材料強度学, 流体機械, 伝熱工学		
次年度以降の関連科目	特別研究		
連絡事項			
シラバス作成年月日	平成 25 年 2 月 8 日		

(出典: 小山高専HP)

資料5-2-①-2：学習指導法の工夫の例（その3）

電気情報工学科の例

2 E 電子情報工学

授業ごとに、タイガー計算機・シリコンウェハ・真空管などの現物を持ち込み、それらを直接学生の手にとらせて、電気への興味の育成をはかっている。

3 E 情報工学Ⅲ

授業時間の約4割を演習に充て、正しいコードだけでなく誤ったコードを記述させて、具体的なエラーも確認させている。また、時間の許す限り各自に具体的なコードを考えさせ、模範解答ではコーディングのポイントを解説している。

4 E 電気情報工学実験

口頭試問では、実験に必要な全学年までに修得しているはずの技術（オシロスコープや直流安定化電源の使用方法など）・知識（半導体電子回路や通信技術など）に関して質問し、判らない場合にはワザと教えず、復習させている。

5 E 集積回路設計

教科書に記載されているHDLの文法を理解させるだけでなく、記述方法の差異による動作の違いをシミュレーションにより確認させている。

また、授業の最後3回分を実際の回路設計演習に充てて、チームごとに問題を解かせている。所謂PBLに類する時間も組み込んでいる。

S E 人工知能

教科書に記載されている知識をただ理解するだけでなく、SFドラマ・映画の素材を授業に取り込み、そこから技術的な問題点・実現の可能性・将来的な問題点などを考察させて授業に広がりを与えている。

応用物理

質問の出し方：トランプを利用しクラス人数に一致するようにカードを調整し、全員かならず指名するようにしています。また、ジョーカーがでたら、これまでに指名された人から当てるようにしているので、こちらからの質問については、常に全員が当たる可能性があり、ある程度の緊張感を持続するようにしています。

（出典：電気情報工学科の科目調査）

資料 5-2-①-3 : 教材の工夫の例

FIE-11-8

デザイン教育へのものづくり教育の導入例
-力覚装置の開発を例として-

石原 学 (小山工業高等専門学校)

A case of Education of Producing Objects under Design Education
-In case of Haptic Device-
Manabu Ishihara, (Oyama National College of Technology)

The virtual reality (VR) is one in the intelligence information communications technologies. As the application to the education field of VR, We conduct the experiment that trialists use the system. As a result, the effectiveness of the education of producing objects for a design education is considered.

キーワード : デザイン教育, ものづくり教育, 力覚デバイス, 仮想現実
(design education , education of producing objects , haptic device, VR(virtual reality))

1. はじめに

“ものづくり”のキーワードは、日本における技能者・技術者の重要なテーマであり、文部科学省や厚生労働省をはじめとする各省庁の重要な要件となっている。我々教育機関、特に理工学分野においても“ものづくり”は重要な課題になっているものの理科離れが言われて久しい。それは、初等中等教育におけるものづくり経験の減少や授業における課題の減少も原因の一つと考えられる。経験の少な

1. デザイン能力に関して具体的な達成目標を設定しているか。2. 学生がデザインあるいは問題解決策についての学習体験をしているか。3. 学生に以下のような能力を育成できる内容を含む複合的な課題を提示しているか。4. 提案される達成度評価を実施しているか⁽²⁾。その JABEE の文章中には、創造性と問題解決能力のキーワードが記述されているので、ものづくり教育を含むことにより一通りのカリキュラムが実施できる。また、目標学習成果がどの程度まで身に付いたかをデザイン教育の重要性と関係付けている⁽¹⁾⁽³⁾。

(出典 : 電気学会 FIE-11-8, pp37-41(2011))

資料5-2-①-4：コンピュータの利用について

情報教育のアンケートより（全学生年生対象）

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均	
VI. コンピュータについて									
コンピュータの利用状況などについて答えてください。									
27	授業でコンピュータを使用するときに、1人1台で使用している。	717	86	152	5	13	17	990	4.53
28	授業時間以外にコンピュータ演習室のコンピュータをよく使う。	122	130	300	193	229	16	990	2.72
29	演習室のコンピュータの処理能力(性能)は十分である。	160	207	395	115	94	19	990	3.23
30	使用に満足できるコンピュータを自分で所有している。	269	202	300	96	108	15	990	3.44
31	演習室のコンピュータに入っているソフトウェアは十分である。	180	229	478	44	40	19	990	3.48

(出典：平成25年教育に関するアンケート（学生版）)

コンピュータの配置台数

名称	面積(m ²)	収容人数	一人当面積(m ²)	場 所	主要設備等
第1演習室	116	49	2.4	情報科学センター	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第2演習室(電子計算機実習室)	121	49	2.5	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第3演習室(多目的マルチメディア教育室)	79	21	3.8	電物棟2F	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
ネットワーク実習室	106	40	2.7	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、UNIX実験システム、ネットワーク実験システム、動画編集装置、空調設備

第一演習室	49台
第二演習室	49台
第三演習室	21台

(出典：総務課施設係資料)

資料5-2-①-5 : F Dアクションレポート作成依頼

書式の変更

アクションレポートの目的は、教員各員のF D・教育活動を学校全体の共有財産として記録し、これらをヒント集として利用できるようにすることです。学校の業務は、大きな目立つ業績だけで成り立っているのではなく、小さくても重要な仕事がたくさん行われています。こうした事例を多く集め、蓄積することが、学校全体の地力となります。今回の変更は、こうした日々の小さな事例も多く集められるよう、書式を記入しやすいシンプルなものとししました。 2014(H26)2月

2014.2.5

教員各位

教育改善推進室

F Dアクションレポート作成のお願い

今年度のアクションレポートを作成し、ご提出くださいますようお願いいたします。このレポートの目的は、各教員のF D活動および学生指導（教務関係）の記録を学校全体の財産として蓄積し、今後の業務に活用することにあります。

以下省略

（出典：教務委員会資料）

資料5-2-②-1：教務委員会からの25年度シラバス作成方法（その1）

2014（H26）年度シラバス作成要領

赤字部分が改定箇所です。

作成上の主な注意点を記します。

様式は、昨年度とほぼ同じです。履修単位3種類、学修単位3種類を用意しました。

省略

○1行目の色は、H26年度は紺色（word色表の「標準 濃い青」）。

○授業形態：講義，演習，実験・実習の別を記入。

○単位種類：1単位につき

履修単位の場合	履修単位 30 h
学修単位(講義A)の場合	学修単位 15+30 h
学修単位(講義B・演習)の場合	学修単位 30+15 h
学修単位(実験・実習)の場合	学修単位 45 h

○居室 電話 E-mail：シラバスは完全公開ですので、自宅電話や携帯電話などの個

以下省略

(出典：教務委員会シラバス作成資料)

資料 5-2-②-1：教務委員会シラバスの26年度フォーマット（その2）

4・5年生の学修単位用

(学-1) 自学自習の記入の必要がある科目：本科学修及び専攻科の講義演習（授業内容部分に罫線あり 16 週分）

科目名		英語科目名	
開講年度・学期		対象学科・専攻・学年	
授業形態		必修 or 選択	
単位数		単位種類	
担当教員		居室（もしくは所属）	
電話		E-mail	
授業の到達目標		授業到達目標との対応	
		小山高専の教育方針	学習・教育到達目標 (JABEE)
-----		-----	-----
-----		-----	-----
-----		-----	-----
-----		-----	-----
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			

評価方法			

授業内容	授業内容に対する自学自習項目	自学自習時間	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
-----	-----	-----	
		自学自習時間合計	
キーワード	-----		
教科書	-----		
参考書	-----		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	-----		
現学年の関連科目	-----		
次年度以降の関連科目	-----		
連絡事項			

シラバス作成年月日			

(出典：平成25年度教務委員会シラバス作成資料)

資料5-2-②-2：シラバスの利用について

1年生										
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均	
授業内容をシラバスでよく確認した。	8	27	78	61	30	0	204	2.62	2.86	

5年生										
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均	
授業内容をシラバスでよく確認した。	34	30	53	26	19	0	162	3.21	2.86	

(出典：平成25年教育に関するアンケート)

設問内容	全くその通りである(5)	かなりそうである(4)	普通(3)	あまりそうではない(2)	全くそうではない(1)	無効回答	合計	全体平均
シラバスを良く活用した	429	401	1096	259	813	3	3001	2.8
シラバスに沿って授業が行われた	1027	689	1150	55	64	30	3015	3.9

(出典：平成23年学生による授業評価(1～5年生対象))

教員										
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均	
授業内容をシラバスでよく確認した。	37	22	4	4	1	1	69	4.32	4.28	

(出典：平成25年教育に関するアンケート)

資料5-2-②-3：シラバスの確認表

H26年度 一般科シラバス チェック表(記載例)					科目名:	数学
●科目担当教員: (シラバス作成者)						
#	学年・学科	科目名	チェック者	チェック者サイン	チェック日	
1	1	基礎数学A				
2	1	基礎数学B				
3						
4						
5						
6						
7						
8						
9						
10						
11						

(出典：教務委員会資料)

資料5-2-③-1：学科による「ものづくり」「PBL」「創造性」授業の分類例（その1）

機械工学科

学年	年度	前後期	科目	対応
1年	23、24、25	通年	工作実習	ものづくり
	23、24、25	前期	機械工学基礎	PBL
2年	23、24、25	通年	工作実習	ものづくり
3年	23、24、25	通年	工作実習	ものづくり PBL
	24、25	後期	機械工学実験Ⅰ	ものづくり PBL
4年	23、24、25	後期	機械工学実験Ⅱ	PBL
	23、24、25	後期	輪講	PBL
5年	23、24、25	前期	メカトロニクス実験	PBL
	23、24、25	通年	機械設計製図Ⅲ	PBL

電気電子創造工学科（予定を含む）

学年	年度	前後期	科目	対応
1年	25	通年	創造工学実験：簡易電気工作	ものづくり
	25	通年	創造工学実験：デジタルテストの製作	ものづくり
	25	通年	創造工学実験：ロボティクス導入実験	ものづくり
2年		通年	創造工学実験：1次電池の製作	ものづくり
		通年	創造工学実験：鉱石ラジオの製作	ものづくり
		通年	創造工学実験：クリップモーターの製作	ものづくり
3年		後期	プロジェクトワーク	ものづくり
4年		後期	エレクトロニクス・デザイン	PBL
5年		前期	コース別実験：環境エネルギー工学実験	PBL
		前期	コース別実験：制御システム工学実験	PBL
		前期	コース別実験：情報デザイン工学実験	PBL

建築学科

	年度	開設時期	科目名	ものづくり	PBL	創造性教育
1年	23,24,25	通年	創造演習Ⅰ	○		○
2年	24,25	通年	創造演習Ⅱ	○		○
3年	25	前期	創造演習ⅢA		○	○
		後期	創造演習ⅢB		○	○
	23,24,25	前期	建築設計ⅠA		○	○
		後期	建築設計ⅠB		○	○
4年	23,24,25	前期	建築設計ⅡA		○	○
		後期	建築設計ⅡB		○	○
	22,23	後期	建築実験	○	○	
5年	26	前期	建築実験	○	○	

（出典：平成25年度の各学科の取組み申請資料を整理）

資料5-2-③-1：学科による「ものづくり」「PBL」「創造性」授業の分類例（その2）

電気情報工学科

学年	年度	所属期	科目	対応
1年	22, 23, 24	前期	電気情報工学実験: 電源電気工作	ものづくり
	22, 23, 24	後期	電気情報工学実験: デジタルテストの製作	ものづくり
	22, 23, 24	前期	電気情報工学実験: ロボテックス導入実験	ものづくり
	22, 23, 24	後期	電気情報工学実験: ロボテックス導入実験	ものづくり
2年	22, 23, 24, 25	前期	電気情報工学実験: 制御工作実習	ものづくり
	22, 23, 24, 25	前期	電気情報工学実験: 1次電池の製作	ものづくり
	22, 23, 24, 25	前期	電気情報工学実験: 乾石ラジオの製作	ものづくり
	22, 23, 24, 25	前期	電気情報工学実験: グループメーカーの製作	ものづくり
3年	22, 23, 24, 25	後期	プロジェクトワーク: ライトレースカーの製作	ものづくり
4年	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: DC-DCコンバータの設計・シミュレーション・制作	PBL
	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: ブロック組立式ロボット駆動キットの再利用率に関する実験	PBL
	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: 太陽を検知できるハードウェアシステムを構築し動作	PBL
	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: 高周波伝導セラミックスの作製とその特性評価	PBL
	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: ブロック3次元レーザ加工の省エネ化	PBL
	22, 23, 24, 25	後期	エレクトロニクス・デザイン: 衛星を利用した基礎技術に関する実験	PBL
5年	22, 23, 24, 25	前期	コース別実験: 電磁工学実験	PBL
			・誘電体の特性測定 ・誘電体の特性測定 ・直列共振の特性測定 ・同期共振の特性測定	
	22, 23, 24, 25	前期	コース別実験: 情報工学実験	PBL
			・オペアンプ応用回路 ・受動フィルタの周波数特性測定 ・マイコンによる曲線計測	
22, 23, 24, 25	前期	コース別実験: 電磁工学実験	PBL	
			・超伝導体の基礎特性に関する実験 ・太陽電池の光電特性に関する実験 ・半導体素子の光電特性に関する実験	

(出典：平成25年度の各学科の取組み申請資料を整理)

資料5-2-③-2：卒業研究の学会等発表状況（含：コンペティション）（その1）

発表学生氏名	指導教員名	書名・発表題目	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 (巻・号・頁等)	発行又は発表の 年月	査読有無	共著、発表者一 覧	備考：受賞など の特記事項
準学士課程							
機械工学科 準学士課程 口頭発表（9件）							
	山下 進	シルバークーの安全性に関する研究	日本機械学会関東学生会第53回学生会卒業 研究発表 講演会講演前刷集	平成28年3月	無		BPA受賞
	朱 勳	連続Wavelet変換結果を用いたカオス振 動検出の試み	第19回高専シンポジウム in 久留米講演要旨 集,p.477,	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電気情報工学科 準学士課程 口頭発表（8件）							
	北野達也	SICパワーデバイスを用いたWDT方式電 力変換器の試作と評価	電気学会東京支部栃木支所研究発表会	平成28年3月	無		
	鈴木真ノ介	教育からホビーまでを視野に入れた球 型ロボットの開発	大学コンソーシアム栃木第10回 「学生&企業研究発表会」プログラム	平成25年12月	無		
(以下省略)							
電子制御工学科 準学士課程 口頭発表（2件）							
	市村智康	CPG電子回路を用いる形状記憶合金アク チュエータの駆動に関する基礎実験	電子情報通信学会技術研究報告, vol.113, no.118, CAS2013-10, pp.55-58, 2013	平成25年7月	無		
	市村智康	自律走行型海浜清掃ロボットの開発 - 測距センサを用いた自律走行制御 -	第56回自動制御連合講演会論文集 pp.222-225, 2013	平成25年11月	無		
物質工学科 準学士課程 口頭発表（7件）							
	加島敬太, 高屋 朋彰 川越大輔, 田中 孝国	かんびょう錠剤の性能に及ぼすパイン ダー添加の影響	第16回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.104 (東工大)	平成28年3月	無		
	田中孝国	気泡型曝気装置を用いた含油排水処理 性能の評価	第16回化学工学会学生発表会(東京大会) 研究発表講演要旨集 p.9 (東工大)	平成28年3月	無		
(以下省略)							
建築工学科 準学士課程 口頭発表（3件）							
	本多良政	開口を有するRC造柱壁付柱のFEM解析	(公社)日本コンクリート工学会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p21-22	平成28年3月	無		
	大島隆一 横内基	伝統的建造物における空き家の再活用 計画	2013年度高専女子フォーラム in 関東信越	平成25年12月	無		ポスター発表
(以下省略)							
建築工学科 準学士課程 論文発表（1件）							
	横内基	面材真壁を応用した歴史的建造物の耐 震補強工法に関する研究	高専機構本部：創造性を育む「卒業研究」 集、推薦	平成28年2月		学内審査あり	
専攻科							
機械工学コース 口頭発表（3件）							
	山崎 敬明	計量コンベアの動的挙動と制御	S1203 講演会プログラム	平成25年12月	無		
	那須 裕規	磁場環境下におけるフレッチング摩耗現象 その場観察	日本機械学会関東支部栃木ブロック研究交流会	平成25年11月	無		
(以下省略)							
電気情報工学コース 口頭発表（8件）							
	石原 学	タッチパネル面の刺激による粗さ感覚 の検討	第19回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
	鈴木真ノ介	磁界共鳴型ワイヤレス電力伝送システ ムにおける出力向上に関する研究	第19回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電子制御工学コース 口頭発表（5件）							
	飯島洋祐	多値符号料技術を用いた高速デジタル 信号伝送に関する研究	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木 支部、ETG-14-39,ETT-14-39,pp.123-124,2014	平成28年3月	無		
	平田克己	遅れ時間補正と独立成分分析による音 源分離	第56回自動制御連合講演会（新潟），1039	平成25年11月	無		
(以下省略)							
物質工学コース 口頭発表（9件）							
	加島敬太, 高屋 朋彰 川越大輔, 田中 孝国	かんびょうを利用した安全な乾燥剤の 開発	第16回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.105 (東工大)	平成28年3月	無		優秀賞
	田中孝国	超音波照射が活性汚泥の代謝活性とフ ロロクに及ぼす影響について	第10回「学生&企業研究発表会」 (宇都宮大学)	平成25年12月	無		奨励賞
(以下省略)							
建築学コース 口頭発表（6件）							
	川上勝弥	鉱物質微粉末混入モルタルの活性度及 び透水性に関する実験的研究	(公社)日本コンクリート工学会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p43-44	平成28年3月	無		
	橋本波路子	被災地域における高齢者・障がい者の ニーズと仮設住宅地計画の提案	とちぎ大学連携サテライトオフィス 学生&企業研究発表会、予稿集 P90-91	平成25年12月	審査あり		おかげさまで創 業百三十周年賞 (藤井産業社)
(以下省略)							

(出典：平成25年度学生の成果に関する調査)

資料 5-2-③-2 : 卒業研究の学会等発表状況 (含: コンペティション) (その 2)

卒業研究室単位での学外参加コンペティション・コンテスト受賞例

準学士課程	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
口頭発表	18	64	2	36	51
論文	0	0	0	0	6
小計	18	64	2	36	57
専攻科課程	機械工学コース	電気情報工学コース	電子制御工学コース	物質工学コース	建築学コース
口頭発表	27	40	9	30	30
論文	0	0	0	0	1
小計	27	40	9	30	31
総計	45	104	11	66	88

(出典: 25年度の学外発表の資料)

資料 5-2-③-3 : 就職先企業等による卒業生の資質についての評価

設問内容	全くその通りである(5)	かなりそうである(4)	普通(3)	あまりそうではない	全くそうではない(1)	無効回答	合計	全体平均
感性や創造力が豊かである。	3	14	12	3	0	1	33	3.53
専門領域における基礎的能力が高い。	6	17	6	3	0	1	33	3.81
専門領域における問題解決能力が高い。	4	16	9	3	0	1	33	3.66

(出典: 平成 23 年教育に関するアンケート (企業版))

企業アンケート									
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
感性や創造力が豊かである。	4	23	21	1	0	2	51	3.61	3.56
専門領域における基礎的能力が高い。	11	25	12	1	0	2	51	3.94	3.8
専門領域における問題解決能力が高い。	5	23	17	4	0	2	51	3.59	3.54

(出典: 平成25年教育に関するアンケート (企業版))

資料5-2-③-4：在校生の学習達成度評価

学習達成度

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均
「創造力」が身についた。	41	39	49	4	1	0	134	3.9
「専門基礎科目」の学力が身についた。	40	59	29	2	4	0	134	4.0
「専門知識」が身についた。	52	52	23	3	1	3	134	4.2
「問題解決能力」が身についた。	38	53	30	8	2	3	134	3.9

(出典：平成21年教育に関するアンケート(学生版))

設問内容	全くその通りである(5)	かなりそうである(4)	普通(3)	あまりそうではない	全くそうではない(1)	無効回答	合計	全体平均
「創造力」が身についた	109	220	327	53	29	4	742	3.44
「専門基礎科目」の学力が身についた。	151	275	264	35	15	2	742	3.69
「専門知識」が身についた。	179	322	204	23	9	5	742	3.87
「問題解決能力」が身についた。	94	230	348	50	15	5	742	3.46

(出典：平成23年教育に関するアンケート(学生版))

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均
「創造力」が身についた。	169	272	421	77	49	2	990	3.44
「専門基礎科目」の学力が身についた。	231	374	306	48	26	5	990	3.74
「専門知識」が身についた。	260	418	235	39	23	15	990	3.78
「問題解決能力」が身についた。	131	286	449	79	30	15	990	3.42

(出典：平成25年教育に関するアンケート(学生版))

資料5-2-③-5：インターンシップ報告会例

平成25年度 小山高専電気情報工学科・専攻科電気情報工学コース インターンシップ報告会										
日時	平成25年10月30日(水) 6~8時限									
会場	4E教室, 3E教室									
発表時間	4年生	プレゼン:5分, 質疑応答2分				専攻科生	プレゼン:7分, 質疑応答3分			
発表会場:4E教室					発表会場:3E教室					
番号	発表時間	氏名	研修先	ページ	番号	発表時間	氏名	研修先	ページ	
	14:00 ~ 14:10	(準備)				14:00 ~ 14:10	(準備)			
1	14:15 ~ 14:22		豊橋技術科学大学		1	14:15 ~ 14:22		京セラ 福島棚倉工場		
2	14:23 ~ 14:30		IOS		2	14:23 ~ 14:30		豊橋技術科学大学		
3	14:31 ~ 14:38		豊橋技術科学大学		3	14:31 ~ 14:38		NHK宇都宮局		
4	14:39 ~ 14:46		NHK宇都宮局		4	14:39 ~ 14:46		IOS		
5	14:47 ~ 14:54		CANON		5	14:47 ~ 14:54		豊橋技術科学大学		
6	14:55 ~ 15:02		豊橋技術科学大学		6	14:55 ~ 15:02		JPOWER		
7	15:03 ~ 15:10		トモエ乳業		7	15:03 ~ 15:10		マブチモーター		
8	15:11 ~ 15:18		明和コンピュータ		8	15:11 ~ 15:18		物質・材料研究機構		
9	15:19 ~ 15:26		宇都宮大学		9	15:19 ~ 15:26		明和コンピュータ		
10	15:27 ~ 15:34		物質・材料研究機構		10	15:27 ~ 15:34		豊橋技術科学大学		
11	15:35 ~ 15:42		日本信号		11	15:35 ~ 15:42		宇都宮大学		
12	15:43 ~ 15:50		マブチモーター		12	15:43 ~ 15:50		サントリープロダクツ		
13	15:51 ~ 15:58		宇都宮大学		13	15:51 ~ 15:58		明和コンピュータ		
14	15:59 ~ 16:06		明和コンピュータ		14	15:59 ~ 16:06		コマツ 栃木工場		
15	16:07 ~ 16:14		平河ヒューテック		15	16:07 ~ 16:14		オフィス・エフエイコム		
16	16:15 ~ 16:22		カテル株式会社		16	16:15 ~ 16:22		マブチモーター		
17	16:23 ~ 16:30		高岳製作所		17	16:23 ~ 16:30		宇都宮大学		
18	16:31 ~ 16:38		村瀬石灰工業株式会社		18	16:31 ~ 16:38		オフィス・エフエイコム		
	16:39 ~ 16:46				19	16:39 ~ 16:46		小野測器		

(出典：平成25年電気情報工学科インターンシップ報告会)

資料5-2-③-6：インターンシップ開拓資料

報告事項

1. インターンシップ関係

- (1) 企業からの受入票の送付状況（別紙1）
 - ア. 推進室の受領件数 45 件、ホームページ掲載件数 個別 30 社、一覧表 39 社
 - イ. 学科間のバラツキはあまり見られない。
- (2) インターンシップ依頼先企業一覧(別紙)を作成。今後インターンシップ部会に配付予定。
- (3) 学生向けインターンシップ手引き(別紙)作成した。ホームページにも掲載済み。

(出典：平成25年キャリア教育・コーディネーター打合せ 議事録(24.5) から)

資料 5-3-①-1 : 人間性の涵養と行事の関連表

学校行事等と「人間性の涵養」の関連				
学校行事等	実施時期	対象者	目的	涵養される能力等
新入生ガイダンス(学内ガイダンス)	4月	1年	学校における基本的ルールの理解する	社会性、協調性
新入生ガイダンス(学外研修旅行)	4月	1年	先端技術や伝統技術の一端にふれ、見識を広げ、自らの進路について考える。学生相互の親睦を深め、相互理解を進める	社会性、協調性、人間関係形成力
クラス毎の研修旅行	クラス毎	2年、4年	知見を広げ、クラスの親睦を深め団結心を養うとともに、自律した行動がとれるようになること。	団結心、自律心、協調性、責任感、人間関係形成力
交通安全講習会	5月	車両通学者 希望者	交通安全に対する意識を高揚し、交通事故を防止する。	社会性、安全意識、他者への配慮
AED講習会	6月	希望者	AEDの必要性を理解し、その対処法を習得する	健康意識、他者への配慮
スポーツ救急処置法講習会	6月	希望者	スポーツ救急処置の必要性を理解し、その対処法を習得する	健康・安全意識、他者への配慮
薬物乱用防止講演会	6月	2年	薬物乱用の恐ろしさを知る。	健康保持への意識、メンタルヘルスへの意識
自転車交通安全講習会	7月	1年	自転車走行に関する法令や法規を遵守し、自転車運転のマナーを向上させる。交通安全に対する意識を高揚し、交通事故を防止する。	遵法意識、公共心、安全意識、他者への配慮
サイバー犯罪防止に関する講習会	10月	1年	サイバー犯罪を理解して、被害者にも加害者にもならないようにする。	遵法意識、公共心、メンタルヘルスへの意識、他者への配慮
春学期球技大会・秋学期球技大会	5月・10月	全	スポーツを通してクラスの団結心を養い、学校全体の交流を図る。	健康の保持増進、団結心、公共心
工陵祭(小山高専の学園祭)	11月	全	様々な企画の計画や実行を通して、団結力や組織力を養う。	団結心、自主性、責任感、公共心
クラブ活動(体育系)	年間	全	心身の鍛錬を通して、団結力、コミュニケーション能力、組織力をつける。	健康の保持増進、責任感、団結心、人間関係形成力
体育系の大会参加(高体連、高野連、高専大会、他)	大会毎	全	団結力、集中力を養い、目的を達成する喜びや挫折する苦しみを通して、心身を鍛える。	健康の保持増進、集中力、責任感、団結心、向上心
クラブ活動(文化系)	年間	全	企画力、計画立案力、団結力、コミュニケーション能力、組織力を養成。	責任感、団結心、人間関係形成力
文化系の発表会参加(文化発表会、クラブ毎の発表会)	発表会毎	全	企画力、計画立案力、団結力、プレゼンテーション能力を養成。	集中力、責任感、団結心、向上心
コンテスト等への参加(ロボコン、プロコン、デザコン、他)	コンテスト毎	全:参加学生	独創力、企画力、団結力、プレゼンテーション能力を養成。	創造力、団結心、集中力、問題解決力、向上心
1年生対象の心理テスト+カウンセリング	4~6月	1年	新しく学校生活を迎えるにあたり、自己理解や自己分析をする。	メンタルヘルスへの意識、自律心、自己理解
4年生、専攻科1年生対象の心理テスト	2月	4年、S1年	就職や進学を迎えるにあたり、自己理解や自己分析をする。	メンタルヘルスへの意識、自律心、自己理解
(参考) 高等学校指導要領				
第5章 特別活動				
第1 目標				
望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図り、集団や社会の一員としてよりよい生活や人間関係を築こうとする自主的、実践的な態度を育てるとともに、人間としての在り方生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養う。				
[学校行事]				
1 目標				
学校行事を通して、望ましい人間関係を形成し、集団への所属感や連帯感を深め、公共の精神を養い、協力してよりよい学校生活や社会生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育てる。				
2 内容				
全校若しくは学年又はそれに準ずる集団を単位として、学校生活に秩序と変化を与え、学校生活の充実と発展に資する体験的な活動を行うこと。				
(1) 儀式的行事				
学校生活に有意義な変化や折り返しを付け、厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活の展開への動機付けとなるような活動を行うこと。				
(2) 文化的行事				
平素の学習活動の成果を総合的に生かし、その向上の意欲を一層高めたり、文化や芸術に親しんだりするような活動を行うこと。				
(3) 健康安全・体育的行事				
心身の健全な発達や健康の保持増進などについての理解を深め、安全な行動や規律ある集団行動の体得、運動に親しむ態度の育成、責任感や連帯感の涵養、体力の向上などに資するような活動を行うこと。				
(4) 旅行・集団宿泊的行事				
平素と異なる生活環境にあって、見聞を広め、自然や文化などに親しむとともに、集団生活の在り方や公衆道徳などについての望ましい体験を積むことができるような活動を行うこと。				
第1章 総則				
第5款 教育課程の編成・実施に当たって配慮すべき事項				
5 教育課程の実施等に当たって配慮すべき事項				
(13) 生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動については、スポーツや文化及び科学等に親しませ、学習意欲の向上や責任感、連帯感の涵養等に資するものであり、学校教育の一環				

(出典：学生行事資料の整理)

資料5-3-①-2：一般教育の流れ（例：機械工学科）

本科	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな人間性の涵養	地理	政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学Ⅰ 人間と科学Ⅱ
	芸術(音楽・美術)				
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	英語ⅠA・B	英語Ⅱ 英語ライティングA・B	英語Ⅲ		
	基礎数学A・B	微分積分学 代数学・幾何学	解析学 線形代数学	確率統計 応用数学	
	一般理科 物理	物理	応用物理	応用物理	
	化学Ⅰ	化学Ⅱ			
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	国語	国語	国語	文学	
	英会話		英会話	英語演習Ⅰ 英語表現Ⅰ・Ⅱ	英語演習Ⅱ ドイツ語演習
	保健体育	保健体育	保健体育	保健体育	

(出典：平成25年学生便覧の整理)

資料 5-3-①-3 : 特別活動 (HR) 例 (その1)

時間割例

電気情報工学科の例

曜日	開始時刻	時限	電気電子創造工学科1年		(1R)		電気電子創造工学科2年		(2R)		電気情報工学科3年		(留学生)	
			(1L) 科目名	教員名	科目名	教員名	(2L) 科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名
月曜	8:40	1	物理	柴田(洋)	一般理科	上村	化学Ⅱ	森下	代数学・幾何学	三柴	情報工学Ⅲ	今成	<同左	<同左
	9:35	2	物理	柴田(洋)	一般理科	上村	化学Ⅱ	森下	代数学・幾何学	三柴	情報工学Ⅲ	今成	<同左	<同左
	10:35	3	基礎数学B	三柴	英語ⅠA	関根	物理	首藤	電気回路Ⅰ	小林(幸)	国語	佐藤(元)	-	-
	11:30	4	国語	中田	英語ⅠA	関根	物理	首藤	電気回路Ⅰ	小林(幸)	国語	佐藤(元)	-	-
	13:05	5	保健・体育	長田	化学Ⅰ	上村	電気回路Ⅰ	小林(幸)	物理	首藤	電子回路Ⅰ	土田	<同左	<同左
	14:00	6	保健・体育	長田	化学Ⅰ	上村	電気回路Ⅰ	小林(幸)	物理	首藤	電子回路Ⅰ	土田	<同左	<同左
	15:00	7	基礎数学A	小笠原	保健・体育	長田	代数学・幾何学	三柴	国語	柴田(美)	英語Ⅲ	有坂(夏)	<同左	<同左
	15:50	8	-	-	保健・体育	長田	代数学・幾何学	三柴	-	-	英語Ⅲ	有坂(夏)	<同左	<同左
火曜	8:40	1	一般理科	上村	基礎数学A	小笠原	英語Ⅱ	有坂(顕)	国語	柴田(美)	電気回路学Ⅱ	甲斐	<同左	<同左
	9:35	2	一般理科	上村	基礎数学A	小笠原	英語Ⅱ	有坂(顕)	国語	柴田(美)	電気回路学Ⅱ	甲斐	<同左	<同左
	10:35	3	音楽/美術	鈴木(久)斎藤(千)	地理	原(啓)	政治経済	岡田(-)	英語Ⅱ	有坂(顕)	倫理社会	種村	-	-
	11:30	4	音楽/美術	鈴木(久)斎藤(千)	地理	原(啓)	政治経済	岡田(-)	微分積分学	岡田(崇)	倫理社会	種村	-	-
	13:05	5	地理	原(啓)	音楽/美術	鈴木(久)斎藤(千)	プログラムⅠ	南斉	政治経済	岡田(-)	歴史	酒入	-	-
	14:00	6	地理	原(啓)	音楽/美術	鈴木(久)斎藤(千)	プログラムⅠ	南斉	政治経済	岡田(-)	歴史	酒入	(留)日本語	立(サ)
	15:00	7	電気電子創造工学実験Ⅰ	土田 鈴木(真)	電気電子創造工学実験Ⅰ	南斉 市村 平田 大島(心)	-	-	基礎電気磁気	千田	-	-	(留)日本語	立(サ)
	15:50	8	電気電子創造工学実験Ⅰ	土田 鈴木(真)	電気電子創造工学実験Ⅰ	南斉 市村 平田 大島(心)	-	-	基礎電気磁気	千田	-	-	(留)日本語	立(サ)
水曜	8:40	1	英会話	ヤズダニ	基礎数学B	三柴	微分積分学	岡田(崇)	プログラムⅠ	南斉	解析学	佐藤(巖)	<同左	<同左
	9:35	2	基礎数学A	小笠原	基礎数学B	三柴	微分積分学	岡田(崇)	プログラムⅠ	南斉	解析学	佐藤(巖)	<同左	<同左
	10:35	3	コンピュータ入門	小林(康)	英会話	ヤズダニ	国語	柴田(美)	英語Ⅱ	有坂(顕)	保健・体育	三原	<同左	<同左
	11:30	4	コンピュータ入門	小林(康)	国語	中田	国語	柴田(美)	英語Ⅱ	有坂(顕)	保健・体育	三原	<同左	<同左
	13:05	5	化学Ⅰ	上村	基礎数学A	小笠原	英語Ⅱ	有坂(顕)	微分積分学	岡田(崇)	HR	田中(昭)	HR	<同左
	14:00	6	HR	三柴	HR	小笠原	HR	杉山	HR	岡田(崇)	-	-	日本語概説	立(サ)
	15:00	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	日本語概説	立(サ)
	15:50	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	日本語概説	立(サ)
木曜	8:40	1	英語ⅠA	関根	物理	柴田(洋)	ジニアリング数Ⅰ	北野 市村	ジニアリング数Ⅰ	市村 北野	線形代数学	岡田(崇)	<同左	<同左
	9:35	2	英語ⅠA	関根	物理	柴田(洋)	ジニアリング数Ⅰ	北野 市村	ジニアリング数Ⅰ	市村 北野	線形代数学	岡田(崇)	<同左	<同左
	10:35	3	国語	中田	英語ⅠA	久保	創造工学実験Ⅱ	小林(幸) 石原	創造工学実験Ⅱ	原(雅) 渡邊 今	応用物理	齋藤(智)	<同左	<同左
	11:30	4	国語	中田	英語ⅠA	久保	創造工学実験Ⅱ	小林(幸) 石原	創造工学実験Ⅱ	原(雅) 渡邊 今	応用物理	齋藤(智)	<同左	<同左
	13:05	5	国語	中田	国語	中田	微分積分学	岡田(崇)	ニアリング・エシ	金子	電気情報工学実	康) 田中(昭)	<同左	<同左
	14:00	6	国語	中田	国語	中田	微分積分学	岡田(崇)	ニアリング・エシ	金子	電気情報工学実	康) 田中(昭)	<同左	<同左
	15:00	7	化学Ⅰ	上村	-	-	国語	柴田(美)	化学Ⅱ	森下	電気情報工学実	康) 田中(昭)	<同左	<同左
	15:50	8	-	-	-	-	-	-	化学Ⅱ	森下	電気情報工学実	康) 田中(昭)	<同左	<同左
金曜	8:40	1	英語ⅠA	関根	コンピュータ入門	小林(康)	基礎電気磁気	千田	微分積分学	岡田(崇)	電気工学演習	山田(靖)	<同左	<同左
	9:35	2	英語ⅠB	小野	コンピュータ入門	小林(康)	基礎電気磁気	千田	微分積分学	岡田(崇)	電子工学	森(夏)	<同左	<同左
	10:35	3	基礎数学A	小笠原	英語ⅠB	小野	電子情報工学	今成	ライティングA	津谷	電子工学	森(夏)	<同左	<同左
	11:30	4	基礎数学A	小笠原	英語ⅠA	関根	電子情報工学	今成	ライティングA	津谷	英語Ⅲ	有坂(夏)	<同左	<同左
	13:05	5	エンジニアリング数学Ⅰ	平田 笠原(雅)	エンジニアリング数学Ⅰ	笠原(雅) 平田	ライティングA	津谷	保健・体育	嘉門	英会話	ヤズダニ	<同左	<同左
	14:00	6	エンジニアリング数学Ⅰ	平田 笠原(雅)	エンジニアリング数学Ⅰ	笠原(雅) 平田	ライティングA	津谷	保健・体育	嘉門	電気磁気学Ⅱ	鈴木(真)	<同左	<同左
	15:00	7	基礎数学B	三柴	基礎数学A	小笠原	保健・体育	嘉門	-	-	電気磁気学Ⅱ	鈴木(真)	<同左	<同左
	15:50	8	-	-	-	-	保健・体育	嘉門	-	-	-	-	-	-

(出典：学生課教務係資料)

資料 5-3-①-3 : 特別活動 (HR) 例 (その 2)

平成 25 年度 授業実施記録 (後期)				総授業回数 または時間 15 回 15時間
単位種別 (※) :		履修単位	単位数 : 1	
クラス :		1 A	科目 : H・R	担当教員 : 上野 哲
月/日	授業内容	授業形態 (※※)	備 考	
1 10/2	第16回: 前期個人成績表を配布し勉強の仕方について説明。その後機構依頼のメンタルアンケート実施。	E : その他		
2 10/9	第17回: 工陵祭クラス企画模擬店(じゃがバター)の準備内容や各役割担当者について話し合いを始めた。	E : その他		
3 10/23	第18回: 後期球技大会の出場希望者、及び工陵祭の役割分担の詳細について、話し合いで決めた。	E : その他		
4 10/30	第19回: 工陵祭のクラス企画について、買い出しや料理、テント借り出しなどの準備に関する反省会をした。	E : その他		
5 11/6	第20回: 工陵祭の反省会をし、その後、1A独自の工陵祭反省アンケートを配布、実施した	E : その他		
6 11/13	第21回: 先週おこなった工陵祭アンケート結果を集計したものを配布し次年度の改善点について話し合う。	E : その他		
7 11/20	第 22 回: 後期中間試験の時間割を配布し、勉強の仕方について再度具体的に説明し、自覚を促した。	E : その他		
8 12/4	第 23 回: 日帰り研修旅行について、実施の有無について話し合い、実施することに決定した。	E : その他		
9 12/11	第 24 回: 日帰り研修旅行の行き先について、希望者にプレゼンをさせ、東京葛西と上野に決定した。	E : その他		
10 12/18	第 25 回: 合同 HR 形式で視聴覚室にて、国語科主催の読書体験発表会に参加した。	E : その他		
11 1/8	第 26 回: 日帰り研修旅行のグループ行動について各班の行動計画を計画表にまとめさせ提出させる。	E : その他		
12 1/11	第 27 回: 貸切バスを利用し、東京葛西臨海公園と上野国立博物館で日帰り研修をおこなった。	E : その他		
13 1/15	第 28 回: 日帰り研修旅行(特に班行動の長短について)の反省会をおこなった。	E : その他		
14 1/29	第 29 回: 進級にかかわる注意点と来年度の計画概要を伝え、試験勉強の重要性を改めて周知した。	E : その他		
15 2/5	第 30 回: 学年末試験の最終諸注意をおこなう。その後、来年度学生証用写真提出を依頼する。	E : その他		
16 2/25	第 31 回: 全校集会と大清掃後、春休みの過ごし方について、周知した。	E : その他		
17 /				

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。(※※) A: 講義 B: 演習 C: 実験 D: 実習 E: その他

授業回数は、半期 15 回以上を必ずご確認ください。

- 1 -

(出典 : 学生課教務係資料)

資料5-3-①-4：日帰り研修実施要領（一部）

平成25年度1年生日帰り研修実施要項

1. 意義と目的： 1年生ガイダンス行事の一環として実施する。
埼玉県さいたま市の大正製薬(株)や羽生市の藍染ふる里資料館を見学し、先端技術と伝統文化の一端にふれ、見識を持った技術者としての自らの進路について考える機会とする。
また、1日の研修を通して学生相互の親睦を深め、相互理解を進める場として活用する。
2. 日 時： 平成25年4月10日（水）
3. 行 き 先： 大正製薬株式会社 大宮工場（埼玉県さいたま市）
藍染ふる里資料館（埼玉県羽生市）
4. 参 加 者： 1年生全員（留年生も原則参加とする）
5. 引 率 者： 1年生学級担任5名
副校長（学生主事）： 小林幸夫
学生主事補： 大島・酒入・田中(孝)・鈴木(真)
学生係： 山口 計11名
6. 交通手段： 借り上げバス5台（大型）

（出典：学生委員会資料）

資料5-3-①-5：球技大会開催案内

平成25年度

後期球技大会

4月14日（木）

＜プログラム＞

08:40	出欠調べ
08:45~09:40	学生総会・開会式
10:00~10:35	第①試合
10:45~11:20	第②試合
11:30~12:05	第③試合
12:15~12:50	第④試合
13:00~13:35	第⑤試合
13:45~14:20	第⑥試合
14:45~15:20	第⑦試合
15:35	出欠調べ
15:45	閉会式

（出典：学生課学生係資料）

資料 5-3-①-6 : 平成25年度専門研修先

	3年	4年	5年
機械工学科	高岳製作所小山工場 小松製作所小山工場	三菱重工長崎造船所香焼工場他(長崎)	
電気情報工学科	ソニーエクスプローラーサイエンス(お台場)		
電子制御工学科	CEATEC JAPAN2013(幕張メッセ)		
物質工学科	マルハニチロ食品工場(宇都宮)	台湾国立清華大学他(台湾)	
建築学科	岩舟町立旧小野寺北小学校「創造演習」校外授業	旧北海道庁本庁舎他(小樽)	

(出典：教務委員会資料)

資料 5-3-①-7 : フロンティア技術入門のシラバス

科目名	フロンティア技術入門	英語科目名	Introduction to Frontier Technology
開講年度・学期	平成25年度・後期	対象学科・専攻・学年	全学科1年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	1単位(週2h 半期)	単位種類	履修単位(30)h
担当教員	各科担当教員	居室(もしくは所属)	担当教員の居室
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
1. 全学科分野の先進技術について、その概略の知識を得る。	③		
2. 各学科における先進技術に対する基礎知識を習得し興味を持つ。	③		
3. 講義を聴くことにより、各学科における授業の重要性を認識する。	③		
4. 講義を聴くことにより、自分が将来どのような仕事に就きたいか考えるきっかけを得る。	①、②		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 全学科担当者の講義内容について概略を理解しているか評価する。(筆記試験等)			
2. 各学科における先進技術についての基礎知識の習得状況を評価する。(筆記試験、レポート、プレゼンテーション等)			
3. 講義を聴くことにより、授業に取り組む姿勢・自分の将来への展望等への意欲を評価する。(感想文・小論文等)			
評価方法			
1. 全体講義については講義内容について50分の筆記試験を実施し、評価をおこなう。			
2. 後半は筆記試験または必要に応じてレポート、プレゼンテーション等により総合的に採点し、評価する。			
授業内容			
1. 全体講義：機械工学分野に関する先進技術の入門講義 (担当教員：機械工学科教員)			
2. 全体講義：電気電子創造工学分野に関する先進技術の入門講義 (担当教員：電気電子創造工学科教員)			
3. 全体講義：電気電子創造工学分野に関する先進技術の入門講義 (担当教員：電気電子創造工学科教員)			
4. 全体講義：物質工学分野に関する先進技術の入門講義 (担当教員：物質工学科教員)			
5. 全体講義：建築学分野に関する先進技術の入門講義 (担当教員：建築学科教員)			
6. 全体講義：一般科目分野から見た先進技術の入門講義 (担当教員：一般科教員)			
7. (中間試験) 各分野における先進技術に関する概要の理解度とそれに対する学生の関心度等を評価する。			
8. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その1)			
9. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その2)			
10. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その3)			
11. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その4)			
12. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その5)			
13. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その6)			
14. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容 (その7)			
15. (期末試験) 電気電子創造工学における先進技術について学んだ実習成果について試験を実施する。			
16. 後半実習内容の講評、その他補足講義等。			
キーワード	先進技術、専門技術への興味、勉学意欲の育成		
教科書	全体講義の資料については、講義内容をA3用紙1枚程度にまとめて配付する。 中間試験以降の授業については別途担当教員から連絡する。		
参考書	カリキュラム中の位置づけ		
前年度までの関連科目	なし		
現学年の関連科目	主に各学科の専門科目		
次年度以降の関連科目	主に各学科の専門科目		
連絡事項	・ 中間試験までの全体講義は視聴覚教室において全学科同時に各科の教員が交代で授業を実施する。 ・ 中間試験以降は専門学科ごとに分かれて授業を実施する。		
シラバス作成年月日	平成25年2月25日		

(出典：小山高専HP)

資料5-3-①-8：校務分掌の一部

校務分掌一覧

◎ 副校長(主事)

副校長(総務主事)	糸井康彦
-----------	------

◎ 副校長(主事)・主事補

分掌	氏名等	氏名	主事補 (教務・学生・寮務)
副校長 (教務主事)	※1 小堀康功		柴田洋一
			久保和良
			渥美太郎
			本多良政
副校長 (学生主事)	※2 小林幸夫		酒入陽子
			田中孝国
			大島隆一
			鈴木真ノ介
副校長 (寮務主事)	※2 川上勝弥		鹿野文久
			上野哲
			長田朋樹

(※1印：任期は平成27年3月31日まで ※2印：任期は平成26年3月31日まで)

◎ 専攻科長・主任

専攻科長	コース主任
亀山雅之	北條恵司
	千田正勝
	平田克己
	西井圭
	橋本彼路子

◎ 学科長

学 科	氏 名
一 般 科	三原大介
	須甲克也
機 械 工 学 科	鈴木栄二
電 気 電 子 創 造 工 学 科 (正：電気情報工学科長兼任) (副：電子制御工学科長兼任)	土田英一
	南斉清巳
物 質 工 学 科	武成祥
建 築 学 科	尾立弘史

◎ センター長等

図 書 情 報 セ ン タ ー 長	※柴田美由紀
情 報 科 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 長	石原学
地 域 連 携 共 同 開 発 セ ン タ ー 長	※伊澤悟
も の づ く り 教 育 研 究 セ ン タ ー 長	※朱勤
教 育 研 究 技 術 支 援 部 長	※朱勤
国 際 交 流 推 進 室 長	※武成祥

(※印：任期は平成27年3月31日まで)

◎ 学級担任 (○：学年主任)

学科名	学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科		長田朋樹	関根健雄	山下進	増淵寿	伊澤悟
電 気 電 子 創 造 工 学 科(L)		阿部弘樹				
電 気 電 子 創 造 工 学 科(R)		岡田崇				
電 気 情 報 工 学 科			有坂顕二	北野達也	小林康浩	山田靖幸
電 子 制 御 工 学 科			宮城信	大島心平	鹿野文久	笠原雅人
物 質 工 学 科		○森下佳代子	須甲克也	川越大輔	笹沼いづみ	酒井洋
建 築 学 科		上野哲	○上村孝	横内基	堀昭夫	中山昌尚

◎ 企画室

室長	糸井康彦
室員	小堀康功
〃	小林幸夫
〃	川上勝弥
〃	亀山雅之
〃	武成祥

◎ 学生支援室

室長	須甲克也
室員	森下佳代子
〃	山下進
〃	田中昭雄
〃	鹿野文久
〃	田中孝国
〃	横内基

◎ 国際交流推進室

室長	武成祥	室員	川村壮司
室員	渥美太郎	〃	サムアンフホック
〃	酒入陽子	〃	市村智康
〃	宮城信	〃	永峰麻衣子
〃	高屋朋彰		

◎ 入学者対策室

室長	本多良政
室員	有坂顕二
〃	山崎敬則
〃	田中昭雄
〃	笠原雅人
〃	田中孝国

◎ キャンパス安全衛生管理室

室長	大島隆一
室員	酒入陽子
〃	山崎敬則
〃	山田靖幸
〃	大島心平
〃	川越大輔
〃	廣田智子

◎ 教育改善推進室

室長	柴田洋一
室員	
〃	
〃	
〃	
〃	

◎ 進路支援室

室長	田中孝国
室員	鈴木真ノ介
〃	伊澤悟
〃	山田靖幸
〃	笠原雅人
〃	酒井洋
〃	中山昌尚
〃	西井圭

(出典：平成25年度学生便覧p.182-183)

資料5-3-①-9：学生支援室の利用（カウンセラーの例）

学生相談件数(H25年度)						カウンセラー
	学校生活	検査後面談	精神面	対人関係	その他	計
4月	20	63	16	22	0	121
5月	16	64	18	23	1	121
6月	5	0	12	13	0	30
7月	5	14	14	14	0	47
8月	1	42	11	9	0	63
9月	3	0	4	4	1	12
10月	4	0	6	4	1	15
11月	4	260	19	34	2	319
12月	2	266	17	31	2	318
1月	6	300	14	22	0	342
2月	6	0	10	2	0	18
3月	3	0	3	1	0	7
計	75	1009	144	179	7	1413

(出典：学生支援室資料)

資料5-3-②-10：交通安全講習会

平成25年度交通安全講習会実施要項

1. 日 時 平成25年5月29日（水） 15時10分～16時00分
2. 場 所 図書情報センター1階 視聴覚室
3. 目 的 本校学生の交通安全に対する意識を高揚し、交通事故を防止する
4. 対象者 バイクでの通学または持込許可を受けている通学生と寮生
5. 講 師 栃木県警察小山警察署職員
6. 内 容 交通安全に関するビデオ上映および講話
7. 申 込 通学生は、各人が担任に確認印をもらって直接学生係に申し込む。
寮生は、各人が寮務係に申し込む。
平成25年5月22日（水）を申込締め切りとする。

(出典：学生課学生係資料)

資料 5-3-①-11 : 学生会規約 (一部)

(1) 学生会規約

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は、学生準則第21条に基づくもので、小山工業高等専門学校学生会と称する。
- 第 2 条 本会は、学校の教育方針にのっとり、学生の自発的な活動を通してその人間形成を助長し、相互の親和に啓発に努め、学生生活の向上を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は、本校の学生全員を持って構成し、教員を顧問とする。
- 第 4 条 副校長(学生主事)及び本会の顧問教員は、総会、評議会等の各種会議に出席して本会の運営、活動について指導助言することができる。
- 第 5 条 会員は、学年を問わず会員としての平等な権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。
- 第 6 条 本会の活動は、総会の承認を得た予算及び事業計画に基づいて実施するものとする。

(出典：平成25年度学生便覧、p. 125-132)

資料 5-3-①-12 : クラブ顧問一覧表

(参考)

平成24年度 学生会各部指導教員一覧

部 名 (体育部)	指 導 教 員
硬 式 野 球 部	川上勝弥・有坂颯二・土田英一・山下 進・山田靖幸・那須裕規
柔 道 部	千田正勝・本多良政・鈴木 栄・阿部弘樹・市村智康・今成一雄
剣 道 部	西井 圭・小林幸夫・有坂夏葉子・笠原雅人・亀山雅之
陸 上 競 技 部	三原大介・田中好一・土田英一・瀧美太郎・甲斐隆章・長田朋樹・上村 孝
卓 球 部	北野達也・豊川斎穂・酒井 洋・小畑康功・中山昌尚・橋本彼路子
バスケットボール部	須甲克也・武成 祥・久保和良・菊地吉郎・北條恵司・高屋朋彰・ヲホック
サ ッ カ ー 部	伊澤 悟・南斉清巳・平田克己・糸井康彦・上野 哲
バレーボール部	田中孝国・佐藤 巖・尾立弘史・石原 学・杉山桂子・柴田晃宏・岡田 崇
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・須甲克也・増淵 寿・上野 哲
水 泳 部	廣野文久・長谷川誠・笹沼いづみ・飯島道弘・森下佳代子・山西敏博・飯島洋祐
空 手 道 部	大島心平・酒入陽子・新井一暎・杉山桂子・朱 勳・伊藤益生
テ ニ ス 部	鈴木真ノ介・大島隆一・田中昭雄・井上次夫・川越大輔・堀 昭夫
バドミントン部	山崎敬則・小林康浩・渡邊達男・佐藤篤史・長田朋樹・宮城 信
ソフトテニス部	横内 基・川村壮司・森 夏樹・加藤啓仁・上田 誠

部 名 (文化部)	指 導 教 員
吹 奏 楽 部	柴田洋一・田中孝国・柴田美由紀・佐藤篤史
写 真 部	山下 進・森 夏樹・田中昭雄・小林康浩
軽 音 楽 部	佐藤篤史・久保和良
シ ネ マ 研 究 部	笠原雅人・小林幸夫・柴田美由紀・川越大輔・鈴木 栄
エレクトロニクス研究部	平田克己・南斉清巳・今成一雄
機 械 工 作 研 究 部	山下 進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄・北條恵司
自然生物研究部	上村 孝・中山昌尚
文 芸 部	柴田美由紀・瀧美太郎・鈴木 栄・宮城 信
ハ ン ド ベ ル 部	山田靖幸・森下佳代子・柴田洋一・糸井康彦・宮城 信

部 名 (同好会)	指 導 教 員
将 棋 同 好 会	笠原雅人
自 転 車 同 好 会	ヲホック
女子サッカー同好会	飯島道弘
航空宇宙研究同好会	伊澤 悟・朱 勳・山下 進
演 劇 同 好 会	森下佳代子
ソフトボール同好会	糸井康彦・三原大介・飯島道弘
茶 道 同 好 会	鈴木 栄・橋本彼路子
模 型 同 好 会	佐藤 巖

部 名 (愛好会)	指 導 教 員
ビジュアルアート研究愛好会	朱 勳
フットサル愛好会	三原大介・糸井康彦
料 理 愛 好 会	高屋朋彰
ダ ン ス 愛 好 会	鈴木 栄・山西敏博
女子バスケットボール愛好会	高屋朋彰
弓 道 愛 好 会	宮城 信・糸井康彦
デザイン愛好会	鈴木 栄・橋本彼路子

※部の新設、改廃等は学生総会で決定(ソフトボール愛好会、茶道愛好会、模型愛好会は同好会に昇格、弓道愛好会、デザイン愛好会を新設、ビジュアルアート研究同好会は廣部、以上については平成24年5月22日承認済み)

(出典：平成25年度学生便覧p. 183)

資料5-3-①-13：施設利用願

校 長	副校長 (学生主事)	学生課長	学生係長	学生係					教務係	
					平成	年	月	日		
施設・設備使用願										
小山工業高等専門学校長 殿										
					クラブ等名	部				
					指導教員 又は担任氏名	印				
					クラブ等 責 任 者 所 属 氏 名	学科	学年			
<p>下記のとおり施設・設備を使用したいので、ご許可くださるようお願いいたします。 ただし、学生主事が許可内容の変更を必要と認める場合は、それに従います。</p> <p style="text-align: center;">記</p>										
1	使用施設・設備									
2	使用目的									
3	使用日時	自：平成 年 月 日（曜日）								
		至：平成 年 月 日（曜日）								
		月曜日	時 分	～	時 分					
		火曜日	時 分	～	時 分					
		水曜日	時 分	～	時 分					
		木曜日	時 分	～	時 分					
		金曜日	時 分	～	時 分					
		土曜日	時 分	～	時 分					
		日曜日	時 分	～	時 分					
4	使用人数	人								
※ 提出期限 使用予定日の1週間前までに学生係に提出										

(出典：学生課学生係資料)

資料5-3-①-14：人間性についてのアンケート

学生の評価

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均
「豊かな人間性」が身についた。	41	37	43	8	5	0	134	3.8
「豊かな感性」が身についた。	41	40	43	5	5	0	134	3.8

(出典：平成21年教育に関するアンケート(学生版))

設問内容	全くその通りである(5)	かなりそうである(4)	普通(3)	あまりそうではない	全くそうではない(1)	無効回答	合計	全体平均
「豊かな人間性」が身についた。	33	40	64	19	4	0	160	3.49
「豊かな感性」が身についた。	34	51	63	9	3		160	3.65

(出典：平成23年教育に関するアンケート(学生版))

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均
「豊かな人間性」が身についた。	10	39	26	10	3	0	88	3.49
「豊かな感性」が身についた。	20	40	21	6	0	1	88	3.85

(出典：平成25年教育に関するアンケート(卒業生版))

企業等の評価

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	平均
感性や創造力が豊かである。	2	2	3	0	0	7	14	3.86
社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	1	4	2	0	0	7	14	3.86

(出典：平成21年教育に関するアンケート(企業版))

設問内容	全くその通りである(5)	かなりそうである(4)	普通(3)	あまりそうではない	全くそうではない(1)	無効回答	合計	全体平均
感性や創造力が豊かである。	3	14	12	3	0	1	33	3.53
社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	1	9	17	5	0	1	33	3.19

(出典：平成23年教育に関するアンケート(企業版))

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
感性や創造力が豊かである。	4	23	21	1	0	2	51	3.61	3.56
社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	2	18	24	5	0	2	51	3.35	3.39

(出典：平成25年教育に関するアンケート(企業版))

資料5-4-①-1：成績判定の規程の一部

学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程

制 定 昭 和 5 2 年 4 月 1 日

最終改正 平成 2 5 年 1 2 月 1 1 日

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定。以下「学則」という。）第14条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校における成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定について定めることを目的とする。

(成績の評価)

第2条 成績の評価は、平素の成績、出席状況及び試験、学習報告書、作品等により、担当教員が決定する。

第3条 成績は、学期成績と学年成績に区分し、授業科目（以下「科目」という。）ごとに評価する。

2 学年成績の評価は、毎学期の成績を総合して、担当教員が決定する。

第4条 科目の成績は、年間授業時数の3分の2以上出席し、かつ100点法による評価で、60点以上を合格とする。

2 成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表わす。

評 語	評 価	
S	90点以上	
A	80点以上	90点未満
B	70点以上	80点未満
C	60点以上	70点未満
D	60点未満	

3 卒業研究の評価は、合否による。

4 校外実習を行う場合には、その評価は合否による。

5 資格取得による単位認定科目の評価は、合否による。

(単位認定)

第4条の2 前条第1項の規定に基づき合格した科目及び、前条第3項の規定に基づき「合」と評価された卒業研究の当該単位数を認定する。ただし、原学年にとどめられた場合は、この限りでない。

2 前条第4項及び第5項の規定に基づき「合」と評価された科目については、当該単位数を認定する。

(試験)

(出典：小山高専HP)

5-4-①-2：評価方法記入例の一部、1年から5年までの履修単位

科目名	フロンティア技術入門	英語科目名	Introduction to Frontier Technology
開講年度・学期	平成25年度・後期	対象学科・専攻・学年	全学科1年
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	1単位(週2h半期)	単位種類	履修単位(30)h
担当教員	各科担当教員	居室(もしくは所属)	担当教員の居室
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標(JABEE)	JABEE 基準要件
1. 全学科分野の先進技術について、その概略の知識を得る。	③		
2. 各学科における先進技術に対する基礎知識を習得し興味を持つ。	③		
3. 講義を聴くことにより、各学科における授業の重要性を認識する。	③		
4. 講義を聴くことにより、自分が将来どのような仕事に就きたいか考えるきっかけを得る。	①、②		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 全学科担当者の講義内容について概略を理解しているか評価する。(筆記試験等)			
2. 各学科における先進技術についての基礎知識の習得状況の評価する。(筆記試験、レポート、プレゼンテーション等)			
3. 講義を聴くことにより、授業に取り組む姿勢・自分の将来への展望等への意欲を評価する。(感想文・小論文等)			
評価方法			
1. 全体講義については講義内容について50分の筆記試験を実施し、評価をおこなう。			
2. 後半は筆記試験または必要に応じてレポート、プレゼンテーション等により総合的に採点し、評価する。			
授業内容			
1. 全体講義：機械工学分野に関する先進技術の入門講義(担当教員：機械工学科教員)			
2. 全体講義：電気電子創造工学分野に関する先進技術の入門講義(担当教員：電気電子創造工学科教員)			
3. 全体講義：電気電子創造工学分野に関する先進技術の入門講義(担当教員：電気電子創造工学科教員)			
4. 全体講義：物質工学分野に関する先進技術の入門講義(担当教員：物質工学科教員)			
5. 全体講義：建築学分野に関する先進技術の入門講義(担当教員：建築学科教員)			
6. 全体講義：一般科目分野から見た先進技術の入門講義(担当教員：一般科教員)			
7. (中間試験) 各分野における先進技術に関する概要の理解度とそれに対する学生の関心度等を評価する。			
8. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その1)			
9. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その2)			
10. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その3)			
11. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その4)			
12. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その5)			
13. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その6)			
14. 電気電子創造工学科個別講義：電気電子創造工学分野における先進技術に関する内容(その7)			
15. (期末試験) 電気電子創造工学における先進技術について学んだ実習成果について試験を実施する。			
16. 後半実習内容の講評、その他補足講義等。			
キーワード	先進技術、専門技術への興味、勉学意欲の育成		
教科書	全体講義の資料については、講義内容をA3用紙1枚程度にまとめて配付する。 中間試験以降の授業については別途担当教員から連絡する。		
参考書			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	なし		
現学年の関連科目	主に各学科の専門科目		
次年度以降の関連科目	主に各学科の専門科目		
連絡事項			
・ 中間試験までの全体講義は視聴覚教室において全学科同時に各科の教員が交代で授業を実施する。			
・ 中間試験以降は専門学科ごとに分かれて授業を実施する。			
シラバス作成年月日	平成25年2月25日		

(出典：小山高専HP)

資料5-4-①-3：及落判定会議の開催通知

平成25年度及落判定会議の開催について

及落判定会議日程一覧

区 分	事 項	場 所
3月11日 (火)	予備会議 13:30～	視聴覚室
	5年判定	
	判定会議 15:00～	
	専攻科判定	
3月18日 (火)	予備会議 5年予備会議終了後	視聴覚室
	判定会議 5年判定会議終了後	
	予備会議 9:00～	
	◎第1学年から順に行います。	
	◎第1学年の学級担任は、9時までに集合願います。	
1～4年判定	◎第2学年以上は、その後適宜連絡いたします。	視聴覚室
	判定会議 13:10～	

(出典：教員通知平成26年1月)

資料5-4-①-4：試験成績の関する学生への注意通知の一部

4. 後期期末試験、再試験、再評価の日程

●後期期末試験：2月6日(木)～2月13日(木)

成績に関して意見等がある場合は、なるべく早く(遅くとも2/27日(木)までに)科目担当教員まで申し出てください。

↓

●再試験の掲示：2月26日(水)15:00に、図書情報センター南側の学生向け掲示板に発表

再試験については、2月26日以前に担当教員から学生個人に連絡することは、原則としてありませんので、この掲示を確認してください。なお、平成20年度以前入学生に対しては、全ての科目で再試験が実施されるとは限りません。従って、再試験が無い場合、その科目が合格したとは限りません。

↓

●再試験の実施：3月3日(月)～3月7日(金)

再試験の日程は、5年生を除き、原則として後期期末試験に対応します(期末試験の1日目の1時限目の科目は、再試験の1日目の1時限目に行います)。ただし、変更もありますので、必ず掲示で日時、場所、出題範囲を確認してください。

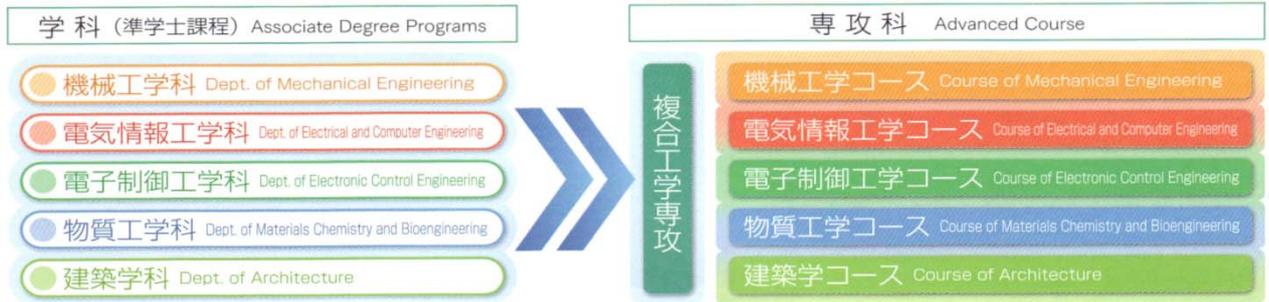
(出典：平成25年HR掲示資料の一例)

資料5-4-①-5：試験返却日程

	2	3	4	△教職員会議 予備日 ◇各種委員会	6 定期試験	7 定期試験	8
2月	9	10 定期試験 ◎総務会議	11 建国記念の日 祝	12 定期試験 □運営会議	13 定期試験	14 (臨時休業) 予備日	15
	16 学力選抜検査	17 (臨時休業) 採点	18 (臨時休業) 採点	19 (臨時休業) 判定会議 △教職員会議	20 (臨時休業)	21 試験返却	22
	23	24 試験返却	25 試験返却 全校集會 大掃除	26 (臨時休業) 補習日	27 (臨時休業) 補習日	28 (臨時休業) 補習日	1
	2	3 再試験	4 再試験	5 再試験 ◇各種委員会	6 再試験	7 再試験	8 閉寮
	9	10	11	12	13	14	15

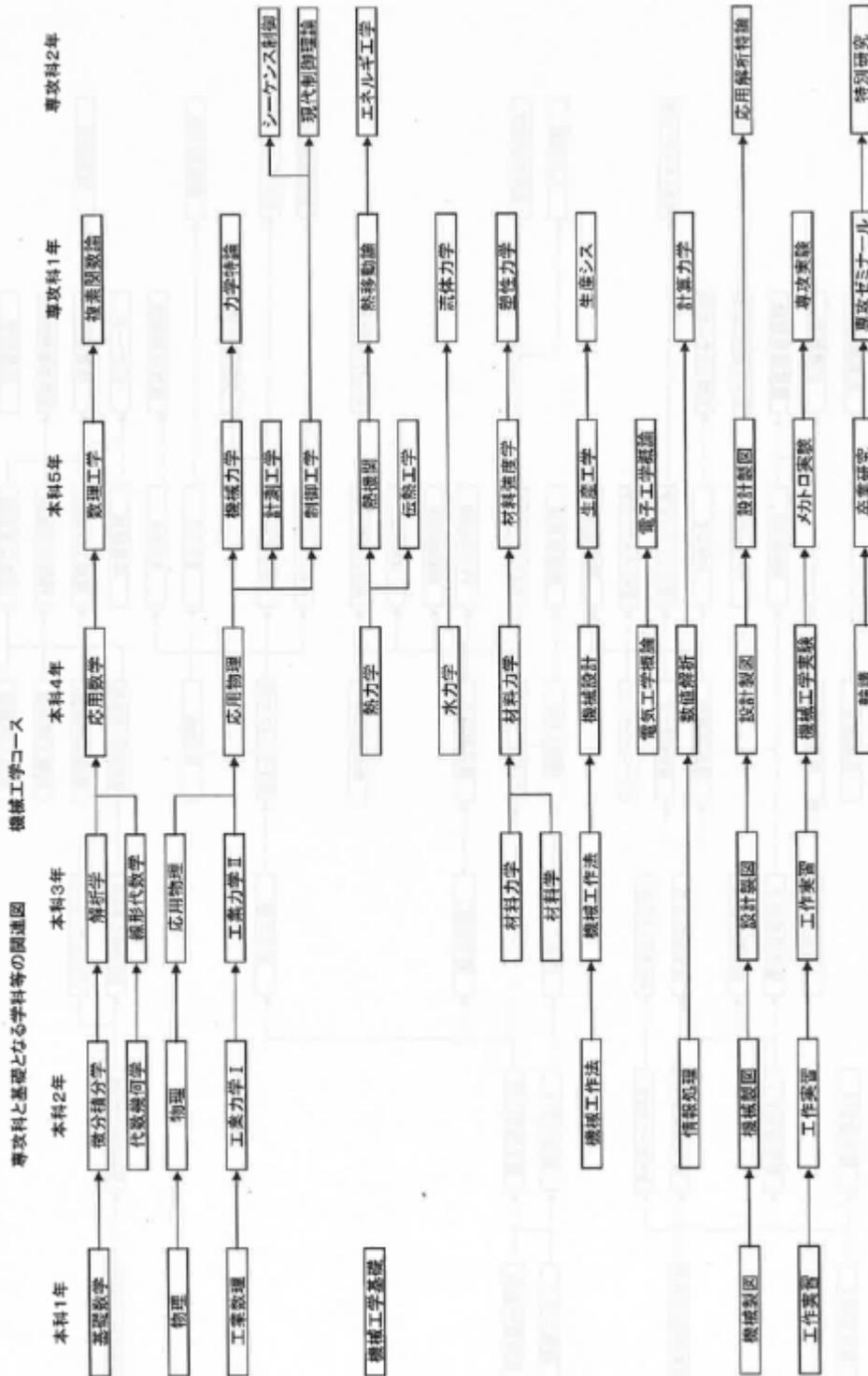
(出典：学生便覧、平成25年度年間行事予定表の一部)

資料 5-5-①-1 : 専攻科の構成



(出典：学校要覧2013パンフレット、p.19)

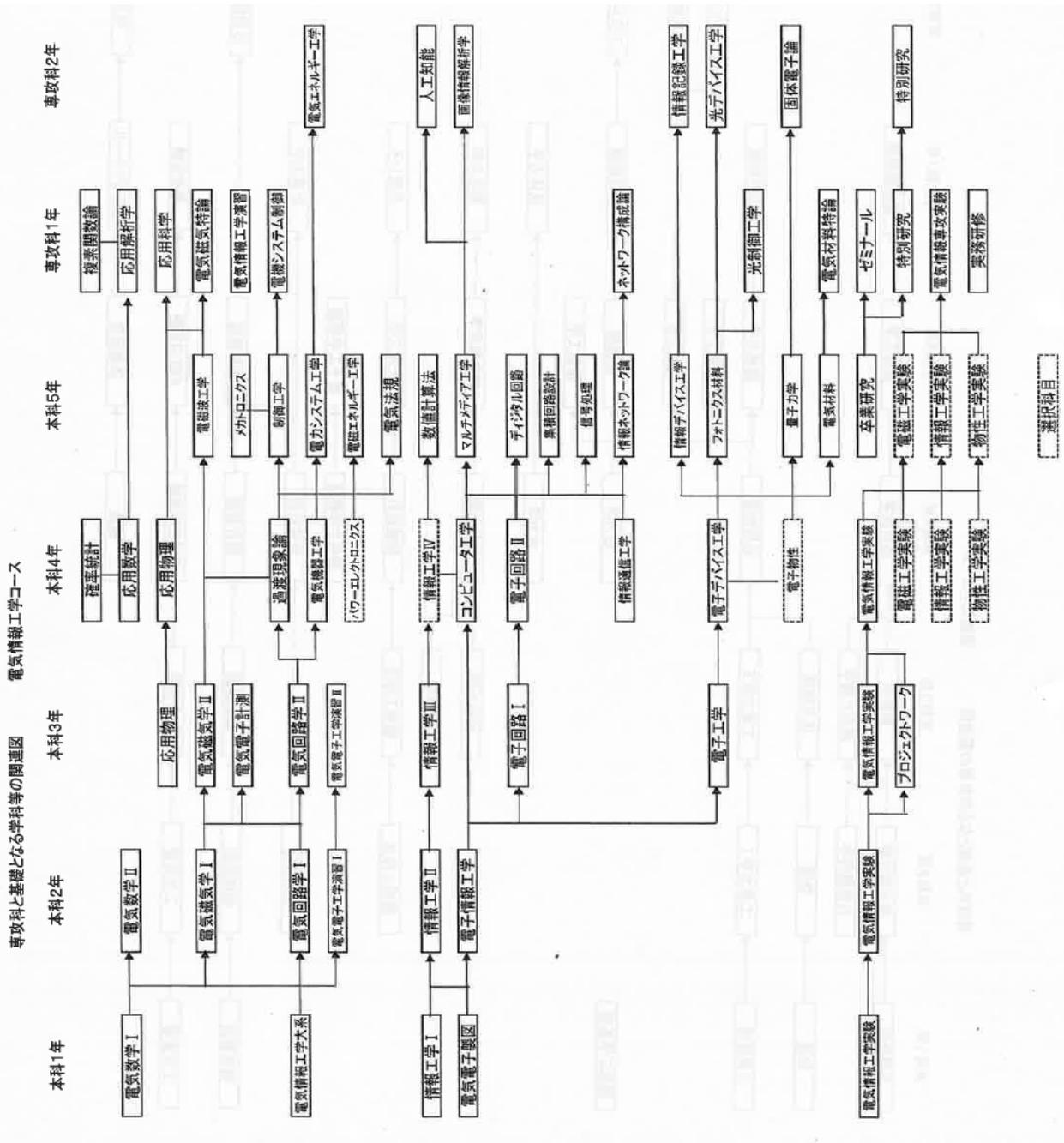
資料5-5-①-2：準学士課程から専攻科の科目構成（その1）
機械工学コース



（出典：短期大学及び高等専門学校の専攻科認定資料）

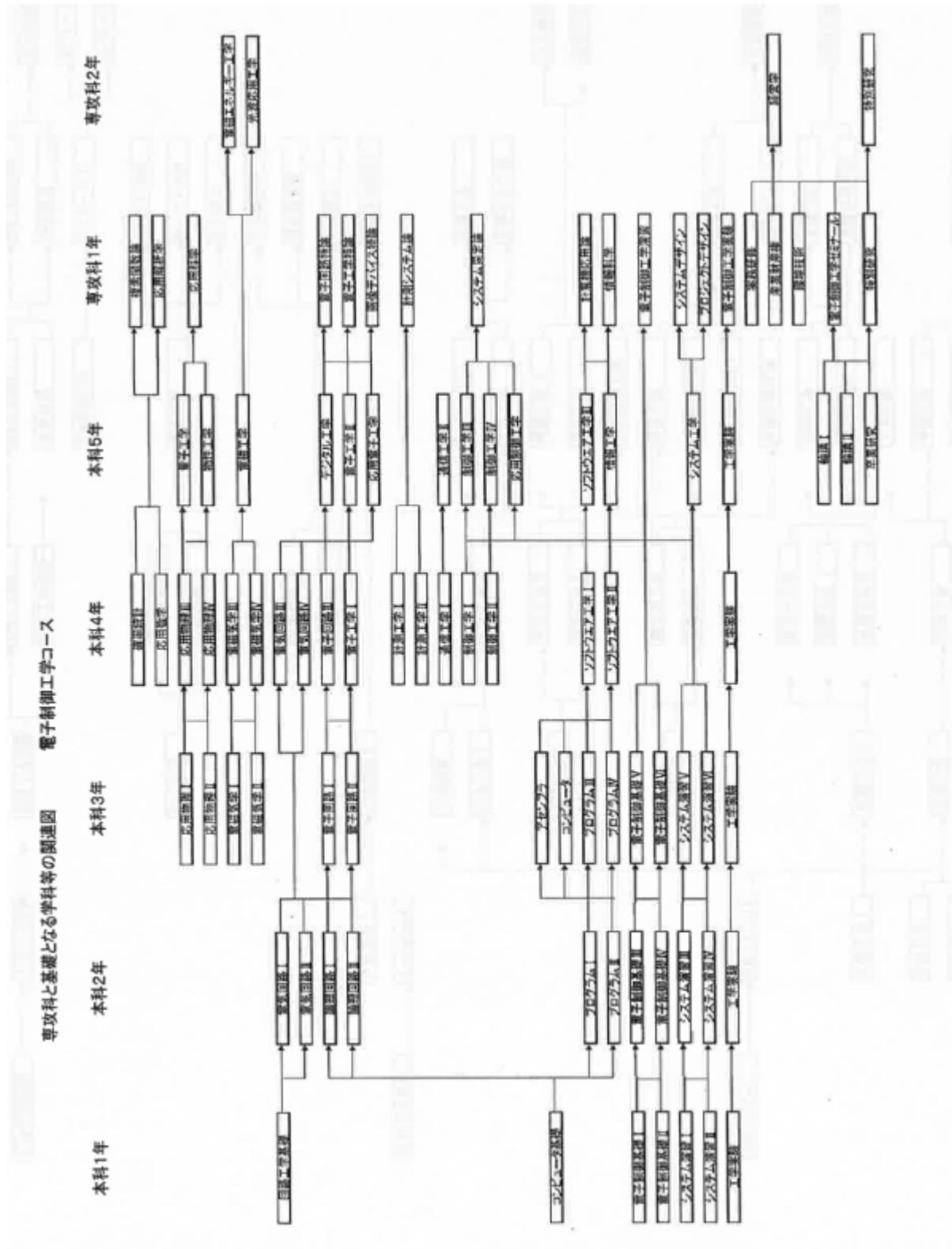
資料5-5-①-2：準学士課程から専攻科の科目構成（その2）

電気情報工学コース



(出典：短期大学及び高等専門学校の専攻科認定資料)

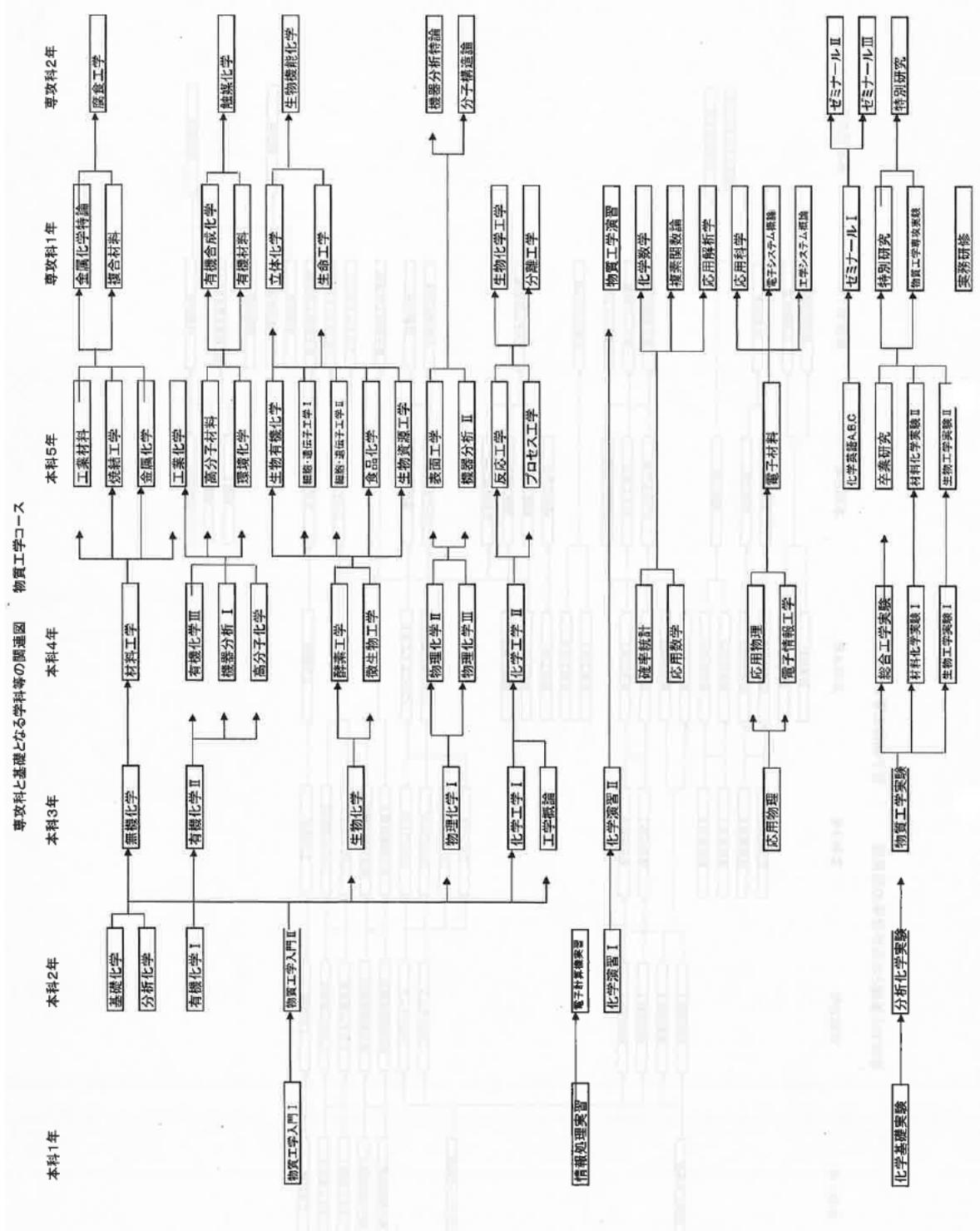
資料5-5-①-2：準学士課程から専攻科の科目構成（その3）
電子制御工学コース



(出典：短期大学及び高等専門学校の専攻科認定資料)

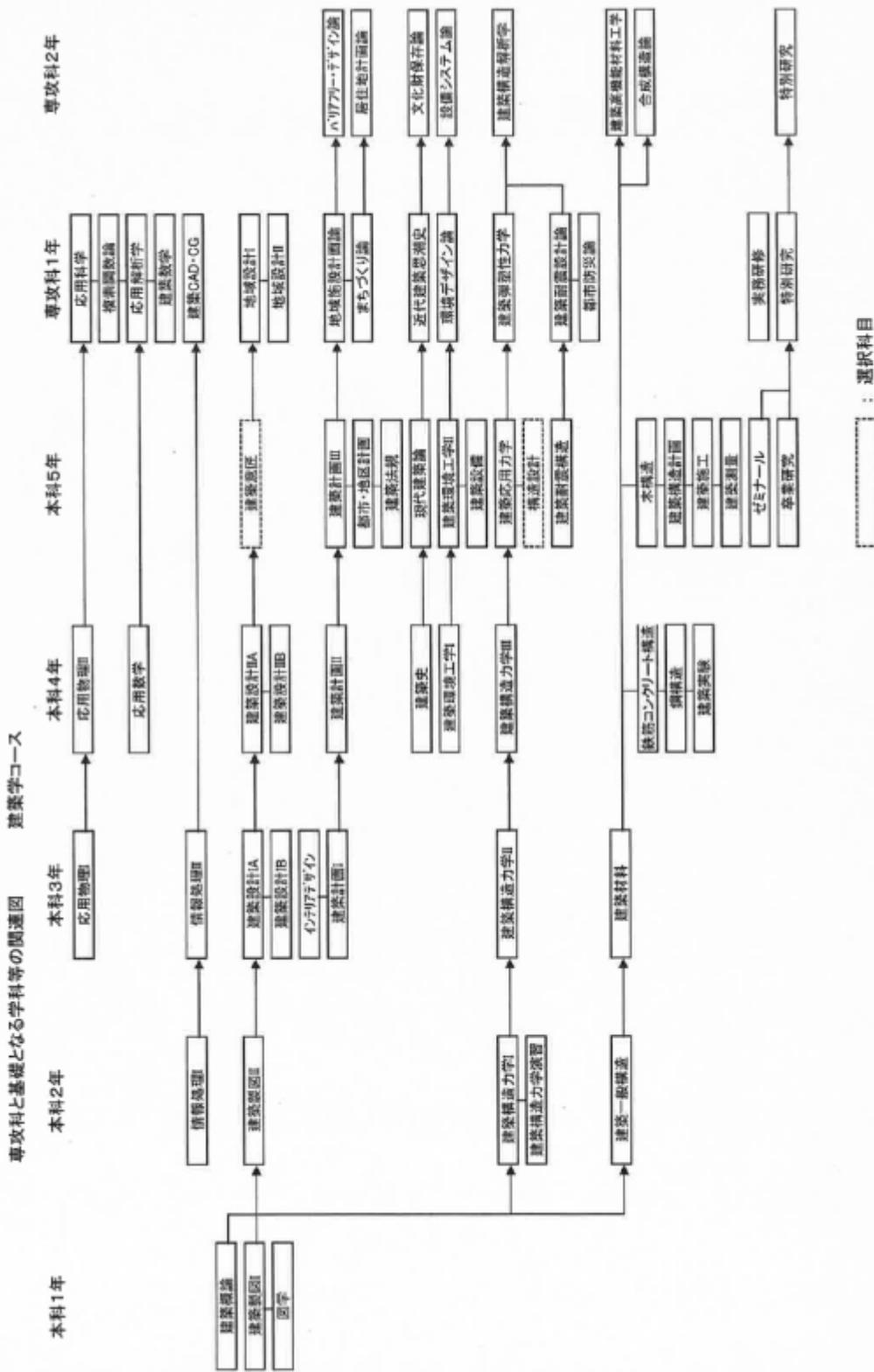
資料5-5-①-2：準学士課程から専攻科の科目構成（その4）

物質工学科コース



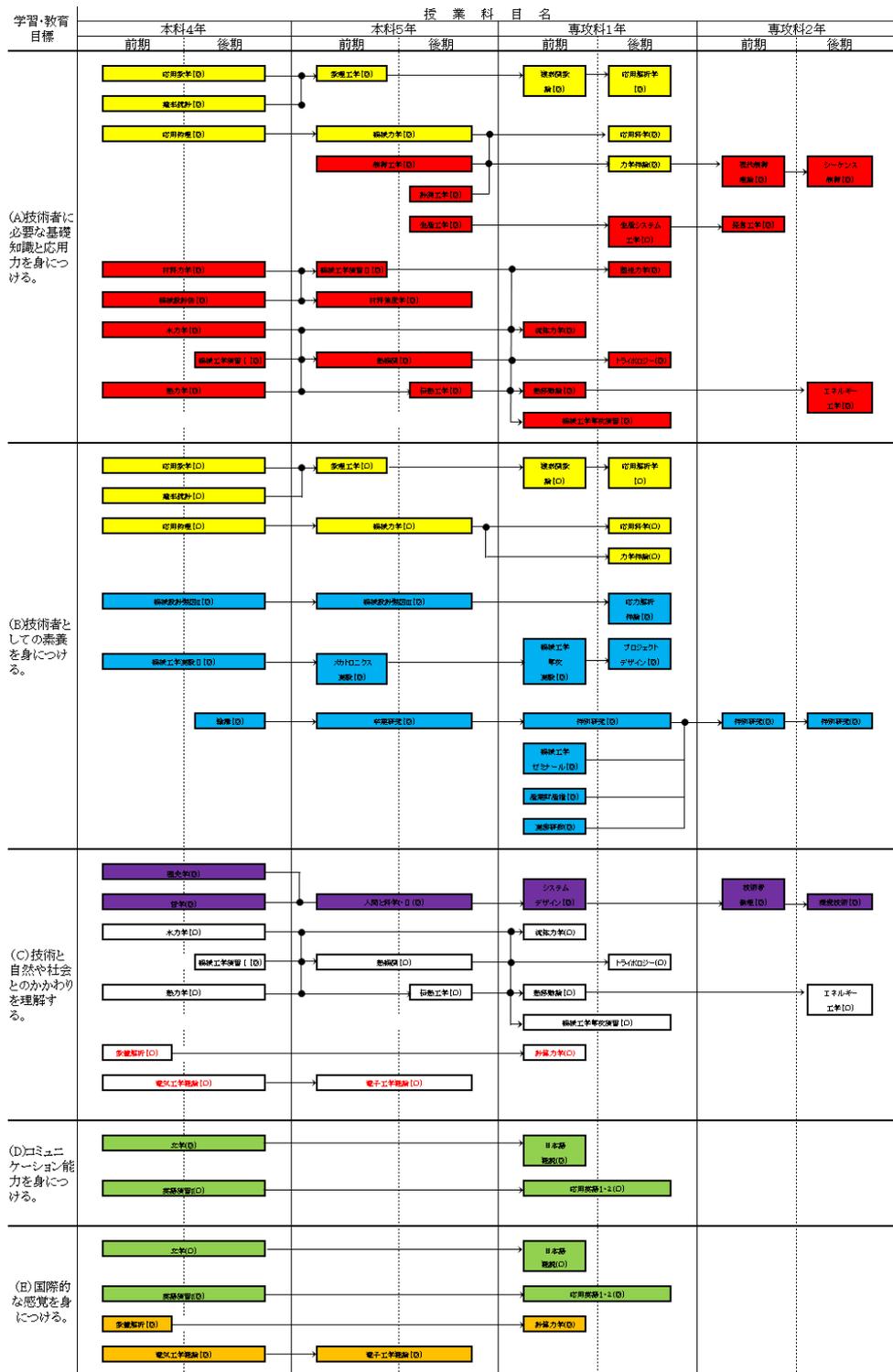
(出典：短期大学及び高等専門学校の専攻科認定資料)

資料 5-5-①-2 : 準学士課程から専攻科の科目構成 (その 5)
 建築学コース



(出典：短期大学及び高等専門学校の専攻科認定資料)

資料5-5-①-3：複合工学専攻（機械工学コース）技術者教育プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ



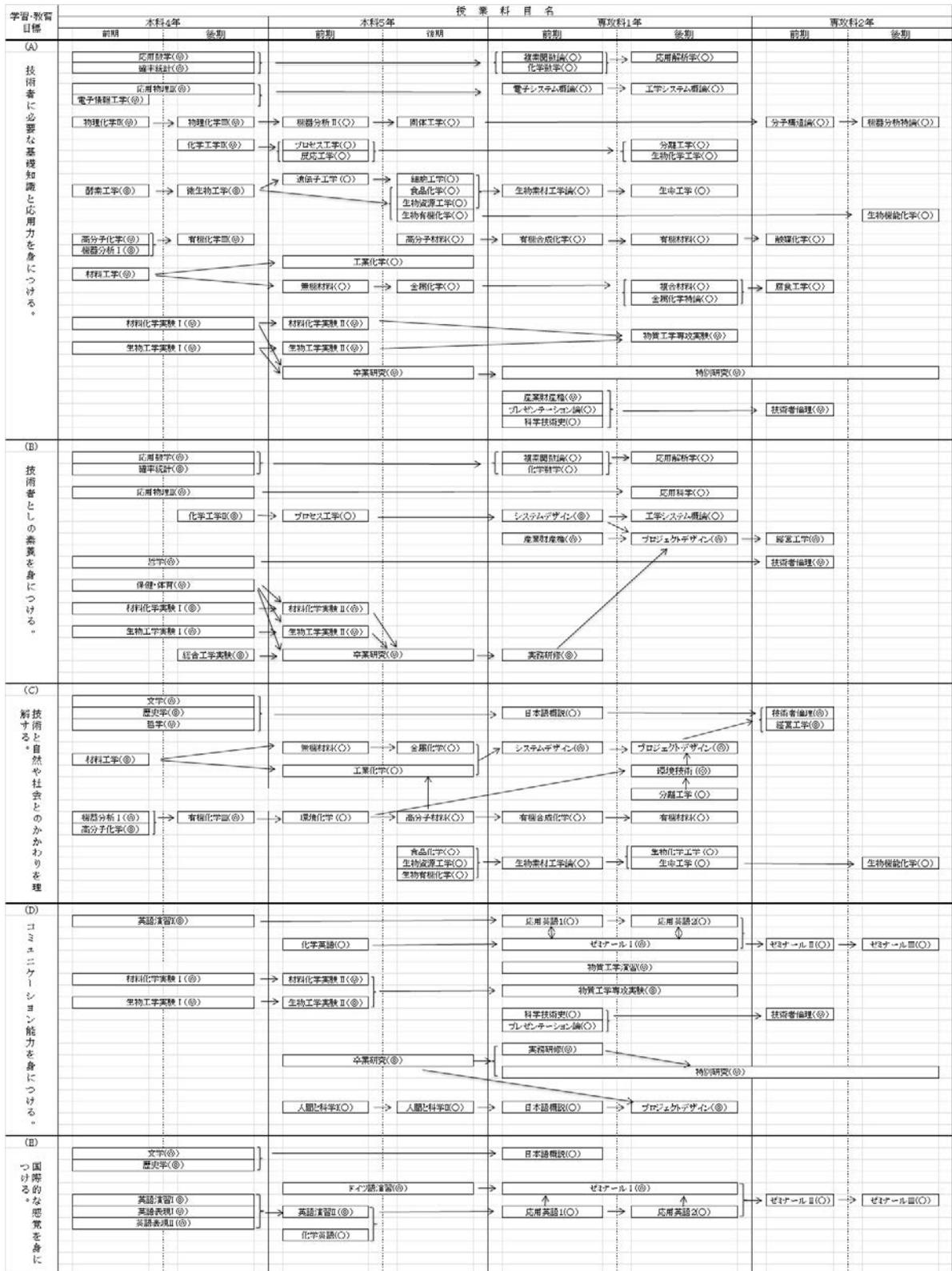
(出典：平成25年度学科内J A B E E資料)

資料 5-5-①-5 : 複合工学専攻 (電子制御工学コース) 技術者教育プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	授 業 科 目 名																			
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年													
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期										
(A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。	簿記論 (E)	応用数学 (E)	応用物理学 (E)	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電子工学Ⅰ (E)	電子工学Ⅱ	制御工学Ⅰ	制御工学Ⅱ	ソフトウェア工学Ⅰ	ソフトウェア工学Ⅱ	工学実験 (E)	卒業研究 (E)	特許研究 (E)	技術者倫理 (E)	電子制御工学 (E)	電気・H&E 工学	光電応用工学		
(B) 技術者としての素養を身につける。	哲学	保健体育Ⅰ	簿記論Ⅰ	応用数学	電子回路論	制御工学Ⅰ	ソフトウェア工学Ⅰ	工学実験												
(C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。	歴史学	哲学	応用物理学	ソフトウェア工学Ⅱ																
(D) コミュニケーション能力を身につける。	文学	歴史学	保健・体育	英語演習Ⅰ	英語表現Ⅰ	ドイツ語														
(E) 国際的な感覚を身につける。	文学			英語演習Ⅰ	英語表現Ⅰ	ドイツ語														

(出典：平成24年度 J A B E E 専門委員会資料)

資料5-5-①-6：複合工学専攻（物質工学コース）技術者教育プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ



(出典：平成25年度学科内J A B E E資料)

資料5-5-①-7：複合工学専攻（建築学コース）技術者教育プログラムの学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

学習・教育目標	授 業 科 目 名							
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。	応用数学(②) 応用物理II(②) 建築構造力学II(②) 鉄筋コンクリート構造(②) 鋼構造(②) 建築環境工学I(②) 建築計画II(②)	建築応用力学(②) 構造設計(②) 建築計画III(②) 建築法規(C) 建築環境工学II(②) 建築意匠(C)	木構造(②) 建築耐震構造(②) 建築構造計画(②) 都市・地区計画(②) 建築設備(C) 現代建築論(②)	複素関数論(②) 建築保潔力学(②) 都市防災論(②) 地域設計I(②) 環境デザイン論(C) 産業財産権(②)	応用解析学(②) 応用科学(②) 建築数学(②) 建築耐震設計論(C) 地域施設計画論(②) 地域設計II(②)	合成構造論(②) 建築取構架材工学(②) 設備システム論(②) 技術者倫理(C)	建築構造解析学(②) バリアフリーデザイン(②)	
(B) 技術者としての素養を身につける。	応用数学(C) 建築実験(②) 鋼構造(C) 建築設計IIA(C) 建築設計IIB(C) 建築史(C) 建築環境工学(C) 保健体育(②) 哲学(C)	建築測量(②)		複素関数論(C) 地域設計I(C) 電子システム概論(C) 産業財産権(C)	応用科学(C) 応用解析学(C) 建築耐震設計論(②) 地域設計II(C) まちづくり論(②) システムデザイン(②) プロジェクトデザイン(②) 工学システム概論(C)	居住地図論(②) 経費学(C)	卒業研究(②) 特別研究(②) 特別研究(②) 特別研究(②) 特別研究(②)	
(C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。	建築環境工学(C) 歴史学(C) 哲学(②)	建築施工(②) 木構造(C) 建築構造計画(C) 都市・地区計画(C) 建築法規(②) 建築環境工学II(C) 人間と科学I(②) 人間と科学II(②)	建築設備(②) 環境デザイン論(②)	環境デザイン論(②) 環境技術(②) システムデザイン(C) プロジェクトデザイン(C)	応用科学(C) 経費学(②) 技術者倫理(②)	文化財保存論(②)		
(D) コミュニケーション能力を身につける。	建築設計IIA(②) 文学(C) ドイツ語I(②) ドイツ語II(②) 英語演習I(C) 保健体育(C)	建築設計IIB(②) 人間と科学I(C) ドイツ語演習(C) 英語演習II(C)	都市・地区計画(C) 人間と科学II(C)	地域設計I(C) 建築CAD・CG(②) 日本語概論(②) 応用英語I(②)	近代建築思想史(C) システムデザイン(C) 応用英語II(C)	文化財保存論(C)	卒業研究(C) 特別研究(C) 特別研究(C) 特別研究(C) 特別研究(C)	
(E) 国際的な感覚を身につける。	建築史(②) 文学(②) 歴史学(②) ドイツ語I(C) ドイツ語II(C) 英語演習I(②)	人間と科学I(C) ドイツ語演習(②) 英語演習II(②)	現代建築論(C) 人間と科学II(C)	電子システム概論(②) 日本語概論(C)	工学システム概論(②) 経費学(C)	文化財保存論(C)		

(出典：平成24年度 J A B E E 専門委員会資料)

資料 5-5-②-1 : 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (機械工学コース)

小山高専の 教育目標	1 年		2 年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	システムデザイン [履修/必修/2] 経営工学 [履修/必修/2]	環境技術 [履修/必修/2]	技術者倫理 [履修/必修/2]	
②豊かな感性と創造力の育成	機械工学ゼミナール 演習/必修/2			
	機械工学専攻実習 [履修/必修/2]	応力解析特論 [履修/選択/2]		
	産業財産権 [履修/必修/2]	プロジェクトデザイン [履修/必修/2]		
	実務研修 [履修/必修/2]			
	特別研究 (必修/3)		特別研究 (必修/5)	特別研究 (必修/6)
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	複素関数論 [履修/選択/2]	応用解析学 [履修/選択/2]	現代制御理論 [履修/選択/2]	
		応用科学 [履修/選択/2]	シーケンス制御 [履修/選択/2]	
		力学特論 [履修/選択/2]		
	機械工学専攻演習 演習/必修/2			
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	熱移動論 [履修/選択/2]			エネルギー工学 [履修/選択/2]
	塑性力学 [履修/選択/2]			
	流体力学 [履修/選択/2]			
	トライボロジー [履修/選択/2]			
⑤情報技術の向上	工学システム概論 [履修/選択/2]			
	計算力学 [履修/選択/2]	生産システム工学 [履修/選択/2]		
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	日本語概説 [履修/選択/2]			
	応用英語 I [履修/選択/2]	応用英語 II [履修/選択/2]		

(出典：平成25年度学生便覧より作成)

資料5-5-②-2：学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（電気情報工学コース）

学習・教育目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	システムデザイン (講義/必修/2) 経営工学 (講義/必修/2)	環境技術 (講義/必修/2)	技術者倫理 (講義/必修/2)	
②豊かな感性と創造力の育成	電気情報工学ゼミナール (演習/必修/1) 電気情報専攻実験 (実験/必修/2) 産業財産権 (講義/必修/2) 実務研修 (実習/必修/2) 特別研究 (実験/必修/1.5)	電気情報工学ゼミナール (演習/必修/1) プロジェクトデザイン (演習/必修/2) 特別研究 (実験/必修/1.5)	特別研究 (実験/必修/5)	特別研究 (実験/必修/6)
③基礎自然科学の向上・専門	複素関数論 (講義/選択/2) 電気情報工学演習 (演習/選択/1)	応用解析学 (講義/選択/2) 応用科学 (講義/選択/2)		
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	電気エネルギー工学 (講義/選択/2) 光子デバイス工学 (講義/選択/2) 電機システム制御 電気磁気学特論 電気材料特論	(いずれの学年でも受講可) (いずれの学年でも受講可) 情報記録工学 (講義/選択/2) 固体電子論 (講義/選択/2) ネットワーク構成論 光制御工学	電気エネルギー工学 (講義/選択/2) 光子デバイス工学 (講義/選択/2) (いずれの学年でも受講可) (いずれの学年でも受講可)	情報記録工学 (講義/選択/2) 固体電子論 (講義/選択/2)
⑤情報技術の向上	工学システム概論 (講義/選択/2)	人工知能 (講義/選択/2) 画像情報工学 (講義/選択/2)	(いずれの学年でも受講可) (いずれの学年でも受講可)	人工知能 (講義/選択/2) 画像情報工学 (講義/選択/2)
⑥国際感覚の育成と外国	日本語概説 (講義/選択/2) 応用英語Ⅰ (講義/選択/2)	応用英語Ⅱ (講義/選択/2)		

(出典：平成25年度学生便覧より作成)

資料 5-5-②-3 : 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子制御工学コース)

専攻科	専攻科 1 年	専攻科 2 年
①豊かな人間性の涵養	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
②豊かな感性と創造力の育成	→	
	→	
	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	→	
	→	
	→	
	→	
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
	→	→
⑤情報技術の向上	→	
	→	
	→	
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	→	
	→	

(出典：平成25年度学生便覧より作成)

資料5-5-②-4：学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（物質工学コース）

	専攻科1年	専攻科2年
①豊かな人間性の涵養	システムデザイン	技術者倫理
	環境技術	
	経営工学	
②豊かな感性と創造力の育成	プロジェクトデザイン	
	特別研究 物質工学専攻実験	特別研究
	産業財産研	
	実務研修	
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	複素関数論 応用解析学 化学教養	
	応用科学	
	物質工学演習	
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	金属化学特論 複合材料	腐食工学
	有機合成化学 有機材料	触媒化学
	生命工学 生物素材工学論	生物機能化学
	機器分析特論 分子構造論	
	生物化学工学 分離工学	
⑤情報技術の向上	工学システム概論	
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	日本語概説	
	ゼミナールⅠ	ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ
	応用英語 1	
	応用英語 2	

(出典：平成25年度学生便覧より作成)

資料 5-5-②-5 : 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (建築学コース)

学習・教育 目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
① 豊かな人間 性の涵養	システムデザイン <small>(講義/必修/2)</small> 経営工学 <small>(講義/必修/2)</small>	環境技術 <small>(講義/必修/2)</small>	技術者倫理 <small>(講義/必修/2)</small>	
② 豊かな感性 と創造力の 育成	地域設計 I <small>(実習/選択/2)</small> 産業財産権 <small>(講義/必修/2)</small> 実務研修 <small>(実習/必修/2)</small> 特別研究 <small>(実験/必修)</small>	地域設計 II <small>(実習/選択/2)</small> まちづくり論 <small>(講義/選択/2)</small> プロジェクトデザイン <small>(講義/必修/2)</small> 特別研究 <small>(実験/必修)</small>	居住地計画論 <small>(講義/選択/2)</small> 特別研究 <small>(実験/必修/2)</small>	地域施設計画論 <small>(講義/選択/2)</small> 特別研究 <small>(実験/必修/2)</small>
③ 自然科学・英 語・専門基礎 学力の向上	複素関数論 <small>(講義/選択/2)</small>	応用解析学 <small>(講義/選択/2)</small> 応用科学 <small>(講義/選択/2)</small> 建築数学 <small>(講義/選択/2)</small>		
④ 各専門分野 に関する高 度な知識と 豊かな感性 の育成	環境デザイン論 <small>(講義/選択/2)</small> 都市防災論 <small>(講義/選択/2)</small> 鉄筋コンクリート構造論 <small>(講義/選択/2)</small>	建築耐震設計論 <small>(講義/選択/2)</small>	設備システム論 <small>(講義/選択/2)</small> 鋼・合成構造論 <small>(講義/選択/2)</small> 建築高機能材料工学 <small>(講義/選択/2)</small>	バリアフリーデザイン論 <small>(講義/選択/2)</small> 建築構造解析学 <small>(講義/選択/2)</small>
⑤ 情報技術の 向上	電子システム概論 工学システム概論 <small>(講義/選択/2)</small>		建築CAD・CG <small>(講義/選択/2)</small>	
⑥ コミュニケー ション能力と 国際感覚の 育成	応用英語1 <small>(講義/選択/2)</small> 近代建築思潮史 <small>(講義/選択/2)</small> 文化財保存論 <small>(講義/選択/2)</small> 日本語概説 <small>(講義/選択/2)</small>	応用英語2 <small>(講義/選択/2)</small>		

(出典：平成25年度学生便覧より作成)

資料5-5-②-6：全コース共通の科目の教育目標と教育目的

科目名	本校教育目標と教育目的
技術者倫理 (講義/必修/2)	本校教育目標：①：豊かな人間性の涵養 科学・技術の諸問題について技術史を踏まえ理解し、倫理的かつ多面的にその解決に取り組める、技術者としてふさわしい人格を有した人材の育成を目指す。
システムデザイン (講義/必修/2)	本校教育目標：①：豊かな人間性の涵養 実例を通じて、商品開発に必要な事柄、過程を学び、技術者に必要な考え方のできる人材の育成を目指す。
産業財産権 (講義/必修/2)	本校教育目標：②：豊かな感性と創造力育成 特許取得を意識した技術開発の能力を身につけ、発想やアイデアを提案し、知的所有権とするまでの過程の修得を目指す。
プロジェクトデザイン (講義/必修/2)	本校教育目標：②：高度な専門知識と問題解決能力の育成 与えられた課題から異分野チームでのプロジェクトを設定し、プロジェクト達成のためのプロセスをデザインして、企画をまとめる能力の修得を目指す。
環境技術 (講義/必修/2)	本校教育目標：①：豊かな人間性の涵養 現代社会から求められている、環境およびエネルギー分野の諸問題について広い視野から考察できる技術者の育成を目指す。
経営工学 (講義/必修/2)	本校教育目標：①：豊かな人間性の涵養 社会における企業とその役割を理解し、企業が取り組むべき問題およびマーケティングについて技術者としての広い知識修得を目指す。

(出典：専攻科委員会資料)

資料5-5-③-1：他専攻科目の履修規程及び他教育機関との単位互換規程

専攻科の授業科目の履修等に関する規程

小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

制 定 平成11年4月1日
最終改正 平成23年4月1日

省略

(大学等における授業科目の履修)

第5条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位(以下「学外単位」という。)の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、4単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

省略

(出典：平成25年度学生便覧、p.121)

専攻科履修の手引き

3. 修了要件

専攻科を修了するためには「一般科目」及び「専門基礎科目」をあわせて10単位以上、「専門科目」を48単位以上修得する必要があります(合計62単位以上修得)。

教育課程は、一般科目、専門基礎科目及び専門科目で構成されており、開設科目、学年別配当単位数は別表を参照して下さい。

(出典：平成25年度専攻科履修の手引き、p.1)

資料 5-5-③-2 : 実務研修の手続き

専攻科履修の手引き

5. 履修方法並びに手続き

省略

(5) 実務研修

専攻科における学生の技術教育の自発的な動機付け、今後のカリキュラム選択、特別研究テーマの選択や研究の進め方、将来の開発技術者としての心構えなどを学ぶために専攻科1年次に、専攻に即した実習を企業等で実施します。この研修により実際の企業等における技術課題を把握し、解決法等をつぶさに体験します。

専攻科において、教育上有益と認める実務経験を「実務研修」の単位として認定することができます。申請手続等については指導教員に相談してください。

省略

6. 実務研修（インターンシップ）

実務研修実施計画（2単位（90時間以上）） 専攻科委員、指導教員

- ・受入先事業所等の選定
- ・受入先事業所等の実習指導者の指定
- ・受入先事業所等への配属
- ・研修、テーマ等に関する指導・助言
- ・安全管理、就業心得等の事前指導
- ・その他必要な事項

実務研修実施計画書（様式1）作成 専攻科委員、指導教員

- 校長決済後 受入先事業所等との事務処理
- ・依頼文書、契約書、誓約書等の送付（または学生渡し）
 - ・その他事務手続き上必要な事項

実務研修実施中 指導教員

- ・事故、異常事態の処置、報告等
- ・研修先事業所等との連絡調整、実地指導
- ・その他必要な事項

実務研修終了時 専攻科委員、指導教員

- ・学生提出書類の確認・指導
（実務研修証明書、実務研修報告書、実務研修日誌）
- ・事後指導の実施

校長決済後 「実務研修実施計画書」とともに保管

実務研修報告会の計画 実施 専攻科委員、指導教員

- ・発表会の企画・立案、学生指導
- ・報告書作成指導

成績評価及び単位の認定 指導教員

（出典：平成25年度専攻科履修の手引き、pp. 8-9）

資料 5-5-③-3 : 実務研修要項

小山工業高等専門学校専攻科実務研修要項

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校学則第46条に基づき行う専攻科実務研修(以下「実務研修」という。)は、この要項の定めるところによる。

(目的)

第2条 実務研修は、企業又は官公庁等において技術体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、技術体験で得た成果を学修に生かすことを目的とする。

(計画・実施)

第3条 実務研修は、専攻科委員及び指導教員が計画のうえ、実務研修実施計画書(様式1)を作成し、校長の許可を得て実施するものとする。

(実施の時期及び時間)

第4条 実務研修の時期は、1年次とし、90時間以上とする。

(経費)

第5条 実務研修に要する費用は、原則として実務研修を行う学生(以下「実務研修生」という。)の負担とする。

(実施責任者)

第6条 実務研修を円滑に実施するため、専攻科委員を実施責任者とする。

(指導教員の業務)

第7条 指導教員は、専攻科委員の指示のもとに次の業務にあたる。

- 一 実務研修生の受入先事業所等の選定
- 二 実務研修生の受入先事業所等の実習指導者の指定
- 三 実務研修生の受入先事業所等への配属
- 四 実務研修内容、テーマ等に関する指導・助言
- 五 実務研修における安全管理(傷害保険への加入指導を含む。)*就業心得等の事前指導
- 六 実務研修中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告
- 七 実務研修先事業所等との連絡調整
- 八 その他必要な事項

(実地指導)

第8条 専攻科委員又は指導教員は、必要に応じ実務研修生に対し、受入先事業所等において実地指導を行うものとする。

(報告)

第9条 実務研修生は、実務研修修了後直ちに、次に掲げる書類を指導教員、専攻科委員を経て校長に提出しなければならない。

- 一 実務研修証明書(様式2)
- 二 実務研修報告書(様式3)
- 三 実務研修日誌(様式4)

(成績評価及び単位の認定)

第10条 所定の実務研修を修了した学生の評価は、次によるものとする。ただし、第4条に定める実務研修期間を満了しない場合は、この限りでない。

- 一 実務研修の成績は、前条に定める内容等に基づき、指導教員が総合的に判断し評価する。
- 二 評価は、可否とし、合格の場合は、実務研修の単位を認定する。

(事務)

第11条 実務研修に関する事務は、学生課が処理する。

(雑則)

第12条 この要項に定めるもののほか、実務研修に関し必要な事項は、専攻科委員会委員長と専攻科委員が協議し校長が定めるものとする。

附 則

この要項は、平成11年 4月 1日から施行する。

附 則 抄

附 則

この要項は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：平成25年専攻科履修の手引き、pp. 17-18)

資料 5-5-③-4 : 実務研修シラバス・発表会プログラムの例

【電気情報工学コース】
シラバス

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成25年度・前期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電気情報工学コース1年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位 (90%)
担当教員	担当教員	居室 (もしくは所属)	担当教員の居室
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン
授業の達成目標		授業達成目標との対応	
1. 理論の学習および実験を通して修得した知識と技能を実地に活かすにはどうしたら良いかを学ぶ。		⑤	a
2. 設計や製造現場における工学の適用状況を説明できること。		⑤	b, c, f
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 研修先の指導者の評価による。			
2. 研修後の報告会の内容により評価する。			
評価方法			
研修中における指導者の評価 (研修成果・積極性・理解度・職場規律遵守など) と、研修後の報告会の内容により可否を判定する。			
授業内容			
<研修テーマ (研修先) とこれまでの実施例> 研修先および研修テーマは希望により決まる。これまでの実施例を以下に示す。 ○ 解析装置、回路基板、センサの調整検査 (株式会社 野瀬電子機器) ○ 有機電界効果トランジスタの試作評価 (物質・材料研究機構) ○ 磁界印加コイルのインピーダンス整合実験 (産業技術総合研究所) ○ 総合監視ツールの使用実験 (株式会社 ネットワールド) ○ 変化ガリウム半導体組成実験 (株式会社 パナテック) ○ 機器試験用ケーブルの試作評価 (日本信号株式会社) ○ 水晶振動子の試作 (セイコーインスツルメント株式会社) ○ 化学修飾したシリカ粒子の合成と二次元配列作製条件の最適化 (物質・材料研究機構) ○ ハイブリッドレーザファイバを用いた wire-B-bonded Si の Bi トレーの電気的・光学的活性化 (物質・材料研究機構) ○ 乾燥空気の高電圧実験、開閉器の評価 (株式会社 高松製作所) ○ アンパ外観検査装置のプログラム作成など (株式会社 熊本富士通テン) ○ LGS 発光デバイス検査など (株式会社 ミトヨ) ○ ファイルサイズ監視ソフト作成 (株式会社 熊本富士通テン) ○ IP ID 製品の評価試験など (株式会社 イーアドエム)			
キーワード	インターンシップ、工場		
教科書	特になし		
参考書	実習内容に必要な文献		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	すべて		
現学年の関連科目	すべて		
次年度以降の関連科目	すべて		
連絡事項			
事前に研修予定先と打ち合わせを行い、研修の内容を決定する。研修時期は原則として夏季休業期間中とし、2週間 (90 時間以上) の期間を必要とする。 学生へのメッセージ: ・ 社会人として企業などに就職する前に、短期間ながら企業などの仕事に携わることが出来るので、将来の仕事への適応性などを念頭に置きつつ研修を行うと良い。また、学校とは異なる視点から評価されることから、社会人としての資質などを考える良い機会となる。			
シラバス作成年月日 平成25年2月25日			

(出典：小山高専HP)

発表会プログラム

平成25年度 小山高専電気情報工学科・専攻科電気情報工学コース インターンシップ報告会					
日時	平成25年10月30日(水) 6~8時				
会場	4E教室, 3E教室				
発表時間	4年生	プレゼン: 5分, 質疑応答2分	専攻科生	プレゼン: 7分, 質疑応答3分	
発表会場: 4E教室					
番号	発表時間	氏名	研修先	ページ	
	14:00 ~ 14:10	(準備)			
1	14:11 ~ 14:21	平河ヒューテック			
2	14:22 ~ 14:32	カテル株式会社			
3	14:33 ~ 14:43	高岳製作所			
4	14:44 ~ 14:54	村櫻石灰工業株式会社			

(出典：電気情報工学科資料)

資料 5-5-③-5 : 平成 25 年度修了生の TOEIC スコア一表

	TOEIC		TOEIC
機械工学科	385	物質工学科	445
	400		520
	390		395
	420		—
	435		410
	480		400
電気情報工学科	710		530
	530		445
	700		440
	460		455
	405		460
		420	
電子制御工学科	545	445	
	410		

(出典：平成 25 年度修了生 TOEIC 得点調査)

資料5-6-①-1：専攻科の科目と単位数（その1）

別表第5

授業科目		必修選択 の別	単位数	備 考	
一般科目	応用英語1	必修	2		
	応用英語2	選択	2		
	日本語概論	選択	2		
	技術者倫理	必修	2		
	開設単位数		8		
	修得単位数		6		
専門基礎科目	複素関数論	選択	2		
	応用解析	選択	2		
	応用科学	選択	2		
	化学数	選択	2		
	建築数	選択	2		
	開設単位数		10		
	修得単位数		4		
コース共通科目	システムデザイン	必修	2		
	産業財産権	必修	2		
	環境技術	必修	2		
	プロジェクトデザイン	必修	2		
	経営工学	必修	2		
	特別研究	必修	14		
	実務研修	必修	2		
	電子システム概論	選択	2		
工学システム概論	選択	2			
	開設単位数		30		
	修得単位数		26		
	以上合計修得単位数		36		
専門科目	機械工学コース	力学特論	選択	2	
		流体移動論	選択	2	
		熱移動論	選択	2	
		エネルギー工学	選択	2	
		塑性力工学	選択	2	
		応用解析特論	選択	2	
		生産システム工学	選択	2	
		シケンス制御論	選択	2	
		現代制御理論	選択	2	
		計算法力学	選択	2	
		トライボロジー	選択	2	
		機械工学専攻演習	必修	2	
		機械工学専攻実験	必修	2	
		機械工学ゼミナール	必修	2	
	開設単位数計		28		
電気情報工学コース	電機システム制御論	選択	2		
	ネットワーク構成論	選択	2		
	電気磁気学特論	選択	2		
	光制御工学	選択	2		
	電気材料特論	選択	2		
	電気エネルギー工学	選択	2		
	画像情報工学	選択	2		
	光デバイス工学	選択	2		
	情報記録工学	選択	2		
	人工知能	選択	2		
	固体電子論	選択	2		
	電気情報工学演習	選択	1		
	電気情報工学ゼミナール	必修	2		
電気情報専攻実験	必修	2			
	開設単位数計		27		

(出典：平成25年度学生便覧、p.31)

資料5-6-①-1：専攻科の科目と単位数（その2）

授業科目		必修 選択 の 別	単位数	備 考
電子制御工学コース	電子回路特論	選 択	2	
	電子工学特論	選 択	2	
	電子機械応用論	選 択	2	
	情報科学論	選 択	2	
	制御システム論	選 択	2	
	システム同定論	選 択	2	
	パワーエレクトロニクス特論	選 択	2	
	電磁エネルギー工学	選 択	2	
	光波応用工学	選 択	2	
	電子制御工学演習	選 択	1	
	電子制御工学実験	必 修	2	
	電子制御工学ゼミナール	必 修	2	
	開設単位計		23	
物質工学コース	分子構造論	選 択	2	
	器分析特論	選 択	2	
	金属化学特論	選 択	2	
	複合材料科学	選 択	2	
	高分子工学	選 択	2	
	有機合成化学	選 択	2	
	有機材料科学	選 択	2	
	生物機能化学	選 択	2	
	生物素材工学	選 択	2	
	触媒化学	選 択	2	
	生物化学工学	選 択	2	
	物質工学演習	必 修	2	
	物質工学専攻実験	必 修	2	
	物質工学ゼミナールⅠ	必 修	2	
	物質工学ゼミナールⅡ	選 択	1	
物質工学ゼミナールⅢ	選 択	1		
開設単位計		34		
建築学コース	まちづくり論	選 択	2	
	近代建築思想史	選 択	2	
	文化財保存論	選 択	2	
	地域施設計画論	選 択	2	
	居住地計画論	選 択	2	
	環境デザイン論	選 択	2	
	設備システム論	選 択	2	
	鋼・合成構造論	選 択	2	
	建築耐震設計論	選 択	2	
	建築構造解析学	選 択	2	
	都市防災論	選 択	2	
	バリアフリー・デザイン論	選 択	2	
	鉄筋コンクリート構造論	選 択	2	
	建築高機能材料工学	選 択	2	
	地域設計Ⅰ	選 択	2	
地域設計Ⅱ	選 択	2		
建築CAD・CG	選 択	2		
開設単位計		34		

(出典：平成25年度学生便覧、p. 32)

資料5-6-①-2：各コースの実験、実習、演習科目の単位配当

機械工学コース

学年 期別	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	機械工学専攻実験 (2)〈必修〉	特別研究(3)〈必修〉	特別研究(5)〈必修〉	特別研究(4)〈必修〉	
単位小計	2	3	5	4	14
実習	実務研修(2)〈必修〉				
単位小計	2				2
演習	機械工学演習(1) (必修)	機械工学演習(1) (必修)			
	ゼミナール(1)〈必修〉	ゼミナール(1)〈必修〉			
単位小計	2	2			4
単位合計	6	5	5	4	20
専門科目 開設単位					68
割合					29%

電気情報工学コース

学年 期別	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	電気情報専攻実験 (2)〈必修〉	特別研究(3)〈必修〉	特別研究(5)〈必修〉	特別研究(4)〈必修〉	
単位小計	2	3	5	4	14
実習	実務研修(2)〈必修〉				
単位小計	2				2
演習	電気情報工学演習 (1)〈選択〉				
	ゼミナール(1)〈必修〉	ゼミナール(1)〈必修〉			
単位小計	2	1			3
単位合計	6	4	5	4	19
専門科目 開設単位					67
割合					28%

電子制御工学コース

学年 期別	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	電子制御工学実験 (1)〈必修〉 特別研究(2)〈必修〉	特別研究(2)〈必修〉	特別研究(5)〈必修〉	特別研究(6)〈必修〉	
単位小計	3	2	5	6	16
実習	実務研修(2)〈必修〉				
単位小計	2				2
演習	ゼミナール(1)〈必修〉	電子制御工学演習(1)			
	ゼミナール(1)〈必修〉	ゼミナール(1)〈必修〉			
単位小計	1	2			3
単位合計	6	4	5	6	21
専門科目 開設単位					63
割合					33%

物質工学コース

学年 期別	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	物質工学専攻実験 (2)〈必修〉	特別研究(3)〈必修〉	特別研究(5)〈必修〉	特別研究(4)〈必修〉	
単位小計	2	3	5	4	14
実習	実務研修(2)〈必修〉				
単位小計	2				2
演習	物質工学演習(2)〈必修〉				
	ゼミナールⅠ(2)〈必修〉		ミナールⅡ(1)〈選択〉	ミナールⅢ(1)〈選択〉	
単位小計	4		1	1	4
単位合計	11		6	5	22
専門科目 開設単位					74
割合					30%

建築学コース

学年 期別	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	特別研究(1)〈必修〉	特別研究(2)〈必修〉	特別研究(5)〈必修〉	特別研究(6)〈必修〉	
単位小計	1	2	5	6	14
実習	実務研修(2)〈必修〉				
単位小計	2				2
演習	地域設計Ⅰ(2)〈必修〉	地域設計Ⅱ(2)〈必修〉			
単位小計	2	2			4
単位合計	5	4	5	6	20
専門科目 開設単位					74
割合					27%

(出典：平成25年度自己点検評価報告書)

資料 5-6-①-3 : 実験実習科目シラバスの例

機械工学専攻実験

科目名	機械工学専攻実験	英語科目名	Experimental Practice on Mechanical Engineering
開講年度・学期	平成24年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科・複合工学専攻1年
授業形態	演習+講義	必修 or 選択	必修
単位数	2	単位種類	学修単位 (45 時間単位)
担当教員	菊地吉郎、田中好一、伊澤 悟、(未定)	居室 (もしくは所属)	機械工学科棟1階
電話	各教員	E-mail	各教員
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
1. 機械工学の基礎科目 (静力学、流体力学、材料強度学、機械加工、制御工学) に関する実験の手続きを身につける。	③、④	(A-2)、(B-1)	D(2-a)、(d)
2. 実験データの処理、報告書の書き方の理解を深める。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	1~2: 授業内容 1~5 の成績を平均して評価する。実験の実施と報告書の提出が前提である。		
評価方法	授業への出席を前提として、実験の報告書提出 (60%) と内容 (40%) で評価する。		
授業内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械材料の強度特性に関する実験 (3 週) 2. 切削加工における切削条件と表面粗さの関係に関する実験 (3 週) 3. 回転翼の製作実験 (3 週) 4. 未定 (3 週) 5. 総合学習・予備 (3 週) 		
キーワード	材料強度、切削加工、回転体の運動、配分資料等による		
参考文献	自作テキスト		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目 数学 (微分・積分学、微分方程式)、物理、機械工学科専門科目		
現学年の関連科目	応用数学、応用物理、熱移動論、流体力学、機械工学専攻演習		
次年度以降の関連科目	機械工学の応用に関する専門科目、特別研究など		
連絡事項	<ol style="list-style-type: none"> 1. 予習-実験テーマに関連する教科書を調べておく、テキストがある場合は予習する。 2. 授業一开始にテーマ内容の講義を受けたのちに、実験を行いレポートを提出する。 3. 実験に関連する課題に取り組み、質問は随時行う。 		
シラバス作成年月日	2012/2/29		

電気情報工学専攻実験

科目名	電気情報工学専攻実験	英語科目名	Laboratory in Advanced Course
開講年度・学期	平成24年度・前期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電気情報工学コース1年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	学修単位 (90h)
担当教員	担当教員	居室 (もしくは所属)	電機棟・専攻科棟
電話	担当教員に問い合わせ	E-mail	担当教員に問い合わせ
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
1. 電子計測機器の取り扱いができること。	②	A-1	c
2. 計測装置の必要性を説明できること。	②	B-1	c
3. 必要に応じて新しい計測システムの立案・構成が行える。	②	D-2	f
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 機器の取り扱い説明をうけた上で、正しく取り換えることで評価する。 2. 提出レポート等の内容で評価する。 		
評価方法	実験の取り組み要領および提出レポート等の内容をテーマごとに評価下上で、算術平均により評価する。		
授業内容	<p>本実験はガイダンス・レポート指導と併せて各コースで5選ずつ巡回して行い15選実施する。</p> <p>【αコース】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簡易ロボットキットを用いたITSシステムの基礎構築 (鈴木) 2. ブロック図による差分方程式の解法 (北野) 3. 単相PWMインバータの系統連系法 (北野) <p>【βコース】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 高周波空間フィルタリング (平滑化、微分) プログラムの作成 (小林幸) <p>【γコース】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ダブルリットによる光回折、マイケルソン干渉法による材料の屈折率の計測実験 (土田) 2. 放電法によるオゾン生成実験 (田中) 3. 高周波伝導体の電気伝導と交流伝導率特性 (森・山田) 		
キーワード	インバータ、平滑化フィルタ、微分フィルタ、光回折、マイケルソン干渉法		
参考文献	担当教員の指示による		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目 すべて		
現学年の関連科目	すべて		
次年度以降の関連科目	すべて		
連絡事項	指導書に指示された通り実験を行うのではなく、実験テーマに関する実験の原理・方法・結果の解析について自ら調べて取り組む姿勢が要求される。共同実験と言うよりは、各自異なるテーマを設定されることが多い。		
シラバス作成年月日	平成24年2月27日		

電子制御工学専攻実験

科目名	電子制御工学専攻実験	英語科目名	Advanced Course Experiments
開講年度・学期	平成24年度・前期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電子制御工学コース1年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	2 単位	単位種類	学修単位 45h
担当教員	小堀康功、菊地吉郎、渡辺洋平、鹿野文久	居室 (もしくは所属)	電機科棟 5 階、電子制御科棟 3 階、電子制御科棟 3 階
電話	0285-20-2255 0285-20-2257 0285-20-2256 0285-20-2258	E-mail	hokubei@oyama.ac.jp namiaki@oyama.ac.jp watanabe@oyama.ac.jp kuno@oyama.ac.jp
授業の達成目標	授業達成目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)	JABEE 基準要件
1. 本科での実験能力を基礎として、より高度な実験能力を習得すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
2. 電子制御におけるアナログ回路とデジタル制御回路について理解し、デジタル回路におけるノイズ対策の基礎を習得すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
3. デジタル画像処理の基礎実験を修得すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
4. "Arduino" をベースとした基礎制御系を実験装置として構築すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
5. "Arduino" をベースとした実験装置を構築し理解すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
6. "Arduino" をベースとした実験装置を構築し理解すること。	②	C(B-1)	d(2-b)、(f)、(h)
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験への出席、及び実験態度、報告書の提出状況、及び内容 2. 報告書の内容が、テーマの理解に対して明確に書かれていること 3. 報告書の内容が、テーマの理解に対して明確に書かれていること 4. 報告書の内容が、テーマの理解に対して明確に書かれていること 5. 報告書の内容が、テーマの理解に対して明確に書かれていること 6. 報告書の内容が、テーマの理解に対して明確に書かれていること 		
評価方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実験への出席、及び実験態度、報告書の提出状況、及び内容 2. 報告書の内容が、テーマの理解に対して 60% 以上明確に書かれていること 3. 報告書の内容が、テーマの理解に対して 60% 以上明確に書かれていること 4. 報告書の内容が、テーマの理解に対して 60% 以上明確に書かれていること 5. 報告書の内容が、テーマの理解に対して 60% 以上明確に書かれていること 6. 報告書の内容が、テーマの理解に対して 60% 以上明確に書かれていること 		
授業内容 (講義)	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス 2. ノイズの基礎と測定法 (鹿野) 3. デジタル回路のノイズとノイズ対策第1 (鹿野) 4. デジタル回路のノイズとノイズ対策第2 (鹿野) 5. 制御実験による各種画像処理 (小堀) 6. 2次元フィルタによる各種画像変換処理 (小堀) 7. 輪郭抽出処理とフィルタによる特徴比較 (小堀) 8. スパニングフリーと VLAN (南寿) 9. パケットフォワードリングとアドレス変換 (南寿) 10. 暗号化通信 (南寿) <ol style="list-style-type: none"> 11. カナシ現象の基礎 (鹿野) 12. カナシ現象の解析 (鹿野) 13. Stable 利用した3回実験の作成と評価 (鹿野) 14. 予備日 15. 予備日 		
キーワード	入出力制御、ノイズ対策、デジタル画像処理、デジタルフィルタ、パケット通信、暗号化、カナシ		
参考文献	特に指示しない、各担当教員から資料等を配布する。		
参考文献	関係する各種専門書を参照すること。		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目 (本科電子制御工学における5年上級実験)		

(出典：小山高専平成25年度自己点検評価報告書)

資料 5-6-①-5 : 学習方法の工夫例 (その 1)

学科 : 専攻科

科目 : 応用英語 1・2

工夫の内容 : 応用英語 1 では、TOEIC の試験を受けるにあたり、出題形式の解説を始めとして、既習事項の文法内容の再復習と、ビジネス英語に関する用語の解説、そして効率の良い点数の取り方などを伝授している。

応用英語 2 では、[1]で学んだ内容を更に深めて、TOEIC の試験を受けるにあたり、既習事項の文法内容の再復習と、ビジネス英語に関する用語の解説、そして TOEIC の練習問題と徹底対策をしながら、効率のより良い点数の取り方などを伝授している。

(1) 「日経ウィークリー (日本経済新聞の英字新聞版)」を用いた TOEIC 対策方法

① TOEIC の出題に対する基本的な方策

TOEIC の出題に対する「基本的な方策」としては 17 点があり、それらの方策を基にして問題が作成されている。そのうちの一例としては、「正答のみが際立たないこと・誤答は一つ一つが独立した選択肢となること・誤答の選択肢は、文脈に対して一つ一つ降りていく形式を取る こと」といった内容がある。

(2) 各 Part の攻略方法

① : Part 1 ② : Part 2 ③ : Part 3 ④ : Part 4 ⑤ : Part 5 ⑥ : Part 6 ⑦ : Part 7

これらも Part ごとに「写真描写」から「一問一対応の Q&A」のような問題がある事から、それぞれに対しての考え方を持たせながら、「ビジネス英語」問題についての効果的な攻略方法を 探っていく。

(3) 総括

「ビジネス英語」の TOEIC ではあるが、4 者択一形式になっていることから、必ず正答はある。それを問題の性格ごとにつぶさに見ることで、自らの実力に加えて最大 200 点を上昇させることができる。そういった方策を「日本経済新聞」の英語版である「日経ウィークリー」を活用 させながら解いていくという手法となっている。これらは「英語の勉強」を行っていく事は 大前提ではありながらも、そこに「試験で点数を取る」という時点ではその作成者側の「相手の出方」を知って、それに対策を講じていくといったことでは大変有意義な事であることから、その双方を同時に習得させていく事で、英語力と点数獲得の技術といった力を磨いていく事が できる。ここに「心理学」の知識も同時に加えていく事ができる。

(出典 : 専攻科科目の学習工夫の調査)

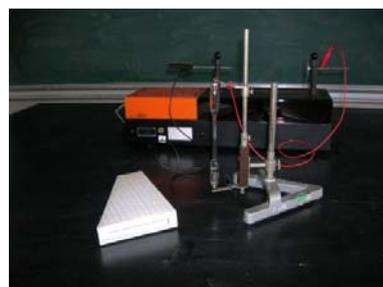
資料5-6-①-5：学習方法の工夫例（その2）

応用科学

当講義は、物理実験室で行っている。その理由は以下に示すとおりである。

1. 各項目とも、初めにできるだけ実験事実を示し、具体的な現象を認識させる。

例 放電管に高電圧をかけると、管内に閉じ込めた気体の種類によって、違う色の発光をする。これらを簡易分光器で観察する。



2. 発見者の思考過程を追体験できるように、科学的に要点を説明する。過去の発見者が、いかにしてこれらの実験事実から定式化を導き出したか、その論理で現象が説明出来るかを、演習形式で計算させ、発見者の経験を感じさせる。

例 実験値を示し、どうやって実験値を再現する実験式がたてられるか考察させる。

バルマーの提案した実験式を紹介し、可視光線領域の波長を計算してみる。

→ 実験値と比較してみる。

ライマン系列、パッシェン系列のスペクトルについても計算してみる。

→ バルマーの式ではうまくいかない。

→ リュードベリが提案した式で計算してみる。

→ 3領域ともうまく再現できる。

3. 定式化が正しいと認識できたら、その式を用いて、応用も試させる。

例 実験で観測された以外の輝線は存在するか、様々な計算をさせる。

理科年表などで、そのような波長の輝線は存在するか、確認する。

4. 実験室の机はテーブル型の作業台なので、4人で1机に座る。そのため、常にピアインストラクション（仲間同士で教え合う）ことが可能となっている。



（出典：専攻科科目の学習工夫の調査）

資料 5-6-①-5 : 学習方法の工夫例 (その 3)

電気情報工学コースの実験例

(学生は自分の専門だけでなく、エネルギー・情報・物性の各分野を横断的にすべての実験を実施するようになっている)

〔記載内容は変更されることがあります〕

科目名	電気情報専攻実験	英語科目名	Laboratory in Advanced Course
開講年度・学期	平成26年度・前期	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電気情報工学コース1年
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位(90h)
担当教員	担当教員	居室 (もしくは所属)	担当教員の居室
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン
授業の到達目標		授業到達目標との対応	
(詳細な到達目標は実験テーマ毎に設定する。)		小山高専の教育方針	学習・教育到達目標 (JABEE)
		②, ④	B
			JABEE 基準 d-2,4-3,e,g,h,i
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
実験テーマ毎に設定された評価方法で採点し、各テーマ 60% 以上の評価で達成とする。			
評価方法			
実験テーマ毎の採点を算術平均して、評価とする。			
授業内容			
本実験はガイダンス・レポート指導と併せて各コースで5週ずつ巡回して行い15週実施する。			
【αコース】			
1. 簡易ロボットキットを用いたITSシステムの基礎構築(鈴木)			
2. ブロック線図による微分方程式の解法(北野)			
3. 単相 PWM インバータの系統連系法(北野)			
【βコース】			
1. 二次元デジタルフィルタによる画像処理実験(千田)			
【γコース】			
1. ダブルスリットによる光回折、マイケルソン干渉法; 材料の屈折率計測実験(土田)			
2. 放電法によるオープン生成実験(田中)			
3. 高温超伝導体の電気と交流帯磁率特性 (山田)			
キーワード	インバータ、平滑化フィルタ、微分フィルタ、光回折、マイケルソン干渉法		
参考書	担当教員の指示による		
カリキュラム中の位置づけ	担当教員の指示による		
前年度までの関連科目	すべて		
現学年の関連科目	すべて		
次年度以降の関連科目	すべて		
連絡事項	指導書に指示された通り実験を行うのではなく、実験テーマに関する実験の原理・方法・結果の解析について自ら調べて取り組む姿勢が要求される。共同実験と言うよりは、各自異なるテーマを設定されることが多い。		
シラバス作成年月日	平成 26 年 2 月 28 日		

(出典：小山高専 HP)

資料5-6-②-1：専攻科生のシラバス活用のアンケート結果

設問内容		全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
専攻科1年		Ⅲ. シラバス								
6	授業内容をシラバスでよく確認した。	3	9	9	2	0	0	23	3.57	2.95
専攻科2年		Ⅲ. シラバス								
6	授業内容をシラバスでよく確認した。	6	4	3	1	0	0	14	4.07	2.95

(出典：平成23年度教育に関するアンケート)

設問内容		全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均
専攻科1年生	授業内容をシラバスでよく確認した。	7	4	8	2	0	0	21	3.76
専攻科2年生	授業内容をシラバスでよく確認した。	4	5	4	0	1	0	14	3.79

(出典：平成25年度教育に関するアンケート)

資料5-6-③-2：専攻科生のインターンシップ受入れ先企業のアンケート結果

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均
II. インターンシップ受入学生の資質・能力								
インターンシップを受け入れる際に期待する学生の資質・能力についてご質問致します。								
11 感性や創造力が豊かである。	3	3	6	0	0	13	25	3.75
12 自然科学系の学力が高い。	0	2	10	0	0	13	25	3.17
13 英語の能力が高い	0	1	9	1	1	13	25	2.83
14 専門領域における基礎的能力が高い。	2	6	4	0	0	13	25	3.83
15 専門領域における問題解決能力が高い。	0	8	4	0	0	13	25	3.67
16 情報技術力が高い。	2	3	7	0	0	13	25	3.58
17 コミュニケーション能力が高い。	4	4	4	0	0	13	25	4.00
18 国際感覚が豊かである。	1	1	7	3	0	13	25	3.00
19 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	3	4	5	0	0	13	25	3.83

(出典：平成25年度教育に関するアンケート(企業版))

資料5-6-③-3：専攻科生のインターンシップ参加状況

平成23～25年度インターンシップ実施状況(専攻科)

※延べ人数

23年度	大学等	企業	計	
1年	SM	1	3	4
	SE	2	2	4
	SD	0	1	1
	SC	0	5	5
	SA	0	6	6
計	3	17	20	

※延べ人数

24年度	大学等	企業	計	
1年	SM	0	5	5
	SE	2	3	5
	SD	1	1	2
	SC	0	6	6
	SA	0	3	3
	2年	SA	0	1
計	3	19	21	

※延べ人数

25年度	大学等	企業	計	
1年	SM	0	1	1
	SE	0	4	4
	SD	2	7	9
	SC	1	6	7
	SA	0	4	4
	計	3	22	25
2年	SA	0	3	3
計	3	25	28	

大学等…大学、研究所

(出典：平成25年度専攻科資料)

資料5-6-③-4：専攻科生のインターンシップ成果アンケート

設問内容		全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均	
専攻科1年	IV. 学修達成度	小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。									
	7 「豊かな人間性」が身についた。	4	10	7	0	0	0	21	3.86	3.14	
	8 「豊かな感性」が身についた。	6	8	7	0	0	0	21	3.95	3.26	
	9 「創造力」が身についた。	5	8	7	1	0	0	21	3.81	3.44	
	10 「自然科学系(数学・物理など)の学力が身についた。	5	10	4	2	0	0	21	3.86	3.61	
	11 「英語」の学力が身についた。	1	0	12	7	1	0	21	2.67	2.62	
	12 「専門基礎科目」の学力が身についた。	5	13	2	0	1	0	21	4.00	3.75	
	13 「専門知識」が身についた。	10	9	1	1	0	0	21	4.33	3.87	
	14 「問題解決能力」が身についた。	3	9	9	0	0	0	21	3.71	3.42	
	15 「情報技術力」が身についた。	3	10	7	0	1	0	21	3.67	3.40	
	16 「コミュニケーション能力」が身についた。	5	4	7	4	1	0	21	3.38	3.14	
	17 「国際感覚」が身についた。	1	1	11	8	0	0	21	2.76	2.70	
	18 「社会のニーズを理解する力」が身についた。	3	1	14	1	2	0	21	3.10	2.99	

設問内容		全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均	
専攻科2年	IV. 学修達成度	小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。									
	7 「豊かな人間性」が身についた。	2	5	4	1	2	0	14	3.29	3.14	
	8 「豊かな感性」が身についた。	1	4	7	0	2	0	14	3.14	3.26	
	9 「創造力」が身についた。	2	4	5	2	1	0	14	3.29	3.44	
	10 「自然科学系(数学・物理など)の学力が身についた。	4	5	4	1	0	0	14	3.86	3.61	
	11 「英語」の学力が身についた。	0	2	8	2	2	0	14	2.71	2.62	
	12 「専門基礎科目」の学力が身についた。	7	4	3	0	0	0	14	4.29	3.75	
	13 「専門知識」が身についた。	7	5	2	0	0	0	14	4.36	3.87	
	14 「問題解決能力」が身についた。	3	6	4	0	1	0	14	3.71	3.42	
	15 「情報技術力」が身についた。	3	5	5	1	0	0	14	3.71	3.40	
	16 「コミュニケーション能力」が身についた。	1	5	5	1	2	0	14	3.14	3.14	
	17 「国際感覚」が身についた。	0	2	8	1	3	0	14	2.64	2.70	
	18 「社会のニーズを理解する力」が身についた。	1	5	7	0	1	0	14	3.36	2.99	

(出典：平成25年度教育に関するアンケート(学生版))

資料 5-7-①-1 : 研究テーマ決定への指導例

建築学コースの例

平成 25 年 2 月

専攻科生配属内規(案) 研究室の学生枠数

- ・ 基本は、卒研時の研究室内で受け持つ(全員リセットし再配属、はない)
- ・ ひと学年、1 研究室 2 名までとする
- ・ 卒業研究を終了した時点で、他の研究分野を希望する学生が出た場合は、当該教員を訪ねて説明を受け、研究テーマを含めたかたちで了承を得られたならば、異動配属を可能とする

略

- ・ 研究内容の目指すべき方向性がある場合は異動可とする
- ・ 元教員の許可も必要とする

ただし、異動には、若干の注意点が必要

- ・ 卒業研究が使えなくなることが殆どのため、学位レポートや特別研究が0からスタートで苦勞する(卒業設計は毎度これ)
- ・ 異動先が膨れて2名以上になった場合の選抜方法(異動先教員による自由選抜で良いだろう)

建築学科教室会議 議事録(案)

日時:2013 年 2 月 5 日(火) 10 時 00 分~11 時 30 分
場所:建築学科会議室

配布資料:

1. 運営会議議事録
2. 専攻科生配属内規(案) 研究室の学生枠数
3. 専攻科特別研究報告会梗概集

【審議事項】

略

③専攻科生配属について[大島]

- ・ 卒研時の研究室内から「あふれた場合」→基本的に学生自由選択権で 2 名に絞ることとし、それでも上手くいかない場合は教員裁量権で 2 名に絞る。
- ・ その他は資料2に基づく。

略

(出典：小山高専平成25年度自己点検評価報告書)

資料 5-7-①-3 : 平成25年度専攻科・複合工学専攻 特別研究・発表プログラム例
(学生名白抜き)

表紙

平成25年度 特別研究発表会 プログラム						
発表会場：専攻科棟 4階 多目的メディアホール						
日 程：平成 26年 2月 20日(木) 8:40～						
	～	8:40	全員集合(専攻科棟 4階 多目的メディアホール)			
	8:40	～	8:50	開会 及び 学科長挨拶		
	8:50	～	8:55	進行説明		
					進行:	山田研
発表番号	発表時間	発表者	卒業研究テーマ	ページ	指導教員	司会
	8:55 ～ 9:10		有機金属分解法による $\text{Bi}_2\text{Sr}_2\text{CaCu}_2\text{O}_{8+x}$ 薄膜の作製と超伝導特性評価		森	
	9:11 ～ 9:26		CO_2 レーザー彫刻精度の波長依存性		土田	
	9:27 ～ 9:42		ネットワーク伝送下での仮想現実で作成した鍵盤操作の力覚特性		石原	
	9:43 ～ 9:58		磁界共鳴型ワイヤレス電力伝送システムにおける出力向上に関する研究		鈴木	
	9:59 ～ 10:14		生体を伝送路とした超音波通信の精度向上に関する研究		鈴木	

(出典：平成25年度専攻科特別研究発表例)

資料 5-7-①-4 : 平成24年度専攻科1年 特別研究中間報告会

目次・発表プログラム (学生名白抜き)

平成 24 年度

小山工業高等専門学校専攻科

機械工学コース

特別研究中間発表会

平成 25 年 3 月 4 日(月)13:05~

機械棟 201 ゼミ室

発表会プログラム

鈴木学科長あいさつ(13:05-13:10)

順番	時間	学生氏名	研究テーマ	指導教員	頁
1	13:10 ~ 13:25		過大荷重および応力比が応力集中部を有する SUP9A の疲労強度に与える影響	北條恵司	1
2	13:25 ~ 13:40		質量選別機の挙動解析と制御・制御器の検討	山崎敬則	3
3	13:40 ~ 13:55		溶接止端部にき裂を有する構造用圧延鋼のピーニングによる疲労限度向上およびき裂の無害化	北條恵司	5
4	13:55 ~ 14:10		オーステナイト系ステンレス鋼の疲労き裂進展と開口挙動評価	伊澤悟	7
5	14:10 ~ 14:25		磁場環境下におけるフレットング摩耗現象のその場観察	那須裕規	9
6	14:25 ~ 14:40		軸力とねじりを受けるオーステナイト系ステンレス鋼の塑性崩壊評価	伊澤悟	11
7	14:40 ~ 14:55		往復摩擦・摩耗における磁場の影響	那須裕規	13

担任伊澤先生講評(14:55~15:00)

平成24年度特別研究中間発表(専攻科1年生)

電気情報工学コース(SE)
電子制御工学コース(SD)

日時: 平成25年03月07日(木)
場所: 専攻科棟4F 多目的メディアホール

集合: 13:00に上記の場所に集合のこと。

13:05 電気情報工学コース主任の開催宣言

番号	時間	発表者	特別研究テーマ	ページ	指導教員
SE1	13:10-13:25		境界共振型ワイヤレス電力伝送システムにおける出力向上に関する研究	1-2	鈴木
SE2	13:26-13:41		スピノコト法によるBi ₂ Sr ₂ CaCu ₂ O _{10-x} 系薄膜の作製と超伝導特性評価	3-4	森
SE3	13:42-13:57		生体を伝送路とした超音波通信へのPSKの導入	5-6	鈴木
SE4	13:58-14:13		VR中での離壁操作を対象とした力覚特性	7-8	石原
SE5	14:14-14:29		CO ₂ レーザ彫削精度の波長依存性	9-10	土田
SD1	14:30-14:45		組込みシステムにおけるネットワーク脅威に関する研究	11-12	南斉
SD2	14:46-15:01		信号伝達法を用いたシステム同定の研究	13-14	久保

終わり次第 電子制御工学コース主任の閉会宣言

平成24年度 物質工学コース 特別研究中間発表会

開始時間	番号	氏名	テーマ	座長
9:30	1		超音波照射が活性汚泥の分解能とフロックに与える影響について	西井
9:50	2		柑橘類に含まれるフラボノイドに関する研究	西井
10:10	3		グリーンなスズ反応剤を誘導するフェノール類のフッ素化	西井
10:30	4		SmMn ₂ W ₂ O ₁₂ の合成と電気的性質	西井
10:50	5		分解性セグメントを有するPEG含有多成分系ポリマーの合成と応用	西井
11:10	6		医療用表面修飾剤を目標とした様々な機能性ブロックポリマーの合成	西井

2013年3月8日(金) 多目的ホール

建築学コース

2013. 1. 24

(特別研究中間報告会)

- 土壁の構造性能と補修・補強効果に関する研究
- 歴史的建造物のリノベーション・コンバージョンによる留意事項の検討
-全国重要伝統的建造物群保存地区内外での事例-
- 全国重要伝統的建造物群保存地区の修理修葺マニュアル・ガイドラインについて
- 地域活性化を図る自主防災体制の構築
-栃木市嘉右衛門町・桜川市真壁町地区におけるタウンミーティングを通じて-
- 学校図書館における屋内微生物調査
-書架空間における好乾性真菌の消長-

発表プログラム

於: 建築学科棟3階製図室

(特別研究中間報告会)

発表番号	学生名	時間	指導教員	司会および計時
開会の挨拶 昨年度専攻科主任 本多良政 (13:30 ~ 13:35)				
1		13:35 ~ 13:50	横内基	司会: 中山昌尚 計時: 井手聡一朗
2		13:50 ~ 14:05	大島隆一	
3		14:05 ~ 14:20	大島隆一	
4		14:20 ~ 14:35	豊川 斎 赫	
5		14:35 ~ 14:50	佐藤 篤 史	
閉会の挨拶 今年度専攻主任 橋本敦路子 (14:50 ~ 14:55)				

(出典: 小山高専平成25年度自己点検評価報告書)

資料 5-7-①-6 : 専攻科生の学会等での発表の例 (学生氏名白抜き)

発表学生氏名	指導教員名	書名・発表題目	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 (巻・号・頁等)	発行又は発表の 年月	査読有無	共著、発表者一 覧	備考：受賞など の特記事項
準学士課程							
機械工学科 準学士課程 口頭発表 (9件)							
	山下 進	シルバークーラーの安全性に関する研究	日本機械学会関東学生会第53回学生会卒業 研究発表 講演会講演前集	平成28年3月	無		BPA 受賞
	朱 勤	連続Wavelet変換結果を用いたカオス振 動検出の試み	第18回高専シンポジウム in 久留米講演要旨 集,p.477.	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電気情報工学科 準学士課程 口頭発表 (8件)							
	北野達也	SiCパワーデバイスを用いたMDT方式電 力変換器の試作と評価	電気学会東京支部栃木支所研究発表会	平成28年3月	無		
	鈴木真ノ介	教育からホビーまでを視野に入れた球 型ロボットの開発	大学コンソーシアム栃木第10回 「学生&企業研究発表会」プログラム	平成25年12月	無		
(以下省略)							
電子制御工学科 準学士課程 口頭発表 (2件)							
	市村智康	CPG電子回路を用いる形状記憶合金アク チュエータの駆動に関する基礎実験	電子情報通信学会技術研究報告, vol.113, no.118, CAS2013-10, pp.55-58, 2013	平成25年7月	無		
	市村智康	自律走行型海流清掃ロボットの開発 - 測速センサを用いた自律走行制御 -	第58回自動制御連合講演会論文集 pp.222-225, 2013	平成25年11月	無		
物質工学科 準学士課程 口頭発表 (7件)							
	加島敬太, 高屋 朋影 川越大輔, 田中 孝国	かんぴょう錠剤の性能に及ぼすバイン ダー添加の影響	第18回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.104 (東工大)	平成28年3月	無		
	田中孝国	気泡塔型曝気装置を用いた含油排水処理 性能の評価	第18回化学工学会学生発表会(東京大会) 研究発表講演要旨集 p.9 (東工大)	平成28年3月	無		
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 口頭発表 (3件)							
	本多良政	開口を有するRC造袖壁付柱のFEM解析	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p21-22	平成28年3月	無		
	大島隆一 横内基	伝統的建造物における空き家の再活用 計画	2013年度高専女子フォーラム in 関東信越	平成25年12月	無		ポスター発表
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 論文発表 (1件)							
	横内基	面材真壁を応用した歴史的建造物の耐 震補強工法に関する研究	高専機構本部：創造性を育む「卒業研究」 集、推薦	平成28年2月		学内審査あり	
専攻科							
機械工学コース 口頭発表 (3件)							
	山崎 敬則	計量コンベアの動的挙動と制御	S1203 講演会プログラム	平成25年12月	無		
	那須 裕規	磁場環境下におけるフレッチング摩耗現象 のその場観察	日本機械学会関東支部栃木ブロック研究交流会	平成25年11月	無		
(以下省略)							
電気情報工学コース 口頭発表 (8件)							
	石原 学	タッチパネル面の刺激による粗さ感覚 の検討	第18回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
	鈴木真ノ介	境界共鳴型ワイヤレス電力伝送システ ムにおける出力向上に関する研究	第18回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電子制御工学コース 口頭発表 (5件)							
	飯島洋祐	多値符号科技術を用いた高速デジタル 信号伝送に関する研究	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木 支部、ETG-14-39,ETT-14-39,pp.123-124,2014	平成28年3月	無		
	平田克己	遅れ時間補正と独立成分分析による音 源分離	第58回自動制御連合講演会(新潟), 1039	平成25年11月	無		
(以下省略)							
物質工学コース 口頭発表 (9件)							
	加島敬太, 高屋 朋影 川越大輔, 田中 孝国	かんぴょうを利用した安全な乾燥剤の 開発	第18回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.105 (東工大)	平成28年3月	無		優秀賞
	田中孝国	超音波照射が活性汚泥の代謝活性とフ ロックに及ぼす影響について	第10回「学生&企業研究発表会」 (宇都宮大学)	平成25年12月	無		奨励賞
(以下省略)							
建築学コース 口頭発表 (8件)							
	川上勝弥	鉱物質微粉末混入モルタルの活性度及 び透水性に関する実験的研究	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p43-44	平成28年3月	無		
	橋本彼路子	被災地域における高齢者・障がい者の ニーズと仮設住宅地計画の提案	とちぎ大学連携サテライトオフィス 学生&企業研究発表会、予稿集 P90-91	平成25年12月	審査あり		おかげさまで創 業百三十周年賞 (藤井産業者)
(以下省略)							

(出典：平成25年度各専攻の学外発表に関する調査資料の一部 (抜粋))

資料5-7-①-7：専攻科生の学会等での発表件数

準学士課程	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
口頭発表	18	64	2	36	51
論文	0	0	0	0	6
小計	18	64	2	36	57
専攻科課程	機械工学コース	電気情報工学コース	電子制御工学コース	物質工学コース	建築学コース
口頭発表	27	40	9	30	30
論文	0	0	0	0	1
小計	27	40	9	30	31
総計	45	104	11	66	88

(出典：平成25年度各専攻の学外発表に関する調査資料のまとめ)

資料5-7-①-8：専攻科の達成度の評価方法の記載部分

(研究成果を学外発表することの条件記載例)

「記載内容は変更されることがあります」

科目名	特別研究	英語科目名	Thesis Work
開講年度・学期	平成26年度・通年	対象学科・専攻・学年	複合工学専攻 電気情報工学コース1, 2年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	1年生:3単位 2年生:11単位	単位種類	学修単位 (1年生:135h, 2年生:495h)
担当教員	担当教員	居室(もしくは所属)	担当教員の居室
電話	担当教員の内線	E-mail	担当教員@小山高専ドメイン
授業の到達目標	授業到達目標との対応		
	小山高専の教育方針	学習・教育到達目標(JABEE)	JABEE 基準
1. 研究分野の背景を理解し、具体的な研究テーマを設定できること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
2. 研究スケジュールを立案できること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
3. 研究スケジュールを自主的・継続的に実施できること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
4. 結果を分析し独自の結論を導き出し、指導教員と討議できること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
5. 発表方法を選定し、第三者に理解してもらえるコミュニケーション力をつけること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
6. 教員の質疑に対して、筋道を立て、正しく応答できること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
7. 論文作成ができること。	②, ④ ⑤, ⑥	B ○ E	d-2, d-3, d-4, e, f, g, h, i
各到達目標に対する達成度の具体的な評価方法			
到達目標1~4:指導教員によって評価され、60%以上の評価で達成とする。			
到達目標5, 6:特別研究発表会・概要書において指導教員、学科教員によって評価され、60%以上の評価で達成とする。			
到達目標7:指導教員によって評価され、60%以上の評価で達成とする。			
なお、研究成果について1回以上、外部発表を行うこと。			
評価方法			

(出典：小山高専 HP)

資料 5-7-①-9 : 一般科の専攻科授業

本科	4年	5年	専攻科
①豊かな人間性の涵養	→ 哲学	→ 人間と科学 I	⇒ 技術者倫理
	→ 歴史学	→ 人間と科学 II	
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	→ 確率統計 → 応用数学		
	→ 応用物理		
	→ 文学		
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	→ 英語演習 I → 英語表現 I・II	→ 英語演習 II → ドイツ語演習	→ 応用英語 I・II → 日本語概説
	→ 保健体育		

(出典：一般科の平成 25 年度カリキュラムの整理)

資料 5-8-①-1 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

制 定 平成 11 年 4 月 1 日
最終改正 平成 23 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則(昭和 40 年 4 月 1 日制定)第 46 条第 2 項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定について定めることを目的とする。

(授業)

第 2 条 専攻科の授業は、1 単位時間を標準 50 分とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

第 3 条 各授業科目の 1 単位あたりの履修時間は、45 単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については、30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験及び実習については、45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(履修方法)

第 4 条 授業科目の受講に当たっては、各学期の始めに各科目毎の受講届を提出しなければならない。

(大学等における授業科目の履修及び単位認定申請)

第 5 条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位(以下「学外単位」という。)の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、4 単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

(成績の評価)

第 6 条 学業成績は、授業科目毎に評価する。

- 2 成績の評価は、試験の成績及び平素の成績等を総合して、100 点法により評価する。
- 3 特別研究及び実務研修の成績は、可否で評価する。
- 4 各科目とも欠課時数が授業時間数の 3 分の 1 を超えるものに対しては、評価は行わない。

第 7 条 各授業科目の成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表す。

評 語	評 価
S	90点以上
A	80点以上 90点未満
B	70点以上 80点未満
C	60点以上 70点未満
D	60点未満

(単位の認定)

第 8 条 前条の規定に基づき、S、A、B 及び C に評価された授業科目については、当該単位数を認定する。

- 2 学業成績を学外に通知する場合は、修得科目のみ単位数及び評語で通知する。
- 3 単位が認定されなかった授業科目については、次年度以降に再履修することができる。
- 4 本科 4 年及び 5 年における開講科目について、科目担当教員の許可を受けて履修することができる。ただし、当該認定単位数は専攻科修了要件のための修得単位数には含まない。しかし、技術者教育プログラム中の授業時間数として認めることができる。
- 5 前項 3 及び 4 により再履修する場合も、第 4 条に規定する手続きを行うものとする。

(試験)

第 9 条 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績で評価し得る授業科目については、定期試験を実施しないことがある。

- 2 定期試験に病気(医師の診断書がある場合に限る。)、忌引き、その他止むを得ない理由により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した場合、追試験を受けることができる。
- 3 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分のため試験を受けなかった者の当該試験の成績は 0 点とする。

以下省略

(出典：平成 25 年度学生便覧、pp. 121-122)

資料5-8-①-2：講義・演習・実験・実習科目の単位の定義

小山工業高等専門学校 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

(単位)

第3条 各授業科目の1単位あたりの履修時間は、45単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(出典：平成25年度専攻科履修の手引き、p.15)

単位の計算方法

3. 修了要件

1) 単位の計算方法

専攻科の授業は、講義、演習、実験のいずれか、又はこれらの併用により行われます。1単位の履修時間は、教室及び教室外合わせて45単位時間として、次の基準により計算されます。なお、1単位時間は、標準50分です。

- (1) 講義は、毎週1単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、1単位時間の講義に対して、教室外における2単位時間の学習が必要であることが考慮されている。
- (2) 演習は、毎週2単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、2単位時間の演習に対して、教室外における2単位時間の学習が必要であることが考慮されている。
- (3) 実験及び特別研究は、毎週3単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、実験は実験室等で行われるので、教室外における学習は考慮されていない。

(出典：平成25年度専攻科の履修の手引き、p.1)

資料 5-8-①-3 : 小山工業高等専門学校判定会議規程

小山工業高等専門学校判定会議規程

制 定 平成16年4月1日

(設置)

第1条 小山工業高等専門学校に、小山工業高等専門学校判定会議(以下判定会議)という。)を置く。

(組織)

第2条 判定会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 教員

(審議事項)

第3条 判定会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 入学者選抜検査合否の判定に関する事項
- 二 学科の学年課程修了及び卒業の認定に関する事項
- 三 専攻科の修了の認定に関する事項

(会議)

第4条 判定会議は、校長が招集し、その議長となる。

2 前条第1号に係る判定会議は、次の選抜検査実施時に開催する。

- 一 入学者選抜検査
- 二 編入学者選抜検査
- 三 専攻科入学者選抜検査

3 前条第2号及び第3号に係る判定会議は、学年末試験終了後開催する。

4 前2項に定める判定会議前に予備会議を開催するものとする。

5 予備会議の構成員は、別に定める。

(事務)

第5条 判定会議に関する事務は、学生課教務係が処理する。

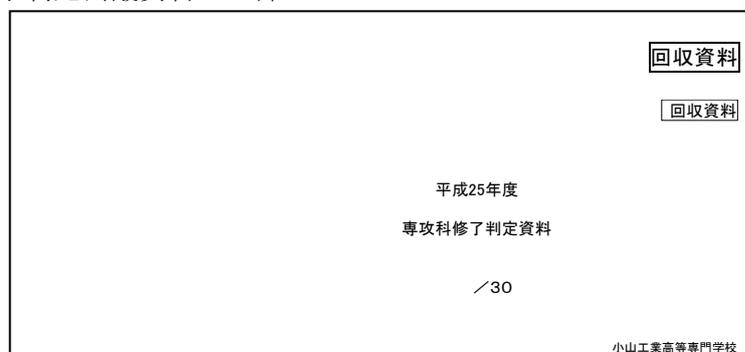
附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：小山高専規程集)

資料 5-8-①-4 : 専攻科修了判定会議資料の一部

表紙



(出典：平成25年度専攻科修了判定会議資料)

資料 6-1-①-1 : 教育方針・育成する人材像に関する記述 (既出: 資料 1-1-①-3)

■教育方針と育成する人材像(A:準学士課程、S:専攻科課程)

① 豊かな人間性の涵養;

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

①-A★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。

①-S★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。

② 豊かな感性と創造力の育成;

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。

②-A★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。

②-S★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。

③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上;

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。

③-A★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。

③-S★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成;

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。

④-A★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。

④-S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。

⑤ 情報技術力の向上;

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。

⑤-A★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。

⑤-S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成;

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指している。

⑥-A★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。

⑥-S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典: 平成 25 年度学生便覧)

資料 6-1-①-2 : 授業科目の流れ(電気電子創造工学科) (既出 : 資料 5-1-①-10)

電気電子創造工学科 科目流れ図					
教育目標	1年	2年	3年	4年	5年
① 豊かな人間性の涵養	地理 芸術	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 歴史	→ 哲学 歴史学	→ 人間と科学Ⅰ 人間と科学Ⅱ
② 豊かな感性と創造力の育成	創造工学実験Ⅰ フロンティア技術入門	→ 創造工学実験Ⅱ	→ 創造工学実験Ⅲ プロジェクト・ワーク	→ 電気電子創造実験 エレクトロニクス・デザイン	→ コース工学実験 卒業研究 → コロキウム&ラボラトリⅠ コロキウム&ラボラトリⅡ グローバル・マネジメント 技術科学フロンティア概論
③ 自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学A 基礎数学B エンジニアリング数学Ⅰ 基礎電気電子工学 エンジニアリング・イントロダクション エンジニアリング・スキル 化学Ⅰ 一般理科 物理 英語ⅠA・B	→ 微分積分学 代数学・幾何学 → エンジニアリング数学Ⅱ 電気電子計測 → 電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ 基礎電磁気 → エンジニアリング・エッセンス → 化学Ⅱ → 物理 → 英語Ⅱ 英語ライティングA・B	→ 解析学 線形代数 → エンジニアリング数学Ⅲ → 応用物理Ⅰ 応用物理Ⅱ → 英語Ⅲ	→ 応用数学 確率統計 → エンジニアリング数学Ⅳ	
④ 各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成		→ 電気回路Ⅰ 電気回路Ⅱ	→ 電気回路Ⅲ 電気回路Ⅳ 電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ 電子工学 電磁気学Ⅰ 電磁気学Ⅱ	→ 回路設計論 過渡現象論 → デジタル回路 → 電子デバイス工学 通信工学 → 電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ	→ 電気電子製図 集積回路設計 電気電子材料 電子物性工学 量子力学 熱力学 電磁波工学 → 音響波動工学 光波工学 システム工学
			(環境共生エネルギーコース)	→ 電気機器工学Ⅰ 電気機器工学Ⅱ パワーエレクトロニクス	→ エネルギー工学 新エネルギー発電 電力系統工学 高電圧工学 先端材料科学 エネルギー変換デバイス 電気法規
			(制御システムコース)	→ 制御工学Ⅰ 制御工学Ⅱ デジタル制御工学 計測工学	→ 応用制御工学 ロボット工学 マイクロエレクトロニクス エマージェントシステムズ サイバーテックス 医療支援システム 信号処理
			(情報デザインコース)	→ プログラミング設計 計算機工学	→ ソフトウェア工学 情報理論 マルチメディア工学 ネットワーク技術 情報セキュリティ スマートインフォメディア デジタルデザイン
⑤ 情報技術の向上	コンピュータ入門	→ プログラミングⅠ プログラミングⅡ 電子情報工学	→ プログラミングⅢ プログラミングⅣ		→ 組込みコンピュータ技術 → 数値解析
⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成	英会話 インテンシブイングリッシュ 国語 保健・体育	→ 英会話 → インテンシブイングリッシュ → 国語 → 保健・体育	→ 英会話 → インテンシブイングリッシュ → 国語 → 保健・体育	→ 電気電子基礎英語Ⅰ 電気電子基礎英語Ⅱ → 電気電子応用英語 → 英語表現Ⅰ・Ⅱ 英語演習Ⅰ → インテンシブイングリッシュ → 文学 → 保健・体育	→ 電気電子実践英語 → 英語演習Ⅱ → インテンシブイングリッシュ ドイツ語演習

(出典 : 平成 25 年度学生便覧より整理)

資料 6-1-①-3 : 平成25年度シラバスの一例

1～5年 (履修単位)

科目名	計測工学 I	英語科目名	Instrumentation and Measurement I
開講年度・学期	平成 25 年度・後期	対象学科・専攻・学年	電子制御工学科 4 年次
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	1 単位	単位種類	履修単位 (30h)
担当教員	久保和良	居室 (もしくは所属)	電子制御工学科棟 4 階
電話	小山市局番-20-2261	E-mail	kubo[at-mark]oyama-ct.ac.jp
授業達成目標との対応			
授業の達成目標		小山高専の教育方針	学習・教育目標 (JABEE)
計測工学と物理計測の基礎を度量衡、計装、計測の工夫、国際単位系、測定誤差、基本量の計測の観点で学ぶ		(2), (3), (4)	A-1, A-2, A-3, B-1, B-2
工業計測と信号変換ならびに信号処理と応用計測を分野横断型の考え方に立って学ぶ		(2), (3), (4)	A-1, A-2, A-3, B-1, B-2, B-3
JABEE 基準要件			
			(c), d(1), d(2-a, b), d(2-c, d), (g), (h)
			(c), d(1), d(2-a, b), d(2-c, d), (e), (g), (h)
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
提出物で達成度を見たらうえで、定期試験の素点で評価する。			
評価方法			
中間試験と定期試験 (いずれも手書きの公認持ち込み用紙 1 枚の持ち込みを許可) を 100 点法で採点し、それらの相加平均 (小数点以下四捨五入) 素点を最終評価とする。再試験の機会を与える場合は 100 点法で採点し、提出物の提出率を乗じた点数が 60 点以上のとき合格と判定し、評価を 60 点に書き換える。			
授業内容			
* おおむね次の内容を学びます。理解度や要望を受けて時間を増減したり項目を入れ替えたりすることがあります。			
1. 計測工学と物理計測の基礎 (概ね 8 週)			
(1) ガイダンス 履修上の注意, 既履修項目の確認, シラバスの確認, 合格水準と基本用語の説明など			
(2) 計測工学の基礎 計測工学概論 (測定と情報, 計装と工業計測, 度量衡と標準, 計測と工夫, 拡大の方法, 精度を上げる方法など具体的例示) 国際単位系 (単位の歴史, 単位と標準, 国際単位系 SI, 基本量, 組み合わせ単位, 単位の表記など) 誤差の取り扱い (精密さと正確さ, 精度, 計測精度を上げる工夫, 最小自乗法など)			
(3) 基本量の計測 長さの計測, 重さの計測, 時間の計測, 角度の計測など			
(4) 中間試験			
(5) 計測の基礎と基本量計測のまとめと確認			
2. 工業計測と信号変換ならびに信号処理と応用計測 (概ね 7 週)			
(6) 工業計測と計装 圧力の計測, 流量の計測, 温度の計測など			
(7) 信号変換器と応用計測 センサと信号変換, 各種量の変換, 感覚量の計測・例えば音響計測について			
(8) 信号の取り扱い 信号と Fourier 変換, 線形性, $j\omega$ について, 計測におけるブロック線図と組み合わせ			
(9) 期末試験			
(10) 全体の復習			
キーワード	計測, 計装, 度量衡, 国際単位系 SI, 誤差, 標準, 工業計測, 信号変換		
教科書	青島伸治: 計測工学入門, 培風館		
参考書	(1) 前田良明ほか: 計測工学, コロナ社 (2) 谷口修ほか: 計測工学, 森北出版		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	物理学, 電気工学, 工学実験		
現学年の関連科目	制御工学, 電子回路, 電子工学, 応用物理, 工学実験		
次年度以降の関連科目	全ての専門科目, 卒業研究		
連絡事項			
1. 概ね講義 1 時間 + 演習 1 時間, 場合によっては宿題を出します。先ず自力で考える演習をおこない, 次週に講義による説明を行う手順で進める予定です。様々な知識やアイデアを駆使した工夫を考える機会を与えます。			
2. 講義は理解を高める目的で, 単元ごとに完結するように実施します。従って時間的な長短があります。後半での演習は, 学習者の理解度に差があるため, 短く済む人も長くがんばる人もいます。宿題によって自宅学習も行えるように配慮するので, 学習保障時間は確保しますが, 教室授業の終了時刻は一定しない事を理解してください。			
3. 本科目は「計装: instrumentation」に大きな特徴があります。横断型の工学を学びます。			
シラバス作成年月日	2013年2月27日		

(出典: 平成 25 年 3 月 小山高専 H P)

資料 6-1-①-4 : 成績判定の規程 (既出:資料 5-4-①-1)

学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程

制 定 昭 和 5 2 年 4 月 1 日

最終改正 平成 2 5 年 1 2 月 1 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定。以下「学則」という。）第14条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校における成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定について定めることを目的とする。

(成績の評価)

第 2 条 成績の評価は、平素の成績、出席状況及び試験、学習報告書、作品等により、担当教員が決定する。

第 3 条 成績は、学期成績と学年成績に区分し、授業科目（以下「科目」という。）ごとに評価する。

2 学年成績の評価は、毎学期の成績を総合して、担当教員が決定する。

第 4 条 科目の成績は、年間授業時数の3分の2以上出席し、かつ100点法による評価で、60点以上を合格とする。

2 成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表わす。

評 語	評 価
S	90点以上
A	80点以上 90点未満
B	70点以上 80点未満
C	60点以上 70点未満
D	60点未満

3 卒業研究の評価は、合否による。

4 校外実習を行う場合には、その評価は合否による。

5 資格取得による単位認定科目の評価は、合否による。

(単位認定)

第 4 条の 2 前条第 1 項の規定に基づき合格した科目及び、前条第 3 項の規定に基づき「合」と評価された卒業研究の当該単位数を認定する。ただし、原学年にとどめられた場合は、この限りでない。

2 前条第 4 項及び第 5 項の規定に基づき「合」と評価された科目については、当該単位数を認定する。

(試験)

(出典：小山高専HP)

資料 6-1-①-5 : 及落判定会議の開催通知 (既出 : 資料 5-4-①-3)

平成25年度及落判定会議の開催について

及落判定会議日程一覧

区 分	事 項	場 所	
3月11日 (火)	5年判定	予備会議 13:30~ 判定会議 15:00~	視聴覚室
	専攻科判定	予備会議 5年予備会議終了後 判定会議 5年判定会議終了後	視聴覚室
3月18日 (火)	1~4年判定	予備会議 9:00~ ◎第1学年から順に行います。 ◎第1学年の学級担任は、9時までに集合願います。 ◎第2学年以上は、その後適宜連絡いたします。 判定会議 13:10~	視聴覚室

(出典 : 平成 26 年 1 月教務委員会資料)

資料 6-1-①-6 : 学年末成績の教員に対する注意通知の一部

平成 26 年 1 月

教員各位

学年末試験等の日程及び学年課程修了と卒業の認定について

副校長(教務主事)

学年末の日程、学年課程修了・卒業認定の規定について連絡いたします。

1. 後期期末試験

- ・後期期末試験は、2月6日(木)～2月13日(木)です。

2. 再試験について

- ・平成21年度以降入学生については、学年成績が60点未満の場合、再試験を必ず実施願います。
- ・平成20年度以前入学生については、学年成績が60点未満の場合、担当教員の判断によって再試験を行うことができます。平成20年度以前入学生の再試験を行うかどうかは、担当教員の裁量に任せられます。学生に対しては、実施の有無を伝えておくことが適切かと考えます。
- ・再試験の結果の点数は60点が上限となります。再試験の結果、学年成績として60点の評価が得られれば、その科目は合格となります。
- ・再試験通知の提出締切は、**2月25(火)17時**です。掲示は、2月26日(水)15時に図書情報センター南側の学生向け掲示板にて行います。各教員は、締切までに再試験通知の用紙(別紙、desknet's 文書管理『教務係→試験・成績関係』にも掲示)に記入の上(※学生の名前は記入しないでください)、教務係に提出してください。学生はこの掲示を見ることを原則としますので、教員が学生に直接連絡する必要はありません。もし締切に間に合わなかった場合には、各教員自身の責任において、直接学生に連絡してください。
- ・再試験期間は、3月3日(月)～3月7日(金)です。再試験の時間割は、原則として、5年生を除く、1～4年生は後期期末試験に対応するものとします。(例えば、期末試験の1日目の1時限の科目は、再試験の1日目の1時限になります)
5年生については、再試験時間割を再編成し、desknet's 文書管理『教務係→試験・成績関係』に掲示しましたので、ご確認願います。(後期期末試験4日目、5日目の科目を前半の3日間に前倒して実施できるよう時間割を変更しました)
- ・再試験の監督は、担当教員が行うこととします。担当教員が非常勤講師の場合は、各学科、各教科で対応してください。

3. 学年末成績、再試験の結果の提出について

- ・学年末成績の締切は、**2月25日(火)17時(厳守)**までに、教務支援システムで入力をお願いします。入力していただく成績は、本年度の総合成績、また、欠課時間数・総時間数は本年度の累計です。専攻科2年生については確定したものを2月19日(水)17時までにお願いします。締切に間に合うようにお願いします。教員室でコンピュータが使用できない場合には、教務係のコンピュータをご利用ください。この時、再試験の対象学生の得点も含めて全学生の成績を入力してください。成績入力後は、正しく入力されていることをご確認ください。成績入力についてのご質問は、教務係までお願いします。

(出典：平成 26 年 1 月教員配付資料)

資料 6-1-①-6 (続き) : 学年末成績の教員に対する注意通知の一部

- ・非常勤講師の先生は、成績報告書に記入して、2月20日(木)までにご提出ください。
 - ・再試験の結果は名票に記入し、**3年生については3月3日(水) 17時**までに、**1～4年生については3月11日(火)正午**までに署名捺印の上報告願います。
- ・成績提出の締切後であっても訂正が必要な場合には、次のような手順になります。
 - A: 何定会議資料の作成に関し合う場合は、担当教員は「成績訂正票」の用紙に必要な事項を記入し、教務係に提出する。
 - B: 何定会議資料の作成に関し合わない場合は、担当教員は「成績訂正票」の用紙に必要な事項を記入し、教務係に提出し、何定会議時に報告する。担当教員が非常勤講師の場合は、副校長(教務主宰)に何定会議時に報告する。
 - C: 何定会議日には、科目の審査が関係する訂正は行わない。それ以外の訂正は、3月中であれば、担当教員が「成績訂正票」の用紙に必要な事項を記入し、教務係に提出する。訂正内容は、新学期に担当教員が教務委員会等で報告する。担当教員が非常勤講師の場合は副校長(教務主宰)に教務委員会等で報告する。
4. 何定会議
- ・何定会議は、3年生については、3月11日(火)、1年生～4年生については、3月13日(木)です。この時に成績の資料を準備していただき、入付した成績に異議がないことをご確認ください。
 - ・何定会議の出席、半年限定が認められなかった学生に対しては、半年限任教員から速やかに連絡をお願いします。不明な事項を頂くためにも、学生に対しては連絡方法をしっかりと伝えておいてください。
 - ・半年限任教員は、半年限定が認められなかった学生の進路決定(留年、留級変更など)について**3月24日(日)**までに連絡し、教務係へ報告をお願いします。学生が休学・退学する場合は、「休学票」・「退学票」及び「担任の所見」の提出をお願いします。退学する場合は「退学票」を提出願います。期間が短くなってしまいましたが、次年度の進路の準備がありますので、どうぞよろしくお願いいたします。
5. 半年限定・卒業認定の決定について
- ・半年限定・卒業認定の規程等につきましては、平成21年度以降入学生については学生便覧48、49ページ(第10条及び第13条等、平成20年度以前入学生については学生便覧49、50ページ(第10条及び第13条等)を参照してください。
 - ・半年限定が認められない場合でも、留了を連絡される場合があります。本規定につきましては、4月に配布しました「教務関係資料」1、2ページにある、「小山工業高等専門学校卒業認定及び留級変更等への対応に関する申し合わせ事項」をご覧ください。
6. 再評価
- ・平成21年度以降入学生については、進級後に前年次の不合格科目について再評価を必ず実施願います。但し、3年生については身替者の方対象となります。対象学生は、4月中に「再評価連絡書」を提出することになっています。
 - ・平成20年度以前入学生については、担当教員の判断によって進級後に前年次の不合格科目について再評価を行うことができます。再評価を希望する学生は、4月中に「再評価票」にて問い合わせることになっています。
 - ・再評価の出席、合格の評価が得られれば、その科目は00年に評価し直されます。

(出典：平成 26 年 1 月教員配付資料)

資料 6-1-①-7 : 学業成績通知書の記載方法と保護者への通知方法について

平成 26 年度 4 月教務委員会議事要旨

日 時 : 平成 26 年 4 月 9 日 (水) 15 時 00 分 ~ 17 : 00
 場 所 : 管理棟 3 F 301 ゼミ室
 議 題

3. 学業成績通知書の記載方法について 【資料 11】

土田主事から、資料 11 に基づき、保護者あて学業成績通知書の記載事項について、点数、クラス順位、平均点等を追記したい旨の提案があり、種々意見交換の結果、次のとおり決定された。

○現用の保護者への学業成績通知書、及び学生への個人連絡票を、学生と保護者の双方に、中間試験後および期末試験後の年間、計 4 回送付する。

ただし、中間試験時の「点数」は中間試験の素点であることと、学期成績通知時の「点数」は評価方法による評価点であることを注記する必要があることが確認された。

なお、次のとおり意見があった。

○上記のとおり保護者へ年計 4 回送付することにより、学業成績通知書への記載事項の追加が不要となり、現在の教務システムを変更しなくとも対応が可能となる。ただし、保護者への通知回数が増えるため、郵送費が増える。

○経費の問題を無視したうえで、システム変更を行う場合、最も優先度の高い追加項目はクラス順位と考える。

平成 26 年度 5 月教務委員会議事要旨

日 時 : 平成 26 年 4 月 30 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 30
 場 所 : 管理棟 3 F 301 ゼミ室
 出席者 : 教務委員 (岡田主事補、ロボコン北米ツアーのため欠席)
 議 題

[審議事項]

.....

2. 学業成績通知書の記載方法について 【資料 7】

土田主事から、学業成績通知書及び個人連絡票の記載方法について、資料 7 のとおり変更したい旨提案があり、審議の結果、次の点が決定された。

○学業成績通知書に、点数およびクラス内順位を追加する。

○個人連絡票は名称を変更して「中間試験結果通知書」とし、クラス内順位、当該学年総修得単位および累積修得単位を追加する。

○学生及び保護者あてに、学業成績通知書を年 2 回、中間試験結果通知書を年 2 回送付する。
 があった。

....

(出典 : 教務委員会資料)

資料 6-1-①-8 : 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ

(既出 : 資料 5-5-②-1)

(機械工学コースを抜粋)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ 【複合工学専攻(機械コース)】					
小山高専の 教育目標	1 年		2 年		
	前期	後期	前期	後期	
①豊かな人間性の涵養	システムデザイン [履修/必修/2] 経営工学 [履修/必修/2]	環境技術 [履修/必修/2]	技術者倫理 [履修/必修/2]		
②豊かな感性と総合力の育成	機械工学ゼミナール 演習/必修/2				
	機械工学専攻実験 [履修/必修/2]	応力解析特論 [履修/選択/2]			
	産業財産権 [履修/必修/2]	プロジェクトデザイン [履修/必修/2]			
	実務研修 [履修/必修/2]				
	特別研究 (必修/3)		特別研究 (必修/5)	特別研究 (必修/6)	
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	複素関数論 [履修/選択/2]	応用解析学 [履修/選択/2]		現代制御理論 [履修/選択/2]	
		応用科学 [履修/選択/2]		シーケンス制御 [履修/選択/2]	
		力学特論 [履修/選択/2]			
	機械工学専攻演習 演習/必修/2				
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	熱移動論 [履修/選択/2]			エネルギー工学 [履修/選択/2]	
	塑性力学 [履修/選択/2]				
	流体力学 [履修/選択/2]				
	トライボロジー [履修/選択/2]				
⑤情報技術の向上	工学システム概論 [履修/選択/2]				
	計算力学 [履修/選択/2]	生産システム工学 [履修/選択/2]			
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	日本語概説 [履修/選択/2]				
	応用英語 I [履修/選択/2]	応用英語 II [履修/選択/2]			

(出典 : 平成 25 年度学生便覧より作成)

資料 6-1-①-9 : 教務委員会からの 25 年度シラバス作成方法 (1 / 3)

平成 24 年度 1 月教務委員会議事要旨 (案)

日 時 : 平成 25 年 1 月 9 日 (水) 15 : 30 ~ 16 : 40

場 所 : 管理棟 3 F 301 ゼミ室

出席者 : 教務委員

議 題

< 教育改善推進室報告 >

1 .

・・・

3 . シラバスの 2 月中 HP 掲載について

久保主事補より、次の事柄について説明があり、連絡先の電話番号は本校及び自宅を記入いただきたい旨の依頼が併せてあった。

○シラバスの HP 掲載につきまして、学科ごとに 2 月末日までの掲載をお願いいたします。様式につきましては後日改めてご案内いたします。

担当教員連絡先 (電話番号、メールアドレス) には本校のものを記載していただくように、教務主事から依頼がありました。FD 室として合意がとれていませんが、ご勘案ください。

・・・

(出典 : 教務委員会資料)

資料 6-1-②-1 : 退学率の推移状況

進学士課程の過去 5 年間の休学、留年及び退学者の各数と退学率

異動事項	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
休学	7	6	8	6	8
留年	38	38	45	38	22
退学(a)	11	29	23	11	18
学生総数(b)	1006	1030	1030	1006	1028
退学率(a/b)(%)	1.1%	2.8%	2.2%	1.1%	1.8%

学生総数は各年度5月1日現在

休学: 休学により原級に留まった者の数
 留年: 成績不振により原級に留まった者の数
 退学: 退学により学籍を失った者の数

(出典: 学生課教務係資料)

資料 6-1-②-2 : 過去 5 年間の進級率

本科学士の進級率(学年毎) 退学者を含む

学年	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1年生	98.0%	94.7%	95.2%	99.5%	96.7%
2年生	92.7%	94.7%	98.0%	100.0%	97.5%
3年生	89.8%	88.8%	88.3%	98.6%	94.6%
4年生	89.5%	93.3%	89.9%	100.0%	94.0%
5年生	97.3%	96.4%	96.5%	99.5%	94.4%

本科学士の進級率(学年毎) 退学者を含まない

学年	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
1年生	98.5%	95.6%	96.6%	100.0%	97.1%
2年生	94.5%	95.6%	98.5%	100.0%	98.5%
3年生	91.1%	89.2%	88.3%	100.0%	96.4%
4年生	90.8%	94.2%	91.2%	100.0%	94.9%
5年生	97.3%	96.9%	96.5%	100.0%	95.4%

(出典: 学生課教務係資料)

資料 6-1-②-3 : 平成 25 年度本科生の進級状況

平成25年度の各学年各クラスの進級状況 平成26年3月31日

		M	L	R	C	A	E	D	小計	計	
1	休学: 退学(内数)	1	1	1		1	1		3	2	3
	留年: 退学(内数)	2		1	1	1			4	0	4
	退学: 退学合計		0	1	0	0	1	2	1	3	1
2	休学: 退学(内数)				2	1			2	1	2
	留年: 退学(内数)	1					1	1	3	2	3
	退学: 退学合計		0		1	0	1	1	0	3	0
3	休学: 退学(内数)						1	1	2	0	2
	留年: 退学(内数)	2	1			2	2		7	3	7
	退学: 退学合計		1		1	1	2	0	1	4	1
4	休学: 退学(内数)				1	1		1	3	2	3
	留年: 退学(内数)	3	1		2	1	1	3	10	2	10
	退学: 退学合計		1		1	3	0	1	1	5	1
5	休学: 退学(内数)	1			1	1	1		4	1	4
	留年: 退学(内数)				1	1	3	1	6	1	6
	退学: 退学合計		0		1	1	0	1	1	3	1
計	休学: 退学(内数)	2	0	1	1	0	4	3	14	6	14
	留年: 退学(内数)	8	2	0	0	1	4	1	30	8	30
	退学: 退学合計	0	2	0	1	0	2	6	4	18	4

・「休学: 退学(内数)」は「休学により原級に留まった者の数; その内の退学者数(a)」を表す。
 ・「留年: 退学(内数)」は「成績不振により原級に留まった者の数; その内の退学者数(b)」を表す。
 ・「退学: 退学合計」は、「上記(a)と(b)以外の退学者数(c): (a)+(b)+(c)」を表す。

(出典: 学生課教務係資料)

資料 6-1-②-4 : 専攻科学生の修了率

専攻科学生の修了率

	平成22年度修了	平成23年度修了	平成24年度修了	平成25年度修了
機械工学コース	88.90%	88.89%	80.00%	86%
電気情報工学コース	100.00%	100.00%	100.00%	100%
電子制御工学コース	100.00%	100.00%	100.00%	100%
物質工学コース	100.00%	100.00%	80.00%	86%
建築学コース	88.90%	88.89%	77.78%	100%

(出典：学生課教務係資料)

資料 6-1-②-5 : 平成 25 年度本科生の学年別単位修得率

平成25年度 機械工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	99	100	99	100	96	99
②豊かな感性と創造力の育成	98	100	97	98	86	96
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	95	98	97	95	95	96
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	96	99	92	97	87	94
⑤情報技術の向上		100		99	100	100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	97	100	98	99	93	97

平成25年度 電気電子創造工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年L	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	95					95
②豊かな感性と創造力の育成	99					99
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	96					96
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成						
⑤情報技術の向上	100					100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100					100

平成25年度 電気電子創造工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年R	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	98					98
②豊かな感性と創造力の育成	98					98
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	97					97
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成						
⑤情報技術の向上	100					100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100					100

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-5 (続き) : 平成 25 年度本科生の学年別単位修得率

平成25年度 電気情報工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	/	97	99	100	78	93
②豊かな感性と創造力の育成	/	97	100	100	97	98
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	/	97	99	88	/	94
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	/	/	/	95	85	90
⑤情報技術の向上	/	95	83	100	97	94
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	/	97	100	99	61	89

平成25年度 電子制御工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	/	100	98	100	89	97
②豊かな感性と創造力の育成	/	98	100	100	100	99
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	/	93	92	99	100	96
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	/	97	94	95	90	94
⑤情報技術の向上	/	99	98	98	90	96
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	/	99	99	99	69	92

平成25年度 物質工学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	99	100	100	98	90	97
②豊かな感性と創造力の育成	100	100	100	98	96	99
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	99	100	99	98	/	99
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	100	100	98	94	96	98
⑤情報技術の向上	98	/	/	/	/	98
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	99	100	100	98	73	94

平成25年度 建築学科単位修得率						
	修得率(%)					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	100	100	99	100	97	99
②豊かな感性と創造力の育成	100	100	90	100	90	96
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	98	99	97	95	92	96
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	/	/	100	99	93	97
⑤情報技術の向上	/	/	100	/	/	100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100	100	100	99	79	96

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-6 : 平成 25 年度本科生の学年別平均点

平成25年度 機械工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	71	81	71	71	77	74
②豊かな感性と創造力の育成	77	83	75	83	77	79
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	74	65	77	77	78	74
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	74	73	74	78	80	76
⑤情報技術の向上		80		83	78	80
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	73	78	73	80	69	75

平成25年度 電気電子創造工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年L	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	71					71
②豊かな感性と創造力の育成	84					84
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	78					78
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成						
⑤情報技術の向上	81					81
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	79					79

平成25年度 電気電子創造工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年R	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	73					73
②豊かな感性と創造力の育成	85					85
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	77					77
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成						
⑤情報技術の向上	83					83
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	79					79

平成25年度 電気情報工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養		76	76.5	71	61	71
②豊かな感性と創造力の育成		80	83	79	79	80
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上		79	79	72		77
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成				76	68	72
⑤情報技術の向上		75	65	82	73	74
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成		79	76	78	50	71

平成25年度 電子制御工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養		86	70	79	74	77
②豊かな感性と創造力の育成		81	77	82	83	81
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上		75	74	81	82	78
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成		80	73	77	77	77
⑤情報技術の向上		80	73	82	80	79
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成		77	73	81	59	72

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-6 (続き) : 平成 25 年度本科生の学年別平均点

平成25年度 物質工学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	79	87	76	80	73	79
②豊かな感性と創造力の育成	85	84	79	84	77	82
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	80	77	83	80	/	80
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	83	80	78	76	75	78
⑤情報技術の向上	77	/	/	/	/	77
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	82	79	78	81	60	76

平成25年度 建築学科成績評価						
	平均点					
小山高専の教育目標	1年	2年	3年	4年	5年	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	75	72	69	72	75	73
②豊かな感性と創造力の育成	82	75	71	73	69	74
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	77	74	72	75	75	74
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	/	/	74	73	74	74
⑤情報技術の向上	/	/	76	/	/	76
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	76	76	77	81	66	75

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-7 : 平成 25 年度専攻科生の単位修得率

平成25年度 機械工学コース 単位修得率			
	修得率(%)		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	100	100	100
②豊かな感性と創造力の育成	100	100	100
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	100	100	100
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	92	100	96
⑤情報技術の向上	92		92
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100		100

平成25年度 電気情報工学コース 単位修得率			
	修得率(%)		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	100	100	100
②豊かな感性と創造力の育成	100	100	100
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	100		100
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	100		100
⑤情報技術の向上	100		100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100		100

平成25年度 電子制御工学コース 単位修得率			
	修得率(%)		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	100	100	100
②豊かな感性と創造力の育成	100	100	100
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	100		100
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	100	100	100
⑤情報技術の向上	100		100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100		100

平成25年度 物質工学コース 単位修得率			
	修得率(%)		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	96	86	91
②豊かな感性と創造力の育成	100	86	93
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	93		93
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	94	100	97
⑤情報技術の向上	100		100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	97	82	89

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-7 (続き) : 平成 25 年度専攻科生の単位修得率

平成25年度 建築学コース 単位修得率			
	修得率(%)		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	100	100	100
②豊かな感性と創造力の育成	100	60	80
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	100	/	100
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	100	100	100
⑤情報技術の向上	100	100	100
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	100	/	100

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-8 : 平成 25 年度専攻科生の平均点

平成25年度 機械工学コース 成績評価			
	平均点		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	80	85	83
②豊かな感性と創造力の育成	83	86	84
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	85	100	93
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	85	93	89
⑤情報技術の向上	89	/	89
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	82	/	82

平成25年度 電気情報工学コース 学科成績評価			
	平均点		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	84	90	87
②豊かな感性と創造力の育成	82	84	83
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	85	/	85
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	91	/	91
⑤情報技術の向上	88	/	88
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	90	/	90

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-8 (続き) : 平成 25 年度専攻科生の平均点

平成25年度 電子制御工学コース成績評価			
	平均点		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	80	87	84
②豊かな感性と創造力の育成	84		84
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	86		86
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	90	95	92
⑤情報技術の向上	95		95
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	81		81

平成25年度 物質工学コース成績評価			
	平均点		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	78	74	76
②豊かな感性と創造力の育成	81	81	81
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	78		78
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	83	92	87
⑤情報技術の向上	10		10
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	87	71	79

平成25年度 建築学コース成績評価			
	平均点		
小山高専の教育目標	S1	S2	項目別平均
①豊かな人間性の涵養	80	81	80
②豊かな感性と創造力の育成	79	60	70
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	82		82
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	87	86	86
⑤情報技術の向上	95	82	88
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	81		81

(出典：学生課教務係資料を整理)

資料 6-1-②-9 : 資格取得状況(準学士課程及び専攻科の例)

資格取得状況			
学科・専攻名	取得資格名	年・月	人数
準学士過程			
機械工学科	TOEIC 550以上	2009年(H21)	3
		2010年(H22)	4
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	1
		2013年(H25)	2
	TOEIC 420以上	2010年(H22)	1
		2011年(H23)	6
	CAD利用技術者試験 2級	2009年(H21)	7
		2010年(H22)	2
	ボイラー技士 2級	2009年(H21)	4
		2010年(H22)	2
		2011年(H23)	2
		2012年(H24)	2
	危険物取扱者 乙種4類	2009年(H21)	3
		2010年(H22)	1
2011年(H23)		1	
	2012年(H24)	1	
実用英語技能検定 準1級	2013年(H25)	1	
実用英語技能検定 2級	2009年(H21)	1	
日本漢字能力検定 2級	2012年(H24)	1	
電気情報工学科	TOEIC 550以上	2009年(H21)	1
		2010年(H22)	3
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	3
		2013年(H25)	2
	TOEIC 420以上	2009年(H21)	2
		2010年(H22)	3
		2011年(H23)	2
		2012年(H24)	1
		2013年(H25)	9
	工業英語能力検定試験 3級	2010年(H22)	1
	情報処理技術者 基本情報技術者	2009年(H21)	6
		2010年(H22)	2
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	1
	情報処理技術者 応用情報技術者	2009年(H21)	1
	情報処理技術者 ITパスポート	2009年(H21)	3
		2010年(H22)	3
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	5
	情報活用試験 1級	2009年(H21)	1
	CGクリエイター検定 エキスパート	2012年(H24)	1
	CGクリエイター検定Webデザイン部門 2級	2009年(H21)	1
第3種 電気主任技術者	2009年(H21)	2	
第1種 電気工事士	2012年(H24)	1	
第2種 電気工事士	2009年(H21)	1	
	2010年(H22)	1	
	2011年(H23)	3	
	2012年(H24)	1	
	2013年(H25)	2	
陸上特殊無線技士 1級	2010年(H22)	1	
危険物取扱者 乙種 4類	2010年(H22)	4	
	2012年(H24)	1	
実用英語技能検定 2級	2009年(H21)	1	
日本漢字能力検定 2級	2011年(H23)	1	

資料6-1-②-9 (続き) : 資格取得状況(準学士課程及び専攻科の例)

電子制御工学	TOEIC 550以上	2009年(H21)	6
		2010年(H22)	4
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	5
		2013年(H25)	7
	TOEIC 420以上	2009年(H21)	5
		2010年(H22)	2
		2012年(H24)	3
		2013年(H25)	5
	工業英語 3級	2013年(H24)	1
	実用数学技能検定 準1級	2012年(H24)	1
	情報処理技術者 基本情報技術者	2009年(H21)	4
		2010年(H22)	7
		2011年(H23)	10
		2012年(H24)	11
	情報処理技術者 応用情報技術者	2012年(H24)	1
	情報処理技術者 ITパスポート試験	2009年(H21)	3
		2011年(H22)	1
		2011年(H23)	6
	情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	2009年(H21)	1
	マルチメディア検定 エキスパート	2012年(H24)	1
	LPICレベル1	2010年(H22)	1
	第3種 電気主任技術者	2009年(H21)	1
第2種 電気工事士	2009年(H21)	1	
	2010年(H22)	2	
	2011年(H23)	1	
危険物取扱者 乙種 4種	2013年(H25)	1	
	TOEFL 490以上	2011年(H23)	1
	実用英語技能検定 2級	2009年(H21)	1
2011年(H23)		1	
日本漢字能力検定 2級	2011年(H23)	1	
物質工学科	TOEIC 550以上	2009年(H21)	2
		2011年(H23)	1
		2012年(H24)	1
		2013年(H25)	6
	TOEIC 420以上	2009年(H21)	3
		2010年(H22)	3
		2011年(H23)	3
		2012年(H24)	1
		2013年(H25)	2
	火薬類取扱保安責任者 甲種	2011年(H23)	1
	火薬類取扱保安責任者 乙種	2010年(H22)	1
	危険物取扱者 甲種	2011年(H23)	1
		2012年(H24)	1
	危険物取扱者 乙種 4類	2009年(H21)	10
		2010年(H22)	8
		2013年(H25)	3
	高圧ガス製造保安責任者 乙種機械	2013年(H25)	1
日本漢字能力検定 準1級	2011年(H23)	1	
日本漢字能力検定 2級	2009年(H21)	1	
	2012年(H24)	2	

資料6-1-②-9 (続き) : 資格取得状況(準学士課程及び専攻科の例)

建築学科	TOEIC 550以上	2009年(H21)	1
		2010年(H22)	2
		2013年(H25)	3
	TOEIC 420以上	2009年(H21)	3
		2010年(H22)	1
		2011年(H23)	3
		2012年(H24)	1
	色彩検定 2級	2013年(H25)	2
		2009年(H21)	2
		2010年(H22)	1
	色彩検定 3級	2012年(H24)	1
		2009年(H21)	2
		2010年(H22)	5
		2011年(H23)	5
	技能検定試験(3級建築大工技能士)	2012年(H24)	5
		2013年(H25)	3
	危険物取扱者 乙種 3類	2009年(H21)	1
	危険物取扱者 乙種 4類	2012年(H24)	1
	危険物取扱者 乙種 4、5、6類	2010年(H22)	2
	建築施工監理技術検定 2級	2012年(H24)	1
福祉住環境コーディネーター 2級	2009年(H21)	1	
	2013年(H25)	6	
福祉住環境コーディネーター 3級	2012年(H24)	1	
	2009年(H21)	2	
	2010年(H22)	1	
カラーコーディネーター 3級	2013年(H25)	6	
	2012年(H24)	1	
実用英語技能検定 2級	2009年(H21)	2	
	2011年(H23)	1	
日本漢字能力検定 準1級	2013年(H25)	1	
	2011年(H22)	2	
日本漢字能力検定 2級	2012年(H23)	1	
	2013年(H24)	1	
専攻科			
機械工学コース	二級ボイラー技士	2010年(H22)	1
	TOEIC 420以上	2010年(H22)	2
電子制御工学コース	ITパスポート	2011年(H23)	1
	TOEIC525	2013年(H25)	1

(出典：学生課教務係資料および各学科資格取得状況調査資料を整理)

資料6-1-②-9 (続き) : 資格取得状況のまとめ

準学士課程					
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
平成21年度	4	8	7	2	5
平成22年度	16	22	11	19	13
平成23年度	8	10	22	4	13
平成24年度	9	16	17	14	8
平成25年度	9	17	39	13	27
小計	46	73	96	52	66
専攻科課程					
	機械工学コース	電気情報工学	電子制御工学	物質工学コース	建築学コース
平成21～25年度の 小計	3	0	2	0	0
計	49	73	98	52	66

(出典：学生課教務係資料および各学科資格取得状況調査資料)

資料6-1-②-10 : 卒業研究・卒業制作の状況

(平成25年度)

準学士課程卒業研究 学科名	評価点		
	最高	最低	平均
機械工学科	96	62	78
電気情報工学科	89	60	74
電子制御工学科	100	63	85
物質工学科	93	60	80
建築学科	86	68	76

専攻科課程 特別研究 コース名	評価点		
	最高	最低	平均
機械工学コース	87	82	84
電気情報工学コース	91	70	84
電子制御工学コース			
物質工学コース	85	78	81
建築学コース	89	80	82

(出典：各学科成績資料を整理)

資料 6-1-②-10 (続き) : 卒業研究発表プログラムの一例(機械工学科)

文責：那須 2014.1.24

平成 25 年度 卒業研究発表会 説明会資料

1. 関連日程

1月24日(金)	13:05～	学生に対する説明会 5 MHR
2月07日(金)	17:00 まで	題目提出
2月24日(月)	17:00 まで	抄録提出 (A4 原稿二枚, 両面印刷したものを 40 部)
2月25日(火)	放課後	抄録作成 (依頼の際は協力されたい)
2月28日(水)	8:45～	卒業研究発表会 (専攻科棟 4F: 多目的メディアホール)
2月28日(金)	13:00 まで	抄録印刷原稿提出

2. 当日日程

2月28日(水) 8:30 までに集合
 学科長挨拶→発表開始→途中休憩→発表終了→講評の順で行う
 全員参加。遅刻, 途中退室のないようにすること。

3. 司会者等

司会者, タイムキーパはプログラムに掲載。ほぼ全員が今年度中に一度は役割分担するようにします。

4. 実施要領

発表時間 1 テーマ一人 ……15 分 (発表 10 分, 質疑 5 分)
 1 テーマ二人 ……20 分 (発表 15 分, 質疑 5 分)

発表内容については指導教員と良く話し合っ、時間内に収まるようにすること。
 1 テーマを二人で発表する場合は、両者が平均的に発表するよう工夫すること。
 また、次の時間でタイムキーパがベルを鳴らしますので、発表時間の目安にしてください。
 (一鈴：発表終了一分前, 二鈴：発表終了, 三鈴：質疑応答終了)

5. 評価

学生による評価：当日配布の採点用紙(四段階程度)による評価。
 教員による評価：主査(指導教員) + 副査二名による審査。

6. 抄録

以下省略

(出典：機械工学科資料)

資料 6-1-②-10 (続き) : 卒業研究評価結果一覧の一例(機械工学科)

平成 25 年度 機械工学科 卒業研究発表会採点結果 (教員)

番号	題 目	発表者名	合計点	順位
1	シェルモールド法によるハンドベル製造装置の開発		81	23
2	自作ハンドベルに関する研究 (ハンドベルの設計・製作)		76	33
3	自作ハンドベルに関する研究 (ベル固定用のテーブル製作とその評価)		80	25
4	ANSYS を使った非線形切欠き力学による破壊の予測		66	41
5	図書館案内ロボットの製作と社会評価		82	20
			82	20
6	図書館案内ロボットの製作と社会評価 制御編		87	9
7	エアボードの製作と性能評価		78	30
8	異材接合体角部近傍の特異応力解析		91	6
9	レゴマインドストーム NXT を使用した教材の開発		83	16
10	犬との共存を目的としたシルバーカの開発 (磁気ブレーキの試作)		83	16
11	犬との共存を目的としたシルバーカの開発 (段差乗越え機構の製作)		80	25
12	杖先ゴムの静摩擦係数測定機の製作		85	11
13	金属製下肢装具用膝継手の負荷試験システムの製作		74	36
14	磁場環境下における往復摩擦摩耗試験機の製作		67	39
15	地面効果翼機を用いた工学教材の作製		73	37
16	Excel を用いた簡易数値風洞の作成 (パネル法を用いた地面効果の解析)		76	33
17	Excel を用いた簡易数値風洞の作成 (後処理の改良)		73	37
18	気泡ポンプ性能予測モデルの改良 (気泡上昇速度の測定)		75	35

学生氏名					81 / 100
審査員種別	主査	副査1	副査2	小計	
審査員署名	田中 好一	朱 勤	鈴木 栄二		
計画, 取組	30 / 40	/		30 / 40	
発表	8 / 10	8 / 10	9 / 10	25 / 30	
抄録	8 / 10	9 / 10	9 / 10	26 / 30	
学生氏名					76 / 100
審査員種別	主査	副査1	副査2	小計	
審査員署名	田中 好一	朱 勤	鈴木 栄二		
計画, 取組	25 / 40	/		25 / 40	
発表	8 / 10	8 / 10	9 / 10	25 / 30	
抄録	8 / 10	9 / 10	9 / 10	26 / 30	

(出典：機械工学科資料)

資料 6-1-②-10 (続き) : 専攻科特別研究の評価シートの一例

2013年度特別研究発表会(専攻科1,2年)				
機械工学コース				
学生氏名				
審査員種別	主査	副査1	副査2	小計
審査員署名				
計画・取組	35/40	/	/	35
発表	8/10	8	9/10	25
概要書	8/10	8	10/10	26
欠課数			合計	86

(出典：機械工学コース資料)

平成25(2013)年度 特別研究(SA2)報告会 評価結果

建築学専攻科2年			先生1	先生2	先生3	先生4	先生5	先生6	先生7	先生8	先生9	先生10	先生11		
氏名	指導教員	所属	S	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	総合平均
	横内基	合格	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	89.0
	大島祐一	合格	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	81.9
	大島祐一	合格	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	81.7
	豊川真樹	合格	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	81.2
	佐藤真史	合格	B	A	A	B	B	B	B	B	B	B	B	B	79.9
	佐藤真史	合格	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	B	79.7

評価項目について

- ① 研究の目的や背景、着眼点と、研究内容が明確か？又は、調査や実験の計画性が適切か？
- ② 研究に対する理解度は十分か？課題を理解しているか？
- ③ 結果や考察に対する導き方や結果が明確か？又は、論理的に述べているか？
- ④ 発表がわかりやすかったか？質問を受けた場合の回答は明確だったか？
- ⑤ 指導教員のみ採点 < 自主性や習熟度 > (他の研究室様は新線を記して下さい)

平均点
82.74

合計方法 まず、11枚のシート(採点人数により変動)から、各項目①②③④の平均を算出
 指導教員有り ((①×0.1+②×0.1+③×0.1+④×0.1)+⑤)×0.6 = 総合得点
 指導教員無し ((①+②+③+④)/4 = 総合得点

- S: 特に優れている 95点
- A: 優れている 85点
- B: 良い 75点
- C: やや改善が必要 65点
- D: 十分でない 55点
- ※ 無記入は「B」とします
- ※ 必ず！アルファベットで記入して下さい

中間と70点数で、総計する場合、特別研究中間13特別研究最終で、総合平均

(出典：建築学コース資料)

資料 6-1-②-11：本科及び専攻科生による学会発表（含：コンペティション）に関する調査

発表学生氏名	指導教員名	書名・発表題目	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 (巻・号・頁等)	発行又は発表の 年月	査読有無	共著、発表者一 覧	備考：受賞など の特記事項
準学士課程							
機械工学科 準学士課程 口頭発表 (9件)							
	山下 進	シルバークーの安全性に関する研究	日本機械学会関東学生第53回学生員卒業 研究発表 講演会講演前集	平成28年3月	無		B P A 受賞
	柴 勤	連続Wavelet変換結果を用いたカオス振 動検出の試み	第19回高専シンポジウム in 久留米講演要旨 集,p.477,	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電気情報工学科 準学士課程 口頭発表 (8件)							
	北野達也	SiCパワーデバイスを用いたMDT方式電 力変換器の試作と評価	電気学会東京支部栃木支所研究発表会	平成28年3月	無		
	鈴木真ノ介	教育からホビーまでを視野に入れた球 型ロボットの開発	大学コンソーシアム栃木第10回 「学生&企業研究発表会」プログラム	平成25年12月	無		
(以下省略)							
電子制御工学科 準学士課程 口頭発表 (2件)							
	市村智康	CPG電子回路を用いる形状記憶合金アク チュエータの駆動に関する基礎実験	電子情報通信学会技術研究報告, vol.113, no.113, CAS2013-10, pp.55-58, 2013	平成25年7月	無		
	市村智康	自律走行型海浜清掃ロボットの開発 - 測域センサを用いた自律走行制御 -	第56回自動制御連合講演会論文集 pp.222-225, 2013	平成25年11月	無		
物質工学科 準学士課程 口頭発表 (7件)							
	加島敬太, 高屋 朋彰 川越大輔, 田中 孝国	かんぴょう塗料の性能に及ぼすパイン ター添加の影響	第16回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.104 (東工大)	平成28年3月	無		
	田中孝国	気泡型型噴霧装置を用いた含油排水処 理性能の評価	第16回化学工学会学生発表会(東京大会) 研究発表講演要旨集 p.9 (東工大)	平成28年3月	無		
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 口頭発表 (3件)							
	本多良政	開口を有するRC造袖壁付柱のFEM解析	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演梗概集, p21-22	平成28年3月	無		
	大島隆一 横内基	伝統的建造物における空き家の再活用 計画	2013年度高専女子フォーラム in 関東信越	平成25年12月	無		ポスター発表
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 論文発表 (1件)							
	横内基	面材直撃を応用した歴史的建造物の耐 震補強工法に関する研究	高専機構本部：創造性を育む「卒業研究」 集、推薦	平成28年2月	学内審査あり		
専攻科							
機械工学コース 口頭発表 (3件)							
	山崎 敬則	計量コンベアの動的挙動と制御	SI2018 講演会プログラム	平成25年12月	無		
	那須 裕規	磁場環境下におけるフレッシング摩擦現象 のその場観察	日本機械学会関東支部栃木ブロック研究交流会	平成26年11月	無		
(以下省略)							
電気情報工学コース 口頭発表 (8件)							
	石原 学	タッチパネル面の刺さるによる粗さ感覚 の検討	第19回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
	鈴木真ノ介	磁界共鳴型ワイヤレス電力伝送システ ムにおける出力向上に関する研究	第19回高専シンポジウム	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電子制御工学コース 口頭発表 (5件)							
	鯉島洋祐	多値符号科技術を用いた高速デジタル 信号伝送に関する研究	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木 支部、ETG-14-39, EIT-14-39, pp.123-124, 2014	平成28年3月	無		
	平田克己	遅れ時間補正と独立成分分析による音 源分離	第56回自動制御連合講演会(新潟), 1039	平成25年11月	無		
(以下省略)							
物質工学コース 口頭発表 (9件)							
	加島敬太, 高屋 朋彰 川越大輔, 田中 孝国	かんぴょうを利用した安全な乾燥剤の 開発	第16回化学工学会学生発表会(東京大会)研究 発表講演要旨集 p.105 (東工大)	平成28年3月	無		優秀賞
	田中孝国	超音波照射が活性汚泥の代謝活性とフ ロックに及ぼす影響について	第10回「学生&企業研究発表会」 (宇都宮大学)	平成25年12月	無		奨励賞
(以下省略)							
建築学コース 口頭発表 (6件)							
	川上勝弥	鉱物質微粉末混入モルタルの活性度及 び透水性に関する実験的研究	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部 栃木地区 研究発表会 講演梗概集, p43-44	平成28年3月	無		
	橋本彼路子	被災地域における高齢者・障がい者の ニーズと仮設住宅地計画の提案	とちぎ大学連携サテライトオフィス 学生&企業研究発表会、予稿集 P90-91	平成25年12月	審査あり		おかげさまで創 業百三十周年賞 (藤井産業㈱)
(以下省略)							

(出典：各学科の学会発表に関する調査資料)

資料 6-1-②-11 (続き) : 本科及び専攻科生による学会発表 (含: コンペティション) に関する調査

平成 21~25 年度 口頭発表と論文の件数まとめ (件数)

進学士課程	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
口頭発表	18	64	2	36	51
論文	0	0	0	0	6
小計	18	64	2	36	57
専攻科課程	機械工学コース	電気情報工学コース	電子制御工学コース	物質工学コース	建築学コース
口頭発表	27	40	9	30	30
論文	0	0	0	0	1
小計	27	40	9	30	31
総計	45	104	11	66	88

(出典: 各学科の学会発表に関する調査資料のまとめ)

資料 6-1-②-12 : ロボコン、プロコン、アイコンなどのコンペティション等への参加状況の一例 (平成 25 年度)

(本科及び専攻科生)

参加学生氏名 (学科学年)	指導教員名	コンテスト名	主催団体名	開催年月	査読 有無	共同参加者	受賞などの 特記事項
進学士課程							
機械工学科 進学士課程(5件)							
1M, 2M, 3M, 4M	川村 社司	KOSEN発“イノベティブ・ジャパン”プロジェクト	東京高専	平成25年3月	無		サービス実装評価賞受賞: 栃木市大平図書館用
1M, 2M, 2E, 3M, 4M, 5M	山下 進 鈴木 栄二	Hondaエコマレッジチャレンジ2013 第33回全国大会	本田技研工業株式会社	平成25年10月	無		
(以下省略)							
電気情報工学科 進学士課程(2件)							
4E	田中昭雄	高専ロボコン2013	高専ロボコン2013全国大会	平成25年11月	無		特別賞
4E	田中昭雄	高専ロボコン2013	高専ロボコン2013関東甲信越地区大会	平成25年10月	無		優勝
電子制御工学科 進学士課程(4件)							
2D, 2E	小林康浩	全国高等専門学校第24回プログラミングコンテスト(課題部門)	全国高等専門学校連合会	(予選)平成25年6月 (本選)平成25年10月			
4D, 3D, 2D, 2E	平田克己	平成25年度起業家甲子園	独立行政法人情報通信研究機構	平成26年3月			Sansan賞 (Sansan株式会社)
(以下省略)							
建築学科 進学士課程(5件)							
2A	中山昌尚	全国高専デザコン2013in米子/構造ブリッジ	高等専門学校連合会	平成25年11月	有		優秀賞
5A	豊川斎赫	全国高専デザコン2013in米子/空間部門	高等専門学校連合会	平成25年11月	有		本選出場
(以下省略)							
専攻科							
建築学コース(1件)							
SA1	大島隆一	日本舞台美術家協会(JAIDT)舞台美術賞	日本舞台美術家協会	平成28年3月	有		審査員特別賞

(出典: 各学科のコンペティションなどへの参加状況資料のまとめ)

資料6-1-②-12（続き）：ロボコン、プロコン、アイコンなどのコンペティション等への参加状況
（平成21～平成25までの参加件数まとめ）

準学士課程

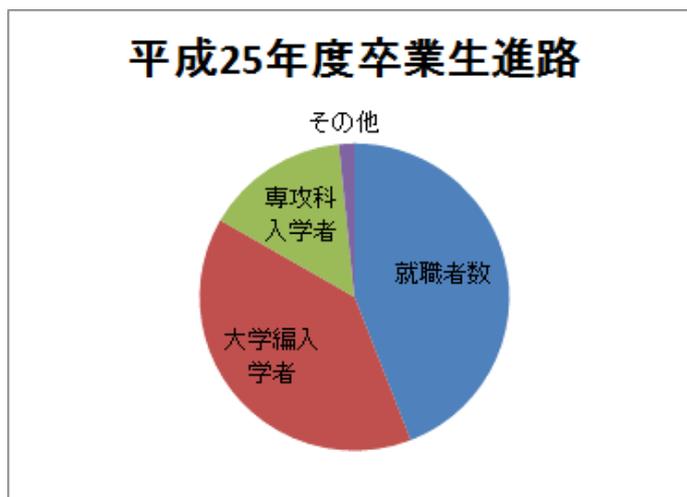
年度	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
平成21年度	2	2	0	0	4
平成22年度	3	0	0	0	5
平成23年度	3	0	0	0	5
平成24年度	6	1	2	0	6
平成25年度	5	2	4	0	5
小計	19	5	6	0	25

専攻科課程

年度	機械工学コース	電気情報工学コース	電子制御工学コース	物質工学コース	建築学コース
平成21年度	0	0	0	0	0
平成22年度	0	0	0	0	2
平成23年度	0	0	0	0	0
平成24年度	0	0	0	0	1
平成25年度	0	0	0	0	1
小計	0	0	0	0	4
計	19	5	6	0	29

（出典：各学科のコンペティションなどへの参加状況資料のまとめ）

資料 6-1-③-1 : 平成 25 年度卒業生進路



(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-2 : 平成 25 年度卒業生進路状況

平成25年度卒業生進路状況

学科	卒業者数	就職者数	大学編入学者	専攻科入学者	その他
機械工学科	40	23	11	6	0
電気情報工学科	32	13	11	6	2
電子制御工学科	39	20	18	1	0
物質工学科	40	12	20	8	0
建築学科	35	14	13	7	1
計	186	82	73	28	3

(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-3 : 求人倍率の推移



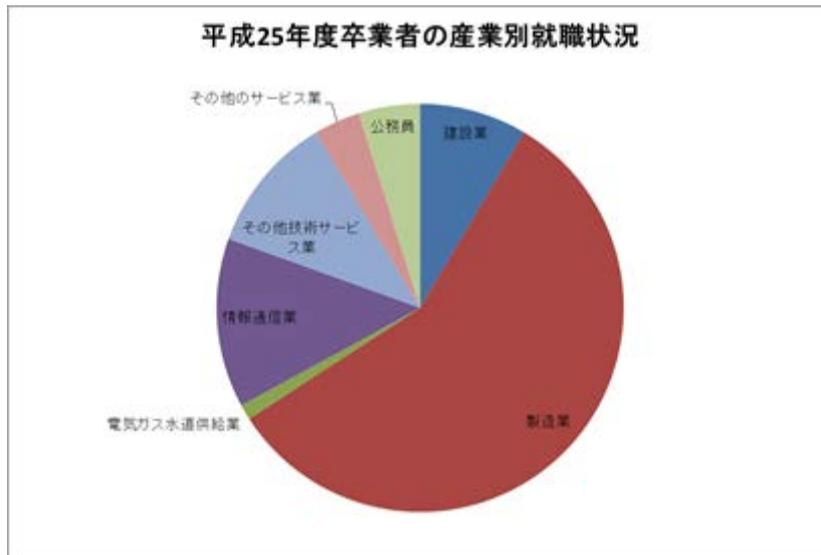
(出典：学生課学生係資料)

資料6-1-③-4：過去4年間の本科生就職先一覧（1／3）

企業名	平成25年度					平成24年度					平成23年度					平成22年度									
	M	E	D	C	A	計	M	E	D	C	A	計	M	E	D	C	A	計	M	E	D	C	A	計	
AGF関東				1		1						0			1				1					0	
BeeBeans			1			1																			
DNP包装						0						0			0	1				0				1	
ICS						0						0			0	1				0				1	
IHI						0	1					1			0					0				0	
JUKI						0		1				1			0					0				0	
KDDIエンジニアリング						0		1				1			0					0				0	
KDDIテクニカルエンジニアリングサービス						0						0		1				1		1				1	
KYB						0						0		1					1					0	
LIXIL	1					1																			
Mテック						0						0							0		1			1	
NEWS						0					1	1							0					0	
NEXCO						1	1																		
NHKメディアテクノロジー						0		1				1							0					0	
NTT-ME	1		2			3			1			1			2			2			2			2	
NTTコムテクノロジー						0		1				1			0				0					0	
NTTコムテック						0						0		1				1						0	
NTTファシリティーズ						0					1	1				1	1							0	
TANAKAホールディングス						0						0	1					1						0	
TDK						0						0	1					1						0	
アーネストワン						0						0					1	1						0	
アーレスティダイモールド板木						0	1					1						0						0	
アイシイエス						0	1					1						0						0	
曙ブレーキ工業						0						0		1				1						0	
旭エンジニアリング						0						0	1					1						0	
旭化成						0	1			1		2		1				1						0	
旭化成カーテック						0				1		1					1					1		1	
旭化成テクノプラス						0						0	1				1							0	
アダマンド工業						0		1				1			1			1						0	
アドバンソフト開発						0						0						0		1	1			2	
荒井設計						0					1	1						0			1	1		0	
アルプス電気						0		1				1						0						0	
アルメックス						0					2							0						0	
アルメックスFE			1			1				2								0						0	
イー・プランニング						0				1		1						0						0	
イー・アドエム						0						0				1	1							0	
一般社団法人大工育成塾	1					1																		0	
出光興産						0				1		1						0			1			1	
茨城大学事務部施設課						0						0						0				1		1	
岩村建設						0						1	1					0						0	
宇都宮市役所						0						1	1					2	2					0	
エス・イー・シー・ハイテック				1		1																			
エムソフト						1																			
おぼねや					1	1																			
オフィスエフエイコム						3			1			1			1	1								1	
オリンパス						0						0		1			1	1						1	
ガイアシステム・ソリューション						0						0						0			1			1	
花王						0				1		1			1		2					1		1	
カクニビルダー						0						0				1	1					1		0	
加藤製作所	1					1						0				0	1							1	
カナエ						0		1				1					0							0	
神細テクノ						0						0	1				1							0	
ガルフネット				1		1																			
関東グリコ						0						0		1		1	2							0	
関東電化工業						0						0									1			1	
カンパク					1	1																			
ギガフォン						0						0				0	1							1	
キヤノン	1					2		1				1		1	1	1								2	
キヤノンアルパ						0						0	1			1								0	
京セラ						0						0		1		1						1		1	
協和発酵キリン高崎工場						0				1		1				0								0	
キリン協和フーズ						0				1		1				0					1			1	
グラクノ・スミスクライン						0						0	1	1		2								0	
クラレ						0	1					1				0								0	
光洋産業						0						0			1		1							0	
公和設計						0						0				1	1							0	
国立印刷局						1																			
御殿場市役所						0			1			1												0	
小松製作所	3	1				4	3	1		1	1	6	4	1		1	6	1						1	
サイタスマネジメント						0						0		1			1							0	

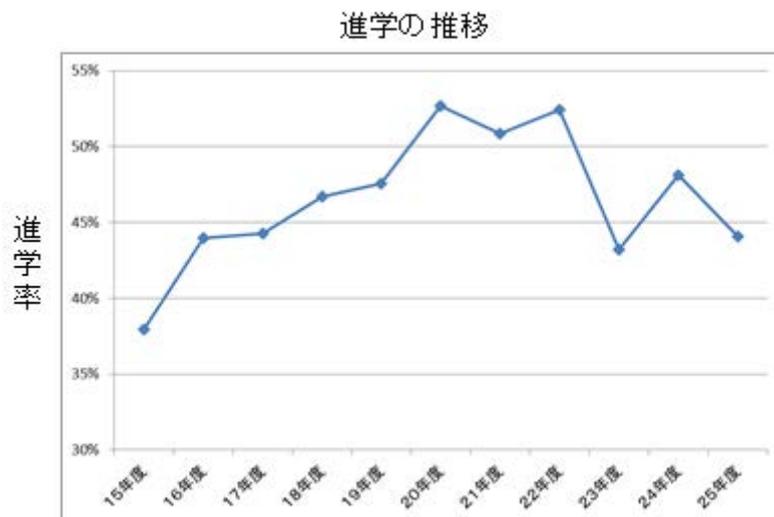
(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-5 : 平成 25 年度卒業者の産業別就職状況



(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-6 : 進学率の推移



(出典：学生課学生係資料)

資料6-1-③-7：過去4年間の専攻科修了生の就職先一覧

過去4年間の専攻科就職先一覧

企業名	平成25年度						平成24年度						平成23年度						平成22年度				
	SM	SE	SD	SG	SA	計	SM	SE	SD	SG	SA	計	SM	SE	SD	SG	SA	計	SS	SC	SA	計	
IH運搬機械株式会社	1					1						0							0				0
有限会社アリエ慶野正司一級建築事務所																						1	1
旭化成株式会社				1		1		1		1		2							0				0
朝日分光株式会社																				1			1
株式会社足利銀行					1	1						0							0				0
アドバンスソフト開発株式会社						0						0			1				1				0
株式会社アドバンテストシステムズ						0		1				1							0				0
有富設計株式会社						0						0		1					1				0
株式会社イーアンドエム						0						0		1					1				0
岩村建設株式会社						0						0							1	1			0
NECネットワークプロダクツ株式会社						0						0		1					1				0
株式会社NTTファシリティーズ						0						0			1				1	2	1		2
株式会社小野測器						0	1					1		1					1				0
小山高専					1	1						0							0				0
キヤノンファインテック株式会社						0						0	1						1				0
鹿沼市役所																				1			1
グリーンアジア株式会社						0						0		1					1				0
株式会社ケアリックアンドパートナーズ						0					1	1							0				0
財団法人建材試験センター						0						0							1	1			0
株式会社小松製作所						0	1					1							0	1			1
株式会社ザイマックス					1	1						0							0				0
株式会社ザイマックスビルマネジメント																						1	1
三桜工業株式会社				1		1						0	1						1				0
株式会社サントイブ																					1		1
JSR株式会社		1				1						0							0				0
株式会社資生堂						0				1	1								0				0
清水建設株式会社						0				1	1							1	1				0
ジャスコエンジニアリング株式会社						0						0				1			1				0
株式会社シンデン						0						0		1					1				0
株式会社SEED																				1			1
株式会社スミハツ						0						0	1						1				0
西武鉄道株式会社																				1			1
大日精化工業株式会社				1		1						0							0				0
太陽日酸株式会社						0						0				1			1				0
株式会社高岳製作所		1				1					1	1							0				0
高砂エンジニアリングサービス株式会社						0						0	1						1				0
中外製薬工業株式会社																						1	1
TDK株式会社																					1		1
DIC株式会社						0				1	1								0				0
東京鋼鉄株式会社				1		1						0							0	1			1
東京不動産管理株式会社																						1	1
東電不動産株式会社																						1	1
戸田建設株式会社						0						0							1	1			0
栃木市役所						0						0							1	1			0
株式会社ナカニシ	1					1						0	2						2	1			1
日本バイリーン株式会社						0						0				1			1				0
日本ビストリング株式会社																				1			1
株式会社ハウステック	1					1					1	1							1	1			0
東日本旅客鉄道株式会社						0						0			1				1			1	1
日立化成株式会社				1		1						0							0				0
株式会社フケタ設計						0						0							1	1			0
プリンスプラントエンジニアリング株式会社						0						0	1						1				0
株式会社フルヤ金属						0						0				1			1		1		1
ボラス株式会社						1	1					1	1						0				0
三菱電機プラントエンジニアリング株式会社																				1			1
三福工業株式会社						0						0				1			1				0
株式会社むぎくら						0						1	1						0				0
村瀬石灰工業株式会社					1	1						0							0				0
Meiji Seika ファルマ株式会社						1	1					0							0				0
株式会社明電舎	1					1						0							0	1			1
森永乳業株式会社						0						0				1			1				0
株式会社山田製作所																				1			1
株式会社ワールドコーポレーション						1	1					0							0				0
計	4	2	1	6	5	18	2	2	0	3	4	11	7	6	3	6	8	30	11	5	6	22	

(出典：学生課学生係資料)

資料6-1-③-8：専攻科進学および大学編入学者状況一覧（7年間）

専攻科進学及び大学編入学状況一覧(年度別)

2014/3/31

大学等名	H19年度 2007	H20年度 2008	H21年度 2009	H22年度 2010	H23年度 2011	H24年度 2012	H25年度 2013
高専 小山高等専攻科	26 (20)	29 (20)	37 (17)	22 (11)	24 (13)	24 (16)	28 (15)
計	26 (20)	29 (20)	37 (17)	22 (11)	24 (13)	24 (16)	28 (15)
国立							
北海道大学		1 (1)	1				1
室蘭工業大学		1	1	1			1
弘前大学		1					
岩手大学	1				2 (1)		
東北大学		1		1			3
秋田大学			1	2			
山形大学				1			
茨城大学	5 (1)	2	1 (1)	5 (1)	1	4	2 (2)
宇都宮大学	4 (1)	10 (3)	4 (2)	5 (4)	7 (4)	7 (4)	3
群馬大学	3	9 (1)	6 (2)	4 (2)	4 (1)	5 (1)	3 (1)
千葉大学	7	5 (1)	2 (2)	3 (2)	4 (2)	4 (4)	5 (5)
横浜国立大学	1						
山梨大学		1	1	3 (1)	1		1
信州大学	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)			3 (1)
新潟大学		1	2 (2)	1	1 (1)	1 (1)	2 (1)
筑波大学	3	6	1	4	5	2	3
長岡技術科学大学	16 (11)	8 (4)	13 (4)	19 (9)	11 (4)	22 (8)	18 (5)
お茶の水女子大学						1	
電気通信大学	1 (1)	1 (1)	1 (1)	1 (1)			
東京大学		1					
東京工業大学				2 (2)	1 (1)		2 (1)
東京農工大学	3 (3)	7 (3)	8 (6)	5 (5)	5 (2)	7 (2)	9 (6)
東京海洋大学							1
富山大学	1						
福井大学		1	2				1
岐阜大学	1 (1)						1
三重大学				1		1 (1)	
豊橋技術科学大学	9 (9)	6 (6)	6 (4)	6 (6)	9 (8)	7 (5)	6 (3)
京都工藝繊維大学				1	1	1	1
大阪大学		1					
神戸大学				1			
奈良女子大学		1	1 (1)				
和歌山大学						1	
岡山大学		1			1		
愛媛大学	1						
九州大学						1	
鹿児島大学							1
計	57 (28)	66 (21)	52 (26)	67 (34)	53 (24)	64 (26)	67 (25)
公立							
前橋工科大学	1						
首都大学東京	1	1 (1)		2 (1)	1 (1)		
計	2 (0)	1 (1)	0 (0)	2 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
私立							
神奈川大学					1		
流通経済大学				1			
慶應義塾大学		1					
工学院大学	1				1 (1)	1 (1)	3 (1)
駒澤大学							1
中央大学							1
東海大学		1					
東京電機大学	1 (1)		1 (1)	1			
東京理科大学			1	2 (1)	1 (1)		
日本大学				2	1	1 (1)	1
明治大学					1		
愛知工科大学	1						
計	3 (1)	2 (0)	2 (1)	6 (1)	5 (2)	2 (2)	6 (1)
合計	88 (49)	98 (42)	91 (44)	97 (47)	83 (40)	90 (44)	101 (41)

()内は推薦で内数

(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-8 (続き) : 大学院進学者状況一覧 (7年間)

大学院進学者状況一覧(年度別)

2014/3/31

大学等名	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度
岩手大学				1			
東北大学							1 (1)
宇都宮大学	4 (4)	4 (4)		1	2 (2)		1 (1)
筑波大学	4 (4)	2	3	3	2 (2)	3 (3)	2 (1)
長岡技術科学大学			1 (1)				
電気通信大学				1			
東京工業大学			1		1 (1)		1
東京農工大学			1				
豊橋技術科学大学	1 (1)				1 (1)	1	
北陸先端科学技術大学院大学			1	1			1 (1)
九州工業大学							1 (1)
計	9 (9)	6 (4)	7 (1)	7 (0)	6 (6)	4 (3)	7 (5)
他				1			
職業能力開発総合大学校				1			
計	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
合計	9 (9)	6 (4)	7 (1)	8 (0)	6 (6)	4 (3)	7 (5)

()内は推薦で内数

(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-9 : 宇都宮大学大学院工学研究科との推薦入学に関する協定

宇都宮大学大学院工学研究科と小山工業高等専門学校
との推薦入学に関する協定書

宇都宮大学大学院工学研究科と小山工業高等専門学校は、小山工業高等専門学校が推薦する優秀な学生に対して、宇都宮大学大学院工学研究科において学術の理論及び応用を教育研究する機会を提供するため、本協定を締結する。

(学生の推薦)

第1条 小山工業高等専門学校は、優秀な研究者及び技術者を育成するため、人物及び学力ともに優秀と認める学生を宇都宮大学大学院工学研究科に推薦する。

2. 小山工業高等専門学校が推薦する学生は、出願時点で小山工業高等専門学校専攻科に在学する学生若干名とする。

(学生の受入)

第2条 宇都宮大学大学院工学研究科は、小山工業高等専門学校からの推薦を、相互信頼の精神を持って尊重する。

(有効期間)

第3条 本協定の有効期間は、調印の日から6年間とする。ただし、宇都宮大学大学院工学研究科又は小山工業高等専門学校のいずれかより有効期間満了の6ヶ月前までに書面によって中止の申し出がない場合は、1年間延長するものとし、以後同様とする。

(協議)

第4条 本協定に定めるもののほか、必要事項については、宇都宮大学大学院工学研究科及び小山工業高等専門学校の協議により定める。

(随時協議)

第5条 本協定に定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、宇都宮大学大学院工学研究科及び小山工業高等専門学校間で随時協議するものとする。

(実施時期)

第6条 本協定は、平成21年4月入学者から実施する。

(協定書の保有)

第7条 本協定書は2通作成し、両者がそれぞれ1通保有するものとする。

平成20年2月28日

国立大学法人宇都宮大学
大学院工学研究科長



独立行政法人国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校長



(出典：総務課総務係資料)

資料 6-1-④-1 : 教育に関するアンケート (様式 1)

平成 25 年度小山高専の教育に関するアンケート (在校生対象)

このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

記入上の注意 :
 ①HB 程度の鉛筆でご記入ください。なお、修正する場合は消しゴムで消してください。
 ②該当する項目の回答欄に“✓”を記入してください。 記入例:

分類 1 : M科 医科 E科 D科 C科 2科 SM SE SD SC SA

分類 2 : 1年生 2年生 3年生 4年生 5年生 専攻科1年 専攻科2年

以下の質問に答えてください(裏面にも質問があります)。

全くその通りではない
 全くその通りである
 かなりそうである
 普通
 あまりそうではない
 あまりそうではない

I. 教育目標

IV. 学修達成度

小山高専に半んで次の能力等が身についたと思えますか。

7. 「豊かな人間性」が身についた。 → 5 4 3 2 1

8. 「豊かな感性」が身についた。 → 5 4 3 2 1

9. 「創造力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

10. 「自然科学系(数学・物理など)の学力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

11. 「芸術」の学力が身についた。 → 5 4 3 2 1

12. 「専門基礎科目」の学力が身についた。 → 5 4 3 2 1

※裏面にも質問があります。

13. 「専門知識」が身についた。 → 5 4 3 2 1

14. 「問題解決能力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

15. 「情報技術力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

16. 「コミュニケーション能力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

17. 「国際感覚」が身についた。 → 5 4 3 2 1

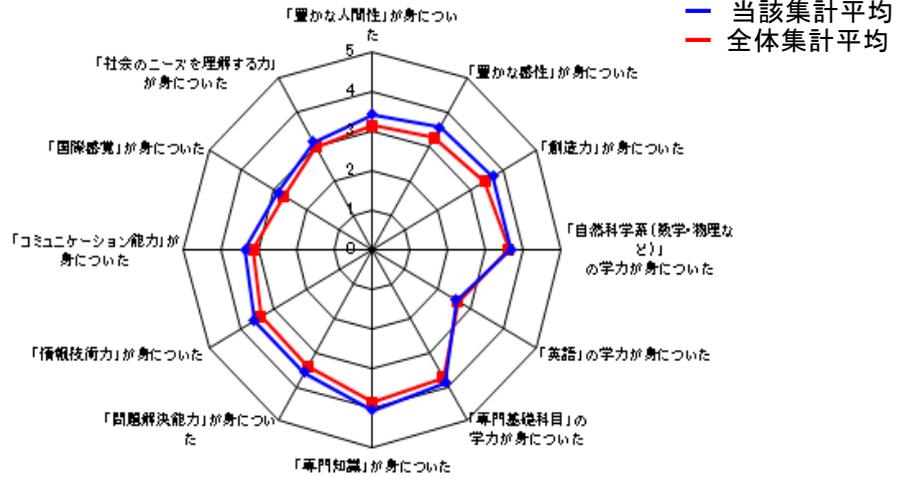
18. 「社会のニーズを理解する力」が身についた。 → 5 4 3 2 1

アンケートへのご協力ありがとうございました。

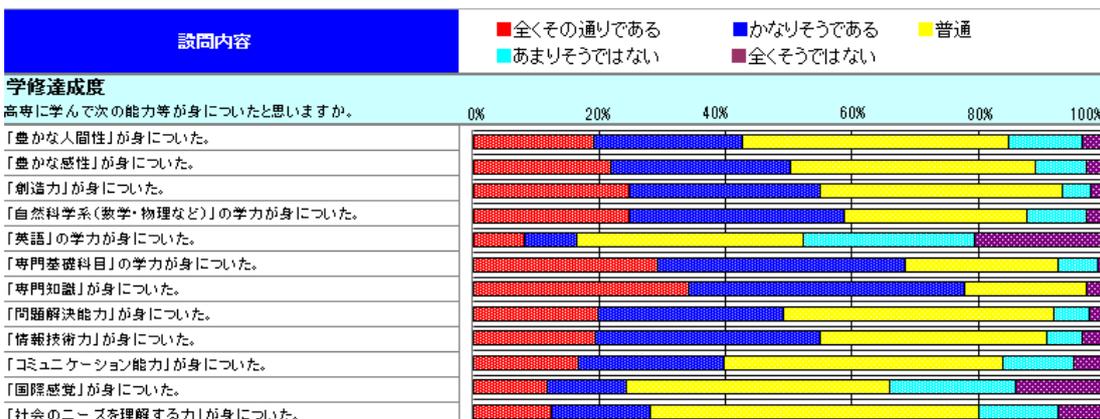
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (在校生版))

資料 6-1-④-2 : 教育に関するアンケート集計結果 (準学士課程 5 年生)

IV. 学習達成度



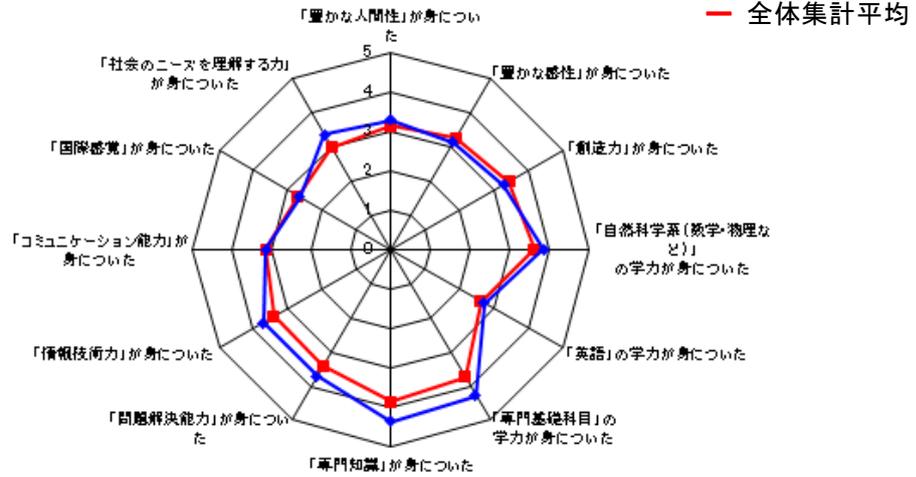
設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
IV. 学修達成度									
小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。									
7 「豊かな人間性」が身についた。	31	38	68	19	6	0	162	3.43	3.14
8 「豊かな感性」が身についた。	35	46	62	13	5	1	162	3.58	3.26
9 「創造力」が身についた。	40	49	62	7	4	0	162	3.70	3.44
10 「自然科学系(数学・物理など)」の学力が身についた。	40	55	47	15	5	0	162	3.68	3.61
11 「英語」の学力が身についた。	13	13	57	43	33	3	162	2.56	2.62
12 「専門基礎科目」の学力が身についた。	47	63	39	10	2	1	162	3.89	3.75
13 「専門知識」が身についた。	55	70	31	0	5	1	162	4.06	3.87
14 「問題解決能力」が身についた。	32	47	69	9	4	1	162	3.58	3.42
15 「情報技術力」が身についた。	31	57	57	9	6	2	162	3.61	3.40
16 「コミュニケーション能力」が身についた。	27	37	71	18	8	1	162	3.35	3.14
17 「国際感覚」が身についた。	19	20	67	32	23	1	162	2.88	2.70
18 「社会のニーズを理解する力」が身についた。	20	25	83	20	12	2	162	3.13	2.99



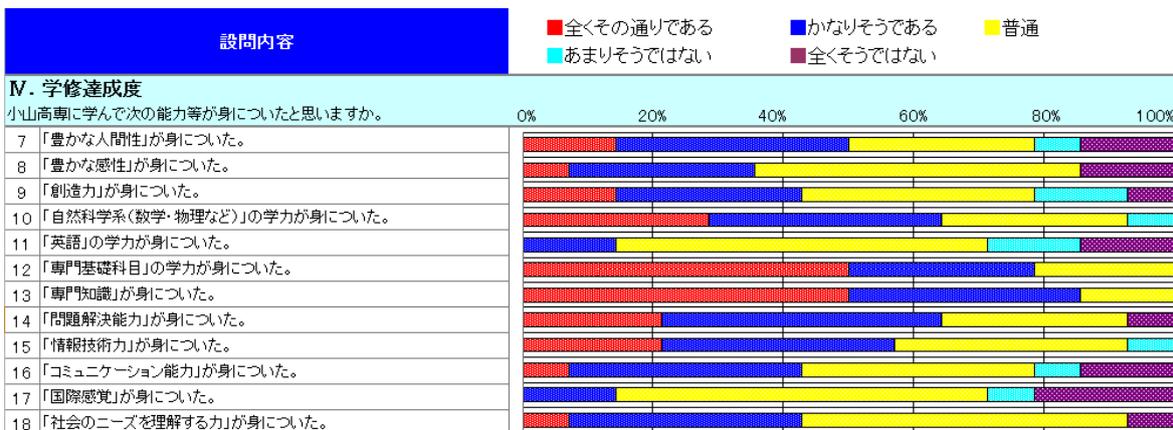
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (在校生版))

資料 6-1-④-3 : 教育に関するアンケート集計結果 (専攻科課程 2 年生)

IV. 学習達成度



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
IV. 学修達成度									
小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。									
7 「豊かな人間性」が身についた。	2	5	4	1	2	0	14	3.29	3.14
8 「豊かな感性」が身についた。	1	4	7	0	2	0	14	3.14	3.26
9 「創造力」が身についた。	2	4	5	2	1	0	14	3.29	3.44
10 「自然科学系(数学・物理など)」の学力が身についた。	4	5	4	1	0	0	14	3.86	3.61
11 「英語」の学力が身についた。	0	2	8	2	2	0	14	2.71	2.62
12 「専門基礎科目」の学力が身についた。	7	4	3	0	0	0	14	4.29	3.75
13 「専門知識」が身についた。	7	5	2	0	0	0	14	4.36	3.87
14 「問題解決能力」が身についた。	3	6	4	0	1	0	14	3.71	3.42
15 「情報技術力」が身についた。	3	5	5	1	0	0	14	3.71	3.40
16 「コミュニケーション能力」が身についた。	1	5	5	1	2	0	14	3.14	3.14
17 「国際感覚」が身についた。	0	2	8	1	3	0	14	2.64	2.70
18 「社会のニーズを理解する力」が身についた。	1	5	7	0	1	0	14	3.36	2.99



(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (在校生版))

資料 6-1-⑤-1：教育に関するアンケート（様式 2：卒業生対象）

平成 25 年度小山高専の教育に関するアンケート（卒業生対象）

このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

記入上の注意：

①HB 程度の鉛筆でご記入ください。なお、修正する場合は消しゴムで消してください。

②該当する項目の回答欄に“✓”を記入してください。 記入例

分類： 専 専 専 専 専 SM SE SD SC SA

以下の質問に答えてください

I. 教育目標

小山高専の教育目標を知っていますか。

- | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 1. 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 2. 「健やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 3. 以下の目標をよく知っている。—————> | <input type="checkbox"/> |
| ①豊かな人間性の涵養 ②豊かな感性と創造力の育成 ③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 ④高度な専門知識と問題解決能力の育成 ⑤情報技術力の向上 ⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成 | | | | | |

II. 入学者受入方針

小山高専の入学者受入方針（アドミッションポリシー）を知っていますか。

- | | | | | | |
|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4. 学科（専攻士課程）の入学者受入方針の次のキーワードよく知っている。—————> | <input type="checkbox"/> |
| ①科学技術への興味と基礎的学力 ②モノづくりや実験への積極性 ③課外活動と協働性 | | | | | |
| 5. 専攻科の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。—————> | <input type="checkbox"/> |
| ①専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲 ②モノづくりへの関心と意欲 ③日本語の表現力と英語の基礎学力 | | | | | |

III. 学修達成度

小山高専に学んで次の能力等が身に付いたと思いますか。

- | | | | | | |
|------------------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6. 「豊かな人間性」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 7. 「豊かな感性」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 8. 「創造力」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 9. 「自然科学系（数学・物理など）の学力が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 10. 「英語」の学力が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 11. 「専門基礎科目」の学力が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 12. 「専門知識」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 13. 「問題解決能力」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 14. 「情報技術力」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 15. 「コミュニケーション能力」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 16. 「国際感覚」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |
| 17. 「社会のニーズを理解する力」が身に付いた。—————> | <input type="checkbox"/> |

アンケートへのご協力ありがとうございました。

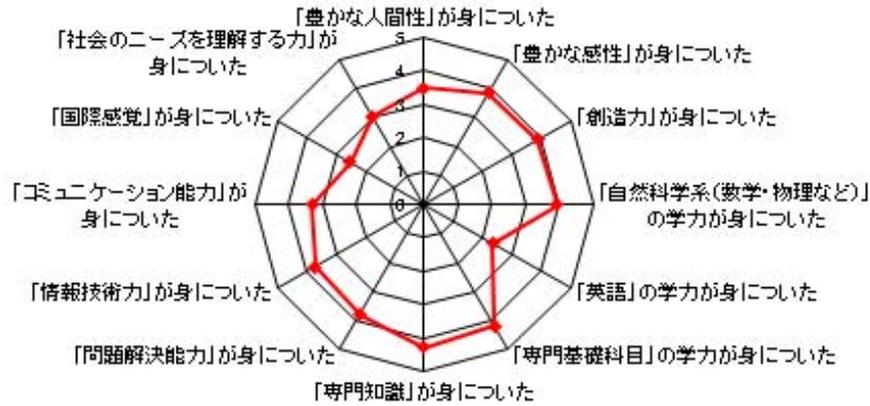
（出典：平成 25 年度教育に関するアンケート（卒業生版））

資料 6-1-⑤-2 : 教育に関するアンケート集計結果 (様式 2 : 卒業生対象)

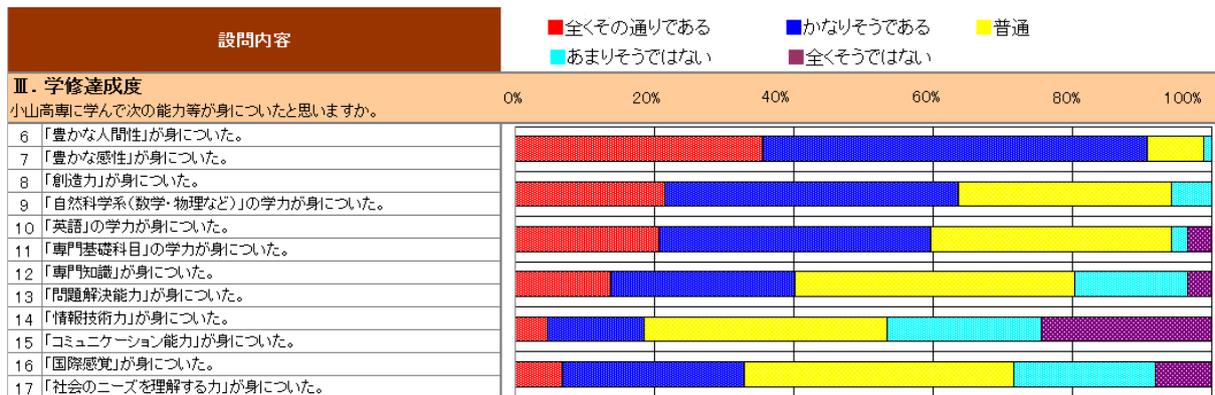
Ⅲ. 学習達成度

アンケート回答数

88



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	全体平均
Ⅲ. 学修達成度								
小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。								
6 「豊かな人間性」が身についた。	10	39	26	10	3	0	88	3.49
7 「豊かな感性」が身についた。	20	40	21	6	0	1	88	3.85
8 「創造力」が身についた。	27	32	20	9	0	0	88	3.88
9 「自然科学系(数学・物理など)の学力が身についた。	28	36	15	5	3	1	88	3.93
10 「英語」の学力が身についた。	4	10	22	26	25	1	88	2.33
11 「専門基礎科目」の学力が身についた。	34	37	13	3	0	1	88	4.17
12 「専門知識」が身についた。	31	48	7	1	0	1	88	4.25
13 「問題解決能力」が身についた。	19	37	27	5	0	0	88	3.80
14 「情報技術力」が身についた。	18	34	30	2	3	1	88	3.71
15 「コミュニケーション能力」が身についた。	12	23	35	14	3	1	88	3.31
16 「国際感覚」が身についた。	4	12	30	19	21	2	88	2.52
17 「社会のニーズを理解する力」が身についた。	6	23	34	18	7	0	88	3.03



(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (平成 23, 24 年度卒業生版))

資料 6-1-⑤-3 : 教育に関するアンケート (様式 3 : 卒業生に対する企業、大学の調査)

平成 25 年度小山高専の教育に関するアンケート (企業、大学・大学院対象)

このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

記入上の注意:

①HB 程度の鉛筆でご記入ください。なお、修正する場合は消しゴムで消してください。

②該当する項目の回答欄に“✓”を記入してください。 記入例

調査対象となる機関: 企業 大学・大学院
 対象となる卒業生(在校生): 準学士課程(学科)卒業生(在校生) 専攻科課程修了生(在校生)

以下の質問に答えてください

I. 小山高専卒業生の資質・能力 (調査対象: 就職先企業、進学先大学等)

入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。

- | | 5
とても
高い | 4
かなり
高い | 3
普通 | 2
はな
り低い | 1
全く
ない |
|------------------------------------|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 1. 感性や創造力が豊かである。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 2. 自然科学系の学力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 3. 英語の能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 4. 専門領域における基礎的能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 5. 専門領域における問題解決能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 6. 情報技術力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 7. コミュニケーション能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 8. 国際感覚が豊かである。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 9. 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 10. 御社・貴学が期待する学生の資質・能力についてご記入ください。 | <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div> | | | | |

II. インターンシップ受入学生の資質・能力 (調査対象: インターンシップ受入企業)

インターンシップを受け入れる際に期待する学生の資質・能力についてご質問いたします。

- | | 5
とても
高い | 4
かなり
高い | 3
普通 | 2
はな
り低い | 1
全く
ない |
|---|--|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 11. 感性や創造力が豊かである。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 12. 自然科学系の学力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 13. 英語の能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 14. 専門領域における基礎的能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 15. 専門領域における問題解決能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 16. 情報技術力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 17. コミュニケーション能力が高い。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 18. 国際感覚が豊かである。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 19. 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。→ | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 20. インターンシップの際に期待する学生の資質・能力についてご記入ください。 | <div style="border: 1px solid black; height: 40px;"></div> | | | | |

アンケートへのご協力ありがとうございました。

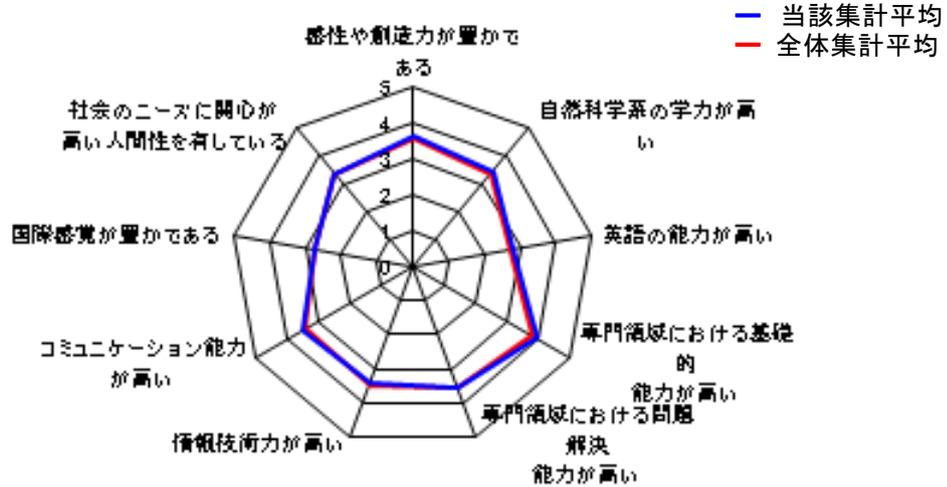
(出典: 平成 25 年度教育に関するアンケート (企業、大学、大学院版))

資料 6-1-⑤-4：教育に関するアンケート集計結果（準学士課程に対する企業側の評価）

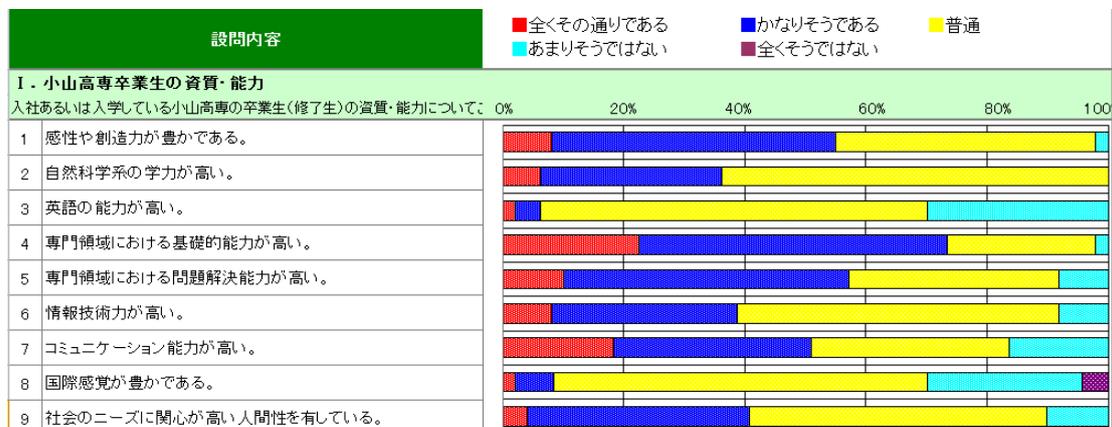
I. 小山高専卒業生の資質・能力

アンケート回答数

51



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	4	23	21	1	0	2	51	3.61	3.56
2 自然科学系の学力が高い。	3	14	30	0	0	4	51	3.43	3.37
3 英語の能力が高い。	1	2	30	14	0	4	51	2.79	2.72
4 専門領域における基礎的能力が高い。	11	25	12	1	0	2	51	3.94	3.80
5 専門領域における問題解決能力が高い。	5	23	17	4	0	2	51	3.59	3.54
6 情報技術力が高い。	4	15	26	4	0	2	51	3.39	3.49
7 コミュニケーション能力が高い。	9	16	16	8	0	2	51	3.53	3.39
8 国際感覚が豊かである。	1	3	29	12	2	4	51	2.77	2.77
9 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	2	18	24	5	0	2	51	3.35	3.39



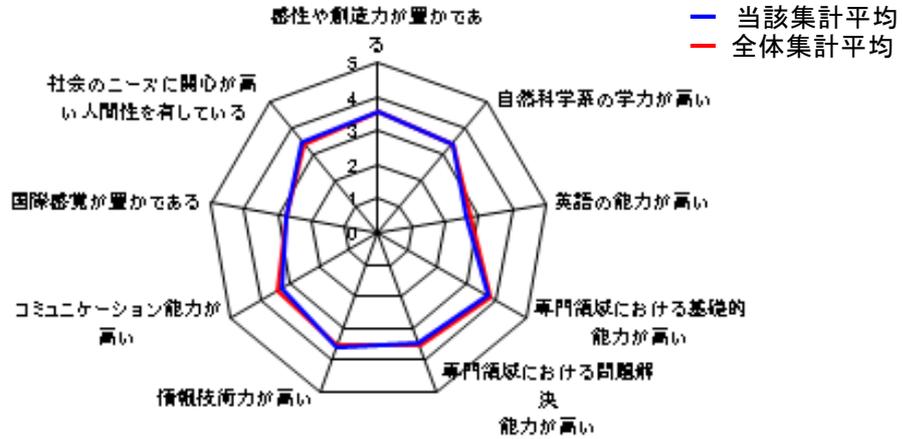
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート（平成 23, 24 年度卒業生版）)

資料 6-1-⑤-5 : 教育に関するアンケート集計結果 (専攻科課程に対する企業側の評価)

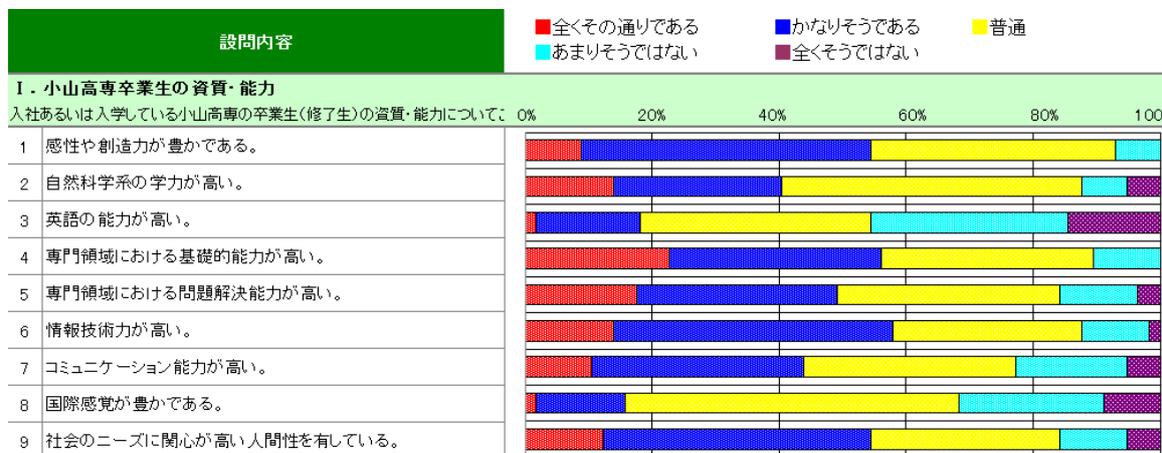
I. 小山高専卒業生の資質・能力

アンケート回答数

57



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	5	26	22	4	0	0	57	3.56	3.56
2 自然科学系の学力が高い。	8	15	27	4	3	0	57	3.37	3.37
3 英語の能力が高い。	1	9	20	17	8	2	57	2.60	2.72
4 専門領域における基礎的能力が高い。	13	19	19	6	0	0	57	3.68	3.80
5 専門領域における問題解決能力が高い。	10	18	20	7	2	0	57	3.47	3.54
6 情報技術力が高い。	8	25	17	6	1	0	57	3.58	3.49
7 コミュニケーション能力が高い。	6	19	19	10	3	0	57	3.26	3.39
8 国際感覚が豊かである。	1	8	30	13	5	0	57	2.77	2.77
9 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	7	24	17	6	3	0	57	3.46	3.39



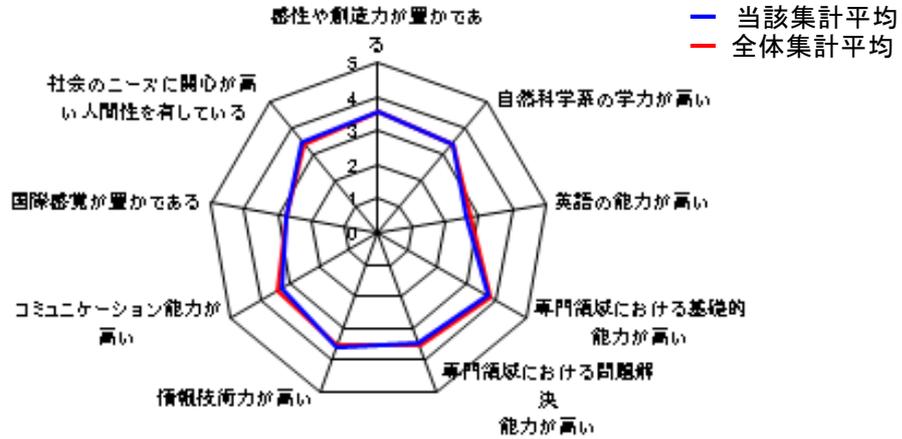
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (平成 23, 24 年度卒業生版))

資料 6-1-⑤-6 : 教育に関するアンケート集計結果 (準学士課程に対する大学側の評価)

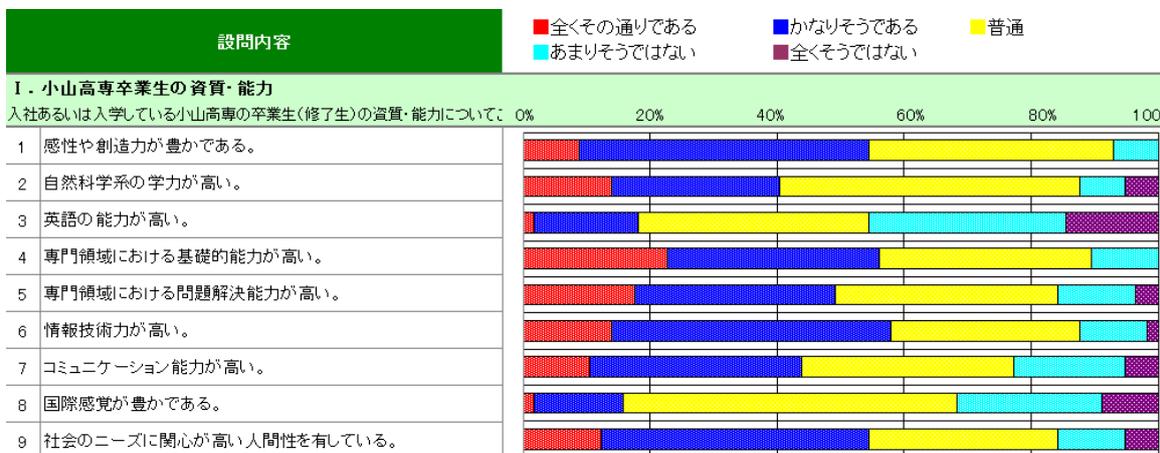
I. 小山高専卒業生の資質・能力

アンケート回答数

57



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	5	26	22	4	0	0	57	3.56	3.56
2 自然科学系の学力が高い。	8	15	27	4	3	0	57	3.37	3.37
3 英語の能力が高い。	1	9	20	17	8	2	57	2.60	2.72
4 専門領域における基礎的能力が高い。	13	19	19	6	0	0	57	3.68	3.80
5 専門領域における問題解決能力が高い。	10	18	20	7	2	0	57	3.47	3.54
6 情報技術力が高い。	8	25	17	6	1	0	57	3.58	3.49
7 コミュニケーション能力が高い。	6	19	19	10	3	0	57	3.26	3.39
8 国際感覚が豊かである。	1	8	30	13	5	0	57	2.77	2.77
9 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	7	24	17	6	3	0	57	3.46	3.39



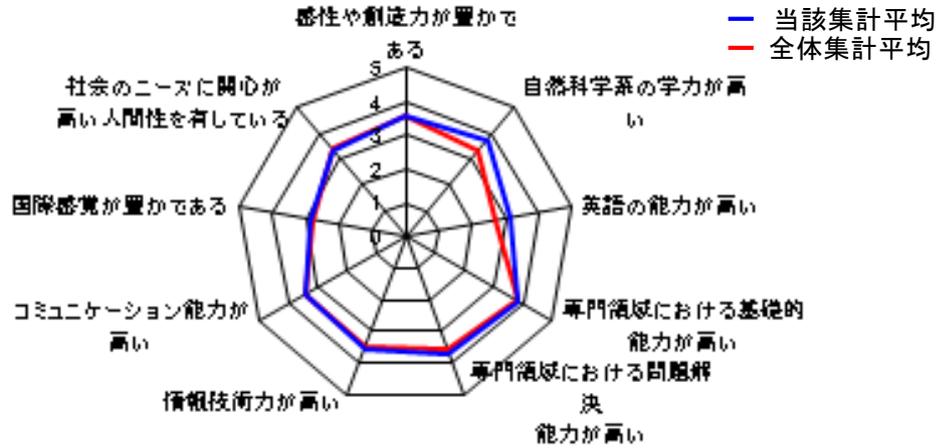
(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (平成 23, 24 年度卒業生版))

資料 6-1-⑤-7：教育に関するアンケート集計結果（専攻科課程に対する大学院側の評価）

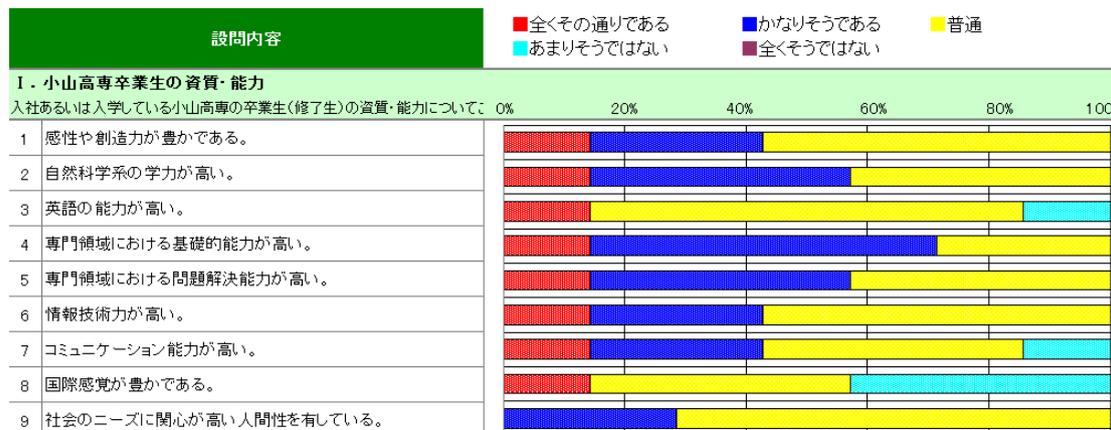
I. 小山高専卒業生の資質・能力

アンケート回答数

7



設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	1	2	4	0	0	0	7	3.57	3.56
2 自然科学系の学力が高い。	1	3	3	0	0	0	7	3.71	3.37
3 英語の能力が高い。	1	0	5	1	0	0	7	3.14	2.72
4 専門領域における基礎的能力が高い。	1	4	2	0	0	0	7	3.86	3.80
5 専門領域における問題解決能力が高い。	1	3	3	0	0	0	7	3.71	3.54
6 情報技術力が高い。	1	2	4	0	0	0	7	3.57	3.49
7 コミュニケーション能力が高い。	1	2	3	1	0	0	7	3.43	3.39
8 国際感覚が豊かである。	1	0	3	3	0	0	7	2.86	2.77
9 社会のニーズに関心が高い人間性を有している。	0	2	5	0	0	0	7	3.29	3.39



(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート（平成 23, 24 年度卒業生版）)

資料7-1-①-1：新入生ガイダンス日程表

平成25年度 新入生学内ガイダンス日程表

月日	4月5日(金)	4月8日(月)	4月9日(火)	4月10日(水)	4月11日(木)	
時間						
8:30		平常授業	平常授業	日帰り研修	健康診断	
8:40	HR「学級担任」 * 学生便覧・筆記具持参 【各HR教室】				(2年,1年,3年,4年,5年,専攻科の順で実施予定)	
9:00	移動					
9:15	一般科学年主任より担任紹介および学科長の話 【視聴覚室】					
9:40	学業について「副校長(教務主事)」 【視聴覚室】					
10:00	学生生活について「副校長(学生主事)」 【視聴覚室】					
10:10	キャンパス安全衛生管理室について(室長) 【視聴覚室】					
10:20	専攻科について「専攻科長」 【視聴覚室】					
10:30	図書情報センターについて「図書情報センター長」 【視聴覚室】					
10:50	学内施設等見学(各HR担任)					(1年生は、健康診断終了後、HR)
11:00	移動(順次) ※計画は学年主任(各クラス別に順番にコースを設定する) 【事務部(学生課)・保健室・図書情報センター・学生支援室・体育施設・合宿所・寮・駐輪場・電物棟屋上太陽光発電設備・ものづくり教育研究センター・情報科学教育研究センター・地域共同開発センター・食堂売店・学生会室・ロボット保管庫等】					
12:20	昼食				昼食	
13:05	合同HR * 筆記用具持参				専門学科ガイダンス「各学科長」	
14:30	1. 心理検査(学生支援室・保健室) 【M.EE視聴覚室】、【C.A専4F多々】 2. 学生支援室について(学生支援室長) 【全員、視聴覚室】 3. 保健室の利用について(看護師) 【全員、視聴覚室】				・学科概要説明 ・専門学科施設見学 【各HR教室及び各専門学科施設】	
14:40	休憩				(休憩)	
15:30	4. 学生会・工慶祭の話 【全員、視聴覚室】 5. 1年生日帰り研修について(学生主事補) 【全員、視聴覚室】				専門学科ガイダンス「各学科」 ・各教職員の話 自己紹介 担当科目 研究分野 担当クラブ 等	
15:40	休憩					
16:10	6. その他(通学届、自転車通学シール等)(学生係) 【全員、視聴覚室】					
	一般科ガイダンス(各HR担任等) 【視聴覚室、各HR教室】 (一般科一任)		日帰り研修前の臨時HR「各HR担任」			

スクールバス 16:10中型、17:15大型+17:15中型、18:00中型、19:10 中型
帰り予定

10:30中型、12:30中型、14:30中型、
17:00大型+17:00中型

(出典：学生課教務係資料)

資料 7-1-①-2 : 日帰り研修実施要項

平成 25 年度 1 年生日帰り研修実施要項

1. 意義と目的： 1 年生ガイダンス行事の一環として実施する。
埼玉県さいたま市の大正製薬(株)や羽生市の藍染ふる里資料館を見学し、先端技術と伝統文化の一端にふれ、見識を持った技術者としての自らの進路について考える機会とする。
また、1 日の研修を通して学生相互の親睦を深め、相互理解を進める場として活用する。
2. 日 時： 平成 25 年 4 月 10 日 (水)
3. 行 き 先： 大正製薬株式会社 大宮工場 (埼玉県さいたま市)
藍染ふる里資料館 (埼玉県羽生市)
4. 参 加 者： 1 年生全員 (留年生も原則参加とする)
5. 引 率 者： 1 年生学級担任 5 名
副校長 (学生主事)： 小林幸夫
学生主事補： 大島・酒入・田中(孝)・鈴木(真)
学生係： 山口 計 11 名
6. 交通手段： 借り上げバス 5 台 (大型)
7. 行 程： *スクールバス学生のみ
7 時 15 分 駅集合用借り上げバスを 2 台配車 (酒入・田中(孝))
7 時 30 分 出発：小山駅東口スクールバス乗り場、出欠確認、高専行き
*全参加学生
7 時 30 分 借り上げバス 3 台配車
7 時 50 分 高専玄関集合
8 時 00 分 高専発
(高速道路パーキング休憩)
10 時 15 分 大正製薬大宮工場 (埼玉県さいたま市) 着
10 時 20 分 説明、工場見学 (体育館履き)
12 時 15 分 大正製薬大宮工場発
13 時 10 分 藍染ふる里資料館着、昼食・藍染実習、集合写真
15 時 20 分 藍染ふる里資料館発
17 時 00 分頃 小山駅経由、高専着・解散
8. その他：参加学生には「1 年生日帰り研修のしおり」を、新入生ガイダンス時に配布
 - ・ 朝の集合時、「スクールバスに乗る」か、「学校集合」かを明確にしておき、学校集合学生は担任により出欠確認すること (バス乗車学生は、担当主事補が確認する)。「当日欠席」や「電車乗り遅れ」、「バス予定だったが急遽、親の車で直接学校に行く」等は、必ず学校に朝、電話すること。
 - ・ 遅刻学生は、基本的において行くが、連絡状態によって配慮することも考える。電車の遅れ等はできるだけ配慮し、時間を検討する。
 - ・ 体育館履きを持参 (レジ袋等下足入れも持参、教員等も上履き持参) する。
 - ・ 38℃以上の発熱者は研修参加不可とする。
 - ・ 留年生も、クラス交流を目的に参加させるよう指導する。
 - ・ お菓子やゲーム機は、原則禁止するよう指導する。

(出典：学生課学生係資料)

資料7-1-①-3：各種ガイダンス（機械工学科の例）

H25年4月11日(木)	M科ガイダンス	学科長がM科新入生に対してM科の教育課程、とくに基礎となる科目およびコース制について概要説明した。また、専任教員の専門分野を簡単に紹介するとともに、放課後の時間の使い方などについてアドバイスした。
H25年4月4日(水)	専攻科入学生に対するガイダンス	専攻科入学生に対し、連絡事項の周知方法、および実務研修、科目履修、特別研究、進路、学位試験など専攻科2年間の主だったイベントについて説明を行った。
H25年4月4日(木)	JABEEプログラム説明	JABEE委員が新4年生に対して本校のJABEEプログラムの概要を説明した。プログラムを終了するためには、4年生以上の教育課程がこれに該当し、学習・教育目標をふまえたうえで4年間で124単位以上の習得、ならびに学位授与機構による審査を受けて学士号を取得する必要がある、そのほかにも付帯条件がついていることを伝えた。
H25年4月4日(木)	専攻科・JABEEに関するガイダンス	専攻科受験およびJABEE教育目標に関しては4年生以降の成績が関係するため、それらに関するガイダンスを行った。
H26年2月25日(水)	新5年生選択科目・卒業研究室選択ガイダンス	新5年生に対して各担当教員より、次年度開講される選択科目のガイダンスと卒業研究の紹介が実施された。卒業研究については、希望調査を行い、約1週間の期間を経て配属調整を行った。

(出典：機械工学科資料)

資料7-1-①-4：専攻科入学者ガイダンス案内

平成25年度 専攻科入学者ガイダンス案内

日時 平成25年 3月 5日(火) 13:10~14:50

入学手続き 13:10~13:40

場所 専攻科棟1階 多目的ホール (配付資料：25年度履修の手引き)

時間	事項
13:10~13:40	入学手続き 入学許可書交付 提出書類回収 入学式について (後援会入会・後援会総会案内)

合同ガイダンス 13:40~14:10

場所 専攻科棟4階 多目的ホール

時間	事項
13:40~14:10	1. 専攻科長挨拶 2. 合同ガイダンス (1) JABEEについて (2) 学業について (3) 学生生活について (4) 年間行事予定について (5) 修了要件について (6) 学位(学士)の取得について ※ガイダンスの内容については、変更になる場合があります。

コース別ガイダンス 14:10~14:50

場所 機械工学コース・・・
電気情報工学コース・・・
電子制御工学コース・・・
物質工学コース・・・
建築学コース・・・

必要に応じて開催する。

時間	事項
14:10~14:50	履修方法並びに手続きについて ・履修計画 ・受講届 ・専攻実験 ・セミナー ・実務研修 ・特別研究 ※ガイダンスの内容については、変更になる場合があります。

※ 入寮希望がない場合、今日のガイダンスはこれで終了となります。

入寮説明会(入寮希望者のみ) 15:00~寮務事務室

入学式(4月4日)終了後、専攻科入学生全員で専攻科棟4階 多目的メディアホールにおいて顔合わせを行います。

(出典：学生課教務係資料)

資料 7-1-①-5 : 学位授与申請説明会案内

専攻科 2 年生 各位

平成 2 5 年度学位授与申請手続き説明会
の開催について

このことについて、下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成 2 5 年 7 月 3 日 (水) 1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 0 0
2. 場 所 多目的ホール (専攻科棟 4 F)
3. 内 容 申請書類等の配布, 申請書類作成上のポイント等
4. 対 象 専攻科 2 年生

学位授与機構への学位申請は個人で申請します。

手続き不備等で申請できなかったなど無いよう説明会には必ず出席して下さい。

なお、どうしても出席できない学生は事前に学生課まで来ること。

平成 2 5 年 6 月

学生課 掲 示

(出典 : 学生課教務係資料)

資料 7-1-①-6 : オフィスアワー (機械工学科の例)



オフィスアワー

機械工学科
平成25年度 後期



メールで質問・相談もできます
(各教員のメールアドレスは本校機械工学科のホームページ参照)

専攻科棟 4 F						
教員名	那須					
曜日	火					
時間帯	17:00~19:00					
機械工学科棟 3 F						
東	教員名	山下	朱			
	曜日	木	木	西		
	時間帯	16:00~18:00	17:00~19:00			
機械工学科棟 2 F						
東	教員名	加藤	鈴木	増淵	川村	山崎
	曜日	火	火	火	月	水
	時間帯	16:00~18:00	16:00~18:00	16:00~18:00	16:40~18:30	12:00~14:00
機械工学科棟 1 F						
東	教員名	田中	藤井	伊澤	北條	
	曜日	木	木	月	火	西
	時間帯	16:00~18:00	16:30~18:30	16:00~18:00	17:00~19:00	

(出典 : 機械工学科資料)

資料7-1-①-7：オフィスアワー相談受付状況一例

学科・コース名： 一般科

相談区分内容	4月					5月					6月					7月					8月					9月										
	本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科								
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	
学習関係	37	3	9	34	16	6	37	16	7	26	19	2	88	16	7	28	19	2	46	20	10	32	15	2	23	5	10	12		2	21	2	6	4		
進路関係	2	2		4	8	5	5		7	7	2	3	4		3	3	2	3	1		3									1	1					
部活動関係	5	9	28	19	7		8	3	7	20	29	18	10	2	14	30	23	13	12	8	28	29	9	9	6	19	24	11		8	5	15	6	5	5	
その他		5	5				13	6	3				10	8	1				2	14	10	1	4		4	11	5	4			3	6	8	4	1	
合計	44	19	42	57	31	6	40	41	33	65	44	4	103	44	45	55	35	4	12	51	43	48	65	28	2	27	22	34	40	11	2	25	14	29	14	6

相談区分内容	10月					11月					12月					1月					2月					3月										
	本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科								
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	
学習関係	63	10		29	5		44	15	5	29			50	14	10	26			48	12	10	18	2		47	20	17	22	2		28	15	18	7		
進路関係	2		2			2	2					3					1	1		3			2						1		4					
部活動関係	15	33	34	10		8	1	13	25	30	17	12	10	29	33	16	7	1	9	19	20	20	6	1	13	25	22	4	1	1	17	13	20	2		
その他	8	5	8	1			6	6	5	1	1	2	7	2	2	2	2	2	8	1	3	1		4	2	2	2		1	3	1	1	6			
合計	65	33	38	71	16	0	47	34	36	66	18	1	50	31	41	64	18	0	7	51	30	30	44	23	0	48	37	44	48	8	0	29	36	32	32	8

学科・コース名： 機械工学科

相談区分内容	4月					5月					6月					7月					8月					9月										
	本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科								
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	
学習関係				6						9	1				5									2	3											
進路関係	3	3	3	3	33	5	3	3	3	3	28	1	3	3	3	3	3	8		1	1	1	1	4	2			1								
部活動関係	3	3	3	3	3		3	3	3	3	3		5	6	5	5	5		5	5	5	5	5		5	5	5	5	5		5	5	5	5	5	
その他				6	2					6	2				5				3	5	5	1					4							2		
合計	6	6	6	6	48	7	6	6	6	6	46	2	5	8	9	8	8	23		6	6	9	6	14	3	5	7	13	5	10		5	5	5	5	7

相談区分内容	10月					11月					12月					1月					2月					3月									
	本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科			本科		専攻科							
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	3年	4年	5年
学習関係			2				2							12			2	10							11						10				
進路関係		5				5											1	1										3	3	3	3	3			
部活動関係	5	5	5	7	8		2	2	2	2		2	2	2	2	2		2	2	2	2	2		2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	
その他				10				3	5					6						12					14	2						3			
合計	5	5	10	9	18		2	2	12	2	7		2	2	2	14	8		2	3	5	12	14		2	2	2	13	16	2	5	5	5	15	8

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-②-1：図書情報センターの施設設備の概要

- ① 図書情報センター専有面積：933㎡（通路・階段含む）
- | | | | |
|----|------------|------|---------|
| 2階 | 第一閲覧室 | 408㎡ | |
| | 第二閲覧室 | 65㎡ | |
| | マルチメディアルーム | 76㎡ | |
| | グループ学習室 | 27㎡ | 2階計576㎡ |
| 1階 | 第一書庫 | 27㎡ | |
| | 第二書庫 | 21㎡ | |
| | 教材資料作成室 | 28㎡ | |
| | 事務室 | 58㎡ | |
| | ブラウジングロビー | 114㎡ | 1階計248㎡ |

- ② 座席数：115席（グループ学習室：11席 マルチメディアルーム：20席
ブラウジングロビー：16席 を含む）

- ③ 図書館システム
平成19年度より長岡技術科学大学・高等専門学校統合図書館システムに参加。
長岡技術科学大学と全国40高専（42サイト）の図書館をネットワークで結び
長岡技術科学大学がセンターとしてサーバを管理し、各高専は、クライアントとして
データを共有することにより、経費の削減化、システムの安定供給及び書誌データの
相互流用により業務の効率化が計られた。
業務用端末：2台、OPAC用端末：2台、プリンタ：1台

- ④ マルチメディアルーム設置機器
平成20年度よりVLDシステムを導入。
マルチメディアルームのパソコン15台を、教材資料作成室に設置したサーバで一括
管理し、OS及びアプリケーションのグレードアップとメンテナンスの効率化を計った。
サーバ：2台 管理用パソコン：1台
パソコン：15台、DVD/LD/CD再生機：1台、DVD：4台、プリンタ：1台

- ⑤ 開館時間
平日 9:00～20:00
土曜日、長期休業期間中の平日、定期試験期間の週の日曜日または休日のうち一日
9:00～17:00
閉館日 日曜日・国民の祝日（振替休日）、年末・年始、長期休業期間中の土曜日、
特別整理期間

⑥ 年間開館日数

平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
260日	258日	270日	269日

- ⑦ 蔵書構成（表内部：ダブルクリックで編集可能）

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
		総記	哲学	歴史	社会 科学	自然 科学	工学	産業	芸術	語学	文学	
学生用	和書	2,725	2,511	5,505	5,896	15,329	21,093	832	3,507	3,434	10,599	71,431
	洋書	141	14	30	45	898	1,053	5	52	972	236	3,446
	小計	2,866	2,525	5,535	5,941	16,227	22,146	837	3,559	4,406	10,835	74,877
教員用	和書	319	640	1,030	638	1,671	3,533	181	333	938	893	10,176
	洋書	12	1	7	4	271	350	1	12	295	52	1,005
	小計	331	641	1,037	642	1,942	3,883	182	345	1,233	945	11,181
合計	和書	3,044	3,151	6,535	6,534	17,000	24,626	1,013	3,840	4,372	11,492	81,607
	洋書	153	15	37	49	1,169	1,403	6	64	1,267	288	4,451
	小計	3,197	3,166	6,572	6,583	18,169	26,029	1,019	3,904	5,639	11,780	86,058
割合(%)		3.7%	3.7%	7.6%	7.6%	21.1%	30.2%	1.2%	4.5%	6.6%	13.7%	100.0%

配架雑誌等
受入雑誌 490誌、所蔵雑誌 72誌、購読新聞 11紙（うち外国語2紙）

- ⑧ マルチメディア資料（平成25年3月現在）

VTR	DVD	LD	CD	CD-ROM
337	508	15	56	54

（出典：図書情報センター資料）

資料7-1-②-2：情報科学教育研究センターの施設・設備の概要

情報処理関連演習室等の概要					
名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
第1演習室	116	49	2.4	情報科学センター	教育用電子計算機システム(*)、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第2演習室(電子計算機実習室)	121	49	2.5	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第3演習室(多目的マルチメディア教室)	79	21	3.8	電物棟2F 【再掲】	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
ネットワーク実習室	106	40	2.7	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、UNIX実験システム、ネットワーク実験システム、動画編集装置、空調設備

(*) 教育用電子計算機システムの構成
 (※) 教育用電子計算機システムの構成
 (1) システム用管理サーバ 1台
 (2) システム用I/Oサーバ(Windows) 6台
 (3) ファイルサーバ 1台
 (4) 認証サーバ 2台
 (5) プリントサーバ 1台
 (6) プリンタ 7台
 (7) システム専用端末 123台

内 訳	第一演習室	49台
	第二演習室	49台
	第三演習室	21台
	システム再構築専用機	4台

(出典：総務課施設係資料)

資料7-1-②-3：図書情報センターの利用状況

	平成23年度				平成24年度				平成25年度			
	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計
1年	1,073	9	9	1,091	1,298	25	23	1,346	580	16	18	614
2年	656	25	2	683	691	53	2	746	662	22	5	689
3年	1,376	84	32	1,492	1,485	31	15	1,531	1,385	85		1,470
4年	1,509	93	2	1,604	1,917	78	8	2,003	1,534	45	4	1,583
5年	2,331	151	1	2,483	1,454	48	2	1,504	1,835	44		1,879
専攻1年	486	13	3	502	658	44	2	704	240	5		245
専攻2年	293	10		303	382	2		384	635	82		717
教職員	700	144		844	852	133	7	992	605	132	10	747
一般	212	28		240	181	27		208	232	43		275
名誉教授・他	89	3		92	88	9	7	104	102	2	7	111
計	8,725	560	49	9,334	9,006	450	66	9,522	7,810	476	44	8,330

(出典：図書情報センター資料)

資料7-1-②-4：情報科学教育研究センターの時間外利用状況

【学年別利用状況】

単位：人

年	月	本科					専攻科		計
		1	2	3	4	5	1S	2S	
2013	12	15	114	228	297	122			776
2013	11	49	144	341	352	80			966
2013	10	57	95	556	357	247			1312
2013	9	248	5	50	47	7			357
2013	8	147	48	14	49	17			275
2013	7	380	293	814	173	177			1837
2013	6	135	216	419	143	161	10		1084
2013	5	324	301	358	154	154		1	1292
2013	4	178	56	414	51	75			774
2013	3	5	15	10	37	18			85
2013	2	75	113	264	229	213			894
2013	1	244	172	153	465	233			1267
計		1,857	1,572	3,621	2,354	1,504	10	1	10,919

【曜日別利用状況】

年	月	曜日						計	
		日	月	火	水	木	金		土
2013	12		88	168	88	253	179		776
2013	11		122	153	99	275	317		966
2013	10		154	323	93	449	293		1312
2013	9		113	20	58	74	92		357
2013	8		42	7	53	78	77	18	275
2013	7		157	534	443	265	438		1837
2013	6		153	286	242	203	200		1084
2013	5		95	166	282	421	328		1292
2013	4		55	247	72	115	285		774
2013	3		19	18	7	24	17		85
2013	2		273	183	108	156	172	2	894
2013	1		143	325	325	371	103		1267
計		0	1,414	2,430	1,870	2,684	2,501	20	10,919

【利用時間状況】

年	月	利用時間							計
		0~0.5h	0.5h~1h	1h~1.5h	1.5h~2h	2h~2.5h	2.5h~3h	3h以上	
2013	12	584	50	35	92	2	6	7	776
2013	11	747	79	60	35	25	11	9	966
2013	10	1026	101	47	84	9	41	4	1312
2013	9	77	42	141	41	35	11	10	357
2013	8	111	85	30	15	18	8	8	275
2013	7	1090	193	240	234	50	15	15	1837
2013	6	692	96	120	120	45	4	7	1084
2013	5	954	103	66	162	3	2	2	1292
2013	4	674	29	57	7	5		2	774
2013	3	33	12	10	5	10	6	9	85
2013	2	290	158	141	123	64	26	92	894
2013	1	1026	90	30	71	25	6	19	1267
計		7,304	1,038	977	989	291	136	184	10,919

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料7-1-②-5：図書情報センター利用案内

※マルチメディアルームとグループ学習室を利用できるのは、原則として本校の学生と教職員のみです。学生は「利用申込書」に学生証を添えてカウンターに提出し、篇を受け取ってください。

※出入口(2カ所)に、「ブックディテクションシステム」が設置されています。館外貸出の手続きが済んでいない資料を持ち出すとアラームが鳴りますのでご注意ください。万一、アラームが鳴った場合には、落ち着いて係員の指示に従ってください。

利用上のマナー

※館内での飲食および飲食物の持ち込みは、一切禁止です。

※ゴミは、自分で持ち帰ってください。

※館内では、静粛にし、携帯電話は使用しないでください。

※閲覧した資料や椅子などは、元の位置に正しく戻してください。

※その他、館内の掲示と係員の指示に従ってください。



一般のご利用

中学生以上の方ならどなたでも入館・閲覧は自由です。

図書を借りる場合は、「利用者カード」が必要になりますので、住所・氏名の確認できるもの(免許証や生徒手帳など)をご持参のうえ、カウンターで発行手続きをお願いします。

§ 貸出冊数・貸出期間

図書	3冊	2週間
雑誌	2冊	2週間

辞典・辞書等禁帯出ラベルの貼ってある資料、JABEEコーナーの図書、雑誌の最新号は貸出が出来ません。

詳細は下記にお問い合わせ下さい。

**図書情報センター
利用案内**

開館時間

平日 9:00~20:00

土曜日・長期休業期間中の平日 9:00~17:00

閉館日

日曜日・国民の祝日(振替休日)
年末・年始
長期休業・臨時休業期間中の土曜日
特別整理期間
臨時の閉館はその都度掲示します。



**小山工業高等専門学校
図書情報センター**

〒323-0806
栃木県小山市大字中久保771番地
TEL 0285-20-2117
FAX 0285-20-2883
URL <http://www.oyama-ct.ac.jp/>
E-mail tosho@oyama-ct.ac.jp

閲覧

開架式書架に分類番号(日本十進分類表)順に配架しています。

書庫にある図書(雑誌)を利用するときは、カウンターの職員に声をかけてください。

貸出

借りたい図書(雑誌)と「利用者カード」を一緒にカウンターの職員に提示してください。

§ 貸出冊数・貸出期間

区分	形態	冊数	期間
通常貸出	図書	3冊	2週間
	雑誌	2冊	2週間
特別貸出	辞典辞書類 (禁帯出のもの)	1冊 (通称記に含む)	16時~ 翌朝9時
卒研貸出	図書	3冊 (通称記の冊)	1ヶ月

・卒研貸出は5年生と専攻科1、2年生対象です。
・JABEEコーナーの図書は一夜貸出のみです。

返却

図書(雑誌)は、期限までにカウンターに返却してください。閉館時は図書情報センター内出入口の「ブックポスト」に入れてください。

返却期限を守りましょう。

利用者カード

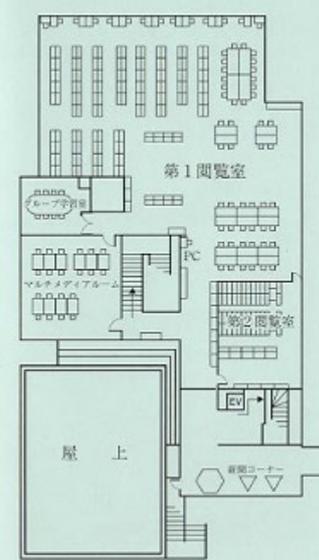
本人以外の利用はできません。
紛失しないよう十分注意してください。

館内案内

1 F



2 F



PC：検採用パソコン
BP：返却用ブックポスト

(出典：図書情報センター資料)

資料7-1-②-6：図書情報センター利用案内（新入生用）

新入生のみなさん

小山高専 図書情報センターへようこそ!!

図書情報センター（通称 図書館）には約80,000冊の図書と雑誌が所蔵されています。
皆さんの学習や憩いの場としてどうぞご利用ください!

開館時間

■月曜日～金曜日 9:00～20:00

■土曜日、長期休業期間中の月曜日～金曜日
試験期間の週の日曜・祭日のうち1日 9:00～17:00

閉館日

日曜日・祝日（振替休日）、本学の定める休業日、年末・年始、長期休業・臨時休業期間中の土曜日
特別整理期間。臨時の閉館はその都度掲示します。

貸出冊数・貸出期間

貸出種別	資料種別	貸出数	貸出期間
通常貸出	図書および製本図書	3冊	2週間
	雑誌	2冊	2週間
特別貸出 一夜貸出	辞典辞書類（禁帯出表示のもの） JABEEコーナーの図書	1冊 (通常貸出に含む)	16時～翌朝9時
特別貸出 卒研貸出 (5年生、専攻科生対象)	図書および製本図書	3冊 (通常貸出の他)	1カ月
館内貸出	視聴覚資料	1枚	当日のみ

※長期休み中は、期間を延長して貸出を行います。

(出典：図書情報センター資料)

資料 7-1-②-7：情報科学教育研究センターの利用について

(13) 情報科学教育研究センター利用規程

(趣 旨)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則第 9 条の規定に基づき、情報科学教育研究センター（以下「センター」という。）の利用に関し、必要な事項を定める。

(利 用 者)

第 2 条 センターを利用できる者（以下「利用者」という。）は、次の各号に掲げる者とする。

- 一 本校の教職員及び名誉教授
- 二 本校の学生
- 三 その他、センター長が適当と認めたる者

(開館時間および開館日)

第 3 条 センターを利用できる時間は、月曜日から金曜日の 8 時 30 分から 17 時までとする。ただし、次の各号に掲げる日は除く。

- 一 国民の祝日に関する法律（昭和 23 年法律第 178 号）に規定する休日
- 二 年末年始（12 月 28 日から翌年の 1 月 4 日まで）
- 三 本校が定める休業日

2 前項までの規定にかかわらず、センター長が特に必要と認めるときは、利用日時を変更できる。

(開館時間外の利用)

第 4 条 前条で規定する時間外（以下「開館時間外」という。）にセンターを利用しようとする者は、あらかじめ別紙様式 1 により、情報科学教育研究センター時間外利用申請書をセンターへ提出しなければならない。

- 2 センターを開館時間外に利用開始するまでに、センター員の指導を受けなければならない。
- 3 センターを開館時間外に利用するときは、原則として利用申請した者以外、機器の操作を行ってはならない。
- 4 センターを開館時間外に利用時、機器に異常動作が認められたときは、開館日センター職員またはセンター員に報告しなければならない。
- 5 センターを開館時間外に利用時、一時退室するときは、センターの施錠をしなければならない。
- 6 センターを開館時間外に利用した後退室するときは、戸締まりを確認し、鍵は警備員室に返却しなければならない。

- 88 -

○情報科学教育研究センターの利用について

情報科学教育研究センターを利用するときは、下記の「情報科学教育研究センター利用上の注意」を守って利用してください。

「情報科学教育研究センター利用上の注意」

まえがき

これは、小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター（以下「センター」という。）を利用するにあたり、守るべき事項をまとめたものである。

1. センターの利用について
 - (1) 施設、設備、備品等を破損しないこと。もし紛失や故障の場合には、速やかにセンター職員に報告すること。
 - (2) センター内は土足禁止とする。
 - (3) 履物は整理整頓すること。
 - (4) 演習室、実習室内へ飲食物を持ち込まないこと。
 - (5) センター内へごみは持ち込まないこと。また、発生したごみは持ち帰ること。
 - (6) 利用後の後始末、整理、整頓を行うこと。
 - (7) LAN 管理室は立ち入り禁止とする。
 - (8) センター利用時間を守ること。
2. 教育用電子計算機システムの利用について
 - (1) 一人で複数の端末を許可無く占有しないこと。
 - (2) システムの稼働に必要なファイルを無断で消したり、書き換えたりしないこと。
 - (3) 端末に振動や衝撃を与えないこと。
 - (4) インストールされているソフトウェアを持ち帰らないこと。
 - (5) 必要以上に印刷を行わないこと。
 - (6) 未使用のプリンタ用紙をセンター外に持ち出さないこと。
 - (7) 不要なプリンタ用紙は、丸めたり折ったりせず、用紙入れに入れること。

- 165 -

3. 情報ネットワークの利用について

本校の一員としての自覚を持ち、正しく利用すること。万一、不正利用が認められた場合には利用許可を取り消すことがある。なお、学内からインターネットを利用した場合のすべてのアクセス記録はサーバに保存され、管理調査等に使用される。

 3. 1 全般的な利用について
 - (1) 他人の講師中傷等、公序良俗に反する書き込みやメールを送信しないこと。
 - (2) 情報発信の際の内容には責任を持ち、詐欺や他人に迷惑をかける行為を行わないこと。
 - (3) 商用目的、営利目的の利用はしないこと。
 - (4) 猥褻、暴力的内容や違法な内容のコンテンツを閲覧しないこと。
 3. 2 電子メールの利用について
 - (1) spamメールやチェーンメール等、迷惑メールを送信しないこと。
 - (2) 送信時、添付ファイルの容量が大きすぎないように注意すること。
 - (3) 匿名のメール、送信元を詐称したメールは送信しないこと。
 3. 3 Webページ等による情報発信について
 - (1) 他人の著作物、著作権保持者に許可無く掲載しないこと。
 - (2) コンピュータウイルス等、他人に害を与えるプログラムを配布しないこと。
 - (3) 他人のWebページに対して、許可無くリンクしないこと。
 3. 4 セキュリティについて
 - (1) 侵入、改竄など、他のコンピュータに対して不正アクセスを行わないこと。
 - (2) コンピュータウイルス等、他人に害を与えるプログラムを持ち込まないこと。
 - (3) ファイル交換用P2Pソフトを用いて、外部情報ネットワークへ接続しないこと。
 - (4) 無線ネットワーク機器等を、許可無く学内情報ネットワークへ接続しないこと。
 - (5) 許可無く他人の個人情報や公開しないこと。

- 166 -

(様式 1)

発行年月日

情報科学教育研究センター時間外利用申請書

情報科学教育研究センター長 殿

下記のとおり、情報科学教育研究センターの時間外利用を申請いたします。

申請年月日	平成 年 月 日
利用期間	平成 年 月 日 時 分～ 時 分
利 用 申 請 者	
所 属 (学科・学年)	
氏 名	
指 導 教 員 (学生の場合)	印
利 用 機 器 (台数)	()
利 用 目 的	

情報科学教育研究センター時間外利用許可書

下記の事項を、責任を持って守ってください。

- (1) 時間外利用を開始する前に、必ずセンター員の指導を受けること。
- (2) 機器の操作は、利用申請したものだけが行うこと。
- (3) 機器利用中に異常動作が認められたときは、直ちに使用を中止して、適切な処理を行うこと。また、翌日センター員に必ず報告すること。
- (4) 利用終了後は定められた手順で、使用した機器の電源を忘れずに切ること。
- (5) 利用途中で一時退室するときは、玄関の施錠をすること。
- (6) 利用終了後退室するときは、必ず戸締まりを確認すること。鍵は警備員室に返却すること。
- (7) 指導教員は、全てにおいて責任を持つこと。

所属・氏名	
利用日時	年 月 日 時 分～ 年 月 日 時 分

・上記の申し込みを許可する。 のため許可しない。

・上記の申し込みは、 情報科学教育研究センター長

- 90 -

(出典：平成 25 年度学生便覧)

資料 7-1-②-9 : ものづくり教育研究センターの利用状況 (1/2)

ものづくり教育研究センターの 利用状況 (2013 年度)

矢島 直樹*¹ 生井 智展*¹ 原田 隆介*¹ 古谷 渉*¹

1. はじめに

平成 26 年 3 月現在、小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センターでは、大がかりな改修工事が行われている。この改修工事は昨年度末に続いて行われておりⅡ期工事に当たる。なお、センターの改修工事としては最終となるⅢ期工事は、空調工事として計画されているが決定していない。改修工事の内容は大きく分けて、①センターの扉・壁・窓の改修、②水回りの改修、③センターへの新規設備導入に伴う配電盤工事、④センターへの新規設備導入に伴う床コンクリート工事である。また、床工事に先立ち現有設備である各工作機械を電源遮断・移動・移動先での養生をする必要があった。そのため、平成 25 年度のものづくりセンターを利用は、平成 25 年 12 月末の臨時休業前までとし、それ以降はセンター改修のための準備期間とすることとした。工事計画は 25 年度当初からあったこともあり、機械工学科の工作実習・機械工学実験のカリキュラムは工事に合わせて担当教員に作成してもらい、年末年度末にセンターの利用が多く見込まれる機械工学科の 5 年生・専攻科生には早めの利用を呼びかけてもらった。ただし、改修工事の決定が平成 25 年 10 月末と遅かったため、機械工学科以外の学内への周知が遅くなってしまうこととなった。その影響がセンターの利用件数に現れたかどうかを見るために、平成 20 年度以降の過去 6 年間の利用件数について、平日 17 時までの時間内利用と平日 17 時以降及び休日・祝日の時間外利用との比較を行った。

2. ものづくり教育研究センターの利用状況

2.1 時間内利用

平成 20 年度から 25 年度までに、センターが時

間内に利用された件数を表 1 およびグラフ 1 に示す。このうち、平成 24 年度の 2 月は 1 日のみ利用でき、3 月は全く利用できなかったためである。同様に平成 25 年度の 12 月は 15 日間利用でき、1 月以降の 3 か月間は全く利用できなかった期間である。平成 25 年度を過去の記録と比べると 11、12 月の利用件数が多く増えており、学内への周知が遅かったためと思われる。

2.2 時間外利用

同じく平成 20 年度から 25 年度までにセンターが時間外に利用された件数を表 2 およびグラフ 2 に示す。時間外利用については、極端に多い月はないものの、期間が 3 ヶ月少ないにもかかわらず合計件数が 6 年間で最大となっている。これは、今年度から本校での高専ロボコンチームの運営がプロジェクト化されたことにより、センターの時間外利用が常態化されてしまっていることによるものである。

3. まとめ

平成 25 年度のものづくり教育研究センターの利用状況を集計し、過去六年間の利用件数と比較を行った。時間内利用では、センターを利用できない期間が 3 ヶ月に及んだこともあり、利用件数が最も少ない結果になった。しかし、今年度は年末に駆け込み利用されていることを除くと、各月で満遍なく利用されている。過去の集計では、極端に少ない月がある年が多いが、今年度はそれがなく最も利用件数の多い月が複数見られた。

それに対し、時間外利用では、1 月当たりの最大件数が複数合っただけでなく、合計件数が過去最大になった。9 ヶ月間で最大件数になった理由は、上記でも述べたがロボコンプロジェクトにより、時間外利用が常態化されてしまっていること

*1 小山工業高等専門学校 教育研究技術支援部 技術室 第 1 グループ

(出典：2013 年度技術室年報)

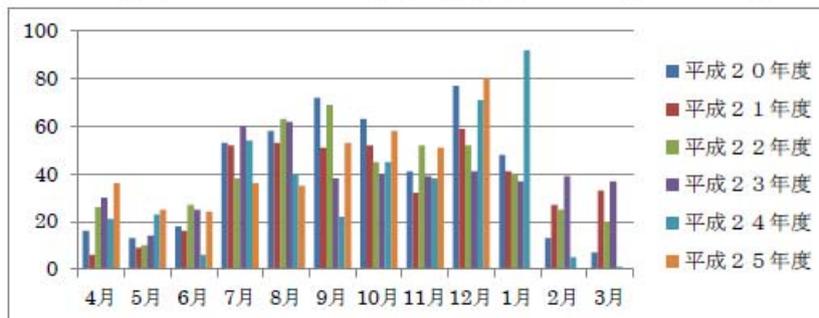
資料7-1-②-9：ものづくり教育研究センターの利用状況（2/2）

によるものである。言うまでもなくセンターの利用は時間内で終わることが望ましいが、現状では、場所・機械・道具等についてセンターを利用しないで作業できない状況にあり、毎日時間外利用届

を提出してもらうことで対応している。簡単には解決策は見いだせないが、現状を各部署に訴えていきたい。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成20年度	16	13	18	53	58	72	63	41	77	48	13	7	479
平成21年度	6	9	16	52	53	51	52	32	59	41	27	33	431
平成22年度	26	10	27	38	63	69	45	52	52	40	25	20	467
平成23年度	30	14	25	60	62	38	40	39	41	37	39	37	462
平成24年度	21	23	6	54	40	22	45	38	71	92	5	0	417
平成25年度	36	25	24	36	35	53	58	51	80	0	0	0	398

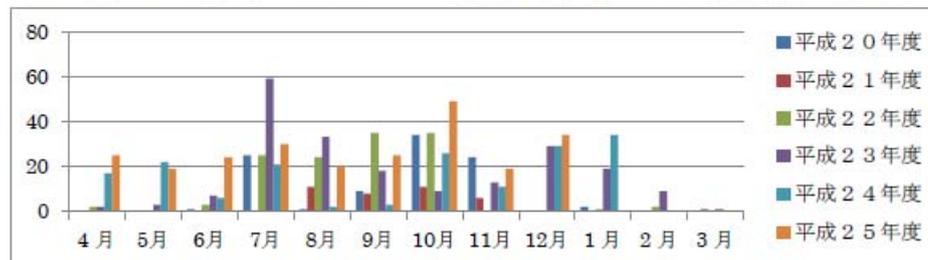
表1 平成20～25年度ものづくりセンター時間内利用件数（平日8時30分～17時00分）



グラフ1 平成20～25年度ものづくりセンター時間内利用件数（平日8時30分～17時00分）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
平成20年度	0	0	1	25	1	9	34	24	0	2	0	0	96
平成21年度	0	0	0	0	11	8	11	6	0	0	0	1	37
平成22年度	2	0	3	25	24	35	35	0	0	1	2	0	127
平成23年度	2	3	7	59	33	18	9	13	29	19	9	1	202
平成24年度	17	22	6	21	2	3	26	11	29	34	0	0	171
平成25年度	25	19	24	30	20	25	49	19	34	0	0	0	245

表2 平成20～25年度ものづくりセンター時間外利用件数（平日17時00分以降及び休日・祝日）



グラフ2 平成20～25年度ものづくりセンター時間外利用件数（平日17時00分以降及び休日・祝日）

（出典：2013年度技術室年報）

資料 7-1-②-10：ものづくり教育研究センター利用講習会（1 / 2）

ロボコンプロジェクト参加学生への事前指導

古谷 渉^{*1}，矢島 直樹^{*1}，生井 智展^{*1}，原田 隆介^{*1}

1. はじめに

小山高専ものづくりセンターでは、学生のロボコン活動における安全性を高めるために、毎年、学生に対し機械工作講習会を開催している。さらに、本年度から技術室「安全衛生プロジェクト」の一環として、初めて KYT 講習会を実施した。

ここに、本年度の両講習会について紹介する。

※技術室「安全衛生プロジェクト」とは…

技術室では、技術室の各現場における安全衛生の向上、事故を起こさない・起こさせない技術職員の人材づくり、事故を起こさない学生を育てることを目的に、2013 年度より「安全衛生プロジェクト」を立ち上げた。

これまでの主な活動として、安全に関する研究会等への参加、非常時対処・注意喚起掲示物の設置、機械点検表の作成、ヒヤリハット事例の掲示などに取り組んでいる。

2. 機械工作講習会の概要

2.1 日時

1 回目（A チーム）：平成 25 年 6 月 21 日（金）
2 回目（B チーム）：平成 25 年 6 月 26 日（水）
時間は 2 回とも 16:00～19:00 の 3 時間。

2.2 場所

小山高専 ものづくり教育研究センター

2.3 受講対象者

ロボコンプロジェクトに参加の 1 年生（15 名）

2.4 担当講師

技術室第 1 グループ 矢島、生井、原田、古谷

2.5 実施内容

本校では、ロボコンプロジェクト内に A と B の 2 チームを設けている。それに伴い、機械工作講習会も 1 日あたり 1 チーム実施の合計 2 日をかけて行うことにした。講習は、1 チームを 3 班に分け、材料切り出し・穴あけねじ切り・やすりがけを体験させた。学生は 1 時間ごとに作業ショップを移動し、3 時間をかけて全員がすべての作業を体験できるようにした。

製作品と加工手順は、図 1①～③の通りである。

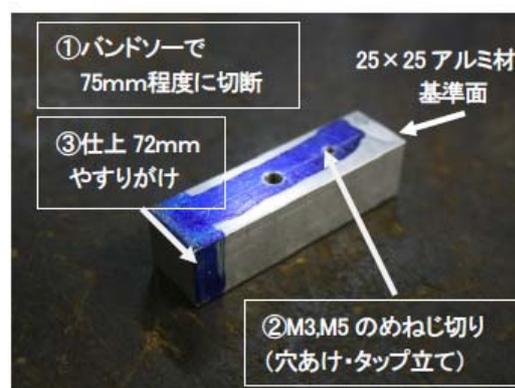


図 1 製作品と加工手順

3. KYT 講習会の概要

3.1 日時

平成 25 年 7 月 10 日（水）16:00～17:00

3.2 場所

小山高専 専攻科棟多目的ホール

3.3 受講対象者

ロボコンプロジェクト参加の全学生
（およそ 50 名。当日参加はこのうち 40 名程度）

（出典：2013 年度技術室年報）

資料7-1-②-10：ものづくり教育研究センター利用講習会（2／2）

平成25年度ものづくり教育研究センター学生講習会実施内容

- ・ロボコン参加学生向け「機械工作講習会」を開講

実施日：平成25年6月21日（金）、26日（水）

内容：小山高専ロボコンプロジェクトに参加する1年生を対象に、機械加工・手作業の講習会を実施しました。講習では、鋸盤を用いて材料の切り出し方や、ボール盤での穴あけ、ねじ切り作業についての指導を行いました。

場所：ものづくり教育研究センター

参加人数：二日合わせて15名

指導者：矢島、生井、原田、古谷

（出典：ものづくり教育研究センター資料）

資料7-1-②-11：コミュニケーションスペース及び厚生施設

ホームルーム教室



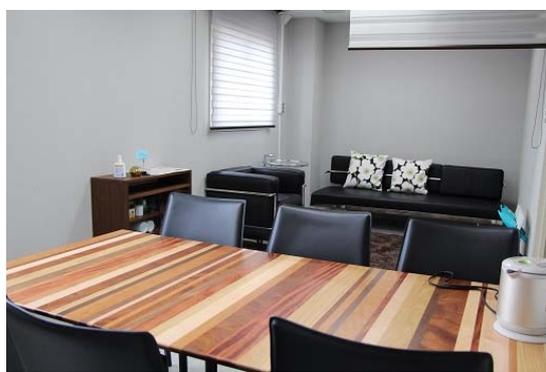
学生コーナー



ブラウジングロビー



WLB（ワークライフバランス）室



（出典：学生科学生係資料）

資料 7-1-③-1 : ホームルーム実施記録抜粋

平成 25 年度 授業実施記録 (後期)

総授業回数
または時間
15 回
158時間

単位種別 (※) : 履修単位

単位数 : 1

クラス : 1A 科目 : H・R

担当教員 : 上野 哲

	月/日	授業内容	授業形態 (※※)	備 考
1	10/2	第16回: 前期個人成績表を配布し勉強の仕方について説明。その後機構依頼のメンタルアンケート実施。	E: その他	
2	10/9	第17回: 工陵祭クラス企画模擬店(じゃがバター)の準備内容や各役割担当者について話し合いを始めた。	E: その他	
3	10/23	第18回: 後期球技大会の出場希望者、及び工陵祭の役割分担の詳細について、話し合いで決めた。	E: その他	
4	10/30	第19回: 工陵祭のクラス企画について、買い出しや料理、テント借り出しなどの準備に関する反省会をした。	E: その他	
5	11/6	第20回: 工陵祭の反省会をし、その後、1A独自の工陵祭反省アンケートを配布、実施した	E: その他	
6	11/13	第21回: 先週おこなった工陵祭アンケート結果を集計したものを配布し次年度の改善点について話し合う。	E: その他	
7	11/20	第 22 回: 後期中間試験の時間割を配布し、勉強の仕方について再度具体的に説明し、自覚を促した。	E: その他	
8	12/4	第 23 回: 日帰り研修旅行について、実施の有無について話し合い、実施することに決定した。	E: その他	
9	12/11	第 24 回: 日帰り研修旅行の行き先について、希望者にプレゼンをさせ、東京葛西と上野に決定した。	E: その他	
10	12/18	第 25 回: 合同 HR 形式で視聴覚室にて、国語科主催の読書体験発表会に参加した。	E: その他	
11	1/8	第 26 回: 日帰り研修旅行のグループ行動について各班の行動計画を計画表にまとめさせ提出させる。	E: その他	
12	1/11	第 27 回: 貸切バスを利用し、東京葛西臨海公園と上野国立博物館で日帰り研修をおこなった。	E: その他	
13	1/15	第 28 回: 日帰り研修旅行(特に班行動の長短について)の反省会をおこなった。	E: その他	
14	1/29	第 29 回: 進級にかかわる注意点と来年度の計画概要を伝え、試験勉強の重要性を改めて周知した。	E: その他	
15	2/5	第 30 回: 学年末試験の最終諸注意をおこなう。その後、来年度学生証用写真提出を依頼する。	E: その他	
16	2/25	第 31 回: 全校集会と大清掃後、春休みの過ごし方について、周知した。	E: その他	
17	/			

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。(※※) A: 講義 B: 演習 C: 実験 D: 実習 E: その他

授業回数は、半期 15 回以上を必ずご確認ください。

資料 7-1-③-2 : 学生の授業評価アンケート

「学生による授業評価」アンケート調査用紙 <小山工業高等専門学校 平成 年度>

このアンケートは、授業担当教員が学生の皆さんとともに教育改善を図ることを目的として実施するものですので、ご協力ください。

■科目名

■記入上の注意
 ①マークの方法：黒いペンかエンピツを使用してください。 正しい例 悪い例
 ②マークし「直す」場合は、消した方をはっきりと「縦の」2重線で消してください。 正しい修正

あなたの所属等について 所属・学年についてお答えください。

■所属学科 [1] M [2] E [3] D [4] C [5] A [6] SS [7] SC [8] SA
 ■学年 [1] 専攻1年 [2] 専攻2年 [3] 1年 [4] 2年 [5] 3年 [6] 4年 [7] 5年

アンケート説明 アンケートの項目を5段階で評価してマークして下さい。

	5	4	3	2	1
	10割	10~9割	9~8割	8~7割	7割以下
	2時間以上	2~1.5時間	1.5~1時間	1~0.5時間	0.5時間以下

①: あなた自身について

1. この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか? → [5] [4] [3] [2] [1]
2. この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか? → [5] [4] [3] [2] [1]
3. シラバス(授業要目)を活用していますか? → [5] [4] [3] [2] [1]
4. わからないことや興味をもったことを質問したり調べたりしましたか? → [5] [4] [3] [2] [1]
5. あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか? → [5] [4] [3] [2] [1]

②: この授業科目について

1. この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
2. 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
3. この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
4. シラバス(授業要目)に沿って、授業が行われた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
5. この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。 → [5] [4] [3] [2] [1]
6. この授業に総合的に満足している。 → [5] [4] [3] [2] [1]

③: 教員について

1. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
2. 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。 → [5] [4] [3] [2] [1]
3. 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
4. 授業のポイントがわかりやすかった。 → [5] [4] [3] [2] [1]
5. 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。 → [5] [4] [3] [2] [1]

④: その他—実験と体育では次の質問にもお答えください

1. 技能または技術の習得が十分にできた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
2. 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。 → [5] [4] [3] [2] [1]
3. 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。 → [5] [4] [3] [2] [1]
4. 同じチーム(グループ)になった仲間と協力して行動した。 → [5] [4] [3] [2] [1]
5. (体育のみ回答) 授業中に課せられた運動量は適切なものだった。 → [5] [4] [3] [2] [1]

ご協力ありがとうございました。

小山工業高等専門学校

(出典：平成 25 年度授業評価アンケート)

資料 7-1-③-3 : 平成 25 年度学寮行事予定表 (1 / 2)

平成25年度 学寮行事予定表 (前期)

※ 日にちの網掛は閉寮日を示す ▲ 寮務委員会開催予定日 H25.4.1~

前期	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月	1	1	2	3	4	5	6	予備開寮 4/2 開 寮 4/3
	7	8	9	10	11	12	13	食寮点呼 4/3 団 体 会 4/10 食寮点呼 4/18 教 習 会 4/18 ソフトボール大会 4/20
	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	1	2	3	4	憲法記念日 4/29 みどりの日 5/4
	5	6	7	8	9	10	11	団 体 会 5/8 食寮点呼 5/16 追 薦 試 験 5/23
5月	12	13	14	15	16	17	18	
	19	20	21	22	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31	1	
	2	3	4	5	6	7	8	(前期中間試験) 団 体 会 5/12 食寮点呼 5/13 ボウリング大会 5/15
6月	9	10	11	12	13	14	15	
	16	17	18	19	20	21	22	
	23	24	25	26	27	28	29	1・3年在寮生会 寮生協議会
	30	1	2	3	4	5	6	団 体 会 7/3 食寮点呼 7/10 東 西 選 挙 7/10 (定期試験)
	7	8	9	10	11	12	13	
7月	14	15	16	17	18	19	20	憲 法 祝 日 7/15 食 点・東 西 選 挙 7/18 編 入 学 試 験 7/20
	21	22	23	24	25	26	27	
	28	29	30	31	1	2	3	
	4	5	6	7	8	9	10	団 体 会 8/7 部 活 日 8/8 食寮点呼 8/10 団 体 会 8/11 夏 期 一 斉 休 講 (8/12から8/16)
8月	11	12	13	14	15	16	17	
	18	19	20	21	22	23	24	
	25	26	27	28	29	30	31	
	1	2	3	4	5	6	7	
	8	9	10	11	12	13	14	
9月	15	16	17	18	19	20	21	
	22	23	24	25	26	27	28	
	29	30						

※閉寮日前日及び閉寮日当日の食点は、20:00からです。

(出典：平成 25 年度寮生のしおり)

資料7-1-③-3：平成25年度学寮行事予定表（2/2）

平成25年度 学寮行事予定表 (後期)

曜日	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月	29	30 (授業開始)	1	2 ▲・飯詰会	3	4	5	開 寮 9/29 食卓点呼 9/29 談話会 10/ 2 食卓点呼 10/10 寮 祭 10/12
	6	7	8	9	10 食卓点呼	11	12 寮祭	
	13	14 体育の日 祝	15	16	17	18	19	
	20	21	22	23	24	25	26	
	27	28	29	30	31	1 (工寮祭準備)	2 文化の日 祝 (工寮祭準備)	
11月	3 文化の日 祝 工寮祭	4 振替休日 祝 工寮祭	5 (工寮祭片付)	6 ▲・飯詰会	7	8	9	談話会 11/ 6 食卓点呼 11/14
	10	11	12	13	14 後援球技大会 食卓点呼	15	16	
	17	18	19	20	21	22	23 勤労感謝の日 祝	
	24	25	26	27 特別時間割	28 特別時間割	29 特別時間割	30	(後期中間試験)
12月	1	2 特別時間割	3 特別時間割	4 ▲・飯詰会	5	6	7	談話会 12/ 4 食卓点呼 12/12 食卓点呼 12/20 閉 寮 12/21
	8	9	10	11	12 食卓点呼	13	14	
	15	16	17	18	19	20 各上R・大講堂 食卓点呼	21 閉寮	
	22	23 天皇誕生日 祝	24 (臨時休講)	25 (臨時休講)	26	27	28	
1月	29	30	31 元日 祝	1	2	3	4	閉 寮 1/ 5 食卓点呼 1/ 5 談話会 1/ 8 食卓点呼 1/16 成人祝賀会 1/18 スキー大会 1/22
	5 寮祭 食卓点呼	6 (授業開始)	7	8 ▲・飯詰会	9	10	11	
	12	13 成人の日 祝	14 (月曜授業) 学芸祭開校祝	15	16 食卓点呼	17	18 成人祝賀会	
	19	20	21	22 (臨時休講) 学芸祭 入場スキー大会	23	24	25	
	26	27	28	29	30	31	1	
2月	2	3	4	5 (臨時休講) 予備日 ▲	6 定期試験	7 定期試験	8	(定期試験) 全校集会 2/13 (大講堂) 2/13 談話会 2/13 卒業生送別会 2/20 食卓点呼 2/20 寮長選挙 2/20 (学力選抜) 2/16
	9	10 定期試験	11 建国記念の日 祝	12 定期試験	13 定期試験 全校集会・大講堂 談話会	14 (臨時休講)	15	
	16 学力選抜検査	17 (臨時休講)	18 (臨時休講)	19 試験返却	20 試験返却 卒業生送別会 食卓・寮長選挙	21 試験返却	22	
	23	24 (臨時休講)	25 (臨時休講)	26 再試験	27 再試験	28 再試験	1	
3月	2	3 再試験	4 再試験 5年度 寮長選挙・食卓点呼	5 (臨時休講) 閉寮	6	7	8	5年閉寮 3/ 4 寮長選挙 3/ 4 食卓点呼 3/ 4 閉 寮 3/ 5
	9	10	11 5年生 判定会議	12	13	14	15	
	16	17	18 1～4年生 判定会議	19	20 卒業式 終了式	21 春分の日 祝	22	
	23	24 (臨時休講)	25 (臨時休講)	26	27	28	29	
	30	31						

※閉寮日前日及び閉寮日当日の食卓は、20：00からです。

(出典：平成25年度寮生のしおり)

資料 7-1-③-4 : 学生会との談話会メモ

学生会談話会メモ

平成25年度 後期談話会議事録	
実施日	平成25年12月18日 火曜日 17:00～
実施場所	電気物質科棟 2階 201ゼミ室
出席者	<p>[学生会執行部] 菅沼(会長)・清水(副会長)・大木(副会長)・小池(会計局長)・林(渉外局長)・荒井(広報局長)・大給(庶務局長)・田中(次期副会長)</p> <p>[委員会委員長] 中久喜(クラス代表者委員長)・池田(工陵祭実行委員長)・西川(体育委員長)・原口(体育副委員長)・熊倉(広報委員長)・関口(選挙管理委員長)</p> <p>※学生会執行部報告時は出席無</p> <p>[教員] 小林(学生主事)・大島(学生主事補)・鈴木(学生主事補)・酒入(学生主事補)・田中(学生主事補)・須高(次期学生主事)・学生係長</p>
内容	
所 連 絡	<p>・学生会執行部新三役自己紹介</p> <p>会 長：林 副会長：大給 副会長：田中</p> <p>・資料の修正</p>
ク ラ 代 表 者	<p>[報告] 目安箱中身回収と用紙の予算を請求。</p> <p>[意見等] ・建設的な意見があれば目安箱に限らず言ってほしい。 ・学級委員的な存在。球技大会午後の出欠確認も含め、来年度はそういう役回りにしてもいいと思っている。 ・引き継ぎ書を作成して引き継いでもらいたい。</p>
工 陵	<p>[報告] OPでチラシ1000枚程度を配布 8月の合宿でスポンサー回り。 他書面の通り。来航者は3173名 ブランド祭りは前期。</p> <p>[高校の学校祭見学報告-学生会執行部] 夏休みを中心に高校や他高専の文化祭に行った。報告は書面の通り。 ・パンフレットや地図が重要だと思った。 ・建物が多く広いと、移動距離が長く疲れる。 ・各所に椅子の配置をしたらいいのではと思った。 ・補足：高校では生徒の意識が高い。学生一人一人の意識を高めることが重要。 真高では他委員会に仕事を委託していた。</p>

(出典：学生会との談話会要旨)

資料 7-1-③-5 : 小山高専意見箱の設置

content/art 小山工業高等専門学校

独立行政法人 国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校

小山高専

トップページ

最新情報
 受験生の方へ
 地域・企業の方へ
 学生・保護者の方へ
 卒業生の方へ

検索... クエリ

小山高専「意見箱」の設置

小山高専「意見箱」が設置されました。本校運営上検討すべき課題及び対応すべき問題点等について早期に把握し、その改善・対応等に資するため、教職員・学生・保護者からの意見・要望・指摘等を直接受け取ることが出来るシステムを整備しました。下記ボタンより、投稿フォームをご利用ください。また、回答ページには、お寄せ頂いた意見についての回答を掲載します。

いただいたご意見等は総務会議メンバー（校長、副校長等）が確認・対応策を協議し、場合によっては担当組織等で検討の後、総務会議メンバーで対応策及び回答内容の確認を行い、結果をご本人宛に回答ページでお知らせします。

なお、質問内容によりましては、回答に時間を要する場合やお答えしかねる場合がございますのでご了承ください。

ボタンを押すとログイン画面があらわれます。既にお知らせ済みの、ユーザー名とパスワード（保護者用、学生用、教職員用でそれぞれ異なります）をお使い頂き、ログイン後、画面に従って入力・送信して下さい。なお、回答ページについてもそれぞれのユーザー名とパスワードが必要です。

保護者用
 ▲保護者の投稿ページはこちら【回答ページ】

学生用
 ▲学生の投稿ページはこちら（学内のみ）【回答ページ】

教職員用
 ▲教職員の投稿ページはこちら（学内のみ）

※ 保護者の方は、インターネット上から投稿できます。
 ※ 学生と教職員は、学内での利用となります。

（出典：小山高専HP）

資料 7-1-③-6 : 保護者懇談会開催案内

小高専教第 8 号
平成 25 年 5 月 31 日

1 年生保護者各位

小山工業高等専門学校長
荻 谷 勇 雅
[公 印 省 略]

1 年生保護者会の開催について

拝啓 保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。
日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。
さて、本校では、1 年生の保護者の皆様に、本校の学校生活や教育活動についてご理解を深めていただくために、下記の要領で保護者会を開催いたします。
副校長（教務・学生主事）の話のあと、各担任から日常のクラスの様子や、前期中間試験の結果等について話をさせていただく予定です。この機会に、保護者の皆様とご意見の交換ができれば幸いに存じます。
なお、寮生の保護者の皆様には、副校長（寮務主事）との懇談の時間も設けております。多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。

敬 具

記

日 時 平成 25 年 6 月 29 日(土) 10:00 ~ 12:00
場 所 図書館情報センター棟 1 階 視聴覚室、各科教室
日 程 9:30 ~ 10:00 受付(図書館情報センター棟 1 階 視聴覚室)
10:00 ~ 10:10 校長挨拶、職員紹介
10:10 ~ 10:25 副校長(教務主事)説明
10:25 ~ 10:40 副校長(学生主事)説明
休憩、各科教室 (専攻科棟 2 階)へ移動
10:50 ~ 12:00 担任説明、懇談

※通学生の保護者の方は、以上で終了。

寮 生 寮生の保護者の方は、副校長(寮務主事)との懇談を行いますので、視聴覚室へ移動願います。詳細については、別紙をご参照願います。

担当係 学生課教務係
TEL 0285-20-2142 (直通)
FAX 0285-20-2882

お車で来校の際は、教職員駐車場または外来駐車場をご利用下さい。

(出典：学生課学生係資料)

資料7-1-③-7：資格取得に係わる単位認定に関する規程（1/2）

(3) 資格取得に係わる単位認定に関する規程

(目 的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第26条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における資格取得に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。（認定の対象）

第2条 この規程における資格取得によって単位と認定される対象は、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で合格したものをいう。（単位認定科目と認定単位数）

第3条 取得資格に対応する単位認定科目と認定単位数については、別表に定める。（単位認定学年と単位数）

第4条 認定される学年は5学年とし、単位数はインターンシップに係わる単位及び大学、他高専における履修に係わる単位と合わせて6単位以内とする。（単位認定申請）

第5条 学生は、単位の認定を受けようとするときは、5年次の1月末までに合格証明書又は成績証明書等を添えて校長に申請するものとする。（単位の認定）

第6条 前条の規定より申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行う。

附 則
この規程は、平成11年4月1日から施行する。
附 則（抄）
この規程は、平成18年4月1日から施行する。
附 則
この規程は、平成19年4月1日から施行する。
附 則
この規程は、平成20年4月1日から施行する。
附 則
この規程は、平成21年4月1日から施行する。
附 則
この規程は、平成22年4月1日から施行する。
附 則
この規程は、平成24年4月1日から施行する。

機械工学科の科目の単位として認定されるもの			
取 得 資 格 名	単位数	備考	
TOEIC	550以上	2	
TOEIC	420以上	1	
工業英語能力検定	1級	2	
工業英語能力検定	2級	2	
工業英語能力検定	3級	1	
機械設計技術者試験	3級	2	
技術士補		2	
電卓・ポケコン技能検定	1級	1	
電卓・ポケコン技能検定	2級	1	
電卓・ポケコン技能検定プログラム級		1	
情報処理技術者 基本情報技術者		2	
情報処理活用能力検定	1級	2	
情報処理活用能力検定	2級	1	
情報処理活用能力検定	3級	1	
CAD利用技術者試験	2級	1	
CADトレース技能審査 機械部門	中級	1	
ボイラー一技士	2級	1	
危険物取扱者	18年度まで	丙種	1
危険物取扱者	に取得した	乙種(1類)	1
危険物取扱者	者は認める	乙種(2類)	1
危険物取扱者		乙種(3類)	1
危険物取扱者		乙種(4類)	2
危険物取扱者		乙種(5類)	1
危険物取扱者		乙種(6類)	2
危険物取扱者		乙種	1
公害防止管理者			1
上記以外の資格については、学生の申請に応じ5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。			1資格につき最大2単位

電気電子創造工学科の科目の単位として認定されるもの			
取 得 資 格 名	単位数	備考	
TOEIC	550以上	2	
TOEIC	420以上	1	
工業英語能力検定	1級	2	
工業英語能力検定	2級	2	
工業英語能力検定	3級	1	
実用数学技能検定	1級	2	
実用数学技能検定	準1級	1	
情報処理技術者 基本情報技術者		2	
情報処理技術者 応用情報技術者		2	
情報処理技術者 スペシャリスト(各種)		2	
情報処理技術者 ITパスポート		1	
情報処理検定	1級	1	
情報処理活用能力検定 情報システム試験	プログラム認定	1	
情報処理活用能力検定 情報システム試験	システムエンジニア認定	1	
情報処理活用能力検定 情報デザイン試験	上級	1	
CGエンジニア検定	エキスパート	1	
画像処理エンジニア検定	エキスパート	1	
マルチメディア検定	エキスパート	1	
CGクリエイター検定	エキスパート	1	
Webデザイナー検定	エキスパート	1	
デジタル技術検定	1級	2	
デジタル技術検定	2級	1	
E P I C (Linuxプロフェッショナル)	レベル1	1	
第1種電気主任技術者		2	
第2種電気主任技術者		2	
第3種電気主任技術者		2	
第1種電気工事士		2	
第2種電気工事士		2	
電気通信主任技術者	線路主任	1	
電気通信主任技術者	伝送交換主任	2	
工事担任者 AI-DD総合種		2	
工事担任者 AI第1種		1	
工事担任者 AI第2種		1	
工事担任者 DD第1種		1	
工事担任者 DD第2種		1	
アマチュア無線技士	1級	2	
アマチュア無線技士	2級	1	
陸上無線技術士	2級	2	
陸上特殊無線技士	1級	2	
危険物取扱者	乙種	1	
エックス線作業主任者		2	
技術士補		2	
ラジオ・音響技能検定	1級	2	
ラジオ・音響技能検定	2級	1	
上記以外の資格については、学生の申請に応じ5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。			1資格につき最大2単位

電気情報工学科の科目の単位として認定されるもの			
取 得 資 格 名	単位数	備考	
TOEIC	550以上	2	
TOEIC	420以上	1	
工業英語能力検定試験	1級又は2級	2	
工業英語能力検定試験	3級	1	
第1種 電気主任技術者		2	
第2種 電気主任技術者		2	
第3種 電気主任技術者		2	
第1種 電気工事士		1	
第2種 電気工事士		1	
情報処理検定	1級	1	
情報処理活用能力検定	1級	2	
情報処理活用能力検定	2級	1	
デジタル技術検定	1級	2	
デジタル技術検定	2級	1	
CGクリエイター検定 デジタル映像部門	1級	2	
CGクリエイター検定 デジタル映像部門	2級	1	
CGクリエイター検定 WEBデザイン部門	1級	2	
CGクリエイター検定 WEBデザイン部門	2級	1	
CGエンジニア検定 CG部門	1級	2	
CGエンジニア検定 CG部門	2級	1	
画像情報技能検定 CG部門	3級	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)			
CGエンジニア検定 画像処理部門	1級	2	
CGエンジニア検定 画像処理部門	2級	1	
電気通信主任技術者	線路主任	2	
電気通信主任技術者	伝送交換主任	2	
工事担任者 AI-DD総合種		2	
工事担任者 AI第1種		1	
工事担任者 AI第2種		1	
工事担任者 DD第1種		1	
工事担任者 DD第2種		1	
ラジオ・音響技能検定	1級	2	
ラジオ・音響技能検定	2級	1	
情報処理技術者 基本情報技術者		2	
情報処理技術者 ITパスポート		1	
情報処理技術者 高度プロフェッショナル(各種)		2	
情報処理技術者 応用情報技術者		2	
上記以外の資格については、学生の申請に応じ5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。			1資格につき最大2単位

(出典：平成25年度学生便覧)

資料7-1-③-7：資格取得に係わる単位認定に関する規程（2/2）

電子制御工学科の科目の単位として認定されるもの			
取得資格名	単位数	備考	
TOEIC 550以上	2		
TOEIC 420以上	1		
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	490以上	2	
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	440以上	1	
工業英語能力検定 1級	2		
工業英語能力検定 2級	2		
工業英語能力検定 3級	1		
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	1級又は準1級	2	
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	2級	1	
実用数学技能検定 1級	2		
実用数学技能検定 準1級	1		
情報処理技術者 基本情報技術者	2		
情報処理技術者 応用情報技術者	2		
情報処理技術者 スペシャリスト(各種)	2		
情報処理技術者 ITパスポート	1		
CGエンジニア検定 エキスパート	1		
CGエンジニア検定 1級	2		
CGエンジニア検定 2級	1		
画像処理エンジニア検定 エキスパート	1		
画像処理エンジニア検定 1級	2		
画像処理エンジニア検定 2級	1		
マルチメディア検定	1		
デジタル技術検定 1級	2		
デジタル技術検定 2級	1		
LPIC(Linuxプロフェッショナル)レベル1	1		
第1種 電気主任技術者	2	2	
第2種 電気主任技術者	2	2	
第3種 電気主任技術者	2	2	
第1種 電気工事士	2	2	
第2種 電気工事士	1	1	
アマチュア無線技士 1級	2	2	
アマチュア無線技士 2級	1	1	
陸上無線技術士 2級	2	2	
陸上特殊無線技士 1級	2	2	
危険物取扱者 乙種	1	1	
エックス線作業主任者	2	2	
技術士補	2	2	
上記以外の資格については、学生の申請に応じて	1資格に		
5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。	つき最大		
単位数も審査時に資格に応じて認定する。	2単位		

物質工学科の科目の単位として認定されるもの			
取得資格名	単位数	備考	
TOEIC 550以上	2		
TOEIC 420以上	1		
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	490以上	2	
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	440以上	1	
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	1級又は準1級	2	
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	2級	1	
公害防止管理者	2		
火薬類製造保安責任者 甲種	2		
火薬類製造保安責任者 乙種	2		
火薬類製造保安責任者 丙種	1		
火薬類取扱保安責任者 甲種	1		
火薬類取扱保安責任者 乙種	1		
危険物取扱者 甲種	2		
危険物取扱者 乙種	1		
計量士 一般	2		
計量士 環境	2		
臭気判定士	1		
放射線取扱主任者 2種(一般)	2		
放射線取扱主任者 1種	2		
核燃料取扱主任者	2		
エックス線作業主任者	1		
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	1		
ガス主任技術者 甲種	1		
ガス主任技術者 乙種	1		
ガス主任技術者 丙種	1		
上級 バイオ技術認定試験	2		
中級 バイオ技術認定試験	1		
情報処理技術者 基本情報技術者	2		
情報処理検定 1級	1		
情報処理活用能力検定 1級	2		
情報処理活用能力検定 2級	1		
上記以外の資格については、学生の申請に応じて	1資格に		
5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。	つき最大		
単位数も審査時に資格に応じて認定する。	2単位		

建築学科の科目の単位として認定されるもの			
取得資格名	単位数	備考	
TOEIC 550以上	2		
TOEIC 420以上	1		
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	490以上	2	
TOEFL(平成22年度までの5年生に適用)	440以上	1	
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	1級又は準1級	2	
実用英語技能検定(平成22年度までの5年生に適用)	2級	1	
実用数学技能検定 1級	2		
実用数学技能検定 準1級	1		
測量士	2		
測量士補	1		
第1種電気工事士	2		
第2種電気工事士	1		
土地家屋調査士	2		
宅地建物取引主任者	2		
CAD利用技術者試験 2級	1		
色彩検定	1		
技術士補	2		
技能検定試験	※		
危険物取扱者 乙種	1		
情報処理技術者 基本情報技術者	2		
エクステリアプランナー 2級	1		
建築施工技術者	1		
インテリアコーディネーター	1		
福祉住環境コーディネーター 1級	2		
福祉住環境コーディネーター 2級	2		
福祉住環境コーディネーター 3級	1		
上記以外の資格については、学生の申請に応じて	1資格に		
5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。	つき最大		
単位数も審査時に資格に応じて認定する。	2単位		

※取得内容、レベルにより単位は異なる(最大2単位)。

一般科の科目の単位として認定されるもの			
取得資格名	単位数	備考	
TOEFL(平成23年度以降の5年生に適用)	490以上	2	
TOEFL(平成23年度以降の5年生に適用)	440以上	1	
実用英語技能検定(平成23年度以降の5年生に適用)	1級又は準1級	2	
実用英語技能検定(平成23年度以降の5年生に適用)	2級	1	
日本語能力検定 1級・準1級	2		
日本語能力検定 2級	1		
気象予報士試験	2		
◎注意事項			
※申請する資格は、指定がない場合には、いつ取得した資格でもかまいません。			
※申請書を学生課教務係で受け取り、必要事項を記入のうえ学級担任・学科長・科目担当教員の印を得てから、資格の合格証明書又は成績証明書添えて、教務係に提出してください。			
※ある資格の下位のランクを取得した後、同じ資格の上位のランクを取得した場合は、上位のランクの単位数となります。			
例・〇〇能力検定3級(1単位)を取得した後、同じ〇〇能力検定1級(2単位)に合格したので3単位を取得できるか。この場合は同じ資格であるので、1級の2単位を認定することになり、単純に加算して3単位とはなりません。			
※同じ資格名でも、上位・下位の関係ではなく、その内容が異なる場合は、それぞれ独立した単位とされます。			
※不明な点は、担当教員に尋ねてその指示に従ってください。			

(出典：平成25年度学生便覧)

資料7-1-③-8：資格取得による単位認定状況（平成25年度）

平成25年度資格取得による単位認定者数

延べ人数

取得資格名等	M	E	D	C	A	合計
TOEIC 420以上		8	6	2	2	18
TOEIC 550以上	3	2	11	6	3	25
実用英語検定 準1級	1					1
日本漢字能力検定 準1級				1	1	2
日本漢字能力検定 2級	1		1	2	3	7
実用数学技能検定 準1級			1			1
工業英検 3級			1			1
危険物取扱者 乙種	1	1	4	2	2	10
色彩検定2級					1	1
色彩検定3級					8	8
情報処理技術者 ITパスポート試験			1			1
情報処理技術者 基本情報技術者			13			13
情報処理技術者 応用情報技術者			1			1
第1種 電気工事士		1				1
第2種 電気工事士		5				5
ボイラー技士 2級	3					3
福祉住環境コーディネーター 3級					6	6
カラーコーディネーター 3級					1	1
						0
						0
合 計	9	17	39	13	27	105

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-③-9：補習授業

機械工学科（平成25年度実施実績）

H25 機械工学科の補習授業について

1. 実施科目

内容：復習および試験対策

①材料力学

対象：本科3年生

対応専攻科生：鷹野権郁、生井将貴

②工業力学

対象：本科2年生

対応専攻科生：大塚健太、関口祐司

③数学

対象：本科1・2年生

対応専攻科生：妻木翔太、森谷昌平

2. 日時

15:00～17:00

①11/13（水）、11/20（水）、1/15（水）、1/23（木）、1/29（水）

②11/13（水）、11/20（水）、1/15（水）、1/23（木）、1/29（水）

③11/13（水）、11/20（水）、1/15（水）、1/23（木）、1/29（水）

3. 場所

①M棟1F材料力学実験室、②M棟2F応用物理実験室、③M棟2F201ゼミ室
各自、参考書・問題集等を持参すること。

（出典：機械工学科資料）

資料7-1-③-10：各種資格試験等に関する参考書の配架状況（図書情報センター）



(出典：図書情報センター資料)

資料7-1-③-11: TOEIC IP受験状況

区 分	平成23年度			平成24年度				平成25年度			
	7月	12月	2月	7月	9月	12月	2月	6月	8月	12月	2月
本 科	58	70	159	72	0	72	100	52	0	65	79
専攻科	7	7	18	4	21	2	18	4	23	5	0
計	65	77	177	76	21	74	118	56	23	70	79

(出典: 一般科資料)

資料7-1-③-12: 学位授与申請説明会案内 (既出: 資料7-1-①-5)

専攻科2年生 各位

平成25年度学位授与申請手続き説明会 の開催について

このことについて、下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成25年7月3日(水) 13:00~14:00
2. 場 所 多目的ホール(専攻科棟4F)
3. 内 容 申請書類等の配布, 申請書類作成上のポイント等
4. 対 象 専攻科2年生

学位授与機構への学位申請は個人で申請します。

手続き不備等で申請できなかったなど無いよう説明会には必ず出席して下さい。

なお、どうしても出席できない学生は事前に学生課まで来ること。

平成25年6月

学生課 掲 示

(出典: 学生課教務係資料)

資料7-1-③-13：留学規則（その1）

小山工業高等専門学校留学規則

制 定 平成9年4月1日
最終改正 平成16年4月1日

（趣旨）

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定。以下「学則」という。）第26条の5第4項の規定に基づき、本校の学生が外国の高等学校又は大学等（以下「学校」という。）への留学（以下「留学」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

（許可基準）

第2条 留学は、以下の各号に該当する場合に許可するものとする。

- 一 留学先の学校が正規の教育機関であり、体系的な教育課程を有していること。
- 二 前号の学校に在籍することが許可されていること。
- 三 留学の目的、理由等が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

（申請及び許可）

第3条 留学しようとする学生は、原則として出国3ヶ月前までに留学願（別紙様式1）に、次に掲げる書類を添えて校長に願い出なければならない。

- 一 留学先の学校の規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
- 二 その他、校長が必要とする書類

2 前項の願い出があったとき、校長は教務委員会の議に付し、前条各号の基準を満たしているものについては、これを許可するものとする。

3 前項の許可を受けた場合において、出国前に留学の許可基準に該当しなくなったときは、その許可を取り消すことがある。

（期間）

第4条 留学期間は、10ヶ月以上1年未満とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、留学期間の短縮及び1年以内の延長を認めることがある。

2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願（別紙様式2）を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

（終了及び復学）

第5条 留学期間が終了したときは、速やかに復学願（別紙様式3）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 一 留学先の学校が発行する教科科目の履修、出欠の状況及び成績等の証明書
- 二 本人の留学に関する報告書

第6条 復学の際の学年については、教務委員会の審査の結果に基づき、校長が決定するものとする。

（単位の認定）

第7条 留学中の履修に係わる単位の認定は、個々の科目については行わず、当該留学生在が留学先の学校に良好に履修したと認められる場合は、原則として第1学年、第2学年及び第3学年については一括して30単位を認め、評価は行わない。

（卒業時の修得単位の特例）

（出典：小山高専HP）

資料7-1-③-13：留学規則（その2）

第8条 留学中の履修に係わる単位の認定を受けたものについては、第5学年の課程修了の認定を受け167単位以上の単位を修得しているときは、卒業を認めることができる。
（学業成績の評価並びに学年 課程修了及び卒業の認定に関する規程第10条第4項第2号の括弧書き及び第13条の括弧書きの適用を除外する。）

（雑則）

第9条 この規則に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規則は、平成9年4月1日から施行する。
- 2 この規則の施行日に、学則第26条の5に基づく留学中の者については、この規則を適用し許可したものとみなす。

附 則

この規則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典：小山高専HP）

資料 7-1-③-14：海外研修募集要項

平成 25 年度 小山高専 アメリカ研修 募集要項

国際交流推進室 岡田 晃

1. 研修の目的

アメリカワシントン州シアトルダウンタウン周辺にある Kaplan International College のプログラムに参加し、地元の企業訪問、異文化経験等を通じ、グローバルに活躍する技術者として必要となる知識と能力を涵養することを目的とする。周辺地域には、世界的に有名な企業が多数存在している（Starbucks 1 号店及び本社、Tully's Coffee 1 号店及び本社、Amazon.com 本社、Mariner's Safeco Field など）。

2. 研修内容

米国規則（旅行用ビザ）により、授業は午前中のみ、午後は課外活動・自由時間になる。

授業形態：他国留学生とのクラス分け授業

ただし、人数次第では本校学生のための特別クラスになる。

課外活動内容（予定）：Boeing 工場、Microsoft Office 本社、Paul Allen Living Computer Museum、Pacific Science Center など。

3. 研修・募集要項

- (1) 研修日程：平成 26 年 3 月 1 日（土）日本出発～平成 26 年 3 月 16 日（日）日本着の 15 日間
- (2) 研修地：米国 シアトル Kaplan International College
- (3) 参加費用：35 万（見込み）＊パスポート取得代金、保険料は含まれない。
- (4) 募集人数：15 名程度
- (5) 滞在形態：ホームステイ 1 人でホームステイ先に滞在する。2 人希望は要相談。
- (6) 募集条件：3 年生以上（3 年生を含む）ただし、学業成績、進級などで支障の無い者
事前研修回数あり ＊専攻科生も対象となります。
- (7) 応募方法：学生課教務係で申し込み書を受け取り、必要事項を記入の上、同係に提出すること。
- (8) 募集期間：平成 25 年 10 月 15 日（火）～11 月 25 日（月）
- (9) 参加学生の決定：応募人数が多いときに限り面接を実施する。
- (10) その他：本校教員が同行し、引率する。参加者が満たない場合、また、世界情勢により、中止・変更する場合がある。
- (11) 問い合わせ先：教務係 0285-20-2142

国際交流推進室担当：岡田 晃（一般科）
 教員室：専攻科棟 3 階
 電話：0285-20-2192
 メール：akira.ok@oyama-ct.ac.jp

（出典：教務委員会資料）

資料 7-1-③-15 : 海外研修参加状況

実施年度	引率者	参加学生
H23	引率 1 名 オーストラリア クイーンズランド州 southbank institute of technology, english languages centre 3 / 9 ~ 3 / 2 4	学生 7 名
H24	引率 1 名 イギリス Nottingham college international 3 / 3 ~ 3 / 1 7	学生 1 5 名
H25	引率 1 名 アメリカ Kaplan International College 3 / 1 ~ 3 / 1 6	学生 1 6 名

(出典 : 学生課教務係資料)

資料 7-1-③-16 : 香港 IVE (紫湾校) とのMOU (覚書)

MEMORANDUM OF UNDERSTANDING
BETWEEN



OYAMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY, JAPAN
771 Nakasuki,
Oyama City, Tochigi Prefecture
Japan

AND



HONG KONG INSTITUTE OF VOCATIONAL EDUCATION (CHAI WAN), HONG KONG
30 Shing Tai Road,
Chai Wan,
Hong Kong

Member of VTC Group
VTC 機構成員

I. INTRODUCTION

This Memorandum of Understanding (MOU) is made between Hong Kong Institute of Vocational Education (Chai Wan) (IVE(CW)), Hong Kong and Oyama National College of Technology (ONCT), Japan collectively referred to as "the parties" hereafter, on this 14th day of March 2014.

II. INTENTION & SCOPE OF MOU

With a view to continue collaborations between the Vocational Training Council (VTC), Hong Kong and the Institute of National Colleges of Technology (INCT), Japan, this MOU is served as addendum of the signed MOU between VTC and INCT dated 20th day of November 2013. This MOU is to strengthen the cooperation between the parties in the student and staff exchanges for promoting the internationalization.

III. OBJECTIVES OF EXCHANGES

The objectives are to promote the following:

- Yearly based short stay student exchange programme in ONCT between February and May
- Yearly based short stay student exchange programme in IVE(CW) between August and September
- Industrial Attachment / Industry-Based Student Project in ONCT
- Internships in IVE(CW)
- Staff exchange in curriculum design, knowledge and cultural exchange

MOU: IVE(Chai Wan) & Oyama NCT Page 1 of 2

IV. ACADEMIC CO-ORDINATORS

The parties shall each assign an academic co-ordinator as the contact point for liaison and discussion of all the exchange issues aforementioned. Under this provision, ONCT shall assign Dr. Seisho TAKE, Director of International Exchange Promotion Office while IVE(CW) shall assign Mr. Jonathan Kam-fat LEE, Head of Engineering Department, as academic co-ordinator respectively. Should there be any changes in the academic co-ordinator after the signing of the MOU, the party initiating the change will need to serve a notice to the other party as soon as practicable.

V. DURATION AND TERMINATION

- This MOU will become effective upon the signing by representatives of the parties. The MOU shall be in force for a period of three years from the date of this MOU, and shall be renewable thereafter subject to mutual agreement.
- The MOU may be terminated at any time by either party giving at least six months' notice to the other party in writing.
- In the event of the termination of the MOU, students and staff who are in the midst of their exchange programmes shall be allowed to complete their programmes.
- Amendments to this MOU, if required, can be effected only by mutual agreement of both parties.

IN WITNESS WHEREOF the parties have caused this MOU to be executed by their respective authorised representatives the date first mentioned above.



Signed by for and on behalf of
OYAMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
JAPAN

Dr. Kariya YUGA
President
Oyama National College
Of Technology
Japan



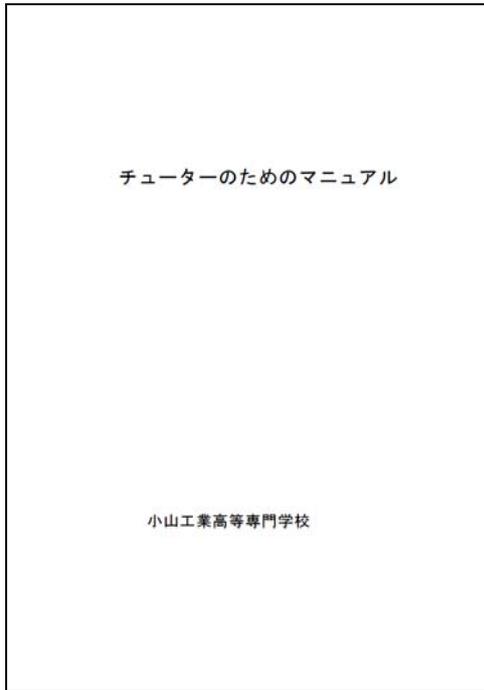
Signed by for and on behalf of
HONG KONG INSTITUTE OF VOCATIONAL EDUCATION (CHAI WAN)
HONG KONG

Mr. Roger Chee Wah LEE
Principal
Hong Kong Institute of Vocational Education
(Chai Wan)
Hong Kong

MOU: IVE(Chai Wan) & Oyama NCT Page 2 of 2

(出典 : 総務課総務係資料)

資料7-1-④-1：チューターのためのマニュアル



1. チューターの皆さんに

はじめに：
皆さん、このたびは留学生のチューターをお引受けいただき、ありがとうございます。

皆さんの中には、チューターの経験があり、チューターの活動に大きな抱負を抱き、積極的に取り組む用意のある方もいるでしょう。しかし、おそらく皆さんの多くがチューターとして何をしたらよいのか、あれこれ思いをめぐらせ、一抹の不安を抱いているかも知れません。

チューター制度は、文部科学省の制度によって定められています。チューターとなった皆さんが、この制度の目的を理解され、その役目を不安や迷い、大きな負担を感じることなく果たせるよう、少しでも参考になり、指針になればと思っています。このマニュアルを活用し、この制度の真りあるものにするよう願っています。

ここに記された事項は、あくまでも参考すぎませんので、これらにとらわれる必要はありません。若い皆さんの情熱・知性・感性と創意工夫を生かした活動を期待するとともに、チューター活動を通じて得た皆さんの貴重なご意見を遠慮なく、お聞かせください。

2. チューター制度とその目的

外国人留学生（以下「留学生」という。）が、来日後（又は自国において）、短期間に日本語を習熟し、日本の慣習に慣れ、学習・研究の効果を上げるためには、学習はいうに及ばず、日常生活にもきめ細かい長時間にわたる対話・助言・指導等の交流が必要です。このような助言、又は個別指導を行うのは教員だけでは困難な面もあり、これを補助するために、このチューター制度が設けられています。

したがって、本校では留学生が授業に関する理解や学生生活、あるいは地域の社会生活に一日も早く慣れるように積極的に、助力し、又は悩み事等の相談にのってあげたりするのが、チューター活動の目的と考えています。

以上述べた制度の目的から明らかのように、チューター活動の対象となる留学生は、3年次編入の場合は、最初の2年間（4年次編入の場合は、1年間）となっています。

(出典：教務委員会資料)

資料7-1-④-2：平成25年度留学生相談員指導報告書

別紙様式第3号												
業務実施確認表												
						留学生氏名	〇〇 〇〇					
						協力者氏名	〇〇 〇〇		印			
〇年 〇月 〇日						指導教員	〇〇 〇〇		印			
日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印	確認者印	日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印	確認者印	
1	~					18	~					
2	~					19	~					
3	~					20	~					
4	16:00 ~ 17:00	1	1 1対1勉強の補助			21	~					
5	~					22	~					
6	21:00 ~ 22:00	1	1 (機械設計製図)レポート作成の補助			23	~					
7	~					24	~					
8	~					25	~					
9	~					26	~					
10	13:00 ~ 15:00	2	2 (コンデンサの充放電)実験の補助			27	~					
11	~					28	~					
12	16:00 ~ 18:00	2	2 (機械工学演習)レポート作成の補助			29	~					
13	~					30	~					
14	~					31	~					
15	~					合計時間数	6 時間					
16	~					時間単価	円					
17	~					支払額	円					
上記の内容について、相違ないことを確認しました。											実施完了チェック	
〇年 〇月 〇日 (実施責任者)所属・職名・氏名						学生課・学生係長・〇〇 〇〇			印			

(注1) 必要があるときは、各欄の配置を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。
(注2) 業務実施確認表は事務部において管理すること。また、実施完了チェックは、実施責任者が所属する学科・課以外の教職員が確認し押印又は署名すること。

(出典：平成25年度学生課留学生相談員指導報告書)

資料7-1-④-3：外国人留学生規程

制定昭和58年4月1日
最終改正平成23年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第51条の規定に基づき、小山工業高等専門学校に受け入れられる外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する入学及び教育指導の特例を定めるものとする。

(入学)

第2条 校長は、文部科学省が定めた日本語教育の課程を修了した留学生に対して、特定の学年学科に入学を許可する。

(教育課程)

第3条 留学生については、本校の通常の授業を受ける上で必要な日本語その他の学力を養うため、別表のとおり、特別に編成された教育課程の学習をもって、通常の教育課程の一部の履修に代えることができる。

2 前項の特別な教育課程の編成は、学科長及び留学生指導教員の協力を得て副校長（教務主事）が行う。

(留学生指導教員)

第4条 留学生に対し、学習及び生活に関して、必要な指導助言を与えるため留学生指導教員を置く。

2 留学生指導教員は校長が委嘱するものとし、校長又はその補助機関に対して、必要な建議を行うことができる。

(留学生相談員)

第5条 留学生の日本語能力の不足等就学上の問題解決を援助するため、留学生相談員を置く。

2 前項の留学生相談員は、学生の中から学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 留学生相談員は、適宜、留学生の相談に応ずるとともに、定期的に留学生指導教員に連絡して、その指導を受けるものとする。

(対外事務)

第6条 留学生が、わが国の法令等に基づき、処理しなければならない事務手続等の助言については、学生課において行うものとする。

(略)

別表

事項 \ 学年	3	
免除科目	国語、歴史 倫理・社会 など	6単位 以上
代替科目	日本語 日本事情 など	6単位 以上

(出典：小山高専HP)

資料7-1-④-4：編入学予定者への通知文

平成25年10月17日

編入学予定学生 各位

小山工業高等専門学校
校長補佐（教務担当）
小堀 康功
[公印省略]

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは本校編入学試験に合格され、高校最後の勉学に励んでいる頃
と思います。

つきましては、来春の本校4年生と同じスタートに向け、これから入学
までの間に同封内容の勉強をしてくださるようお願いいたします。

なお、入学手続き日は、3月5日の予定です。詳細については、2月中
旬頃連絡いたします。その他、ご不明の点がありましたら下記にご連絡く
ださい。

敬 具

問い合わせ先

担 当 学生課教務係

TEL 0285-20-2142

FAX 0285-20-2882

E-Mail kyoumu@oyama-ct.ac.jp

(出典：教務委員会資料)

資料7-1-④-5：留学生受け入れ状況

年度		23	24	25	受入累計
政府派遣	マレーシア	4	3	2	71
国 費	マレーシア				2
	中国				10
	韓国				2
	タイ				1
	スリランカ		1		3
	カンボジア				2
	モンゴル			1	4
	インドネシア	1			9
	ベトナム				5
	ミャンマー				1
	ラオス	1			4
	ブラジル				1
	フィリピン				1
	バングラデシュ				1
	計		6	4	3

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-④-6：年度別編入学者数

	平成23年度			平成24年度			平成25年度		
	志願者数	入学者数	卒業者数	志願者数	入学者数	卒業者数	志願者数	入学者数	卒業者数
機械工学科	11	0	0	12	1	1	8	0	0
電気情報工学科	9	2	2	6	1	0	9	0	0
電子制御工学科	7	1	1	7	1	1	5	0	0
物質工学科	1	0	0	3	1	1	5	0	0
建築学科	10	4	3	1	1	1	3	0	0
合計	38	7	6	29	5	4	30	0	0

注) 卒業者数は当該年度入学者の内、2(3)年度卒業した者を示す。

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-④-7：留学生交流

平成25年度留学生懇談会開催要項

- 1 目 的 留学生が、本校での学校生活及び寮生活を円滑に行い、また指導教員等が留学生の特性を生かした効果的な指導を行えるよう、留学生、留学生相談員及び指導教員等が意見を交換し、併せて親睦を図る。
- 2 日 時 平成25年5月29日（水）
16時00分～
- 3 場 所 一般食堂
- 4 出 席 者
- | | |
|--------|-----|
| 留 学 生 | 13名 |
| 留学生相談員 | 10名 |
| 指導教員等 | 29名 |
| 事務部等 | 14名 |
| 計 | 66名 |
- 5 経 費 教育研究費（留学生経費）
- 6 金 額 103,950円程度（1,575×66名）
（オードブル・ジュース等）

（出典：学生課学生係資料）

資料7-1-④-8：留学生・国際交流担当教員研究集会

平成25年度留学生指導教員及び事務担当者研修会実施要項

1. 目 的

栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校において、留学生に対する教育、指導・相談を担当する教員及び事務職員が一同に会し、留学生の受入れ・派遣における教職員相互の協力の在り方等について討議することにより、今後の留学生指導・支援の充実に資することを目的とする。

2. 主 催

栃木県地域留学生交流推進協議会

3. 期 日

平成25年11月21日(木)13時30分から15時30分まで

4. 場 所

とちぎ国際交流センター研修室

〒320-0033 宇都宮市本町9-14

☎028-621-0777 (公益財団法人栃木県国際交流協会業務課)

5. 参加予定人数

30名程度

6. 参加対象者

- ① 栃木県内の大学、短期大学、高等専門学校の留学生指導教員及び事務担当者
- ② 国立機関「東京入国管理局宇都宮出張所」、地方公共団体「栃木県産業労働観光部国際課、宇都宮市役所市民まちづくり部国際交流プラザ」及び国際交流関係団体「公益財団法人栃木県国際交流協会」の事務担当者

7. 内 容

情報交換を行う。

8. 日 程

別紙「日程表」のとおり

9. 経 費

参加に要する経費は、参加者側の負担とする。

10. 事 務 局

宇都宮大学学務部留学生・国際交流課

TEL：028-649-5099

FAX：028-649-5115

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-⑤-1：学生会規約

(1) 学生会規約

第1章 総 則

- 第1条 本会は、学生準則第21条に基づくもので、小山工業高等専門学校学生会と称する。
- 第2条 本会は、学校の教育方針にのっとり、学生の自発的な活動を通してその人間形成を助長し、相互の親和に啓発に努め、学生生活の向上を図ることを目的とする。
- 第3条 本会は、本校の学生会員を持って構成し、教員を顧問とする。
- 第4条 副校長（学生主事）及び本会の顧問教員は、総会、評議会等の各種会議に出席して本会の運営、活動について指導助言することができる。
- 第5条 会員は、学年を問わず会員としての平等な権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。
- 第6条 本会の活動は、総会の承認を得た予算及び事業計画に基づいて実施するものとする。

第2章 役 員

- 第7条 本会に次の役員を置く。
会長、副会長、会計局長、渉外局長、広報局長、庶務局長。
- 第8条 役員の任期は、4月1日から3月末日までとし、欠員補充などによって任命された役員の任期は前任者の在任期間とする。（なお、1～3月は引継ぎ期間とし、新旧役員は協力して活動を行う）
- 第1節 会長・副会長
- 第9条 会長は、本会を代表し、会務を執行する。
- 第10条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時はこれに代わる。
- 第11条 会長及び副会長は、全会員の選挙により選出し、校長の承認を受けらる。
- 第2節 会計局長
- 第12条 会計局長は、次のことをつかさどる。
 - 一 学生会の予算案及び決算書の作成
 - 二 決算及び会計監査に必要な書類の整備
 - 三 その他、会計に関する事務

- 120 -

第13条 会計局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第3節 渉外局長

第14条 渉外局長は、次のことをつかさどる。

- 一 他校学生会との情報交換
- 二 学生会に届く各種書類の処理
- 三 その他、渉外に関する事務

第15条 渉外局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第4節 広報局長

第16条 広報局長は、次のことをつかさどる。

- 一 学生会活動の会員への報告
- 二 広報委員会との連絡、機関新聞の発行
- 三 その他、広報に関する事務

第17条 広報局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第5節 庶務局長

第18条 庶務局長は、次のことをつかさどる。

- 一 学生総会及び各種運営委員会の記録
- 二 各種実行委員会との連絡、調整
- 三 各部の連絡、調整及び、活動状況の確認
- 四 その他、庶務に関すること

第19条 庶務局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第20条 庶務局長は、本会の主要行事に関する記録（写真を含む）を資料として保存しておかなければならない。保存する記録の基準は、次のとおりとする。

- 一 役員名簿
- 二 諸規約、予算決算報告書、事業計画及び同報告
- 三 各部の対外試合、発表会等の記録
- 四 文化祭等本会が実施した行事の記録
- 五 その他、本校の学生関係行事の記録

第3章 機 関

第21条 本会の目的を達成するため、次の機関を置く。

- 121 -

(以下省略)

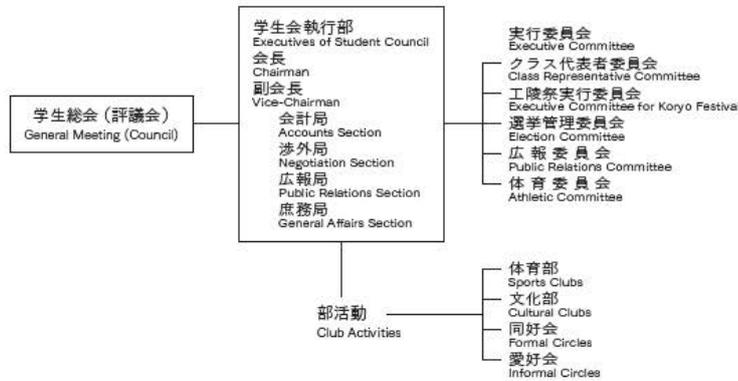
(出典：平成25年度学生便覧)

資料 7-1-⑤-2 : 学生会組織図及びクラブ一覧

学生会

Student Council (Students' Society)

学生会組織図 Student Council Chart



部活動 Extracurricular Activities

体育部	Sports Clubs
硬式野球部	Baseball
柔道部	Judo
剣道部	Kendo
陸上競技部	Track and Field
卓球部	Table Tennis
バスケットボール部	Basketball
サッカー部	Soccer
バレーボール部	Volleyball
ワンダーフォーゲル部	Wandervogel (Mountain Climbing)
水泳部	Swimming
空手道部	Karate
テニス部	Tennis
バドミントン部	Badminton
ソフトテニス部	Softball Tennis

文化部	Cultural Clubs
吹奏楽部	Wind Orchestra
写真部	Photography
軽音楽部	Light Music
シネマ研究部	Cinema (Study)
エレクトロニクス研究部	Electronics (Study)
機械工作研究部	Mechanical Engineering
自然生物研究部	(Natural Life) Bird Watching
文芸部	Literary Club
ハンドベル部	Hand Bell
演劇部	Drama



同好会・愛好会	Circles
将棋同好会	Shogi
自転車同好会	Bicycle
女子サッカー同好会	Women's Soccer
航空宇宙研究同好会	Aircraft-technology (Study)
模型同好会	Model
ソフトボール同好会	Softball
茶道同好会	Tea Ceremony
デザイン同好会	Design
女子バスケットボール同好会	Women's Basketball
ビジュアルアート研究愛好会	Visualart
フットサル愛好会	Futsal
弓道愛好会	Japanese Archery
天文愛好会	Astronomy
かわさきロボット研究愛好会	Kawasaki Robot (Study)
音楽研究愛好会	Music (Study)



(出典：学校要覧 2013)

資料 7-1-⑤-3 : 学生会各部指導教員一覧表

平成25年度 学生会各部指導教員一覧

部 名 (体育部)	指 導 教 員
硬 式 野 球 部	川上勝弥・有坂颯二・土田英一・山下 進・山田靖幸・那須裕規・岡田 晃
柔 道 部	千田正勝・本多良政・阿部弘樹・市村智康・今成一雄
剣 道 部	西井 圭・小林幸夫・有坂夏菜子・笠原雅人・亀山雅之・鈴木栄二
陸 上 競 技 部	三原大介・田中好一・土田英一・渥美太郎・甲斐隆章・長田朋樹・上村 孝
卓 球 部	北野達也・豊川斎赫・酒井 洋・小堀康功・中山昌尚・橋本彼路子
バスケットボール部	須甲克也・武 成祥・久保和良・北條恵司・高屋朋彰・ラホック
サ ッ カ ー 部	伊澤 悟・南斉清巳・平田克己・糸井康彦・上野 哲
バレーボール部	田中孝国・佐藤 巖・尾立弘史・石原 学・岡田 崇・藤井敬士
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・須甲克也・増淵 寿・上野 哲
水 泳 部	鹿野文久・笹沼いづみ・飯島道弘・森下佳代子・山西敏博・飯島洋祐・小笠原健
空 手 道 部	大島心平・酒入陽子・杉山桂子・朱 勤・関根健雄・中川英則
テ ニ ス 部	鈴木真ノ介・大島隆一・田中昭雄・井上次夫・川越大輔・堀 昭夫・永峰麻衣子
バドミントン部	山崎敬則・小林康浩・渡邊達男・佐藤篤史・長田朋樹・飯島洋祐
ソフトテニス部	横内 基・川村壮司・加藤岳仁・上田 誠・加島敬太

部 名 (文化部)	指 導 教 員
吹 奏 楽 部	柴田洋一・田中孝国・柴田美由紀・佐藤篤史
写 真 部	山下 進・田中昭雄・小林康浩・藤井敬士
軽 音 楽 部	佐藤篤史・久保和良
シネマ研究部	笠原雅人・小林幸夫・柴田美由紀・川越大輔
エレクトロニクス研究部	南斉清巳・今成一雄・平田克己
機械工作研究部	山下 進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄・北條恵司・鈴木栄二・藤井敬士
自然生物研究部	上村 孝・中山昌尚
文 芸 部	柴田美由紀・渥美太郎
ハンドベル部	山田靖幸・柴田洋一・糸井康彦・小笠原健
演 劇 部	森下佳代子・川越大輔

部 名 (同好会)	指 導 教 員
将 棋 同 好 会	笠原雅人
自 転 車 同 好 会	ラホック
女子サッカー同好会	飯島道弘
航空宇宙研究同好会	伊澤 悟・朱 勤・山下 進
ソフトボール同好会	糸井康彦・三原大介・飯島道弘
茶 道 同 好 会	橋本彼路子・永峰麻衣子
模 型 同 好 会	佐藤 巖
女子バスケットボール同好会	高屋朋彰・岡田 晃
デザイン同好会	橋本彼路子・永峰麻衣子

部 名 (愛好会)	指 導 教 員
ビジュアルアート研究愛好会	朱 勤
フットサル愛好会	三原大介・糸井康彦
弓 道 愛 好 会	糸井康彦・中川英則・関根健雄
天 文 愛 好 会	笹沼いづみ・加島敬太
かわさきロボット研究愛好会	川村壮司
音楽研究愛好会	大島心平

※部の新設、改廃等は学生総会で決定（演劇同好会は部に昇格、女子バスケットボール愛好会は同好会に昇格、天文愛好会、かわさきロボット研究愛好会、音楽研究愛好会を新設、ダンス愛好会、料理愛好会は廃部、以上については平成25年5月21日承認済み）デザイン愛好会は同好会に昇格（平成25年6月26日評議会承認済み）

（出典：学生委員会資料）

資料7-1-⑤-4：課外活動施設等一覧

体育施設の概要

施設名称	敷地面積	附属設備等
グラウンド	9,472	300mトラック(トラック内は天然芝で多目的に使用)、器具庫
野球場・サッカー場	11,485	屋外便所
テニスコート	4,782	人工芝6面、テニス練習板
第一体育館	1,106	ステージ、舞台設備、トレーニング設備、バレー・バスケット他、温水シャワー
第二体育館	880	バレー・バスケット他、温水シャワー
武道館	349	柔道、剣道
水泳プール	524	25m×5コース、屋外プール、温水シャワー

体育施設は、授業や課外活動に使用するほか、休日等の未使用時には地域開放にも供している

(出典：総務課施設係資料)

資料7-2-①-1：学生委員会規程

小山工業高等専門学校学生委員会規程

制 定 昭和42年4月1日

最終改正 平成22年4月1日

第1条 小山工業高等専門学校に、学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の身上に関する事。
- 二 学生会及び学生団体に関する事。
- 三 課外活動及び学生生活に関する事。
- 四 学生の保健衛生に関する事。
- 五 その他学生の厚生補導に関する事。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 副校長（学生主事）
- 二 学生主事補
- 三 専門学科教員から各1名及び一般科教員から2名
- 四 学生課長
- 五 その他校長が必要と認めたもの

第4条 委員会は、副校長（学生主事）が招集し、その議長となる。

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

第6条 委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

（出典：小山高専HP）

資料 7-2-①-2 : 学生支援室規則

小山工業高等専門学校学生支援室規則

制 定 平成 13 年 1 月 15 日
最終改正 平成 16 年 4 月 1 日

(設置の目的)

第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生の様々な悩みに応えることにより、学生が本校において円滑な学生生活を送ることができるように、適切な助言及び援助等を行うこと（以下「学生支援」という。）を目的として学生支援室（以下「支援室」という。）を置く。

(支援室の業務)

第 2 条 支援室においては次に掲げる業務を行う。

- 一 修学に係る学生の個人的な相談・支援に関すること。
- 二 奨学金や学費等の経済的な問題の相談・支援に関すること。
- 三 進学や就職等の進路の相談・支援に関すること。
- 四 セクシュアル・ハラスメントの相談・支援に関すること。
- 五 学生の個人的な精神・心理的な心因性の問題の相談に関すること。
- 六 前各号の業務の実施に必要な資料の作成及び調査研究に関すること。
- 七 その他学生の相談・支援に関すること。

(相談員)

第 3 条 支援室には次の相談員を置く。

- 一 室長 1 名
 - 二 カウンセラー 若干名
 - 三 室員 若干名
- 2 室長及び室員は、本校教員の中から校長が任命する。
- 3 カウンセラーは、カウンセリングに関する専門的知識や経験を有する者を当て、校長が委嘱する。

(任期)

第 4 条 室長の任期は 2 年とし、室員及びカウンセラーの任期は 1 年とする。

2 相談員は、これを再任することができる。

(支援室業務の処理)

第 5 条 室長は、校長の命を受け、支援室の業務を掌理する。

2 室員は室長を補佐し、支援室の業務に従事する。

(相談員の義務)

第 6 条 相談員は、業務上知ることができた秘密を漏らしはならない。相談員を退いた後といえども同様とする。

2 相談員は、必要に応じてカウンセリング等に関する専門的な研修を受けるものとする。

(委員会の設置)

第 7 条 支援室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(委員会の組織)

第 8 条 委員会には次の委員をもって組織する。

- 一 室長
- 二 室員
- 三 学生課長
- 四 学生係長

(委員長)

第 9 条 委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。

(会議)

第 10 条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めるときは委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第 11 条 支援室及び委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

(出典：小山高専HP)

資料7-2-①-3：相談担当者カレンダー

学生支援室 2013年6月				相談日時、場所、相談担当者カレンダー		
SUN	MON	TUE	WEN	THU	FRI	SAT
2	3 横内教員 15~17	4 高濱カウンセラー13~16:30 鹿野教員 15~17	5 前期中間	6 前期中間	7 前期中間	1/8
9	10 前期中間	11 前期中間 スポーツ救急講習会	12 秋揚(美)カウンセラー13~17 田中(孝)教員 13~15	13 森下教員 15~17 須甲教員 15~17	14 上兼カウンセラー13~17 田中(昭)教員 15~17 山下教員 15~17	15
16	17 横内教員 15~17	18 鹿野教員 15~17	19 秋揚(博)カウンセラー13~17 田中(孝)教員 13~15	20 森下教員 15~17 須甲教員 15~17	21 上兼カウンセラー13~17 山下教員 15~17	22
23	24 横内教員 15~17	25 高濱カウンセラー13~16:30 鹿野教員 15~17	26 秋揚(美)カウンセラー13~17 田中(孝)教員 13~15	27 森下教員 15~17 須甲教員 15~17	28 上兼カウンセラー13~17 田中(昭)教員 15~17 山下教員 15~17	29
30						



上のカレンダーの時間に学生支援室(保健室のとなりのへや)や保健室で相談を行っています。相談事・おしゃべり等なんでも気軽に来てください。
就職関係の相談もどうぞ！！
教員の相談は、各教員室で行っています。場所がわからないときは、保健室まで来てください！！



(資料：学生支援室資料)

資料 7-2-①-4 : 学生支援室会議議事録の一部

<p>平成25年度 学生支援室会議 議事概要</p> <p>学生支援室会議 日時:平成25年5月16日16時～17時 場所:管理棟2階学生支援室 参加者: []</p> <p>学生支援室員会議および情報交換会を実施。 1. 今年度活動について例年通り、各支援室員が個別に学生相談に対応し相談内容によって、支援室長、保健室、カウンセラーと連携を取りながら対応することを確認。 2. 新年度から現在に至るまでの各科の学生に関する情報を交換し共有。 3. 今年度より機構の要請で、月1度程度精神科医の先生が来校することになり、学生支援室としても精神科医の先生に、どういことをお願いしたらよいのか討議。取りあえずそれぞれの室員の抱えている案件を相談することとなった。</p> <p>学生支援室会議(メール審議) 日時:平成25年7月11日 参加者: []</p> <p>学生支援室からの「校長裁量経費」申請について 学生支援室と保健室の連携を考慮した環境整備という表題で、現在隣り合う、学生支援室と保健室の総合的なレイアウトや環境整備について予算申請することを学生支援室員に提案し、了承された。 新規のソファ、パーテーション、観葉植物等の整備を申請し認められた。</p> <p>学生支援室員会議 日時:平成25年9月19日15時～16時 場所:学生支援室 参加者: []</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期実施予定 学生のメンタルに関するアンケート内容についての確認 ・ここ3ヶ月全員が集まったの室員会議が未開催だったので、お互いの情報交換を実施。 ・ ・ ・ <p>学生支援室会議(メール審議) 平成26年3月10日 参加者: []</p> <p>校長裁量経費の実施報告書の原案提示と確認作業を実施。 申請時と異なるものとして、支援室専用のノートパソコンの購入をしたことにより、相談業務の機動性が上がったことを確認。特に学生支援に関する講習会等においても、プレゼン用のコンテンツの入っている専用ノートパソコンが有用であることが確認された。 実施報告書の内容が確認されたので、近日中に提出予定。</p>
--

(出典：学生支援室資料)

資料7-2-①-5：学生支援室相談受付状況

学生相談件数(H25年度)

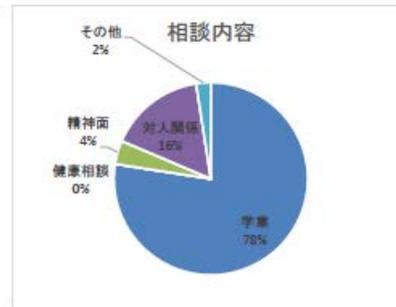
	学業	健康相談	精神面	対人関係	その他	計
4月	53	0	1	19	0	73
5月	78	0	2	21	0	102
6月	75	0	1	27	2	103
7月	74	0	5	18	4	101
8月	26	0	1	17	0	44
9月	27	0	4	4	4	49
10月	61	0	5	20	1	87
11月	85	0	6	7	1	99
12月	84	0	7	10	4	105
1月	88	0	4	7	2	101
2月	69	0	3	6	0	78
3月	43	0	0	3	6	52
計	763	0	39	159	24	994

73【学業】修学・進路(休退学含)・課外活動等

【健康相談】体調不良・食欲不振等・不眠
【精神面】心の病(うつ等)・自分の性格・孤立(無視)・クラスに不応・不登校・情緒不安
リストカット・アームカット
引きこもり等

【対人関係】友達・異性・教員・クラブ顧問等

【その他】経済面・家族問題・寮生活
交通事故等



学業	健康相談	精神面	対人関係	その他
763	0	39	159	24

(出典：学生支援室資料)

資料 7-2-①-6 : 全校一斉に行う健康診断について

平成25年度 年間行事予定表 (前期)

前期	日	月	火	水	木	金	土	備考
	31	1 (春期休業) △教職員会議	2 (春期休業)	3 (春期休業) 開寮 ◇各種委員会	4 入学式・始業式	5 1年ガイダンス	6	
	7	8 ◎総務会議	9	10 1年日帰り研修 口運営会議	11 学生健康診断 PM1年ガイダンス	12	13	
4月	14	15	16	17	18	19	20	
	21	22	23	24 (通常授業) 開校記念日	25	26	27	
	28	29 昭和の日 祝 (通常授業)	30	1 ◇各種委員会	2	3 憲法記念日 祝	4 みどりの日 祝	

平成 25 年度 第 1 回学生委員会議事録

日 時 平成 25 年 04 月 03 日 (水) 15 時 10 分～16 時 05 分
 場 所 中会議室
 出席者 副校長 (学生主事) : 小林 (幸)
 学生主事補 : 酒入、大島 (隆)、田中 (孝)、鈴木 (真)
 学生委員 : 有坂 (顕)、岡田 (崇)、山崎、山田、大島 (心)、
 川越、横内
 学生係 : 山口、堀江

議 題

依頼事項

1. 通学指導について

.....

2. 健康診断について

副校長から、下記のように説明があった。なお、4月1日に学級担任等との打合せ済みの旨併せて説明があった。

- ・4/11(木)実施 8:30～2年、1年、3年、13:00～4年、5年、専攻科の順
- ・担任等へ連絡した事情のある未受診者は、下記のように保健室にて検査を実施予定、指導依頼 (下記対応はあくまで「事情のある」学生のみであり、できるだけ11日に受診させるよう)

尿検査・・・4/17(水)のみ～14:00まで
 他の検査(心電図・レントゲン以外)・・・4/12～4/17 保健室にて、各自都合のつく時間に受診

平成 25 年度 第 2 回学生委員会議事録

日 時 平成 25 年 5 月 1 日 (水) 15 時 10 分～16 時 05 分
 場 所 中会議室
 出席者 副校長 (学生主事) : 小林 (幸)
 学生主事補 : 酒入、大島 (隆)、田中 (孝)、鈴木 (真)
 学生委員 : 有坂 (顕)、岡田 (崇)、山崎、山田、大島 (心)、川越、
 横内
 学生係 : 山口、堀江

・新入生ガイダンス、健康診断、日帰り研修について
 副校長から、今年度の日帰り研修は、遅刻者が1名出たが、対応については事前周知していたために待たずに出発した。研修先では学生も活発に質問をするなどよい研修となった旨報告があった。また、反省点等があれば報告していただくよう依頼があった。
 健康診断の受診結果については99.8%、未受診者対応の4/17(水)受診で100%を達成した。

(出典：学生課学生係資料)

資料 7-2-①-7 : 学生支援室活動の周知

▶ トップページ

▶ 最新情報
 ▶ 受験生の方へ
 ▶ 地域・企業の方へ
 ▶ 学生・保護者の方へ
 ▶ 卒業生の方へ

検索

検索...

検索

学生支援室



学生支援室が、みなさんを応援しています。

高専で学んでいる学生のみなさんは、日々の忙しい生活の中で、まわりの人に話せないような悩みを抱えてしまうかもしれません。学生支援室は、みなさんの相談にのりたい、力になりたいと思っています。困ったとき、悩んだときは、学生支援室を訪れてください。

相談内容

自分に関すること
 人間関係に関すること
 日常生活に関すること
 いじめ、セクシャルハラスメントに関すること
 学業、進路に関すること

秘密は守ります!!

相談の中で知り得た情報を外部に漏らすことはありません。

相談方法

カウンセラーによる相談と、学生支援室員による相談があります。

- カウンセラーによる相談は、学生支援室（保健室となり）で受けられます。

臨床心理士の先生

火曜日 午後1時～4時30分

水曜日 午後1時～5時

金曜日 午後1時～5時

- 学生支援室員（教員）による相談は教員室で相談を受けています。相談場所、時間等の詳細は教室掲示の学生支援室カレンダーをご覧ください。
- カウンセリングの予約は、保健室でも受付けています。

（出典：小山高専ホームページ）

資料 7-2-①-8 : 授業料免除実施状況及び奨学金受給状況

授業料免除者数

年度(前期・後期)		全額免除人数	半額免除人数	年度合計数
平成23年度	前期	28	7	67
	後期	26	6	
平成24年度	前期	26	7	63
	後期	23	7	
平成25年度	前期	18	3	42
	後期	18	3	

日本学生支援機構奨学生状況
Japan Student Services Organization

平成25年度

区分 \ 学年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	計
	第1種奨学生	8	6	10	13	10	3	1
第2種奨学生				1	0	0	0	1
計	8	6	10	14	10	3	1	52

小山工業高等専門学校育英奨学金

年度	人数	金額
平成 23 年度	2 名	200,000 円
平成 24 年度	1 名	200,000 円
平成 25 年度	3 名	600,000 円

(出典：学生課学生係資料)

資料7-2-②-1：留学生用シャワー室および留学生用補食室



(出典：学生寮)

資料7-2-②-2：合同研修計画書

〔別紙1〕

平成25年度関東信越地区国立高等専門学校外国人留学生交流会実施要項

1. 目的

関東信越地区7高専に在学する外国人留学生が一堂に会して、それぞれ出身国の状況や日本在留中の勉学・生活状況等の情報交換を行うことにより、お互いの理解を深める。また、日本留学の意義を再確認し、今後の留学生生活をより有意義で充実したものとすること及び日本をはじめ留学生の出身国についても理解を深める。また、日本の文化・風土・自然・技術への理解を深める。

2. 開催期日 平成25年10月12日(土)～14日(月)

3. 主 幹 東京工業高等専門学校
代 表 校長 古屋 一仁
国際室長 竹田 恒美
企画・実施 留学生支援委員会
実施責任者 留学生支援委員長

4. 会場及び宿泊場所(予定)

【宿泊先】
1日目 八王子プラザホテル(予定)
2日目 未定

5. 開催日程(予定)

第1日目 10月12日(土)

12:30	狭間駅集合(昼食無し)
12:50	受付:東京高専
13:00～13:40	開講式
14:30～17:00	高尾山周辺見学
17:50	ホテル着
18:30	情報交換会

第2日目 10月13日(日)

朝食	
8:00	集合:ホテル玄関前
10:30～12:30	都内見学(浅草等)

12:40～13:30	昼食
15:00～16:00	都内見学(スカイツリー等)
17:00	ホテル着
19:00	夕食

第3日目 10月14日(月)

朝食	
8:00	集合:ホテル玄関前
9:00～12:00	都内見学(江戸東京博物館、秋葉原等)
12:45～14:00	昼食・閉講式 東京駅解散

※見学・体験の内容は変更になる場合があります。

6. 参加校 茨城高専、群馬高専、小山高専、木更津高専、東京高専、長岡高専、長野高専

7. 対象留学生及引率教職員 各高専とも本年度受け入れた留学生(3年生)を基本として5名以内。(但し、本年度受け入れた留学生が5名を越える場合は、5名以上可能)、引率教職員1名。

8. 担当者連絡先 東京工業高等専門学校
学生課 教務係 中田・藤田
TEL:042-668-5127(直通)
FAX:042-668-6092(課直通)
E-mail:kyoumu@tokyo-ct.ac.jp

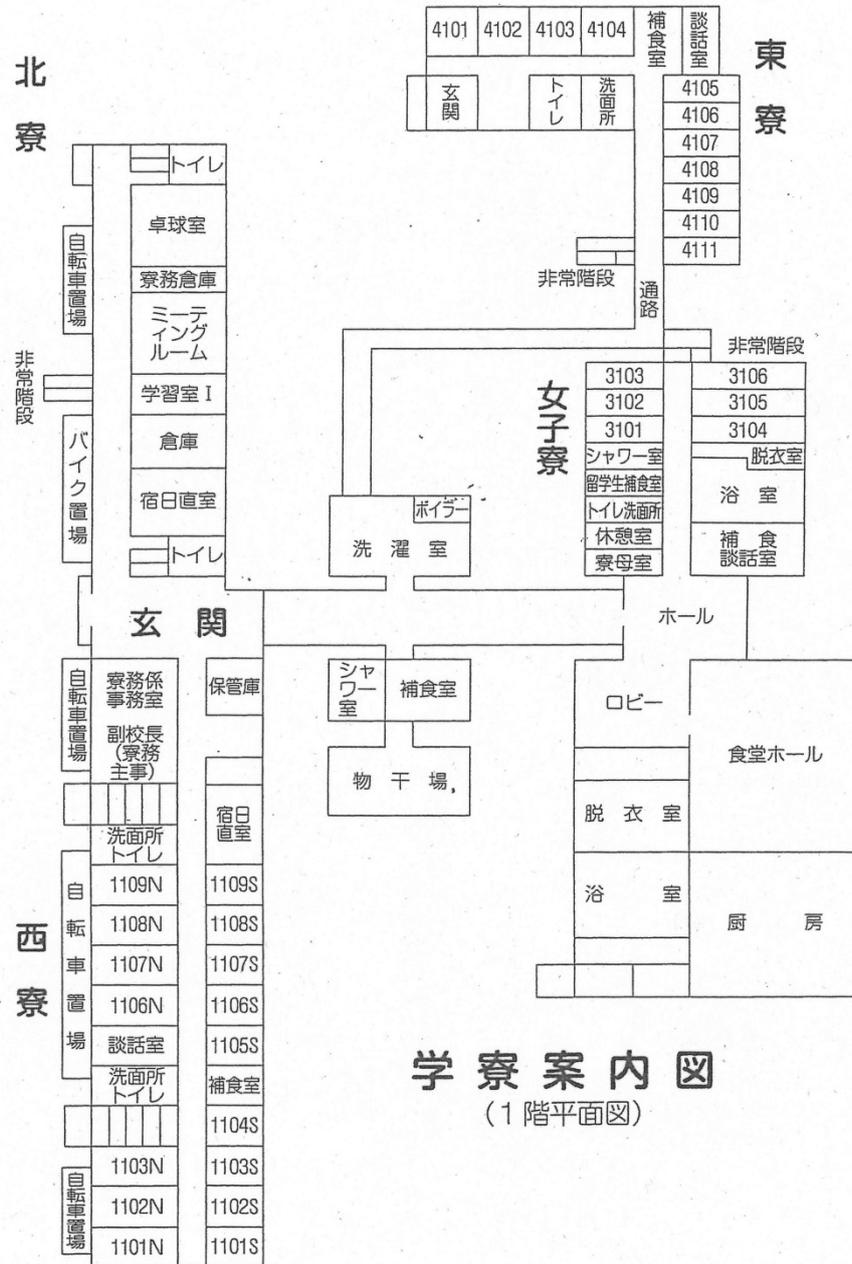
(出典：学生課学生係資料)

資料7-2-②-3：車椅子用スロープ・身障者用トイレ



(出典：学生課学生係資料)

資料7-2-③-1 : 学寮案内図



学寮案内図
(1階平面図)

(出典：学生課寮務係資料)

資料7-2-③-2：入寮状況

(毎年度5月1日現在)

区分 年度	学生数(人)			入寮者数(人)			学生数に対する入寮率(%)		
	男(a)	女(b)	計(c)	男(イ)	女(ロ)	計(ハ)	男	女	計
							(イ/a*100)	(ロ/b*100)	(ハ/c*100)
20	926	154	1080	147	41	188	15.87	26.62	17.41
21	925	138	1063	139	32	171	15.03	23.19	16.09
22	964	135	1099	141	28	169	14.63	20.74	15.38
23	955	135	1090	148	27	175	15.50	20.00	16.06
24	945	132	1077	125	27	152	13.23	20.45	14.11
25	940	133	1073	120	23	143	12.77	17.29	13.33

※ 注) 留学生、専攻科生を含む。

(出典：学生課寮務係資料)

資料7-2-③-3：2年指導寮生による学習会

学科名	MAC 月曜 14日	DE 火曜 15日	MAC 水曜 16日	DE 木曜 17日
5月	21日	22日	23日	24日
	28日	29日	30日	31日
6月	4日	5日	6日	7日
	11日	12日	13日	14日
	18日	19日	20日	21日
	25日	26日	27日	28日
7月	2日	3日	4日	5日
	9日	10日	11日	12日
	16日 海の日	17日	18日	19日

(出典：学生寮掲示板)

資料7-2-③-4：ボランティア教員による学習会 (寮務委員会議事概要抜粋)

学習会(1)：中間試験を前に有志教員参加による学寮の学習会を5/28(火)・29(水)・30(木)の3日間実施(参加教員：延べ14名)。会場を急遽追加(卓球室に食堂の卓子を運び入れ)。

学習会(2)：今回も中間試験前の11/18(月)・19(火)・20(水)有志教員延べ13名の協力により学習会が行われ、参加寮生は延べ50名であった。

学習会(3)：1月28日(火)・1月29日(水)・1月30日(木)有志教員のご協力により、学寮学習会を実施。3日間で学生40名の参加があった。今後も継続していく予定である。

(出典：寮務委員会議事概要)

資料7-2-③-5：学生寮 談話室、無線LAN、入退居カードシステム

談話室



無線LAN



入退居カードシステム



(出典：学生課寮務係資料)

資料7-2-③-6：寮生会規約

寮 生 会 規 約

(総 則)

第1条 本会は、寮生心得 (昭和49年4月11日制定、以下「寮生心得」という。)(12.寮生会組織)に基づくもので、小山工業高等専門学校寮生会と称する。

第2条 本会は寮生心得に則り、共同生活を自律的に営み、寮生相互の連絡を密接かつ円滑にすることを目的とする。

第3条 本会は、本校寮生全員 (ただし、専攻科寮生を除く。以下同じ。) をもって構成する。

第4条 会務は、学年を問わず会員として平等の権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。

(役 員)

第5条 本会に次の役員を置く。

一 寮 長 1名	
二 副 寮 長 西棟1名	
三 企画委員長 1名	企画委員 若干名
四 記録委員長 1名	記録委員 若干名
五 会計委員長 1名	会計委員 若干名
六 庶務委員長 1名	庶務委員 若干名
七 交通委員長 1名	交通委員 若干名
八 生活美化委員長 1名	生活美化委員 若干名
九 軍 務 各室1名	
十 その他、寮務に必要な応じて、専門役員を任命することができる。	

第6条 役員の出選及び任期は、次のとおりとする。

- 寮長は、全寮生の選挙によって選出される。
- 第5条第2項から第8項までの役員は、寮長が選出し、総会の承認を受けるものとする。
- 寮長は、室長の互選による。
- 役員の出選は、5か月とする。ただし、再任は妨げない。
- 欠員補充による役員の出選は、前任者の任期とする。

第7条 室長の任期は、次のとおりとする。

- 寮長は、本会を代表し、会務を執行する。
- 副寮長は、寮長を補佐し、寮長に事故があるとせば、これに代わる。
- 企画委員は、本会の行事の企画運営に当たる。
- 記録委員は、本会の記録に当たる。
- 会計委員は、本会の会計を掌理する。

第8条 本会に次の機関を置く。

- 総 会
- 役員会

第9条 総会は、本会の最高議決機関であり、全寮生によって構成される。

- 総会は事後が必要と認められた場合及び構成員の過半数が必要と認められた場合に開かれ、全寮生の三分の二以上の出席により成立する。
- 総会は、出席者の過半数以上の賛成をもって議決とする。

第10条 役員会は、総会の任務遂行を目的とする。

- 役員会は、寮長が必要と認めた場合及び全寮生の過半数が必要と認められた場合に開かれる。

(会 計)

第11条 本会の業務に関する資金は、会員の会費及びその他をもって充てる。

第12条 本会の会費は、総会において、その額を決定する。

(家長の選挙)

第13条 寮長の選挙に関する一切の事項は、選挙管理委員会が、これに当たる。

第14条 選挙管理委員会は、必要に応じて選ばれるものとし、総会において選出される3名の寮生を委員として構成する。

第15条 選挙管理委員長は、委員の高田による。

第16条 選挙管理委員会は、次のことを行う。

- 選挙日の告示
- 立候補者の取り扱ひ
- 立候補者の人物・身長の簡易簡説
- 立候補者の白紙及び方法の決定
- 投票方法の決定
- 開票事務及び投票の秘密

第17条 寮長は、立候補者として、立候補しようとする者は選挙日の7日前までに、2名以上の推薦者が署名捺印した形式の届け出を選挙管理委員会に提出するものとする。

第18条 選挙日の4日前までに立候補者がいない場合は、役員会が推薦した者に対して委任投票を行う。なお、委任投票の方法は、選挙管理委員会が定める。

第19条 立候補者は、届け出と同時に選挙投票を行うことができる。

第20条 選挙日時は、選挙管理委員会が決定する。ただし、選挙日の告示は、寮務と

— 18 —

して投票日の4日前までに執行するものとする。

第21条 不在投票及び委任投票は認めない。

第22条 投票の最多票をもって当選とする。ただし、投票数が投票総数の過半数に達しない場合は、最多得票数と次点者の2名で決選投票を行う。

第23条 開票は投票日に選挙管理委員会が行う。

- 開票は、1回のみで行う。

第24条 選挙の結果は、選挙管理委員会が公表するものとする。

第25条 選挙管理委員会は、立候補者の取扱はできない。また、すべてに対して公正中立でなければならない。

第26条 選挙管理委員長は、選挙の結果を別校長 (専務主事) を経て校長に報告する。

第27条 その他、選挙の実施に関する必要事項については、選挙管理委員会が別校長 (専務主事) の指導監督を得て定める。

(規約の改正)

第28条 この規約は、寮生の賛成により総会において出席者の三分の二以上の賛成がある場合に改正することができる。

附 則

この規約は、昭和43年5月9日より施行する。

附 則

この規約は、昭和51年9月1日より施行し、昭和51年4月1日より適用する。

附 則

この規約は、平成8年4月1日より施行する。

附 則

この規約は、平成11年4月1日より施行する。

附 則

この規約は、平成22年4月1日より施行する。

— 19 —

(出典：平成25年度寮生しおり)

資料 7-2-③-7 : 平成 25 年度学寮行事予定表

平成25年度 学寮行事予定表 (前期)

▲ 登録委員会関係予定日

期日	日	月	火	水	木	金	土	備考
4月	02	1	2	3	4	5	6	入学式 4/2
	7	8	9	10	11	12	13	入学式 4/3
	14	15	16	17	18	19	20	入学式 4/4
	21	22	23	24	25	26	27	入学式 4/5
	28	29	30	31				入学式 4/6
5月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/7
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/8
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/9
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/10
	29	30	31					入学式 4/11
6月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/12
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/13
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/14
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/15
	29	30	31					入学式 4/16
7月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/17
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/18
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/19
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/20
	29	30	31					入学式 4/21
8月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/22
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/23
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/24
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/25
	29	30	31					入学式 4/26
9月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/27
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/28
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/29
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/30
	29	30	31					入学式 4/31

平成25年度 学寮行事予定表 (後期)

期日	日	月	火	水	木	金	土	備考
10月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/32
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/33
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/34
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/35
	29	30	31					入学式 4/36
11月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/37
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/38
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/39
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/40
	29	30	31					入学式 4/41
12月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/42
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/43
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/44
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/45
	29	30	31					入学式 4/46
1月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/47
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/48
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/49
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/50
	29	30	31					入学式 4/51
2月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/52
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/53
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/54
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/55
	29	30	31					入学式 4/56
3月	01	02	03	04	05	06	07	入学式 4/57
	08	09	10	11	12	13	14	入学式 4/58
	15	16	17	18	19	20	21	入学式 4/59
	22	23	24	25	26	27	28	入学式 4/60
	29	30	31					入学式 4/61

※開寮日前日及び閉寮日当日の食点は、20:00からです。

(出典：平成 25 年度寮生のしおり)

資料 7-2-③-8 : 「青嵐寮」ホームページ



(出典：小山高専HP)

資料7-2-④-1：進路支援室規程

小山工業高等専門学校進路支援室規程

制 定 平成16年4月1日

最終改正 平成22年4月1日

(設置の目的)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生の就職及び進学に関連する事項の検討と方針を決定し、学生に対する適切な指導、助言、援助等及び就職先の開拓を行うことを目的として、小山工業高等専門学校進路支援室（以下「進路支援室」という。）を置く。

(組織)

第2条 進路支援室は次に掲げる者をもって組織する。

- 一 各学科及び各専攻科進路担当教員
- 二 その他校長が必要と認めた者

2 進路支援室に室長を置き、学生主事補をもって充てる。

(任務)

第3条 進路支援室においては、次に掲げる業務を行う。

- 一 就職先の開拓に関すること。
- 二 就職に関すること。
- 三 就職指導及び情報の収集並びに提供に関すること。
- 四 進学指導及び情報の収集並びに提供に関すること。
- 五 その他就職・進学に関すること

(事務)

第4条 進路支援室に関する事務は、学生課において処理する。

(出典：小山高専HP)

資料7-2-④-2：進路指導担当教員の打ち合わせ会案内

H25/11/29

就職、進学指導に関する打ち合わせ

副校長（学生主事）小林 幸夫
進路支援室担当 田中 孝国
進路支援室担当 鈴木 真ノ介

日 時：11月29日（金）14:00～

場 所：電物棟2F 201ゼミ室

打ち合わせ内容：

- (1) 就職協定に関する資料配布と内容確認

- (2) 今年度の就職・進学状況について、

- (3) 今年度の就職・進学に対する5年生担任の指導についてのご意見、問題点など

- (4) その他

注意）就職協定では、現在のところ選考活動は4月1日以降となっており、公に学校から4月以前に就職活動してください、とは指示はできないのが現状です。
しかし、4月1日から会社調査、書類作成・応募などをしていても対策が間に合わず、内定をいただけないケースが多々見受けられます。このため、あくまで水面下での学生自身の事前対策活動を担任がサポートしていただけたら助かります。尚、大幅な就職協定の変更は2015年度からです。

（出典：進路支援室資料）

資料7-2-④-3：進路説明会の開催案内

2013 進路関係説明会

日 時：平成25年12月3日（火） 13:30～16:00（防災訓練終了後）

場 所：図書館棟1F視聴覚教室

対 象：本科4年生および専攻科1年生（自由参加形式）

内 容：

[1] 開 会 (13:30)

[2] あいさつ 小山高専副校長（学生主事） 小林 幸夫 先生

[3] 就職・進路説明会 (13:35～16:00)

(1) 就職活動支援 (13:35～15:05)

「履歴書、エントリーシート、面接などについて」

株式会社マイナビ 北関東支社 橋口 敦子様

(2) 労働法に関する説明 (15:10～15:25)

栃木県小山労政事務所 主査 山本 智巳様

(3) 進学・就職活動の進め方について (15:25～15:40)

小山高専進路支援室担当 田中 孝国

(4) 小山高専専攻科の紹介 (15:40～15:55)

小山高専専攻科長 亀山 雅之 先生

（出典：学生委員会資料）

資料 7-2-④-4 : 学内サーバによる情報提供

就職・進学情報

学内専用(学外からは閲覧できません)

< 最近の更新事項 > *new*

- 求人票(本科、専攻科) 平成25年度 登録数 233件(1月25日現在)
平成24年度 登録数 644件(1月21日現在)
 - 大学編入、大学院、専攻科案内 平成25年度 (12月14日現在)
平成24年度 (12月14日現在)
 - 大学編入学過去問題
新規追加: 東北大学工学部 (1月7日) *new*
 - 平成23年度就職先一覧、進学先一覧追加掲載(6月21日)
 - 2011年版 主要企業の採用試験最新データ 出題情報ブック
 - キャリア支援関連リンク 職業ガイダンスブック(2010年版)
- 最新情報はページの再読み込み(更新)をしてください

求人企業情報ページ

- 求人票
公開開始(H26年3月卒業者向け) *new*
(H25年3月卒業者向け) *new*
(H24年3月卒業者向け)
(H23年3月卒業者向け) (H22年3月卒業者向け)
(H21年3月卒業者向け) (H20年3月卒業者向け)

- 就職活動の流れ
・学校への提出書類等

- 主要企業の採用試験最新データ
2012年版 出題情報ブック

- リクナビ2014 *new*
・学生・大学院生のための就職情報

- 就職先企業状況一覧
・平成23年度 ・平成22年度
・平成21年度 ・平成20年度
・平成19年度 ・平成18年度
・平成17年度 ・平成16年度

- 平成22年度の学生の就職・採用活動について
・「大学、短期大学及び高等専門学校卒業予定者に係る就職について(甲合せ)」
・平成20年度学生の就職・採用活動に関する調査結果
・新規学校卒業者の採用内定取消しに対する適正な対応について

各種証明発行願(記入例がありますので確認して下さい)

- 各種証明書発行願の書式 ■ 記入例(就職の場合、進学の場合)

キャリア支援関連リンク

- 小山高専 インターンシップ情報HP
- 小山高専 先進的キャリア教育推進室HP
- しごとインタビュー ■ 職業ガイダンスブック(2009年版)

編入・大学院情報ページ

- 編入学・大学院案内
公開開始(H26年3月卒業者向け) *new*
(H25年3月卒業者向け) *new*
(H24年3月卒業者向け)
(H23年3月卒業者向け) (H22年3月卒業者向け)
(H21年3月卒業者向け) (H20年3月卒業者向け)

注意! 学校経由推薦の申込提出は
各大学受付開始の1週間前

- 進学手続きの流れ

- 専攻科・大学編入・大学院入学状況一覧
・学科別
・年度別

- 編入学試験の過去問題等 *new*

管理者 小山工業高等専門学校
学生課学生係

(出典: 小山高専HP (学内向け))

資料 7-2-④-5 : 進路 (就職、進学) 状況

進路状況 Courses after Graduation

平成24年度卒業生 2012

区分 Classification	卒業生 The number of Graduates			就職者数 Number of New Graduates Who Have Positions in Companies			進学者数 The Number of Entrants into Universities			その他 Number of the Others		
	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
機械工学科 Mechanical Engineering	41	1	42	28	1	29	12	0	12	1	0	1
電気情報工学科 Electrical and Computer Engineering	36	3	39	17	2	19	17	1	18	1	0	1
電子制御工学科 Electronic Control Engineering	36	3	39	14	2	16	22	1	23	0	0	0
物質工学科 Materials Chemistry and Bioengineering	26	9	35	10	3	13	16	6	22	0	0	0
建築学科 Architecture	25	5	30	8	5	13	15	0	15	1	0	1
計 Total	164	21	185	77	13	90	82	8	90	3	0	3

求人状況と就職決定状況 Job Offer and Employment Situation of Graduates

平成24年度卒業生 2012

区分 Classification	就職希望者数 (A) Applicants (A)			求人数 (B) 人 Job Offers (Persons)	就職決定者 (C) Number of New Graduates Who Positions in Companies (C)			求人倍率 B/A Rate of Positions Offered
	男 Male	女 Female	計 Total		男 Male	女 Female	計 Total	
機械工学科 Mechanical Engineering	28	1	29	494	28	1	29	17.0
電気情報工学科 Electrical and Computer Engineering	18	2	20	519	17	2	19	26.0
電子制御工学科 Electronic Control Engineering	14	2	16	454	14	2	16	28.4
物質工学科 Materials Chemistry and Bioengineering	10	3	13	234	10	3	13	18.0
建築学科 Architecture	9	5	14	235	8	5	13	16.8
計 Total	79	13	92	1,936	77	13	90	21.0

進路状況 Courses after Completion of Advanced Course

平成24年度修了生 2012

区分 Classification	修了者数 The number of Graduates			就職者数 Number of New Graduates Who Have Positions in Companies			進学者数 The Number of Entrants into Universities			その他 Number of the Others		
	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total	男 Male	女 Female	計 Total
機械工学コース Mechanical Engineering	4	0	4	2	0	2	0	0	0	2	0	2
電気情報工学コース Electrical and Computer Engineering	4	0	4	2	0	2	2	0	2	0	0	0
電子制御工学コース Electronic Control Engineering	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0
物質工学コース Materials Chemistry and Bioengineering	3	1	4	2	1	3	1	0	1	0	0	0
建築学コース Architecture	6	1	7	5	1	6	0	0	0	1	0	1
計 Total	18	2	20	11	2	13	4	0	4	3	0	3

求人状況と就職決定状況 Job Offer and Employment Situation

平成24年度修了生 2012

区分 Classification	就職希望者数 (A) Applicants (A)			求人数 (B) 人 Job Offers (Persons)	就職決定者 (C) Number of New Graduates Who Positions in Companies (C)			求人倍率 B/A Rate of Positions Offered
	男 Male	女 Female	計 Total		男 Male	女 Female	計 Total	
機械工学コース Mechanical Engineering	2	0	2	312	2	0	2	156.0
電気情報工学コース Electrical and Computer Engineering	2	0	2	339	2	0	2	169.5
電子制御工学コース Electronic Control Engineering	0	0	0	295	0	0	0	—
物質工学コース Materials Chemistry and Bioengineering	2	1	3	141	2	1	3	47.0
建築学コース Architecture	5	1	6	162	4	1	5	27.0
計 Total	11	2	13	1,249	10	2	12	96.1

(出典：学校要覧 2013、p. 31-p. 33)

資料 8-1-①-1 : 施設の概要

施設の概要

OYAMA NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY
2013

施設の概要

Facilities

CAMPUS MAP

北

東門

正門

西門

敷地 Land

総面積 Land Area	110,176㎡	運動動機敷地 Ground Area	29,276㎡
図学舎敷地 College Building Area	60,582㎡	図学舎敷地 Dormitory Area	9,156㎡
図学舎敷地 Staff Housing Area	11,162㎡		

建物 Buildings

1 一般・管理棟	General Education & Administration Office Building
2 電気情報・物質工学科棟	Electrical Engineering & Materials Chemistry Building
3 機械工学科棟	Mechanical Engineering Building
4 電子制御工学科棟	Electronic Control Engineering Building
5 建築学科棟	Architecture Building
6 専攻科棟 (テクノ棟)	Advanced Course Building
7 講義棟	General Lecture Building
8 図書情報センター	Library and Information Network Center
9 情報科学教育研究センター	Education and Research Center for Information Science
10 地域連携共同開発センター	Regional Collaboration and Cooperative Research Center
11 地域連携共同開発センター 別館	Regional Collaboration and Cooperative Research Center Extension
12 ものづくり教育研究センター	Education and Research Support Center for Manufacturing
13 建築学科実験室	Architecture Laboratory
14 第一体育館	Gymnasium (1st)
15 第二体育館	Gymnasium (2nd)
16 武道館	Gymnasium for Judo & Karate
17 学生研修施設棟	Lodging House
18 飲食堂・売店	Cafeteria & Campus Store
19 学生寮 (東、西、南、北)	Dormitory
20 生活廃水処理施設	Sewage Disposal Plant
21 物質工学科実験棟	Materials Chemistry Laboratory Building
22 学費倉庫	Dormitory Refectory

アクセス Access

● 小山駅 (東口) からのアクセス
About 500m East Exit of JR Oyama Station

● バス利用の場合は、JR小山駅西改札より東口へ、
小山コミュニティバス (飯塚中久保線または東岳線)
「小山駅東口」乗車、「南門」下車または「小山南門入口」下車後、徒歩5分。(バス所要時間 約20分)
You can take an Oyama Community Bus (Utsu-Nakashiku Line or Takao Line)
at the East Exit of Oyama Station. The ride to the college (via to the bus stop "Kosen Seibon" or "Oyama Kosen Higuchi")
will take about 20 minutes. You can walk to the College in five minutes from "Oyama Kosen Higuchi."

| 35 |

(出典：学校要覧 2013、p38, 39)

- 367 -

資料 8-1-①-2 : 教育目標と対応する施設

教育目標と対応する施設

教育方針と育成する人材像 (A : 準学士課程、S : 専攻科課程)		対応する施設
①豊かな人間性の涵養	①-A : 社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。	講義室、図書館、合宿研修施設、学生福利施設、ブラウジングロビー (学生ホール)
	①-S : 社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。	
②豊かな感性と創造力の育成	②-A : 実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。	講義室、図書館、一般系物理実験室・化学実験室、ロボット工房、ものづくり教育研究センター
	②-S : 専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。	
③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上	③-A : 自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。	講義室、図書館、語学情報教室 (LL 教室)、一般系物理実験室・化学実験室
	③-S : 自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。	
④高度な専門知識と問題解決能力の育成	④-A : 実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。	実験室、研究室、ものづくり教育研究センター、地域共同開発センター
	④-S : 開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。	
⑤情報技術力の向上	⑤-A : 情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。	情報科学教育研究センター、第二演習室 (電子計算機実習室)、第三演習室 (多目的マルチメディア教育室)、講義室
	⑤-S : 情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。	
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	⑥-A : 講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。	講義室、視聴覚室、多目的メディアホール、語学情報教室、(LL 教室) 体育施設
	⑥-S : 特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。	

(出典 : 総務課施設係資料)

資料 8-1-①-3 : 講義室の概要

講義室の概要

名称	面積 (㎡)	収容人数	一人当面積 (㎡)	場 所	主要設備等
教室 (HR)					
1年教室 (5部屋)	78	40	2.0	専攻科棟2F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
2年教室 (5部屋)	78	40	2.0	専攻科棟3F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5E教室	58	36	1.6	電物棟1F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3E教室	87	40	2.2	電物棟2F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4E教室	87	40	2.2	電物棟2F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5C教室	58	40	1.5	電物棟3F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3C教室	87	40	2.2	電物棟4F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4C教室	87	40	2.2	電物棟4F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3M教室	87	40	2.2	機械棟2F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4M教室	87	40	2.2	機械棟3F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5M教室	58	40	1.5	機械棟3F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3A教室	79	40	2.0	建築棟1F	Blu-ray再生機、DVD・VHS再生機、スピーカー、プロジェクター、ワイト手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4A教室	79	40	2.0	建築棟1F	Blu-ray再生機、DVD・VHS再生機、スピーカー、プロジェクター、ワイト手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5A教室	64	40	1.6	建築棟1F	Blu-ray再生機、DVD・VHS再生機、スピーカー、プロジェクター、ワイト手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
その他の講義室等					
講義室	68	40	1.7	講義棟1F	プロジェクター、スクリーン、LANコンセント、空調設備
多目的ホール	96	60	1.6	専攻科棟1F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
多目的メディアホール	114	80	1.4	専攻科棟4F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
講義室 I	40	24	1.7	専攻科棟4F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
講義室 II	25	8	3.1	専攻科棟4F	LANコンセント、空調設備
演習室	40	15	2.7	専攻科棟4F	LANコンセント、空調設備
多目的ホール	77	42	1.8	専攻科棟4F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
視聴覚室 (階段教室)	216	210	1.0	図書館1F	プロジェクター、書画カメラ、電動スクリーン、DVD、VHS再生機、ビデオ、スピーカー、ディスプレイ、ピアノ、LANコンセント、空調設備

(出展：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-4 : 専攻科系実験室の概要

専攻科系実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時人数	一人当面積 (㎡)	場 所	設備等
機械系専攻研究室	78	13	6.0	専攻科棟5F	高速度ビデオカメラ、デジタルオシロスコープ、パソコン、LANコンセント、空調設備、摩耗試験機、ボール盤、卓上バンドソー
電気系専攻研究室	78	21	3.7	専攻科棟5F	高周波スパッタリング装置、電子ビーム蒸着装置、分光光度計、液体ヘリウムクライオスタット、液体窒素クライオスタット、パソコン、ナノホルトメータ、LANコンセント、空調設備
電子系専攻研究室	78	6	13.0	専攻科棟5F	オシロスコープ、ファンクションジェネレーター、マルチメーター、パソコン、LANコンセント、空調設備
物質系専攻研究室	78	6	13	専攻科棟5F	分光器、蛍光分光光度計、赤外スペクトル装置、小型LB膜作製装置、超臨界装置、電子天秤、超純水作製装置、LANコンセント、空調設備、表面張力計

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-5 : 一般科系実験室・講義室の概要

一般科系実験室・講義室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積 (㎡)	場 所	設備等
化学実験室	124	40	3.1	電物棟3F	蒸留水製造装置、分光光度計、原子吸光分光光度計、薬品庫、保冷庫、ドラフトチャンバー、LANコンセント、実験台、空調設備
化学準備室	30	3	10.0	電物棟3F	触媒評価装置、熱分析装置、ガスクロマトグラフ、乾燥機、LANコンセント、ドラフトチャンバー、実験台、空調設備
一般機器分析室	19	5	3.8	電物棟4F	LANコンセント、実験台、空調設備
生物学実験室	39	5	7.8	電物棟4F	パソコン、LANコンセント、実験台、空調設備
物理学実験室	118	42	2.8	管理棟3F	LANコンセント、実験台、空調設備
語学情報教室 (LL教室)	101	48	2.1	講義棟2F	語学教育CALLシステム、ビデオ、スピーカー、スクリーン、LANコンセント、空調設備
一般製図室	126	40	3.2	講義棟3F	A1 判平行定規ライトボード、スクリーン、書画カメラ、プロジェクター、LANコンセント、製図台、空調設備
留学生講義室	29	3	9.7	図書情報センター1F	ビデオ、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-6 : 機械工学科実験室の概要

機械工学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積 (㎡)	場 所	設備等
マイクロ計測室	29	8	3.6	機械棟1F	表面粗さ計、輪郭形状測定器、三次元測定器、実体顕微鏡、LANコンセント、空調設備
材料加工プロセス研究室	19	3	6.3	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
マテリアルサイエンス実験室	29	8	3.6	機械棟1F	金属用電気炉(高温低温用)、ラップ盤、LANコンセント、空調設備
水力研究室	19	11	1.7	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
機械工作実験室	58	5	11.6	機械棟1F	炭酸ガスアーク溶接機、被覆アーク溶接機、電気炉、放射温度計、実体顕微鏡、パソコン、LANコンセント、空調設備
加藤研究室	19	6	3.1	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
材料力学実験室	87	15	3.9	機械棟1F	万能試験機、衝撃試験機、硬さ試験機、LANコンセント、空調設備
流体実験室	58	11	2.6	機械棟1F	水力学実験装置、LANコンセント、空調設備
熱力学研究室	29	8	3.6	機械棟1F	ジュール熱による熱の仕事当量の測定実験装置、熱電対の温度校正実験装置、高速度ビデオカメラ、動画画像解析装置、パソコン、LANコンセント、空調設備、卓上ボール盤、卓上糸ノコ盤、ホワイトボード
内燃機関研究室	19	8	2.3	機械棟1F	パソコン、プリンター、LANコンセント、空調設備、ホワイトボード
応用物理実験室	124	40	3.1	機械棟2F	パソコン、オシロスコープ、テスター、レコーダ、発振器、メトロ実験装置、スクリーン、ホワイトボード、LANコンセント、空調設備
機械力学実験室	58	8	7.3	機械棟2F	パソコン、位置決め実験装置、LANコンセント、空調設備
工作室	19	4	4.8	機械棟2F	パソコン、LANコンセント、空調設備、卓上ボール盤、卓上バンドソー
CAE室(旧暗室)	19	4	4.8	機械棟2F	パソコン、LANコンセント、空調設備
Energy Harvesting Laboratory	29	10	2.9	機械棟2F	パソコン、プリンター、LANコンセント、空調設備、マッフル炉、スピニングター、局所排気設備、直流電源発生装置、電子寿命拡散測定装置、スクリーン印刷機、分光光度計、ソーラーシミュレーター、IV計測システム、接触角計、精密天秤、卓上コーター
非線形ダイナミクス 実験室	29	8	3.6	機械棟2F	パソコン、スキャナ、プリンター、現代制御実験システム、4自由度車両モデル振動実験装置、LANコンセント、空調設備
機械製図室	124	40	3.1	機械棟3F	製図機器一式 LANコンセント、空調設備
非線形ダイナミクス 研究室	19	5	3.8	機械棟3F	パソコン、プリンター、2足歩行のヒューマノイドロボット(KHR-1HV)、LANコンセント、空調設備
設計製図準備室	59	15	3.9	機械棟3F	三次元CAD、LANコンセント、空調設備
計算力学実験室	58	6	9.7	機械棟3F	パソコン、風洞実験装置、LANコンセント、空調設備、プリンター、コンターマシン、ボール盤
熱機関実験室	95	14	6.8	ものづくりセンター	ガソリン機関の性能試験装置、遠心ポンプ性能エンジン分解・組立て実習設備、ロボットドリル

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-7 : 電気電子創造工学科 (電気情報工学科) 実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積 (㎡)	場 所	設備等
ロボット工房	50	15	3.3	電物棟1F	旋盤、フライ盤、帯ノ盤、溶接機、LANコンセント、空調設備
電気制御システム研究室	29	8	3.6	電物棟1F	模擬太陽電池システム、インバータ実験装置、LANコンセント、空調設備
電力応用研究室	19	1	19	電物棟1F	小型風力発電システム、インバータ装置、LANコンセント、空調設備
システム工学研究室	19	6	3.2	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
パワーエレクトロニクス研究室	29	5	5.2	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
知能集積システム研究室	29	4	7.3	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
電力システム研究室	19	4	4.8	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
エネルギー変換実験室	138	40	3.5	電物棟1F	直流発電機、三相誘導電動機、変圧器、同機発電機、直流電源、風洞装置、LANコンセント、空調設備
高エネルギー研究室	58	4	14.5	電物棟1F	球ギャップ、インバルス電圧発生装置、LANコンセント、空調設備
計測ロボット工学研究室	19	4	4.8	電物棟1F	デジタルコーダ、プロジェクタ、生体アンプ、LANコンセント、空調設備
放電計測室	29	8	3.6	電物棟1F	インバルス電圧発生装置制御盤、放電波形観測オシロスコープ、LANコンセント、空調設備
情報デバイス研究室	19	5	3.8	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
多目的マルチメディア教育室	79	20	4.0	電物棟2F	パソコン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
シーズ・イノベーション研究室	39	8	4.9	電物棟2F	デジタルオシロスコープ、高周波電力増幅器、ファンクションジェネレータ、LANコンセント、空調設備
通信情報工学実験室	88	40	2.2	電物棟2F	発信器、直流電源、デジタルマルチメータ、電圧計、電流計、トランジスタ増幅実験装置、ハルス回路実験装置、論理回路実験装置、LEGO MINDSPORM、変調回路、LANコンセント、空調設備
高周波計測研究室	19	5	3.8	電物棟2F	高周波計測システム、LANコンセント、空調設備
画像情報研究室	29	6	4.8	電物棟2F	衛星画像解析ソフト、LANコンセント、空調設備
音響情報研究室	19	6	3.2	電物棟2F	低周波レベル計、騒音計、タミヘッド、LANコンセント、空調設備
音響計測室 (無響室)	39	6	6.5	電物棟2F	組立式無響室、音響測定装置、標準マイクロホン、LANコンセント、空調設備
情報ネットワーク研究室	29	6	4.8	電物棟2F	PHANTOM Omni、LANコンセント、空調設備、オシロスコープ、プリンタ、claytools (ソフトウェア)、VRツール「Vizard(ソフトウェア)」
実装研究室	19	7	2.7	電物棟2F	直流電源、オシロスコープ、デジタルオシロスコープ、ファンクションジェネレータ、LANコンセント、空調設備
シミュレーション研究室	29	4	7.3	電物棟2F	カラーレーザプリンタ、オールインワンプリンタ、パソコン、LANコンセント、空調設備
レーザー研究室	29	3	9.7	電物棟2F	CO2レーザ彫刻機LANコンセント、空調設備
レーザー応用研究室	29	3	9.7	電物棟2F	コントローラ付き微動ステージ、光造形装置、LANコンセント、空調設備
マルチメディア研究室	20	7	2.9	管理棟2F	パソコン、LANコンセント、空調設備、オシロスコープ、簡易プロジェクタ、ヘッドマウンテッドディスプレイ、7.1chヘッドホン
電磁気実験室	87	40	2.2	管理棟3F	光電効果計測装置、直流電源、オシロスコープ、発振器、ファンクションジェネレータ、各種電圧・電流計、Qメータ、交流ブリッジ、電力計、分光光度計、LANコンセント、空調設備
物性シミュレーション研究室	19	4	4.8	管理棟2F	パソコン、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-8 : 電気電子創造工学科 (電子制御工学科) 実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
ロボティクス研究室	26	4	6.5	電子棟1F	ミニ旋盤、ミニ CNC、小型帯鋸盤、LAN コンセント
工作室	19	3	6.3	電子棟1F	フライス盤、ボール盤、木工旋盤、小型旋盤、高速カッター、小型溶接機
制御動力研究室	81	4	20.2	電子棟1F	液面制御装置、倒立振り子、サーボモータ制御装置、LANコンセント
マイクロロクス研究室	39	4	7.8	電子棟1F	小型フライス盤、モーションキャプチャシステム、LANコンセント
電磁相互作用研究室	79	6	13.2	電子棟2F	プロジェクタ、オシロスコープ、発信器、光強度計、ホログラフィー実験装置、LD 光源、回転計、3D プロジェクタ、光ファイバー分光器、パソコン、LAN コンセント、
第一情報ネットワーク研究室	59	7	11.8	電子棟2F	パソコン、Windows サーバ、Linux サーバ、プリンタサーバ、プリンタ、スキャナ、LAN スイッチ、LAN コンセント
電子物性研究室	80	4	20.0	電子棟3F	放射線計測システム、アナログ信号処理システム、微弱信号処理システム、CVD装置、蒸着装置、スパッタリング装置、クリーンベンチ、ドラフトチャンバー、LANコンセント
エネルギーシステム研究室	79	4	19.8	電子棟3F	基板エッチング装置、基板露光装置、基板カッター、卓上ボール盤、直流電源装置、電子負荷装置、ロジックアナライザ、デジタルマルチメータ、LANコンセント
電子工学実験室	81	47	1.7	電子棟3F	アナログオシロスコープ、ファンクションジェネレータ、デジタルオシロスコープ、ロジックアナライザ、直流安定化電源、オシレーター、テストキットボックス、デジタルマルチメータ、アナログテスター、パソコン、iPad、ホイットストンプリッジ、放電管実験セット、真空ポンプ、温度制御学習装置、マイクロロクス装置、LEGO MINDSTORM、アームロボット、XY軸ステージ、基板露光装置、基板カッター、ワイヤレスマイク装置、プロジェクター、書画カメラ、スクリーン、LANコンセント
第2情報ネットワーク研究室	24	4	12.0	電子棟3F	パソコン、Windows サーバ、Linux サーバ、レーザプリンタ、ルータ、スイッチ、ファイアーウォール、LAN コンセント
情報工学研究室	33	4	20.0	電子棟4F	赤外線カメラ、パソコン、LANコンセント
システム工学研究室	40	4	20.0	電子棟4F	赤外線カメラ、パソコン、LANコンセント
デジタル工学研究室	74	7	10.6	電子棟4F	パソコン、サッカーロボット、DSP評価キット、波形入力装置、LANコンセント
遠隔制御研究室	80	8	10.0	電子棟4F	音響信号分析装置、騒音計、音響インテンシティプローブ、赤外線カメラ、分光分析装置、オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、Linuxサーバ、プリンタ、パソコン、LANコンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-9 : 物質工学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
化学工学研究室	58	6	9.7	電物棟3F	紫外可視分光高度計、圧搾・電気浸透脱水試験装置、比表面積測定装置、テータコー計測システム、LANコンセント、空調設備
プロセス工学実験室	110	14	7.9	電物棟3F	ドラフトチャンバー、単蒸留実験装置、定圧濾過実験装置、固体乾燥実験装置、純水製造装置、LANコンセント、空調設備
プロセス工学計算室	19	6	3.2	電物棟3F	ガスクロマトグラフ、微粒子分析システム、接触角測定装置、パソコン、LANコンセント、空調設備
分子生物学研究室	58	6	9.7	電物棟3F	クリーンベンチ、サマシイター、CO2インキュベーター、プログラムフリーザー、HPLC、超純水製造装置、分光光度計、低温インキュベーター、インキュベーター、凍結乾燥器、顕微鏡、立体顕微鏡、顕微鏡、遠心分離器、植物培養棚、LANコンセント、空調設備
物質工学基礎実験室	116	40	2.9	電物棟3F	ドラフトチャンバー、蒸留イオン交換水製造機、LANコンセント、空調設備
反応工学研究室	58	6	9.7	電物棟3F	オートクレーブ、真空乾燥機、分光光度計、LANコンセント、空調設備
金属化学研究室	58	4	14.5	電物棟3F	微量電子天秤、電子天秤、周波数解析装置、マイクロスケープ、LANコンセント、空調設備
電子顕微鏡室	19	8	2.4	電物棟3F	走査型電子顕微鏡、LANコンセント、空調設備
X線室	19	2	9.5	電物棟3F	X線回折装置、LANコンセント、空調設備
物理化学研究室	58	5	11.6	電物棟4F	電気炉、直流電流・電圧発生源・モーター、セラミックス成形機、LANコンセント、空調設備
機器分析計室	19	8	2.4	電物棟4F	クロマトグラフ質量分析計、ドラフトチャンバー、分光光度計、蛍光分光光度計、LANコンセント、空調設備
物質合成研究室	88	9	9.8	電物棟4F	ドラフトチャンバー、フード付実験台、排水規制対策溶媒濃縮装置、パーソナル有機合成装置、ガス循環精製型グローブボックス、有機溶媒精製装置、LANコンセント、空調設備
有機機器分析室 I	19	8	2.4	電物棟4F	旋光計、フーリエ変換赤外分光計、UV照射器、赤外顕微鏡、LANコンセント、空調設備
有機機器分析室 II	78	11	7.1	電物棟4F	ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、中圧液体クロマトグラフ、LANコンセント、空調設備
高分子材料研究室	58	7	8.3	電物棟4F	遠心分離機、紫外線照射装置、精密合成用ガラス製真空ライン、高速液体クロマトグラフ、紫外可視分光器、凍結乾燥機、角質水分量測定装置、回転粘度計、ドラフトチャンバー、LANコンセント、空調設備
材料化学実験室 II	29	6	4.8	電物棟4F	分光光度計、LANコンセント、空調設備
無機材料研究室	58	5	11.6	電物棟4F	交流インピーダンス測定装置、示差熱・熱重量分析装置、ドラフトチャンバー、LANコンセント、空調設備
材料化学実験室 I	58	19	3.1	電物棟4F	ドラフトチャンバー、旋光計、ガスクロマトグラフ、LANコンセント、空調設備
生体材料工学研究室	48	8	6.0	物質実験棟 2F	電気炉、耐圧容器、pHメーター、電子天秤、ドラフトチャンバー、LANコンセント、セラミックス成形機、空調設備、乾燥機
生物学実験機器分析室	23	4	5.8	物質実験棟 1F	FTIR、LANコンセント
生物学実験室	94	40	2.6	物質実験棟 1F	ドラフトチャンバー、排水規制対策溶媒濃縮装置、恒温槽、超音波細胞破壊機、蒸留水製造装置、オートクレーブ、安全キャビネット、製氷機、LANコンセント
試料調整室	27	7	3.9	物質実験棟 2F	クロマトチャンバー、AKTA、高速液体クロマトグラフ、インキュベーター、ドラフトチャンバー、LANコンセント
酵素反応工学研究室	40	7	5.7	物質実験棟 2F	ドラフトチャンバー、ガスクロマトグラフ、インキュベーター、ディープフリーザー、高速冷却遠心機、オートクレーブ、PCR、中圧クロマトグラフ、安全キャビネット、LANコンセント
微生物工学研究室 (培養室)(クリーンルーム)	70	6	11.6	物質実験棟 2F	クリーンルーム、クリーンベンチ、高速冷却遠心分離機(大・小)、卓上高速遠心分離機、蒸留イオン交換水製造機、オーブン、オートクレーブ、恒温培養機、冷却恒温培養機、凍結乾燥機、LANコンセント
物質系講義室	41	20	2.0	物質実験棟 1F	LANコンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-10 : 建築学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
材料・構造実験室	277	40	6.9	建築棟1F	恒温水槽循環装置、中性化促進試験槽、乾燥炉、パン型強制練りミサー、水銀圧入式ポロンメーター、油圧中空ジャッキ、耐圧・万能試験機
デザインスタジオ	116	40	2.9	建築棟2F	名作椅子、ボスター、研究用 PC、大画面モニター、カーブロッタ、各グラフィックスソフト、書画カメラ、スクリーン(80)インチ、専門雑誌、工作道具一式、模型材料一式、LANコンセント、空調設備
インテリアデザインラボ (北)	127	40	3.2	建築棟3F	A1およびA2サイズ、平行定規、製図台、デジタイザ、トレス台、壁面黒板、プロジェクタ、CADシステム用ノートPC、CADシステム用サーバーPC、A0カラー大判プリンタ、LANコンセント、空調設備
インテリアデザインラボ (南)	171	40	4.3	建築棟3F	DVD・VHSデッキ、Blu-rayデッキ、スピーカー、展示用模型、保管図面ケース、撮影装置、作業台、プレゼン台、展示パーティション、壁面スクリーン、LANコンセント、空調設備
製図室準備室	28	5	5.6	講義棟3F	展示用模型、保管図面ケース、PC、LANコンセント、空調設備
環境実験室	33	4	8.0	建築棟1F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
構造系研究室 A	32	4	8.0	建築棟2F	研究室用PC、鉄骨継手仕口キット、有限要素解析ソフト、LANコンセント、空調設備
ギャラリー	47	10	4.7	建築棟1F	研究用PC、LANコンセント、空調設備、展示ケース
計画系研究室 A	44	8	2.9	建築棟2F	研究室用PC、建築設計モデリング・レンダリングソフト、グラフィックソフト、書画カメラ、一眼レフカメラ、ビデオカメラ、大型スクリーン、工作道具一式、模型材料一式、LANコンセント、空調設備
計画系研究室 B	44	3	7.7	建築棟2F	研究用PC、複合機、建築設計モデリング・レンダリングソフト、研究室用PC、LANコンセント、空調設備
佐藤篤史研究室	38	5	8.6	建築棟3F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
構造系研究室 B	33	8	4.1	建築棟3F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-12：情報処理関連演習室等の概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
第1演習室	116	49	2.4	情報科学センター	教育用電子計算機システム(*)、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第2演習室(電子計算機実習室)	121	49	2.5	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
第3演習室(多目的マルチメディア教室)	79	21	3.8	電物棟2F 【再掲】	教育用電子計算機システム、スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
ネットワーク実習室	106	40	2.7	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、UNIX実験システム、ネットワーク実験システム、動画編集装置、空調設備

(*) 教育用電子計算機システムの構成

(*) 教育用電子計算機システムの構成

- (1) システム用管理サーバ 1台
- (2) システム用I/Oサーバ(Windows) 6台
- (3) ファイルサーバ 1台
- (4) 認証サーバ 2台
- (5) プリントサーバ 1台
- (6) プリンタ 7台
- (7) システム専用端末 123台

内 訳	第一演習室	49台
	第二演習室	49台
	第三演習室	21台
	システム再構築専用機	4台

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-13：情報科学教育研究センターの利用状況(平成 25 年度) (既出：資料 2-1-③-6)

部屋名称 情報センター第 1 演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報工学Ⅲ			機械設計製図Ⅰ	
2	3E			3M	
3	電子計算機実習	情報処理Ⅱ			情報処理実習Ⅰ
4	2C	3A			1C
5		構造設計	情報工学Ⅰ 1E	情報処理	制御工学
6	工作実習	5A		2M	5E
7	3M	数値解析		情報工学Ⅱ	
8		4M		2E	

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報処理実習Ⅰ	電気電子製図	情報処理		情報工学Ⅲ
2	1C	1E	2M		3E
3	機械設計製図Ⅰ	情報処理Ⅱ		機械設計製図Ⅱ	電子計算機実習
4	3M	3A		4M	2C
5		機械設計製図Ⅲ	情報工学Ⅰ (1E)	情報工学Ⅱ	数値計算法
6	工作実習	5M		2E	5E
7	3M				
8					

部屋名称 電子PC室 第 2 演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限	情報工学	プログラムⅢ	プログラムⅠ	ソフトウェア工学Ⅰ	コンピュータ
2	1SD	3D	2D	4D	3D
3	エンジニアリングイントロダクション	輪講Ⅰ		電子制御工学実験	エンジニアリングイントロダクション
4	1R	5D		1SD	1L
5	デザイン工学実験	ソフトウェア工学Ⅲ	ソフトウェア工学Ⅱ	工学実験	制御工学
6	5D	5D	4D	4D	5E
7		電気電子工学実験Ⅰ			
8		1R		電子制御工学実験	

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限			デジタル工学		
2			5D		
3	通信工学Ⅰ	輪講Ⅱ		通信工学	プログラムⅣ
4	4D	5D		4D	3D
5	アセンブラ	プログラムⅡ		工学実験	
6	3D	2D		4D	
7					
8					

部屋名称 電物棟 多目的マルチメディア教育室 第 3 演習室 【平成 25 年度前期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限					
2					
3	情報ネットワーク論			電気情報専攻実験	
4	5E			1SE	
5					
6	工作実習				
7	3M				
8					

【平成 25 年度後期】

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 時限			集積回路設計		
2		エレクトロニクス・デザイン	5E		
3		4E			
4					
5				エレクトロニクス・デザイン	
6	工作実習			4E	
7	3M	情報工学Ⅳ			
8		4E			

(出典：特別教室時間割表)

資料 8-1-①-14：情報科学教育研究センター時間外利用統計表(1/3) (既出：資料 2-1-③-7)

【学年別利用状況】

年	月	本科					専攻科		計
		1	2	3	4	5	1S	2S	
2014	3	13	2	10	131	8			164
2014	2	77	23	139	247	106		2	594
2014	1	21	147	370	515	192			1245
2013	12	15	114	228	297	122			776
2013	11	49	144	341	352	80			966
2013	10	57	95	556	357	247			1312
2013	9	248	5	50	47	7			357
2013	8	147	48	14	49	17			275
2013	7	380	293	814	173	177			1837
2013	6	135	216	419	143	161	10		1084
2013	5	324	301	358	154	154		1	1292
2013	4	178	56	414	51	75			774
2013	3	5	15	10	37	18			85
2013	2	75	113	264	229	213			894
2013	1	244	172	153	465	233			1267
2012	12	303	157	210	266	153			1089
2012	11	237	198	313	311	50	13		1122
2012	10	205	215	363	323	303			1409
2012	9	64	197	140	62	75	2	1	541
2012	8	37	19	30	13	4			103
2012	7	139	143	142	59	42			525
2012	6	144	236	271	134	86	2	2	875
2012	5	289	297	482	189	66	26	1	1350
2012	4	210	96	361	53	171			891
2012	3								0
2012	2	87	8	314	154	117	6		686
2012	1	350	263	366	224	272	13		1488
2011	12	270	272	359	140	202	2		1245
2011	11	269	179	287	194	109	3		1041
2011	10	375	404	397	143	200	3		1522
2011	9	231	329	333	79	119	11	1	1103
2011	8	13	26	37	1	2	1		80
2011	7	279	301	393	46	121			1140
2011	6	245	187	308	90	107	1	3	941
2011	5	198	43	332	52	158	2		785
2011	4	56	3	65	6	12			142
計		5969	5317	9643	5786	4179	95	11	31000

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-①-14：情報科学教育研究センター時間外利用統計表(2/3) (既出：資料 2-1-③-7)

【曜日別利用状況】

年	月	曜日							計
		日	月	火	水	木	金	土	
2014	3		45	32	38	35	14		164
2014	2		123	109	135	106	121		594
2014	1		81	276	149	421	318		1245
2013	12		88	168	88	253	179		776
2013	11		122	153	99	275	317		966
2013	10		154	323	93	449	293		1312
2013	9		113	20	58	74	92		357
2013	8		42	7	53	78	77	18	275
2013	7		157	534	443	265	438		1837
2013	6		153	286	242	203	200		1084
2013	5		95	166	282	421	328		1292
2013	4		55	247	72	115	285		774
2013	3		19	18	7	24	17		85
2013	2		273	183	108	156	172	2	894
2013	1		143	325	325	371	103		1267
2012	12		137	230	395	207	120		1089
2012	11		163	229	265	316	149		1122
2012	10		278	323	388	291	129		1409
2012	9		46	80	162	107	146		541
2012	8	2	4	6	62	15	14		103
2012	7		95	98	131	130	71		525
2012	6		143	156	195	213	168		875
2012	5	6	199	254	348	410	133		1350
2012	4		66	95	220	284	226		891
2012	3								0
2012	2		143	127	181	157	77	1	686
2012	1		195	448	253	302	290		1488
2011	12		211	287	261	359	127		1245
2011	11		107	321	213	172	228		1041
2011	10		303	340	373	205	300	1	1522
2011	9		231	183	235	196	258		1103
2011	8		5	19	39	5	12		80
2011	7		59	80	403	242	356		1140
2011	6		82	77	421	191	170		941
2011	5		104	59	342	119	161		785
2011	4			9	100	33			142
計		8	4234	6268	7179	7200	6089	22	31000

(出典：情報科学教育研究センター資料)

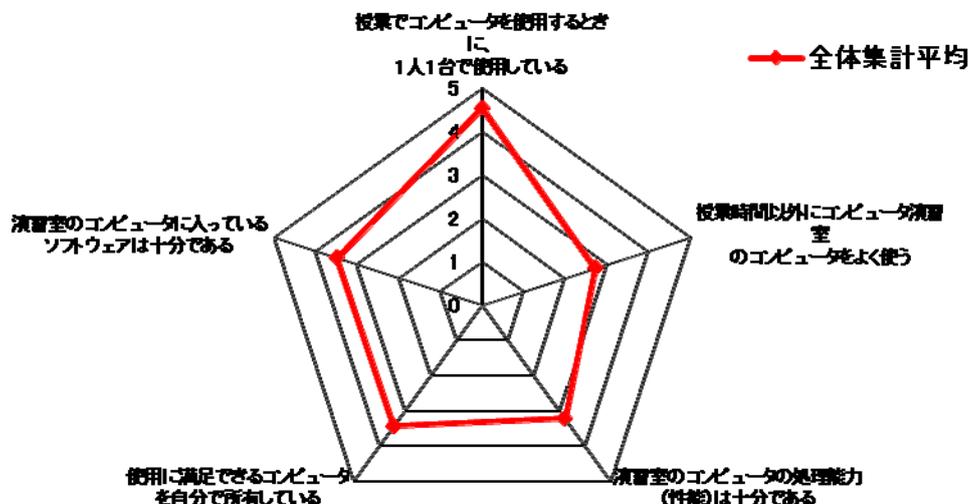
資料 8-1-①-14：情報科学教育研究センター時間外利用統計表(3/3) (既出：資料 2-1-③-7)

【利用時間状況】

年	月	利用時間							計
		0~30分	30分~1時間	1時間~1時間30分	1時間30分~2時間	2時間~2時間30分	2時間30分~3時間	3時間以上	
2014	3	84	26	24	12	6	9	3	164
2014	2	206	105	71	57	51	21	83	594
2014	1	869	127	57	104	36	20	32	1245
2013	12	584	50	35	92	2	6	7	776
2013	11	747	79	60	35	25	11	9	966
2013	10	1026	101	47	84	9	41	4	1312
2013	9	77	42	141	41	35	11	10	357
2013	8	111	85	30	15	18	8	8	275
2013	7	1090	193	240	234	50	15	15	1837
2013	6	692	96	120	120	45	4	7	1084
2013	5	954	103	66	162	3	2	2	1292
2013	4	674	29	57	7	5		2	774
2013	3	33	12	10	5	10	6	9	85
2013	2	290	158	141	123	64	26	92	894
2013	1	1026	90	30	71	25	6	19	1267
2012	12	829	79	49	106	5	5	16	1089
2012	11	761	96	88	127	19	16	15	1122
2012	10	1144	124	72	58	10		1	1409
2012	9	325	70	85	38	3	11	9	541
2012	8	45	23	7	9	6	2	11	103
2012	7	398	49	17	31	6	5	19	525
2012	6	686	70	41	56	5	5	12	875
2012	5	1014	84	80	89	31	11	41	1350
2012	4	736	47	94	6	3	2	3	891
2012	3								0
2012	2	249	111	91	84	40	29	82	686
2012	1	1022	129	99	121	50	16	51	1488
2011	12	926	120	51	92	33	11	12	1245
2011	11	465	175	144	193	30	12	22	1041
2011	10	1149	153	107	69	24	15	5	1522
2011	9	381	166	189	272	26	16	53	1103
2011	8	16	10	9	13	12	3	17	80
2011	7	836	109	50	88	46	7	4	1140
2011	6	682	99	87	35	25	5	8	941
2011	5	555	90	57	49	22	6	6	785
2011	4	131	7	1		1	2		142
計		20813	3107	2547	2698	781	365	689	31000

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-①-15 : コンピュータ利用状況アンケート結果



(出典：平成 25 年度教育に関するアンケート (学生版))

資料 8-1-①-16 : 図書情報センターの概要

名称	面積 (㎡)	収容人数	一人当面積 (㎡)	場 所	主要設備等
図書情報センター事務室	58	-	-	図書情報センター棟 1F	長岡技術大学・高専統合図書館システム (クライアント2台、OPAC 用端末1台、プリンタ1台)、ブックディテクション(BDS)2台、館内監視、モニター1台、館内放送設備 1 台、パソコン、LAN コンセント、入館者カウンタ、空調設備
教材資料作成室	28	7	4.0	図書情報センター棟 1F	LANコンセント、空調設備、VIDシステム(サーバー2台、管理用パソコン1台)
交流ラウンジ	114	16	7.1	図書情報センター棟 1F	テーブル、有線電話端子、空調設備
第一閲覧室	408	66	5.2	図書情報センター棟 2F	OPAC用端末1台、LANコンセント、有線電話端子、空調設備、電動スクリーン、洗面台、無線LANアクセスポイント、館内監視カメラ2台
第二閲覧室	65	5	7.2	図書情報センター棟 2F	LANコンセント、空調設備、有線電話端子
マルチメディアルーム	76	20	3.8	図書情報センター棟 2F	LANコンセント、空調設備、有線電話端子、DVD/LD/CD再生機1台、DVD再生機4台、プリンタ1台、VIDシステム(パソコン端末15台)、電動スクリーン、館内監視カメラ2台
グループ学習室	27	8	1.9	図書情報センター棟 2F	空調設備、有線電話端子
書庫・ホール他	558	-	-	図書情報センター棟 1F、2F	エレベーター、新聞閲覧台

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-17：図書情報センターの利用者数

図書情報センターの利用者数

単位：人

平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度
75,094	72,064	75,647	70,614	46,681

(出典：平成 21 年度～24 年度 図書館入退館管理システム
平成 25 年度 入館者カウンター)

資料 8-1-①-18：ものづくり教育研究センター・地域連携共同開発センターの概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
機械加工実習場	390	40	9.8	ものづくりセンター	CNC旋盤、CNCフライス盤、ロボドリル、旋盤、立横複合フライス盤、円筒研削盤、形削り盤、ボール盤、立フライス盤、細穴放電加工機、平面研削盤、コンターマシン、パントソー、マシニングセンタ、レーザー加工機、ワイヤカット放電加工機、コンプレッサ
鋳造実習場	93	12	7.8	ものづくりセンター	るつぼ炉、乾燥炉、重油タンク
鍛造実習場	70	8	8.8	ものづくりセンター	回転炉、エアハンマ、焼入れ炉、重油タンク
溶接実習場	72	8	9.0	ものづくりセンター	被覆アーク溶接機、炭酸ガスアーク溶接機、TIG溶接機、MIG溶接機、ガス熔断機、エアプラスチック切断機、排気装置
セミナールーム	30	24	1.3	共同センター1F	プロジェクタ、LANコンセント、
アームロボット室	20	4	5	共同センター1F	産業用ロボット、LANコンセント
材料実験室	50	10	5	共同センター1F	材料試験機、LANコンセント
電子顕微鏡室	31	5	6.2	共同センター1F	電子顕微鏡、LANコンセント
試料作成室	9	2	4.5	共同センター1F	自動研磨装置
コラボ 1	30	8	3.8	共同センター2F	LANコンセント、
コラボ 2	15	4	3.8	共同センター2F	ドラフトチャンバー、LANコンセント
コラボ 3	15	5	8	共同センター2F	ドラフトチャンバー、LANコンセント
ICP室	22	5	6.0	共同センター2F	ICP、マイクロウェーブ分解装置、超純粋製造装置、LANコンセント
NMR室	28	5	5.6	共同センター2F	NMR (400MHz)、液体窒素自動製造装置、LANコンセント
XRD・XPS室	31	4	10	共同センター2F	XRD、XPS
セラミック実験室	40	4	10	共同センター別館	プラスチック溶射装置、超高温ホットプレス
実験室 3	20	3	6.7	共同センター別館	
実験室 2	20	3	6.7	共同センター別館	
実験室 1	20	3	6.7	共同センター別館	太陽エネルギー評価装置

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-19 : ゼミ室の概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
管理棟 301ゼミ室	39	36	1.1	管理棟3F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
電物棟 201ゼミ室	39	27	1.4	電物棟2F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
電物棟 401ゼミ室	29	18	1.6	電物棟4F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
機械棟 201ゼミ室	58	48	1.2	機械棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、ビデオ、空調設備
機械棟 301ゼミ室	58	48	1.2	機械棟3F	電動スクリーン、LANコンセント、ビデオ、空調設備
専攻科棟 501ゼミ室	39	40	1.0	専攻科棟5F	ワイド手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
専攻科棟 502ゼミ室	39	40	1.0	専攻科棟5F	ワイド手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
電子ゼミ室	115	60	1.9	電子棟1F	プロジェクター、スクリーン、LANコンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-20 : 体育施設の概要

体育施設の概要

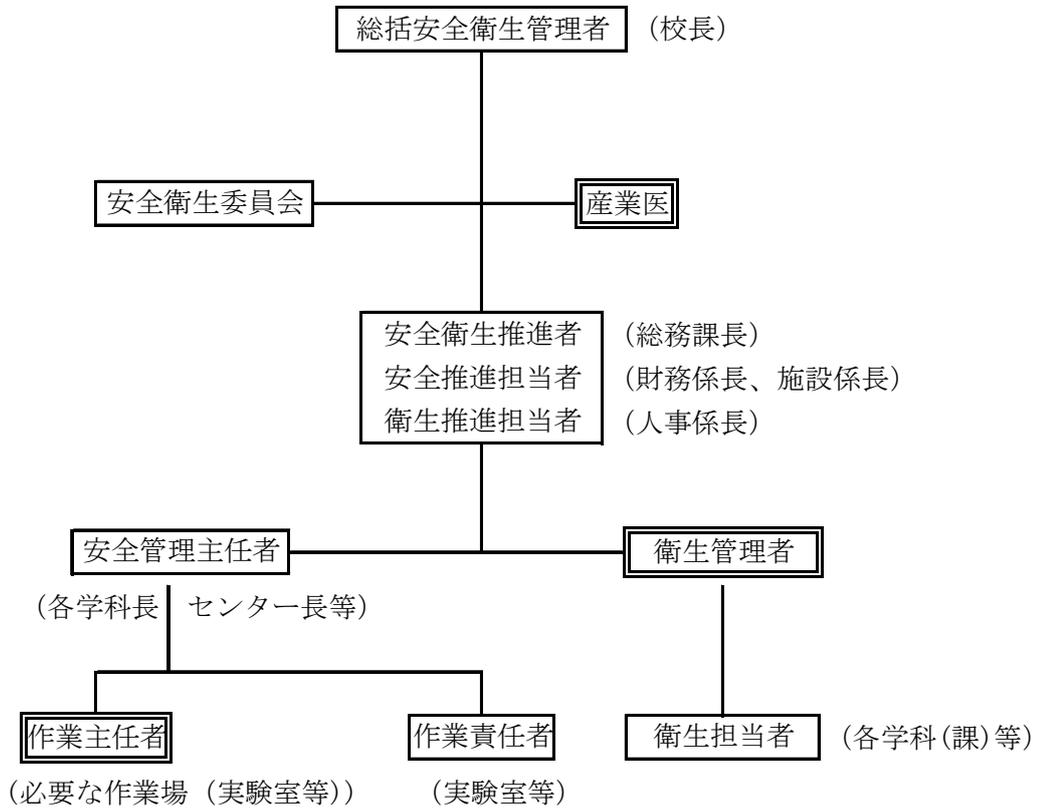
施設名称		附属設備等
グラウンド	9,472	300mトラック(トラック内は天然芝で多目的に使用)、器具庫
野球場・サッカー場	11,485	屋外便所
テニスコート	4,782	人工芝6面、テニス練習板
第一体育館	1,106	ステージ、舞台設備、トレーニング設備、バレー・バスケット他、温水シャワー
第二体育館	880	バレー・バスケット他、温水シャワー
武道館	349	柔道、剣道
水泳プール	524	25m×5コース、屋外プール、温水シャワー

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-21：小山工業高等専門学校 安全衛生管理規程 別表第 2

別表第 2

〔小山工業高等専門学校 安全衛生管理体制〕



(出典：小山高専HP)

資料 8-1-①-22 : 安全衛生委員会 巡視チェックシート

[安全衛生委員会 巡視チェックシート]

安全衛生チェック項目

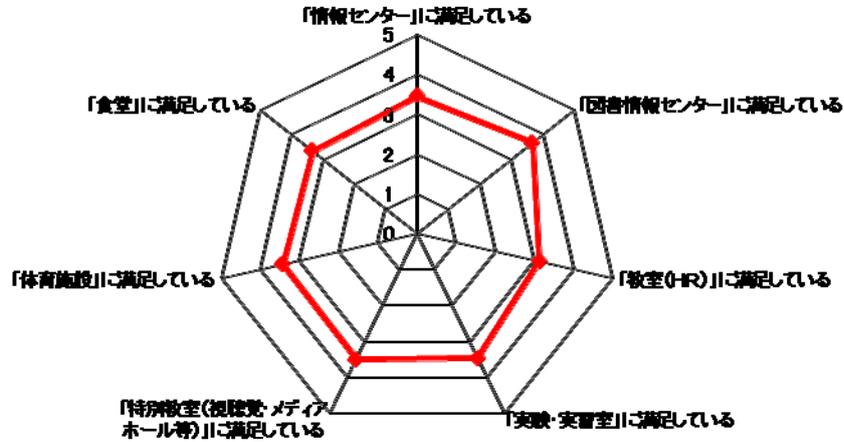
(実験室等)

チェック項目		良	否	備考
通路	1 機械間又は機械と他の設備との通路は、幅80cm以上確保されているか。			則543
	2 通路は、段差、くぼみ等がないか。			則542
	3 通路は、白線等で作業場所とはっきり区別されているか。			則540
	4 通路を横切るコード、ホース、配管類はないか。通行する際に安全に覆われているか。			
	5 通路に物が置かれたり、障害となるものはないか。			
	6 通路は、油の汚れや水がこぼれたままになっていないか。			
	7 清掃がよく行われ、ゴミ、ホコリがたまっていないか。			
作業床	1 作業床は、段差、くぼみ等はないか。作業床の端は、作業が行いやすい状態となっているか。			
	2 作業床は、コード、ホース、配管類が作業の障害になっていないか。			
	3 機械の電源スイッチ、消火器や非常口の表示がはっきりと見えるか。			
	4 作業床には、不要物が置かれていないか。			
	5 作業床は、油での汚れや水がこぼれたままになっていないか。			
	6 清掃がよく行われ、ゴミ、ホコリがたまっていないか。			
	7 廃品、クズ等を収納する容器は、内容物が表示され、たまりすぎではないか。			
	8 油ポロは、蓋つきの不燃性容器に収納されているか。			
	9 掃除用具は、所定の場所に収納されているか。			
その他	1 各部屋に監守者・火元責任者が指名され、入り口に表示がされているか。			
	2 消火器が適正に配置され、表示板で表示されているか。			
	3 照明設備、換気設備は整っているか。			
	4 各種機器の操作マニュアルが、必要に応じて備え付けられているか。			
	5 装置の緊急停止ボタンがあるか。			
	6 物品棚・書棚・ロッカー等に地震時の転倒防止装置はなされているか。			
	7 非常口の表示はあるか。			
	8 廊下に障害物等が置かれていないか。幅1.6m以上確保されているか。			

注：則は、労働安全衛生規則

(出典：安全衛生委員会資料)

資料 8-1-①-23：施設満足度アンケート結果



(平成 25 年度教育に関するアンケート (学生版))

資料 8-1-①-24：施設・設備一覧

資料：施設実態調査 H25.05

○敷地 総面積	99,014㎡	学校用敷地全体	
校舎敷地	60,582㎡	校地	
寄宿舎敷地	9,156㎡	学生寄宿舎用地	
運動場敷地	29,276㎡	屋内外運動場用地	
○建物	構造	面積	施設・設備
一般・管理棟	RC3	2,322㎡	実験・実習室 SL
電気情報・物質工学科棟	RC4	4,446㎡	研究室、実験・実習室、演習室 SL
機械工学科棟	RC3	2,040㎡	” SL
電子制御工学科棟	RC4	2,179㎡	” SL
建築学科棟	RC3	1,680㎡	” EV、障WC、SL
専攻科棟 (テクノ棟)	RC5	3,139㎡	” EV、障WC、SL
講義棟	RC3	668㎡	語学学習、一般製図室、等
図書情報センター	RC2	1,624㎡	図書館 EV、障WC、SL
情報科学教育研究センター	RC1	312㎡	情報処理学習 SL
地域共同開発センター	RC2	484㎡	地域連携・共同研究 障WC、SL
地域共同開発センター	RC1	100㎡	地域連携・共同研究
ものづくり教育研究センター	S1	840㎡	実習工場
建築材料構造実験室	S1	277㎡	研究室、実験・実習室
第一体育館	S1	1,106㎡	屋内運動場 SL
第二体育館	S1	880㎡	” SL
武道館	RC1	349㎡	”
合宿研修施設棟	RC2	408㎡	学生福利厚生施設
一般食堂棟	RC1	583㎡	” 障WC、SL
学生寮 (東、西、南、北)	RC3-5	6,030㎡	学生寄宿舎
物質工学科実験棟	RC2	512㎡	研究室、実験・実習室 SL
その他		1,092㎡	倉庫、車庫等管理用施設
合計		31,071㎡	

《摘要》 [EV] :エレベーター [障WC] :身障者用トイレ [SL] :スロープ

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-②-1 : 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会細則

制 定 平成15年 4月 1日
最終改正 平成20年10月 1日

- (趣旨)
- 第1条 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター(以下「情報センター」という。)規則第6条第2項に基づき、情報科学教育研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。
- (組織)
- 第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。
- 一 情報科学教育研究センター長(以下「センター長」という。)
 - 二 情報科学教育研究センター情報ネットワーク室長
 - 三 本校の各学科専任教員から各1名
 - 四 学生課長
 - 五 教育研究技術支援部技術長
 - 六 教育研究技術支援部技術室第2グループ長
 - 七 その他校長が必要と認めたる者
- 2 前項第3号に掲げる委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
- (委員の任命)
- 第3条 前条第1項第3号の委員は、校長が任命する。
- (委員長及び会議の開催)
- 第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。
- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
 - 3 委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。
 - 4 委員長が必要と認めるときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。
- (審議事項)
- 第5条 委員会は、次の事項について審議する。
- 一 情報センター及び情報ネットワークの管理運営に関わる基本方針及び長期計画に関すること。
 - 二 情報センター及び情報ネットワークの利用計画に関すること。
 - 三 情報処理教育についての基本計画に関すること。
 - 四 情報処理技術の研究、開発及び普及に関すること。
 - 五 校長から諮問があったこと。
 - 六 その他情報センター及び情報ネットワークについての重要事項に関すること。
- (事務)
- 第6条 委員会の事務は、教育研究技術支援部技術室第2グループが処理する。
- (略)

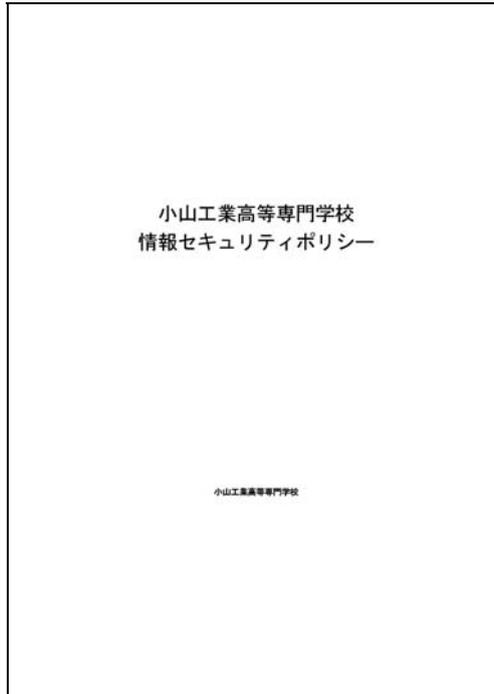
(出典：小山高専HP)

資料 8-1-②-2 : 小山高専情報ネットワークシステムのこれまでの経緯

1. 小山高専情報ネットワークシステムのこれまでの経緯
- 小山高専情報ネットワークは平成8年度に導入されて以来、次のように変更及び整備が行われてきた。
- 平成 8年 3月(1996年) 情報ネットワークシステム導入(ATMスイッチ)
 - 平成 9年 (1997年) インターネット外部接続速度を 64Kbps から 256Kbps へ変更
 - 平成 11年 12月(1999年) インターネットサーバ及びルータの 2000 年対応
 - 平成 11年 12月(1999年) ファイアウォール(外向けサービスを含む)の更新
 - 校内 PC へウイルス対策ソフトを一括導入し、ウイルスへの対策を行う
 - 平成 12年 3月(2000年) 基幹ネットワークのギガビット化し、高速化と信頼性を図る
 - 平成 12年 4月(2000年) インターネット外部接続を SINET から TNet へ変更、これに伴い、速度は 256Kbps から 1.5Mbps となる
 - 平成 13年 3月(2001年) ファイアウォールの 2 重化により負荷分散と信頼性の向上を図る
 - 平成 13年 3月(2001年) 専攻科棟ネットワーク新設、情報センターのスイッチ増強
 - 平成 13年 6月(2001年) ネットワーク基幹部の保守契約
 - 平成 13年 9月~平成 14年 2月 校舎改修に伴い、管理棟及び図書館棟のネットワークを増強し、電子図書館への対応を考慮する
 - 平成 14年 3月(2002年) 学内ネットワーク基幹部分を全面的にギガビット化
 - 平成 14年 3月(2002年) インターネット外部接続を 10Mbps/8 ユーザ型(パワートコム)とする
 - 平成 14年 12月(2002年) インターネット外部接続を 10Mbps/占有型とする
 - 平成 15年 3月(2003年) 機械工学科棟、建築学科棟及び講義棟の改修工事に伴いスイッチを増設する(Summit24e 3台)
 - 平成 16年 2月(2004年) 財務会計システムの導入(ファイアウォールの設置)
 - 平成 17年 3月(2005年) ファイアウォールを更新する(Netscreen-100x2 ->Netscreen-204x2)
 - 平成 18年 6月(2008年) スпамメール対策の導入
 - 平成 19年 3月(2007年) 人事給与システム及び共済システムの導入
 - 平成 19年 3月(2007年) グループウェアサーバ、Webサーバ及び CGI サーバを更新(同時にグループウェア ImpressionOffice のバージョンアップ)
 - 平成 19年 3月(2007年) 情報センターメインスイッチ、情報センターフロアスイッチ及び専攻科棟フロアスイッチ上位部分更新
 - 平成 19年 9月(2007年) 外部接続回線を、帯域保証型 10Mbps から帯域保証型 20Mbps とする
 - 平成 19年 12月(2007年) 一般・管理棟 1F、機械工学科棟 1F・2F、電気情報・物質工学科棟 1F、電子制御工学科棟 3F、建築学科棟 1F のフロアスイッチを更新(Catalyst 2960G)
 - 平成 20年 3月(2008年) 一般・管理棟 2F、図書情報センター、電気情報・物質工学科棟 2F・3F・4F、電子制御工学科棟 1F、建築学科棟 2F、物質工学科棟実験棟のフロアスイッチを更新(Catalyst 2960, Catalyst2960G)
 - 平成 20年 4月(2008年) グループウェアシステムを更新(desknet's)
 - 平成 21年 3月(2009年) 情報センター事務室内フロアスイッチを更新
 - 平成 21年 12月(2009年) 一般・管理棟 3F、機械工学科棟 3F、建築学科棟 3F、講義棟 2F フロアスイッチを更新(Catalyst 2960G)
 - 平成 22年 3月(2010年) 学内ネットワークサーバ 群用無停電電源装置更新
 - 平成 22年 12月(2010年) 専攻科棟フロアスイッチ 5 台を更新(Catalyst 2960G)
 - 平成 24年 10月(2012年) 学内無線 LAN システム導入、グループウェアサーバ更新、学内向け DNS・DHCP サーバ更新
 - 平成 25年 6月(2013年) 無線 LAN システム、学生向け本運用開始
 - 平成 26年 2月(2014年) 地域連携共同開発センター無線 LAN 設置
 - 平成 26年 2月(2014年) 地域連携共同開発センター有線 LAN、ネットワークスイッチ設置
 - 平成 26年 3月(2014年) 建築学科棟改修工事による停止より、ネットワーク全復旧

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-3 : 小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシー



(出典：総務課総務係資料)

資料 8-1-②-4 : 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則

制 定 平成 15 年 4 月 1 日
最終改正 平成 24 年 10 月 17 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における、情報処理教育・研究を推進するとともに、学外の諸機関との連絡・調整及び情報ネットワークの管理運営を行うために、情報科学教育研究センター（以下「情報センター」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 情報センターにおいては、次の各号に掲げる業務（以下「センター業務」という。）を行う。

- 一 情報センター内の施設・設備に関する管理運営及び保守に関すること。
- 二 情報ネットワークの管理運営及び保守に関すること。
- 三 情報処理及び関連技術に関する教育・研究及び助言を行うこと。
- 四 情報処理に関する外部機関との連絡・調整を行うこと。
- 五 情報処理に関連した公開講座の実施及び課外活動等の支援に関すること。

(センター長)

第 3 条 情報科学教育研究センター長（以下「センター長」という。）を置き、本校の専任教員のうちから校長が任命する。

- 2 センター長は、前条の業務を掌理する。
- 3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 4 条 情報センターの業務を円滑に行うために、情報科学教育研究センター員（以下「センター員」という。）を置く。

- 2 センター員は、センター長を補佐するとともに、センター業務の企画立案及びその業務の遂行にあたる。
- 3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。
- 4 センター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター職員)

第 5 条 情報センター担当の技術職員（以下「センター職員」という。）を置く。

- 2 センター職員は、センター長の指示を受けて、センター員とともにセンター業務の遂行及び援助を行う。

(運営委員会)

第 6 条 情報センターの管理運営に関する事項を審議するため、情報科学教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関する必要な事項は別に定める。

(情報ネットワーク室)

第 7 条 第 2 条第二号に規定する業務を円滑に行うため、情報ネットワーク室を置く。

- 2 情報ネットワーク室に室長及び主任を置き、センター員の中から校長が任命する。
- 3 情報ネットワーク室の運営について必要な事項は別に定める。

(事務)

第 8 条 情報センターに関する事務は、技術室第 2 グループが行う。

(雑則)

第 9 条 情報センター及び情報ネットワークの利用について、必要な事項は別に定める。

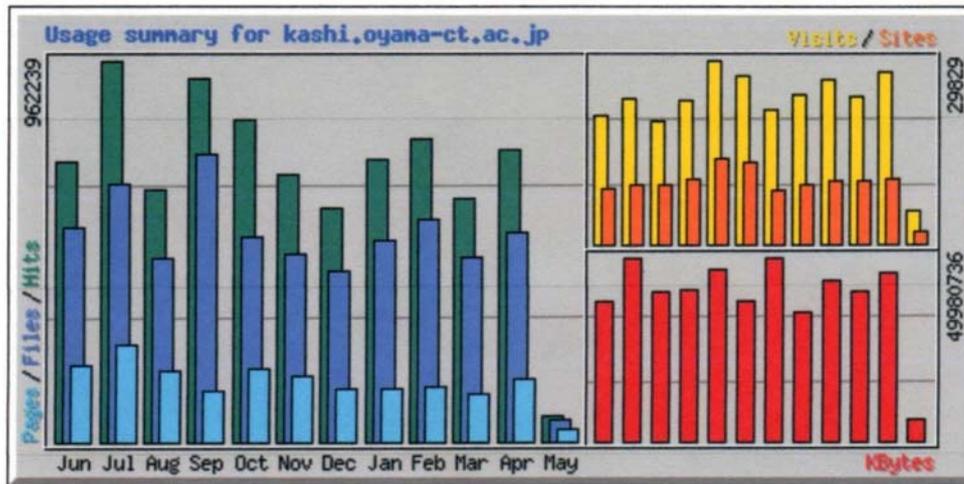
附 則

- 1 この規則は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規程（平成 9 年 4 月 1 日制定）は、廃止する。

(出典：小山高専 H P)

資料 8-1-②-5 : ホームページのアクセス件数 (既出 : 資料 1-2-②-2)

Usage Statistics for www.oyama-ct.ac.jp

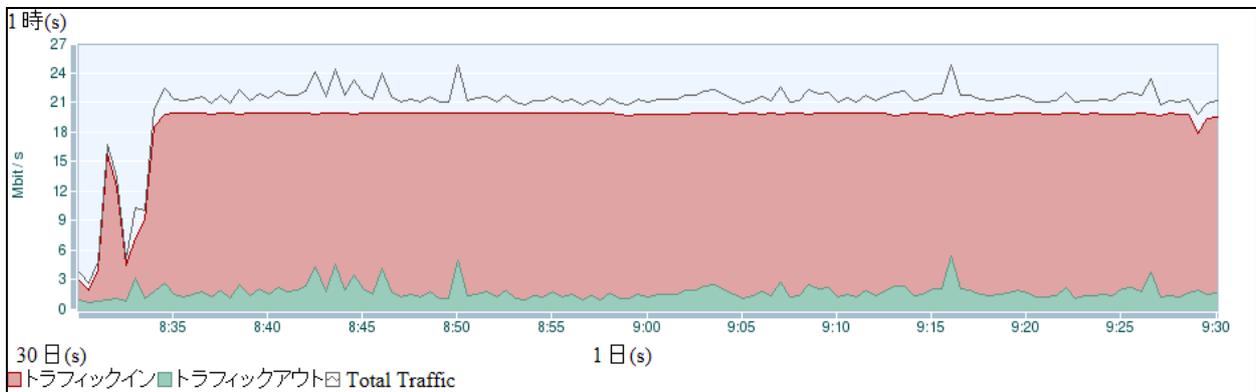


	Hits	Files	Pages	Visits	Sites	KBytes	Visits	Pages	Files	Hits
May 2014	2104	1825	1062	179	1953	5963811	5377	31881	54762	63145
Apr 2014	24629	17681	5295	930	10607	45819997	27900	158870	530454	738891
Mar 2014	19799	15080	3914	768	10283	40701076	23830	121351	467506	613776
Feb 2014	27315	20061	4988	952	10338	43589448	26661	139690	561734	764825
Jan 2014	22979	16481	4368	783	9563	35144349	24291	135424	510927	712369
Dec 2013	19093	14034	4371	698	8622	49980736	21667	135504	435062	591888
Nov 2013	22538	15878	5576	910	13160	38105277	27316	167287	476340	676162
Oct 2013	26164	16801	5999	962	13802	46722503	29829	185989	520844	811097
Sep 2013	30574	24320	4412	773	10386	41027061	23195	132373	729604	917234
Aug 2013	20496	15035	5900	643	9668	40503849	19952	182923	466105	635384
Jul 2013	31039	20977	7993	756	9698	49727412	23449	247811	650292	962239
Jun 2013	23641	18086	6617	697	8893	38085087	20927	198523	542582	709230
						475370606	274394	1837626	5946212	8196240

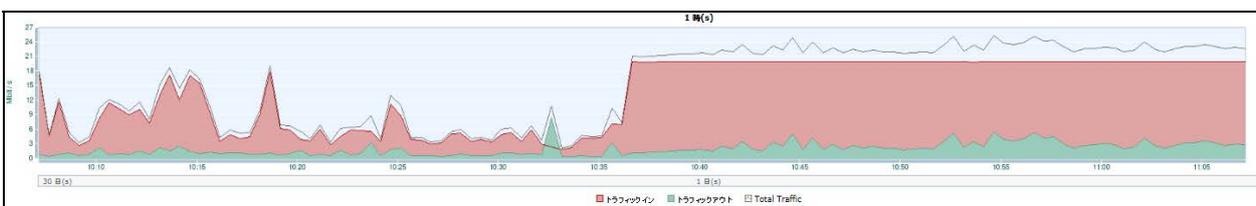
(出典 : 情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-6 : ネットワークトラフィック

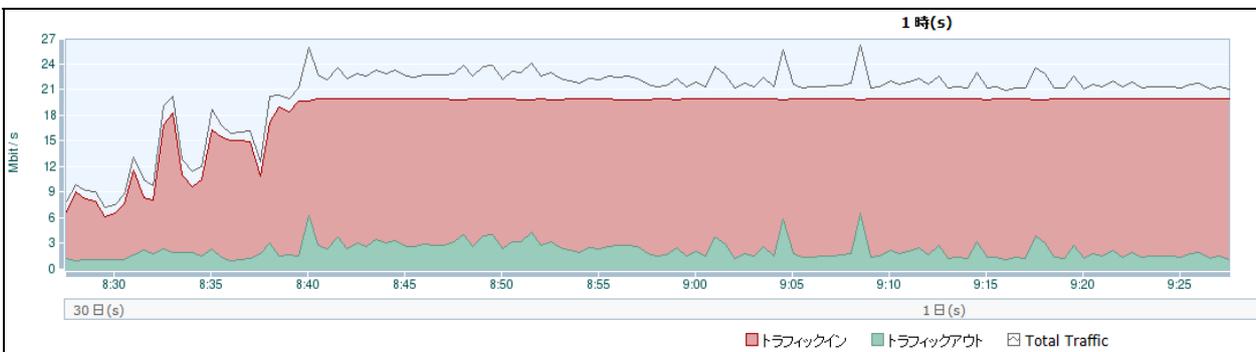
平成 25 年 7 月 5 日 (金)



平成 25 年 9 月 27 日 (金)



平成 25 年 9 月 30 日 (月)



(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-7：情報科学教育研究センターの利用について

○情報科学教育研究センターの利用について

情報科学教育研究センターを利用するときは、下記の「情報科学教育研究センター利用上の注意」を守って利用してください。

「情報科学教育研究センター利用上の注意」

まえがき

これは、小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター（以下「センター」という。）を利用するにあたり、守るべき事柄をまとめたものである。

1. センターの利用について

- (1) 施設、設備、備品等を破損しないこと。もし紛失や故障の場合には、速やかにセンター職員に報告すること。
 - (2) センター内は土足禁止とする。
 - (3) 履物は整理整頓すること。
 - (4) 演習室、実習室内へ飲食物を持ち込まないこと。
 - (5) センター内へごみは持ち込まないこと。また、発生したごみは持ち帰ること。
 - (6) 利用後の後始末、整理、整頓を行うこと。
 - (7) LAN管理室は立ち入り禁止とする。
 - (8) センター利用時間を守ること。
2. 教育用電子計算機システムの利用について
- (1) 一人で複数の端末を許可無く占有しないこと。
 - (2) システムの稼動に必要なファイルを無断で消したり、書き換えたりしないこと。
 - (3) 端末に振動や衝撃を与えないこと。
 - (4) インストールされているソフトウェアを持ち帰らないこと。
 - (5) 必要以上に印刷を行わないこと。
 - (6) 未使用のプリンタ用紙をセンター外に持ち出さないこと。
 - (7) 不要なプリンタ用紙は、丸めたり折ったりせず、用紙入れに入れること。

— 165 —

3. 情報ネットワークの利用について

本校の一員としての自覚を持ち、正しく利用すること。万一、不正利用が認められた場合には利用許可を取り消すことがある。なお、学内からインターネットを利用した場合のすべてのアクセス記録はサーバに保存され、管理調査等に使用される。

3. 1 一般的な利用について

- (1) 他人の誹謗中傷等、公序良俗に反する書き込みやメールを送信しないこと。
- (2) 情報発信の際の内容には責任を持ち、詐欺や他人に迷惑をかける行為を行わないこと。
- (3) 商用目的、営利目的の利用はしないこと。
- (4) 猥褻、暴力的内容や違法な内容のコンテンツを閲覧しないこと。

3. 2 電子メールの利用について

- (1) spamメールやチェーンメール等、迷惑メールを送信しないこと。
- (2) 送信時、添付ファイルの容量が大きすぎないように注意すること。
- (3) 匿名のメール、送信元を詐称したメールは送信しないこと。

3. 3 Webページ等による情報発信について

- (1) 他人の著作物を、著作権保持者に許可無く掲載しないこと。
- (2) コンピュータウイルス等、他人に害を与えるプログラムを配布しないこと。
- (3) 他人のWebページに対して、許可無くリンクしないこと。

3. 4 セキュリティについて

- (1) 侵入、改竄など、他のコンピュータに対して不正アクセスを行わないこと。
- (2) コンピュータウイルス等、他人に害を与えるプログラムを持ち込まないこと。
- (3) ファイル交換用P2Pソフトを用いて、外部情報ネットワークへ接続しないこと。
- (4) 無線ネットワーク機器等を、許可無く学内情報ネットワークへ接続しないこと。
- (5) 許可無く他人の個人情報を公開しないこと。

— 166 —

(出典：平成 25 年度学生便覧、pp165, 166)

資料 8-2-①-1 : 蔵書構成表

平成 26 年 3 月 31 日現在

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
		総記	哲学	歴史	社会 科学	自然 科学	工学	産業	芸術	語学	文学	
学生用	和書	2,725	2,511	5,505	5,896	15,329	21,093	832	3,507	3,434	10,599	71,431
	洋書	141	14	30	45	898	1,053	5	52	972	236	3,446
	小計	2866	2525	5535	5941	16227	22146	837	3559	4406	10835	74,877
教員用	和書	319	640	1,030	638	1,671	3,533	181	333	938	893	10,176
	洋書	12	1	7	4	271	350	1	12	295	52	1,005
	小計	331	641	1037	642	1942	3883	182	345	1233	945	11,181
合計	和書	3044	3151	6535	6534	17000	24626	1013	3840	4372	11492	81,607
	洋書	153	15	37	49	1169	1403	6	64	1267	288	4,451
	小計	3197	3166	6572	6583	18169	26029	1019	3904	5639	11780	86,058
割合 (%)		3.7%	3.7%	7.6%	7.6%	21.1%	30.2%	1.2%	4.5%	6.6%	13.7%	100%

(出典：図書館管理システム)

資料 8-2-①-2 : 身分別貸出数一覧

平成 26 年 3 月 31 日現在

	平成23年度				平成24年度				平成25年度			
	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計	図書	雑誌	視聴覚資料	計
1年	1,073	9	9	1,091	1,298	25	23	1,346	580	16	18	614
2年	656	25	2	683	691	53	2	746	662	22	5	689
3年	1,376	84	32	1,492	1,485	31	15	1,531	1385	85	0	1,470
4年	1,509	93	2	1,604	1,917	78	8	2,003	1534	45	4	1,583
5年	2,331	151	1	2,483	1,454	48	2	1,504	1835	44	0	1,879
専攻1年	486	13	3	502	658	44	2	704	240	5	0	245
専攻2年	293	10		303	382	2		384	635	82	0	717
教職員	700	144		844	852	133	7	992	605	132	10	747
一般	212	28		240	181	27		208	232	43		275
名誉教授・他	89	3		92	88	9	7	104	102	2	7	111
計	8,725	560	49	9,334	9,006	450	66	9,522	7810	476	44	8,330

(出典：図書館管理システム)

資料 8-2-①-3 : 分類別貸出数一覧

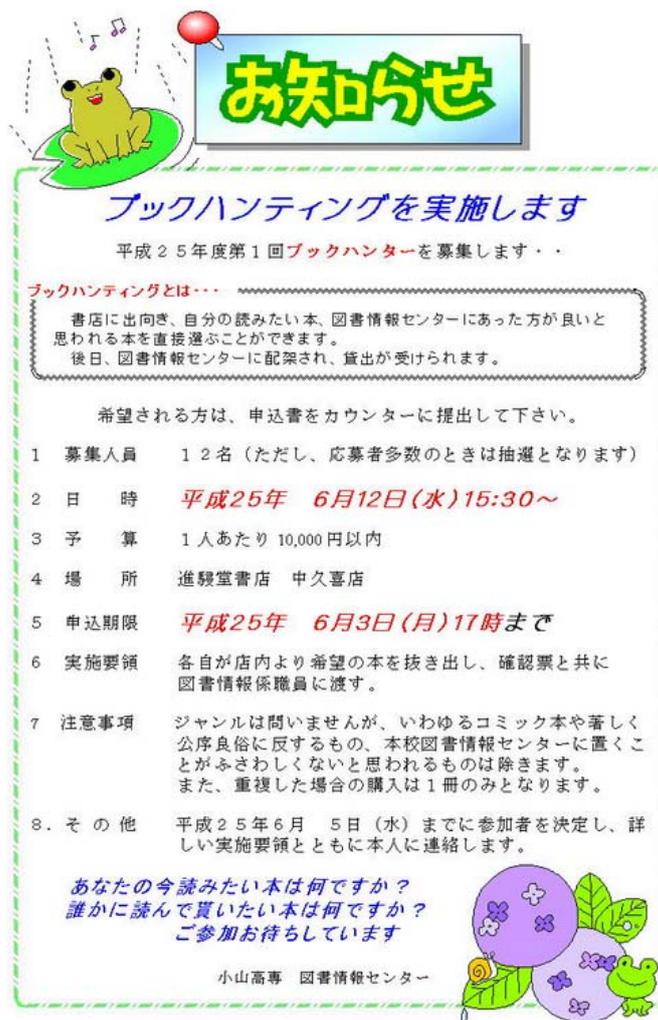
平成 26 年 3 月 31 日現在

分類別貸出数

分類	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
0	404	364	425
1	91	99	99
2	233	244	179
3	252	231	302
4	1,950	2,281	2,099
5	2,875	2,515	2,464
6	36	36	33
7	91	146	161
8	356	538	507
9	1,121	1,280	1,265
文庫他	1365	1,338	320
雑誌	560	450	476
計	9,334	9,522	8,330

(出典 : 図書館管理システム)

資料 8-2-①-4 : ブックハンティング



お知らせ

ブックハンティングを実施します

平成 25 年度第 1 回ブックハンターを募集します・・・

ブックハンティングとは・・・

書店に出向き、自分の読みたい本、図書情報センターにあった方が良いと思われる本を直接選ぶことができます。
後日、図書情報センターに配架され、貸出が受けられます。

希望される方は、申込書をカウンターに提出して下さい。

- 1 募集人員 12名 (ただし、応募者多数のときは抽選となります)
- 2 日 時 **平成25年 6月12日(水) 15:30～**
- 3 予 算 1人あたり 10,000円以内
- 4 場 所 進賢堂書店 中久喜店
- 5 申込期限 **平成25年 6月3日(月) 17時まで**
- 6 実施要領 各自が店内より希望の本を抜き出し、確認票と共に図書情報係職員に渡す。
- 7 注意事項 ジャンルは問いませんが、いわゆるコミック本や著しく公序良俗に反するもの、本校図書情報センターに置くことがふさわしくないとと思われるものは除きます。また、重複した場合の購入は1冊のみとなります。
8. その他 平成25年6月 5日(水)までに参加者を決定し、詳しい実施要領とともに本人に連絡します。

あなたの今読みたい本は何ですか？
誰かに読んで買いたい本は何ですか？
ご参加お待ちしております

小山高専 図書情報センター

(出典 : 小山高専HP)

資料 8-2-①-5 : 電子ジャーナル・データベース

名 称 (アルファベット順)	内 容	提供元	*EJ or DB
ジャパンナレッジ	百科事典・辞書・ニュース・学術サイト URL などを集積した知識データベース	株式会社 ネットアドバンス	DB
ACS Publications	ACS が発行するコアジャーナル 24 誌と New タイトル 2 誌フルテキスト	American Chemical Society	EJ
Cinii (論文情報ナビゲータ)	学協会が発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要のデータベース	N I I (国立情報学研究所)	DB
JdreamIII (科学技術文献速報 Web 版)	科学技術全分野 (1975 年～Current)、医学関連分野のデータベース	株式会社ジー・サーチ	DB
Science	米科学誌サイエンスの電子版	アメリカ科学振興協会 (AAAS)	EJ
MathSciNet	米国数学会が提供する世界の数学文献を収録したデータベース (1940 年～)	American Mathematical Society	DB
Science Direct	Elsevier グループ発行の全雑誌のフルテキスト (1995 年～)	Elsevier	EJ

* EJ=電子ジャーナル (主に論文のフルテキストまで利用可)

DB=文献検索データベース (主に書誌情報=論文の情報および抄録まで利用可)

新聞のデータベース

日経テレコン 21	日経 4 誌・毎日新聞等、10 アクセス	日経メディアマーケティング
-----------	----------------------	---------------

(出典：小山高専HP)

資料 8-2-①-6 : 電子ジャーナル講習会 イーブック

JDream II 講習会

内 容 JDream II の紹介と基本的な利用法

「JDream II」は、科学技術や医学・薬学関係の国内外文献情報を手軽に検索できる画期的なデータベースです。収録文献は 5,800 万件で、科学技術の全分野にわたり体系的に収録されており、研究者や技術情報担当者に幅広い支持を受け、使われているデータベースです。今回は、専門の講師をお招きし、実習を含めた講習会を開催します。論文作成や卒業研究などを進めるうえで大変有益な講習会です。

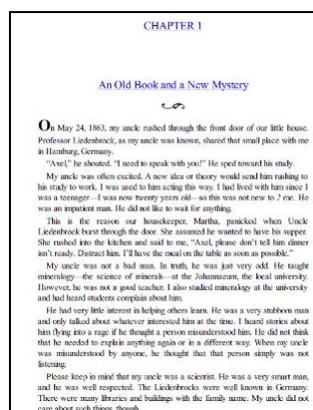
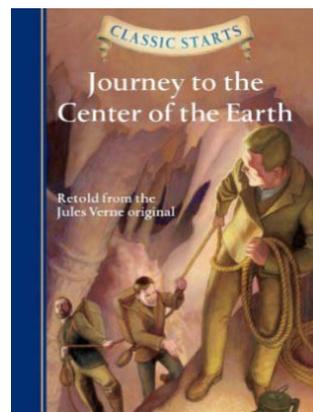
日 時 6月29日(金) 15:00~16:40

場 所 情報科学教育研究センター 第1演習室

講 師 (独)科学技術振興機構 情報提供部
火口正芳氏

対 象 希望者(5年生・専攻科生・教職員)

定 員 先着45名(図書カウンターにお申し込みください)



(出典：小山高専HP)

資料 8-2-①-7 : ホームページ目次

図書情報センターの紹介	利用案内 (一般開放のご案内)	開館予定
蔵書構成	蔵書検索	定期購読雑誌一覧
図書情報センターだより	小山高専研究紀要目次 (平成 15 年度第 36 号より本文も掲載)	図書情報センター規程
よくある質問	リンク集	

学内ページ目次

電子ジャーナル データベース	イーブック	マルチメディアルーム グループ学習室の利用法
交流ラウンジの利用法	文献複写の申込み	学生希望図書の申込み
予約図書の確認		

(出典：小山高専HP)

資料 8-2-①-8 : 展示 (平成 25 年度)

4 月	青春小説
5 月	人生訓
7 月	夏の教員推薦図書
10 月	読書週間
11 月	英語多読
2 月	3.11 震災を振り返る

(出典：図書情報センター資料)

資料 8-2-①-9 : 新入生向けパンフレット

開館時間

■平日 9:00~20:00
 ■土曜日、長期休業期間中の日曜日・祭日 9:00~17:00
 ■長期休業期間中の日曜・祭日 休館

貸出期間

貸出日・貸出日(借出日)、本学の定休日は貸出、年末・年始、長期休業・短期休業期間中の土曜日・祭日は借出期間、借出の期間はその程度短縮します。

貸出種別	貸出種別	貸出数	貸出期間
通常貸出	図書および教科図書	2冊	2週間
	雑誌	2冊	2週間
一般貸出	部外図書(図書以外の図書)	1冊	1週間(借出日)
	JARICコーナーの図書	1冊	1週間(借出日)
卒業貸出	図書および教科図書	2冊	12月
	(中央、専攻別図書)		
留内貸出	特種貸出	1冊	返日のみ

行事予定

- 5-9 電子ジャーナル講習会
- 7月 教員推薦図書展覧
- 10月 読書委員会 図書情報センター
- 11月 工務部/ITアコム図書情報センター/ITアコム図書情報センター

(出典：図書情報センター資料)

資料 9-1-①-1 : 教育改善推進室規程

小山工業高等専門学校教育改善推進室規程

制 定 平成16年11月1日
最終制定 平成22年 4月1日

(設置の目的)

第1条 教育の改善活動に対して組織的・継続的に支援し、教授方法の改善・向上を促進することを目的として、小山工業高等専門学校教育改善推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(組織)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事補
- 二 教務委員若干名
- 三 その他校長が必要と認めた者

2 室員は、校長が任命する。

3 第1項各号の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

4 推進室に室長を置き、教務主事補をもって充てる。

(任務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育方法の評価と改善に関する事。
- 二 教育技術の向上に関する事。
- 三 研修に関する事。
- 四 教育貢献評価方法の調査研究に関する事。
- 五 カリキュラム改革に関する事。
- 六 その他教育改善の推進に関する事。

(事務)

第4条 推進室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、推進室が別に定める。

(出典：小山高専HP)

資料 9-1-①-2 : 小山高専における F D 活動

小山高専における F D 活動

1. F D の目的

F D (Faculty Development) とは、広い意味では、教員の資質・能力の向上を目指すこと全般を示し、狭い意味では、特に教育能力の向上と開発を示します。また、個々の自己研鑽によるものから、組織としての取り組みまで、様々な形態があります。
 高等専門学校における教員は科学技術者であり研究者である一方で教育者です。従って当然のことながら教育能力の向上と開発を目指す必要があります。その際に、自己研鑽による個人的な活動は勿論のこと、学校という組織としての F D により、その効果を高める必要があります。

2. 組織的な取り組み

①学生による評価「 授業評価アンケート 」 Plan 授業内容、教材、方法、シラバス決定 Do 授業実施 Check 授業評価アンケートの実施 Action 授業改善案	②教員どうしによる評価と研修「 公開授業 」 Plan 授業内容、教材、方法、シラバス決定 Do 公開授業の見学 Check 参観者アンケートの実施 Action 授業改善案
③教育力改善のための研修「 教育改善研修会 」 教育改善に関わる様々なテーマについて議論。テーマによっては学内外から講師を招き講演。	

3. 教員から見た流れ

	(提出書類等)	(提出時期)
新任者研修	新任者のみ	
授業計画(Plan) 教育目標決定・シラバス作成	シラバス	2月
授業改善案実施計画等	教科書・教材選定	1月
授業実施(Do) シラバス配布及び説明	授業実施記録	3月
授業実施(改善案実施を含む)等	答案コピー等裏付け資料	3月
授業評価(Check) 採点・成績評価(教員の自己評価)	成績定期試験後	
授業アンケート(学生による評価)	学生による授業評価	7・2月
公開授業アンケート(同僚による評価)	公開授業の評価	6・10月
授業改善(Action) 教育改善案・教育改善研修会	F D アクションレポート	3月
研究発表・学外研修会・自己研鑽等	授業評価に対するコメント	4月

4. F D 関連の年間スケジュール

- 4月 前年度授業評価アンケート結果に対するコメント記入(授業改善案等)
授業開始・シラバス配布
- 6月 中間試験・教育改善研修会(1回目)・授業公開週間(1回目)
- 7~8月 前期授業評価アンケート・
- 8月 前期末試験・学外における、各種教員研究集会
- 10月 教育改善研修会(2回目)・授業公開週間(2回目)
- 11月 前期授業評価アンケート結果に対するコメント記入・中間試験
- 1月 教科書等選定
- 2月 学年末試験・次年度シラバス作成・後期授業評価アンケート
- 3月 授業実施記録・F D アクションレポート・裏付け資料提出・次年度シラバスWeb公開

(出典：教務関係資料)

資料 9-1-①-3 : 点検・評価項目に対するエビデンスの作成・収集等に関する実施方法

点検・評価項目に対するエビデンス及び作成・収集・保管等
に関する取扱要項

調 定 平成 21 年 4 月 1 日

最終改正 平成 22 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この取扱要項は、小山工業高等専門学校点検評価規程（平成 20 年 4 月 1 日制定）に基づく点検及び評価等（以下「点検・評価等」という。）の各事項・項目・細目（以下「細目等」という。）に関するエビデンス、エビデンスの作成・収集・保管の担当部署等並びに認証評価等の対応に係る報告書等作成部署等について、必要な事項を定める。

(エビデンス等)

第 2 条 点検・評価等の細目等、エビデンス、作成・収集、保管部署及び報告書等作成部署は、別表のとおりとする。

(エビデンスの作成)

第 3 条 エビデンスは、各細目等の単位で、別表に定める期間・サイクル毎に作成部署が責任を持って作成・整備等を行い、別に収集期限を定めている場合を除き、当該期間・サイクルの終了時の翌月の末日までに収集部署に提出する。

- 2 エビデンスは、別に様式、記録媒体等が定められている場合は当該様式、記録媒体等で作成するものとする。
- 3 エビデンスが既存の冊子等の場合及び教職員若しくは学生の提出物等の場合は、作成部署が整備等を行うものとする。
- 4 エビデンスの作成に当たっては、別に定めのない場合は、PDF ファイルによる作成・整備も可能とする。
- 5 エビデンスの作成部署に当たっている者が、転出その他の事情により期間・サイクル内に本校を離れる場合は、在職期以内に、作成・整備等を行ったエビデンスを、収集部署に提出しなければならない。

(エビデンスの収集)

第 4 条 エビデンスの収集部署は、前条に定める期日等までにエビデンスの提出がない場合は、エビデンス作成部署に督促し、提出を促すものとする。

- 2 エビデンスの収集部署は、エビデンスの収集が完了した場合、速やかに保管部署に引き渡さなければならない。

(エビデンスの保管)

第 5 条 エビデンスの保管部署は、個人情報等に関する関係法令等を遵守し、適切に保管しなければならない。

- 2 保管部署は、認証評価等受審時並びに点検評価委員会（以下「委員会」という。）及び報告書等作成部署の求める時は、速やかに対応するものとする。この場合、特段の定めのある場合を除き、紙媒体にて提出するものとする。

<以下略>

(出典：小山高専規程集)

資料 9-1-①-4 : 教務委員会議事録 (抜粋)

平成 25 年度 1 月 教務委員会議事要旨

日 時 : 平成 26 年 1 月 8 日 (水) 15 : 00 ~ 16 : 10
 場 所 : 管理棟 3 F 301 ゼミ室
 出席者 : 教務委員
 議 題

- [報告事項]
(省略)
- [審議事項]
(省略)
- [依頼事項]
(省略)
- < 入学者対策室報告 >
(省略)

< 教育改善推進室報告 >
 1. 後期授業アンケートについて
 柴田主事補から、次のとおり報告及び依頼があった。
 ○ 学生による授業アンケート (後期分・4・5 年および専攻科) を実施いたします。
 ○ 実施時期は、授業終了日の 2 月 4 日までとします。
 ○ 1 ~ 3 年の授業でアンケート実施ご希望の先生方には、早めに教務係まで申し出ていただけるよう、ご案内ください。

(以下省略)
 以上

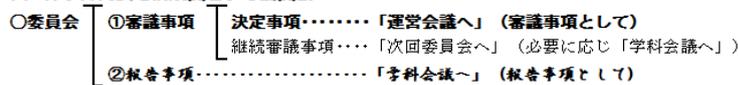
(出典 : 教務委員会議事録)

資料 9-1-①-5 : 小山高専内での学内会議の階層性 (抜粋)

■ 学内会議の在り方と議事報告について

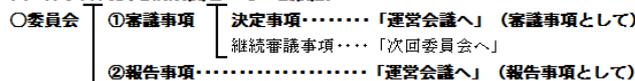
1. 委員会

(1) 各学科代表を構成員とする委員会



「教務委員会」「学生委員会」「寮務委員会」「専攻科委員会」「図書情報センター運営委員会」
 「技術者教育プログラム検討委員会」「情報科学教育研究センター運営委員会」「安全衛生委員会」
 「地域共同開発センター運営委員会」「ものづくり教育研究センター委員会」「環境整備委員会」
 「予算委員会」(「レクリエーション委員会」の議題は、全て学科委員が各学科に報告する)

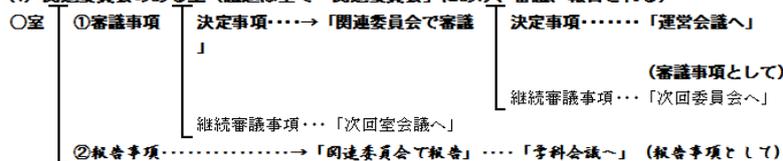
(2) 各学科代表を構成員としない委員会



「国際交流委員会」「情報安全管理等委員会」「教育研究支援委員会」

2. 室

(1) 関連委員会のある室 (議題は全て「関連委員会」にあげ、審議、報告される)

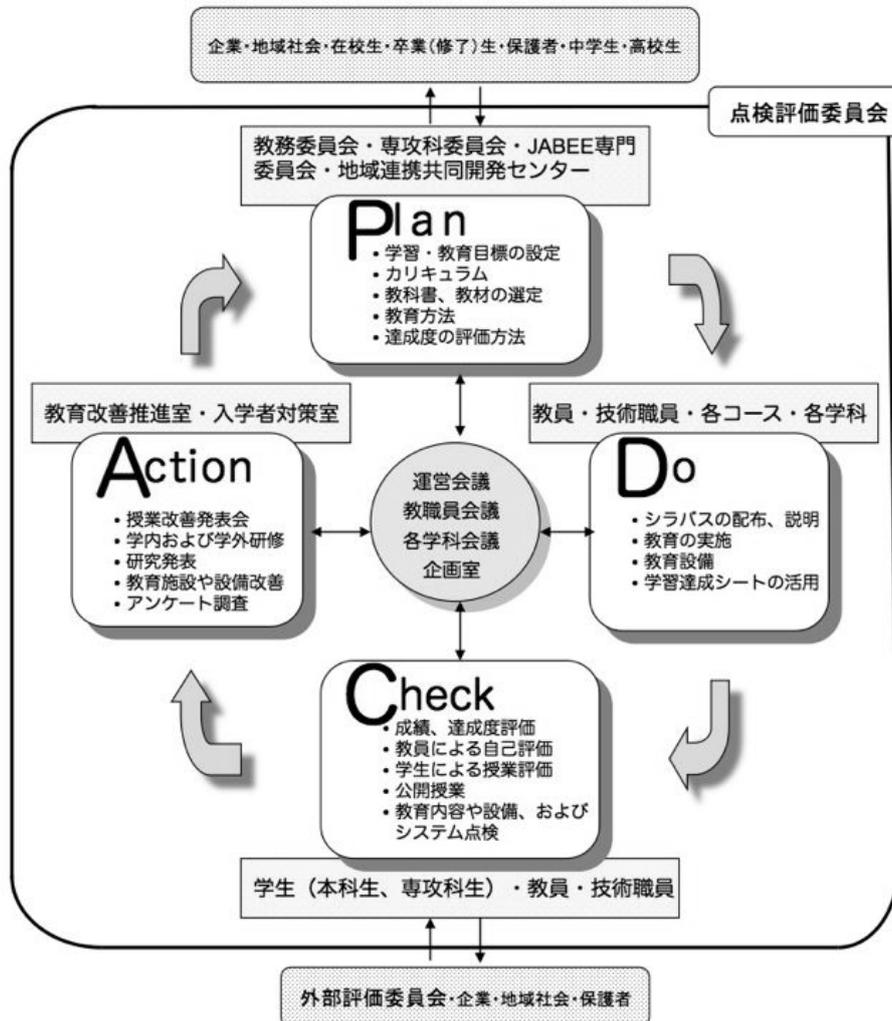


(省略)

以上

(出典 : 教職員会議資料)

資料 9-1-①-6 : 小山高専における教育点検システム



(出典：小山高専HP)

資料 9-1-②-1 : 授業評価アンケート用紙

「学生による授業評価」アンケート調査用紙 〈小山工業高等専門学校 平成 年度〉

このアンケートは、授業担当教員が学生の皆さんとともに教育改善を図ることを目的として実施するものですので、ご協力ください。

■科目名

■記入上の注意

①マークの方法：黒いペンかエンピツを使用してください。

正しい例

悪い例

②マークし「直す」場合は、誤った方をはっきりと「縦の」2重線で消してください。正しい修正

あなたの所属等について 所属・学年についてお答えください。

■所属学科 [1] M [2] E [3] D [4] C [5] A [6] SM [7] SE [8] SD [9] SC [10] SA

■学年 [1] 専攻1年 [2] 専攻2年 [3] 1年 [4] 2年 [5] 3年 [6] 4年 [7] 5年

アンケート設問 アンケートの項目を5段階で評価してマークして下さい。

①:あなた自身について

- | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------------------------------------|-------|---------|---------|---------|---------|
| 1. この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？ | 10割 | 10~9割 | 9~8割 | 8~7割 | 7割以下 |
| 2. この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？ | 2時間以上 | 2~1.5時間 | 1.5~1時間 | 1~0.5時間 | 0.5時間以下 |
| 3. シラバス（授業要目）を活用していますか？ | | | | | |
| 4. わからないことや興味をもったことを質問したり調べたりしましたか？ | | | | | |
| 5. あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？ | | | | | |

②:この授業科目について

- | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。 | | | | | |
| 2. 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。 | | | | | |
| 3. この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。 | | | | | |
| 4. シラバス（授業要目）に沿って、授業が行われた。 | | | | | |
| 5. この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。 | | | | | |
| 6. この授業に総合的に満足している。 | | | | | |

③:教員について

- | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|----------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。 | | | | | |
| 2. 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。 | | | | | |
| 3. 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。 | | | | | |
| 4. 授業のポイントがわかりやすかった。 | | | | | |
| 5. 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。 | | | | | |

④:その他—実験と体育では次の質問にも答えてください

- | | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
|-------------------------------------|---|---|---|---|---|
| 1. 技能または技術の習得が十分にできた。 | | | | | |
| 2. 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。 | | | | | |
| 3. 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。 | | | | | |
| 4. 同じチーム（グループ）になった仲間と協力して行動した。 | | | | | |
| 5. (体育のみ回答) 授業中に課せられた運動量は適切なものだった。 | | | | | |

ご協力ありがとうございました。

小山工業高等専門学校

(出典：平成25年度授業評価アンケート用紙)

資料 9-1-②-2 : 学生による授業評価アンケート報告書



報告書関係
(表紙のみH24年度)

■平成25年度後期 授業アンケート結果集計表

小山工業高等専門学校 本科

■集計グループ

区分別全体集計

■評価平均レーダーチャート

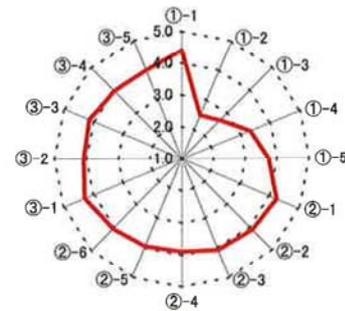
<集計明細>

■区分 **本科**
■アンケート回答者数 3,905 人

所属	件数
①M	999
②E	681
③D	776
④C	778
⑤A	658
⑥SM	0
⑦SE	0
⑧SD	0
⑨SC	0
⑩SA	0
無回答	13

学年	件数
①1年	0
②2年	0
③3年	37
④4年	2,735
⑤5年	1,132
⑥専攻1年	0
⑦専攻2年	0
無回答	1

— 本科平均

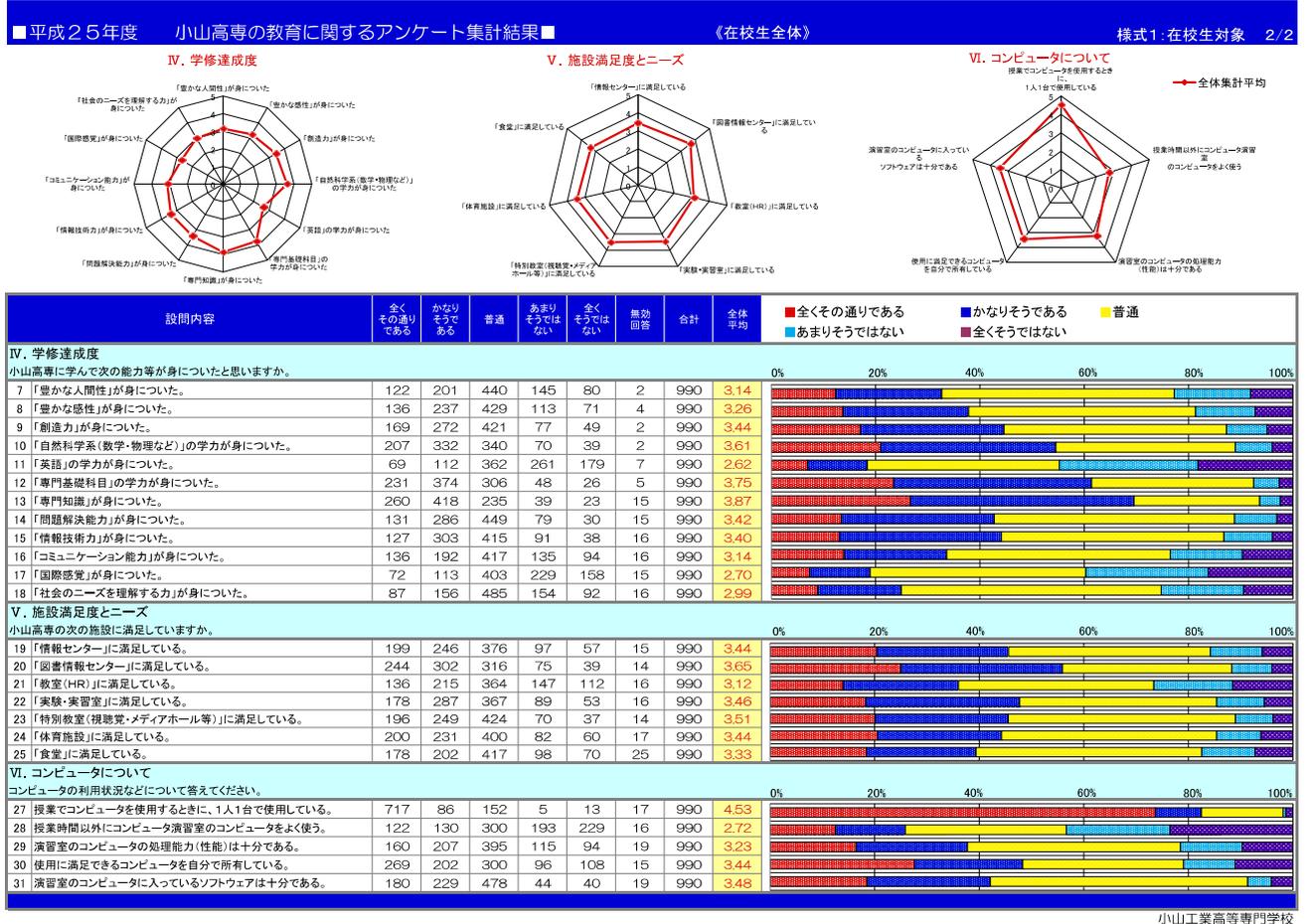


《 設問別評価集計表 》 ※全体平均は全回答者データの合計を全回答者数で除して算出しています。(無効回答は除く)

設問区分	アンケート設問内容	評価平均	評価構成 (件数)					無効データ	全学平均
			評価5	評価4	評価3	評価2	評価1		
①あなた自身について	①-1 この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？	4.4	2,298	1,015	450	106	23	13	4.4
	①-2 この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？	2.5	491	331	965	878	1,228	12	2.5
	①-3 シラバス (授業要目) を活用していますか？	2.7	525	423	1,374	499	1,071	13	2.7
	①-4 わからないことや興味を持ったことを質問したり調べたりしましたか？	3.3	718	891	1,522	427	332	15	3.4
	①-5 あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？	3.7	1,062	1,121	1,433	160	116	13	3.8
②この授業科目について	②-1 この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。	4.2	2,071	970	650	126	80	8	4.2
	②-2 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。	4.1	1,699	1,209	855	83	50	9	4.1
	②-3 この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。	4.1	1,565	1,196	971	108	53	12	4.1
	②-4 シラバス (授業要目) に沿って、授業が行われた。	3.9	1,317	1,007	1,428	85	52	16	3.9
	②-5 この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。	3.9	1,370	1,235	1,079	139	70	12	4.0
	②-6 この授業に総合的に満足している。	4.1	1,569	1,225	945	104	49	13	4.1
③教員について	③-1 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。	4.3	1,979	1,160	666	54	33	13	4.3
	③-2 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。	4.1	1,561	1,254	905	123	48	14	4.1
	③-3 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。	4.2	1,725	1,166	899	64	38	13	4.2
	③-4 授業のポイントがわかりやすかった。	4.0	1,533	1,142	987	161	67	15	4.0
	③-5 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。	4.0	1,529	1,100	1,020	172	67	17	4.0
④その他・実体験	④-1 技能または技術の修得が十分にできた。	4.1	242	167	115	13	8	3,360	4.2
	④-2 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。	4.1	263	124	131	10	11	3,366	4.2
	④-3 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。	4.1	251	136	129	11	10	3,368	4.1
	④-4 同じチーム (グループ) になった仲間と協力して行動した。	4.3	298	116	103	7	9	3,372	4.3
	④-5 (体育のみ回答) 授業中に課せられた運動量は適切なものだった。	4.3	175	66	56	8	4	3,596	4.3

(出典：平成25年度学生による授業評価アンケート報告書)

資料 9-1-②-3 : 学習達成度調査結果、施設満足度調査等



小山工業高等専門学校

(出典：平成25年度教育に関するアンケート(学生版))

資料 9-1-②-4 : 教育に関する意見の収集が自己点検・評価に適切に反映されている資料

自己点検評価報告書の中で複数の章に反映されているが、その一例を示す。

在校生・卒業生・教職員が行う学習達成度評価に関するアンケート調査結果からは、いずれの項目においても5段階評価で概ね3以上を得ている。「英語の学力」と「国際感覚」についてはやや劣ると評価されている点に関しては改善を要する。一方、「専門知識」に関する評価が高い点については、教育の効果や成果が上がっている。

(出典：平成25年度自己点検評価報告書第6章、p. 275)

資料 9-1-②-5 : 授業公開実施について

教育改善推進室

後期授業公開実施のお願い

教員が互いの授業を自由に見学できる「授業公開週間」を下記の期間に設けることに致します。この授業公開にあたり特別な授業を設定する必要はありません。普段の授業を互いに参観することによって、授業改善のヒントやアイデアを獲得することを目的と致します。

【実施期間】 12月11日（水）～17日（火）

【対象授業】 上記期間に本校で実施されているすべての授業（講義・実験・実習）

【授業見学アンケート】 提出期限：1月15日（水）教務係まで

※「H25 授業見学アンケート用紙」は、desknet'sの「文書管理」→「各種委員会」
→「教務委員会」→「教育改善推進室」にアップロードしました。

アンケートの「授業を見学したご感想」欄の記載内容のみを、授業公開の現況周知・普及と教育改善のために学内公開します。

※クラス担任の先生方には、後ほど教室掲示用の用紙を
ポストへ配付いたしますので、中間試験終了後に掲示願います。

この期間は原則として、参観者は、授業担当者に事前連絡することなく、自由に授業参観をできることとしますので、授業担当者はその旨をご承知おき下さい。

ただし、授業担当者の都合、例えば参観者への配布物を用意する等で参観者人数を知りたい場合や、授業を参観する際の注意事項等がある場合は、ご面倒でも、事前にその旨をメール等で全教員へ配信願います。

(出典：教育改善推進室資料)

資料 9-1-②-6 : 授業見学アンケートについて

授業見学アンケート (25 年度 / 前期・**後期**)

期日	平成 25 年 1 2 月 日	クラス		授業科目	
授業担当教員	学 科 : 氏 名 :			見 学 者	学 科 : 氏 名 :

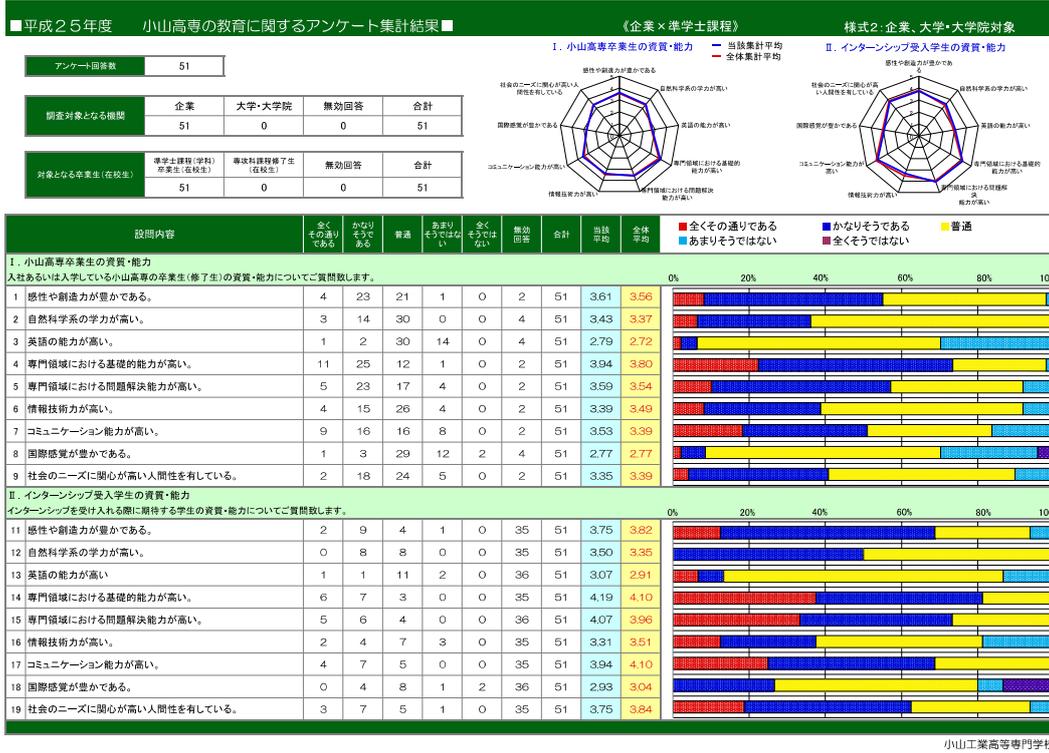
この授業を見学したご感想をお書き下さい。

この欄の記載内容のみを、授業公開の現況周知・普及と教育改善のため学内公開を予定します。

このアンケートは記入後、教務係に提出願います。

(出典 : 教育改善推進室資料)

資料 9-1-②-7 : 学外関係者に対する意見聴取結果 (準学士-企業)



(出典：平成25年度教育に関するアンケート (企業版))

資料 9-1-②-8 : 学外関係者に対する意見聴取結果 (準学士-大学)



(出典：平成25年度教育に関するアンケート (大学版))

資料 9-1-②-9 : 学外関係者に対する意見聴取結果の自己点検・評価

企業・大学・大学院が行う資質・能力評価に関するアンケート調査結果からは、いずれの項目においても5段階評価で概ね3以上を得ているが、「英語の学力」と「国際感覚」についてはやや低く評価されている点に関しては今後改善の必要がある。一方、「専門知識」「コミュニケーション能力」に関する評価は高く、教育目標に対する学力や資質・能力はある程度高い評価を得ていると理解でき、養成しようとしている人材像に対しての教育の効果や成果が上がっている。

(出典：平成25年度自己点検評価報告書第6章、p. 275)

資料 9-1-②-10：自己点検・評価に対する学内で策定されている規準

小山工業高等専門学校自己点検評価専門委員会規程	
	制 定 平成20年4月1日 最終改定 平成22年4月1日
(目的)	
第1条 この規程は、小山工業高等専門学校点検評価委員会規程第6条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校自己点検評価専門委員会（以下「専門委員会」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。	
(任務)	
第2条 専門委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。	
一	自己点検評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
二	自己点検評価の実施に関すること。
三	自己点検評価に関する取りまとめ並びに報告書の作成及び公表に関すること。
四	外部評価実施の際に必要な資料の作成に関すること。
五	その他外部評価を実施するにあたり必要となる事項
六	その他専門委員会が必要と認める事項

(中略)

別表 自己点検評価の点検項目	
事 項	項 目
1. 本校の教育理念及び目的	本校の教育理念・目標
	準学士課程における教育理念・目標
	専攻科課程における教育理念・目標
2. 教育組織	各学科、各専攻の構成
	全学的なセンター
	教育活動運営体制
	教員間の連携
	教育活動支援体制
3. 教員及び教育支援者	教員の適切な配置
	教員の採用、昇任
	教員の教育活動評価
	支援者(事務、技術職員)の配置
4. 学生の受入	アドミッション・ポリシー
	入学者選抜
	入学者数の適正性
5. 教育内容及び方法	教育課程・科目の体系的編成 (授業形態、シラバス、PBL、インターンシップ)
	成績評価、単位認定、進級・卒業認定
	人間の素養の涵養
	専攻科での研究指導
6. 教育の成果	教育の成果や効果
7. 学生支援	学習支援体制
	課外活動支援
	学生生活支援体制
	進路指導
8. 施設・設備	施設・設備の整備状況
	図書資料等の整備状況
9. 教育の質の向上及び改善のためのシステム	教育の状況の点検評価
	FD活動
10. 財務	財務状況
	収支計画
	監査等の状況
11. 管理運営	管理運営体制及び事務組織
	外部有識者
	点検評価
12. 研究活動	教員の研究活動
13. 正規課程学生以外への教育サービス	活動状況

(出典：自己点検評価専門委員会規程)

資料 9-1-③-1 : 教務委員会規程

小山工業高等専門学校教務委員会規程

制 定 昭和 4 2 年 4 月 1 日
最終改正 平成 2 5 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校に、小山工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 副校長（教務主事）
 - 二 教務主事補
 - 三 各学科から 1 名（電気電子創造工学科は、2 名）
 - 四 学生課長
 - 五 その他校長が必要と認めた者
- 2 委員会に委員長を置き、副校長（教務主事）をもって充てる。

(審議事項)

第 3 条 委員会は、校長の諮問に応じ次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び改廃に関する事。
- 二 授業時間割の編成に関する事。
- 三 学校の行事に関する事。
- 四 入学者の選抜に関する事。
- 五 学生の試験に関する事。
- 六 教育改善に関する事。
- 七 その他教務に関する事。

(会議)

第 4 条 委員会は、副校長（教務主事）が招集し、その議長となる。

第 5 条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

(学科間連携教育専門部会)

第 6 条 委員会に一般科と専門学科間の連携教育を効果的に実施するため、および専門学科間の連携教育を実施するために、学科間連携教育専門部会を置く。

- 2 学科間連携教育専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
- 一 教務主事または教務主事補から 1 名
 - 二 各学科及び一般科から各 1 名
 - 三 その他校長が必要と認めた者
- 3 前項の構成員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
 - 4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 5 学科間連携教育専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(時間割編成専門部会)

第 7 条 委員会に授業時間割の編成作業等を実施するため時間割編成専門部会を置く。

- 2 時間割編成専門部会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。
- 一 教務主事補から 1 名
 - 二 各学科から各 1 名及び一般科から 2 名
- 3 前項の構成員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。
 - 4 欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。
 - 5 時間割編成専門部会に部会長を置き、委員長が指名する。

(e-learning専門部会)

第 8 条 教務委員会に e-learning の活用と推進を図るため、e-learning 専門部会を置く。

<以下略>

(出典：教務委員会資料)

資料 9-1-③-2 : 教務委員会での教育評価に関する議事録

平成 25 年度 6 月 教務委員会

日 時 : 平成 25 年 6 月 5 日 (水) 15:00~15:45

場 所 : 管理棟 3F 301 ゼミ室

出席者 : 教務委員

議 題

(中略)

<教育改善推進室報告>

1. 平成 24 年度 学生による授業評価アンケート (後期) について

柴田主事補より、次の事柄について説明があった。

○平成 24 年度 後期に実施したアンケートの集計表ができました。中間試験が終了した頃に、各担当教員あてに一旦配布します。コメント欄にご記入いただき、6 月末日までに教務係へお返してください。

(後略)

(出典 : 平成 25 年度 教務委員会 議事録)

資料 9-1-③-3 : 運営会議での教育評価に関する議事録

第 9 回 運営会議 議事要旨

日 時 : 平成 26 年 1 月 15 日 (火) 15:00~16:45

場 所 : 中会議室

出席者 : 運営会議委員 全員

議 題

【審議事項】

(中略)

4) 学生による後期授業アンケートについて

副校長 (教務主事) から、資料 16 に基づき、4,5 年生及び専攻科生を対象に実施 (1~3 年生は希望者) することへの協力依頼があった。

(後略)

(出典 : 平成 25 年度 運営会議 議事録)

資料 9-1-③-4 : 授業評価アンケートの結果に対するコメント提出の依頼

表題：平成24年度後期授業アンケート結果集計表の配布につきまして
 日付：2013年07月02日火曜日 11:22 (+0900)

教員 各位

いつもお世話になっております。教務係の尾畑です。

標記の件につきまして
 集計表を該当教員のみポストに配布させていただきました。
 教員コメント欄をご記入の上、教務係までご提出願います。
 締め切りは7月19日(金)とさせていただきます。

非常勤講師科目につきましては
 非常勤講師室のポストに配布させていただきます。

お手数をお掛けして申し訳ありませんが
 どうぞよろしくお願いいたします。

(出典：学生課教務係資料)

資料 9-1-③-5 : 学科会議における授業評価や教育課程に関する議論についての資料

電子制御工学科 学科会議 議事録

日 時： 2013年12月18日(水) 11:00~12:00
 出席者： 南斉学科長、小堀、渡辺、久保、鹿野、笠原、市村、平田、大島、飯島、井手尾
 欠席者：
 記 録： 渡辺

1) 学科長連絡 (南斉)
 ・運営会議報告
 教務関係
 試験時の不正行為の対策について
 <中略>

2) 来年度カリキュラム関係(笠幡)
 ・来年度のカリキュラム案が提示された(別紙参照)。
 おおむね了承された。
 南斉教員の時間数過大のため、検討が必要。
 渡辺教員担当、4D電気回路4は渡辺教員時間数過大のため、大島教員が代わりに引き受けることになった。
 ・成績のふるわない学生に対する補講について
 補講を行う。講師は、専攻科生、必要な科目、学生名簿を笠原に提出

3) 来年度シラバス関係(市村)
 ・来年度シラバスは、別紙の様に、小山高専学習教育目標、JABEE学習教育目標、JABEE
 規準の記入には注意して行う
 (JABEE学習目標が変更になったため)
 <後略>

以上

(出典：電子制御工学科学科会議議事録)

資料 9-1-③-6 : 専攻科委員会規則

小山工業高等専門学校専攻科委員会規則

制 定 平成11年 4月 1日

最終改正 平成23年 4月 1日

(目的)

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校専攻科運営規則第4条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 三 入学者選抜に関すること。
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- 五 試験及び学業成績に関すること。
- 六 学生の進学及び就職に関すること。
- 七 学生の厚生補導に関すること。
- 八 その他専攻科の運営に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 コース主任
- 三 一般科で専攻科を担当する教員1名
- 四 学生課長

2 前項第3号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(副委員長)

第5条 委員会に副委員長を置く。

2 副委員長は、委員の互選による。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、副委員長が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を求めることができる。

(委員会の運用)

第7条 委員会は、他の委員会と密接な関連があり調整を必要とする場合、又は他の委員会で審議することがふさわしいと判断した場合は、それぞれ調整し、又は審議を依頼するこ

(出典：小山高専HP)

資料9-1-③-7：インテンシブ・イングリッシュの開講資料

H25年度 1EE インテンシブ・イングリッシュ 実施要領

(1) 全員受講 (9月25日(水)は9時までに視聴覚室に集合) [21h]

① 講師

筑波大・外国語センター 助手 小野先生 (元小山高専教員)
 同 外国語センター 講師 外国人教員 数名 (現在 2名承諾)
 同 第3類大学院生 D2 外国人留学生 Nguyen Van Triet (元小山高専留学生)
 総数で5、6名予定。

② 実施時期 9月25日(水)から27日(金)の連続3日間(9:00-17:00)

③ 実施内容

- 実践英語(実験・ものづくりを英語を使いながら体験させる。)
- 講師総数に1EE学生総数を分割する。(GP: 15~20名)

(2) 受講者は9月9日(月)9時までに視聴覚室に集合 [9h]

① 講師

日工大・英語教育センター 教授 田中隆治先生

② 実施時期

9月9日(月)~11日(水)

③ 実施内容

- 実践的英語演習
- 83名以内・6h+21名以内・3h×4回

(3) 受講者には改めて集合場所を連絡 [9h]

① 講師

ヤズダニ先生(本校・英会話非常勤講師)夫妻(英会話教室主宰)

② 実施時期

10月5日(土)、10月12日(土)、10月26日(土)。
 いずれも午前(9:00-12:00)限定。

③ 実施内容・形態

- (英文+内容の確認等の一部、和文付き)テキスト"English for Science"使用。
- 42名以内×2クラス

◎各人、合計30hを受講することにする。

(1) [21h, 9月25日(水)から27日(金)の連続3日間(9:00-17:00)]を全員参加とし、(2)

[

9h, 9月9日(月)9:00-16:00, 10日(火)または11日(水)の午前か午後の3h]と(3) [9h, 10月5日(土), 10月12日(土), 10月26日(土)の3日間(いずれも9:00-12:00)]はいずれかを選択して参加するものとする。

科目の成績は、出席時間数はトータルで算定し、評価は(1)で7割、(2)または(3)で3割とする。

(出典：平成25年度電気電子創造工学科資料)

資料 9-1-③-8 : 香港VTCとの交流資料

学生及び教職員 各位

国際交流推進室長 武 成祥

香港専門教育学院(香港VTC)の本校訪問について

香港専門教育学院(香港VTC)の学生21名及び教員2名が、下記のとおり本校を訪問する予定です。
つきましては、国際交流へのご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

香港専門教育学院(香港VTC)の本校訪問スケジュール(案)

25.5.8 変更版

5月12日 日	5月13日 月	5月14日 火	5月15日 水	5月16日 木	5月17日 金	5月18日 土
8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00	8:00
	☆朝食	☆朝食	☆朝食	※見学バス高専発 朝食弁当 バス移動 8:50着	☆朝食	7:00 ホテル発(朝食なし) 羽田着
9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00	9:00
	歓迎式 校長挨拶 VTC調和介(挨拶) OHO7紹介 各学科紹介 (専攻科)	日本語授業	※見学バス高専発 バス移動	日産自動車見学 9:00~11:00	※見学バス高専発 バス移動	
10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00	10:00
	キャンパス見学	授業見学	栃木市内見学			羽田発
11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00	11:00
	☆昼食	特別授業	サテライト・キャンパス	バス移動	皇居 国会議事堂(車窓) 東京駅(車窓)	
12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00	12:00
		☆昼食	バス移動	★昼食	★昼食	
13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
※出迎えバス高専発			★昼食	★益子焼体験	★江戸東京博物館見学	
14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00	14:00
バス移動	各学科企画	各学科企画	日光(★東照宮他)	バス移動	浅草散策	
15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00	15:00
16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00	16:00
成田着	部活見学交流 ロボコン見学		バス移動	公用車移動 16:20着 小山市長 表敬訪問(代表)	東京ソラマチ散策	
17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00	17:00
成田発				公用車移動 17:30		
18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00	18:00
	☆夕食 17:00~19:30	ハンドベル練習見学	☆夕食 18:00~19:30	※交流会・会食 (送別会)	★スカイツリー見学	
19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00	19:00
バス車内で 各種ガイダンス	入浴 ~22:00	☆夕食 18:30~19:30	☆夕食 18:00~19:30	吹奏楽部演奏		
20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00	20:00
		入浴 ~22:00	入浴 ~22:00	入浴 ~22:00		
21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00	21:00
高専着	寮生と交流会				★ホテル着・宿泊 ★夕食	
22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00	22:00
学寮宿泊	学寮宿泊	学寮宿泊	学寮宿泊	学寮宿泊	都内ホテル宿泊	

(出典：国際交流推進室資料)

資料 9-1-④-1 : F D アクションレポートの提出について

書式の変更

アクションレポートの目的は、教員各員の F D ・教育活動を学校全体の共有財産として記録し、これらをヒント集として利用できるようにすることです。学校の業務は、大きな目立つ業績だけで成り立っているのではなく、小さくても重要な仕事がたくさん行われています。こうした事例を多く集め、蓄積することが、学校全体の地力となります。今回の変更は、こうした日々の小さな事例も多く集められるよう、書式を記入しやすいシンプルなものとししました。 2014(H26)2 月

2014.2.5

教員各位

教育改善推進室

F D アクションレポート作成のお願い

今年度のアクションレポートを作成し、ご提出くださいますようお願いいたします。このレポートの目的は、各教員の F D 活動および学生指導（教務関係）の記録を学校全体の財産として蓄積し、今後の業務に活用することにあります。

背景として、高等専門学校機関別認証評価における「基準 9：教育の質の向上及び改善のためのシステム」

観点 9-1-⑤ 教員個々が改善・向上を図るとともに、その状況を学校として把握していること。

観点 9-1-⑥ 研究活動（専門分野の研究及び教育方法等の研究）が教育の質の改善に寄与していること。

観点 9-2-② F D 活動が教育の質の向上や授業改善に結びついていること。があります。

記入内容の例としては、

教育関係研修会・学会等への参加（学内研修会を含む）

教科書等教育関係書籍の執筆（授業の私製テキスト、プリントなども含む）

教具・教材の開発、作製、改良

指導した学生の活動状況、受賞など

学内外行事関係における教育活動、学生指導など

補習、特別講座などの指導

教育関係の受賞、研究費受領

教育関係の口頭発表・論文

などが考えられますが、その他にも教員としての指導力強化、授業改善、資質向上につながる活動や学生指導（教務関係）など、少しでも教務に係わることであれば、どのようなことでも結構です。

これらを箇条書きで記してください。月日順でなくともかまいません。A4 用紙 1 枚程度にまとめてください。紙に出力して、3 月末日までに教務係へご提出ください。電子ファイルは、学科ごとに保管をお願いします。

(出典：教務委員会資料)

資料 9-1-④-2 : F D アクションレポートの記入例

例

(下記は思いつくまま挙げた例であって、実際にはこんなにたくさんでなくとも結構です)

平成 25 年度 F D アクションレポート

所属 ○○学科 氏名 小山 太郎

1. 平成 25 年度学内 F D 研修会へ参加(2013.12)
2. 授業見学会にて、☆☆先生の「基礎科学」を見学。☆☆先生と意見交換を行った(2013.11)
3. 平成 25 年度高専フォーラムに参加(2013.8)
4. 基礎教育学会クラス指導研究会で「HR 指導に関する研究」を発表 第○号 p.xx(2013.8)
5. 問題集「G の法則」(共著)の改定を行った z 出版(2013.6)
6. 学生実験「鉄球投擲器」の装置を改良。飛距離 5.8m までのびた。(2013.10)
7. △△技術コンテストに、指導した学生が参加。学生たち大変がんばってくれました。(2013.8)
8. 工陵祭にて□□学科専門企画「粘ってます」を指導。格段に粘るよう改良された。(2013.11)
9. オープンキャンパスにて展示実験「火の車」を担当(2013.8)
10. 学年末試験後、再試験該当者に補習をおこなった(2014.2)
11. 中間試験および定期試験の前に、寮生会主催の勉強会に指導に出向いた(2013.6 月、10 月)
12. 夏休みの 9 月 24 日～27 日の 4 日間、1 日 4 時間の集中補習を行った(2013.9)
13. 中学校訪問に出向き、入試説明を行った(2013.6)
14. 編入試験作題委員を担当した。委員同士で何度も会議を開き、他校や大学高校等の入試問題などを研究し、作題した(2013.6)
15. **小学校へ出前授業。学生たちに協力してもらい、「ドラえもん竹コブターをつくろう」を開催。

(出典：教務委員会資料)

資料 9-1-④-3 : FDアクションレポート例

平成25年度FDアクションレポート	
所属	
1.	硬式テニス高専大会地区予選（本校開催）顧問として準備運営を行った（2013.7.12～14）。 7
2.	今年度新規導入の3Dソフトウェア/Google Sketch up 指導のため、講習会に参加した。（2013.7.9）
3.	オープンキャンパスにおいて、製図室の展示および設計製図に関する紹介を行った（2013.8.10.11）
4.	平成25年度新任教員研修会へ参加した。（2013.8.28～30） 1
5.	3A 建築設計 IA の授業において、ゲストクリティークに建築家・式地香織さんを招き講評会を行った。（2013.7.25） 7
6.	3A デザコン応募希望者に、建築家・佐藤由紀子さんを招きエスキスを行った。（2013.8.27） 7
7.	大谷石研究会/未来に響け「石の声」展示・講評会 vol.1 に参加。栃木県産である大谷石採石場の地下空間見学した。午後は「旧大谷公会堂」を会場に、宇都宮大学建設学科学生の作品展示をみながら、地域の方々と意見交換を行った。ゼミ生も参加。（2013.9.14）
8.	日本建築家協会 JIA 第20回スクール in 栃木に学生と参加した（2013.10.12）。真壁の町歩き、笠間の家見学、宇都宮大の学生と JIA 会員の方々と意見交換を行った。
9.	2A「建築計画 IA」の授業で、西洋美術館見学を行った。西洋美術館の教育プログラム/スクール・ギャラリートークにより、専門のボランティアスタッフヘル・コルビジェ設計の美術館の説明をお願いした。企画展「ル・コルビジェ展」もあわせて鑑賞し、学生達は日本における現代建築の礎となった空間を体験した。（2013.10.29）
10.	全国高等専門学校デザインコンペティション・空間部門に、指導した学生 5A 久保、3A 高橋優斗、飯々谷が予選通過し本選出場した。（2013.11.8～10）。

（出典：平成25年度FDアクションレポート）

資料 9-1-④-4 : FDアクションレポートの集計結果

項目	一般科	機械工学科	電気電子創造工学科	物質工学科	建築学科	計
FDレポート提出	11	8	15	11	8	53
教育関係研修会への参加・発表・企画	9	4	15	14	3	45
教育関係学会への参加・発表・企画	24	21	11	12	13	81
教育関係の論文発表	4	0	7	3	0	14
教科書等教育関係書籍の執筆、教具・教材の製作	4	4	2	1	2	13
教育関係の受賞・研究費受領	2	1	0	1	1	5
指導した学生の受賞	7	0	6	8	4	25
その他教員としての資質向上につながる活動	65	70	79	77	68	359

（出典：教務委員会資料）

資料 9-1-④-5 : 授業アンケートの結果による教育改善のコメント例

■設問グループ別評価平均		当科目	全体
設問①-1~①-5合計評価平均	①あなた自身について	3.4	3.3
設問②-1~②-6合計評価平均	②この授業科目について	3.6	3.9
設問③-1~③-5合計評価平均	③教員について	3.7	4.0

※設問①-1の評価回答は以下
評価5:10割 / 評価4:10~9割 / 評価3:9~8割 / 評価2:8~7割 / 評価1:7割以下

※設問①-2の評価回答は以下
評価5:2時間以上 / 評価4:2~1.5時間 / 評価3:1.5~1時間 / 評価2:1~0.5時間 / 評価1:0.5時間以下

《教員コメント》
 (当該年度の改善状況) 毎回相当量の宿題を課し、自発的な学習を促した。
 (次年度の改善案) 少人数授業であるので、臨機応変できめ細やかな授業を心がけたい。

(出典：平成24年度授業アンケート教員コメント)

資料 9-1-④-6 : 授業アンケート、FDアクションレポート等に報告された教育改善の例

3A 構造力学Ⅱ (H25, H26) 4A 応用物理Ⅱ (H24, H25) 4A 鋼構造 (H23, H24, H25, H26)
 意図：自学自習の習慣をつけさせる。学生を板書に頼る授業態度からの脱却させる
 具体的方法：事前に講義内容の要項、演習問題と解答例を入手させ、授業時に持参させる。
 要項には、既習専門科目の復習・発展内容を入れ込む。演習問題には単なる計算問ではなく、語句説明も多出する。
 効果：最初は学生は板書を希望したが、伝えたいことは板所では間に合わず、自学自習が必要であることを多くの学生に納得してもらえた。演習問題を通じて、教員が伝えたい内容が何かを多くの学生に確実に伝えられるようになった。勿論やらない学生はいるが。

1A 創造演習Ⅰ H25, H26 前期
 意図：理解度の確認と授業に対する学生の本音を聞く
 具体的方法：各回の演習問題のレポートに授業に対する感想・意見を書かせる。
 効果：レポートの状態を見て理解度がチェックでき、次回のレポート返却時に補足説明ができる。実験を交えて実施していることに対しては、実際に学んだことが確認できると好評である。

■設問グループ別評価平均		当科目	全体
設問①-1~①-5合計評価平均	①あなた自身について	3.1	3.3
設問②-1~②-6合計評価平均	②この授業科目について	4.2	3.9
設問③-1~③-5合計評価平均	③教員について	4.3	4.0

※設問①-1の評価回答は以下
評価5:10割 / 評価4:10~9割 / 評価3:9~8割 / 評価2:8~7割 / 評価1:7割以下

※設問①-2の評価回答は以下
評価5:2時間以上 / 評価4:2~1.5時間 / 評価3:1.5~1時間 / 評価2:1~0.5時間 / 評価1:0.5時間以下

《教員コメント》
 (当該年度の改善状況) : 前年度、③-5の「プロジェクター・板書」の評価が低かったので、使用頻度を増した。結果、点数も上がり改善されたと思う。
 (次年度の改善策) : 「板書・プロジェクター」の項目が低かったので、授業で使用する機会を更に増やしたいと思う。

12. 4Eエレクトロニクス・デザインにおいて「ネットワーク」「はんだ付け」を担当、昨年度に引き続き教材の見直しを図った。(2013.11) 7
13. 後期授業見学週間にて、5件の授業を見学した。(2013.12) 7

(出典：平成24年度授業アンケートコメント、平成25年度FDアクションレポート等資料)

資料 9-1-④-7：非常勤講師の授業アンケートの結果による教育改善例

電子制御工学科非常勤講師

◆ 5D 電子工学Ⅱ

・備え付きのプロジェクタがなく、LCD ディスプレイで講義を行ったことがあります。しかし、前列の左端と右端の学生が見えないとの指摘があり、それ以降は自宅からプロジェクタを持っていきそれで空いている席から投射し見せました。

・アンケートを実施した結果、要点がわかりにくいとの指摘があり、要点を重点的に説明し、こまごまとした式の誘導等についてはプリントを配布するようにしました。

◆ 3D 電子回路Ⅱ

・演習問題で解答が省略してある問題、難しい問題についてはプリントを配布し分かりやすく説明しています。

(出典：平成26年度非常勤講師からの資料)

資料 9-1-⑤-1 : 教員の研究活動と卒業研究、特別研究のテーマ

学生による卒業研究及び特別研究関連の学外発表一覧
(電子制御工学科、電子制御工学コースの一部)

発表学生氏名	指導教員名	書名・発表題目	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 (巻・号・頁等)	発行又は発表の年月	共著、発表者一覧
準学士課程					
電子制御工学科 準学士課程 口頭発表 (2件)					
	市村智康	CPG電子回路を用いる形状記憶合金アクチュエータの駆動に関する基礎実験	電子情報通信学会技術研究報告, vol.113, no.118, CAS2013-10, pp.55-58, 2013	平成25年7月	
	市村智康	自律走行型海浜清掃ロボットの開発ー測域センサを用いた自律走行制御ー	第56回自動制御連合講演会論文集 pp.222-225, 2013	平成25年11月	
電子制御工学コース 口頭発表 (4件)					
	平田克己	遅れ時間補正と独立成分分析による音源分離	第56回自動制御連合講演会(新潟), 1039	平成25年11月	
	平田克己	バースペクトル解析を用いた不規則音源の3次元位置推定の特徴	第56回自動制御連合講演会(新潟), 1040	平成25年11月	
	南斉清巳	Network Security Test for a Real-time Embedded System with Network Equipment	International Symposium on Technology for Sustainability, November, 2013, pp.104-105	平成25年11月	
	飯島洋祐	多値符号科技術を用いた高速デジタル信号伝送に関する研究	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木支部、ETG-14-39, ETT-14-39, pp.123-124, 2014	平成26年3月	
	久保和良	大振幅ディザによる量子化の高調波抑制効果の検討	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木支部、ETG-14-39, ETT-14-39, pp.169-172, 2014	平成26年3月	

学生による学外発表の件数 (平成21~25年度)

準学士課程	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
口頭発表	18	64	2	36	51
論文	0	0	0	0	6
小計	18	64	2	36	57
専攻科課程	機械工学コース	電気情報工学コース	電子制御工学コース	物質工学コース	建築学コース
口頭発表	27	40	9	30	30
論文	0	0	0	0	1
小計	27	40	9	30	31
総計	45	104	11	66	88

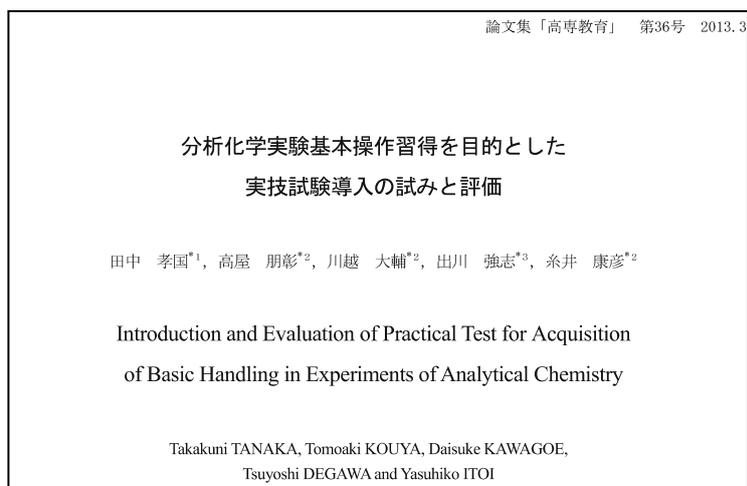
(出典：各学科、専攻科学生の学外発表に関する調査資料)

資料9-1-⑤-2：学会発表（含：コンパニション）に関する調査（既出：資料6-1-②-7）

発表学生氏名	指導教員名	書名・発表題目	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 (巻・号・頁等)	発行又は発表の年月	査読有無	共著、発表者一覽	備考：受賞などの特記事項
準学士課程							
機械工学科 準学士課程 口頭発表 (9件)							
	山下 進	シルバーカーの安全性に関する研究	日本機械学会関東学生会第53回学生会員卒業研究発表 講演会講演前編集	平成28年3月	無		BPA受賞
	朱 勤	連続Wavelet変換結果を用いたカオス振動検出の試み	第16回高等シンポジウム in 久留米講演要旨集,p.477.	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電気情報工学科 準学士課程 口頭発表 (8件)							
	北野達也	SiCパワーデバイスを用いたWDT方式電力変換器の試作と評価	電気学会東京支部栃木支所研究発表会	平成28年3月	無		
	鈴木真ノ介	教育からホビーまでを視野に入れた球型ロボットの開発	大学コンソーシアム栃木第10回「学生&企業研究発表会」プログラム	平成25年12月	無		
(以下省略)							
電子制御工学科 準学士課程 口頭発表 (2件)							
	市村智彦	CPG電子回路を用いる形状記憶合金アクチュエータの駆動に関する基礎実験	電子情報通信学会技術研究報告, vol.113, no.115, CAS2013-10, pp.55-58, 2013	平成25年7月	無		
	市村智彦	自律走行型海浜清掃ロボットの開発 - 測位センサを用いた自律走行制御 -	第56回自動制御連合講演会論文集 pp.222-225, 2013	平成25年11月	無		
物質工学科 準学士課程 口頭発表 (7件)							
	加島敬太, 高屋朝彰, 川越大輔, 田中孝国	かんぴょう炭粉の性能に及ぼすバイナダー添加の影響	第16回化学工学会学生会発表会(東京大会)研究発表講演要旨集 p.104 (東工大)	平成28年3月	無		
	田中孝国	気泡型曝気装置を用いた含油排水処理装置の評価	第16回化学工学会学生会発表会(東京大会)研究発表講演要旨集 p.3 (東工大)	平成28年3月	無		
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 口頭発表 (3件)							
	本多良政	開口を有するRC造袖壁付柱のFEM解析	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p21-22	平成28年3月	無		
	大島隆一, 横内基	伝統的建造物における空き家の再活用計画	2013年度高専女子フォーラム in 関東信越	平成25年12月	無		ポスター発表
(以下省略)							
建築学科 準学士課程 論文発表 (1件)							
	横内基	面材真壁を応用した歴史的建造物の耐震補強工法に関する研究	高専機構本部：耐震性を育む「卒業研究」集、推薦	平成28年2月		学内審査あり	
専攻科							
機械工学コース 口頭発表 (3件)							
	山崎 朝則	計量コンベアの動的挙動と制御	S12013 講演会プログラム	平成25年12月	無		
	那須 尚規	塩漬環境下におけるフレッキング摩耗現象のその場観察	日本機械学会関東支部栃木ブロック研究交流会	平成25年11月	無		
(以下省略)							
電気情報工学コース 口頭発表 (8件)							
	石原 学	タッチパネル面の割傷による粗さ感覚の検討	第16回高等シンポジウム	平成28年1月	無		
	鈴木真ノ介	磁界共鳴型ワイヤレス電力伝送システムにおける出力向上に関する研究	第16回高等シンポジウム	平成28年1月	無		
(以下省略)							
電子制御工学コース 口頭発表 (5件)							
	姫島洋祐	多値符号科技術を用いた高速デジタル信号伝送に関する研究	電気学会研究会、東京支部、群馬支部、栃木支部、ETG-14-39, ETI-14-39, pp.123-124, 2014	平成28年3月	無		
	平田克己	遅れ時間補正と独立成分分析による音源分離	第56回自動制御連合講演会(新潟), 1038	平成25年11月	無		
(以下省略)							
物質工学コース 口頭発表 (9件)							
	加島敬太, 高屋朝彰, 川越大輔, 田中孝国	かんぴょうを利用した安全な乾燥剤の開発	第16回化学工学会学生会発表会(東京大会)研究発表講演要旨集 p.105 (東工大)	平成28年3月	無		優秀賞
	田中孝国	超音波照射が活性汚泥の代謝活性とフロックに及ぼす影響について	第10回「学生&企業研究発表会」(宇都宮大学)	平成25年12月	無		奨励賞
(以下省略)							
建築学コース 口頭発表 (6件)							
	川上勝弥	威物質微粉末混入モルタルの活性度及び浸水性に関する実験的研究	(公社)日本コンクリート工学協会関東支部栃木地区 研究発表会 講演要旨集, p43-44	平成28年3月	無		
	橋本彼路子	被災地域における高齢者・障がい者のニーズと仮設住宅地計画の提案	とちぎ大学連携サテライトオフィス 学生&企業研究発表会、予稿集 P90-91	平成25年12月	審査あり		おかげさまで創設百三十周年賞(勝井産業株)
(以下省略)							

(出典：各学科の学会発表に関する調査資料)

資料 9-1-⑤-3 : 教育改善についての論文 (1)



(出典 : 「高専教育」 第36号 2013. 3)

資料 9-1-⑤-4 : 教育改善についての論文 (2)



(出典 : 「日本科学教育学会」 2012. 2)

資料 9-1-⑤-5 : 教育改善についての論文 (3)



(出典 : 「高専教育」 第37号 2014. 3)

資料 9-2-①-1 : 教育改善研修会案内

FD研修会（講演会）の実施について

教員 各位

教育改善推進室長 柴田 洋一

下記の要領にて、平成25年度のFD研修会（講演会）を実施しますので、ご出席いただけますよう、ご案内申し上げます。

記

日時 平成25年11月27日（水）15:00～17:00

場所 視聴覚室

対象 全教員

講師 谷口 和成 氏 京都教育大学准教授

題名 「相互作用型授業の意義と方法」

谷口先生は、物理教育を専門分野とされ、学習者の思考や概念の発達に応じた教育や評価についてご研究しておられます。今回は、学習者の理解の過程において、教師はどのような支援をするべきか等について、認知科学の知見に基づいた基礎的なお話を頂き、その実践例として、生徒間の相互作用を促す中で概念理解を深める、アクティブ・ラーニング（能動的学習）型の授業をご紹介頂く予定です。

※文科省から全国教育機関に対し、FD（教授法改善、教育改善）研修を学校として組織的に行うことが義務づけられています。本校でも同様に、全教員を対象としたFD研修を実施することが義務づけられています。当講演会はその研修ですので、なにとぞご理解の上、ご出席頂けますよう、ご案内申し上げます

勝股記載：H25年11月7日、インフォメーションで周知

(出典：教育改善推進室資料)

資料 9-2-①-2 : 学外のFD研修会への参加状況

平成25年度

小山高専教員FD教育活動一覧

項目	一般科	機械工学科	電気電子創造工学科	物質工学科	建築学科	計
FDレポート提出	11	8	15	11	8	53
教育関係研修会への参加・発表・企画	9	4	15	14	3	45
教育関係学会への参加・発表・企画	24	21	11	12	13	81
教育関係の論文発表	4	0	7	3	0	14
教科書等教育関係書籍の執筆, 教員・教材の製作	4	4	2	1	2	13
教育関係の受賞・研究費受領	2	1	0	1	1	5
指導した学生の受賞	7	0	6	8	4	25
その他教員としての資質向上につながる活動	65	70	79	77	68	359

(出典：教務委員会資料)

資料 9-2-①-3 : 授業公開実施状況

2013年度 授業見学／報告書(アンケート)提出状況

学科	見学をした教員			見学を受けた授業(後期)							見学件数	
	教員数	見学者数	見学率	M	E	D	C	A	G	S	合計	件/人
M	12	1	8%	2	0	0	0	0	0	0	2	0.167
E	13	6	46%	0	8	2	0	0	4	0	14	1.078
D	10	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
C	13	3	23%	0	0	0	2	0	1	0	3	0.231
A	12	0	0%	0	0	0	0	0	0	0	0	0
G	20	1	5%	0	0	0	0	0	1	0	1	0.05
合計	80	11	14%	2	8	2	2	0	6	0	20	0.25

(出典：教務委員会資料)

資料 9-2-①-3 : 授業公開実施状況 続き

授業見学アンケート (25 年度 / 前期・**後期**)

期日	平成 25 年 12 月 13 日	クラス	3C	授業科目	英会話
授業担当教員	学 科 : 一般学科・一般科目)			見学者	学 科 : 氏 名 :
	氏 名 :				

この授業を見学したご感想をお書き下さい。
この欄の記載内容のみを、授業公開の現況周知・普及と教育改善のため学内公開を予定します。

1C と 3C に組み込まれている 先生の「英会話」を見学した。
機構のグローバル化に刺激されて、本校の学生も香港、台湾、シアトル
など、外国学生との交流が活発化している中で、本校の「英会話」カリキュ
ラムについて勉強した。

先生の講義は、積極的に学生へ問いかけを行い、学生も緊張感の
中で一生懸命答えている。

先生が話しかける場面も多く、ヒアリングも充実している。
学生にとってはこのような機会が現在の 3 倍以上あると良いと考える。
可能であれば、1 年次に学習した「基礎的な化学」、既に内容は理解してい
るレベルの化学を、上級生で再度、英語で聴き、英語で答える、そのよう
な機会があると良いと思う。

このアンケートは記入後、教務係に提出願います。

(出典：教務委員会資料)

資料 9-2-①-4 : 教育改善研修会で教育改善に関する提案の例

小山高専FD研修会 配布資料 2013/11/27

小山工業高等専門学校 FD研修会
相互作用型授業の意義と方法

京都教育大学 谷口和成



はじめに

孔子曰く、

- "What I hear, I forget." (聞いたことは忘れる)
- "What I see, I remember." (見たことは覚える)
- "What I do, I understand." (行ったことは理解する)

対象の行動がアクティブ(能動的)になっていく
▶ アクティブラーニングの必要性を物語っている。

Kyoto Univ. of Education

はじめに ～Active Learningとは～ by M. Silberman

- "What I hear, I forget." (聞いたことは忘れる)
- "What I hear and see, I remember a little." (聞いて、見たことは少し覚えていく)
- "What I hear, see, and ask questions about or discuss with someone else, I begin to understand." (聞いて、見て、誰かに質問したり、誰かと討論したことは理解が始まる)
- "What I hear, see, discuss and do, I acquire knowledge and skill." (聞いて、見て、討論して、行動したことは知識と技能を得る)
- "What I teach to another, I master." (他に教えたことは修得する(思いこなす))

Kyoto Univ. of Education

はじめに ～Active Learningとは～ by M. Silberman

- "What I hear, I forget." (聞いたことは忘れる)
- "Wh (誰) 単に見たり聞いたりしているだけでは、十分な学習とは言えない！ (discuss 議論)
- "What I hear, see, discuss and do, I acquire knowledge and skill." (聞いて、見て、討論して、行動したことは知識と技能を得る)
- "What I teach to another, I master." (他に教えたことは修得する(思いこなす))

Kyoto Univ. of Education

(出典：平成25年度小山高専教育改善研修会)

資料 9-2-②-1 : 事務職員の関連規則について

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和 4 0 年 4 月 1 日
最終改正 平成 2 3 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年10月1日制定）第12条及び小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第11条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第 2 章 事務組織

第 2 条 事務部に総務課、学生課を置く。

第 3 条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、評価・地域連携係、財務係、用度係及び施設係を置く。

第 4 条 学生課に教務係、学生係及び寮務係を置く。

第 5 条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第 6 条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第 6 条の 2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第 6 条の 3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第 7 条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第 3 章 事務分掌

第 8 条 総務課課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 総務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。
- 二 中期計画・年度計画及び組織整備に関すること。
- 三 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 財務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。
- 二 収支予算計画に関すること。
- 三 基準額以上の監査、内部監査・外部監査に関すること。
- 四 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

3 総務課課長補佐（施設担当）は、次の事務をつかさどる。

- 一 施設関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。
- 二 施設の計画及び整備の総括に関すること。
- 三 その他施設関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連

(省略)

(出典：小山高専HP)

資料 9-2-②-2 : 事務職員の学外研修会参加状況について

平成24年度研修関係一覧

研修名称	主催者	実施日程	参加者数	参加者
平成24年度著作権セミナー	文化庁・群馬県	25.2.6	1	評価・地域連携係員
平成24年度国立高等専門学校機構初任職員研修会	国立高等専門学校機構	24.4.25~24.4.27	1	学生係員
平成24年度栃木県養護教諭研修会	栃木県教育委員会外	24.5.1	1	看護師
平成24年度図書館等著作権実務講習会	文化庁	24.8.8	1	図書館係員
平成24年度新任部課長研修会(課長の部)	国立高等専門学校機構	24.6.22	1	総務課長
公文書管理法制セミナー	財団法人行政管理研究センター	24.6.25	1	総務係長
人事事務担当者説明会	国立高等専門学校機構	24.8.6~24.8.7	1	人事係長
平成24年度独立行政法人国立高等専門学校機構新任課長補佐・係長研修	国立高等専門学校機構	24.7.19~24.7.20	1	財務係長
国立大学法人等の法人経営に貢献するためのセミナー	NPO法人よろず相談21世紀法人像研究会	24.7.4	1	総務課長補佐(財務担当)
国における人事制度等に関する説明会	文部科学省大臣官房人事課	24.9.24	1	総務課長
平成24年度簿記研修(初級)	国立高等専門学校機構	24.7.30~24.8.3	1	財務係員
第50回政府関係法人会計事務職員研修	財務省	24.10.2~24.11.16	1	財務係員
平成24年度栃木県学校保健放射線対策研修会	栃木県教育委員会	24.10.18	1	看護師
第7回栃木県健康教育研究大会	栃木県教育委員会	24.12.20	1	看護師
事務系職員のための英会話講座「オフィス・イングリッシュ」	小山高専	24.10.16 24.12.11	14	事務職員
平成24年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(産学連携の部)	初国立大学協会関東・甲信越地区支部及び東京都支部	24.11.30	1	評価・地域連携係員
平成24年度学務関係職員研修会	国立高等専門学校機構	24.12.4~24.12.5	1	教務係員
平成24年度関東甲信越地区国立大学法人等安全管理協議会	初国立大学協会関東・甲信越地区支部及び東京都支部	24.12.11	1	総務課長
平成24年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(人事・労務の部)	初国立大学協会関東・甲信越地区支部及び東京都支部	24.12.7	1	人事係長
平成24年度障害学生修学支援ブロック別地域連携シンポジウム【関東地区】	日本学生支援機構	24.12.14	1	看護師
平成24年度大学等における男女共同参画推進セミナー	国立女性教育会館	24.11.29~24.11.30	1	学生課長
平成24年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会	国立高等専門学校機構	25.1.9~25.1.11	2	用度係長 用度係員

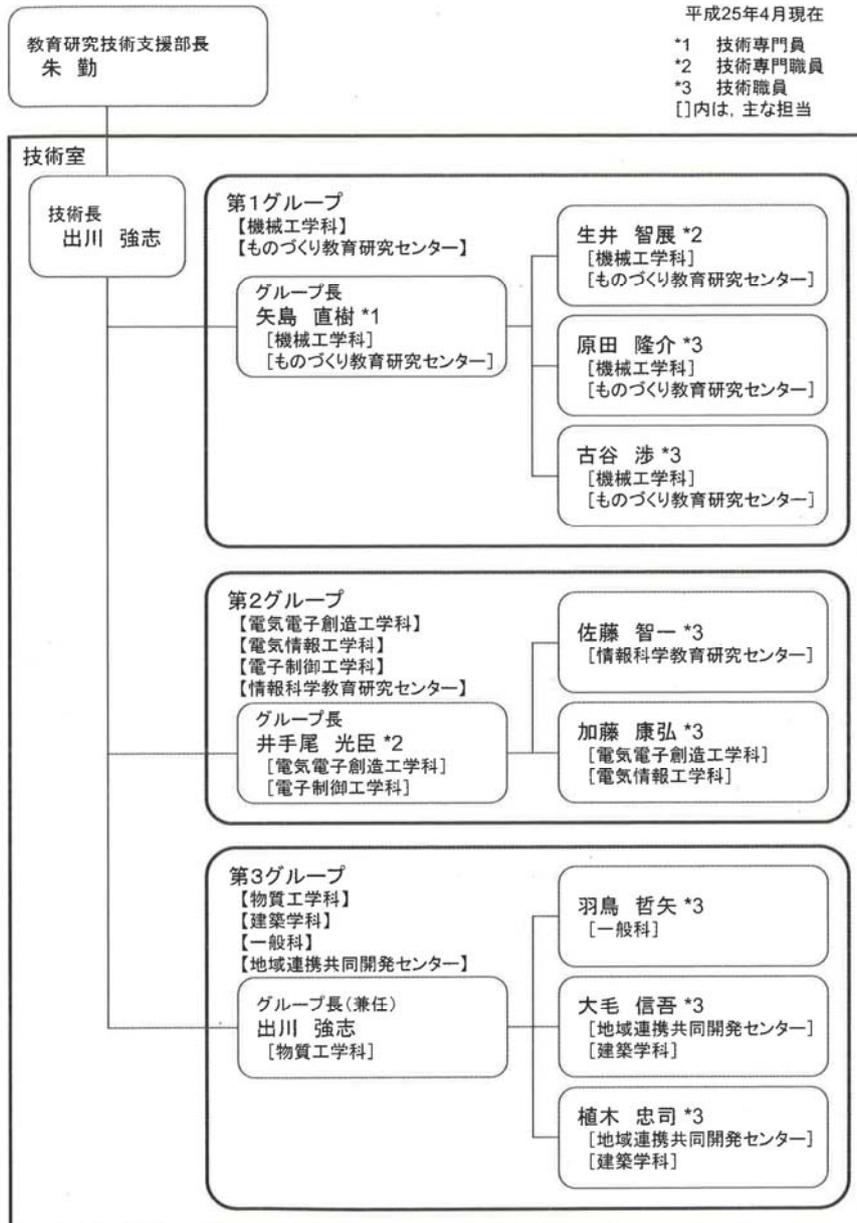
平成25年度研修関係一覧

研修名称	主催者	実施日程	参加者数	参加者
平成25年度国立高等専門学校機構初任職員研修会	国立高等専門学校機構	25.4.22~25.4.24	1	評価・地域連携係員
【全課長対象】労務管理及び評価者研修	国立高等専門学校機構	25.4.26	2	総務課長 学生課長
平成25年度人事事務担当者説明会	国立高等専門学校機構	25.8.8~25.8.9	1	人事係長
平成25年度本給決定担当者説明会	国立高等専門学校機構	25.7.25~25.7.26	1	人事係員
公文書管理セミナー	一般財団法人行政管理研究センター	25.6.25	1	総務係主任
平成25年度新任部課長研修会(部長の部)	国立高等専門学校機構	25.6.17	1	事務部長
【校長・事務部長対象】労務管理研修	国立高等専門学校機構	25.6.13	1	事務部長
情報セキュリティ研修	小山高専	25.5.15	25	事務職員
情報システム統一研修(平成25年度第2/四半期) ・データ分析(Excel、マクロ、VBA等) ・コンピュータシステム基礎	総務省	25.8.1~25.9.20	2	図書館係員 用度係員
第10回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	国立高等専門学校機構	25.11.14~25.11.15	1	看護師
生涯生活設計セミナー	文部科学省共済組合宇都宮大学支部	25.8.23	2	事務部長 総務課長
平成25年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(財務の部)	東京藝術大学	25.9.30	1	用度係員
第48回関東甲信越地区国立大学法人等会計事務研修	長岡技術科学大学	25.10.28~25.11.1	1	用度係員
平成25年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(人事・労務の部)	東京学芸大学	25.10.3	1	人事係主任
平成25年度関東・甲信越地区及び東京都職員啓発セミナー	政策研究大学院大学	25.11.28	1	総務係長
平成25年度独立行政法人国立高等専門学校機構中堅職員研修会	国立高等専門学校機構	25.11.20~25.11.22	2	財務係員 教務係員
平成25年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修	茨城大学	25.11.13~25.11.15	1	財務係主任
平成25年度学務関係職員研修会	国立高等専門学校機構	25.12.5~25.12.6	1	教務係長
法人文書の管理に関する研修会	小山高専	25.10.30	23	事務職員
男女共同参画セミナー「男女が共に輝く働き方とは」	小山市	25.10.21	2	人事係主任 財務係主任
平成25年度子供の心のケア対策研修会	栃木県教育委員会	25.10.3	1	看護師
平成25年度会計入門研修	国立高等専門学校機構	25.8.26~25.9.30	1	財務係員
平成25年度関東・甲信越地区国立大学法人等安全管理協議会	東京外国語大学	25.12.6	1	人事係主任
平成25年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(広報の部)	一橋大学	25.12.18	1	評価・地域連携係員
平成25年度関東・甲信越地区及び東京都実践セミナー(産学連携の部)	群馬大学	26.2.21	1	評価・地域連携係長
平成25年度国立高等専門学校機構産学連携に関する実践セミナー	国立高等専門学校機構	26.2.19~26.2.20	1	評価・地域連携係長
平成25年度情報セキュリティセミナー	文部科学省	26.2.21	1	用度係員

(出典：総務課人事係資料)

資料 9-2-②-3 : 技術職員の組織について

教育研究技術支援部技術室 組織図



(出典：平成24年度技術室年報)

資料 9-2-②-4 : 技術職員の各グループの役割について

第1グループの主な業務

- 機械工作実習・機械工学実験における指導
(各加工の実技指導、実験の進め方・結果のまとめ方等の指導)
- ものづくりセンター設備の保守管理
(機械の点検、故障時の対応、必要に応じた設備の製作等)
- 卒業研究・専攻科特別研究の指導補助及びそのための製作依頼業務
(実験用機材作成のための実技指導、実験用装置の製作)
- 課外活動及び工慶祭への支援業務
(ロボコン・エコラン、ネームプレートの作成等)
- 機械工学科マイクロ計測室機器の保守管理
- 学内からの製作依頼業務

第2グループの主な業務

- 電気電子創造工学実験における技術指導
- 電気情報工学実験における技術指導
- 電子工学実験における技術指導
- プログラミング演習における技術指導
- 情報科学教育研究センター公開講座における講師および技術指導
- 実験室における実験装置、測定器、電子工作工具、電子部品等の維持管理
- 学内ネットワークにおけるサーバおよびネットワーク機器の運用・維持管理
- 情報科学教育研究センターの教育用計算機システムの運用・維持管理
- 情報科学教育研究センターの管理
- 高等専門学校情報処理教育研究委員会に関する業務
- セキュリティポリシーに関する業務

第3グループの主な業務

- 一般科における業務
 - ・ 1・2年生の実験指導、実験テキスト製作補助
 - ・ 新規実験装置・部品・材料等の資料収集や組み立ての共同作業、また市販品のない場合は共同で作成
 - ・ 実験用消耗品の補充、実験室の整理及び設備の保守・点検・補修
 - ・ その他一般科に関する技術的業務全般
- 建築学科における業務
 - ・ 5年生 建築測量技術指導
- 物質工学科における業務
 - ・ 化学実験における技術指導
 - ・ 実験室の管理、測定機器の使用及び保守管理
 - ・ 研究業務
- 地域共同開発センターにおける業務
 - ・ 設備の保守管理
 - ・ 研究業務 (ICP 装置を用いた測定等)

(出典：平成24年度技術室年報)

資料 9-2-②-5 : 技術職員の関連規則

小山工業高等専門学校技術室規程

制 定 平成20年4月1日

最終改正 平成20年11月12日

(趣旨)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）教育研究技術支援部規則第4条第2項の規定に基づき、技術室の組織及び運営について定める。

(業務)

第2条 技術室においては、次の業務を行う。

- 一 学生の実験実習の技術的指導及び安全管理に関すること。
- 二 卒業研究に関する技術的指導及び安全管理に関すること。
- 三 教育教材作成の支援に関すること。
- 四 教員の研究活動に伴う技術的支援に関すること。
- 五 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- 六 技術研修に関すること。
- 七 民間等との共同研究、地域連携業務及び公開講座の実施等に伴う技術的支援に関すること。
- 八 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
- 九 実験実習機器の管理保全に関すること。
- 十 技術室職員の労働時間、休暇及び出張に関すること。
- 十一 情報科学教育研究センターに関すること。
- 十二 地域連携共同開発センターに関すること。
- 十三 ものづくり教育研究センターに関すること。
- 十四 その他教育及び研究の支援に関すること。

(技術長)

第3条 技術室に、技術長を置き、技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。

2 技術長は、教育研究技術支援部長の推薦に基づき、校長が任命する。

3 技術長は、上司の命を受け、技術室の業務を統括する。

(グループ)

第4条 技術室に次のグループを置く。

- 一 第1グループ
- 二 第2グループ
- 三 第3グループ

2 前項の各グループに、グループ長を置き、技術専門職員をもって充てる。

3 グループ長は、教育研究技術支援部長の推薦に基づき、校長が任命する。

4 グループ長は、上司の命を受け、グループの業務を処理する。

(グループの業務分掌)

第5条 第1グループは、主として機械工学科及びものづくり教育研究センターの第2条に掲げる業務を行う。

2 第2グループは、主として電気情報工学科、電子制御工学科及び情報科学教育研究センターの第2条に掲げる業務を行う。

(省略)

(出典：小山高専HP)

資料 9-2-②-6 : 技術職員の学外研修会参加について

技術職員の学外研修参加状況(2012から2013年度)				
日時	業務名	場所	受講者数	技術室参加人数
平成24年 6月4日～6月5日	平成24年度第1回ネットワーク管理者研修会	国立オリンピック記念青少年総合セン146名	2名	
平成24年 8月23日～8月24日	第11回関東信越地区国立高等専門学校技術長等会議	東京工業高等専門学校	2名	
平成24年 8月27日～8月28日	平成24年度IT人材育成研修会	CTOテクノロジーラーニングセンター	19名	1名
平成24年 9月12日～9月14日	平成24年度関東信越地区高専技術職員研修会	茨城工業高等専門学校	10名	2名
平成24年 9月20日	平成24年度ファイヤウォールハズオントレーニング	フォーティネットジャパン株式会社 東京本社		2名
平成24年 9月26日～9月27日	能力開発セミナー「鉛フリーはんだ付け技術」	栃木職業能力開発促進センター	3名	1名
平成24年 10月5日	平成24年度関東甲信越地区及び東京地区実践セミナー(情報の部)	学術情報センター	50名	1名
平成24年 11月9日	第5回関東・甲信越地区大学安全衛生研究会	横浜開港記念会館		1名
平成25年 1月9日～1月11日	平成24年度国立高等専門学校情報担当者研修会	国立オリンピック記念青少年総合セン160名	1名	
平成25年 2月13日	平成24年度情報セキュリティセミナー	文部科学省 講堂	約400名	2名
平成25年 2月14日～2月15日	KYT(危険予知訓練)トレーナー研修会	栃木県建設産業会館	60名	1名
平成25年 2月25日～3月1日	能力開発セミナー「フリス盤実践応用技術」	埼玉職業訓練センター	6名	1名
平成25年 3月4日～3月5日	第4回高専技術教育研究発表会in木更津	木更津工業高等専門学校	約60名	1名
平成25年 3月7日～3月8日	平成24年度愛媛大学総合技術研究会	愛媛大学	699名	2名
平成25年 3月18日	平成24年度小山高専教育研究技術支援部技術室発表会・研修会	小山工業高等専門学校		10名
平成25年 4月22日～4月24日	平成25年度国立高等専門学校機構初任職員研修会	学術総合センター		1名
平成25年 6月6日	茨城県古河市「高橋機械工場視察」	高橋機械	4名	3名
平成25年 8月20日～8月22日	平成25年度国立高専機構東日本地域高専技術職員特別研修会	長岡技術科学大学	27名	2名
平成25年 8月21日～8月23日	全国高専教育フォーラム	豊橋技術科学大学		1名
平成25年 8月29日～8月30日	第12回関東信越地区国立高等専門学校技術長等会議	茨城工業高等専門学校	20名	3名
平成25年 9月4日	粉じん作業安全衛生特別教育	コマツ教育所栃木センター	約20名	2名
平成25年 9月11日～9月13日	平成25年度関東信越地区高専技術職員研修会	群馬工業高等専門学校		1名
平成25年 9月19日	第2回北関東地区技術系職員安全管理ワークショップ	埼玉大学	43名	4名
平成25年 10月8日～10月10日	能力開発セミナー「現場のための電気技術」	埼玉職業能力開発促進センター	10名	1名
平成25年 10月28日	高専向けShibboleth講習会	国立情報学研究所		1名
平成25年 11月29日	リスクアセスメント担当者(製造業等)研修会	茨城労働基準協会連合会中央安全衛50名	1名	
平成25年 11月29日	平成25年度関東甲信越地区及び東京地区実践セミナー(情報の部)	茨城大学水戸キャンパス	31名	1名
平成25年 12月2日	小山高専地域連携協力会 企業見学会	三和テッキ株式会社 株式会社大日218名		5名
平成25年 12月2日～12月3日	平成25年度国立高等専門学校機構情報担当者研修会	学術総合センター	150名	2名
平成25年 12月6日	平成25年度関東信越地区高等専門学校情報処理教育研究委員会	長野工業高等専門学校	17名	1名
平成25年 12月12日～12月13日	能力開発セミナー「精密測定技術(長さ測定編)」	埼玉職業能力開発促進センター	3名	1名
平成26年 1月14日	第6回関東・甲信越地区大学安全衛生研究会	東工大蔵前会館	約40名	3名
平成26年 1月14日	マスクに係る保護具着用管理責任者の養成講習	茨城労働基準協会連合会中央安全衛約30名		1名
平成26年 1月28日	株式会社浜野製作所 企業見学	株式会社浜野製作所	2名	1名
平成26年 2月6日	オグラ金属株式会社 本社工場5S見学会	オグラ金属株式会社	7名	7名
平成26年 2月13日	低圧電気取扱者安全衛生特別教育	関東電気保安協会 下野営業所	38名	2名
平成26年 2月21日	平成25年度情報セキュリティセミナー	文部科学省 講堂	約400名	2名
平成26年 3月5日～3月7日	平成25年度実験・実習技術研究会	岩手大学	408名	3名
平成26年 3月10日～3月14日	研修コース「ROBOCUT基本(PCCUTあり)」	フナツク学校	1名	1名
平成26年 3月10日～3月11日	第5回高専技術教育研究発表会in木更津	木更津工業高等専門学校	約60名	1名
平成26年 3月12日～3月14日	FE-SEM標準コース	日本電子株式会社本社・昭島製作所3名		1名
平成26年 3月13日	平成25年度小山高専教育研究技術支援部技術室発表会・研修会	小山工業高等専門学校		11名
平成26年 3月17日～3月21日	CCNA Discovery-1 新規インストラクタートレーニング	奈良先端科学技術大学院大学	6名	1名

「平成 24 年度情報セキュリティセミナー」参加報告

佐藤 智一¹⁾ 井手尾 光臣¹⁾

1. はじめに

近年情報セキュリティに関する問題が多く発生し、社会的に問題となっている。大学・高専等の高等教育機関においては、セキュリティポリシーを定め運用するなど、機関自身の情報セキュリティ対策を実施すると共に、学生に対してモラル・セキュリティ・メディアリテラシー等の教育をしなければならない。また、外部から攻撃されないようなシステムの構築・運用、攻撃された場合における対応といった面も重要である。

今回文部科学省主催の「平成 24 年度情報セキュリティセミナー」が開催されるということで、技術室第 2 グループより井手尾と佐藤(情報科学教育研究センター職員)が参加した。

2. 実施概要

日時 平成 25 年 2 月 13 日(水)
13:00～17:40
会場 文部科学省 講堂
主催 文部科学省
共催 情報・システム研究機構
国立情報学研究所
後援 情報セキュリティ政策会議

3. セミナー内容

- ・開会の挨拶
文部科学省大臣官房政策課長 中村雅人氏
- ・講演「ウェブサイトに対する最近のサイバー攻撃事案の傾向」
講師 西本逸郎氏
(株式会社ラック 専務理事)
- ・講演「ウェブサイトに必要なセキュリティ対策」
講師 永安佑希允氏
(独立行政法人情報処理推進機構 セキュリティセンター)
- ・講演「組織としてのインシデント対応」
講師 上原哲太郎氏
(総務省 情報通信国際戦略局 通信規格標準化推進官)
- ・講演「情報セキュリティ人材育成の重要性」
講師 占部浩一郎氏
(内閣官房情報セキュリティセンター 副センター長)
- ・閉会の挨拶
国立情報学研究所学術基盤推進部次長 尾城孝一氏

(出典：技術室資料、平成24年度技術室年報)

資料 9-2-②-7 : 技術職員の学内研修会参加について

平成 25 年度

**小山工業高等専門学校
教育研究技術支援部 技術室**

技術発表会・研修会

平成 26 年 3 月 13 日(木)

図書館棟 1 階 視聴覚室

13:00	開会挨拶		
第一部 技術発表会			
13:05~13:20	鍛造実習についての紹介	第 1 グループ	原田隆介
13:20~13:35	ロボコンプロジェクト参加学生への事前指導	第 1 グループ	古谷渉
13:35~13:50	Arduino を用いた実験教材の開発	第 2 グループ	井手尾光臣
13:50~14:05	小山工業高等専門学校キャンパス無線 LAN の設置について	第 2 グループ	佐藤智一
14:05~14:15	休憩		
14:15~14:30	KINECT センサを用いた ナチュラルユーザーインターフェイス実験教材の開発	第 2 グループ	加藤康弘
14:30~14:45	物質工科学学生実験における廃液教育	第 3 グループ	出川強志
14:45~15:00	対角線論法とラッセルのパラドックス	第 3 グループ	大毛信吾
15:00~15:15	地面抵抗値の簡易測定方法の評価	第 3 グループ	植木忠司
15:15~15:30	休憩		
第二部 研修会			
15:30~16:30	安全衛生への取組み ～小山高専ではどうあるべきか?～	第 1 グループ	生井智展
16:30~16:55	全体対談		
14:55	閉会挨拶		

(出典：平成25年度技術室発表会・研修会配布資料)

資料 9-2-②-8 : 技術職員の校長裁量経費、科研費等申請採択状況

①-1 科研費申請状況

年度	氏名	研究テーマ
23年度	矢島直樹	ねじ穴加工支援装置の開発
23年度	生井智展	電力量が見える機械加工シミュレーション教材の開発
23年度	原田隆介	平型研削砥石の打音検査に関する基礎研究
23年度	古谷渉	多学年にわたる溶接実習カリキュラムの開発
23年度	井手尾光臣	PSoCマイコンによるロジックICテストの開発
23年度	加藤康弘	メカトロニクス導入の為に実践的ロボット・コントロール教材の開発
23年度	出川強志	高専学生実験における廃液教育の導入
23年度	羽鳥哲矢	木質系バイオマス利用による塩化鉄系エッチング廃液からの銅の選択的分離回収法の開発
24年度	矢島直樹	学生向け安全対策教材の開発
24年度	生井智展	機械工作を行う学生のための危険予知能力育成プログラムの開発
24年度	原田隆介	平型研削砥石の打音検査に関する基礎研究
24年度	古谷渉	伝統鍛造と現代工作法とを複合させた蔵金物の量産技術の確立
24年度	井手尾光臣	失敗から学ぶ電気・電子回路基礎実験用教材の開発
24年度	加藤康弘	次世代モーションセンサを用いたナチュラルユーザーインターフェイス実験教材の開発
24年度	出川強志	学生実験における廃液教育の導入 ー環境負荷の考える人材育成のためにー
24年度	羽鳥哲矢	褐炭のニッケル担持特性に関する研究
25年度	矢島直樹	マシニングセンタを用いた簡易ダイシング機構の開発
25年度	生井智展	学生実習・実験における先進的な安全衛生教育の試みと展開
25年度	原田隆介	平型研削砥石の打音検査に関する基礎研究
25年度	古谷渉	蔵金物の効率的な曲げ加工方法の開発
25年度	井手尾光臣	次世代ネットワーク制御技術OpenFlowを用いたネットワーク実験教材の開発
25年度	加藤康弘	磁界のAR表示システムの開発と教育効果の検討
25年度	出川強志	RoHS/ELV指令に基づいた学生への有害物質教育の試み
25年度	羽鳥哲矢	木質系バイオマスをもとにした高性能吸着剤の開発

② 校長裁量経費採択状況

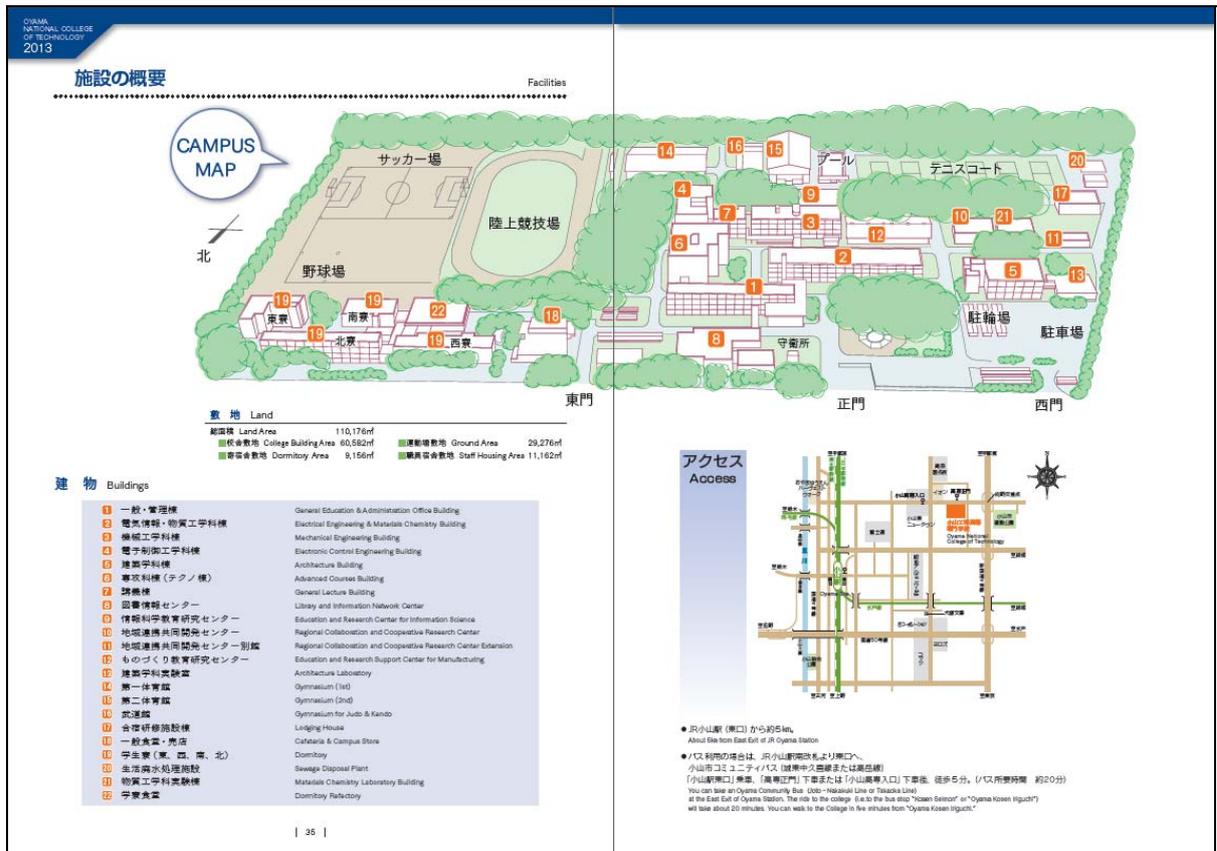
年度	氏名	研究テーマ
25年度		
25年度	生井智展(代表者)、矢島直樹、原田隆介、古谷渉、井手尾光臣、佐藤智一、加藤康弘、出川強志、羽鳥哲矢、大毛信吾、植木忠司	技術室安全衛生プロジェクト

③ 重点配分予算採択状況

年度	氏名	研究テーマ
23年度	羽鳥哲矢	木質系バイオマス利用による塩化鉄系エッチング廃液からの銅の選択的分離回収法の開発
24年度	羽鳥哲矢	エッチング廃液からの高効率銅回収に向けた紫外可視分光分析法による銅錯イオンの構造評価
25年度	出川強志	学生実験における廃液教育の導入
25年度	羽鳥哲矢	木質系バイオマスをもとにした高性能吸着剤の開発

(出典：平成25年度技術室資料)

資料10-1-①-1：資産の保有状況（施設の概要）（既出8-1-①-1：施設の概要）



(出典：学校要覧2013、p38, 39)

資料10-1-①-2：資産の保有状況

本校資産保有状況一覧(例)

事業年度：25年度
 支部：12 小山工業高等専門学校
 会計区分：国立高専機構

資産一覧表

出力日 平成26年 5月16日

資産管理番号	管理資産区分	取得財源区分	設置場所	資産種類	用途区分	取得日	耐用年数(月数)		取得額		減損損失累計額	
							供用日	償却率	最終計上日		減価償却累計額	
									除却日	残存価格	計上事由	経過年数
0314H1601000001 ガスレンジ	少額資産	授業料	一般食堂	備品(教育・研究費)	一般管理用	平成16年 6月 1日			336,000			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	GRN-1575 LPG #1500XD750XT800		平成16年 6月 1日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	学生係長(資産管理)				0	繰越(登録済)	8			336,000
0314H1601000002 パーソナルコンピュータ	少額資産	授業料	有坂教員室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成16年 9月30日			151,200			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	Dell Demension 8400		平成16年 9月30日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	有坂頼二				0	繰越(登録済)	8			151,200
BHI2H22S0000003 測定部取り付けスタンド	少額資産	授業料	システム研究室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月 2日			101,535			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	NR-H7W (キーエンス)		平成22年 8月 2日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	久保和良				0	繰越(登録済)	2			101,535
BHI2H22S00000004 レーザ変位計用センサーヘッド	少額資産	授業料	システム研究室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月 2日			346,500			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	LK-G80 (キーエンス)		平成22年 8月 2日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	久保和良				0	繰越(登録済)	2			346,500
BHI2H22S00000005 レーザ変位計コントローラ	少額資産	授業料	システム研究室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月 2日			294,000			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	LK-G3000V (キーエンス)		平成22年 8月 2日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	久保和良				0	繰越(登録済)	2			294,000
BHI2H22S00000006 測定部取り付けスタンド	少額資産	授業料	システム研究室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月 2日			101,535			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	NR-H7W (キーエンス)		平成22年 8月 2日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	久保和良				0	繰越(登録済)	2			101,535
BHI2H22S00000007 DELLパソコン Studio XPS 8100	少額資産	使途特定寄附金	甲斐教員室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月18日			148,010			0
	範囲内	自己所有	物品管理役			平成22年 8月18日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	甲斐隆章				0	繰越(登録済)	2			148,010
BHI2H22S00000008 DELLパソコン Studio XPS 8100	少額資産	使途特定寄附金	甲斐教員室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月18日			148,010			0
	範囲内	自己所有	物品管理役			平成22年 8月18日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	甲斐隆章				0	繰越(登録済)	2			148,010
BHI2H22S00000009 覆拝式セル 8200	少額資産	授業料	高分子材料研究室	備品(教育・研究費)	教育・研究用	平成22年 8月12日			159,600			0
	範囲内	自己所有	物品管理役	日本ミリボフ、品番：5123		平成22年 8月12日			平成25年 4月 1日			0
	通常	(教育・研究経費) 備	飯島道弘				0	繰越(登録済)	2			159,600

(出典：総務課財務係資料)

資料10-1-①-3：平成25年度貸借対照表（平成26年3月31日現在）

資産科目	資産金額	負債・資本科目	負債・資本金額
[資産の部]	3,258,185,467	[負債の部]	1,013,459,196
流動資産	24,845,994	流動負債	514,015,266
現金及び預金	1,930,253	運営費交付金債務	0
現金	0	授業料債務	0
当座預金	0	承継剰余金債務	0
普通預金	1,930,253	預り施設費	0
定期預金	0	預り補助金等	0
その他預金	0	預り寄附金	8,004,767
有価証券	0	前受受託研究費等	29,717,284
受取手形	0	前受受託事業費等	0
未収学生納付金収入	507,600	短期借入金	0
未収学生納付金収入(授業料)	0	1年以内返済予定長期借入金	0
未収学生納付金収入(入学金)	507,600	未払金	459,875,127
棚卸資産	21,021,087	未払消費税等	0
未成研究支出金	21,021,087	未払費用	13,188,169
未収入金	1,372,500	前受金	102,900
前渡金	0	預り金	3,127,019
前払費用	14,554	科学研究費	1,021,519
前払費用	14,554	社会保険料	0
法定福利費	0	労働保険料	0
未経過賃借料	0	源泉所得税	0
未経過保険料	14,554	住民税	0
未経過支払利息	0	職員宿舎貸付料	0
その他の前払費用	0	補助金等返還	0
未収収益	0	その他預り金	2,105,500
短期貸付金	0	前受収益	0
その他の流動資産	0	引当金	0
仮払金	0	その他の流動負債	0
立替金	0	仮受金	0
その他流動資産	0	その他の流動負債	0
徴収不能引当金	0	固定負債	499,443,930
貸倒引当金	0	資産見返負債	479,718,117
固定資産	3,233,339,473	資産見返運営費交付金等	313,159,411
有形固定資産	3,232,875,514	資産見返補助金等	156,250,661
建物	2,940,486,538	資産見返寄附金	9,258,333
建物	1,725,234,955	資産見返物品受贈額	632,933
建物附属設備	1,215,251,583	建設仮勘定見返運営費交付金等	0
建物減価償却累計額	△ 1,595,308,958	建設仮勘定見返施設費	0
建物減損損失累計額	0	建設仮勘定見返補助金等	0
構築物	500,678,979	建設仮勘定見返寄附金	0
構築物減価償却累計額	△ 285,324,521	特許権仮勘定見返運営費交付金等	416,779
構築物減損損失累計額	0	特許権仮勘定見返補助金等	0
機械装置	0	特許権仮勘定見返寄附金	0
機械装置減価償却累計額	0	長期預り補助金等	0
機械装置減損損失累計額	0	長期預り寄附金	9,038,738
船舶	0	長期前受受託研究費等	0
船舶減価償却累計額	0	長期前受受託事業費等	0
船舶減損損失累計額	0	長期借入金	0
車両運搬具	4,897,573	長期未払金	10,687,075
車両運搬具減価償却累計額	△ 4,897,570	引当金	0
車両運搬具減損損失累計額	0	資産除去債務	0
工具器具備品	1,122,970,592	その他の固定負債	0
工具器具備品減価償却累計額	△ 365,447,119	[純資産の部]	2,700,848,120
工具器具備品減損損失累計額	0	資本金	3,557,761,534
土地	914,320,000	政府出資金	3,557,761,534
土地減損損失累計額	0	その他出資金	0
建設仮勘定	0	資本剰余金	△ 851,783,214
その他の有形固定資産	500,000	資本剰余金	1,065,898,402
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	資本剰余金施設費	608,084,310
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	資本剰余金運営費交付金	0
無形固定資産	428,779	資本剰余金授業料	0
特許権	0	資本剰余金補助金等	457,258,092
借地権	0	資本剰余金寄附金	0
商標権	0	資本剰余金目的積立金	0
実用新案権	0	資本剰余金譲与	556,000
意匠権	0	その他の資本剰余金	0
ソフトウェア	0	損益外減価償却累計額	△ 1,896,696,871
電話加入権	12,000	損益外減損損失累計額	△ 44,000
その他の無形固定資産	0	損益外固定資産除売却差額	△ 20,940,745
著作権	0	損益外利息費用累計額	0
特許権仮勘定	416,779	減資差益	0
投資その他の資産	35,180	利益剰余金	0
投資有価証券	0	前中期目標期間繰越積立金	0
長期貸付金	0	目的積立金	0
長期前払費用	0	積立金	0
未収財源措置予定額	0	国庫納付金	0
長期性預金	0	当期末処分利益	△ 5,130,200
敷金・保証金	0	繰越欠損金	0
長期未収入金	0	当期末処理損失	0
破産債権、再生債権、更正債権その他これらに類する債権	0	その他の有価証券評価差額金	0
その他の投資その他の資産	35,180	合計	3,714,307,316
貸倒引当金	0		
[本支店勘定]	456,121,849		
[本支店]機構本部(統括)	7,835,425		
[本支店]機構本部 管理課	448,286,424		
合計	3,714,307,316		

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-1-②：収入確保の状況

平成 21 年度 ～ 平成 25 年度 収入 額

(単位:円)

科目	項目	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度
授業料収入		237,063,700	249,770,250	246,774,650	241,313,250	245,108,700
	※奨学交付金(授業料)	10,791,600	5,937,750	7,637,050	7,458,150	5,086,200
入学料収入		21,208,600	19,956,300	19,896,800	19,423,600	20,150,600
	※奨学交付金(入学料)	84,600	84,600	253,800	169,200	169,200
検定料収入		6,466,200	7,060,200	6,042,100	7,121,300	6,603,100
	※奨学交付金(検定料)	0	0	528,000	99,000	132,000
雑収入		4,417,509	4,970,906	4,768,580	5,786,739	5,105,667
	講習料収入	192,200	228,600	37,400	0	0
	職員宿舎収入	1,970,840	1,975,330	2,200,429	1,951,299	1,627,615
	寄宿料収入	1,461,600	1,428,000	1,463,400	1,297,800	1,193,100
	その他の貸付料収入	770,439	1,208,219	1,066,186	1,027,290	934,114
	その他の利用料収入	0	0	0	0	0
	助成金等収入	0	0	0	1,510,000	1,350,000
	その他の収入	22,430	130,757	1,165	350	838
学校財産処分収入		0	0	0	0	0
運営費交付金		1,311,467,118	1,044,371,134	129,167,809	100,263,006	418,891,791
施設費		0	1,077,000	16,059,057	70,636,480	689,348,290
寄附金収入		18,990,946	6,978,880	10,116,000	10,335,000	7,312,600
産学連携等研究収入		15,710,700	10,663,250	7,712,063	19,495,490	35,870,110
その他補助金		94,636,912	37,375,247	0	2,824,399	162,312,000
計		1,720,837,885	1,388,245,517	448,955,909	484,925,614	1,596,090,258
(内、奨学交付金)		10,876,200	6,022,350	8,418,850	7,726,350	5,387,400

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-1-③-1 : 外部資金獲得状況

科学研究費補助金採択状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
6	7,410	12	9,095	14	18,550

奨学寄附金受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
16	10,116	21	10,335	12	7,312

民間等との共同研究受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
12	4,490	12	5,404	12	4,843

助成金受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	3	1,510	2	1,350

受託研究受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	116	4	10,992	11	26,542

補助金受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	2	2,824	1	1,518

受託事業受入状況 単位:千円

23年度		24年度		25年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	497	2	1,000	2	526

(出典:総務課財務係資料)

資料 10-1-③-2 : 平成 26 年度科学研究費助成事業 学内応募説明会

平成 26 年度科学研究費助成事業 学内応募説明会日程

1. 日 時 平成 25 年 10 月 9 日 (水) 13:50~14:50
2. 場 所 図書情報センター棟 1 階 視聴覚室
3. 日 程
 - 開催挨拶 13:50~
校 長
 - 平成 26 年度科学研究費助成事業の公募について 13:55~
総務課 評価・地域連携係
 - 科研費の使用方法及び不正使用の防止について 14:05~
総務課 財務係
 - 科研費採択者による経験談 (講話順) 14:20~
石 原 学 (電気電子創造工学科)
加 藤 岳 仁 (機 械 工 学 科)
 - 終 了 14:50

(備考)

例年、前年度の「科研費申請」が「学内重点配分経費」申請の条件になっていますので、そのためにもご出席頂き、科研費申請手続きについて良くご理解頂くようお願い致します。

(出典：総務課評価・地域連携係資料)

資料 10-2-①-1 : 校内予算配分方針

平成 25 年度当初予算配分方針等について

1. 予算編成

- (1) 独立行政法人会計基準等に沿って、予算は収入予算と支出予算に区分し、収入予算は運営費交付金及び自己収入（授業料、入学検定料等）とし、支出予算は物件費とする。平成 23 年度より、常勤教職員人件費（超過勤務手当、法定福利費、退職手当を含む）、短時間再雇用教職員人件費及び有期雇用職員・非常勤教職員の法定福利費については、本部事務局において一括管理となっている。
- (2) 物件費については、教育研究費、教育研究支援経費及び一般管理費に区分した予算編成を行い、物件費、旅費、謝金といった科目は設けない。
- (3) 学校の中長期計画との関連を見据えつつ、全学的視点からの戦略的な施策等を実施するため、校長裁量経費を設ける。
- (4) 予見し難い事情やその他やむを得ない事由に備えるため、学校全体の予備費を確保する。

2. 予算配分の基本方針

- (1) 教育研究経費及び教育研究支援経費は、平成 25 年度の事業計画、予算積算上の基礎額及び前年度実績等を勘案し配分する。
- (2) 一般管理費は、学校共通の経費及び事務部に係るものとし、平成 25 年度の学校運営に支障をきたすことのないよう事業計画及び前年度実績を勘案し必要な経費を積算の上配分する。

3. 予算の審議

- (1) 予算（校長裁量経費を除く。）は、校長の諮問により予算委員会で審議した後、校長へ答申し校長が決定し配分する。
- (2) 校長裁量経費は、教育研究の一層の充実発展を図るため、校長の判断により執行できる経費とし後日配分する。
- (3) 予備費は、予見し難い事情やその他やむを得ない事由に備える経費とし、残額については改めて配分する。

以上

（出典：予算委員会資料）

資料 10-2-①-2：予算委員会議事要旨

平成25年度第1回予算委員会議事要旨

日時 平成25年6月21日(金) 16:45~17:30
 場所 管理棟2階会議室
 出席者 糸井委員長(副校長・総務主事)、須甲委員(一般科長、鈴木委員(機械工学科長)
 土田委員(電気情報工学科長)、南斉委員(電子制御工学科長)、武委員(物質工学科長)、
 尾立委員(建築学科長)、事務部長、総務課長
 陪席者 金田総務課長補佐(財務担当)、柏淵総務課長補佐(施設担当)、本多財務係長
 議事

【審議事項】

1. 平成25年度予算について・・・【資料1～5】

本委員会委員は、資料1「小山工業専門学校予算委員会規程」に基づき、資料2「平成25年度予算委員会委員名簿」のとおりであるとの説明があった。

資料3「平成25年度当初予算配分方針等について」において、今年度の校長裁量経費については、学生に関わることに使いたい旨の説明があった。

審議の結果了承した。

資料4「平成25年度学内配分予算審議スケジュール(案)」について説明があり、第2回予算委員会を6月26日(水)17:00頃～開催し(管理棟2F会議室)、「平成24年度決算」及び「平成25年度学内配分予算(案)」を審議することを決定した。

資料5「機構当初配分表」について説明があった。

2. 施設整備費概算要求について・・・【資料6・7】

資料6「平成26年度施設整備費概算要求事項(案)」の説明が柏淵総務課長補佐(施設担当)からあり、委員から、「学生支援総合センター改修」について質問があった。

Q1 北寮が、学生支援総合センターという名称になったのか？

A1 北寮棟の有効活用を図るため学寮関係施設と合わせ、国際交流やキャリア教育支援、課外活動支援を取り込んだ複合施設化とする計画である。

・文科省の施設実態報告区分としては北寮棟(学生寄宿舎)としている。

・事業内容としては、昨年度は、トイレ改修を含め国際交流支援センターとして要求したが、事業費が過大(概算要求規模)になり採択されなかったが、A評価であったため、方向性としては良いものと判断されるので、今年度は更に事業を分割し、トイレ改修を優先して予算を獲得し、香港VTC等国際相互交流の基盤整備を図るものとした。

審議の結果了承した。

資料7「平成25年度施設整備費概算要求事項」の説明があった。

3. 追加資料「平成25年度第1回予算委員会資料」(文責：糸井委員長)について

糸井委員長より次のとおり説明があった。

■平成25年度高専教育充実設備費(一般設備費)について

平成25年度については、平成24年度補正予算設備整備費補足分並びに建築学科棟及び地域連携共同開発センター棟改修に係る移転費の補足分に充当する旨説明があった。(機構に臨時経費の要求済みであるが、配分については不透明であるため当面学内で用意する)また、残額を生じた場合は、別途協議したい旨説明があった。

審議の結果了承した。

■平成25年度重点配分経費について

平成21年度に校長より「学内の教育研究経費等」の配分改善が提示され、さらに「平成19年度機関別認証評価」及び「平成22年度外部評価」においても、学内の競争的資金の拡大等の必要性が指摘された。そのため、学科配分経費について、平成22年度はその10%分(約500万円)、平成23年度は20%分(約1,000万円)、平成24年度は30%分(約1,400万円)をプールして学内の競争的資金である「重点配分経費」の財源に充てたが、本年度についても、その30%分(約1,489万円)を財源として同経費及び教員表彰への教育研究経費(100万円)に充てることとする旨の説明があった。

審議の結果了承した。

■予備費について

予備費について、自己収入予定額減額分、光熱水料費不足分、移転費不足分、下九世情報システム更新分及びそのた予期しない事態に対応する経費として確保する旨説明があった。

審議の結果了承した。

■間接経費の一部拠出について

既に周知していたが、今年度から間接経費の10%相当分の額を機構本部に拠出することになったが、平成18年9月13日校長裁定「小山高専における競争的資金及び受託研究費に係る間接経費の取扱について」を一部改正し、配分率を変更し、一般管理費から拠出する旨説明があった。

委員より質問があった。

Q1 機構は高専全体の吸上げ額と、使用目的及び使用額を公表するのか？

A1 いまのところその説明はないが、当然必要である。

審議の結果了承した。

(出典：予算委員会議事要旨)

資料 10-2-①-3 : 学科等配分表

平成25年度学科等配分額積算資料										
《単位:千円》										
教育研究経費(旧教官当校費)						学生支援経費(旧学生当校費)				配分額
区 分	格差率	教 員	積算係数	格差率×人数	学科等配分額 (端数処理済)	配 分 対 象 額	本 科 学 生 数	専 攻 科 学 生 数	計	
配分対象額	29,778	e	人	J=e×f	配分対象額×J ÷積算係数合計	19,852	1,000	40	1,040	
			f				19,088	764	19,852	
校 長	1	3.5	1	3.50	414		0	0	0	414
一般科目 人文	国 語	1	2	2.00	236					
	倫 理 社 会	1	1	1.00	118					
	歴 史	1	1	1.00	118					
	英 語	1	6	6.00	709					
	ド イ ツ 語	1		0.00	0					
	小 計	10		10	10.00	1,181				
一般科目 自然	応 用 数 学	3.5	1	3.50	414		3,181	128	3,309	
	一 般 物 理	3.5	1	3.50	414					
	一 般 化 学	3.5	1	3.50	414					
	一 般 理 科	3.5	1	3.50	414					
	数 学	3.5	5	17.50	2,068					
	保 健 体 育	2	2	4.00	473					
小 計	11		11	35.50	4,197					
一般科目	21		21	45.50	5,378		3,181	128	3,309	8,687
専門 科目	機 械 工 学 科	3.5	12	42.00	4,963		3,181	128	3,309	8,272
	電 気 情 報 工 学 科	3.5	12	42.00	4,963		3,181	128	3,309	8,272
	電 子 制 御 工 学 科	3.5	10	35.00	4,136		3,181	128	3,309	7,445
	物 質 工 学 科	3.5	13	45.50	5,377		3,181	128	3,309	8,686
	建 築 学 科	3.5	11	38.50	4,549		3,181	128	3,309	7,858
	小 計	58		58	203.00	23,988		15,905	640	16,545
合 計	80		80	252.00	29,780		19,086	768	19,854	49,634
非常勤講師分		0	0	0	200		0			200
総 計					29,980		19,086	768	19,854	49,834

* 教官当校費と学生当校費の比率については、非常勤講師分20万円差し引き後、教官6、学生4の割合とした。

(出典：予算委員会資料)

資料 10-2-①-4 : 平成 25 年度予算配分表

平成25事業年度 予算配分書					自：平成25年4月1日～至：平成26年3月31日 (単位：円)	
事 項	H24当初配分	H25当初配分	差引増減	備 考		
教育研究費						
校長	293,940	285,560	-8,380	資料3参照		
一般科	5,718,271	6,282,120	563,849	資料3参照		
機械工学科	5,676,465	5,707,580	31,215	資料3参照		
電気情報工学科	6,552,435	6,571,950	19,515	資料3参照		
電子制御工学科	5,522,955	5,713,230	190,275	資料3参照		
物質工学科	5,820,510	6,569,520	749,010	資料3参照		
建築学科	5,575,633	5,674,218	98,585	資料3参照		
専攻科	1,065,000	910,305	-154,695	資料3参照		
高等学校充実助成費(一般助成費)	13,000,000	13,000,000	0	補正予算及び移転費補足分		
教育改善充実費(校長兼重託費)	17,500,000	11,910,000	-5,590,000	国際会議等支援プログラム100万円,教務システムサーバーの更新費等含む		
非常勤講師手当(学校医・カウンセラー含む)	23,340,000	27,230,850	3,890,850			
非常勤講師(原費)	2,330,000	2,468,057	138,057	積上額		
在外研究員旅費	4,183,675	1,277,000	-2,906,675	機構配分額(物質・高専教員)		
教育研究実施費	313,000	820,000	507,000	資料3参照, 前年度までは非常勤講師及び視聴教室経費, 視聴教室スクリーン更新費用含む, 積上額		
教務関係費	6,370,000	6,307,000	-63,000	△1% 前年度までは教務費, FD及びITワークショップ経費, 積上額		
教育改善費	180,000	150,000	-30,000	前年度まではJABEE受審審査料等, 積上額		
入学試験費	0	630,000	630,000	今年度から学生募集経費と予算を分ける, 積上額		
留学生経費	1,800,000	1,600,000	-200,000	積上額		
学生関係経費	12,472,179	12,347,000	-125,179	△1% 前年度までは高専全国大会・地区大会経費, 学生厚生補償費, 学生厚生補償設備費, ロボット制作費補助及びアイコン補助経費, 積上額		
学業経費	338,000	338,000	0	積上額		
学生寮生活環境整備費	6,000,000	5,000,000	-1,000,000	機構配分額		
紀要刊行費	450,000	450,000	0			
公開講座	1,800,000	1,250,000	-550,000	「サテライトキャンパス」を含む, 積上額		
入学式・卒業式等経費	376,000	372,000	-4,000	1%減		
論文助成	300,000	0	-300,000	廃止		
小 計	126,978,063	122,884,590	-4,093,473			
教育研究支援経費						
ものづくり教育研究センター	999,407	989,400	-10,007	1%減		
情報科学教育研究センター	5,904,034	9,353,000	3,448,966	1%減+校内LAN維持費(レンタル経費), パケット解析・電子メール解析除去装置更新費用含む		
地域連携国際関係センター(国際関係部門)	2,577,114	2,551,300	-25,814	1%減		
地域連携国際関係センター(理工学連携部門)	1,350,000	1,336,500	-13,500	1%減		
地域連携国際関係センター(国際関係部門)	600,000	594,000	-6,000	1%減		
LAN回線使用料	4,417,560	4,573,800	156,240	契約額+積上額		
技術室	840,000	831,600	-8,400	1%減		
学生用図書購入費	2,726,540	2,599,000	-127,540	1%減		
サテライトキャンパス	4,000,000	1,850,000	-2,150,000	イベント等減		
国際交流推進室関係	600,000	600,000	0			
教育研究設備維持運営費	3,185,000	3,988,000	803,000			
LAN保守料	409,500	409,500	0	契約額		
図書館経費	1,045,982	2,132,500	1,086,518	1%減, プラゲティグの更新費用含む		
教育用図書購置料	9,422,280	9,422,280	0	契約額		
小 計	38,077,417	41,330,880	3,253,463			
一般管理費						
学生募集経費	2,820,000	2,700,000	-120,000	前年度は入学試験経費及びシュニテ科学リサーチ経費, 積上額		
職員厚生経費	1,380,000	1,338,000	-42,000	積上額		
労働安全衛生関係経費	4,650,000	2,240,000	-2,410,000	積上額, 本年度PC目の廃棄が無いため, 機構からの配分無し		
非常勤賞金職員	9,100,000	10,730,000	1,630,000	積上額, サテライト・学生寮非常勤職員		
印刷製本費	500,000	720,000	220,000	悪化及び各新聞印刷		
各所修繕費・一般修繕費	20,000,000	20,000,000	0			
改修工事等設計費	7,245,000	0	-7,245,000	昨年度, 共同センター・図書館地下・実習工場等の設計費, 本年度は無し		
自動車維持費	399,762	387,000	-12,762	3%減		
一般事務費	6,257,585	5,632,000	-625,585	10%減		
業務委託及び保守等経費	22,372,204	22,734,000	361,796	契約額+実積額		
光熱水料	38,649,530	44,235,000	5,585,470	昨年度実積額×3%削減		
燃料費(暖房用燃料代)	3,424,950	3,070,000	-354,950	昨年度実積額(円安による原油価格高騰のため)		
通信運搬費	2,261,095	2,299,000	37,905	昨年度実積額×3%削減		
負担金(会費等)	574,000	610,000	36,000			
研修・事務連絡等旅費	1,796,993	1,672,000	-124,993	昨年度実積額×3%削減		
認知症対策費	46,000	80,000	34,000	26年度認知症対策費		
自己点検等	582,000	1,200,000	618,000	本年度自己点検実施		
支払い手数料	55,000	55,000	0			
固定資産税	1,350,650	1,286,050	-64,600	機構配分額		
小 計	123,464,769	120,988,050	-2,476,719			
重点配分経費	15,000,000	14,890,000	-110,000	教員表彰100万円含む		
予備費	8,636,197	9,080,015	443,818	自己収入減分の確保(400万), 光熱水料費及び修繕費の補足分等		
小 計	23,636,197	23,970,015	333,818			
合 計	312,156,446	309,173,535	-2,982,911			

(出典：予算委員会資料)

資料 10-2-①-5 : 運営会議議事要旨 (抜粋)

第4回 運営会議議事要旨

日 時 平成25年 7月10日(水) 15:00~16:30

場 所 中会議室

議 題

【報告事項】

3 運営関係

5) 平成24年度決算及び平成25年度予算配分について

課長補佐(財) 資料11

課長補佐(財)から、資料11に基づき、6月25日(火)の予算委員会において、平成24年度決算が承認され、また、平成25年度予算配分が決定された。

平成25年度も運営効率化として、教員研究費等から1%減、一般管理費から3%が減額された。当初配分金額は、前年度より約298万円程度が減額された。

各学科配分経費の30%を重点配分経費とし、予備費は、自己収入の減、移転料の不足、光熱水料の充当とし、高専機構への間接経費の一部拠出10%を一般管理費から拠出し、その配分割合を教員45%、管理費55%と変更を考えている旨の説明があった。

また、今年も、12月末の未執行残額がある場合は、予算を吸い上げるため、速やかに予算を執行してほしい旨の依頼があった。

(出典：運営会議議事要旨)

資料10-2-①-6 : 財務状況の明示

収入・支出額(平成25年度)

収入額

(単位:千円)

区 分	決算額
運営費交付金	418,892
授業料、入学料及び検定料	272,032
雑収入	5,015
施設整備費補助金	689,348
産学連携等研究収入	35,870
寄附金収入	7,313
その他補助金	162,312
合 計	1,590,782

支出額

(単位:千円)

区 分	決算額
人件費	50,779
物件費	656,871
施設整備費補助金	689,348
産学連携等研究経費	28,846
寄附金事業費	9,172
その他補助金	162,312
合 計	1,597,328

(出典：総務課財務係資料、平成26年度学校要覧掲載予定)

資料10-2-②-1：高専機構会計規則抜粋（第17条・第18条）

第2章 予算

（予算実施計画の作成）

第17条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

（予算実施計画の通知）

第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

（出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号）

資料10-2-②-2：平成25年度損益計算書（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

費用の部	明細金額	収益の部	明細金額
[経常費用]	855,715,859	[経常収益]	866,293,250
業務費	624,913,566	[経常収益] 運営費交付金収益	310,574,277
教育・研究経費	472,601,566	[経常収益] 授業料収益	230,344,206
消耗品費	80,031,728	[授業料収益] 授業料収益	230,344,206
備品費	69,329,127	[授業料収益] 講習料収益	0
印刷製本費	5,748,894	[経常収益] 入学金収益	20,658,200
水道光熱費	39,811,495	[経常収益] 検定料収益	6,735,100
旅費交通費	16,228,272	[経常収益] 受託研究等収益	12,611,174
通信運搬費	6,292,192	受託研究収益	10,210,601
賃借料	1,626,669	国又は地方公共団体	1,000,000
車両燃料費	1,795,657	その他	9,210,601
福利厚生費	0	共同研究収益	2,400,573
保守費	263,130	国又は地方公共団体	0
修繕費	140,927,706	その他	2,400,573
損害保険料	0	[経常収益] 受託事業等収益	525,550
広告宣伝費	0	国又は地方公共団体	356,000
行事費	634,513	その他	169,550
諸会費	3,516,989	[経常収益] 補助金等収益	40,822,542
会議費	106,722	[経常収益] 寄附金収益	11,586,472
報酬・委託・手数料	11,795,820	[経常収益] 施設費収益	149,107,888
奨学金	5,987,400	[経常収益] 資産見返負債戻入	74,055,074
減価償却費	66,076,736	資産見返運営費交付金等戻入	44,783,650
貸倒損失	0	資産見返運営費交付金戻入	31,657,767
貸倒引当金繰入額	0	資産見返授業料戻入	13,125,883
徴収不能引当金繰入額	0	資産見返補助金等戻入	25,956,503
雑費	22,428,516	資産見返寄附金戻入	2,740,415
教育研究支援経費	95,317,481	資産見返物品受贈額戻入	250,381
消耗品費	13,333,902	特許権仮勘定見返運営費交付金等戻入	324,125
備品費	4,260,130	特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	90,200
印刷製本費	834,551	特許権仮勘定見返授業料戻入	233,925
水道光熱費	5,717,569	特許権仮勘定見返補助金等戻入	0
旅費交通費	1,240,234	特許権仮勘定見返寄附金戻入	0
通信運搬費	938,839	[経常収益] 財務収益	0
賃借料	10,603,001	受取利息	0
車両燃料費	108,958	有価証券利息	0
福利厚生費	0	その他の財務収益	0
保守費	1,339,404	[経常収益] 雑益	9,272,767
修繕費	41,019,109	財産貸付料収入	3,754,829
損害保険料	0	寄宿料収入	1,193,100
広告宣伝費	0	職員宿舍貸付料収入	1,627,615
行事費	0	学校財産貸付料収入	934,114
諸会費	320,004	文庫複写料	0
会議費	37,177	物品受贈益	0
報酬・委託・手数料	1,141,897	債権受贈益	0
減価償却費	6,439,098	承継剰余金債務戻入	0
貸倒損失	0	間接経費収入	3,857,100
貸倒引当金繰入額	0	科学研究費補助金等間接経費収入	3,857,100
徴収不能引当金繰入額	0	補助金等間接経費収入	0
雑費	7,983,608	刊行物売払代	0
受託研究費	3,714,546	不用物品売払代	0
共同研究費	1,887,727	弁償及び違約金	238
受託事業費	613,127	受取保険料	0
教員人件費	30,691,550	版権及び特許権等収入	0
常勤教員給与	0	助成金等収入	1,660,000
非常勤教員給与	30,691,550	その他の雑益	600
職員人件費	20,087,569	[経常収益] 合計	866,293,250
役員報酬	0	経常利益	0
常勤職員給与	0	[臨時損失]	34,220,971
非常勤職員給与	20,087,569	[臨時損失] 固定資産除却損	16,084,871
一般管理費	230,217,533	固定資産除却損(固定資産簿価)	4,899,979
一般管理費	230,217,533	固定資産除却損(解体撤去費)	11,184,892
消耗品費	11,819,078	[臨時損失] 固定資産売却損	0
備品費	3,149,881	[臨時損失] 災害損失	0
印刷製本費	4,146,596	[臨時損失] 減損損失	0
水道光熱費	3,772,499	[臨時損失] 国庫納付金	0
旅費交通費	3,263,272	[臨時損失] その他の臨時損失	18,136,100
通信運搬費	1,375,180	[臨時損失] 合計	34,220,971
賃借料	291,668	[臨時利益]	18,513,380
車両燃料費	233,768	[臨時利益] 固定資産売却益	0
福利厚生費	1,321,870	[臨時利益] 貸倒引当金戻入	0
保守費	6,829,933	[臨時利益] 徴収不能引当金戻入	0
修繕費	21,639,618	[臨時利益] 退職給付引当金戻入	0
損害保険料	24,950	[臨時利益] 資産見返負債戻入	377,280
広告宣伝費	0	資産見返運営費交付金等戻入	377,280
行事費	0	資産見返運営費交付金戻入	0
諸会費	540,495	資産見返授業料戻入	377,280
会議費	5,801	資産見返補助金等戻入	0
報酬・委託・手数料	9,352,794	資産見返寄附金戻入	0
租税公課	1,277,850	資産見返物品受贈額戻入	0
減価償却費	4,529,316	[臨時利益] その他引当金戻入	0
貸倒損失	0	[臨時利益] 運営費交付金収益	0
貸倒引当金繰入額	0	[臨時利益] 授業料収益	0
徴収不能引当金繰入額	0	[臨時利益] 補助金等収益	0
雑費	156,642,964	[臨時利益] 施設費収益	0
財務費用	584,760	[臨時利益] その他の臨時利益	18,136,100
財務費用	584,760	[臨時利益] 合計	18,513,380
支払利息	584,760	合計	850,585,659
その他の財務費用	0		
雑損	0		
[経常費用] 合計	855,715,859		
[当期純利益(純損失)]	△ 5,130,200		
合計	850,585,659		

(出典：総務課財務係資料)

資料10-2-③-1：予算委員会資料

高専教育充実設備費について

平成23年5月10日（水）：予算委員会

■平成23年度高専教育充実設備費について

昨年度の予算委員会において本年度より「ローテーション」は廃止することが決定している。今後は、各学科・センター等からの要望を踏まえ、予算委員会で検討して配分先及び配分額を決定する。平成24年度分については、本年度中に各学科・センター等の要望を予め聞いておく必要がある。それらを基に、来年度の配分は、来年度予算委員会で審議することとし、本年度については、学科分は「ものづくりセンター」及び「建築学科」各400万円とし、センター分である配分額500万については、サテライト・キャンパスの学内負担分に充てることの説明があった。

また、サテライト・キャンパス事業経費については、来年度からは「高専教育充実設備費」からの支出はやめ、別途事項立てすることの説明があった。

審議の結果了承した。

(出典：予算委員会資料)

資料10-2-③-2：校長裁量経費及び重点配分経費の計画

【校長裁量経費】

平成25年7月4日

教職員各位

校長
(公印省略)

平成25年度校長裁量経費について

1. 配分対象

教育・研究活動の活性化及び管理運営の円滑化など、今後の本校の一層の発展に資するための戦略的・重点的な課題。

なお、複数の教職員による共同申請とする。

2. 予算額 11,910千円

3. 申請枠 代表者として一人1件

4. 申請期限 7月12日（金）

5. 審査方法

申請課題の必要性について、校長がヒアリングの上、採否及び配分額を決定する。

6. 申請方法

平成25年度校長裁量経費申請書「別紙1」により直接校長へ申請する。

7. 成果の報告及び公表

採択された課題は、完了後速やかにその成果報告書2部を学校長に提出するものとする。学校は報告を冊子にまとめ、図書情報センターにおいて閲覧に供する。

なお、平成24年度校長裁量経費により採択された課題で、その成果報告書を提出していない場合は、速やかに提出すること。この成果報告書がない場合は、同一テーマによる平成25年度校長裁量経費の申請は認めない。

8. 留意事項

より多くの教職員により多くの経費を配分したく、申請額は、課題遂行のために真に必要な経費を計上すること。備品類は現在所有するものを活用する、研究費でまかなう、等で考慮願います。また、旅費についても必要最小限に留めること。

【重点配分経費】

平成25年6月27日

教職員 各位

校 長
(公印省略)

平成25年度重点配分経費について

このことについて、下記の内容で実施することとしましたので、希望する場合は、申請書を7月11日(木)までに提出願います。

記

配分総額 1,389万円

I 経費区分

1. 学校プロジェクト経費：50万円以下/件

- ① 学科、センター、委員会及び室（複数を含む。）で企画したプロジェクト又は2名以上の共同研究、共同教育プロジェクトで、中期計画、本校の将来計画に沿った企画又は競争的資金獲得への発展性のある企画とする。申請件数は、共同研究を含め1件とする。
- ② 採択されたものについては実施報告書を作成し、成果発表会に出席し発表することを義務とする。

2. 基盤教育・研究経費：20万円以下/件

- ① 教職員個人の教育・研究の活発化を図ることを目的とした企画とする。従って、申請は個人単位とする。また、申請件数は一人1件とする。
- ② 申請条件は、前年度「科研費申請」および前年度「関連学会発表」があること。
- ③ 申請書には、1年間の詳細で確実な研究計画を記載する。
- ④ 採択された場合は、当該研究結果の実施報告書を作成し、提出することを義務とする。
- ⑤ 採択された場合は、当該研究による「関連学会発表」を義務とし、翌年度までに発表すること。

3. 先進研究経費：100万円以下/件

- ① 科研費等の外部資金獲得に向けた、先進的な、個人または複数の教職員による企画とする。申請件数は、共同研究を含め1件とする。
- ② 申請条件は、前年度「科研費申請」及び過去3年間に「関連学会発表（原則：審査付き論文）」があること。（掲載許可が決定している論文については同等と見なす）
- ③ 複数の教職員による企画の場合、研究代表者は上記②を満たすこと。また、共同研究者全員について過去3年度分の関連学会発表を記すこと。
- ④ 研究代表者及び共同研究者は本校教職員であること。
- ⑤ 申請書には1年又は複数年の詳細な研究計画を記載する。
- ⑥ 採択された場合は、当該研究結果の実施報告書を作成し、成果発表会に出席し発表することを義務とする。
- ⑦ 複数年にわたる申請の場合でも、審査結果によっては単年度のみ採択となる場合がある。
- ⑧ 複数年にわたる研究費採択者も、採択期間1年毎に実施報告書を作成し、成果発表会に出席し発表することを義務とする。なお、複数年採択の場合も、次年度の新たな申請書を作成・提出し審査を受けるものとする。その審査結果によっては、その後の配分予定補助金の減額ないしは取り消しもある。
- ⑨ 採択された場合は、当該研究による「関連学会発表（原則：審査付き論文）」を義務とし翌年度までに発表することを原則とする。

評価項目

1. 学校プロジェクト（評価項目・評点、10点満点）

- ① プロジェクトの必要性・重要性（0～4点）
- ② プロジェクトの計画性（0～3点）
- ③ 期待される成果・効果（0～3点）

2. 基盤教育・研究経費（評価項目・評点、10点満点）

- ① 研究の必要性・重要性（0～3点）
- ② 研究の計画性・取組状況（研究業績を含む）（0～5点）
- ③ 期待される成果（0～2点）

3. 先進研究経費（評価項目・評点、15点満点）

- ① 研究の重要性・独創性（0～5点）
- ② 研究の計画性・取組状況（研究業績を含む）（0～5点）
- ③ 期待される成果（0～3点）
- ④ 過去5年間の科研費等の外部資金獲得状況（0～2点）

III 申請にあたっての留意事項

- ① 重点配分経費申請件数は、次のように制限する。
 - ・ 経費区分1「学校プロジェクト経費」は、共同研究を含め1件のみとする。
 - ・ 経費区分2「基盤教育・研究経費」と3「先進研究経費」については、どちらか1件のみ申請できる。

ただし、「基盤教育・研究経費」の申請者も、1件に限り「先進研究経費」の共同研究者になることができる。（経費区分1の申請状況とは無関係。）

- ②申請された課題についてはヒアリングを行い、採否を決定する。
- ③先進研究経費の研究課題については、科研費等外部資金獲得に努力する。
- ④申請にあたっては、詳細な研究計画を策定すること。
- ⑤申請予算品目は、当該研究遂行のために必要欠くべからざるもののみとする。
現在所有の機器・備品・備品等で活用できるもの、あるいは自身の研究費でまかなえるものは含めないこと。（パソコン・プリンター及びその周辺機器、ビデオカメラ、資格取得等に係る経費は申請経費に含めないこと。また、学会発表投稿料およびその旅費等は必要最小限にすること。）
- ⑥予算配分を受けた企画については、企画終了後、速やかに実施報告書（プロジェクトの目的、内容、実施経過等の概要（600字程度）、得られた成果、成果の今後における活用予定及び予想される効果、成果の外部発表等、実際に要した経費等を内容とする）を、平成26年3月31日（月）までに総務課財務係へ提出する。
なお、提出された実施報告書は総務課財務係において保管し、必要に応じ閲覧に供する。
- ⑦重点配分経費を申請しようとする者は、前年度の重点配分経費成果発表会を聴講すること。
- ⑧平成24年7月以降に採用になった新任教員に限り、経費区分2及び3の申請条件（前年度の科研費申請及び研究業績）を満たさない場合でも申請できるものとする。
- ⑨再雇用の教員は、研究代表者として申請できないが、共同研究者に加えることは可とする。

IV 申請書の提出先 総務課財務係

（出典：総務課財務係資料）

■ 平成25重点配分経費について

【方針案】学科配分経費の30%（14,890千円）を、重点配分経費（学内競争的資金及び教員表彰経費）の予算に充てる。

【経緯】

*平成21年度に、校長よりの「小山高専 今後の発展のための当面の検討事項」の一つに「学内の教育研究経費等」の配分改善が提示され、これに応じて具体的には「校長裁量経費」「重点配分経費」等の充実が必要とされた。

*平成22年度第1回予算委員会で検討、審議し、「学科配分予定経費」の10%（約500万円）を学内の競争的資金である「重点配分経費」に回すことと決定し実施した。

平成22年度重点配分経費	申請36件	18,388,000円
	採択33件	13,500,000円

*平成23年度第1回予算委員会で検討、審議し、「学科配分予定経費」の20%（約1,000万円）を学内の競争的資金である「重点配分経費」に回すことと決定し実施した。

平成23年度重点配分経費	申請38件	20,057,000円
	採択36件	17,500,000円

更なる競争的資金の拡大を図るため

*平成24年度

第1回予算委員会で検討、審議し、「学科配分予定経費」の30%（約1,500万円）を学内の競争的資金である「重点配分経費」に回すことと決定し実施する。

平成24年度重点配分経費	申請42件	25,326,000円
	採択41件	14,000,000円

*本校としての教員表彰について、平成23年度より教育、研究、地域貢献等の5分野について表彰することとし、対象教員に対し教育研究経費として各20万円（合計100万円）の予算配分を行うことと決定した。

（出典：平成25年度第1回予算委員会資料）

資料10-2-③-3：重点配分経費配分状況

平成25年度重点配分経費 配分額一覧

区分	No.	学科等	申請者	共同研究者	配分額 (千円)	課 題
学校プロジェクト	1	機械	助教 加藤 岳仁	講師 那須 裕規	210	地域の小中学生を対象とした環境エネルギーに関する公開講座用教材の開発
	2	物質	教授 上田 誠	講師 西井 圭 助教 高屋 朋彰	500	グリーンサステナブルケミストリーの観点からのものづくり技術の開発
	3	建築	助教 永峰 麻衣子	准教授 豊川 斎赫	0	地域材料大谷石を活用した家具デザイン
	4	一般	教授 三原 大介	講師 長田 朋樹	350	中高年及び学生の体力の現状と疲労に関する調査研究
	5	一般	准教授 柴田 美由紀	講師 宮城 信	320	日本語コミュニケーション能力を育成するためのメソッドと教材の開発
				小計	1,380	
区分	No.	学科等	申請者	共同研究者	配分額 (千円)	課 題
基盤教育・研究経費	1	機械	准教授 伊澤 悟		200	足アーチの表形解析システムの構築
	2	機械	助教 山崎 敬則		110	半導体ゲージを用いたせん断力センサの開発
	3	電気電子	講師 山田 靖幸		140	MOD法を用いた高温超伝導体a軸配向薄膜の成膜に関する研究
	4	電気電子	講師 大島 心平		160	小型化と高減衰化を両立する高周波用平面型ハイパスフィルタの研究
	5	物質	教授 龜山 雅之		140	ジアセタールへの不斉アルドール反応
	6	物質	教授 武 成祥		200	亜鉛含有ハイドロキシアパタイトプラズマ溶射生体適合被覆材の開発と評価
	7	建築	助教 永峰 麻衣子		120	多様な閉かりの空間提案 ライティングプロダクト制作
	8	一般	講師 上野 哲		150	高寺における技術者倫理教育用ケース集作成に向けた実証的研究(2)
	9	一般	講師 阿部 弘樹		140	表現論および数学教育へのCASシステムの活用
	10	一般	講師 岡田 崇		120	導薬剤と安定性条件の研究
	11	技術産	技術職員 出川 哲志		110	学生実験における廃液教育の導入-環境負荷を考慮する人材育成のために-
	12	技術産	技術職員 羽鳥 晋矢		100	木質系バイオマスをもとにした高性能緩衝剤の開発
			小計	1,690		
区分	No.	学科等	申請者	共同研究者	配分額 (千円)	課 題
先進研究経費	1	機械	准教授 北條 恵司	技術職員 橋本 忠司 大毛 信吾	480	過大荷重およびストレスショットピーニングの複合加工による構造用材料の疲労限度向上(単年度)
	2	機械	助教 加藤 岳仁		1000	実用化に向けた高効率光電変換シートの開発(単年度)
	3	電気電子	教授 石原 学		770	表面形状を変化させる方式の触覚装置の開発(単年度)
	4	電気電子	准教授 鈴木 真ノ介		870	生体を伝送路としたハイブリッド通信システムにおける入出力波形状解析による生体マッピングの試行(単年度)
	5	電気電子	助教 ラホック		740	長距離における自律移動ロボットのナビゲーション法の構築(単年度)
	6	電気電子	助教 飯島 洋祐		720	再構成可能ハードウェアを用いた高速信号処理による高効率デジタル信号伝送回路の実装検討(単年度)
	7	物質	教授 上田 誠		990	バイオ反応を利用したモノづくりによる産業への貢献(単年度)
	8	物質	准教授 飯島 道弘		800	複数のポリアミノ酸およびPEGセグメントを有するブロックポリマーの精密合成と有用性検討(複数年度・1年目)
	9	物質	准教授 田中 孝國		680	粒径を揃えたかんびょう粉末を用いた乾燥剤の作製と評価(単年度)
	10	物質	准教授 酒井 洋		460	糖タンパク質膜の界面化学的研究(単年度)
	11	物質	講師 西井 圭		1000	環境負荷低減に貢献するオレフィン系-シリム材料合成技術の開発(単年度)
	12	物質	助教 高屋 朋彰		890	乳製品由来のプロピオン酸菌を利用した有害微生物・病原微生物の生育抑制に関する研究(単年度)
	13	物質	助教 加島 徹太		480	放射性元素の除染処理を目的とする金属イオン吸着分離膜の創成(単年度)
	14	建築	教授 橋本 彼路子		520	知的・精神障がい児童施設の環境整備に関する研究-生活の場・働く場・学びの場としての支援施設をあり方-(複数年度・2年目)
	15	一般	准教授 森下 佳代子		440	畜産系バイオマス・下水汚泥加熱時における有害成分放出抑制の研究(複数年度・1年目)
			小計	10,820		
			合 計	13,890		

※先進研究経費複数年度採択について
 次年度以降については、前年度の研究結果及び新たな申請書の審査により、その後の配分予定補助金の減額ないしは取消もあり得る。

(出典：総務課財務係資料)

資料10-2-③-4：校長裁量経費配分状況

平成25年度 校長裁量経費 申請額及び配分額

予算額 11,910 千円

番号	項目	申請額	配分額	申請代表者	備考
1	キャンパス ゼロエネルギー化に向けた戦略的検討	1,990	1,500	豊川斎赫	①省エネ・創エネ技術の実装検討と研究者ネットワーク構築 ②校舎改修に係る省エネ・創エネ検討とデザイン洗練化検討 ③ゼロエネルギーキャンパスを目指すマスタープランの工程作成
2	地域連携共同開発センター棟改修工事竣工イベント	466	400	伊澤悟	竣工式、記念展示経費等
3	地域連携協働会設立プロジェクト	400	350	糸井康彦	印刷製本費、送料、室料等
4	国際交流センター宿泊室等整備	1,500	0	—	北寮2階等。リスク管理仮眠室兼用。具体化時点で予備費から支出
5	香港VTC学生の小山高専における短期留学プログラム	800	600	武成祥	香港VTC関連等
6	学生相談環境の整備	300	300	須甲克也	ソファ、テーブル、パーティション、エアコン等
7	小学校理科教育支援活動と出前イベントによる地域貢献	770	600	平田克己	教材費、運送費、材料費、交通費
8	技術室安全衛生プロジェクト	494	400	生井智展	掲示物等制作費、旅費等
9	ブックディクテーションシステムの更新にかかる費用	997	997	柴田美由紀	図書館センターのセキュリティゲートの更新
10	高専ロボコン2013におけるロボット製作	700	600	小林幸夫	電子部品、機械部品、センサー、工具等
11	デザイン、設計コンペなどへの創造性を伴う課外活動の支援	400	400	大島隆一	載荷台製作、模型材料費、作品輸送費等
12	プログラミングコンテストに関する支援	826	650	南斉清巳	電子黒板、ノートPC、電子部品、インク等
13	小山高専学寮「青嵐寮入寮案内」パンフレットの作成	200	200	鹿野文久	パンフレットの更新。A3二つ折り、5000部。
14	TOEIC(国際ビジネスコミュニケーション協会)会費	600	600	亀山雅之	賛助会正会員入会金及び正会員費。
15	成績不振学生へのTAIによる補習授業の実施	300	300	小堀康功	全学科におけるTAIによる補習経費。860円/時
16	地域の建築系大学および企業との交流促進プロジェクト	250	200	永峰麻衣子	県建築士事務所協会、建築家協会等のプロジェクトへの学生の参加費等
17	女子寮の防犯および環境改善に係る経費	600	500	川上勝弥	センサーライト、ネットフェンス、換気設備等
18	ETロボコン2013出場に関する活動支援	140	140	飯島洋祐	参加費、引率旅費、コース試作費、開発設備費等
19	広報活動の充実による入学者確保への取組み	550	500	本多良政	募集用ポスター及び広報用グッズ製作費
20	サテライトキャンパス等での講座開催と教材・資料作成等	205	150	酒入陽子	サテライトキャンパス等での講座開催(3回)
21	国際会議出席支援プログラム	600	600	—	
	予備費		1,923	—	4及び緊急案件に充当
	合計	13,088	11,910		千円

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-2-③-5：施設整備の状況

年度/区分	教育・研究施設	福利厚生・課外活動	安全管理	管理施設・その他
平成12年度	・専攻科棟新営工事 (3,139㎡) ・実習工場屋外トイレ設置	・野球場防球ネット改修 ・部室用アランプ設置(8棟)		・さく井工事
平成13年度	・校舎改修工事 (2,200㎡) 管理・電物・図書館棟 ・高速LAN整備工事	・野球場屋外トイレ設置 ・図書館国際交流室設置	・正門改修工事 ・ソーラー外灯設置	・構内携帯電話整備 (PHS化)
平成14年度	・校舎改修工事 (3,390㎡) 機械・建築・講義・電子棟 ・情報センター内部改修 ・情報センター渡り廊下 ・実習工場内部改修	・構内環境整備(噴水庭園改修) ・ロボコン製作用プレハブ設置 (2棟) ・北寮学習室改修 ・西寮防水改修	・スロープ設置(8棟)	
平成15年度	・校舎改修工事(2,220㎡) 電物棟		・守衛所新営工事 ・防災設備等移設 ・局所排気装置・特殊ガス設備等整備	・外来者休憩所取設
平成16年度	・図書館他照明器具改修 ・建築棟3階空調機設置	・一般食堂・情報センター防水改修 ・第一・第二体育館・合宿所トイレ改修 ・トイレ扉便座設置	・実習工場排気装置改修他安全対策	・建築棟前井戸改修
平成17年度	・武道館屋根改修 ・第二体育館軒樋・屋根塗装改修	・西寮防水改修	・外灯更新工事 ・正門前投光器設置	・一般食堂給湯ボイラー更新
平成18年度	・視聴覚室空調改修 ・水泳プール改修 ・テニス練習板改修	・自転車置場(車庫前)改修 ・学寮浴室シャワー洗改修	・実習工場耐震改修 ・第一体育館耐震改修 ・水泳プール侵入防止柵設置	・学寮食堂空調用電源工事
平成19年度	・機械棟屋上防水改修 ・共同センター別館防水改修	・学寮食堂空調設置	・北寮耐震改修 ・第二体育館耐震改修 ・緊急地震警報設置 ・学寮放送設備改修	・井水加圧送水ポンプ増設 ・生活排水処理施設ネットファン更新
平成20年度	・共同センター防水改修	・自転車置場(管理棟東)増設 ・自転車置場(建築棟北)改築 ・学生厚生施設防水改修	・北寮耐震改修 ・第二体育館耐震改修 ・緊急地震警報設置 ・学寮放送設備改修	・井水ろ過ポンプ更新 ・生活排水処理施設攪拌機No1改修
平成21年度	・エネルギー変換実験室床改修 ・自動車シミュレーション室設置 ・物質実験棟防水改修 ・デジタル放送対策	・一般食堂内部改修 ・寮食堂自動ドア設置 ・テニスコート改修		・生活排水処理施設攪拌機No2改修 ・実験排水監視装置改修 ・実験排水処理施設ネットファン更新
平成22年度	・第一体育館バスケットボール電動ライン設置 ・情報センターサーバー室電源増設	・野球場防球ネット増設 ・屋外運動場散水栓増設 ・留学生用シャワー室改修	・電算室面格子取付	・生活排水処理施設攪拌機No3改修 ・学生寮放送設備更新 ・ダイヤモンド監視装置交換
平成23年度	・教室天井扇風機導入 ・専攻科棟教室窓断熱フィルム貼	・寄宿舎洗濯室改修 ・西寮便所洋式化	・校舎災害復旧	・生活排水処理施設攪拌機No4改修 ・西寮北道路舗装補修
平成24年度	・共同センター改修【I期】 ・図書館渡り廊下改修 ・実習工場屋根等改修 ・第一体育館競技室床塗装改修	・学生寮エアコン設置 ・学生寮男子浴室自動湯張り設備設置 ・南寮・東寮温水便座設置		・実験給水系揚水ポンプ更新
平成25年度	・共同センター改修【II期】 ・実習工場外部改修 ・第二体育館競技室床塗装改修 ・建築学科棟・材料構造実験室改修	・テニスコート改修 ・東寮洗面所トイレ内装修繕 ・学寮ゴミステーション設置	・擁壁改修・環境対策	・再利用資源回収所設置

(出典：総務課施設係資料)

資料10-2-③-6：設備整備の状況

平成25年度高専教育充実設備費	
1	実験室用イス
2	現代制御実験システム・画像解析用構成の高性能ワークステーション
3	現代制御実験システム用ソフト: Matlab-ToolBox
4	化学実験室 講義用プロジェクター 一式
5	別館プラズマ室向ナボンベ庫及び供給設備工事一式
6	講演用天井プロジェクター設置工事及び講演者用演台
7	CO ₂ レーザ発振装置レーザ管およびガス交換
8	蒸留水製造装置と天秤
9	学生実験用流速処理装置
10	脳波計EEG-9100(日本光電製)修理
11	電子黒板 スターボード FX-PORTABLE
12	エアプラズマ切断機及び電気配線工事
13	コンクリートテスター付属品とも
14	光伝送実習装置一式
15	電磁ノイズ測定用ESV3000PCIEボード・ソフトウェア・PCセット
16	展示ケース

(出典：総務課財務係資料)

資料10-3-①-1：高専機構会計規則抜粋（第44条）

（年度末決算）

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

（出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号）

資料10-3-①-2：独立行政法人通則法抜粋（第38条）

（財務諸表等）

第三十八条 独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

2 独立行政法人は、前項の規定により財務諸表を主務大臣に提出するときは、これに当該事業年度の事業報告書及び予算の区分に従い作成した決算報告書を添え、並びに財務諸表及び決算報告書に関する監事の意見（次条の規定により会計監査人の監査を受けなければならない独立行政法人にあっては、監事及び会計監査人の意見。以下同じ。）を付けなければならない。

3 主務大臣は、第一項の規定により財務諸表を承認しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

4 独立行政法人は、第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは、遅滞なく、財務諸表を官報に公告し、かつ、財務諸表並びに第二項の事業報告書、決算報告書及び監事の意見を記載した書面を、各事務所に備えて置き、主務省令で定める期間、一般の閲覧に供しなければならない。

（出典：独立行政法人通則法 平成11年法律第103号）

資料 10-3-①-3：国立高等専門学校機構財務諸表（ホームページでの公表）



（出典：独立行政法人国立高等専門学校機構HP）

資料10-3-②-1：独立行政法人通則法抜粋（第39条～第43条）

- (会計監査人の監査)
 第三十九条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。
 (会計監査人の選任)
 第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。
 (会計監査人の資格)
 第四十一条 会計監査人は、公認会計士（公認会計士法（昭和三十二年法律第百三十三号）第十六条の二第五項に規定する外国公認会計士を含む。）又は監査法人でなければならない。
 2 公認会計士法の規定により、財務諸表について監査をすることができない者は、会計監査人となることができない。
 (会計監査人の任期)
 第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。
 (会計監査人の解任)
 第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。
 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(出典：独立行政法人通則法 平成11年法律第103号)

資料10-3-②-2：高専機構会計規則抜粋（第45条・第46条）

- (内部監査)
 第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。
 2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。
 (会計機関の義務及び責任)
 第46条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。
 2 会計機関は、故意又は重大な過失により前項の規定に違反して、機構に損害を与えた場合は、その損害を弁償する責を負わなければならない。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

資料10-3-②-3：内部会計監査実施規程

小山工業高等専門学校内部会計監査実施規程

制 定 平成16年4月1日
 最終改正 平成18年4月1日

- (目的)
 第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成16年規則第34号）第45条の規定に基づき、本校における会計事務処理の適正を期するため、内部会計監査（以下「監査」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。
 (監査事項)
 第2条 監査は、会計経理に関し次の各号に掲げる事項について実地に行うものとする。
 一 会計経理に関する法令等の適用に関する事項
 二 予算決算に関する事項
 三 収入支出に関する事項
 四 債権に関する事項
 五 物品に関する事項
 六 不動産に関する事項
 七 契約に関する事項
 八 旅費に関する事項
 九 寄附金に関する事項
 十 帳簿及び証拠書類に関する事項
 十一 その他校長が必要と認める事項
 (監査員)
 第3条 校長は、監査を実施するため総務課（財務担当）職員のうちから監査員を命ずるものとする。ただし、必要があると認めるときは、総務課（財務担当）職員以外の職員に監査員を命ずることができる。
 (監査の時期)
 第4条 定期監査は、毎会計年度1回実施するものとし、特に必要があるときは、臨時に監査を実施することができる。
 (監査の実施)
 第5条 校長は、監査を実施しようとするときは、あらかじめ実施しようとする部局に対し、その期日及び監査を行う監査員その他必要な事項を通知するものとする。
 (監査員の責務)
 第6条 監査員は、公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。
 2 監査員は、監査の実施に伴い、必要があるときは、関係者に説明を求め、かつ、調書等の提出を求めることができる。
 (監査報告)
 第7条 監査員は、監査が終了したときは速やかに別紙様式による内部会計監査報告書を校長に提出しなければならない。
 (是正改善の措置)
 第8条 校長は、監査の結果会計経理に関し、是正改善を必要とする事項があるときは、直ちにその措置をとるものとする。
 附 則（略）

(出典：小山高専HP)

資料10-3-②-4：内部会計監査報告書

別紙様式
内部会計監査報告書
平成25年11月18日
小山工業高等専門学校長 殿

監査員 中里 正久
五部 丸明子
吉広 和純

内部会計実地監査の結果を下記のとおり報告いたします。

記
(監査実施課(係)名：科学研究費補助金)

監査実施年月日	25年11月18日	
監査事項	報告事項	
会計経理に関する法令等の適用に関する事項	良好	
予算決算に関する事項		
収入支出に関する事項	良好	
債権に関する事項		
物品に関する事項	良好	
不動産に関する事項		
契約に関する事項	良好	
雑費に関する事項	良好	
産学連携等経費及び奨学費 附金に関する事項		
帳簿及び証拠書類に関する 事項	良好	
その他		

科学研究費補助金

別紙様式
内部会計監査報告書
平成25年11月18日
小山工業高等専門学校長 殿

監査員 南斉 慶子
山越 英樹
小林 悟治
勝股 知子

内部会計実地監査の結果を下記のとおり報告いたします。

記
(監査実施課(係)名：総務課財務係)

監査実施年月日	平成25年11月18日	
監査事項	報告事項	
会計経理に関する法令等の適用に関する事項	良好	
予算決算に関する事項	良好	
収入支出に関する事項	良好	
債権に関する事項	良好	
物品に関する事項		
不動産に関する事項		
契約に関する事項		
雑費に関する事項	良好	
産学連携等経費及び奨学費 附金に関する事項		
帳簿及び証拠書類に関する 事項	良好	
その他		

総務課財務係

(出典：総務課財務係資料)

資料10-3-②-5：高専相互会計内部監査報告書

別紙2

高専相互会計内部監査報告書

独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則第45条に基づき、内部監査を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

被監査高専名	小山工業高等専門学校
監査実施日	平成25年12月12日～12月13日
監査担当者	群馬工業高等専門学校 総務課財務係長 ■■■ ■■■ 総務課経理係主任 ■■■ ■■■
<p>【監査結果の詳細】 <u>被監査部署及び対応者名：総務課 中里総務課長補佐（財務）、本多財務係長 他</u></p>	
<p>①被監査部署の現状 ・総務課長の他、課長補佐2名（財務担当、施設担当）、財務係4名（予算決算、収入支出）、用度係5名（契約事務）、施設係1名（施設管理）の3係、計13名（課長、課長補佐を含む）となっている。</p>	
<p>②監査結果により把握された重要な問題点と所見 ・概ね良好な会計処理が行われており、重要な問題点は見受けられなかった。</p>	
<p>③発見事項及び指摘事項 ・特記事項なし。</p>	
<p>④指摘事項等（指示、考究） ・別添「高専相互会計内部監査チェックリスト」のとおり 指示（会計処理について改めるよう要求したもの）…1件 考究（確認、検討を要求したもの）…1件</p>	
<p>⑤被監査部署の意見等 ・上記④について、その対応について速やかな検討を図るとのことであった。</p>	
<p>⑥関係資料等（参考資料等） ・なし。</p>	

（出典：総務課財務係資料）

資料 11-1-①-2：委員会等一覧（1／2）

名 称	設置の目的・趣旨	審 議 事 項	委員長等	委 員
総務会議	学校の運営に関する協議を行う	<ul style="list-style-type: none"> 学校の運営に関する協議、連絡調整に関すること 運営会議に付議する議題の整理に関すること 	校長 (招集、主宰)	<ul style="list-style-type: none"> 各副校長 専攻科長 事務部長 各課長
運営会議	学校の運営に関する審議を行う	<ul style="list-style-type: none"> 学校の運営組織の設置・廃止に関する事項 他の運営組織の所管に属さない事項 校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項 	校長 (招集、主宰)	<ul style="list-style-type: none"> 各副校長 専攻科長 学科長 各センター長、教育研究技術支援部長、国際交流推進室長 事務部長・各課長
教職員会議	学内運営に係る報告等を行う	<ul style="list-style-type: none"> 学内運営に関すること 	校長(招集) 副校長(総務主事)(議長)	<ul style="list-style-type: none"> 教員 事務部長 各課長、技術長、各課長補佐・各係長、専門職員 技術室各グループ長
教務委員会	教務に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成及び改廃に関すること 授業時間割の編成に関すること 学校の行事に関すること その他教務に関すること 	副校長 (教務主事)	<ul style="list-style-type: none"> 教務主事補 各学科教員1名(電気電子創造工学科2名) 学生課長 校長が必要と認めた者
学生委員会	学生の厚生補導に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> 学生の身上に関すること 学生会及び学生団体に関すること その他学生の厚生補導に関すること 	副校長 (学生主事)	<ul style="list-style-type: none"> 学生主事補 各学科教員1名 一般科教員2名 学生課長 校長が必要と認めた者
寮務委員会	学寮における学生の厚生補導に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> 入寮及び退寮に関すること 寮生の教育及び生活指導に関すること その他学寮の管理運営に関すること 	副校長 (寮務主事)	<ul style="list-style-type: none"> 寮務主事補 各学科教員1名 一般科教員2名 校長が必要と認めた者
専攻科委員会	専攻科に関する基本的な事項の円滑な運営を図る	<ul style="list-style-type: none"> 教育課程の編成及び実施に関すること 教育計画及び授業時間の編成に関すること その他専攻科の運営に関すること 	専攻科長	<ul style="list-style-type: none"> コース主任 一般科教員1名 学生課長
図書情報センター運営委員会	図書情報センターの円滑な管理運営及び著作権に関する諸問題を処理する	<ul style="list-style-type: none"> 図書情報センターの管理運営に関すること 資料の選定に関すること その他図書に関すること 	図書情報センター長	<ul style="list-style-type: none"> 各学科教員1名 一般科教員2名 総務課長 校長が必要と認めた者
情報科学教育研究センター運営委員会	センターの管理運営に関する事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> 情報センター及び情報ネットワークの管理運営に関わる基本方針及び長期計画に関すること その他情報センター及び情報ネットワークについての重要事項に関すること 	情報科学教育研究センター長	<ul style="list-style-type: none"> 情報科学教育研究センター情報ネットワーク室長 各学科教員1名 学生課長・教育研究技術支援部長、技術室第2グループ長 校長が必要と認めた者
地域連携共同開発センター運営委員会	センターの運営に関する重要事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> センターの管理運営の基本方針に関すること その他センター長が必要と認めること 	地域連携共同開発センター長	<ul style="list-style-type: none"> 各部門長、各学科教員1名、一般科教員1名 総務課長 教育研究技術支援部長、技術室第3グループ長 校長が必要と認めた者
ものづくり教育研究センター運営委員会	センターの運営に関する重要事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> センターの管理運営・利用計画に関すること その他センターについての重要事項に関すること 	ものづくり教育研究センター長	<ul style="list-style-type: none"> 各学科教員1名 技術長 技術室第1グループ長 学生課長
教育研究技術支援部運営委員会	教育・研究活動を支援し、技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理する	<ul style="list-style-type: none"> 技術支援部の管理・運営、技術支援業務に係る技術職員の配置に関すること 技術支援部が行う教育研究支援業務及び地域連携支援業務に関すること 技術支援部に係わる規則、規程、細則に関すること 	教育研究技術支援部長	<ul style="list-style-type: none"> 各学科及び一般科の教員各1名 情報科学教育研究、地域連携共同開発及びものづくり教育研究、各センターの運営委員会委員各1名 技術長 技術室の各グループ長

資料 11-1-①-2 : 委員会等一覧 (2 / 2)

国際交流推進室運営委員会	国際交流に関する重要事項を審議する	・国際交流に関する重要事項	国際交流推進室長	・副校長（教務、学生、寮務主事） ・各課長 ・校長が必要と認めた者
環境整備委員会	教育研究環境の保全と向上を図る	・長期的視野に立った環境の整備及び施設の運営に関する事 ・施設の点検・評価及び有効活用に関する事 ・その他環境整備に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（学生主事） ・各学科、一般科教員各1名 ・事務部長・各課長 ・校長が必要と認めた者
安全衛生委員会	安全及び衛生に関する重要事項について、教職員の意見を聴取し、災害及び健康障害の防止対策に関する諸施策をより効果的なものにする	・労働災害防止対策に関する事 ・教職員の健康障害の防止及び健康保持増進対策に関する事 ・その他災害防止上、特に必要な事項	総括安全衛生管理者	・安全衛生推進者 ・衛生管理者 ・産業医 ・総括安全衛生管理者が指名した者
人事委員会	教職員の採用及び配置計画等を円滑に進める	・教職員の採用に係る基本方針に関する事 ・人事評価の方針・基準に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（教務、学生、寮務主事） ・各学科長 ・事務部長・総務課長 ・校長が必要と認めた者
ハラスメント防止委員会	ハラスメントのない健全な環境をつくる上での諸問題を処理する	・ハラスメントの防止等を図るための啓発活動及び研修等の企画・立案に関する事 ・苦情相談の事実関係の調査、適切な措置の策定等に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（教務、学生、寮務主事） ・専攻科長 ・学生支援室長 ・事務部長 ・校長が必要と認めた者
予算委員会	業務の適性かつ効率的な実施を図り、財政状態・運営状況を明らかにする	・予算実施計画に関する事 ・決算報告に関する事 ・その他財務に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（教務主事） ・各学科長 ・事務部長、総務課長 ・校長が必要と認めた者
教育研究推進委員会	本校における教育研究活動の一層の推進を図り、もって本校の教育研究水準の向上に資する	・教育研究活動の基本的施策に関する事 ・地域社会等との共同研究の基本的施策に関する事 ・その他本校における教育研究活動の基本的施策に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（教務主事） ・校長が必要と認めた者
発明委員会	教育研究の成果を迅速に権利化し、その果実を最大限活用する	・届け出のあった発明の権利の帰属に関する事 ・取得した特許等の活用に関する事 ・その他発明に関し必要となる事項	地域連携共同開発センター長	・教育研究技術支援部長 ・各学科、一般科から各1名 ・総務課長 ・校長が必要と認めた者
広報委員会	広報・HPについて審議する	・広報に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（総務、教務主事） ・地域連携共同開発センター長 ・情報科学教育研究センター長 ・事務部長 ・校長が必要と認めた職員
点検評価委員会	機関別認証評価及び JABEE の審査等に対応する	・自己点検評価及び外部評価の企画調整に関する事 ・認証評価を受けるために必要となる施策に関する事 ・JABEE 技術者教育プログラムの認定を受けるために必要となる施策に関する事	副校長（総務主事）	・副校長（教務、学生、寮務主事） ・専攻科長 ・事務部長 ・各課長 ・専門委員会の委員長 ・校長が必要と認めた教員

自己点検評価専門委員会	自己点検評価に関する事項について審議する	<ul style="list-style-type: none"> 自己点検評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること 自己点検評価報告書の作成及び公表に関すること 	校長が任命	<ul style="list-style-type: none"> 校長が必要と認めた教員若干名 校長が必要と認めた職員
機関別認証評価専門委員会	認証評価を受けるために必要となる施策に関する事項について審議する	<ul style="list-style-type: none"> 認証評価に必要な資料作成及び申請手続きに関すること 認証評価を継続して受けるための施策に関すること その他認証評価に関すること 	副校長 (教務主事)	<ul style="list-style-type: none"> 各学科長 校長が必要と認めた職員
JABEE 専門委員会	JABEE の技術者教育プログラムの認定を受けるために必要となる施策について審議する	<ul style="list-style-type: none"> プログラムの作成及びカリキュラムに関すること プログラムの認定に必要な資料作成及び申請手続きに関すること その他プログラムの認定に関すること 	校長が任命	<ul style="list-style-type: none"> 校長が必要と認めた教員若干名 校長が必要と認めた職員
情報安全管理等委員会	本校における情報セキュリティポリシーを確立する	<ul style="list-style-type: none"> 情報安全管理等の組織体制の整備に関すること 情報安全管理等の運用及び管理に関すること その他情報安全管理等策定に必要な事項に関すること 	校長	<ul style="list-style-type: none"> 情報科学教育研究センター長 情報ネットワーク室長 情報ネットワーク室主任 支線管理者 各課長

(出典：小山高専HP)

資料 11-1-①-3 : 小山工業高等専門学校運営会議規程

小山工業高等専門学校運営会議規程

制 定 昭和56年4月1日

最終改正 平成24年5月16日

(目的)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校の管理運営等に関する事項について審議し、校務の円滑な運営を図るため、小山工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）を置く。

(審議事項)

第2条 運営会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 本校の運営組織の設置・廃止に関する事項
- 二 他の運営組織の所管に属さない事項
- 三 校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項

(組織)

第3条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長（総務主事）、副校長（教務主事）、副校長（学生主事）及び副校長（寮務主事）
- 三 専攻科長
- 四 学科長
- 五 図書情報センター長
- 六 情報科学教育研究センター長
- 七 地域連携共同開発センター長
- 八 ものづくり教育研究センター長
- 九 教育研究技術支援部長
- 十 国際交流推進室長
- 十一 事務部長
- 十二 総務課長及び学生課長

(会議)

第4条 運営会議は、校長が招集し、主宰する。

2 運営会議は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

3 校長が必要と認めたときは、構成員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第5条 運営会議に関する事務は、総務課総務係が処理する。

(出典：小山高専HP)

資料 11-1-①-4 : 小山高専学内会議の改善について

「小山高専学内会議の改善について」

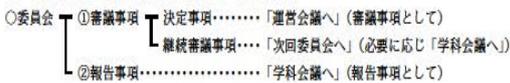
■ 学内会議の在り方と議事報告の改善理由

1. 運営会議(最高議決機関)、委員会・室会議および教職員会議(報告会)の棲み分けの明確化。
2. 各会議の議事報告のオーバーラップの解消。(色々な場で同じ議事内容が報告されている)
3. 各会議の議事報告担当者の明確化。
4. 教職員会議の開催意味の明確化。(H.15年度末の学内組織再編計画時、運営会議にて「教職員会議は必要に応じ開催」と確認されたが、H.16年度は従来と同様「定期開催」となってしまった。)

■ 学内会議の在り方と議事報告について

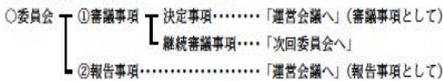
1. 委員会

(1) 各学科長又は各学科代表を構成員とする委員会



「予算委員会」「人事委員会」「教務委員会」「学生委員会」「寮務委員会」「専攻科委員会」「図書館センター運営委員会」「情報科学教育研究センター運営委員会」「地域連携共同開発センター運営委員会」「ものづくり教育研究センター委員会」「安全衛生委員会」「環境整備委員会」
(「レクリエーション委員会」の議題は、全て学科委員が各学科に報告する)

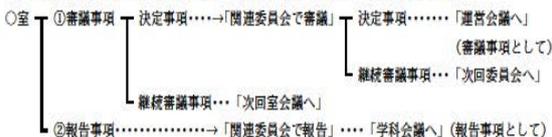
(2) 各学科代表を構成員としない委員会



「国際交流推進室運営委員会」「情報安全管理等委員会」「教育研究推進委員会」

2. 室

(1) 関連委員会のある室(議題は全て「関連委員会」にあげ、審議、報告される)



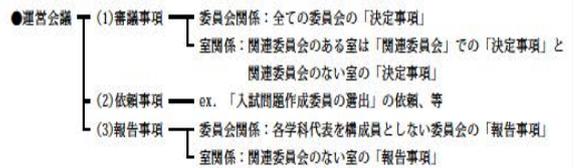
「入学者対策室」「教育改善推進室」「学生支援室」「進路支援室」「キャンパス安全衛生管理室」

(2) 関連委員会のない室



「企画室」

3. 運営会議の議題



4. 各学科への周知について(学科長および学科代表委員の役割)

- (1) 学科長……運営会議(上記(1)(2)(3))について各学科に報告する。
- (2) 学科代表委員……学科代表を構成員とする委員会の会議の「報告事項」および関連委員会のある室会議の「報告事項」について各学科に報告する。

5. 教職員会議

上記4.により全ての会議の情報は各学科に伝わる。従って、今年度からは「確認事項の再度のお願い」、「入試関連の説明会・お願い」、「JABEE関連の説明会・お願い」等、必要に応じ開催する。開催する場合は教職員に前もって連絡する。開催日は年間行事予定表に示す水曜日のいずれかとする。

6. 判定会議……教員全員の出席を求める。

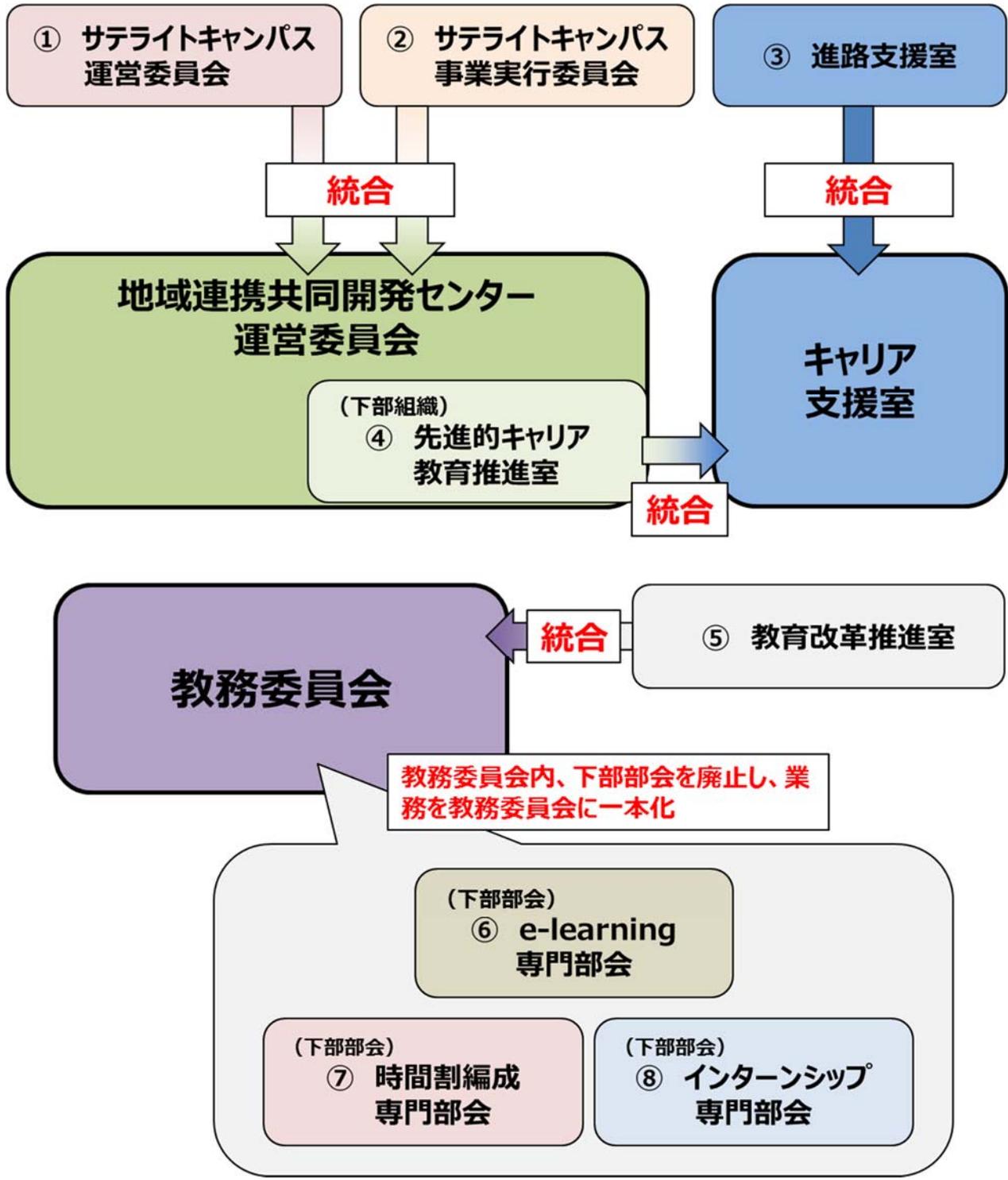
7. 留意事項

- (1) 議題の分類について
各委員会や室において会議の議題を作成する場合、「審議事項」か「報告事項」かを明示する。
- (2) 議事要旨について
委員会等の議事要旨は、審議事項や報告事項に漏れの無いよう細かく項目立てをし、充実を図る。
- (3) 教員・学科意見等の拾い上げ手だてについて
 - ①委員会レベルの意見等(従来と同じ)
委員を通じ関連委員会に意見を出し、必要に応じ委員会の議題として取り上げ、検討する。
 - ②委員会レベルを超える意見等
学科長を通じ運営会議に意見を出し、必要に応じ運営会議の議題として取り上げ、検討する。

(出典：平成18年度運営会議資料)

11-1-①-5 組織再編図

業務改善プログラムにおける組織再編図



(出典：総務課資料)

11-1-①-6 平成25年度小山高専校務分掌一覧表

平成25年度 小山工業高等専門学校校務分掌一覧表

平成25年10月1日現在

◎副校長(主事)

副校長(総務主事)	糸井 康彦
-----------	-------

◎副校長(主事)・主事補

分掌	氏名等	氏名	主事補 (教務・学生・寮務)
副校長(教務主事)	※1	小堀 康功	柴田 洋一 久保 和良 瀧美 太郎 本多 良政
副校長(学生主事)	※2	小林 幸夫	酒入 陽子 田中 孝国 大島 隆一 鈴木 真ノ介
副校長(寮務主事)	※2	川上 勝弥	鹿野 文久 上野 哲 長田 朋樹

◎学科長

学 科	氏 名
一 般 科	三原 大介
	須甲 克也
機 械 工 学 科	鈴木 栄二
電 気 電 子 創 造 工 学 科 (正:電気電子工学棟棟印) (副:電気電子工学棟棟印)	土田 英一
物 質 工 学 科	南 齊 清 巳
建 築 学 科	武 成 祥
	尾立 弘史

(※1印:任期は平成27年3月31日まで ※2印:任期は平成26年3月31日まで)

◎専攻科長・主任

専攻科長	コ ー ス 主 任
亀 山 雅 之	北 條 恵 司
	千 田 正 勝
	平 田 克 己
	西 井 圭
	橋 本 彼 路 子

◎センター長等

図 書 情 報 セ ン タ ー 長	※柴田美由紀
情 報 科 学 教 育 研 究 セ ン タ ー 長	石 原 学
地 域 連 携 共 同 開 発 セ ン タ ー 長	※伊澤 悟
も の づ くり 教 育 研 究 セ ン タ ー 長	※朱 勤
教 育 研 究 技 術 支 援 部 長	※朱 勤
国 際 交 流 推 進 室 長	※武 成 祥

(※印:任期は平成27年3月31日まで)

◎情報科学教育センター員

○山下 進	弘ノ 弥カ
○井手 尾光臣	飯島洋佑
○佐藤 智一	高屋朋彰
○吉広和晃	永峰麻衣子
	阿部弘樹

(◎印:情報ネットワーク室長)
(○印:情報ネットワーク室主任)

◎地域連携共同開発センター員

北 條 恵 司	本多 良政
山 崎 敬 則	永峰麻衣子
田 中 昭 雄	森下佳代子
小 林 康 浩	上 村 孝
笠 原 雅 人	総務課長
飯 島 洋 佑	評価地域連携係長
上 田 誠	技術長
西 井 圭	技術課3グループ長

◎ものづくり教育研究センター員

藤井 敏士	加島 敬太
弘ノ 弥カ	豊川 斎藤
大島 心平	

◎学級担任 (○: 学年主任)

学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科	長田 朋樹	関根 健雄	山下 進	増淵 寿	伊澤 悟
電 気 電 子 創 造 工 学 科	阿部 弘樹				
電 気 電 子 創 造 工 学 科	岡田 崇				
電 気 情 報 工 学 科		有坂 颯二	北野 達也	小林 康浩	山田 靖幸
電 子 制 御 工 学 科		岡田 晃	大島 心平	鹿野 文久	笠原 雅人
物 質 工 学 科	○森下佳代子	須甲 克也	川越 大輔	梅沼 いつみ	酒井 洋
建 築 学 科	上野 哲	○上村 孝	横内 基	堀 昭夫	中山 昌尚

◎企画室

室 長	糸井 康彦
室 員	小堀 康功
"	小林 幸夫
"	川上 勝弥
"	亀山 雅之
"	武 成祥

◎学生支援室

室 長	須甲 克也
室 員	森下佳代子
"	山下 進
"	田中 昭雄
"	鹿野 文久
"	田中 孝国
"	横内 基

◎国際交流推進室

室 長	武 成祥	室 員	川村 壮司
室 員	瀧美 太郎	"	弘ノ 弥カ
"	酒入 陽子	"	市村 智康
"	長田 朋樹	"	永峰 麻衣子
"	西井 圭	"	高屋 朋彰
"	岡田 晃		

◎入学者対策室

室 長	本多 良政
室 員	有坂 颯二
"	山崎 敬則
"	田中 昭雄
"	笠原 雅人
"	田中 孝国

◎キャンパス安全衛生管理室

室 長	大島 隆一
室 員	酒入 陽子
"	山崎 敬則
"	山田 靖幸
"	大島 心平
"	川越 大輔
"	廣田 智子

◎教育改善推進室

室 長	柴田 洋一
室 員	
"	
"	
"	
"	

◎進路支援室

室 長	田中 孝国
室 員	鈴木 真ノ介
"	伊澤 悟
"	山田 靖幸
"	笠原 雅人
"	酒井 洋
"	中山 昌尚
"	西井 圭

◎運営会議

校 長	副校長(総務主事)	副校長(教務主事)	副校長(学生主事)	副校長(寮務主事)
専 攻 科 長	学 科 長 (一 般 科)	学 科 長 (機 械)	学 科 長 (電 気 電 子 創 造)	学 科 長 (物 質)
情 報 セ ン タ ー 長	共 同 セ ン タ ー 長	も の づ くり セ ン タ ー 長	技 術 支 援 部 長	国 際 推 進 室 長
			事 務 部 長	総 務 課 長
				学 生 課 長

◎委員会										
委員会名	委員長	副委員長 主事・補主事・専攻主任等	一般科	機械工学科	電気電子創造工学科 (電気情報工学科) (電子制御工学科)	物質工学科	建築学科	事務部	技 術 室	
予備委員会	糸井康彦	小堀康功	三原 大介	須甲 克也	鈴木 栄二	土田 英一	南斉 清巳	武 成祥	尾立 弘史	事務部長 事務課長
人事委員会	糸井康彦	小堀康功	小林 幸夫、川上 勝弥、三原 大介、須甲 克也、鈴木 栄二、土田 英一、南斉 清巳							事務部長 事務課長
点検評価委員会	糸井康彦	小堀康功	武 成祥、尾立弘史							事務部長 事務課長
自己点検評価委員会	南斉 清巳		小林 幸夫、川上 勝弥、亀山 雅之							事務部長 事務課長
個別指導評価委員会	糸井康彦		各専門委員会委員長(自己点検、機関別、JABEE)							事務部長 事務課長
JABEE専門委員会	亀山 雅之		三原 大介	北條 恵司	土田 英一	南斉 清巳	武 成祥	尾立 弘史		事務部長 事務課長
教育研究推進委員会	糸井康彦	小堀康功	三原 大介							
発明委員会	伊澤 悟	朱 勤	森下佳代子、北條恵司、鈴木真ノ介、平田克己、飯島道弘、佐藤篤史							
広報委員会	伊澤 悟	朱 勤	長田 朋樹	川村 壮司	小林 康浩	鹿野 文久	飯島 道弘	永峰 麻衣子		事務部長 事務課長
学校ホームページ運営専門部会	大島 隆一		大島 隆一、朱 勤							
学校ホームページ技術専門部会	大島 隆一		大島 隆一、平田 克己、井手尾 光臣、佐藤 智一							井手尾 光臣 事務部長 事務課長
環境整備委員会	糸井康彦	小林 幸夫	長田 朋樹	那須 裕規	甲斐 隆章	鹿野 文久	酒 井 洋	豊川 斎赫		事務部長 事務課長 学生課長
情報安全管理等委員会	校 長	石原学(情報) 山下進(情報)	支線管理者(各科・課より1名)	阿部弘樹、山崎敬則、ヤマノラケ、飯島洋祐、高屋朋彰、永峰麻衣子						事務部長 事務課長 学生課長
ハラスメント防止委員会	糸井康彦		小堀 康功、小林 幸夫、川上 勝弥、亀山 雅之、須甲 克也							事務部長
教務委員会	小堀康功	増淵 寿	三原 大介	増淵 寿	土田 英一	笠原 雅人	飯島 道弘	佐藤 篤史		学生課長
学科間連携教育専門部会	小堀康功	渥美 太郎	柴田 洋一	伊澤 悟	千田 正勝	大島 心平	菅沼 いづみ	中山 昌尚		
時間割編成専門部会	久保 和良		有坂 頭二	山崎 敬則	千田 正勝	笠原 雅人	渥美 太郎	豊川 斎赫		
e-learning専門部会	柴田 洋一		森下 佳代子	山崎 敬則	千田 正勝	笠原 雅人	渥美 太郎	豊川 斎赫		
「インターシッフ」専門部会	渥美 太郎	北條 恵司 鈴木 真ノ介	岡田 晃	増淵 寿	今成 一雄	大島 心平	高屋 朋彰	大島 隆一	井手尾 光臣	
学生委員会	小林 幸夫	有坂 頭二 酒入 陽子、田中 昭雄、大庭 一、鈴木 真ノ介	岡田 晃	山崎 敬則	山田 晴幸	大島 心平	川 越 大輔	横内 基		学生課長
奈務委員会	川上 勝弥	鹿野 文久 上野 哲 長田 朋樹	那須 裕規	北野 達也	鹿野 文久	菅沼 いづみ	堀 昭夫			学生課長
専攻科委員会	亀山 雅之		専攻科担当職員 小笠原 健	コース主任 北條 恵司	コース主任 千田 正勝	コース主任 平田 克己	コース主任 西井 圭	コース主任 橋本 彼路子		学生課長
図書情報センター運営委員会	柴田 美由紀		有坂 夏菜子 中川 英則	田中 好一	今成 一雄	渡邊 達男	加島 敬太	中山 昌尚		事務部長 事務課長
情報科学教育研究センター運営委員会	石原 学	(情報ネットワーク) 山下 進	阿部 弘樹	山下 進	ヤマノラケ	飯島 洋祐	高屋 朋彰	永峰 麻衣子		事務部長 事務課長 学生課長
地域連携共同開発センター運営委員会	伊澤 悟	(産) 大島 隆一 (研) 上田 誠 (教) 平田 克己	森下 佳代子	山崎 敬則	田中 昭雄	飯島 洋祐	上田 誠	永峰 麻衣子		事務部長 事務課長 学生課長
先進的海外教育推進室	(室長) 伊澤 悟		上田 誠、渥美 太郎、田中 孝国、北條 恵司、増淵 寿、小林 康浩、鹿野 文久、菅沼 いづみ、豊川 斎赫							事務部長 学生課長
ものづくり教育研究センター運営委員会	朱 勤		奥山 優、田野 賢司、大森 武男、八木 仁、乾 晃							学生課長 出川 達志 矢島 直樹
教育研究技術支援部運営委員会	朱 勤	高屋 朋彰 上田 誠 ヤマノラケ	柴田 洋一	山崎 敬則	田中 昭雄	飯島 洋祐	川 越 大輔	橋本 彼路子		出川 達志 矢島 直樹 井手尾 光臣
国際交流推進委員会	武 成祥		糸井 康彦、小堀 康功、小林 幸夫、川上 勝弥、亀山 雅之							事務部長 事務課長
レクリエーション委員会	糸井康彦	大島 心平 古谷 渉	岡田 晃	加藤 岳仁	ヤマノラケ	大島 心平	糸井 康彦	永峰 麻衣子		山 越 英樹 荒 牧 卓 堀 古
安全衛生委員会	校 長	上田 誠	小笠原 健	加藤 岳仁	甲斐 隆章	渡邊 達男	上田 誠	豊川 斎赫		事務部長 衛生管理者 産 業 医 施設 係 長 出川 達志
サファイト・キャンパス運営委員会	校 長		糸井 康彦、小堀 康功、小林 幸夫、川上 勝弥、亀山 雅之、伊澤 悟、大島 隆一							事務部長 事務課長
サファイト・キャンパス事業実行委員会	糸井康彦		(教務主事補) 大島 隆一、伊澤 悟、田中 昭雄、平田 克己、飯島 道弘、(一般科)							事務部長 事務課長

※ 地域連携共同開発センター運営委員会欄の(産)は産学官連携部門長を、(研)は研究開発部門長を、(教)は教育文化活動支援部門長を示す。

(出典：総務課人事係資料)

11-1-①-7 平成26年度小山高専校務分掌一覧表

平成26年度 小山工業高等専門学校校務分掌一覧表

平成26年5月19日現在

◎副校長(主事)・主事補

副校長(総務主事)	小林幸夫	総務主事補	小堀康功
-----------	------	-------	------

◎副校長(主事)・主事補

分掌	氏名	主事補
副校長(教務主事)	※1	柴田洋一
		本多良政
	土田英一	岡田 晃
		平田克己
		田中孝国
副校長(学生主事)	※2	鈴木真ノ介
	須甲克也	横内 基
		関根健雄
副校長(寮務主事)	※2	鹿野文久
	川上勝弥	上野 哲
		長田朋樹

(※1:任期はH27.3.31まで ※2:任期はH28.3.31まで)

◎専攻科長・主任

専攻科長	コース主任
亀山雅之	鈴木栄二
	今成一雄
	市村智康
	上田 誠
	橋本彼路子

◎学科長

学科	氏名
一般科	三原大介
	有坂顕二
機械工学科	田中好一
電気電子創造工学科	石原 学
副:電気情報工学科長	渡邊達男
正:電子制御工学科長	亀山雅之
物質工学科	中山昌尚
建築学科	

◎センター長等

図書情報センター長	柴田美由紀
情報科学教育研究センター長	※石原 学
地域連携共同開発センター長	伊澤 悟
ものづくり教育研究センター長	朱 勤
教育研究技術支援部長	朱 勤
国際交流推進室長	武 成祥

(※印:任期はH28. 3. 31まで)

◎情報科学教育研究センター員

◎田中昭雄	山下 進
○井手尾光臣	サム アン フォック
○佐藤智一	久保和良
○吉広和晃	加島敬太
小笠原健	永峰麻衣子

(◎印:情報ネットワーク室長)

(○印:情報ネットワーク室主任)

◎地域連携共同開発センター員

北條恵司	本多良政
加藤岳仁	尾立弘史
田中昭雄	上村 孝
小林康浩	森下佳代子
平田克己	総務課長
大島心平	群馬地域連携課長
糸井康彦	技術長
上田 誠	技術室第3G長

◎ものづくり教育研究センター員

藤井敬士	羽切正英
サム アン フォック	尾立弘史
大島心平	

◎学級担任(○:学年主任)

学年	1年	2年	3年	4年	5年
学科名					
機械工学科	○中川英則	長田朋樹	那須裕規	山下 進	増淵 寿
電気電子創造工学科(L)	三柴壽範	杉山桂子			
電気電子創造工学科(R)	小笠原健	岡田 崇			
電気情報工学科			田中昭雄	北野達也	小林康浩
電子制御工学科			飯島洋祐	大島心平	鹿野文久
物質工学科	上村 孝	○森下佳代子	西井 圭	川越大輔	笹沼いつみ
建築学科	有坂夏菜子	上野 哲	大島隆一	佐藤篤史	堀 昭夫

◎企画室

室 長	小林幸夫
室 員	土田英一
〃	須甲克也
〃	川上勝弥
〃	亀山雅之
〃	武 成祥
〃	伊澤 悟

◎学生支援室

室 長	山下 進
室 員	森下佳代子
〃	関根健雄
〃	加藤岳仁
〃	田中昭雄
〃	鹿野文久
〃	糸井康彦
〃	大島隆一

◎国際交流推進室

室 長	武 成祥
室 員	岡田 晃
〃	関根健雄
〃	長田朋樹
〃	今成一雄
〃	川村壮司
〃	永峰麻衣子
〃	飯島洋祐
〃	高屋朋彰

◎入学対策室

室 長	本多良政
室 員	酒入陽子
〃	北條恵司
〃	田中昭雄
〃	平田克己
〃	高屋朋彰

◎キャンパス安全衛生管理室

室 長	横内 基
室 員	三柴壽範
〃	川村壮司
〃	小林康浩
〃	大島心平
〃	川越大輔
〃	廣田智子

◎キャリア支援室

室 長	鈴木真ノ介
室 員	亀山雅之
〃	伊澤 悟
〃	田中孝国
〃	平田克己

◎運営会議

校長	◎校長(総務主事)	副校長(教務主事)	副校長(学生主事)	◎校長(寮務主事)			
専攻科長	一般科長	機械工学科長	電気電子創造工学科長	物質工学科長	建築学科長	図書センター長	
情報センター長	共同センター長	ものづくりセンター長	技術支援部長	国際推進室長	事務部長	総務課長	学生課長

委員会名	委員長	副校長、主事補、専攻主任等	一般科	機械工学科	電気電子創造工学科		物質工学科	建築学科	事務部 技術室
					電気情報工学科	電子制御工学科			
予算委員会	小林幸夫	土田英一	三原大介 有坂頼二	田中好一	石原 学	渡邊達男	龜山雅之	中山昌尚	事務部長 総務課長
人事委員会	小林幸夫	土田英一	須甲克也、川上勝弥、三原大介、有坂頼二、田中好一、石原 学 渡邊達男、龜山雅之、中山昌尚					事務部長 総務課長	
点検評価委員会	小林幸夫	土田英一	須甲克也、川上勝弥、龜山雅之 各専門委員会委員長(自己点検、機関別、JABEE)					事務部長 総務課長・学生課長	
	自己点検評価専門委員会	南斉清巳	三原大介	田中好一	石原 学	南斉清巳	龜山雅之	中山昌尚	総務課長・学生課長
	機関別認証評価専門委員会	土田英一	三原・有坂(願)	田中好一	石原 学	渡邊達男	龜山雅之	中山昌尚	
JABEE専門委員会	石原 学		上野 哲	北條恵司	山田靖幸	市村智康	酒井 洋	永峰麻衣子	
教育研究推進委員会	小林幸夫	土田英一	森下佳代子、加藤岳仁、鈴木真ノ介、平田克己、飯島道弘、横内 基						
発明委員会	伊澤 悟	朱 勤	佐藤 巖	川村壮司	木村知彦	小堀康功	飯島道弘	尾立弘史	総務課長
広報委員会	小林幸夫		土田英一、須甲克也、川上勝弥、伊澤 悟、石原 学					事務部長	
	学校ホームページ運営専門部会	大島隆一	大島隆一、石原 学						
	学校ホームページ技術専門部会	大島隆一	平田克己					井手尾・佐藤	
環境整備委員会	小林幸夫	須甲克也	長田朋樹	那須裕規	甲斐隆章	鹿野文久	笹沼いづみ	豊川斎赫	事務部長 総務課長・学生課長
情報安全管理等委員会	校 長	石原(情セ長) 田中昭雄(情ネ長)	(支線管理者:各科・課より1名) 小笠原健 朱 勤 サムアンラホック 久保和良 加島敬太 永峰麻衣子					井手尾・佐藤・吉広 古郷・(吉広)・山口	
ハラスメント防止委員会	小林幸夫		土田英一、須甲克也、川上勝弥、龜山雅之、山下 進					事務部長	
教務委員会	土田英一	柴田(洋)・本多 岡田晃・平田	中川英則 杉山桂子	増淵 寿	千田正勝	笠原雅人	飯島道弘	豊川斎赫	学生課長
	学科間連携専門部会	土田英一	柴田洋一	伊澤 悟	千田正勝	笠原雅人	瀧美太郎	尾立弘史	
学生委員会	須甲克也	田中(孝)・鈴木(真) 横内・関根	岡田 崇 三柴善範	川村壮司	小林康浩	大島心平	川越大輔	佐藤篤史	学生課長
寮務委員会	川上勝弥	鹿野・上野 長田	上村 孝 上野 哲	北條恵司	北野達也	鹿野文久	西井 圭	大島隆一	学生課長
専攻科委員会	龜山雅之		専攻科担当教員 山西敏博	コース主任 鈴木栄二	コース主任 今成一雄	コース主任 市村智康	コース主任 上田 誠	コース主任 橋本彼路子	学生課長
図書情報センター運営委員会	柴田美由紀		有坂夏菜子 酒入陽子	朱 勤	山田靖幸	南斉清巳	瀧美太郎	尾立弘史	総務課長
情報科学教育研究センター 運営委員会	石原 学	(情報ネットワーク室長) 田中昭雄	小笠原健	山下 進	サムアンラホック	久保和良	加島敬太	永峰麻衣子	学生課長・出川 井手尾・佐藤
地域連携共同 開発センター 運営委員会	伊澤 悟	(産)大島隆一 (研)上田 誠 (教)糸井康彦	森下佳代子	北條恵司	田中昭雄	平田克己	上田 誠	尾立弘史	総務課長 出川強志 第3グループ長
ものづくり教育研究センター 運営委員会	朱 勤		佐藤 巖	藤井敬士	サムアンラホック	大島心平	羽切正英	尾立弘史	学生課長 出川・矢島
教育研究 技術支援部 運営委員会	朱 勤	サム アン ラホック 上田 誠 佐藤 巖	柴田洋一	藤井敬士	木村知彦	南斉清巳	羽切正英	橋本彼路子	出川強志 矢島直樹 井手尾光臣
国際交流推進室運営委員会	武 成祥		小林幸夫、土田英一、須甲克也、川上勝弥、龜山雅之					総務課長・学生課長	
レクリエーション委員会	糸井康彦	大島 心平 家安 知沙	山西敏博	加藤岳仁	サムアンラホック	大島心平	糸井康彦	永峰麻衣子	比毛・家安 尾畑・井手尾
安全衛生委員会	校 長	上田 誠	山西敏博	加藤岳仁	木村知彦	飯島洋祐	上田 誠	横内 基	総務課長・衛生管理者 産業医・施設係長・羽鳥

(出典：総務課人事係資料)

資料 11-1-②-1 : 小山工業高等専門学校学内規程集 (1 / 2)

小山工業高等専門学校学内規程集

第1章 学 則

- 小山工業高等専門学校学則

第2章 組 織・運 営

- 副校長及び学科長に関する規程
- 小山工業高等専門学校事務組織規程
- 小山工業高等専門学校総務会議規程
- 小山工業高等専門学校運営会議規程
- 小山工業高等専門学校専攻科運営規則
- 小山工業高等専門学校判定会議規程
- 小山工業高等専門学校教職員会議規則
- 小山工業高等専門学校企画室規則
- 小山工業高等専門学校入学者対策室規程
- 小山工業高等専門学校教育改善推進室規程
- 小山工業高等専門学校進路支援室規程
- 小山工業高等専門学校学生支援室規則
- 小山工業高等専門学校キャンパス安全管理室規程
- 小山工業高等専門学校教育研究技術支援部規則
- 小山工業高等専門学校技術室規程
- 小山工業高等専門学校国際交流推進室規則
- 小山工業高等専門学校参与会規程
- 小山工業高等専門学校広報規程
- 小山工業高等専門学校サテライト・キャンパス運営委員会規程
- 小山工業高等専門学校の共催又は後援の名義使用の取扱いについて
- 小山工業高等専門学校サテライト・キャンパス使用要領
- 小山工業高等専門学校危機管理要領

第3章 委 員 会

- 小山工業高等専門学校教務委員会規程
- 小山工業高等専門学校学生委員会規程
- 小山工業高等専門学校寮務委員会規程
- 小山工業高等専門学校専攻科委員会規則
- 小山工業高等専門学校図書情報センター運営委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校教育研究技術支援部運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校環境整備委員会規程
- 小山工業高等専門学校国際交流推進室運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校安全衛生委員会規則
- 小山工業高等専門学校人事委員会規程
- 小山工業高等専門学校予算委員会規程
- 小山工業高等専門学校教育研究推進委員会規程
- 小山工業高等専門学校発明委員会規程
- 小山工業高等専門学校 JABEE 専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報安全管理等委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報公開委員会規程
- 小山工業高等専門学校外部評価委員会規程
- 小山工業高等専門学校点検評価委員会規程
- 小山工業高等専門学校自己点検評価専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校機関別認証評価専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校施設の有効活用に関する専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校組換えDNA実験安全委員会規則

第4章 総 務・人 事

- 小山工業高等専門学校文書取扱規程
- 小山工業高等専門学校法人文書管理規程
- 小山工業高等専門学校情報公開取扱要項
- 小山工業高等専門学校公印規則
- 小山工業高等専門学校教職員服務規程
- 小山工業高等専門学校に労働する教職員の休日及び労働時間の割振り等に関する規程
- 小山工業高等専門学校教員選考規則
- 小山工業高等専門学校安全衛生管理規程
- 小山工業高等専門学校におけるセクシュアル・ハラスメントの防止に関する規則
- 小山工業高等専門学校教員選考委員会規程
- 小山工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
- 小山工業高等専門学校点検評価規程
- 小山工業高等専門学校における民間等との共同研究取扱規程
- 小山工業高等専門学校受託研究取扱規程
- 小山工業高等専門学校受託試験取扱規程
- 小山工業高等専門学校発明規程
- 小山工業高等専門学校組換えDNA実験安全管理規程

資料 11-1-②-1 : 小山工業高等専門学校学内規程集 (2 / 2)

第5章 財 務

- 小山工業高等専門学校会計機関の補助者の指定に関する規程
- 小山工業高等専門学校契約事務処理基準
- 小山工業高等専門学校寄附金取扱規程
- 小山工業高等専門学校所属不動産管理規則
- 小山工業高等専門学校施設使用規則
- 小山工業高等専門学校防災管理規程
- 小山工業高等専門学校自衛消防隊組織要領
- 小山工業高等専門学校事務情報化推進要項
- 小山工業高等専門学校事務用電子計算機業務処理要項
- 小山工業高等専門学校エックス線障害防止管理規程
- 小山工業高等専門学校放射線障害予防に関する規程
- 小山工業高等専門学校毒物及び劇物取扱要項
- 小山工業高等専門学校施設の有効活用に関する要項
- 小山工業高等専門学校排水管理要項
- 小山工業高等専門学校科学研究費補助金経理事務取扱規程

第6章 教 務・学 生

- 小山工業高等専門学校学生準則
- 小山工業高等専門学校外国人留学生規程
- 小山工業高等専門学校研究生規程
- 小山工業高等専門学校聴講生規程
- 小山工業高等専門学校特別聴講学生規程
- 小山工業高等専門学校科目等履修生規程
- 学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程
- 学業に関する取扱要項
- 小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 資格取得に係わる単位認定に関する規程
- 小山工業高等専門学校インターンシップに係わる単位認定に関する規程
- 小山工業高等専門学校実務研修要項
- 大学、他高専における履修に係わる単位認定に関する規程
- 小山工業高等専門学校留学規則
- 小山工業高等専門学校入学料の免除等に関する規程
- 小山工業高等専門学校授業料免除及び徴収猶予に関する規程
- 小山工業高等専門学校体育施設運営規則
- 小山工業高等専門学校体育施設使用手続要領
- 小山工業高等専門学校合宿研修施設使用規程
- 自動車による通学に関する規則

第7章 学 寮

- 小山工業高等専門学校学寮規則
- 小山工業高等専門学校教員学寮宿日直規程
- 小山工業高等専門学校学寮宿日直教員勤務要領
- 学寮防災避難要領
- 小山工業高等専門学校寄送料免除に関する規程

第8章 図書情報センター

- 小山工業高等専門学校図書情報センター規程
- 小山工業高等専門学校図書情報センター一般開放実施要項
- 小山工業高等専門学校研究紀要投稿要項

第9章 情報センター・ものづくりセンター・共同センター

- 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則
- 小山工業高等専門学校情報ネットワーク室運営細則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営規則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター利用規程
- 小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター規則
- 小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター利用規程

第10章 学 友 会・寮 生 会

- 小山工業高等専門学校学生会規約
- 小山工業高等専門学校学生会本部室使用細則
- 小山工業高等専門学校寮生会規約

(出典：小山高専HP)

資料 11-1-②-2 : 小山高専学内規程集 (Web ページ)

独立行政法人 国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校

小山高専

▷ トップページ

▷ デザコン2012 in 小山

▷ 最新情報
▷ 受験主の方へ
▷ 地域、企業の方へ
▷ 学生、保護者の方へ
▷ 卒業主の方へ

検索...

小山工業高等専門学校 学内規程集

小山高専規程集(H24.5.16現在)

小山工業高等専門学校学内規程集

第1章 学 則

- 00 [小山工業高等専門学校学則](#)

第2章 組織・運営

- 00 [副校長及び学科長に関する規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校事務組織規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校校務会議規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校運営会議規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校専攻科運営規則](#)
- 00 [小山工業高等専門学校判定会議規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校教職員会議規則](#)
- 00 [小山工業高等専門学校企画規則](#)
- 00 [小山工業高等専門学校入学定対策規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校教育改善推進規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校進路支援規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校学生支援規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校キャンパス安全管理規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校教育研究技術支援部規則](#)
- 00 [小山工業高等専門学校技術規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校国際交流推進規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校参与会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校広報規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校サテライト・キャンパス運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校の共催又は後援の名義使用の取扱いについて](#)
- 00 [小山工業高等専門学校サテライト・キャンパス使用要綱](#)
- 00 [小山工業高等専門学校危機管理要綱](#)

第3章 委員会

- 00 [小山工業高等専門学校教務委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校学生委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校庶務委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校専攻科委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校図書館情報センター運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校地域連携共同開発センター運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校教育研究技術支援部運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校環境整備委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校国際交流推進委運営委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校安全衛生委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校入事委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校予備委員会規程](#)
- 00 [小山工業高等専門学校教育研究推進委員会規程](#)

(出典：小山高専HP)

資料 11-1-②-3 : 小山工業高等専門学校事務組織規程 (既出 : 3-3-①-1) (1 / 3)

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和40年4月1日
最終改正 平成23年4月1日

第1章 総則

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構法(平成15年10月1日制定)第12条及び小山工業高等専門学校学則(昭和40年4月1日制定)第11条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第2章 事務組織

第2条 事務部に総務課、学生課を置く。

第3条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、評価・地域連携係、財務係、用度係及び施設係を置く。

第4条 学生課に教務係、学生係及び寮務係を置く。

第5条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第6条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第6条の2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第6条の3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第7条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第3章 事務分掌

第8条 総務課課長補佐(総務担当)は、次の事務をつかさどる。

一 総務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 中期計画・年度計画及び組織整備に関すること。

三 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課課長補佐(財務担当)は、次の事務をつかさどる。

一 財務関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 収支予算計画に関すること。

三 基準額以上の監査、内部監査・外部監査に関すること。

4 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

3 総務課課長補佐(施設担当)は、次の事務をつかさどる。

一 施設関係事務の総括、連絡調整及び業務改善に関すること。

二 施設の計画及び整備の総括に関すること。

三 その他施設関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

4 総務係においては、次の事務をつかさどる。

一 学則その他諸規程の制定改廃に関すること。

二 儀式及び他の係に属さない諸行事に関すること。

三 公印(財務関係及び学生課の公印を除く。)の管守に関すること。

四 会議に関すること。

五 公文書の收受、発送に関すること。

六 文書及び諸規則等の整理保存に関すること。

七 日誌及び沿革史等の記録に関すること。

八 秘書事務に関すること。

九 渉外に関すること。

十 電話交換その他電話の取扱いに関すること。

十一 情報公開に関すること。

十二 個人情報の保護に関すること。

十三 事務が保有する電子ファイルの管理及び運用に関すること。

十四 広報に関すること。

十五 教職員の海外渡航に関すること。

十六 校内の警備に関すること。

十七 遺伝子組み換えDNAに関すること。

十八 総務担当職員及び教員の労働時間、休暇及び出張に関すること。

一九 国際交流推進室(学生課の所掌に属するものを除く。)に関すること。

二十 内地研究員並びに在外研究員及び国際化推進プログラムに関すること。

二十一 公開講座に係る業務の支援及び連絡調整(評価・地域連携係の所掌に属するものを除く。)に関すること。

二十二 情報安全管理等委員会に関すること。

二十三 所掌事務に係る調査統計とその他諸報告に関すること。

二十四 その他他の課の所掌に属さない事務を処理すること。

5 人事係においては、次の事務をつかさどる。

一 教職員の任免、分限、懲戒及び服務に関すること。

二 教職員の給与に関すること。

三 教職員の定員及び級別定数に関すること。

四 教職員の勤務評定に関すること。

五 教職員の栄典及び表彰に関すること。

六 教職員の団体に関すること。

七 教職員の研修に関すること。

八 教職員の退職手当に関すること。

九 教職員の共済組合に関すること。

十 教職員の災害補償に関すること。

資料 11-1-②-3：小山工業高等専門学校事務組織規程（既出：3-3-①-1）（2／3）

- 十一 教職員の人事記録に関すること。
- 十二 非常勤教職員の任免、服務及び給与に関すること。
- 十三 教職員宿舍の居住者選考に関すること。
- 十四 財産形成貯蓄の事務に関すること。
- 十五 教職員の衛生管理に関すること。
- 十六 産業医に関すること。
- 十七 教職員就業規則及び非常勤職員就業規則に関すること。
- 十八 総務担当職員及び教員の労働時間の補助業務に関すること。
- 十九 教職員の身分証明等に関すること。
- 二十 人事委員会に関すること。
- 二十一 安全衛生委員会に関すること。
- 二十二 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
- 二十三 レクリエーション委員会及び教職員の福利厚生に関すること。
- 二十四 その他人事に関すること。
- 6 図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 図書館資料（以下「図書」という。）の選択及び収集に関すること。
 - 二 図書の契約及び支払決議に関すること。
 - 三 図書の分類、目録作成・編成及び装備、配架並びに整理に関すること。
 - 四 図書の受贈、交換及び除籍等に関すること。
 - 五 図書の閲覧、貸出及び保管に関すること。
 - 六 文献の相互利用、複写及び参考調査に関すること。
 - 七 研究紀要に関すること。
 - 八 著作権に関すること。
 - 九 図書情報センター運営委員会に関すること。
 - 十 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十一 その他図書情報に関すること。
- 7 評価・地域連携係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 点検評価委員会、各種評価及び審査に関すること。
 - 二 科学研究費補助金及び各種法人等の補助金に関すること。
 - 三 民間等との共同開発、技術相談、共同研究、受託研究、受託試験の受入及び技術発表会等の産学連携事業に関すること。
 - 四 発明及び知的財産に関すること。
 - 五 地域連携に係る業務の支援及び連絡調整に関すること。
 - 六 公開講座及び生涯学習に関する企画及び立案（総務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
 - 七 生涯学習に関する企画、立案及び連絡調整に関すること。
 - 八 教育研究推進委員会に関すること。
 - 九 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十 その他評価・地域連携に関すること。
- 8 財務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 予算管理及び決算に関すること。
 - 二 財務関係規程等に関すること。
 - 三 監査に関すること。
 - 四 安全管理に関すること。
 - 五 防災に関すること。
 - 六 自動車の維持管理及び運行に関すること。
 - 七 寄附金に関すること。
 - 八 財務担当職員の労働時間、休暇及び出張に関すること。
 - 九 予算委員会に関すること。
 - 十 財務会計システムに関すること。
 - 十一 債権の管理に関すること。
 - 十二 収入及び支出に関すること。
 - 十三 給与、旅費及び謝金の支払決議に関すること。
 - 十四 所得税及び住民税等の徴収に関すること。
 - 十五 寄附金、民間等との共同研究費、受託研究費、受託事業費、科学研究費補助金及び各種法人等の補助金の収支に関すること。
 - 十六 日本スポーツ振興センターの収支に関すること。
 - 十七 事務情報に関する調査・計画及び啓発に関すること。
 - 十八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十九 その他他の係の所掌に属さない財務関係事務に関すること。
- 9 用度係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 物品管理の総括調整に関すること。
 - 二 物件（図書及び営繕関係を除く。）の契約及び支払決議に関すること。
 - 三 物品の調達、出納、保管及び処分に関すること。
 - 四 物品の修理に関すること。
 - 五 電気、水道、ガス及び電話の料金に関すること。
 - 六 構内及び建物等の清掃に関すること。
 - 七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 八 その他用度に関すること。
- 10 施設係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 不動産の管理及び処分に関すること。
 - 二 営繕工事の企画、立案に関すること。
 - 三 営繕工事の予算資料作成に関すること。
 - 四 施設の計画及び整備に関すること。
 - 五 営繕工事の設計及び工事費の積算に関すること。

資料 11-1-②-3：小山工業高等専門学校事務組織規程（既出：3-3-①-1）（3／3）

- 六 営繕関係の契約及び支払決議に関する事。
 - 七 工事等に係る入札参加者選定に関する事。
 - 八 営繕工事の施工監督に関する事。
 - 九 土地、建物及び附帯施設の維持保存に関する事。
 - 十 教職員宿舎に関する事。
 - 十一 暖房用ボイラーの業務に関する事。
 - 十二 省資源、省エネルギーに関する事。
 - 十三 環境整備委員会に関する事。
 - 十四 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十五 その他施設に関する事。
- 第9条 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。
- 一 学生課事務の総括、連絡調整及び業務改善に関する事。
 - 二 専攻科の教育課程に関する事。
 - 三 専攻科生の入学、休学、復学、転学、退学及び修了に関する事。
 - 四 専攻科の授業及び試験に関する事。
 - 五 専攻科教育の実施状況等の審査に関する事。
 - 六 専攻科委員会に関する事。
 - 七 後援会に関する事。
 - 八 その他学生課所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関する事。
- 2 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 本科の教育課程に関する事。
 - 二 本科生の入学、休学、復学、転学、退学及び卒業に関する事。
 - 三 本科の授業及び試験に関する事。
 - 四 指導要録に関する事。
 - 五 在学成績及び卒業等の証明に関する事。
 - 六 教科書及び教材に関する事。
 - 七 学生の校外研修及び専門研修に関する事。
 - 八 インターンシップに関する事。
 - 九 外国人留学生の受入及び教育に関する事。
 - 十 研究生及び聴講生に関する事。
 - 十一 外部からの学生支援に関する事。
 - 十二 教育改革の支援プログラムに関する事。
 - 十三 J A B E E の審査に関する事。
 - 十四 学生課職員及び非常勤講師の労働時間、休暇及び出張に関する事。
 - 十五 教務委員会に関する事。
 - 十六 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十七 その他他の係の所掌に属さない事務に関する事。
- 3 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関する事。
 - 二 外国人留学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関する事。
 - 三 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関する事。
 - 四 学生の諸願届に関する事。
 - 五 学生の集会、行事及び掲示に関する事。
 - 六 学生の奨学資金に関する事。
 - 七 入学料、授業料及び寄宿料の減免並びに徴収猶予に関する事。
 - 八 学生の健康管理及び安全保持に関する事。
 - 九 日本スポーツ振興センターに関する事。
 - 十 学生の団体活動、オリエンテーション、課外活動及び諸行事に関する事。
 - 十一 学生の進路に関する事。
 - 十二 学生食堂の管理運営に関する事。
 - 十三 学生の賞罰に関する事。
 - 十四 カウンセラーの労働時間に関する事。
 - 十五 教員の労働時間の補助業務に関する事。
 - 十六 学生委員会に関する事。
 - 十七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十八 その他学生の厚生補導に関する事。
- 4 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 寄宿舎の管理運営に関する事。
 - 二 寄宿舎の諸経費に係る経理に関する事。
 - 三 入寮及び退寮に関する事。
 - 四 学寮における学生の厚生補導に関する事。
 - 五 学寮における外国人留学生の厚生補導に関する事。
 - 六 寮生の栄養指導及び衛生に関する事。
 - 七 教員の宿日直に関する事。
 - 八 寮務委員会に関する事。
 - 九 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十 その他寄宿舎に関する事。

附則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

（出典：小山高専HP）

資料 11-1-②-4 : 事務職員・技術職員の人事交流状況

事務職員・技術職員の人事交流状況

年度	転出者数	受入者数
平成 19 年度	宇都宮大学 1 名	宇都宮大学 3 名
平成 20 年度	宇都宮大学 4 名 群馬大学 1 名	宇都宮大学 3 名 筑波大学 1 名
平成 21 年度	宇都宮大学 1 名 東京農工大学 1 名	宇都宮大学 1 名
平成 22 年度	宇都宮大学 3 名	宇都宮大学 3 名
平成 23 年度	宇都宮大学 2 名 筑波大学 1 名	筑波大学 1 名
平成 24 年度	宇都宮大学 1 名	宇都宮大学 1 名
平成 25 年度	宇都宮大学 2 名 筑波大学 1 名	宇都宮大学 2 名 筑波大学 1 名

(出典：総務課人事係資料)

資料 11-1-②-5 : 小山工業高等専門学校危機管理要領 (1 / 2)

小山高等専門学校危機管理要領

(目的)

第 1 条 この要領は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に迅速かつ的確に対処するため、本校における危機管理体制、対処方法等を定めることにより、本校の学生、教職員（非常勤教職員を含む。以下同じ）、保護者及び地域（以下「学生等」という。）の安全確保を図るとともに、本校の社会的な責任を果たすことを目的とする。

(危機管理の対象)

第 2 条 前条の目的を達成するため、この要領に定める危機管理の対象とする事象（以下「危機事象」という。）とは、本校として組織的・集中的に対処することが必要な次の各号の一に該当するものとする。

- 一 学生等の安全に係わる重大な事態
- 二 教育研究活動等の遂行に支障となる重大な事態
- 三 本校に対する社会的信頼を損なう事態
- 四 施設管理上の重大な事態
- 五 その他前各号に類する重大な事態

(危機管理のための校長等の責務)

第 3 条 校長は、本校における危機管理を統括する責任者であり、全学的な危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。

- 2 副校長及び事務部長は、校長を補佐し、全学的な危機管理の推進に努めなければならない。
- 3 一般科長、各学科長、専攻科長、各センター長は、当該一般科、各学科、専攻科、各センター（以下「学科等」という。）における危機管理責任者であり、当該学科等の危機管理を推進するとともに、必要な措置を講じなければならない。
- 4 教職員は、常に危機管理意識をもって、その職務の遂行に当たるものとする。

(リスク管理室の設置)

第 4 条 校長の下にリスク管理室を設置する。

- 2 リスク管理室は、本校の危機管理に関して総括し、危機管理体制の充実に努め、校長の指揮の下に、対処に必要な危機管理に当たるものとする。
- 3 リスク管理室の構成は、次のとおりとする。

- 一 校長
- 二 副校長（総務主事、教務主事、学生主事、寮務主事）及び専攻科長
- 三 事務部長
- 四 総務課長及び学生課長
- 五 その他校長が指名する者

4 前項第二号から第五号に掲げる者をリスク管理員とする。

5 リスク管理室に室長を置き、校長をもって充てる。

6 リスク管理室に室長を補佐するために副室長を置き、副校長（総務主事）をもって充てる。

7 リスク管理室の事務は、総務課総務係が処理する。

(リスク管理室の業務等)

第 5 条 リスク管理室は、次に掲げる業務を行うものとする。

- 一 想定される危機事象に関する情報（校内外の動向等を含む。）の収集及び分析
- 二 想定される危機事象の具体的な検討、対応策の立案
- 三 対策本部の組織体制及び活動内容等の策定
- 四 危機管理ガイドライン及びマニュアル等の策定・見直し及び周知
- 五 緊急時における情報伝達体制の整備及び周知
- 六 学生等に対する適切な情報提供
- 七 教職員及び学生への教育・研修・訓練等に係る企画・立案・実施
- 八 危機管理に関する高専機構リスク管理本部との相互連携
- 九 その他危機管理に係る必要な事項の実施

2 リスク管理室は、法令及び関係する本校規則等に従い、学生等が本校及び本校以外に起因する危機により災害を被ることがないように常に配慮しなければならない。

(リスク管理室員以外の出席)

第 6 条 リスク管理室長が必要と認めるときは、リスク管理室以外の者を審議に出席させ、当該事項について意見を述べさせることができる。

(危機事象に関する通報等)

第 7 条 教職員は、緊急に対処すべき危機事象が発生又は発生する危険性を察知した場合は、直ちにリスク管理室員に通報しなければならない。

2 リスク管理室員は、前項の通報を受け、又は自ら危機事象を察知した場合は、直ちに室長に連絡するとともに、当該危機事象の状況を確認し、室長と対処方針を審議しなければならない。

第 8 条 校長は、危機事象の対処のために必要と判断する場合は、直ちに当該事象に係る対策本部を設置するものとする。

2 対策本部の構成は、次のとおりとする。

- 一 本部長は、校長をもって充て、対策本部の業務を統括する。
- 二 副本部長は、副校長（総務主事）をもって充て、本部長を補佐する。
- 三 本部長は、リスク管理員及び本部長が指名する者をもって充てる。

3 対策本部の事務は、総務課が主管し、学生課から事務部長が指名する者が参画する。

4 対策本部は、原則として危機事象の終了をもって解散する。

資料 11-1-②-5 : 小山工業高等専門学校危機管理要領 (2 / 2)

(対策本部の権限等)

第9条 対策本部は、本部長の指揮の下に、迅速に危機事象に対処しなければならない。

2 教職員及び学生は、対策本部の指示に従わなければならない。

3 対策本部は、危機事象への対処に際し、緊急を要する場合には本校の学内規定等により必要とされる手続の省略を行うことができる。

4 前項の場合、対策本部は危機事象への対処終了後、対処内容及び結果等を運営会議に報告するものとする。

(高専機構リスク管理本部等との連携)

第10条 対策本部は、危機管理を総合的かつ有機的に実施するため、高専機構リスク管理本部と相互連携を図るものとする。必要に応じて関係行政機関及び保護者等と連携して対応するものとする。

(本部長又は副本部長が不在の場合の措置)

第11条 本部長が出張等により不在の場合は、副本部長が危機管理に対処するものとして、副本部長も出張等により不在の場合は、副校長(教務主事)が危機管理に対処するものとする。

2 前項の規定により難い場合は、第4条第3項のリスク管理員記載順に基づく副校長(学生主事)以降の者が危機管理に対処するものとする。

(秘密保持の義務)

第12条 本校のリスク管理又は危機対策に関する業務に従事する教職員は、その業務に関して知ることができた秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

(雑則)

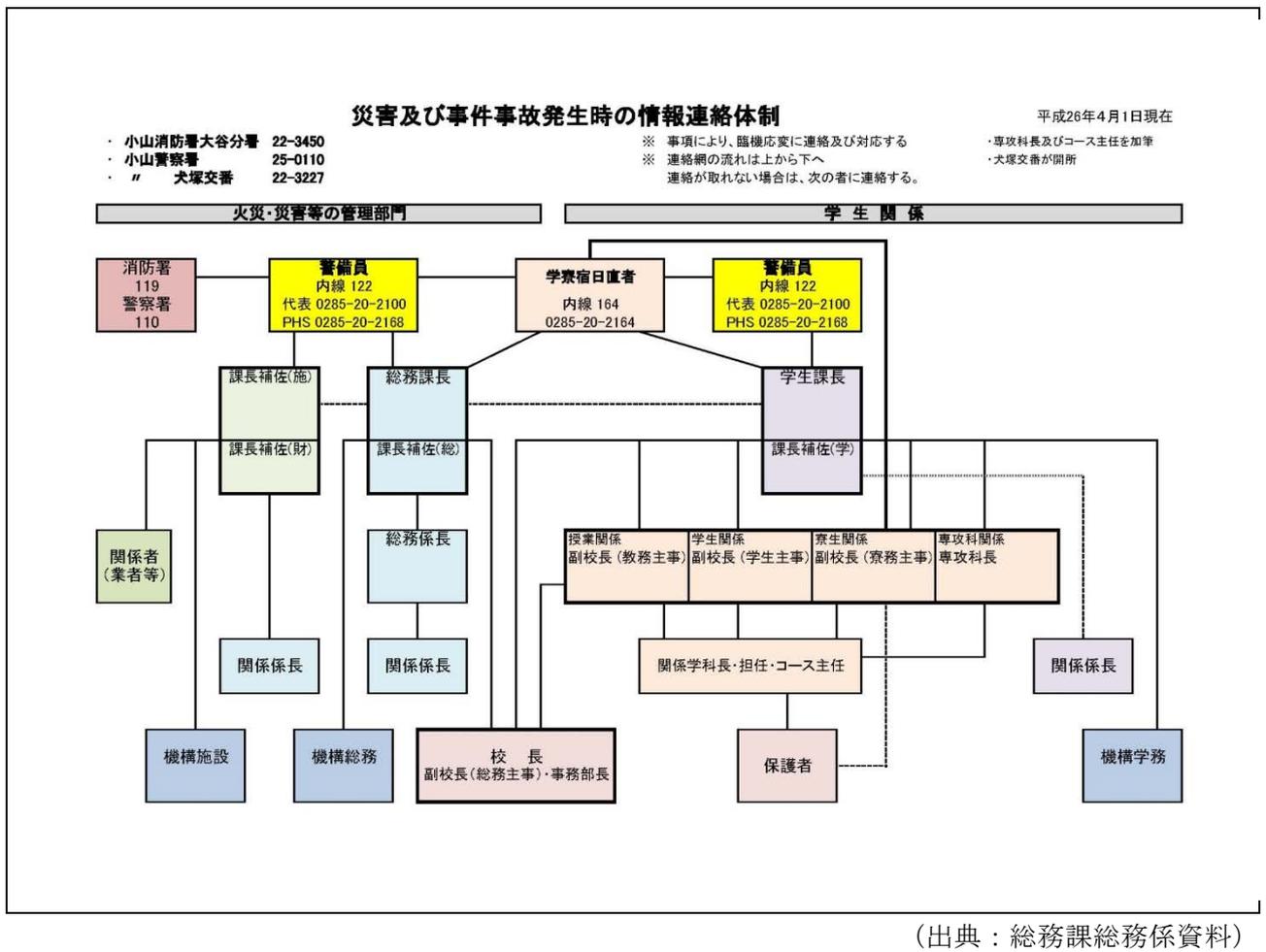
第13条 この要領に定めるもののほか、危機管理に関し必要な事項は、別に定める。

附則

この要領は、平成23年5月18日から施行する。

(出典：小山高専HP)

資料 11-1-②-6 : 災害及び事件事故発生時の情報連絡体制



資料 11-1-②-7 : 小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

小山工業高等専門学校
情報セキュリティポリシー

小山工業高等専門学校

目 次

	3.2.4 ネットワークへの接続	7
	3.2.5 データのバックアップ	7
	3.2.6 サーバ機の災害対策	7
	3.2.7 保守	7
	3.3 ネットワーク機器	
	3.3.1 コンソールポートの隔離	7
	3.3.2 設置場所の配置	7
	3.3.3 ネットワーク接続ポート	7
	3.3.4 ネットワークケーブル	7
	3.3.5 多重化	8
	3.3.6 保守	8
	3.4 ソフトウェア	
	3.4.1 ソフトウェアの定義	8
	3.4.2 ソフトウェアの管理責任者	8
	3.4.3 ソフトウェアの管理	8
	3.4.4 ソフトウェアの使用	8
	3.4.5 ソフトウェアの盗難防止	8
	IV. 人的セキュリティ	
	4.1 役割・責任及び免責事項	
	4.1.1 情報安全管理等最高責任者	8
	4.1.2 全校システム管理責任者	9
	4.1.3 部門システム管理責任者	9
	4.1.4 システム管理者	9
	4.1.5 利用者(教職員、学生及び外来者)	10
	4.2 教育研究上の利便性の配慮	10
	4.3 教育・研修	10
	4.4 事故・障害の報告	10
	4.5 パスワード管理・ログ管理	11
	4.6 非常勤起用職員及び臨時職員並びに外部委託	
	4.6.1 非常勤起用職員及び臨時職員業務	11
	4.6.2 外部委託業務	11
	V. 技術的セキュリティ	
	5.1 基本方針	11
	5.2 ネットワーク運用方針	
	5.2.1 ネットワークの設計、機器導入及び設定	11
	5.2.2 ネットワークサービス選択	12
	5.2.3 ネットワークの無許可利用及びネットワークバックドアの排除	12
	5.2.4 ネットワーク日常運用	12
	5.3 端末機器等に関する基準	
	5.3.1 基本方針	12
	5.3.2 端末機器設置運用基準	13
	VI. 評価・見直し	
	6.1 ポリシーの運用実態	13
	6.1.1 ポリシー運用実態等の把握	13
	6.1.2 利用者の意見	13
	6.1.3 情報セキュリティ診断	13
	6.1.4 情報セキュリティ監査	13
	6.1.5 情報セキュリティ対策費	14
	6.2 情報セキュリティレベルの向上策	14
	6.2.1 ポリシーの更新	14
	6.2.2 情報セキュリティ計画及び予算案の作成	14
	6.2.3 報告義務	14
	6.2.4 緊急時対応・手順	14
	6.2.5 再発防止対応	15
	緊急時対応・手順フローチャート	16
	A.用語の定義	17
	B.情報セキュリティ関係法令	17
	C.ウィルス/ワーム情報URL集	18
I. 情報セキュリティポリシーの基本方針		
1. 情報セキュリティの基本方針	1	
2. 定義	2	
3. 対象範囲	2	
4. 実施手順の作成	2	
II. 対策基準		
1. 組織・体制		
1.1 管理・運用組織の構成(組織構成図)	3	
1.1.1 情報安全管理等最高責任者	3	
1.1.2 全校システム管理責任者	3	
1.1.3 部門システム管理責任者	3	
1.1.4 情報安全管理等委員会	3	
1.2 不正アクセス等への対応	4	
2. 情報の分類と管理方法	4	
2.1 アクセス制限	4	
2.2 情報の分類	4	
2.2.1 非公開情報	4	
2.2.2 公開情報	5	
2.2.3 発信情報	5	
2.3 情報の公開	5	
2.4 情報の限定公開	5	
2.5 情報改ざん及び偽情報流布の防止	5	
2.6 情報機器及び記憶媒体の処分	5	
2.7 紙に書かれた情報及び情報印刷物等の扱い	6	
III. 物理的セキュリティ		
3.1 クライアント機器		
3.1.1 クライアント機器の定義	6	
3.1.2 クライアント機器の使用	6	
3.1.3 クライアント機器の盗難対策	6	
3.1.4 ネットワークへの接続	6	
3.1.5 保守	6	
3.2 サーバ機		
3.2.1 サーバ機の定義	6	
3.2.2 管理区域の設置定義	6	
3.2.3 電源	7	

(出典：総務課総務係資料)

資料 11-1-②-8 : 小山工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

小山工業高等専門学校情報セキュリティ管理規程

平成22年 9月30日 制 定

目 次

第1章	総則 (第1条-第7条)
第2章	情報システムの利用 (第8条-第12条)
第3章	情報の取扱い (第13条-第16条)
第4章	物理的及び環境的セキュリティ対策 (第17条-第23条)
第5章	教育 (第24条・第25条)
第6章	情報セキュリティインシデント対応及び非常時行動計画 (第26条-第30条)
第7章	調達、ソフトウェア開発及び外部委託 (第31条-第42条)
第8章	違反と例外措置 (第43条・第44条)
第9章	評価、見直し及び監査協力 (第45条-第50条)
第10章	その他 (第51条-第53条)

第1章 総則

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシーに基づき、独立行政法人国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）における情報セキュリティ対策に関する全般的事項及び管理的事項を定めることにより、情報セキュリティの維持向上に資することを目的とする。

2 情報セキュリティ対策に関する専門的及び技術的な事項については、別に定める情報セキュリティ推進規程による。

(定義)

第2条 この規程における用語の定義は、この規程で定めるものを除き、独立行政法人国立高等専門学校機構情報セキュリティポリシー対策規則（機構規則第98号。以下「対策規則」という。）別表及び独立行政法人国立高等専門学校機構情報格付規則（機構規則第99号）の定めるところによる。

(適用範囲)

第3条 この規程を適用する情報資産の範囲は、機構が扱う情報及び本校の情報システムとする。

2 本校の情報システムは、本校により保有又は管理されている全ての情報システム及び本校と契約あるいは他の協定に従って提供される全ての情報システムとする。

(出典：総務課総務係資料)

資料 11-2-①-1 : 小山工業高等専門学校点検評価規程

小山工業高等専門学校点検評価規程

制 定 平成 20 年 4 月 1 日

最終改正 平成 22 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）が、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、学校教育法に基づく点検及び評価並びに認証評価、外部からの点検及び評価並びに日本技術者教育認定機構による技術者教育プログラムの審査等（以下「点検及び評価等」という。）の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(委員会)

第 2 条 本校の点検及び評価等を円滑に実施するために、点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関して必要な事項は別に定める。

(点検及び評価事項等)

第 3 条 点検及び評価等の事項及び実施については、委員会が別に定める。

(点検評価結果の対応)

第 4 条 校長は、点検及び評価等の結果について委員会に検証させるとともに、教育研究等の改善にこれを反映させるものとする。

2 校長は、前項の検証結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、関連する委員会等にその改善策の検討を付託する。

(雑則)

第 5 条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価等に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成 22 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：小山高専規程集)

資料 11-2-①-2 : 小山工業高等専門学校自己点検評価専門委員会規程

制 定 平成20年4月1日
最終改定 平成22年4月1日

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校点検評価委員会規程第6条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校自己点検評価専門委員会（以下「専門委員会」という。）に関して必要な事項を定めるものとする。

(任務)

第2条 専門委員会は、次に掲げる事項を審議し、執行する。

- 一 自己点検評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関する事
- 二 自己点検評価の実施に関する事
- 三 自己点検評価に関する取りまとめ並びに報告書の作成及び公表に関する事
- 四 外部評価実施の際に必要な資料の作成に関する事
- 五 その他外部評価を実施するにあたり必要となる事項
- 六 その他専門委員会が必要と認める事項

(組織)

第3条 専門委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長が必要と認めた教員若干名
 - 二 その他校長が必要と認めた職員
- 2 委員は、校長が任命する。
 - 3 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

(委員長)

第4条 専門委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、校長が任命する。
- 3 委員長は、専門委員会を招集し、その議長となる。
- 4 委員長に事故あるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(点検評価事項等)

第5条 専門委員会は、次の各号に掲げる事項について自己点検評価を行う。

- 一 本校の教育理念及び目的に関する事
- 二 教育組織に関する事
- 三 教員及び教育支援者に関する事
- 四 学生の受入に関する事
- 五 教育内容及び方法に関する事
- 六 教育の成果に関する事
- 七 学生支援に関する事
- 八 施設・設備に関する事
- 九 教育の質の向上及び改善のためのシステムに関する事
- 十 財務に関する事
- 十一 管理運営に関する事
- 十二 研究活動に関する事
- 十三 正規課程の学生以外に対する教育サービスに関する事

2 前項各号に掲げる具体的な点検項目は、別表のとおりとする。

(点検評価の実施及び報告書等の公表)

第6条 前条第2項により実施する自己点検評価は、3年毎に実施し、報告書等として公表するものとする。

(事務)

第7条 専門委員会に関する事務は、総務課において処理する。

(雑則)

第8条 この規程に定めるもののほか、専門委員会に必要な事項は、点検評価委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

(出典：小山高専規程集)

資料 11-2-①-3 : 小山工業高等専門学校自己点検評価報告書 (平成22年度～平成24年度)



表紙

目 次

まえがき

1章 本校の教育理念及び目的 1

2章 教育組織 25

3章 教員及び教育支援者 63

4章 学生の受入 103

5章 教育内容及び方法 127

6章 教育の成果 239

7章 学生支援等 277

8章 施設・設備 341

9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム 371

10章 財務 411

11章 管理運営 433

12章 研究活動 469

13章 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況 507

14章 小山高専中期計画の達成状況 521

あとがき

目次

(出典：自己点検評価専門委員会資料)

資料 11-2-①-4 : 自己点検評価報告書のホームページにおける公開

自己点検・評価
平成22年度～平成24年度

自己点検評価報告書(平成22年度～平成24年度)(全体版)(PDF)
 ・表紙、目次(PDF)
 ・まえがき(PDF)
 1章 本校の教育理念及び目的(PDF)
 2章 教育組織(PDF)
 3章 教員及び教育支援者(PDF)
 4章 学生の受入(PDF)
 5章 教育内容及び方法①(PDF)
 5章 教育内容及び方法②(PDF)
 6章 教育の成果(PDF)
 7章 学生支援等(PDF)
 8章 施設・設備(PDF)
 9章 教育の質の向上及び改善のためのシステム(PDF)
 10章 財務(PDF)
 11章 管理運営(PDF)
 12章 研究活動(PDF)
 13章 正規課程の学生以外に対する教育サービスの状況(PDF)
 14章 小山高専中期計画の達成状況①(PDF)
 14章 小山高専中期計画の達成状況②(PDF)
 14章 小山高専中期計画の達成状況③(PDF)
 14章 小山高専中期計画の達成状況④(PDF)
 ・あとがき(PDF)
 ・委員名簿等、裏表紙(PDF)

(出典：小山高専HP)

資料 11-2-②-1 : 小山工業高等専門学校外部評価委員会規程

小山工業高等専門学校外部評価委員会規程

制 定 平成16年12月1日
最終改正 平成18年 4月1日

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動及び学校運営全般の改善に資することを目的として学外有識者による評価を実施するため、小山工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置き、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、委員若干名を以て組織する。

2 委員会の委員は、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱する。

3 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

4 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(評価事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を評価する。

一 本校の教育理念及び目標等に関すること。

二 カリキュラムの編成、教育指導及び教授方法のあり方、その他の教育活動に関すること。

三 学生生活及び学校行事のあり方に関すること。

四 学寮生活に関すること。

五 研究活動に関すること。

六 施設設備に関すること。

七 国際交流に関すること。

八 生涯学習及び社会連携に関すること。

九 学校運営に関すること。

十 自己点検・評価体制に関すること。

十一 その他委員会が必要と認める事項

(評価及び報告)

第4条 委員会は、資料による調査のほか、ヒアリング、実地調査等により評価を行う。

2 委員会は、評価報告書を作成し公表する。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、総務課が行う。

(出典：小山高専HP)

資料 11-2-②-2 : 平成 25 年度小山高専外部評価委員会開催要領および外部評価委員名簿

平成 25 年度小山工業高等専門学校外部評価委員会開催要領

I 日時及び場所
平成 26 年 1 月 9 日 (木) 14:00～
小山工業高等専門学校管理棟 1 階中会議室

II 出席者
外部評価委員会委員
太田 正 廣 関東職業能力開発大学校長
大 森 武 男 小山商工会議所会頭
酒 井 一 行 小山市教育委員会教育長
花 田 康 行 栃木県産業技術センター所長
宮 嶋 誠 小山市副市長
横 田 和 隆 宇都宮大学工学部附属ものづくり創成工学センター長
吉 澤 弘 樹 小山工業高等専門学校後援会会長 (50音順)

本 校
菊 谷 勇 雅 校長
糸 井 康 彦 副校長 (総務主事)
小 堀 康 功 副校長 (教務主事)
小 林 幸 夫 副校長 (学生主事)
川 上 勝 弥 副校長 (業務主事)
龜 山 雅 之 専攻部長
伊 藤 浩 地城連携共同開発センター長
南 斉 清 巳 自己点検評価専門委員会委員長
加 藤 敏 明 事務部長
櫻 井 孝 十 総務課長
須 磨 英 信 学生課長

III 次第
1. 開会
2. 校長挨拶
3. 外部評価委員会紹介
4. 本校出席者紹介
5. 委員長選出
6. 質疑応答
7. 総合評価取りまとめ (休憩)
8. 講評
9. 校長謝辞
10. 閉会

IV 配布資料
・外部評価委員会規程
・外部評価委員会委員名簿
・外部評価委員会の評価点一覧 (外部評価用「評価シート (自己点検評価)」)

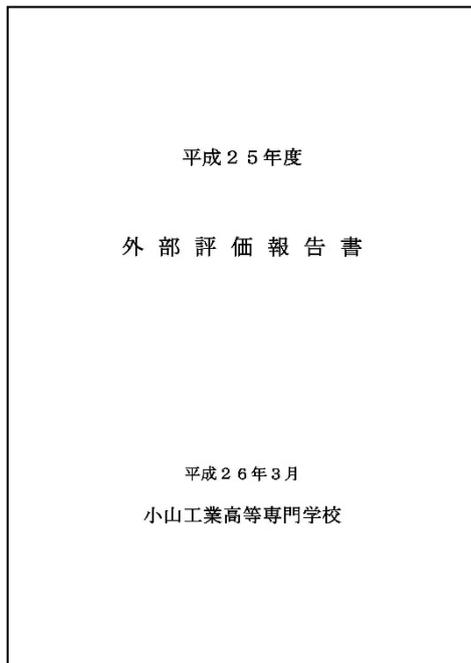
平成 25 年度外部評価委員会委員名簿

(氏名)	(履歴)
太 田 正 廣	関東職業能力開発大学校 校長
大 森 武 男	小山商工会議所 会頭
酒 井 一 行	小山市教育委員会 教育長
花 田 康 行	栃木県産業技術センター 所長
宮 嶋 誠	小山市 副市長
横 田 和 隆	宇都宮大学 工学部附属ものづくり創成工学センター長
吉 澤 弘 樹	小山工業高等専門学校後援会 会長

(50音順)

(出典：平成 25 年度外部評価委員会資料)

資料 11-2-②-3 : 小山高専平成 25 年度外部評価報告書 表紙



(出典：平成 25 年度外部評価報告書表紙)

資料 11-2-②-4 : 外部評価報告書のホームページにおける公開

独立行政法人 国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校

小山高専

[▶トップページ](#)
[▶デザコン2012 in 小山](#)
[▶最新情報](#)
[▶受験生の方へ](#)
[▶地域・企業の方へ](#)
[▶学生・保護者の方へ](#)
[▶卒業生の方へ](#)

form
検索...

第三者評価

外部評価

平成25年度

- 平成25年度外部評価報告書(全体版)(PDF)
- 表紙・目次(PDF)
- まえがき(PDF)
- 1. 外部評価委員会委員名簿(p.1)(PDF)
- 2. 平成25年度小山工業高等専門学校外部評価概要(p.2)(PDF)
- 3. 平成25年度小山工業高等専門学校外部評価委員会開催要領(p.3)(PDF)
- 4. 平成25年度小山工業高等専門学校外部評価に係る審前打合せ開催要領(p.4)(PDF)
- 5. 小山工業高等専門学校外部評価委員会規程(p.5)(PDF)
- 6. 平成25年度小山工業高等専門学校外部評価委員会議事録(p.6~37)(PDF)
- 7. 外部評価用「評価シート」集計結果(p.38~53)(PDF)
- 参考資料1「小山高専の沿革(概観)」(p.54~59)(PDF)
- 2. 25年(2013年)の概要(PDF)
- 裏表紙(PDF)

平成22年度

- 平成22年度外部評価報告書(全体版)(PDF:2.25MB)
- 表紙(PDF:90KB)
- 目次(PDF:90KB)

(出典：小山高専HP)

資料 11-2-③-1 : 外部評価結果のフィードバックの状況

平成26年 2月 5日

外部評価指摘事項に対する対応関連部署 殿

点検評価委員会委員長 糸 井 康 彦

平成25年度「外部評価委員会における指摘事項」に対する
今後の改善方策等について（依頼）

本年1月に開催した外部評価委員会において、別添資料に示すような指摘（赤字で表記）がありました。その指摘事項に対する今後の対応方策について、対応関連部署宛（別添資料に青字で表記）に依頼をすることといたしました。

つきましては、別添資料『外部評価用「評価シート（自己点検評価）」集計結果』の各指摘事項に対する今後の対応方策について、ご回答頂きますようお願い申し上げます。

なお、対応方策の記入に際しては、以下の【改善策の記入方法】に従いご記入下さい。

【改善策の記入方法】

指摘事項（赤字）に対する対応関連部署が青字で表記されておりますので、各指摘事項の下の行に、各対応部署としての今後の対応方策をご記入くださるようお願いいたします。

（教務委員会）

- ・ -----。
- ・ -----。

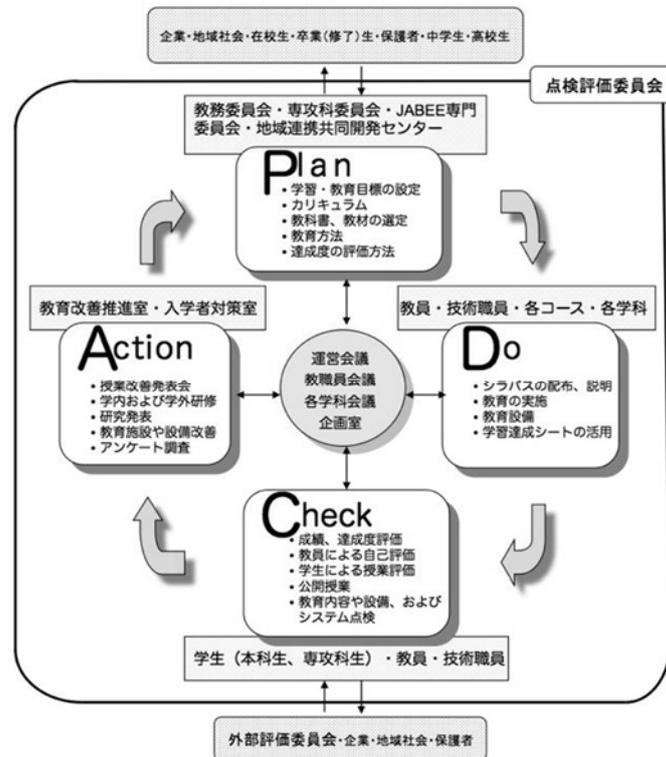
（専攻科委員会）

- ・ -----。
- ・ -----。

また、ご記入いただきました対応方策につきましては、お忙しい中、誠に恐縮ですが、平成26年2月28日（金）までに、総務課評価・地域連携係あてメールにてご提出いただきますよう、お願い申し上げます。

（出典：点検評価委員会資料）

資料 11-2-③-2 : 教育点検システム及び改善システムの流れ



(出典：小山高専HP)

資料 11-3-①-1 : 機関別認証評価 評価結果 (抜粋) およびその改善を示す資料
 認証評価における評価結果

10-2-③ 学校の目的を達成するため、教育研究活動 (必要な施設・設備の整備を含む) に対し、適切な資源配分がなされているか。

予算については、校内予算配分方針を策定し、予算委員会で審議し、校長が了承した配分案に基づき、関係部署に配分されている。

また、教育研究活動の活性化を図るため、重点配分経費及び校長裁量経費等の競争的配分経費を設けているが、教育充実設備費については、学科等にローテーションにより予算が配分されており、より効果的な資源配分に向けて、改善の余地がある。

これらのことから、教育研究活動に対し、おおむね適切な資源配分がなされていると判断する。

- 32 -

上記に対する改善

高専教育充実設備費について

平成 23 年 5 月 10 日 (水) : 予算委員会

■平成 23 年度高専教育充実設備費について

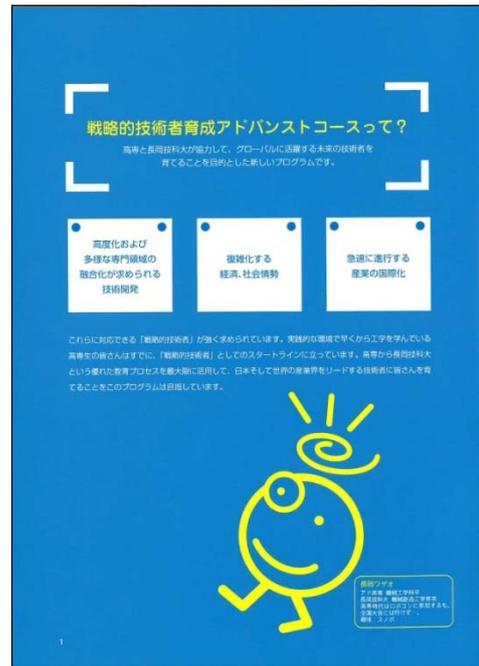
昨年度の予算委員会において本年度より「ローテーション」は廃止することが決定している。今後は、各学科・センター等からの要望を踏まえ、予算委員会で検討して配分先及び配分額を決定する。平成 24 年度分については、本年度中に各学科・センター等の要望を予め聞いておく必要がある。それらを基に、来年度の配分は、来年度予算委員会で審議することとし、本年度については、学科分は「ものづくりセンター」及び「建築学科」各 400 万円とし、センター分である配分額 500 万については、サテライト・キャンパスの学内負担分に充てることの説明があった。

また、サテライト・キャンパス事業経費については、来年度からは「高専教育充実設備費」からの支出はやめ、別途事項立てすることの説明があった。

審議の結果了承した。

(出典：機関別認証評価 評価報告書、p. 32 および予算委員会資料)

資料 11-3-②-1：長岡技術科学大学と高専が協働する戦略的技術者育成アドバンストコース



(出典：同アドバンストコースパンフ)

資料11-3-②-2：宇都宮大学との教育研究上の交流・連携に関する協定書

宇都宮大学と小山工業高等専門学校との間における
教育研究上の交流・連携に関する協定書

宇都宮大学と小山工業高等専門学校は、教育及び学術研究上の協力関係を推進するため本協定を締結する。

(実施内容)

第1条 宇都宮大学及び小山工業高等専門学校は、教育及び学術研究の推進を図るために、次の各号において、学生、教職員の交流、連携を実施する。

- (1) 単位互換、インターンシップに関すること。
- (2) 共同研究、産学官連携等に関すること。
- (3) 装置・設備の相互利用に関すること。
- (4) 学生への教育及び進学機会の提供に関すること。
- (5) その他、両者が相互に関心を有する分野における情報及び資料の交換に関すること。

(有効期間)

第2条 本協定の有効期間は、調印の日から6年間とする。ただし、宇都宮大学又は小山工業高等専門学校のいずれかより有効期間満了の6ヶ月前までに書面によって中止の申し出がない場合は、1年間延長するものとし、以後同様とする。

(協議)

第3条 本協定書に定めるもののほか、必要事項については、宇都宮大学及び小山工業高等専門学校の協議により定める。

(随時協議)

第4条 本協定に定める事項に疑義が生じた場合若しくは改訂の必要がある場合は、宇都宮大学及び小山工業高等専門学校間で随時協議するものとする。

(協定書の保有)

第5条 本協定書は2通作成し、両者がそれぞれ1通保有するものとする。

平成20年2月28日

国立大学法人 宇都宮大学長



独立行政法人国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校長



(出典：総務課総務係資料)

資料11-3-②-4：小山高専技術者育成道場



小山高専 技術者育成道場 協働教育への 参加企業募集!

小山高専では、キャリア教育の充実のため協働教育に参加・協力していただける企業、企業技術者を募集しています。

先進的キャリア教育推進室

キャリア教育の全学的推進拠点として新たに組織

技術者育成道場の設置

企業及び企業技術者等の参加・協力を得て学生一人ひとりの実践力を鍛え、その進路の確保・拡大とともに、企業等への優秀な人材供給を図ります。

- インターンシップ
- 技術講演・技術指導
- キャリアトレーニング
- 就職等進路指導

教育コーディネーターの配置

企業技術者、教員OB等を教育コーディネーターとして配置し、技術者育成道場の運営及び企業との連携を推進します。

独立行政法人 国立高等専門学校機構
小山工業高等専門学校
OYAMA National College of Technology

(出典：小山高専先進的キャリア教育推進室)

資料11-3-②-5：小山高専技術者育成道場講演会

技術者育成道場 “キャリアアップ・セミナー”のご案内

就職活動・研究発表に役立つ
相手に感動を与えるプレゼンテーション

就職活動に、研究発表に、プレゼンテーションの機会はたくさんあるけど、いまいち伝わったかわからない、という人はいませんか？ 話上手でなくても、「伝わる」プレゼンテーションはできます。今回は、**相手に伝わるプレゼンテーションのコツ**を、「科学をわかりやすく伝える」技術で様々なビジネスをしている株式会社リハネスのスタッフがお伝えします。

■対象 専攻科生および本科4、5年生の希望者
■日時 平成25年12月21日(土) 14:00~16:00
■場所 専攻科棟4階多目的メディアホール
■講師 株式会社リハネス

人材開発事業部 堀野真理子先生

■株式会社リハネスとは？
12年前に理工系の大学院生15名で設立。「科学技術の発展と地球貢献を実現する」を理念に、子どもたちに最先端科学を伝える出前教室を開始。現在は企業による出前授業の企画開発、高校生向けサイエンス雑誌『Esomono』、大学向け人材研修、東北や沖縄での地域活性化プロジェクトなど、様々な人と関わりながら未来をつくる仕事をしています。

■堀野真理子先生の経歴
筑波大学大学院生命環境科学研究科修了。大学院時代の2年の海外研修を調べるために集団に就いて研究をしました。在学時からリハネスで出前授業や研究キャリア応援マガジン『mea+be』の編集を担った。リハネスでは大学生、大学院生、社会人に向けてコミュニケーションやプレゼンテーションの研修を担当。

【主催】 先進的キャリア教育推進室・専攻科
【申込み】 専攻科コース定員まで先着順。学科、コースと氏名を12月17日(水)17:00までに、先進的キャリア教育推進室にメール(carie@oyama-st.ac.jp)でお知らせください。応募多数の場合は(50名程度)抽選となります。



3年生対象キャリア教育講演会

「企業論」

「企業とはどんなところか、
企業の求める人材とはどんな人材か」

日時 平成25年12月11日(水)
13:10~14:40(集合13:05)
講演 13:15-14:15
質疑応答
＜キャリア形成についての心構え＞
14:20-14:40
教育コーディネータ 田野賢司先生

場所 図書館情報センター棟1階視聴覚教室
講師 日立アプライアンス(株)栃木空調本部
総務部長 山内 一生 氏
主催 先進的キャリア教育推進室・進路支援室

(出典：小山高専先進的キャリア教育推進室)

資料11-3-②-6：小山高専卒業生による講演会

平成25年度技術者育成道場・第1回講演研修会

ナノテクノロジーがつくる新しい世界

日時 平成25年6月26日(水) 13:10-16:00
場所 専攻科棟4階多目的メディアホール
対象 専攻科1,2年生、他

技術者育成道場による平成25年度第1回技術者育成道場講演会を開催します。今回は夢の新材料として日本から発展し世界に注目されているカーボンナノチューブを軸としたナノテクノロジーについて紹介します。カーボンナノチューブの独特な性質は多岐に亘り、構造材料、半導体、光学、燃料電池、医療への応用が検討されています。

本校の先輩でもあります小宅先生から基礎から応用まで多岐に亘るお話が聞けると幸いです。また、先生は2012年度のノーベル賞授賞式で世界の優れた若手研究者の一人に選ばれ招待されました。その時のお話も併せて聞けると思います。講演後は先生に課題を用意して頂き、グループ討論を行い楽しい一日を過ごしたいと思います。学生生活積極的な参加を期待します。

内容

13:10-13:15 開会挨拶 専攻科 亀山様之科長
13:15-13:20 グループ討論等の進行説明 先進的キャリア教育推進室 伊藤 悟室長
13:20-14:20 講演 「ナノテクノロジーがつくる新しい世界」 東京大学大学院工学系研究科 小宅 敏文 氏
14:20-14:30 休憩
14:30-15:20 グループ討論
15:20-16:00 グループ発表および閉会

小宅先生のプロフィール
平成21年3月小山高専機械工学科を卒業卒業。同年4月東京大学工学部へ編入。平成24年同大学大学院に進学。丸山研究室に所属し、カーボンナノチューブを始めとしたナノテクノロジーの研究に従事し、世界の優れた若手研究者の一人として平成24年度ノーベル賞授賞式に招待される。現在、同大学院工学系研究科修士2年生。

主催 小山高専先進的キャリア教育推進室・専攻科委員会

平成25年度技術者育成道場・第3回講演研修会

5S運動の意義と実践

日時 平成26年1月15日(水) 13:10-14:50
場所 機械工学科棟3階301ゼミ室
対象 専攻科1,2年生、他

5Sとは「整理・清掃・整頓・清潔・検定」です。5Sは製造業現場の働く環境を整え、仕事の効率を向上させる方法として全国に普及し、今や働くものの心構えとして重要な指針となっています。最近では、製造業だけでなく、多様な業種や学校や教育現場でも導入されて効果を上げています。今回は5Sの意義と実践のお話を聞き、これから社会に出られる皆さんの心構えとしても、現在の学校など自身の環境を整えるためにも参考になるものと思います。

講師の福田 隆先生は本校工業化学科(現物質工学科)の出身です。是年、先輩の皆さんのおかげでお話したいとご承諾いただきました。先生は5S実践活動の専門家です。ぜひ「話が聞けると思います。忙しい時期ですが、社会に出てからも大切に立ち回りますので学生生活積極的な参加を期待します。

内容

13:10-13:15 開会挨拶 専攻科 亀山様之科長
13:15-13:20 講師紹介 先進的キャリア教育推進室 伊藤 悟室長
13:20-14:40 講演 「5S運動の意義と実践」 ふくだ5S実践代表 福田 隆氏
14:40-14:50 閉会(アンケート記入)

福田 隆先生のプロフィール
日光市出身。1973年3月小山高専工業化学科卒業。第4期生。ダラス・スミスライン佛今市工場に入社。37年勤続した後、2009年退職し、ふくだ5S実践会を設立。以降5S・改善コンサルタントとして企業、機関を中心に実践指導された約40年間の専門家で、

主催 小山高専先進的キャリア教育推進室・専攻科委員会

(出典：小山高専先進的キャリア教育推進室)

資料 11-3-②-7 : 後援会小山支部 「秋の懇談会・懇親会」特別企画 特別セミナー

小山高専後援会小山支部 「秋の懇談会・懇親会」特別企画

キャリア教育セミナー

理系が企業で働く！

～ JR東日本 工事予算計画室 室長 講演 ～



<プロフィール>

講師:小林千佳氏

東日本旅客鉄道株式会社

東京工事事務所 工事予算計画室 室長

筑波大学社会工学都市計画専攻、1990年に大卒女子の土木採用の一期生としてJR東日本に入社。現場の工事監督を経て、大規模なプロジェクトを推進する女性リーダー。

NPO法人 J-winでも一期生としてキャリア教育支援を担当し、高校生に「企業で働くこと」を分かりやすく伝え「自分らしい」進路を選ぶ一助となる活動をしている。

JR東日本から小林千佳氏をお迎えして
小山高専にて教育セミナーを開催します。
学生、保護者、学校教職員の皆さま、
是非ご参加ください。

2012年

11月17日(土)

入場
無料

- 日時 9:30～11:00 (開場 9:15)
- 場所 小山高専 管理棟2F 大会議室 ※参加者多数の場合は図書館視聴覚室
- 入場料 無料
※参加希望の方は11月2日(金)までにご連絡ください。
- 連絡先 小山高専後援会 小山支部
鏡島 090-8513-1425
ayumu.kagamishima@softbank.ne.jp
- 主催 小山工業高等専門学校後援会 小山支部

(出典：学生課資料)

資料 11-3-②-8 : 小山高専地域連携協力会会則 (抜粋)

小山高専地域連携協力会会則

(名称)

第1条 この会は、小山高専地域連携協力会（以下「本会」という。）と称する。

(目的)

第2条 本会は、小山工業高等専門学校（以下「小山高専」という。）と会員相互の交流・連携を深めて地域産業技術の振興を図り、地域社会の発展に寄与するとともに、小山高専の教育及び研究活動を支援することを目的とする。

(事業)

第3条 本会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事業を行う。

- 一 地域産業の発展に関すること
- 二 小山高専の教育研究の充実に関すること
- 三 その他本会の目的達成に必要なこと

(会員)

第4条 本会は、本会の目的に賛同する次の会員をもって組織する。

- 一 法人会員 企業及び団体等
- 二 個人会員 本会の目的に賛同する個人
- 三 特別会員 官公署、商工会議所・商工会等の公的機関

(会議)

第5条 本会の会議は、総会、役員会及び専門部会とする。

2 総会及び役員会は会長が招集し、議長となる。

(総会)

第6条 総会は、定時総会及び臨時総会とし、会員をもって構成する。

2 定時総会は年1回、臨時総会は会長が必要と認めるときに開催する。

3 総会は、次の事項を審議する。

- 一 運営の基本方針に関すること
- 二 事業計画並びに予算決算に関すること
- 三 役員を選出に関すること
- 四 会則の改正に関すること
- 五 その他、本会の目的達成に必要なこと

4 総会は、会員（特別会員を除く）の過半数の出席（委任状を含む）をもって成立する。

5 総会の議事は出席者（特別会員を除く）の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(役員)

第7条 本会に次の役員を置く。

- 一 会長 1 名
- 二 副会長 2 名
- 三 理事 若干名
- 四 監査役 2 名

(役員会)

第8条 役員会は、前条に掲げる役員をもって構成する。

2 役員会は、会長が必要と認めるときに開催する。

3 役員会は、次の事項を審議する。

- 一 総会に提出する議案及び重要事項に関すること
- 二 その他、会務遂行のうえで必要と認められる事項に関すること

(出典：小山高専地域連携協力会資料)

資料11-3-②-9 : 小山高専出前授業

テクニカルフェスティバル ～おもしろ出前授業～



JSTネットワーク形成地域型
とちぎ
サイエンス
らいおん
<http://www.tochigi-lion.net/>

2013年9月8日(日) 10:30～15:30 (12:00～13:00は昼休みのため閉場)

栃木県子ども総合科学館 多目的ホール・企画展示室 (宇都宮市西川田町567)

ロボットの実演



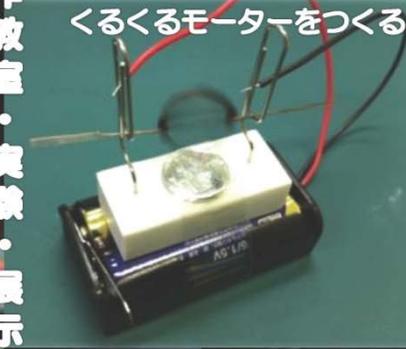
ウィンドカーをつくる



人エイクラをつくる



くるくるモーターをつくる



チビもそ君をつくる



名作イスの模型をつくる



おもしろい工作教室・実験・展示がもりだくさん

子ども総合科学館に小山高専がやってくる。

企画の内容は予告なく変更することがあります。

主催・共催

栃木県子ども総合科学館
小山工業高等専門学校
小山工業高等専門学校後援会

tel. (028)659-5555
tel. (0285)20-2197

このイベントは、「とちぎサイエンスらいおんプロジェクト」の一環として実施します。

(出典：地域連携共同開発センター資料)

クラスの輪をつなぐディスカッション授業 —インタビューゲームの効用—

柴田 美由紀^{*1}

The discussion lesson which join the ring of the class together

—The effectiveness of interview game—

Miyuki SHIBATA

This paper is a practice report of the interview game carried out in classes of "Japanese" to 1st year students in April 2013. When the interview game was carried out, the students spoke actively and the atmosphere of the new student's class was softened, and there was a prominent effect on students that it promotes their friendly relations. From these, the interview game is effective enough as a method of training the "Dialog capability" which makes human relations by means of language. Furthermore, it is expected that this interview game can be used effectively not only in "Japanese" classes but also in homeroom class as an easy way to make new relationship among students smoothly.

KEYWORDS: interview game, Dialog capability, making new relationship

1. はじめに

本稿は1年国語で実施したインタビューゲームの実践報告である。これまで稿者は、高専国語を伝え合う力の育成を積極的に取り込んだ独自性あるジャンルとして構築することを目指すなかで、スピーチ・ディベート・プレゼンテーションの授業の実践報告^{1)~3)}を行ってきた。しかし、それらはいずれも一定以上の効果はありながらも実施する際の負担が少なくなく、学生たちには発表準備の時間や本番での緊張感を、教員には煩雑な授業準備と指導技術を要求するものであった。

今回報告するインタビューゲームは、学生・教

員ともに非常に気軽に取り組める内容でありながら、優れた効用を持つものである。H25年4月、インタビューゲームを1年国語において実施したところ、活発な言葉のやり取りが引き出され、クラスの緊張した雰囲気や和やかになった。またアンケートからも学生間の友好関係が促進される様子がみてとれた。このことから、インタビューゲームは言葉によって人間関係を作り出す「対話力」のトレーニング法として、十分な効果があると確認できた。さらに、このインタビューゲームは誰でも気軽に楽しく取り組めて仲間の輪を広げられる方法として、ホームルームなど様々な場面で有効活用が期待できるものでもある。

*1 一般科(Dept. of General Education), E-mail: miyuki-s@oyama-ct.ac.jp

資料11-4-①-2：研究成果公表状況（教員）

口頭発表（国際会議と国内学会）の件数

	一般科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	合計
平成22年	42	22	49	9	65	10	197
平成23年	26	24	52	27	68	22	219
平成24年	35	18	55	33	53	19	213
平成25年	18	18	40	51	47	13	201
合計	123	83	196	120	244	64	830

論文・著書等の件数

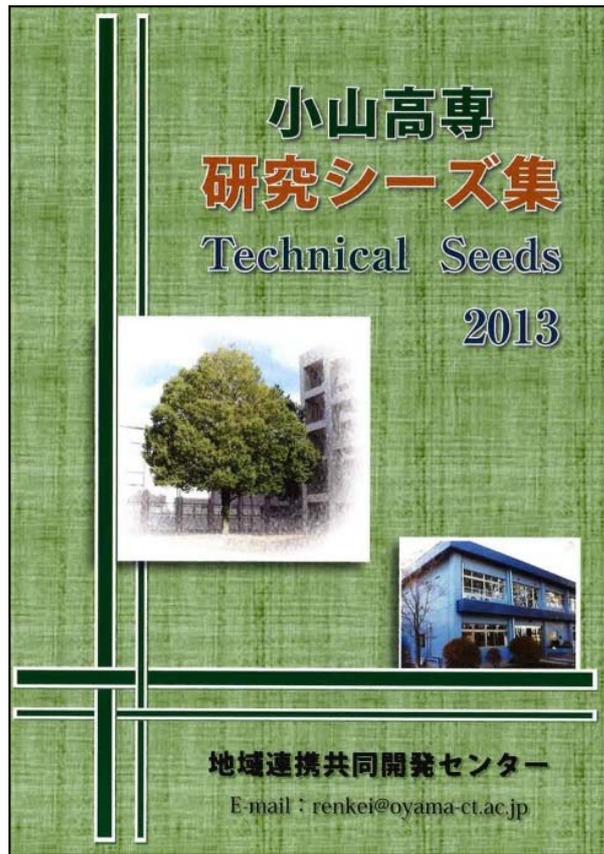
	一般科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科	合計
平成22年	35	13	12	22	22	4	108
平成23年	34	17	12	10	15	10	98
平成24年	24	10	12	5	20	11	82
平成25年	32	12	23	12	13	10	106
合計	130	51	59	49	70	35	394

特許の件数

	一般科		機械工学科		電気電子創造工学科				物質工学科		建築学科		計	
					電気情報工学科		電子制御工学科							
	登録	出願	登録	出願	登録	出願	登録	出願	登録	出願	登録	出願	登録	出願
平成22年					1								1	0
平成23年								4			1		1	4
平成24年	2						1						3	0
平成25年	1			1			2		2	1	1		6	4
合計	3	0	0	1	1	0	3	4	2	1	2	0	11	8

（出典：総務課人事係資料）

資料11-4-①-3：小山高専研究シーズ集



a) 冊子版



b) web版

(出典：総務課評価・地域連携係資料、小山高専HP)

資料11-4-①-4：平成25年度小山高専産学交流会開催要項

平成25年度小山工業高等専門学校産学交流会次第

日 時：平成26年3月14日（金）
13時30分～19時00分

会 場：小山工業高等専門学校
主 催：小山工業高等専門学校
共 催：小山高専地域連携協定会

【第1部：地域連携共同開発センター 竣工式】 13時30分～14時40分

（会 場：地域連携共同開発センター）

開会挨拶
地域連携共同開発センター 概要説明
テープカット
施設見学

【第2部：産学交流会・講演会】 15時00分～17時05分

（会 場：図書情報センター 1階 視聴覚室）

開会挨拶（15:00～15:05）

基調講演（15:05～16:05）

講 師：株式会社ナカニシ 代表取締役副社長 中西 賢介 氏
演 題：「歯科用回転機器メーカー グローバル No.1への道」

事例発表（16:05～16:50）

講 師：アクリーグ株式会社 代表取締役社長 磯山 左門 氏
演 題：「経営品質向上への継続的取組み」 ～百年企業をめざして～

学生発表（16:50～17:05）

発表者：大学コンソーシアムとちぎ「第10回学生&企業発表」
ものづくり部門金賞 電気情報工学科 5年 和田 義久
演 題：「教育からホビーまでを視野に入れた球型ロボットの開発」

【第3部：情報交換会】

17時20分～19時00分

（会場：一般食堂）

情報交換会（17:20～19:00）

換 撈
乾 杯
各学科紹介
謝 辞
中 締 め

開 会

（出典：総務課評価・地域連携係資料）

資料11-4-①-5 : キャリア支援室

先進的キャリア教育推進室

www1.ooyama-ct.ac.jp/contents/career.html

独立行政法人 国立高等専門学校機構 小山工業高等専門学校

小山高専

先進的キャリア教育推進室

キャリア教育の全学的推進拠点

検索... 検索

キャリア教育プログラム ●キャリア教育とは ●プログラムの特徴 ●カレンダー

技術者養成道場

インターンシップ (学生向け, 企業向け)

キャリアトレーニング

技術講演 技術指導

進路指導 (進路関連講座, 進路支援室)

最新情報

(13/05/17)
平成25年5月以降も当面「就職支援模擬面接」を実施します。

(13/04/09)
平成25年4月以降も就職支援個別模擬面接を実施します。

(13/01/18)
平成25年度就職希望者対象「就職相談・個別模擬面接」を実施します。

(13/01/15)
平成25年度就活支援セミナーを開催します。

(12/12/05)
平成24年度第4回技術者育成道場・技術講演会を実施します。

(12/11/26)
就活に向けて「女子学生のためのメイクアップセミナー」を開催します。

(12/11/07)
1年生キャリアスタートアップセミナー「技術者になるための高専生活」を開催します。

(12/10/31)
3年生対象キャリア教育講演会を実施しました。

(12/10/31)
平成24年度第3回技術者育成道場・技術講演会を実施しました。

(12/10/17)
「技術者育成道場」特別講演会"世界初の挑戦：「はやぶさ」から「はやぶさ2」へ"を実施します。

推進室ニュース!

第6号 (H25.4)
第5号 (H25.1)
第4号 (H24.10)
第3号
第2号
第1号

(出典：小山高専HP)

資料11-4-①-6：先進的キャリア教育推進室の活動成果

先進的キャリア教育推進室ニュース

第8号
(web版含む)
平成26年 3月

今回は、平成25年10月から平成26年3月までに実施した先進的キャリア教育推進室の活動内容（専攻科および進路支援室と連携）をお知らせいたします。

1. 技術講演・技術指導（専攻科生を主対象とし専攻科と共催）
(1) 平成25年度第2回技術講演会を12月21日（土）に「相手に感動を与えるプレゼンテーション」と題して、株式会社リハネス・人材開発事業部の横野真理子氏を講師に招いて実施し、プレゼン技術の向上を目指しました。

（講演内容）

ア. 感動させるためのプレゼンテーションを行うために、「目的をつくる」「プレゼンテーションをつくる」「魅力的な自分を作る」の3段階で考えるようする。

- ①「目的を作る」：プレゼンテーションの場・相手・自分などの環境を考慮し、自分なら何が言えるかを考え、相手にどうなって欲しいかなどを語る。
②「プレゼンテーションを作る」：導入が最も重要で、構成を先に考えてスライド作りをする。スライド作成では絵を先に作らない。文字の大きさは20pt以上とし、色は3色程度に押さえる。
③「魅力的な自分を作る」：発表するときの態度・身だしなみ・声・話すスピード・ジェスチャー等好感度を上げるためのテクニックなどの話をいただきました。



イ. 「プレゼンテーション」とは、①自分の考えを伝えること、②相手に行動してもらうために感動を起こさせること、③突極の目的は仲間をつくること、④相互理解を含め相手を巻き込むこと、⑤秘訣は、自信を持つこと、前に立つ理由をつくること、自分の優れた部分を伝えること、などのアドバイスをいただきました。

（学生の感想）

- ・スライド作りを入れているが、それよりも、目標や目的を持って、構成をしっかり考えてプレゼンしたい
- ・相手がどう感じるか、相手に感動を起こせるのかなど、聞き手を大切にしていきたい
- ・伝えたいことを考え、納得させられるようにしていきたい

- (2) 平成25年度第3回技術講演会を1月15日（水）に「5S運動の意義と実践」と題して、ふくだ5S実践会代表の福田隆氏を講師に招き実施しました。

（講演内容）

ア. 5Sとは整理・清掃・整頓・清潔・検のことで、組織に成果を挙げさせて、マネジメントの改善にもなる。

イ. 作業のうち正味作業は20%で、55%は無駄な作業になっている。その無駄を削ることが改善に繋がる。

ウ. 5Sを実行する順序が重要。整理→清掃→整頓→清潔→検の順に行うとよい。

エ. ①「整理」とは、要るものと要らないものを分け、捨てること。3ヶ月以上使わないものは捨てる。この段階で5Sの50%を達成。②「清掃」とは、汚れを分離し、汚れを集め、処分すること。汚れたら直ぐに拭くことが重要。③「整頓」とは、モノの移動の中で、「探す」無駄をなくすること。モノは取り出しやすく、元に戻す工夫＝「三定」（定品・定量・定置）がポイント。④「清潔」は整理・清掃・整頓の維持。⑤「検」とは、決められた事を守る習慣。



オ. 整頓の例：①机の引出しを整理マットで整理。②書庫は扉を外して見える化に。③掲示板は、項目毎に整理し、低いものは傾斜して取りやすくする。など

カ. 5Sは手段であり目的でない。5Sで仕事の時間が短縮できる。緊急性の高いものから実施する。

キ. 5Sは体験して初めて身に着く。1つ1つ身近なところから始めることが重要。

（学生の感想）

- ・やることが多く時間が足りなくなってきたので、整理・清掃・整頓を行い、効率を上げていきたい
- ・まずは、自分の部屋や研究室で5Sを心がけていきたい
- ・社会に出る前に、このようなことを学べよかったです

2. キャリアトレーニング関係

今年で3回目となる3年生対象の企業論講座を、12月11日（水）に日立アプライアンス株式会社栃木空調本部の山内一生総経理を講師に迎えて実施し、「企業とはどんなところか、求める人材はどんな人材か」をお話いただきました。

（講演内容）

ア. 「就職」＝「就社」ではない。企業に入ることが最終目的ではない。社会で自分が何をやるのか、何をしたいのかを言えるようにするとい。

イ. 技術担当者は学生時代に、アルバイト、文化祭など一生懸命やってきたことを聞きたい。学生時代に何をしたいのかを考えるようにするとい。

ウ. 企業ではイノベーションが見直されている。イノベーションは、技術革新に限らず、新商品、新市場、組織の改革などをユニークなアプローチで新しいものを生み出すことで、驚きや感動をうまく伝えることが価値を決めると言われている。

エ. イノベーションを生む5つの力として、① Energizer：活力を与える人、② Integrator：技術やノウハウを組み合わせて革新する力、③ Visionary：目標やゴールを設定する力、④ Social Changer：社会を変える志、⑤ Non-giver-upper：失敗してもあきらめずに挑戦し続ける人、の5点を紹介いただきました。

エ. 企業では次の時代に新しい風を吹き込む、主体的に行動し、ダイバーシティ（多様性）を重んじ、持っている才をぶつけ合って議論を戦わせて進んでいく人を採用したいと思っている、とお話がありました。

（学生の感想）

- ・「自分のやりたいこと明確にしたい」「目標を持つようにしたい」「いろいろなチャレンジしたい」
- ・「成績以外にも大切なことがある」「今後の人生に役立てたい」「日立の講演のために良かった」など



3. 就職支援関係

- (1) 「知ってほしい損はしない就活する上でのポイント」と題した就活支援セミナーを、12月21日（土）に毎回好評の有限会社エファ代表取締役の菊地恵氏を講師に迎え、実践を交えて指導いただきました。

（講演内容）

ア. 技術系の職種についてグローバルな人材を望んでおり、中国・アジアは当たり前の時代になっている。

イ. 言われたことを、自分で考え、提案させる力のある人、責任をもって取り組む人を探している。

ウ. エントリーシート・履歴書は手書きが好まれているが、①下手でもよいから丁寧に、読む人の立場に立って書く。②「企業理念」を押さえ、何をしてきたか、何をしたいかを言えるようにしておく

エ. 面接はコミュニケーションの場であり、①明るく振る舞う、②会社に入った瞬間から意識する。面接では、①挨拶を元氣よく行う、②話している姿を面接官を見ているので、等身大の自分を相手に見せる、③「敬語」が大事、④上手に話ができなくても構わない、などのアドバイスがありました。

（面接の演習・挨拶の練習）

（印象に残った出来事）を話し手、聞き手に分かれて面接の練習をし、お辞儀の仕方の練習も行いました。

（学生の感想）

- ・挨拶やお辞儀の仕方、面接での心構えが参考になった
- ・身だしなみやマナー、エントリーシートの書き方や自己PRのポイントも参考になった

- (2) 「女子学生向けのメイクアップセミナー」を2月22日（土）に資生堂東莞株式会社栃越支社宇都宮オフィスから近藤理恵先生を講師に迎え実施しました。

ア. 本セミナーでは、基本的なスキンケアと、就職活動や新社会人にふさわしいメイクアップの仕方を学び実践指導を受けました。

イ. 大半の学生の参加目的は、就職活動に向けてメイクマナーを心得たいことでした。化粧の仕方を知らない学生もおり、第一印象をよくしたい、明るいメイクをしたいなどの感想が寄せられました。

- (3) 「就職相談」個別機器面談の実施
エントリーシートや履歴書の書き方などのアドバイスや、ビデオ撮影によるマナーチェックを含めた模擬面接を実施しており、2月～3月にかけてエントリーシート相談5名、模擬面接5名の参加がありました。



（ご挨拶）

先進的キャリア教育推進室は、平成23年～25年度の3年間のプロジェクトとして学内のキャリア教育の推進を進めてまいりました。平成26年度からは次のステップとして、組織改編しキャリア支援室（鈴木真/室長）として、キャリア教育の定着のための活動を新たにスタートすることになりました。

これまでも、ご支援・ご協力に感謝するとともに、新たにスタートする支援室の活動にご協力をお願いいたします。

伊澤 悟、奥山 優、田野賢司、大森武男、八木 仁、乾 晃
☆4月以降も模擬面接を実施します

（出典：小山高専HP）